

水上(2)遺跡Ⅲ

－ 津軽ダム建設事業に伴う遺跡発掘調査報告 －

【第5分冊 捨て場編】

二〇一七・三

青森県教育委員会

2017年3月

青森県教育委員会

水上(2)遺跡Ⅲ

－ 津軽ダム建設事業に伴う遺跡発掘調査報告 －

【第5分冊 捨て場編】

2017年3月

青森県教育委員会

目 次

(第5分冊 捨て場編)

第3章 検出遺構と出土遺物

第12節 捨て場	1
第1項 捨て場の範囲	1
第2項 捨て場調査の概要と調査方法	1
第3項 土層堆積状況(3・13・18・19ベルト)	2
第4項 捨て場の形成過程	11
第5項 出土遺物	13
遺物観察表(土器)	259
遺物観察表(剥片石器)	286
遺物観察表(礫石器)	291
遺物観察表(土製品)	295
遺物観察表(石製品)	302

挿図目次

図 1 捨て場の範囲と報告対象遺物の範囲図	34	図 33 土器1(細分層①)	69
図 2 3ベルト土層断面図	35	図 34 土器2(細分層②)	70
図 3 13ベルト土層断面図	37	図 35 土器3(細分層③)	71
図 4 13ベルト細分層と遺構の前後関係	39	図 36 土器4(細分層④)	72
図 5 13ベルト包含礫	40	図 37 土器5(細分層⑤)	73
図 6 18・19ベルト土層断面図	41	図 38 土器6(細分層⑥)	74
図 7 細分層別の出土土器数量(重量)	43	図 39 土器7(細分層⑦)	75
図 8 細分層別の出土土器数量(個体土器数)	44	図 40 土器8(細分層⑧)	76
図 9 捨て場堆積土の時期	45	図 41 土器9(細分層⑨)	77
図 10 捨て場ベルト別土層時期概念図	46	図 42 土器10(細分層⑩)	78
図 11 個体土器垂直分布図投影範囲	46	図 43 土器11(細分層⑪)	79
図 12 ベルト別個体土器垂直分布図	47	図 44 土器12(細分層⑫)	80
図 13 個体土器と土器埋設遺構① (円筒下層d式)	48	図 45 土器13(細分層⑬)	81
図 14 個体土器と土器埋設遺構② (円筒上層式)	49	図 46 土器14(細分層⑭)	82
図 15 個体土器と土器埋設遺構③ (榎林式・最花式・大木10式並行)	50	図 47 土器15(細分層⑮)	83
図 16 捨て場と遺構分布図	51	図 48 土器16(細分層⑯)	84
図 17 捨て場出土土器の分布・内訳	53	図 49 土器17(細分層⑰)	85
図 18 出土土器重量分布(円筒下層～上層c式)	54	図 50 土器18	86
図 19 出土土器重量分布(円筒上層d式～蛭沢式)	55	図 51 土器19	87
図 20 出土遺物分布図(1)(剥片石器)	56	図 52 土器20	88
図 21 出土遺物分布図(2)(剥片石器)	57	図 53 土器21	89
図 22 出土遺物分布図(3)(剥片石器)	58	図 54 土器22	90
図 23 出土遺物分布図(4)(剥片石器)	59	図 55 土器23	91
図 24 出土遺物分布図(5)(剥片石器/礫石器)	60	図 56 土器24	92
図 25 出土遺物分布図(6)(礫石器)	61	図 57 土器25	93
図 26 出土遺物分布図(7)(礫石器・土製品)	62	図 58 土器26	94
図 27 出土遺物分布図(8)(土製品)	63	図 59 土器27	95
図 28 出土遺物分布図(9)(土製品・石製品)	64	図 60 土器28	96
図 29 出土遺物分布図(10)(石製品)	65	図 61 土器29	97
図 30 出土遺物分布図(11)(石製品)	66	図 62 土器30	98
図 31 出土遺物分布図(12)(石製品)	67	図 63 土器31	99
図 32 出土遺物分布図(13)(石製品)	68	図 64 土器32	100
		図 65 土器33	101
		図 66 土器34	102
		図 67 土器35	103

☒ 68	土器36	104	☒ 128	剥片石器19	164
☒ 69	土器37	105	☒ 129	剥片石器20	165
☒ 70	土器38	106	☒ 130	剥片石器21	166
☒ 71	土器39	107	☒ 131	剥片石器22	167
☒ 72	土器40	108	☒ 132	剥片石器23	168
☒ 73	土器41	109	☒ 133	剥片石器24	169
☒ 74	土器42	110	☒ 134	剥片石器25	170
☒ 75	土器43	111	☒ 135	剥片石器26	171
☒ 76	土器44	112	☒ 136	剥片石器27	172
☒ 77	土器45	113	☒ 137	剥片石器28	173
☒ 78	土器46	114	☒ 138	剥片石器29	174
☒ 79	土器47	115	☒ 139	剥片石器30	175
☒ 80	土器48	116	☒ 140	剥片石器31	176
☒ 81	土器49	117	☒ 141	剥片石器32	177
☒ 82	土器50	118	☒ 142	剥片石器33	178
☒ 83	土器51	119	☒ 143	剥片石器34	179
☒ 84	土器52	120	☒ 144	剥片石器35	180
☒ 85	土器53	121	☒ 145	礫石器1(細分層位)	181
☒ 86	土器54	122	☒ 146	礫石器2(細分層位)	182
☒ 87	土器55	123	☒ 147	礫石器3(細分層位)	183
☒ 88	土器56	124	☒ 148	礫石器4(細分層位)	184
☒ 89	土器57	125	☒ 149	礫石器5(細分層位)	185
☒ 90	土器58	126	☒ 150	礫石器6	186
☒ 91	土器59	127	☒ 151	礫石器7	187
☒ 92	土器60	128	☒ 152	礫石器8	188
☒ 93	土器61	129	☒ 153	礫石器9	189
☒ 94	土器62	130	☒ 154	礫石器10	190
☒ 95	土器63	131	☒ 155	礫石器11	191
☒ 96	土器64	132	☒ 156	礫石器12	192
☒ 97	土器65	133	☒ 157	礫石器13	193
☒ 98	土器66	134	☒ 158	礫石器14	194
☒ 99	土器67	135	☒ 159	礫石器15	195
☒ 100	土器68	136	☒ 160	礫石器16	196
☒ 101	土器69	137	☒ 161	礫石器17	197
☒ 102	土器70	138	☒ 162	礫石器18	198
☒ 103	土器71	139	☒ 163	礫石器19	199
☒ 104	土器72	140	☒ 164	礫石器20	200
☒ 105	土器73	141	☒ 165	礫石器21	201
☒ 106	土器74	142	☒ 166	礫石器22	202
☒ 107	土器75	143	☒ 167	礫石器23	203
☒ 108	土器76	144	☒ 168	礫石器24	204
☒ 109	剥片集中1~5 位置☒	145	☒ 169	礫石器25	205
☒ 110	剥片石器1(細分層位)	146	☒ 170	礫石器26	206
☒ 111	剥片石器2(細分層位)	147	☒ 171	礫石器27	207
☒ 112	剥片石器3(細分層位)	148	☒ 172	礫石器28	208
☒ 113	剥片石器4(細分層位)	149	☒ 173	礫石器29	209
☒ 114	剥片石器5(細分層位)	150	☒ 174	礫石器30	210
☒ 115	剥片石器6	151	☒ 175	礫石器31	211
☒ 116	剥片石器7	152	☒ 176	礫石器32	212
☒ 117	剥片石器8	153	☒ 177	礫石器33	213
☒ 118	剥片石器9	154	☒ 178	礫石器34	214
☒ 119	剥片石器10	155	☒ 179	礫石器35	215
☒ 120	剥片石器11	156	☒ 180	礫石器36	216
☒ 121	剥片石器12	157	☒ 181	礫石器37	217
☒ 122	剥片石器13	158	☒ 182	土製品1(細分層位)	218
☒ 123	剥片石器14	159	☒ 183	土製品2(細分層位)	219
☒ 124	剥片石器15	160	☒ 184	土製品3(細分層位)	220
☒ 125	剥片石器16	161	☒ 185	土製品4(細分層位)	221
☒ 126	剥片石器17	162	☒ 186	土製品5(細分層位)	222
☒ 127	剥片石器18	163	☒ 187	土製品6	223

☒ 188	土製品7	224	☒ 206	石製品6	242
☒ 189	土製品8	225	☒ 207	石製品7	243
☒ 190	土製品9	226	☒ 208	石製品8	244
☒ 191	土製品10	227	☒ 209	石製品9	245
☒ 192	土製品11	228	☒ 210	石製品10	246
☒ 193	土製品12	229	☒ 211	石製品11	247
☒ 194	土製品13	230	☒ 212	石製品12	248
☒ 195	土製品14	231	☒ 213	石製品13	249
☒ 196	土製品15	232	☒ 214	石製品14	250
☒ 197	土製品16	233	☒ 215	石製品15	251
☒ 198	土製品17	234	☒ 216	石製品16	252
☒ 199	土製品18	235	☒ 217	石製品17	253
☒ 200	土製品19	236	☒ 218	石製品18	254
☒ 201	石製品1(細分層位)	237	☒ 219	石製品19	255
☒ 202	石製品2	238	☒ 220	石製品20	256
☒ 203	石製品3	239	☒ 221	石製品21	257
☒ 204	石製品4	240	☒ 222	石製品22	258
☒ 205	石製品5	241			

第12節 捨て場

第1項 捨て場の範囲

本報告書で「捨て場」としたものは、縄文時代の遺物包含層のうち、岩木川に面する北側斜面に形成されたものである。図1には北側斜面の遺物包含層の範囲と本節で対象とする捨て場出土遺物の範囲を示した。捨て場の南側の範囲は調査時に確認した包含層の切れ目を示している。東西方向の範囲は、西側は60ラインから東側は沢2が開口する88ラインまでとした。沢2は北側斜面の88～91ラインに存在し、捨て場堆積土と同じ時期の遺物包含層が形成されているが、地形的な独立性から捨て場から分けることとした。また、沢2を挟んだ東側にも同様の遺物包含層が連続し、この部分は「北斜面」とした。沢2と北斜面については第3分冊で取り扱っている。

第2項 捨て場調査の概要と調査方法

捨て場の調査は、平成23～25年の3年度にわたり実施した。以下にその概要と調査方法を示す。

平成23年度

捨て場範囲の西域、65～69ラインまでの約600㎡を調査し、捨て場堆積土の厚みや南北方向の広がり把握するに至った。また捨て場形成過程において、竪穴住居跡や多数の土器埋設遺構が掘り込まれていることや、竪穴廃絶後の窪地に再び土砂や礫、遺物が廃棄されている様子が確認された。また出土遺物の時期から、縄文時代前期後葉の円筒下層c式から、少なくとも縄文時代中期後葉頃までは捨て場として機能していたことを確認した。

平成24年度

平成24年度は、前年度の調査区を東西方向に拡張し、65ラインより西側の全域と、76ライン付近までを調査した。その結果、前年度調査部分よりも捨て場堆積土が薄いこと、捨て場西側では縄文時代中期後葉期以降の竪穴住居跡が重複しながら多数分布すること、これ以前の遺構には縄文時代前期末葉～中期初頭期の竪穴住居跡(SI110)があること等が判明した。

平成25年度

76ラインより東側を調査した。この結果、捨て場堆積土の広がり、88～91ライン付近で北側斜面を開析する沢2を超え94ライン付近まで延び、総長が東西120mにおよぶことを確認した。急勾配となる沢2以東の斜面部は、安全上の都合により人力による包含層の調査が行えず、バックホーで堆積土を掘削し、掘削土の中から堆積土中の遺物を回収した。なお、沢2は地形的な独立性から、また北斜面は調査方法の制約上から、明確に捨て場堆積土の範囲を抑えられなかった事情も踏まえ、沢2以東も捨て場として利用されていたことを認識しつつ、沢2出土遺物については、第9節(第3分冊)、北斜面出土遺物については同節に掲載した。

調査方法

第Ⅰ層(表土)をバックホーで、また第Ⅱ層を人力により掘り下げた後、4×4mのグリッドを設定した。その後調査区の両側にトレンチを入れ土層の厚さや堆積状況を確認した。土層の堆積状況はメインとなる4本の土層観察用ベルト(3・13・18・19ベルト)と、これ以外に適宜任意のベルトを設定し把握した。表土以下の土層は色調により、1層－黒色土、2層－暗褐色～褐色土、3層－黄褐色土と大別3層に分けられた。後の調査により1層の黒色土には近世以降の陶磁器が含まれていることを確認した。

よってこれ以下の大別2層と3層が縄文時代の遺物包含層と認識した。遺物の取り上げはこの大別層を基本としながら、4本の土層観察用ベルトについては細分層位に基づいて取り上げた。なお、調査当初には南北方向のメインベルトに直交する東西方向の土層観察用ベルトも設定したが、南北方向に比べ東西方向の土層の把握が極めて困難であったため、各ベルトの細分層位は独立させ、対応させていない。

遺物の取り上げ(ベルト部)

前述した4本のベルト部については、細分層位をもとに層位毎に遺物を取り上げた。細分層位への帰属は厳密さを期すため、①細分層位毎に遺物を残しながら下位の土層が検出されるまで完全に土層を除去、②写真および図化記録、③遺物の取り上げ、④出土遺物下位の土柱部分の掘削をひとつのサイクルとし、これを細分層位毎に繰り返した。土層の観察は図化した断面の反対側でも実施し、対応させながら掘り下げたが、ベルト内で土層が途切れる、変化する等の状況も見られ完全に対応させ切れない箇所も存在した。なお土層が不明瞭となった際の層位は、含む可能性のある複数土層を並記して取り上げた(3def層や3gh層など)。

遺物の取り上げ②(ベルト部以外)

ベルトの範囲外においても、細分層の拡がり確認できた場合においては同様の細分層位に帰属させて遺物を取り上げている(ベルト外の細分層位取り上げ遺物)。細分層位に帰属不可能なその他の地点では、前述の大別2層と3層に帰属させ遺物を取り上げた。ただし大別2層と3層の分別については、調査の進展に伴い対象範囲が広がるにつれ、肉眼観察で捉えられた大別2層と大別3層の形成時期が、地点間で一律ではないことも明らかになった。従って大別2層と3層は、同一地点あるいはごく限られた範囲内での上下関係は保証されるが、捨て場全域での比較に対しての有効性はなく、異地点間の上下関係を保証するものでないことには注意が必要である。

遺物の取り上げ③(個体土器の認定等)

捨て場堆積土から出土する土器の出土状況は、a)単体破片の場合、b)完形や略完形土器が潰れた状態で出土する場合があります。後者については「個体土器」として番号を付し、出土位置および標高を記録して取り上げている。ただし整理の結果「個体土器」が必ず1個体として復元されるわけではなく、逆に1個体でなく複数個体を含む場合もある。また、復元に至った「個体土器」であっても、図化・掲載は全てに及んではいない。

このほか調査時点で認識できた土製品や石製品、その他特徴的な遺物についても出土位置を記録しながら取り上げている。

第3項 土層堆積状況(3・13・18・19ベルト)

3ベルト(図2)

位置と地形

VIII T-67グリッドからVIII X-66に位置する、最も西側のベルトである。地山はVIII Wグリッド付近で傾斜を変え、南側は約16%(斜度9.2°)、北側は約5%(斜度2.9°)で北側はより緩く、斜面の落差は3m程度である。堆積土上面での傾斜は、南側はVIII Vグリッドまで平坦で、これ以北で緩やかに傾斜を始めている。平坦部には捨て場堆積土形成後(縄文時代中期後葉から末葉期)の遺構が多数見ら

れ、同層を掘り込んでいる。またⅧWグリッド以北は後世の攪乱により上部の堆積土が大幅に失われている。

堆積状況

捨て場堆積土の拡がりは南北方向で約18mである。遺存状況にもよるが堆積土全体の厚さは、残りの良いⅧWグリッド付近で1.1～1.2mである。堆積土の上面の標高は、もっとも高い地点で175.7m、低い地点で172.8mである。

3ベルトでは土色や土性から大きく2層（黒味の強い黒褐色～暗褐色土の土層群）と3層（黄色味の強い褐色～黄褐色土を基本とし、炭化物の多く含む土層との互層を見せる土層群）に大別した上でこれらを細分した。大別2層は4つの層（2a～2d層）に細分し、大別3層は比較的広範囲に分布する特徴的な土層に3a～3e層を付したが、枝番号（①・②・・・）を持たせたものもある。また上記の大別層には準拠しない局所的に見られる土層について、①～⑨層を付した。このほか北側のSI102とSK9を覆う堆積土については、それぞれ遺構別の土層番号を付しており、連続する同一の土層でも遺構の内と外では遺物取り上げ層位が異なる。

各土層の厚さは10cm未満の薄い層から30cm程度のもが見られる。おおむね3b層までは地山傾斜に準じた堆積状況を見せるが、SI102の掘削後の堆積土は堅穴窪地に落ち込む傾斜を見せる。各土層の広がり、3c①層・3c③層・3d④層のように南北が100cm未満の土層も見られるが、3c②層・3e①層等のように3～6mにわたり面的な拡がりを見せるものもある。分層はあくまで調査者が知覚できた範囲のもので、実際にはこれより細かい単位の廃棄が行われている可能性が高いが、3b層や3c②層のように細かく途切れずに広く連続する状況は本地点における堆積土の特徴の一つである。

土層個々の説明については図2の注記に譲り、以下では各土層の特記事項について触れる。

細分層位

2a～2e層は全体的に黒味の強い土層で細分したものの層界は不明瞭である。埋まりきったSI102（円筒上層c式期）の堅穴堆積土を覆い、2a層と2b層の層界付近では円筒上層e式（図33-1）が出土している。

3層は褐色土や黄褐色土など、土色は大別2層より総じて明るい。炭化物量は3a・3c②・3e①層の各層で多く、特に3c②層では多く集積している。直上の3c①層は焼土集積層である。

3a層、3b層はⅧVグリッドを中心に分布する土層で、後者はⅧWグリッドでSI102に掘り込まれ、前者はSI102第5層へと移行する。3b層では円筒下層d2式から円筒上層a式、また3a層では円筒上層c式期の個体土器が多数出土し、SI102堆積土等との時期的理解とも矛盾しない。

3c層は①・②の枝番を付した。3c①層は焼土集積層で、ブロック状および粒子状の焼土が見られることから現地性のものではないと判断した。一方3c②層は炭化物を多量に含んだ土層で、ⅧVグリッドを中心に南側はSP133、北側はSI102と接する付近まで広範囲に分布する特徴的な土層である。30点近くの円筒下層d2式の個体土器と少量の円筒上層a式の個体土器が出土している。

3d層は①・②の枝番を付した。円筒下層d2式の個体土器が数点出土し、円筒下層d1式を少量含む。3d②層の南側では拳大の礫が1m程度の範囲に集積する箇所が見られる（図2・写真②）。ⅧVグリッドには本層上面から掘り込んだ、堆積土に礫が集積するピット状の落ち込みがある。

3e層は①～③の枝番を付した。地山直上の土層群で捨て場の堆積初期段階の土層と見られる。3e

①層上面からはSP35が掘り込まれている。多くの円筒下層d1式と少量の円筒下層d2式を含んでおり、上位の3d層とは明瞭な時期差がありそうである。

その他、大別2・3層という名称を用いなかった土層が8層ある。

遺構の構築状況

3ベルトでは竪穴住居跡2軒、土坑1基、ピット6基を確認し、遺構掘り込み面と捨て場堆積土の関係を捉えられた。竪穴住居跡は、ⅧWグリッドでSI102(円筒上層c式)、SI101(～円筒上層c式)が見られる。SI102は床面から堆積土中上層まで円筒上層c式の个体土器が多量に廃棄された竪穴住居跡で、3b層を掘り込み、窪地が埋まりきった後2a～2d層が覆う。SI102の北側に隣接するSK9は上面が失われ正確な構築面は不明であるが、SI102と共通する堆積土に覆われ、遺物の時期ならびに出土状況から、SI102とほぼ同じ時期の遺構と見られる。

ⅧUグリッドでは3e層上面でSP35が、またⅧVグリッドの3d層上面では、堆積土に礫を集積したピット状の落ち込み2基が見られる。これらは検出面が斜面であること、またこれ以外の掘り込みも伴わないことから、単独のピットと見られる。なおSP35の堆積土には白色粘土が帯状に入り込むことが確認された。ⅧT・Uグリッドの捨て場堆積土上層の平坦面には3基のピット(SP133・316、SI1Pit7)が見られ、円筒上層a・b式期の土層を掘り込んでいる。このうち1基は最花式期の竪穴住居跡に帰属するピットであるが、その他のピットについても、周辺遺構の状況や出土遺物より、縄文時代中期後葉期以降の竪穴住居の構築に伴うピットの可能性が高い。

出土土器と形成時期

図7・8に細分層の出土土器数量を、また図10に層位別の時期概念図を示した。円筒下層d1式から円筒上層e式期までの堆積土が連綿と続いていた状況を読み取ることができるが、3c層で「飛び地」のような分布を見せる円筒上層c式は、遺物取り上げ時のエラー等の要因のほか、認識できない新しい時期の掘り込み等があったものと思われる。

最下層の3e層は円筒下層d1式期を中心とする時期で、続く3d層、3c層までは一部円筒下層d1式期を含みながらも円筒下層d2式期を中心とする時期と見られる。また3b層までは、円筒下層d2式と円筒上層a式を一定量含んでおり、両土器群が併存している時期の土層である。3b層を掘り込むSI102出土遺物は、床面直上から竪穴窪地を埋め切るまで円筒上層c式の土器群で占められる。直下の3b層とは土器群が連続せず円筒上層b式が欠落する。これについては、同型式の土器この地点に廃棄されなかった可能性の他、SI102を掘り込む際に円筒上層b式を包含する土層が除去されるようなことも考えられる。3a層はSI102の堆積土(第5層)から連続している土層である。竪穴窪地内では円筒上層c式がこの上位の層も含めて出土しているが、竪穴外の3a層とした土層は円筒上層d式の土器まで含んでいることから、分層はできなかったが一段階新しい土層まで含んでいる可能性がある。2ab層はSI102が埋まりきった後の堆積土で、円筒上層e式期以降の堆積土と見られる。

13ベルト(図3)

位置と地形

ⅧY-73～IXD-73グリッドに位置するベルトである。周辺の地山はIXBライン付近で傾斜を変えており、地形勾配はこれより南側で20%(約13°)、北側は40%(約18°)と急激に落ち込んでいる。斜面下のIXDライン付近では再び10%程度の緩やかな勾配に変化している。ⅧYラインからIXDライ

ンの斜面の落差は5m程度である。

堆積状況

捨て場堆積土の拡がりは南北方向約18mである。堆積土の標高は高い地点で175.8m、低い地点で170.7mである。堆積土は、ⅧYラインから徐々に厚さを増していき、IXCライン以北で徐々に薄くなる。もっとも厚い地点はIXBグリッド付近で125cmである。各土層の厚さは、10cm未満の薄い層から40cm程度の厚さの土層が見られ、多くは20cm前後である。いずれの土層も地山傾斜に準じており、IXBグリッドを境に南北で傾斜を変えている。

堆積土は層相により2層と3層に大別しこれをさらに細分した。上層の2a・2b層は暗褐色土で礫を多く含み(小礫は特に多い)ややしまりの弱い土層である。下層の3g～3i層は礫をあまり含まない、地山層によく似たしまりの強い黄褐色土である。中間の3a～3f層は大別した上層(暗褐色土)と下層(黄褐色土)との中間的な様相を呈するが、炭化物を多量に含む層(3d層、3f層)とそうでない層の互層となる特徴が見られる。図5では堆積土中に含まれた礫の数量を細分層別に記した。計量範囲はIXAグリッド(南北4m分)のベルト部のみ(2m分)である。層厚や土量による部分も大きい。2ab層の礫の多さや3gh層の少なさは注目される。3c層中には10～20cm程度の礫を100個ほど含んだ土盛り(写真図版334)が見られ、独立させて集計した(図5-写真⑤)。無遺物層であることから、いずれかの地で掘り返した地山砂礫層(第V層)を再堆積した層と見られる。

細分層位

2a・2b層は北側ではSI66(円筒上層e式)に切られている。2b層では個体土器535(円筒上層b式)が断面に表れているほか、個体土器の状態では円筒上層c式から円筒上層a式の土器が出土している。

3a層および3b層はIXAグリッドにのみ分布し、3a層は北側でSI66に切られている。

3c層は南側を3c-1層、北側を3c-2層に分離した。3c-1層は最大層厚30cmの土層でSR89(円筒下層d2式)を覆い、出土土器の様相とも矛盾しない。

3d層はIXBライン付近では一部SI66に切られている。13ベルトの土層断面には現れていないが、IXAグリッドの3d相当層で、10cm以上の礫を100点ほど包含する砂礫層の高まり(直径約200cm、高さ約30cm)を検出した(写真図版344)。炭化物や遺物を一切含まず、おそらくは地山礫層を掘り返した廃棄土で、一つの廃棄単位と見られる。

3f層は炭化物の集積した土層で、本ベルト中でもっとも黒みが強い。IVBライン付近を境に北側の斜面部では炭化物の量が極めて多く、より黒みが増している。遺物は円筒下層d1～d2式を多量に含み、個体土器としては下層d1式が6点とやや多い。

3g層は1～3層に細分したほか、南側では「3g・h層」とした土層がある。3g-1・2層は3g-3層の北側先端に局所的に見られる土層で、層相は3g-1層は3g-3層とよく似るが、炭化物を多く含む3g-2層を挟んで互層となる。堆積土中には礫をほとんど含まず、下層の3h層を併せても40点に満たない。南側ではSR89・SR90(ともに円筒下層d2式)の土器埋設遺構が3g・h層を掘り込んでいる。遺物は円筒下層d1～d2式を多量に含み、下層d1式の個体土器の廃棄状況も見られる。

3h層は3h-1～3層に細分した。全体的な色調は地山とよく似るが下位の3i層よりやや明るく、堆積土中に礫をほとんど含まない。円筒下層d1式の土器を中心に下層d2式までが見られ、下層d1式の個体土器の廃棄状況も見られる。

3i層は地山直上に堆積する層で、本ベルトにおける最初期の堆積土である。色調は地山とよく似る黄褐色土で、円筒下層d1～d2式が出土するが遺物量は少ない。セクション面に隣接する位置にSR69(円筒下層d1式)が存在し、掘り込み面の標高は175.4mで、3i層下面に相当する。土器上部の設置礫は当該土層に覆われ、本地点付近における捨て場堆積土形成以前の遺構と見なされる。

3j層は斜面下に局所的に分布する土層で1～4層に細分したが、倒木痕の可能性が高い。

なお、3d～3i層からは焼骨片が出土しており、第6分冊第4章第4節で同定分析を行っている。主に3def層からまとまって採取されているが、碎片が多く詳細に同定できたものはほとんどない。

遺構の構築状況

13ベルトでは竪穴住居跡1軒(SI66)、焼土遺構1基(SN67)、土器埋設遺構1基(SR89)を確認したほか、ベルト隣接地でSR69を検出し、遺構掘り込み面と捨て場堆積土の関係を捉えられた(図3)。なお3b層中で検出した個体土器617(図44-1、写真図版343)は、潰れず完形という遺存状況や、斜面傾斜と一致しない出土状況の二点から土器埋設遺構の可能性を考慮し精査したが、掘方を検出できず個体土器として取り上げている。整理の過程で層位別の出土土器を検討した結果、本資料のみ同一層位の出土土器よりも新しい時期となることから、本来は上位面からの掘り込みをもつ土器埋設遺構であった可能性が高い。

IXBライン付近ではSI66(円筒上層e式)が2a層～3d層(円筒上層a～c式期)を掘り込む。SN67は3d層ないしは3e層を直接被熱面とする焼土遺構で、周辺では円筒下層d2式の個体土器が出土している。SR90(円筒下層d2式)は3f層に近い3e層の下位で検出したが、この段階では掘方が観察できなかった。土層観察の結果、3gh層上面から掘り込む掘方と、3f層がこれを完全に覆う状況を確認した。3f層は辺り一面に広く分布する土層で、土器埋設遺構のみの局所的な盛土ではない。掘ってSR90は埋設後、器高の半分以上が掘り込み面から突き出た状態であったと見られる。一方これより南側の、3gh層の上面で検出したSR89(円筒下層d2式)は、その他の土器埋設遺構よりも大きな掘方をもつ。倒立した土器が掘方に完全に納まっており、少なくとも土器自体が地表面から突き出た状態ではなかったことがわかる。

出土土器と形成時期

図7・8に細分層の出土土器数量を、また図10に層位別の時期概念図を示した。最下層の3i層は出土土器の絶対量が少ないが、円筒下層d1式を主体とし下層d2式が微量混入している。3d層から3h層は各層土器がまとまって出土しており、円筒下層d1式だけでなく、円筒下層d2式の土器も少なからず含んでいる。どちらの土器も個体土器の状態で出土しており、一方が主で他方が従ということではなく、両者は併用され同一層に廃棄されたと見られる。3d層から3fまでの土層の厚さは約60cmあり、少なくとも本ベルト付近の捨て場堆積土の約半分が、円筒下層d1～d2式期に形成されている。一方この上位の3cd層ないしは3c層とした土層では円筒下層d2式のみで構成され、円筒下層d1式を一切含まない点において下位の層とは区別される。IXA-73・74グリッドではSR89・90(ともに円筒下層d2式)が3gh層を掘り込み、3c層に覆われている。堆積土形成時期との層位的な矛盾はない。3b層は円筒下層d2式と円筒上層a式を一定量含む土層である。2a層と2b層とでは出土土器の様相は変わらず、ともに円筒下層d2式を含むが、円筒上層a式から円筒上層e式までを主体とする土層である。SI66(円筒上層e式)に掘り込まれており層位的な矛盾もない。

18ベルト（図6）

位置と地形

IXA～F-80・81グリッドに位置するベルトで、表土除去以前にベルトを設定している。地山の斜面勾配は、最高所は平坦に近いが、北側は40%のややきつい傾斜で落ち込み、IXBグリッドからIXDグリッドまでは7%程度の緩やかな傾斜に移行し、以北は再び40%程度の急傾斜となる。

堆積状況

最上層に現代の土層が20～30cmの厚さで堆積している。I a・b層および2A層としたものが現代の土層で、2C層以下が縄文時代の遺物包含層である。IXDライン以北には縄文時代の遺物包含層がなく、表土直下が地山となっている。表土を除いた堆積土の最大厚はIXBグリッド付近で130cm、各土層の厚さは20～30cmである。標高はもっとも高いところで177.8m、低いところで173.0m、平面的な範囲は南北で約12mである。

土層堆積状況は、下位の3B・3C層を除けば①土層の単位が南北方向に短い、②地山に対して斜行堆積を見せる、という特徴を持っており、3ベルトや13ベルトとは大きく異なる。IXBグリッドでは炭化物集積層（2F・2H・2J・2O層）が互層で堆積する状況も見られる。また土色は最下層の3B・3C層のみが地山に近い黄褐色土で、これより上位は黒みの強い暗褐色土ないしは褐色土で、堆積土全体の中で黄褐色土の占める割合がその他のベルトよりも少ない。

細分層位

I ab層および2A層はガラス瓶やその他現代遺物の出土する層である。上位には灰褐色粘質土の薄層である目屋ダムのダム湖底堆積土が見られることから、I ab層は目屋ダム以前の砂子瀬集落（～1960年）頃の土層と見られる。

2F層、2H層、2J層、2O層は土層の長さ2m、厚さ10～15cm炭化物集積層で、2G層（黒褐色土）、2I層（黒褐色土）、2N層（にぶい黄褐色土）を挟み互層となっている。

2Q～2U・2W層は、2Q層が焼土集積層、2T層が地山によく似た土層であるほかは黒みの強い黒褐色土～暗褐色土である。2Q層、2S層、2W層は円筒上層d式期を主体としており、2S層には完形土器も含まれている。

2W層では、同一層中でほとんどレベル差を持たずに、時期の異なる複数の個体土器（円筒下層d式：図53-4、円筒上層a式：図65-1、円筒上層d式：図86-4、円筒上層e式：図88-3）が出土しており、76ラインから本ベルトまで、同様のケースが何例か確認されている。完形土器が潰れた状態のものが多いことや、型式が上下で逆転していない等の状況から、土層が掘り返され再堆積したと見るより、土砂があまり供給されない環境で主に土器のみが廃棄された結果と見ることができる。

2V層は2つに細分した。2V-1・2層ともに時期の判別できる遺物は出土していないが、SR4036（円筒上層a～b式）が2V-2層を掘り込み、2V-1層がSR4036を覆っている。2V-2層はやや黄色味が強い。

3A層以下は、土色的には上位の2X層や2W層とは明瞭に異なる地山層によく似た黄色みの強い土層である。3A層は部分的に途切れながら20cm前後の層厚でIXA～IXDに広く分布するが、グリッドにより出土土器の様相が異なるため、すべてが同一の土層でない可能性が高い。また3B層もIXA・IXBグリッドでは連続する一連の土層であるが、攪乱を挟んだ北側では不連続となっている。従って報告段階では、IXA・Bグリッド付近に分布する土層を「3A-①」「3B-①」層、IXCグリッド付近に分布する土

層を「3A-②」「3B-②」というように枝番を付し、別個の土層と捉え直している。

遺構の構築状況

18ベルト中では、土器埋設遺構1基(SR4036)を確認し、遺構掘り込み面と捨て場堆積土の関係を捉えられた。SR4036は円筒上層a～b式で、3B層(円筒上層a式期)を掘り込み、2V層(円筒上層d・e式)に覆われており層位的な矛盾はない。

出土土器と形成時期

図7・8に細分層位ごとの出土土器数量を示した。出土遺物から見ると、18ベルトの細分層は以下の①～⑥の6つにまとめられる。

- ① 第2E～2M層・3A・B-②層 最花式から榎林式期の堆積土
- ② 第2N・2X層 最花式から円筒上層e式期までの堆積土
- ③ 第2O～2R層 円筒上層d式以降、円筒上層e式期頃までの堆積土
- ④ 第2S～2W層 円筒下層d式以降、円筒上層d式期までの堆積土
- ⑤ 第2V・2層 円筒下層d式以降、円筒上層b式期までの堆積土
- ⑥ 第3A①・3B①層 円筒下層d式期の堆積土

第2E～2M層では、榎林式から最花式までの土器が出土している。出土量では第2E層が最花式、第2H層が榎林式を主体とするが、下位の第2N・2X層にも最花式の土器を一定量含むことから、第2H層も最花式期と判断される。2K～M層も円筒上層式期から最花式までの破片を含んだ最花式期の堆積土と見られる。3A・B-②層は、調査段階ではやや明るめの土色から3A・B-①層と連続した一連の土層と見なしていたが、出土土器の時期が最花式を中心とすることから、別個の土層と認識を改めている。

第2X層では出土土器が比較的多く、最新の出土土器を最花式とする点では上位の土層と共通するが、円筒上層式を一定量含む状況は上位の土層には見られない。最新出土遺物から形成時期は最花式期の可能性が高いが、本土層の下位の一部は円筒上層d式期の可能性も残されている。

2O～2R層は、第2PQ層の円筒上層d・e式、また第2PQR層の円筒上層d式の出土量は混入とは見なせない。下層である後述の第2S～2W層との時期的連続から見ても、第2O～2R層は円筒上層d・e式期の形成と判断される。

第2S～2W層は、一部円筒上層e式期を含み、円筒上層d式から円筒下層式期までの土器を多量に含む。最新出土型式は最花式であるが出土量(94g)から見れば混入とみられる。前述のように、本土層近辺では時期の異なる大型の土器片がほとんどレベル差を持たずに、重なる出土状況が各所で見られている。完形土器が潰れた状態のものが多く、堆積順序と型式が逆転する状況が見られないことから、土砂があまり供給されない環境で主に土器のみが廃棄されたものと判断される。時期は出土土器の中で最新の円筒上層d式期と見るより、2V・2層(円筒上層b式以前)以降、円筒上層d式までの連続した堆積と見られる。2S層出土の円筒下層d2式の個体土器や2S～2U層および2W層の出土土器分布が、特定時期への集中を見せず複数時期に跨がるのも、こうした事情を示したものと見られる。

第2V・2層では円筒上層a～b式期の土器埋設遺構(SR4036)が掘り込まれており、形成時期の下限は円筒上層b式期である。

第3A①・3B①層は、出土土器の量は少なく最新時期の遺物として最花式が少量(17g)出土しているが、①～⑤とした大別層がおおむね時期別の形成を見せること、大別④層中で円筒上層d式から円

筒下層d式までの土器が連続すること、また同大別層(2U層)中から円筒下層d2式の個体土器が出土すること、大別⑤層では円筒上層b式の土器埋設遺構が掘り込まれた事実等から、混入(認識できない遺構の存在等の可能性がある)と判断され、本土層の形成時期は円筒下層d式期と見られる。

19ベルト(図6)

位置と地形

IXC～IXH-85グリッドに位置し、最も東側のベルトである。斜面の傾斜はおおむね北側に向かっており、斜面勾配は上位(IXD・Eグリッド)が33%、中位(IXF・Gグリッド)が25%、下位(IXG・Hグリッド)が60%で、中腹の勾配がやや緩く、下方はきつい勾配となっている。

堆積状況

堆積土は南北約21mの長さであるが、縄文時代の遺物包含層はIXFライン付近まで分布し、この規模は南北で9m程度である。最上層の大別I層は現代の土層で、分布は全域に広がり、IXFライン以北では本土層のみとなる。大別I層を除いた堆積土全体の厚さはIXDグリッドでは約90cmで、IXFラインに向けて徐々に薄くなる。2d層、2f層のような細かい土層も見られるが、その他のベルトに比較して全体的に各土層の単位が大きく、地山傾斜に準じた堆積を見せる。

遺構の構築状況

19ベルト中では遺構を検出していないが、斜面上部でSI4002(最花式)の堅穴住居跡を検出している。床面の標高は178.0mで北側の輪郭が不明瞭なため、捨て場堆積土との関係性は明らかにできなかった。また本ベルト東側にはSI4003(最花式)・4004(最花式～)が隣接する。斜面部に立地するが、中でも斜面勾配のやや緩い中腹部に位置している。

細分層位

上位の黒味の強い層を大別2層、下位の黄色味のあるやや明るい層を大別3層とし、前者を2a～2f層の7つの層、後者を3a～3c層の3つの層に細分した。

2a層は黒褐色土、2b層は暗褐色土で、両土層の土色は良く似るが、後者の方がやや暗めである。層界は直前層を切り込むような斜方向の層界を見せる。2c層はIXDグリッドに分布する層厚30～40cmの褐色土で、その他の土層よりも明るく識別が明瞭である。2b層に切られるような層界を見せている。2d層はIXEライン付近に部分的に分布する黒色土で、細分層中で最も黒味が強く他土層との識別が容易である。2e層も黒味が強く、小型の礫を多量に含む。上下の土層とは明瞭に識別可能である。2f層はにぶい赤褐色土で、上下の土層より明るく識別明瞭である。土色は基本層第IV層に似る。2g層は大小の礫を多量に含んだ礫集積層である。

3a層は調査時、大別3層として理解したが、土色や土性は大別2層に近い。局所的なあり方から、認識できなかった掘り込み等の可能性もある。3b層はIXD・IXEグリッドに広く分布するにぶい黄褐色土で、緻密なシルト質土で礫をあまり多く含まない。上位土層とは土色、土性の点で明瞭に識別可能である。3c層は途切れながら分布する黄褐色土で、土色は地山土に極めて良く類似する。時期の特定はできなかったが、繊維を含む土器を少量出土する。

出土土器と形成時期

図7・8に細分層の出土土器量を、また図10に層位別の時期概念図を示した。

2b層と2e層で最花式の個体土器が出土したほかは、個体土器としての遺物出土状況はない。図7で

は2a層から2e層まで、古い土器をわずかに混入しながらも最花式の土器が主体を占める状況が示される。2g層では榎林式以前の出土量比が増える点で上位層とはやや様相を異にするが、最新型式が最花式であることから、2f層も含め2a層から2g層までが最花式期に形成された堆積土と見られる。図7および図8には現れていないが、3a層以下では、調査段階で胎土に繊維を含んだ土器が少量出土している。整理段階でこれより新しい様相をもつ土器も出土しないことから、3a・b層は縄文時代中期初頭期以前の可能性もある。

ミクロな視点から見た捨て場内の土器出土状況

捨て場内における個々の土器の出土状況については下記のような事例を認識・分類した。

- ① 土器埋設遺構 土器を主に正立や倒立で埋めたもの、第3分冊第5節で報告。
- ② 個体土器(潰れなし)
- ③ 個体土器(割れや潰れあり)
- ④ 破片(1個体には満たないもの)

このうち圧倒的に多い出土状況は③・④で、①土器埋設遺構(捨て場では120基)を除けば、全体のほぼすべてがこの出土状況で占められる。個体土器は潰れの無い②の状況で出土することはごく稀で、多くは割れて潰れた③の状況で出土する。③でもっとも多いのは、単純な圧壊を示す個1167や個1267などの状況であるが、稀に意図的な破壊や破壊後の再配置を思わせるような事例がある。例えば個-1071の潰れ方は、土器全体の6~7割の器表面が上向きに広がっており、潰れた(潰した)後、意図的に広げた可能性がある。また個80-5は、明瞭な打撃痕や擦り切り痕は見られないが、底部を除く口縁部から胴部を縦方向に4分割(A~D)した後、破片が動かされた状況が、また個-1275(円筒上層式、非掲載)でも、胴部上半までの大型破片を天地逆さまに隣り合わせて配置した状況が観察される(写真図版350)。調査時の所見では、時期により③と④の出土状況の多寡が見られたが、図10でも、捨て場堆積土形成期の前半(縄文時代前期末葉から中期中葉頃)では、全体量に対する個体土器での出土量が多く、逆に後半(縄文時代後葉以降)では、破片での出土量が増加する傾向が表れている。

②の状況は極めて稀で3例を確認した。個141や個617は斜面傾斜とは異なる傾きで出土した個体土器である(写真図版342)。個141では割れがあるものの、ともに潰れはなく内部には土が充満し、かつ明確な掘方も見られず大多数の土器埋設遺構とは出土状況が異なる。捨て場で大半を占める③とも異なるため、掘方を伴わず周囲に土を盛るような方法で埋設された可能性や、埋設後の土砂移動の影響などが想像されるが、詳細は不明である。なお②の出土状況の事例として管-2359(写真図版345)もあるが、これは小型のため土圧等の影響を受けなかったものと見られる。

個体土器の時期別出土状況

個体土器の時期別分布(図13~15)から捨て場の形成過程を見てみると、その初期段階である円筒下層d式期や円筒上層c式期では廃絶後の竈穴住居跡(SI110やSI102)の窪地を基点に集中的に土器が廃棄された状況がうかがえるが、窪地外で同様の集中を見せる地点も多々見られ一様ではない。大局的には円筒下層d1式から円筒上層c式期までは、数量の増減はありながらも分布域を大きく変えることなく、63ラインから83ラインまでの東西80mの範囲に分布する。続く円筒上層d式期にはこの状況が一変する。個体土器の数量が激減し、それ以前までの分布域内の、ⅧU・V-66・67グリッド、IX A・B-79~81グリッドなどで局所的に分布する状況を示す。円筒上層e式期は個体土器の数量がさら

に減り、前時期の局所的分布域のうち、東側のIXA・B-79～81グリッドに分布が見られるのみである。この状況は後続する榎林期にも続き、66・67ライン付近にわずかな分布域が認められるものの、主たる分布域は当該期の大型住居跡であるSI4040東側であり、同住居跡の窪地にも個体土器が多く認められる。最花式から大木10式並行期も、徐々に数量を減らしつつも榎林期の分布域を踏襲している。

第4項 捨て場の形成過程

捨て場内の遺構概観

捨て場の範囲内からは堅穴住居跡、焼土遺構、土器埋設遺構のほか、土坑・ピットを検出している。堅穴住居跡は、岩木川に面する北側段丘縁辺から斜面部にかけて、捨て場の範囲と重複するように東西方向に約70軒（遺跡全体301軒の内の約25%）が分布している。捨て場堆積土中の堅穴住居跡の確認は困難なことも多く、炉や貼床などの施設の発見を契機に堅穴住居跡の平面形の確認に至るケースも多いため、全容を捉えきれなかったものもあると考えられる。平面形は不明瞭ながらも、周囲の捨て場堆積土より新しい時期の遺物が分布する状況や斜面傾斜と異なる土器出土状況から、堅穴住居跡の検出に至ったSI67のような遺構も存在する。

捨て場内では円筒下層d2式期から大木10式併行期までの堅穴住居跡が確認された。数量の多寡、分布の粗密ありながらも、捨て場だけではなく居住域としても利用されていたことがわかる。立地としては段丘斜面縁辺を主な形成域としながら、いくつかの堅穴住居跡は斜面中にも形成されている。中でもSI74（円筒上層b式）やSI4003（最花式）・4004（最花式～）は斜面勾配35～40%の急斜面に位置している。SI110（円筒下層d2式）やSI102（円筒上層c式）、SI4040（榎林式）などいくつかの事例では、捨て場堆積土中に掘り込まれた堅穴住居が廃絶した後の窪地に、土砂を伴い各種遺物が廃棄された結果、再び捨て場として埋められていく様子が確認されている。

土器埋設遺構は、斜面縁辺を中心に斜面部も含み、捨て場堆積土の広がりとも一致するように分布し、全体の7割におよぶ120基が捨て場中で出土している。図14～16では個体土器と土器埋設遺構の分布状況と数量を示したが、各時期の平面分布について、また数量傾向としても両者の相関が指摘できる。捨て場中の焼土遺構は51基検出した。前述のように堅穴住居跡の確認が難しく、本来堅穴住居跡の一部であったものを含んでいる。しかしながら、精査を繰り返しても貼床やピットや堅穴住居の輪郭を捉えられない遺構や、SN3・5・13・19・65・66・4012等のように斜面の勾配に一致した被熱面をもつものは、捨て場形成中における明確な燃焼行為と認定できる。

このように、捨て場内では堅穴住居跡・土器埋設遺構・焼土等の遺構が各時期に構築・形成され、その時期ごとの遺物廃棄層（捨て場）が形成されていたことがわかる。以下では各時期の大まかな変遷状況などを示す。

土層と遺物廃棄状況の変遷

第3項では捨て場内各ベルトの状況を述べたが、図9にはその概念図を示した。各ベルトの堆積状況には少しずつ違いが見られるが、おおむね円筒下層d式以降堆積が開始し、円筒上層b式あたりまでの土層がほぼ捨て場全域に広がっていることがわかる。その後、主に3・13・18ベルトでは円筒上層c式の土層が堆積もしくは遺構が構築され、3・13ベルトではその上位に円筒上層d・e式期の遺構や堆積土が見られる。18・19ベルトではその後榎林式以降の堆積土が厚く堆積していることがわかる。

図32は捨て場内での遺構と土器の主たる廃棄範囲を時期ごとに示したものである。厳密に土器型式で区切ることではできなかったため、円筒下層d2式期、円筒上層a～c式期、円筒上層d・e式期、榎林式期・最花式期に分けて図示した。なお、大木10式併行期以降については遺構の構築は認められるものの、捨て場としての利用がほとんどされていないと判断し、図示しなかった。

円筒下層d2式期は遺物がほぼ全域に広がり、主に66ライン付近と74ライン付近に土器出土量のピークが見られる。個体土器の廃棄の他、土器埋設遺構も80ライン付近より西側を中心に多数構築される。この時期の捨て場は、SI110などの廃絶に伴う廃棄を起点に東側に拡大していったと思われる。

円筒上層a～c式期も広範囲に遺物が廃棄されているが、主たるピークは65～66ライン付近である。特に円筒上層c式期には単独型式として最大量の土器が出土しており、SI102の廃絶後の廃棄を起点として南西側に同時期の廃棄が集中している。土器埋設遺構も遺物集中域にほぼ重複するように構築されており、捨て場と土器埋設遺構との密接な関連性が窺える。

円筒上層d・e式期は東西に2箇所ピークが見られるが、主たるピークは79ライン付近のもので直前の時期からピークが東側へ移動していることがわかる。遺物量は円筒上層c式期には及ばないが相当量が出土しているが、個体土器の量は減る。堅穴住居跡・土器埋設遺構等が見られる。

榎林式期には土器分布のピークが80ライン付近にみられる。全体的な分布傾向も捨て場東側に偏っている。SI4040等の堅穴住居跡が77ライン付近を中心にまとまって構築されているのがその理由であると考えられる。その他、土器埋設遺構がみられるが、捨て場との関連性は薄いと思われる。

最花式期には榎林式期に見られた土器の出土ピークがやや東側に広がる。この時期には堅穴住居跡も74ライン付近と沢2両側に構築される他、柱穴状のピット(掘立柱建物跡を構成すると考えられる)も捨て場南側に列状に並ぶ様子が見られる。

大木10式期には前述のとおり捨て場は形成されないが、土坑や堅穴住居跡等の遺構は捨て場内に構築されている。

このように遺物廃棄と遺構の関係をまとめてきたが、大きく円筒上層a～c期以前には主に80ラインより西側に遺構の構築とその廃絶に伴う遺物廃棄行為により捨て場が拡大していったものと思われる。この状況に少し変化が見られるのが円筒上層d・e式期であり、遺構の構築位置は前時期の近くに構築しつつ、捨て場の範囲を東側へ移動させている。また、個体土器の出土量も減る傾向がある。その後の榎林・最花式期には遺物廃棄はほぼ斜面域の同時期の遺構と重複しない部分へと限定されることは特筆される。ここでもう一つ注目しておきたいのはⅧX～ⅨA-81～83グリッドにみられる遺構・遺物の空白域である。この部分には円筒下層期から後期初頭期にいたるまでの長期間ほとんど遺構が構築されず、遺物の分布もまばらである。円筒下層～上層c式期における空白の理由は、区域より西側が主な活動範囲だったためと考えられるが、円筒上層d式～最花式期については、主体的な活動の場となっているにもかかわらず空白域が生じている。特に最花式期にはこの空白域の東西にやや大きい堅穴住居跡が軸をそろえて構築されるなど、遺構構築及び集落形成時にこの区域を空白にする何らかの意図が働いていた可能性も示唆できる。

第5項 捨て場出土遺物

1) 土器

捨て場出土とした土器の総重量は13,871kgで、その4.6%にあたる644kg分、580点を図化・掲載した。出土分布、細分各層での出土傾向、各型式での出土様相については、第3項本文と図7～15・17～20に示した通りである。以下、個々の土器の観察内容について説明を補足する。

図34-1は文様重複部の観察によって、縄文の施文工程が把握された例である。縄文は①胴部地文、②横位区画隆帯の刻み、③中央L1条、両脇R2条の側面圧痕による鋸歯文、④口縁部刻み、⑤環状・縦位隆帯刻みの順で施文され、原体の変更と各文様帯への充填を繰り返している。原体の回転、圧痕の展開については横方向だが、施文部位では下位から順に段階的に完了させる方向性が認められる。型式は異なるが、49-5も同様に下部から上部へ積み上げる施文の指向性が顕著である。図34-1は縁の刻みにおいても特徴が見られ、口端突起を境とした4区画に対してLが2単位分、Rが2単位分と、区画によって使用する原体が換えられている。胴部地文に用いられた結束1種は、閉端部に0段の結縛による特徴的な圧痕が認められるが、結縛手法については解明できなかった。

図34-2は内傾接合による壺形土器である。口頸部は短く直立し、胴部は高い位置で強く張り出して肩を形成する。橋状把手は、孔となる位置に軸を置いて成形されたと見られ、孔内面と胴部に直線状の軸圧痕が認められる。出土層位から円筒上層e式までのいずれかの型式に伴うものと見られるが、胎土・焼成の点でも異質な土器である。

図37-6は、口縁部文様帯内で縄文原体の使い分けがなされた深鉢である。ボタン状突起を境として、図正面左に1段R、右に1段Lの燃糸圧痕が施される。

図38-5は、縄の側面圧痕と隆帯貼付が交互に行われる深鉢である。1段の縄による側面圧痕で横位区画隆帯が刻まれた後、口端突起の直下にΩ形の隆帯が貼付され、同種の縄で刻まれたことが重複部の観察によって判明した。半裁竹管による刺突列が伴うが、他の特徴から円筒上層a式の範疇で捉えるべき個体と考える。

図40-2は、胴部地文に特殊な縄文原体が用いられた深鉢である。附加条がなされた2段の縄をより合わせた原体で、弘前市神原(2)遺跡出土の円筒下層a～b式土器において指摘され、直前段附加条と仮称(青森県教2012)された縄文原体である。本例では結束第1種の羽状縄文をなしている。

図45-1、48-2・3・5、57-5～8、58-2は、いわゆる球胴深鉢に類する器形を持つ土器である。円筒形の胴部下半から屈曲・又は段差を生じて上部に膨らみが形成される一群であるが、吹浦式に見られる程に強く張り出す例は無い。張り出し位置が狭く、上部に位置する図58-1・3～6も同器形に連なるものとする。これらの胎土や文様構成は、円筒下層d2式のものである。

図46-5・9、55-6、56-1～3は縦位の細沈線を主文様とする深鉢である。施文単位は5～6条の細沈線からなり、単位幅は3～4cm、施文方向は全て縦位である。施文対象部位が上下16cm未満の個体では一単位で、16cmを超える個体では5cm前後で単位の継ぎ目が生じている。細沈線の断面形状は貝殻条痕や木片の小口を使った板ナデ・刷毛目と異なって、深いV字形をなしており、櫛歯状の工具によるものと考えられ、55-6と56-2に見られる器形から、円筒下層d2式に伴う一群と考えられる。

図47-3は、胴部に特徴的な結節回転文が施される。4段の瓦葺き状構造で、上2段と下2段では結び目の方向が異なる。上下段が隙間無く噛み合い、それぞれに8の字結びの特徴があることから、2本の

縄を互いの端部で8の字結びに結束した「あや縛り」の回転施文と推測される。

図50-2～5は幅広の口縁部文様帯に、綾杉状の羽状縄文が施される円筒土器である。大鱗村大平遺跡の第Ⅳ群土器(青森県教1980)に相当し、水上(2)遺跡出土における円筒下層c式の主体をなす一群である。

図52-4、54-3は、胴部に特殊な単軸絡条体第1A類が認められる。木目状文の中央列に縄端圧痕が並ぶもので、条を中央部分で結節し、穿孔された軸に通して絡げた原体が用いられている。縄端刺突状の圧痕は縄2条の中央部でオーバーハンド・ノット、いわゆる固結びにしたものと見られる。

図54-2は、異なる2つの単軸絡条体第1類で施文された土器である。口縁部の撚糸圧痕と胴部地文には、ともにRの単軸絡条体第1類が用いられるが、条の太さと節の角度において明らかに別個の原体である。図正面の胴部右側に長さ13cm、斜位1条の撚糸圧痕が重ねられているが、これは口縁部に用いられた側の原体とみられ、長さ3cm程度の胴部原体とは長さの上でも違いが認められる。

図55-4は、施文途中で地文が変更されたと思われる深鉢である。胴部は先に単軸絡条体第1類が縦位施文されたが、その後結束第1種の横位回転によって大部分が塗り潰されている。

図56-7・57-2は、胴部に撚り戻しの結束第1種が施文される例である。

図58-8の胴部地文に用いられた結束第2種は、結束条の一方が反撚りとなる。胴部下位と上位で原体の上下が反転されて施文され、胴部上位で単節斜縄文、下位では反撚りを強調して施文される。

図59-1は胴部に特殊な結節回転文が施される深鉢である。結節に用いられた縄には1段の右撚りと左撚りが認められる。2条の縄をフィッシャーマンズ・ノット(=テグス結び)で結束した原体の圧痕に似るが、圧痕が不明瞭であるため確証が得られなかった。

図60-1・61-4も胴部に特殊な結節が回転施文される。原体復元・施文実験を行った中では、二重玉結びのダブルオーバーハンド・ノットによる圧痕に近似する文様であった。

図61-2は、土器の胴部地文に正面性が認められる深鉢である。結節回転文は低隆帯直下で横位、胴部で縦位に回転されるが、胴部の縦位回転は図正面に見られる1単位のみである。

図65-1は胴部の一面にのみ縦位の平行沈線が認められた深鉢である。分割土器の擦り切り過程を示す例と思われたが、沈線上に縄文が重なっており、焼成前の文様と見るべきである。

図66-2は、円形刺突列の施文法に特徴が認められる深鉢である。橋状状把手によって4区分された口縁部文様帯の各区画によって、隆帯上と縄の側面圧痕間など施文部位や列幅が異なっている。

図68-3は、オオバコ圧痕を胴部地文とする口縁部破片である。レプリカ圧痕の観察も行っており、オオバコ花序の圧痕であることが追認されている(第4章2節参照)。

図71-2は、口縁部と胴部に縄端刺突状の圧痕が点在する深鉢である。刺突状の痕跡は深く、器厚のおよそ半分に達している。胴部での間隔、胴部地文の単位角度、条間隔等との関係から、地文LRの付随する結束部であることが考えられる。2条の片条でもう一方の条を巻き込んでオーバーハンド・ノットをつくり、自条同士で寄り合わせた原体が予想され、施文実験でも同様の文様が再現できた。

図72-2の円筒上層a式土器は、撚糸圧痕文における左右方向での施文順が把握できた例である。左撚り・右撚りを並べての①区画隆帯刻み、②橋状把手で4単位に区画された口縁部区画の、1単位にのみ横位圧痕、③橋状把手をまたぐへの字形圧痕の順で施文された後、図正面右側の区画内へ横位圧痕が施される。

図73-1は胴部外面にササ属種子の圧痕、87-8は口縁外面に種子の圧痕(ササゲ属アズキ科)があることがレプリカ圧痕観察(第4章2節参照)によって認められた例である。

図76-7は、特異な馬蹄形圧痕をもつ口縁部破片である。レプリカ圧痕観察を行って(第4章2節参照)おり、割竹状の軸と一段の縄Rによる単軸絡条体の端部である可能性が指摘されている。端部ではRが縦横にヒッチされる状態が認められたが、第1類から6a類のいずれに属するものかについては不明である。

図80-5は意図的に4分割されたと考えられる出土状態を呈していたが、擦り切り痕や割れ口の再調整は認められなかった。

図81-4は隆帯文様において2単位と4単位が混在・重複する事例である。折返し状の口縁から垂下する弧文と、区画隆帯上で山形となる弧文によって4単位のX字形対弧文が配置された後、区画隆帯から折返し状口縁まで達する山形文が2単位重ねられ、更に同様の山形文が1/2単位ずれて重複することによって網目様の文様を形成している。胴部地文には縄端結縛が認められ、内掛け結び(本結び)によるものと考えられる。

図87-4は4分割された文様区画のそれぞれで、異なる隆帯文様が充填される深鉢である。図左から右方向に、①いわゆる胸骨文となる2条対弧文と2条山形文、②上段が3条の弧文、下段に2条横位、③上段に1条の横位、直下にX字形対弧文、④上段に2条弧文、下段に2条横位が充填される。また、①の区画内でのみ隆帯脇沈線が認められる。

図89-7は、沈線の重複関係から割り付け区画順が指摘できる例である。順に、①2条の沈線による文様帯区画、②縦位沈線による4分割、③横走沈線の充填で施文施文が行われている。

図90-5は突起の1単位が大型且つ特殊形状となる深鉢である。先割れ突起の上に、隆帯をアーチ状に渡して更に剣先状突起を付加した2重構造を呈し、本調査において唯一の出土例となる。

図93-15は、割れ口に幼虫様の圧痕が残された胴部破片である。土器の帰属型式は不詳であるが、圧痕はレプリカ観察によってヒメフナムシの可能性が指摘されている(第4章2節参照)。

図95-7は、内外面に化粧土(スリップ)が施された破片である。薄片の偏光顕微鏡観察を含む胎土分析(第6分冊第4章第7節参照)によって、土器表面に胎土より砂粒が少ない粘土の薄層が確認された。上面にはミガキ調整が施され、塗布は焼成前であることがわかる。分析は行っていないが、円筒下層d2式とした図57-4・5、63-1~3・6、円筒下層d2~上層a式とした図69-1、円筒上層b式とした図73-3の内面においても同様の特徴が認められ、円筒下層d2式から上層b式と、榎林式の型式幅でスリップ手法が存在していた可能性がある。

図98-2は、口縁部に立体装飾の突起をもつ深鉢である。地文には2段の縄LRとRLが用いられており、口縁部の区画毎に使い分けられている。

図103-7は胴部沈線に方形区画が生じており、渡島半島南部の大安在B式の影響が疑われる。

図104-10は強く肩が張る器形の注口土器である。頸部の1方向に注口が、他の3方向に橋状把手が配される。特徴的な沈線文は認められないが、榎林式に伴う器形と考えられる。

図104-14は、8単位の沈線垂下文が胴部に施文された深鉢である。垂下文は1条の蛇行文、2条の蛇行文、2条の直線間に蛇行文を配したものの3種がある。配置は等間隔だが、3種の順番は不規則である。

2)剥片石器

捨て場からは石鏃2104点、石槍551点、石筥1171点、石錐1775点、石匙1294点、スクレイパー6353点、両面調整石器648点、二次加工剥片13531点、楔形石器42点、微細剥離剥片9518点、異形石器49点、剥片2106520.3g、石核4736点が出土した。

捨て場における剥片石器の特筆される出土状況として、意図的な廃棄の集中と考えられる範囲を5ヶ所で確認し、「剥片集中1～5」として調査をおこなった。

剥片集中1はⅧT-65グリッドで確認し、0.470m²の範囲内からスクレイパー1点、二次加工剥片3点、微細剥離剥片1点、剥片125.9gが出土した。剥片集中2はⅧV-66グリッドで確認し、0.948m²の範囲内から石鏃2点、石筥2点、石錐1点、石匙2点、二次加工剥片1点、剥片213.5gが出土した。剥片集中3はⅧR-62グリッドで確認し、0.174m²の範囲内からスクレイパー1点、二次加工剥片4点、微細剥離剥片2点、剥片1065.5gが出土した。剥片集中4はⅧR-62グリッドで確認し、0.137m²の範囲内からスクレイパー2点、剥片682.3g、石核3点が出土した。剥片集中5はⅨA-75グリッドで確認し、剥片45.5gが出土した。時期は近接して出土した土器の時期から、剥片集中1・2・5が円筒下層d式期、剥片集中3・4が中期後葉以前の可能性が高い。

器種別のグリッド別出土数量を図21～24に示した。各器種とも概ね土器の出土数量と同調している。13器種中10器種で、ⅧU-65・66グリッド、ⅧT-65・66グリッドに出土のピークがある。特定器種の集中等は見出すことができなかった。

3・13・18・19ベルトの細分層位別の出土数量は図20に示した。

上記で報告対象としたものの内、3・13・18・19ベルトの細分層位をもつものについては45点を各ベルトの層位ごとに、細分層位をもたないものについては389点を器種ごとに図示した。石器個別の事実記載は遺物観察表に譲り、ここでは特記事項についてのみ記載する。

図110-1は流紋岩を素材として作出された両面調整石器である。大形の剥片を整形したもので、上半を欠損する。左側縁には敲打痕がみられる。

図110-2はスクレイパーとした。向かい合う二辺に対になるように抉りが加えられるものである。

図111-11は鉄石英を素材として作出された異形石器である。形状は湾曲の大きいブーメラン状である。

図113-2は摩耗が明確でなかったため異形石器としたが、錐部を2カ所もつ石錐の可能性はある。

図113-10は、両面調整石器としたが、平面形状は石槍に近い。しかし、大きさは他の石槍と比べて大形であることから、石核あるいは素材の可能性も加味して両面調整石器としたものである。

図115-1～図116-24は石鏃である。

図115-35は男鹿・金ヶ崎産とされる黒曜石を素材として作出された石鏃で、無茎石鏃尖基に細分した。図116-11・12は無茎石鏃凹基で、11が赤井川・赤井川産、12は木造・出来島産の黒曜石を素材として作出している。これ以外に、珪質頁岩以外の石材を用いる石鏃として鉄石英の1点(図115-1)を図示した。図116-23・24は両側縁に弱い抉りが加えられる。

図116-25～図118-18は石槍である。

図117-4は下半に広く黒色付着物がある。図117-9は先端がわずかに磨耗している。図118-11は、先端欠損後に二次加工が加えられている。

図119-1～図122-6は石篋である。

図119-2・3、図121-5で光沢が認められる。図119-11は流紋岩を素材として作出された石篋である。短冊形で刃部は湾曲している。なお、流紋岩を用いる石篋は、本報告ではこの1点のみである。これ以外に、珪質頁岩以外の石材を用いる石篋としてカルセドニーの1点(図122-1)を図示した。

図123-1～図125-12は石錐である。

図124-16はつまみ部を有する石錐で、2カ所を錐部として使用している。図124-17は対になる挟りを加えて石匙様のつまみを作出している。

図126-1～図131-6は石匙である。

図126-4・11は縦形の石匙で、4が木造・出来島産、11は上土幌・上土幌産の黒曜石を素材として作出している。図129-13は木造・出来島産とされる黒曜石を素材として作出された石匙である。横形で、刃部は両刃で、わずかに内湾している。刃部が内湾するものは、このほか図129-11・12がある。図126-7～9は、いわゆる「松原型石匙」(秦1991)とされるものである。石材はいずれも珪質頁岩だが、他の多数を占める珪質頁岩とは異なる印象を受ける。図130-2は珪質頁岩の硬質な部分と軟質な風化部分の両方にまたがる部分を素材としている。この風化部分はずみ部分の一部となり、ここで幅約3mmの溝状の擦痕を観察できた。擦痕は軟質の風化部分に水平方向に形成されていることから、つまみ部に巻き付けられた紐等の摩擦によって形成された可能性をうかがわせる。

図131-7～図137-10はスクレイパーである。

図137-3・4は、出土数が極めて少ないため、ひとまず本類に含めたが、「つまみ状の基部を有する」「大石平型石篋」(青森県教委1987)の可能性もある。図136-3～10は向かい合う二辺に対になるように挟りが加えられるものである。図137-8は緑色凝灰岩を素材として作出されたスクレイパーである。下端の刃部は湾曲し、比較的急角度で作出される。なお、緑色凝灰岩を用いるスクレイパーは、本報告では本例を含め2点のみである。

図138-1～図141-2は両面調整石器である。

薄手で側縁に比較的小さな二次加工が連続的に施される図138-5、図140-3などはスクレイパーと同じ用途で用いられていた可能性がある。図140-2は凝灰岩を素材として作出された両面調整石器である。大形の剥片を槍先形に整形したものである。図141-1は緑色凝灰岩を素材として作出された両面調整石器である。大形の剥片を楕円形に整形したものである。

図141-3～図141-6は二次加工剥片である。

図141-3は下端に凹みが作出されており、無茎石鏃凹基の未製品の可能性がある。

図141-7・8は楔形石器である。階段状剥離が明瞭なものを図示した。

図142-1～4は微細剥離剥片である。

図142-4は微細剥離痕と共に光沢が観察できる。

図142-5～図143-10は異形石器である。

図142-5～図143-7は比較的小形のもので、剥離も丁寧な印象を受ける。「衣類ハンガー状」や「ブーメラン状」(青森県教委2012)とされる形状のものがある。一方、図143-8～10は前者に比べるとやや

大きく、四辺が二次加工により大きく抉られ、不整な菱形もしくは十字形となる。図143-8ではこの抉り部分に剥離と共に敲打痕も認められる。調整部位や形状からは「三脚石器」との類似性もうかがわせる。図142-9は衣類ハンガー状とされるものだが、左先端に錐部の先端様の突起が作出されている。図143-5は木造・出来島産とされる黒曜石を素材として作出された異形石器である。形状は「く」の字状となる。これ以外に、珪質頁岩以外の石材を用いる異形石器として鉄石英の3点(図142-7・図143-1・2)を図示した。

図143-11～図144-2は石核である。

原礫面を大きく残すもの(図143-11)や船底形のもの(図144-1・2)がある。

3) 礫石器

捨て場から出土した礫石器は磨石Ⅰ類893点、同Ⅱ類144点、凹石4254点、敲石Ⅰ類215点、同Ⅱ類37点、磨凹石1075点、磨敲石65点、凹敲石155点、磨凹敲石106点、打製石器A類159点、B類231点、C類41点、D類76点、その他46点)、石錘Ⅰ類79点、同Ⅱ類14点、台石306点、石皿81点、砥石18点、磨製石斧155点である。

捨て場出土遺物のグリッド別出土数量は表24～26に示した。礫石器の全出土数量のうち、捨て場出土の比率は各器種で45～60%のものが多く、これより比率が極端に高ければ斜面捨て場に多く捨てられたことを、またその逆なら段丘平坦部の、遺構内を含む遺物包含層中に残されたことを示す。礫石器では打製石器類が69%とこの比率がやや高く、逆に石錘Ⅱ類では8%と極端に低い。平面分布の傾向としては、石錘Ⅱ類や砥石等の数器種を除くほぼすべての器種でⅧU～W-65～67グリッド近辺と、ⅨB-77～81グリッド近辺の二地点に集中する。これは土器の出土傾向とも一致し(図17)、前者の分布は剥片石器とも一致する。両地点ともに斜面の微地形や遺構窪地等の、遺物の集中を生じさせる地形的な要素は見られない。多くの器種で、捨て場の東西方向での数量差を確認することができない中で、台石・石皿類は東側(77グリッドライン以東)でより多く出土する。東側ほど縄文時代中期後葉期以降の包含層が厚くなる状況と関連している可能性がある。

層的な傾向は母数の少なさから、ベルト細分層位での明瞭な差異はうかがえない。また大別層(2層と3層)での比較は、地点によって土量(層の厚さ)が異なる両層の、直接的な出土量の比較は無意味だが、捨て場2層中の自然礫が同3層に較べて圧倒的に多いことが図5にも示されたように、両層での遺物量に大きな開きがない時、自然礫中の出土石器の割合は、捨て場3層の方が高いと言える。

掲載遺物は、図145～149に3・13・18・19ベルトで調査した細分層位で取り上げたもの36点を示し、それ以外のものについては図150～181に221点示した。各ベルト細分層位の出土土器と推定される時期については図7～11を参照されたい。石器個別の事実記載は遺物観察表に譲り、ここでは特記事項についてのみ記載する。

図145-1～図148-3は3ベルト細分層出土資料である。図145-2は粗粒玄武岩製の打製石器B5類で、断面形は扁平というより二等辺三角形に近い。同-3は相馬安山岩製の打製石器B1類で、機能面は緩やかな弧状となる。残存デンブレン粒分析を実施し、グループ③・④を検出している。同-4は相馬安山岩製の打製石器B4類で、抉入部以外は無加工で器体の研磨もないが、平面形は抉入扁平磨製石器を想起させる。本遺跡では類例はなく唯一の事例である。機能面は緩やかな弧状となる。同-5はデイ

サイトの大型円礫(丸石)を素材とした台石で、両側に弱い磨痕Aがある。石材規模の点で台石とした。図146-1は凝灰岩製の石皿で、底面は平坦に作出され、長軸方向の一方には楕円形の突起が付く。本遺跡では類例がなく唯一の事例である。同-4は緑色凝灰岩の棒状の磨石Ⅰ類で、磨痕Bは端部にも及ぶ。同-5は凹石としたが、小型の石皿や容器状石製品F類との境界不明瞭な資料である。裏面には凹痕(A2)が形成される。

図147は3ベルト3c・d層出土資料で、1・2は凹敲石、3・4は磨凹敲石である。4の表面に長軸方向、裏面に短軸方向のほか、端部にも磨痕B・Cが観察される。磨痕と凹痕の重複部では、凹痕よりも磨痕の方が後に形成されたように観察される。5は石錘Ⅰ類で、6・7は礫長辺の一边に連続的に剥離を加えた打製石器(その他)である。8は凝灰岩製の台石で、使用面は全体的に大きな曲面となっており、片側一方では中央部が馬の背状に盛り上がり、使用部位が二股に分かれている。

図148-4～図149-3は13ベルト細分層出土資料である。5・7は敲石Ⅱ類で、5は珪質頁岩の原石を素材とし、7は石核を転用している。8は打製石器B2類で素材礫縁辺部にはわずかな加工が見られる。残存デンブンプン粒分析を実施し、グループ③を検出している。

図149-1は小型の石皿としたが、容器状石製品との境界不明瞭な資料である。図149-2は3h層出土の凝灰岩製の台石で、同-3の3i層出土資料とともに、13ベルトの最下層(13ベルト付近での捨て場の初期堆積土)に位置づけられる。周囲では円筒下層d1式期の個体土器が出土しており、当該時期に伴う資料と見て良い。2は扁平な棒状礫を素材とし、この片面に磨痕を伴う凹痕(C2)を形成する。同様の規模・形状を素材礫とする台石は本例のみである。

図149-4～6は18ベルト細分層出土資料で、同-7が19ベルト細分層出土資料である。7は礫の表裏面の縁辺に磨痕Cが放射状に連続する。

図150～152(図152-5・8を除く)は磨石Ⅰ類で、図150-1～8までは素材礫が比較的小型のものである。4・8は素材礫全面に磨痕Bが認められるが、4(凝灰岩製)の側面は消しゴム状の面を形成し、7(デイスサイト製)では素材表面に沿って無数の擦痕が形成される。同-8や図151-4・5は断面が角の取れた三角形となる素材礫の各面を磨面とするもので、磨痕Bは短軸方向のものが多い。2-図125-6や図126-2、3-図271-4にも類例がある。図150-8と図151-5で残存デンブンプン粒分析を実施し、ともにグループ①を検出している。図151-3・6は厚みのある長円礫を素材とし、短軸方向の磨痕Bが観察される。

図152-2は断面方形となる棒状礫の中央部に切り込みと内部をさらに深く穿つ孔が見られる。同-3～6・9・10は主に磨痕Cの見られる石器で、3・4は小型の円礫、その他は扁平礫を素材とする。

図153-2～155-3、図159-8・図160-7は磨石Ⅱ類である。図153-2～6はC2形状で、2・3は比較的小型の資料である。図153-5・8は二側面を機能面とするもので、5では残存デンブンプン粒分析を実施し、グループ①を検出している。それぞれ磨痕や凹痕、敲痕を伴うものが多いが、素材礫表面の凹凸が無くなる程に顕著な磨痕が全面におよぶ6・8は研磨と呼ぶに相応しい。

図153-7～154-4の素材礫は厚みのあるB2形状ないしはD形状である。磨石Ⅱ類の中でも全面を研磨した図154-1や3・4は類例も多く、規格性の高い器種であったと考えられる。研磨部の磨痕Bは短軸方向が多い。図154-5～155-3は断面三角形の礫を素材とした磨石Ⅱ類である。6の凹痕は一定の深さで長軸方向に長く延びている。図155-1・2では表裏面に磨痕が確認される。図155-5は粗粒玄武岩の板状礫を素材とする石器で、分類上、側面に磨痕を伴わないことから打製石器A5類としたが、機

能面の様相は幅狭のA類というより、磨痕Dを伴わないB類と言った方が適当である。

図156-2～157-6は凹石である。図156-6はB2形状の素材礫に凹痕C2を全周させており、本遺跡では唯一の事例である。全周した凹痕の中でも表裏面の相対する位置には、ひときわ深い凹痕C2が形成されている。

図158-1～8は敲石Ⅰ類、9～14は同Ⅱ類である。図158-1～3は素材礫の端部に、同-7・8は側面を全周するように敲痕が形成される。7・8の類例はほとんど見られない。9～11は珪質頁岩の原石利用(敲石ⅡA類)、12・13は剥片利用(同ⅡC類)、13は剥片石器を利用したもの(同ⅡD類)である。

図159-1～160-2(図159-8を除く)は磨凹石である。磨痕と凹痕の共存状況は、図159-1がA(磨面1、凹面1で共存)、同-4がE(磨面1、凹面1で共存なし)である。図159-2では短軸方向の磨痕Bが形成されるが、礫面に平坦面が形成されるほど顕著に磨られている。3は表面の一部に赤色顔料が付着し、敲磨器類では本遺跡で唯一の事例である。残存デンプン粒分析を実施し、グループ⑦・②を検出している。同-9は磨面を2面もつもので、表面(磨痕A)と裏面(磨痕B)では痕跡が異なる。残存デンプン粒分析を実施し、グループ⑧を検出している。

図160-3～6は磨敲石で、3・4は小型礫を素材とし、3では表裏全面に磨痕が、また側面全面に敲打痕が見られる。4でも全面に磨痕が見られ、特に縁辺では細かい単位の擦痕が無数に観察される。

図160-8～161-2は凹敲石である。

図161-3～7、図162-1～3は磨凹敲石である。7は表裏両面に短軸方向の磨痕Bが無数に形成され、礫表面に平坦面を形成するように顕著な磨面をもつ。凹痕との重複部ではこの上に磨痕Bが形成されている。8はB2形状の凝灰岩製で分類上、凹敲石としたが、均整の取れた曲面となるように磨られた表裏面は研磨と見られ、また、側面は整形敲打の可能性もある。図162-2は断面三角形のB2形状の石材の3面全面に短軸方向の磨痕Bが形成される。磨痕は凹痕上にもおよんでおり、凹痕後の形成とみられる。

図163-1～168-6(図166-3を除く)は打製石器類である。図163-2～164-2の機能面は磨痕Dを(ほとんど)伴わない相馬安山岩製のA1類ないしはA2類の資料で、器種と石質に強い相関がある。B類(剥離を伴う磨痕D)でも相馬安山岩製のものは磨痕の幅が狭い。形状は左右対称の半月形(1～3)、一方が他方より広い半月形(4・6)、撥形(7)など多様である。

図164-4～165-6は打製石器B1・B2類で、前述の通り相馬安山岩製(1・2)のものは磨痕自体の幅が狭く、摂理面で割れる石質特性から避けられたためか器体には凹痕を伴わない。4・5には凹痕(C2・C2)を伴い、5では機能面にもこれが形成される。幅狭の側面部の磨痕に凹痕が伴伴する例は、本遺跡では5例程度類例がある。図164-6、図165-3・4で残存デンプン粒分析を実施し、6ではグループ①、3ではグループ⑦、4ではグループ①・③を検出している。

図166-1～168-4(図166-3・167-2を除く)は、短辺打ち欠きのあるB3・B4類の打製石器である。挟入が比較的明瞭なもの(図166-7、図167-3、図168-1～3)や不明瞭なもの(図166-1・4、図168-4)、B2類との識別が困難なもの(図167-2)とがあり、他の細分器種とは漸移的かつ連続的である。挟入が明確に意図されたものとその必要は無く簡単な打ち欠き程度で済まされたものがあつたと見られる。残存デンプン粒分析の結果、図166-7ではグループ①、図167-1では⑦・⑨、同-4ではグループ①を検出した。また、図168-2でグループ⑦・①・⑥、同-3でグループ①・③・⑦を検出した。

図166-3・図169-1～4は石錘Ⅰ類で、図170-1～6が同Ⅱ類である。図169-3は全面に短軸方向の磨痕Bを伴い、同-4や図170-6では凹痕を伴う。

図171～173は礫の縁辺に剥離を加えた打製石器の一群である。剥離の位置は図171-1～5は礫の短辺、また同-6～172-2は長辺で、図172-3～173-7は二辺以上に剥離を加えた石器である。本書では礫素材の石器群を剥片石器と分けているが、図171-6、図172-2～4・6等は、珪質頁岩のような硬質の石材ではなく、礫石器の素材として通有な凝灰岩等の剥片を素材とする石器群である。本来的には剥片石器で報告すべきだが、選択された石材との関わりを重視してここに掲載した。

図171-3は剥離のある短辺部分にのみ擦痕を伴う磨痕が見られる。同-6は凝灰岩の破片を素材とし、その一辺に片側から連続する細かい剥離を施すスクレイパー様の石器で、当遺跡では類例の無い唯一の事例である。図172-1は相馬安山岩の板状礫の一辺に両面から連続的に剥離を加えた石器で、直接接合はしないもののSN5004出土資料(3-図268-1)とは同一個体ないしは同一石材の製品である。本例ではSN5004出土資料に観察される剥離部の摩耗痕はなく、製作後、使用、廃棄に至るまで異なる過程を経たものと見られる。出土地点は35～40m離れている。同-2は長円偏平礫の縁辺一部に剥離を加えた石器で、表裏面に長軸方向の磨痕Bが見られる。同-3は石質や形状、剥離の様相からいわゆる偏平石器の未製品と見られる。また図173-7もこの可能性が高い。図173-5は三角柱状の石材の縁辺に剥離を加えている。

図174～176、図177-3・5は石皿、図177～182-2は台石および砥石である。図174-1・2は凝灰岩製の石皿で本遺跡では完形として残る最大級の資料である。長軸50cmを超える同規模の石皿は本遺跡で15点以上出土している。図174-1・3は裏面にも磨痕が見られる。図175-1の石皿は約25m離れて出土した二片が接合した。同-2は凝灰岩製の石皿で、使用の結果中央が極端に磨り減っている。裏面の一部には線状痕が観察された。同-3は縁部の一部が開口し注口状となった凝灰岩製の石皿で、本遺跡では類例のない、本例のみの資料である。残存デンプン粒分析の結果、図174-3ではグループ⑦を、図175-1ではグループ①・⑦を、図177-32ではグループ④を検出した。

図176-3～6は有脚の石皿である。同-3は裏面に脚部と連結する弧状隆帯をもつ石皿で、3-図274-1に較べて弧状隆帯の高さは低い。本遺跡出土の弧状隆帯をもつ石皿はこの3例のみである。図176-7～9は小型の石皿としたが、容器状石製品との差異は不明瞭である。図177-1は安山岩製の台石で、使用により礫面はやや窪んでいる。同-2は一方向の磨痕Bが無数に形成される。残存デンプン粒分析を実施し、グループ⑦を検出した。同-7・8は磨痕Bと磨痕Cが観察される。

図178-1～179-2は溝状砥面の発達した砥石である。図178-1は本遺跡において、溝状砥面がもっとも顕著に確認された資料の一つで、幅30～40mm、深さ5～20mm程度の溝状砥面が表裏に観察される流紋岩の円礫素材の砥石である。また同-2は偏平の緑色凝灰岩を素材とした砥石で幅20～25mmの溝状砥面が表裏に形成される。一方同-3は、1と2の石材の中間的な厚さの流紋岩を素材とした砥石で、幅10～25mm程度の浅い溝状砥面が表裏に形成される。図179-1も表裏二面が使用された砥石で、一方の面は曲面を形成し他方は幅30～45mm程度のやや幅広の溝状砥面を形成する。同-3は顕著な溝状砥面ではないものの、断面方形の柱状石材の各面に磨痕が見られ、うち一面で浅い溝状の磨面を形成する。図179-4・5および図180-1・2は小型の砥石で、4では幅15mm程度の溝状砥面を形成し図179-5や図180-2では礫の側面全体に平滑な砥面を形成する。

図180-3～図181-7は磨製石斧とその関連資料である。図180-3は長さ271mmの本遺跡で最大の磨製石斧である。斜面捨て場の西側(VIII R-61グリッド)の第I層中出土資料で、供伴遺物から時期を推定することはできなかった。同-5は本遺跡では唯一の蛇紋岩製の磨製石斧である。角が張り、稜の立った断面方形に作り出され、搬入品と見られる。

図181-5～9は擦り切り痕跡のある資料で、5～7は側面に、8・9は器体中央に観察される。同-11～13は敲打痕のある資料で、11は器体の全面に、12は基部側のみ、13は側面に観察される。同-14～17は剥離のある資料で、特に14・17は敲打痕が側面に観察される。同-11は欠損した端部に部分的な研磨が見られる。

4) 土製品

捨て場から出土した土製品には、土偶(54点)、ミニチュア土器(138点)、土製装飾品(5点)、土器片加工品(298点)、その他の土製品(9点)、焼成粘土塊(2点)がある。それぞれの器種の分布状況については図27・28に掲載した。以下では個々の遺物について特記事項を記す。

3ベルト出土品(図182～185)

図182-1は3a層から出土した土偶B類の上半身である。全体形は十字形と推定される。頭頂部は前傾し後頭部に向かって貫通孔が6箇所みられる。側頭部には耳飾り状の装飾が付いていたと推定される。顔面は体部に取り込まれており、眉・目・鼻を隆線で、口は周囲が土手状に弱く盛り上がる凹みで表現され、底面で体部の貫通孔と連結している。乳房は貼付により紡錘状に表現されている。乳房のやや下には2箇所の貫通孔がみられる。両腕はほぼ水平に突き出し、正面側には2本一対の縄側面圧痕による文様がみられる。背面側には後頭部から2本の隆線が垂下している。これは頭髪(おさげ?)の表現と推定される。その端部と、正面からの貫通孔部分には隆線が剥落した痕跡がみられるが、この剥落痕を繋ぐように橋状の隆帯が2箇所に付いていた可能性がある。

図182-2は土偶D類の下半身である。胎土や色調からみて第2分冊図143-5(SI4040出土)と同一個体である可能性が高い。正面側には乳房と臍が貼付により表現される。また、臍の下部には凹みがみられる。正面側には角棒状の工具による刺突列がみられる。臍の上下で文様構成が変化し、下部では臍から放射状に刺突列が、上位では乳房の下部から刺突列が垂下している。また、乳房よりもやや上には首元に近い部分に下向き弧状の刺突列もみられる。背面側には太い沈線による正中線がみられる。体下部から上部に向けて体貫通孔がみられる。これらの土偶は同一層から円筒上層c～d式土器が出土しており、本土偶もこの時期の範囲に帰属すると考えられる。

図182-7は3bから出土した土器片加工品A類である。円筒下層d2式土器の口縁部付近を利用し、周囲を打ち欠いて円形に仕上げている。

図183-1～4は3c層から出土した土器片加工品である。1～3がA類、4がC類である。4は土器片を短冊状に分割したものである。分割は擦切技術と打ち欠きを併用して行われているようで、4の右側縁と裏面左側には擦切痕が明瞭に残る。円筒下層d2式土器の口縁部に近い部分を利用している。

図183-5～184-5は3c・d層から出土したものである。図183-5～19は土器片加工品である。A類とC類があり、すべて円筒下層d2式土器の破片を素材としている。19は短冊状の破片を切り出した残りと考えられる。口縁部の大きな破片であり、左右側縁は打ち欠かれ、下端部には横位の擦切痕がみら

れる。

図184-1は土偶D類の上半身である。捨て場内から出土した3つの破片が接合した。全体形は十字形とみられる。図182-1に比べると頭部・顔面がより胴体から分かれている。頭頂部は弱く前傾し、後頭部への貫通孔が1箇所みられる。側頭部から後頭部にかけては螺旋状の貼付がみられる。側頭部の剥落部には耳飾状の装飾があったと推定される。本土偶の額周辺には、赤みがかかったガラス状の物質が剥落した痕跡がみられた。特に眉間から延びる刺突列の最上位の刺突上には明らかにみられた。この物質については分析等していないが、刺突内部にみられることから焼成後ではなく焼成前に何らかの物質が塗布されていた可能性がある。顔面は眉・鼻が隆線で表現され、目は刺突列で、口は凹みで表現されている。体部には細い多裁竹管状工具による2列一対の刺突列で文様が描かれている。背面には太い沈線による正中線がみられ、その脇に弧状の刺突列が左右に配置されている。このモチーフは本遺跡の円筒下層b・c式土器に特徴的な翼状対弧文に類似している。背面下半には横位方向の刺突列がみられる。本土偶は、その特徴から円筒上層b～c式の幅に収まる可能性がある。

図184-3は土製装飾品D類である。正面中央部に欠損部がみられるため、全体形状が笠状か鼓状か判断が付かないが、耳飾の可能性はある。側縁には刻みがみられ、裏面には刺突がみられる。

図185-1～3は3d層から、5～9・13は3e層から出土したものである。

13ベルト出土品(図185・186)

図185-11は土器片加工品C類である。円筒上層a式土器から分割した大型の土器破片である。下端部は欠損している。口縁部の波頂部を意識し、左右均等になるように切り出している。切り出しが擦切技術で行われたかは、周囲が研磨されているため不明である。全体形は下端部に向けてすぼまる形状であるとみられる。

図186-3は3b層から出土した土器片加工品C類である。円筒下層d2式土器の口縁部から胴部にかけての破片を利用しており、右側2つのパーツだけみると二等辺三角形に打ち欠かれているように見える。右側のパーツに左側の擦切痕がみられる破片が接合した。右側のパーツには周囲の研磨痕がみられないため、未製品の可能性と、打ち欠きだけで成形された完成品の両方の可能性がある。

図186-4は3b・c層から出土した土器片加工品C類である。下端部は破損かどうか判断が難しい。円筒下層d2式土器の口縁部から胴部にかけての破片を利用しており、側縁は擦切後研磨され全体形が短冊形に整形されている。

図186-5は3c層から出土した土偶A類の上半身である。頭部は明瞭に突き出し、顔面の表現は不明瞭であるが、頭部直下の「ハ」字状の細沈線がそれに相当する可能性がある。乳房は低く隆起しており、下部に沿う刺突列がみられる。同一層位からは円筒下層d～上層a式土器が出土しているため、本土偶もその時期に帰属する可能性がある。

細分層位以外の出土品

図187～200にはベルト細分層位以外で取り上げた土製品を掲載した。以下に分類ごとに特記事項を記述する。図27～28に捨て場内での分布図を示した。

土偶A類(図187-1～6)

細沈線及び細刺突を用いた主文様がみられる一群である。捨て場全域に散在する。

図187-1は頭部と右腕以外が残存し、本類の全体形状を知り得る資料となる。全体形状は逆三角形

に近く、頭部は図187-2のように突出するものがある。頭頂部は弁状で平坦であり、頭側部には鼓状の耳飾に似た装飾が付加されている。腕部は図187-1のように弱く突き出すもの他に、図187-3のように明瞭に突き出すものもある。乳房と臍は貼付により表現されており、乳房の間から下部に沿う細沈線もしくは刺突列がみられるのが特徴的である。また、乳房よりも下位から臍付近には縦位に垂下する細沈線及び刺突列がみられる。沈線及び刺突列は3列一対になることが多い。臍より下位には臍を頂点とした三角形のモチーフが細沈線等で描かれるものが特徴的である。背面の文様は図187-1・2のように上位に頭部から垂下する沈線等がみられるものがある。その他、背面体部には図187-1・5・6のようにY字状もしくはV字状のモチーフが横位多段に描かれている。体部下端は図187-1・6等のように丸みを帯びるものがみられる。

土偶B類(図187-7~図188)

縄の側面押捺による文様を主文様とする一群である。65~78ラインにかけて分布し、64~65ラインあたりにややまとまる傾向がある。円筒上層a~c式期の土器分布と範囲が重複する。

図187-7はB類aに分類される。体部下半の破片で、捨て場内から出土した5点が接合した。下端部の形状は隅丸方形で、中央部の欠損部に臍があったものと思われる。文様は3本一対の縄(L3本)押捺により描かれており、縄束端部の結縛部分の圧痕もみられる。臍上部へと垂下する縄押捺の脇には細沈線に沿っている。また、臍の周囲には馬蹄形状の押捺も複数みられる。臍の左右にはおそらく乳房付近から垂下する縄押捺がみられる。臍の下位には垂下押捺の端部を区切るように下向き弧状の押捺がみられ、その中央部分から下端部にかけて三角形の押捺モチーフがみられる。背面側には上位に太い沈線による正中線がみられ、正中線の下端部の両脇に臀部を表現したと思われる円形の盛り上がり左右一対みられる。正中線の両側には3本一対の縄(LとR2本)押捺が横位方向にみられ、臀部付近では臀部上位から下部にかけて半周するように押捺されている。

図188-1はB類b1に分類される。左腕部から下端部にかけての左半身の破片である。少し上向きで丸みを帯びる腕部と、つま先状に正面側が広く突出する下端部をもつ。腕部パーツの下部にみられる剥落部分が乳房の、下から2個目のパーツ左下部分の剥落が臍であったと考えられる。文様はLRの2本束で描かれているが、表面の状態によりLに見える部分もあり、そのまま作図している。腕部と臍周辺と下端部等に渦巻き状の縄押捺が多数みられる。臍からは下端部角に向かい三角形のモチーフがみられる。背面には太い沈線による正中線とその両側に縄押捺が横位方向にみられる。

図187-8はB類b2に分類される。捨て場内から出土した4点が接合した。頭部から胸部付近の破片で、両腕を欠く。頭頂部は欠損部があるが、前傾しつつ凹んでいる。顔面の表現は、口の凹みがみられるだけで、体部に取り込まれている。乳房は円錐状の貼付で表現されている。乳房の下位には2本一対の縄押捺が5本垂下している。背面には頭頂部付近から太い沈線による正中線が垂下し、沈線内には縄の押捺がみられる。沈線上端から腕部に向かい縄押捺もみられる。

土偶C類(図189-1)

縄の押捺と半月状で大きめの刺突が主文様に用いられる一群である。63~70ラインで出土しており、円筒上層c式土器の出土ピークと範囲が重なる。

図189-1はC類に分類される。捨て場内及び西斜面から出土したものが接合した。体部中央部と下半身を欠く。頭部は頭頂部がやや前傾しつつ凹んでいる。頭側部には螺髪状の貼付が剥離した痕跡が

みられる。顔面の表現は凹みで表現された口以外は不明瞭で、全体に体部に取り込まれている。乳房は下部2点のパーツ上位にみられる。文様は3本一対の縄(R3本束)押捺と半裁竹管状工具による大きめな半月状刺突の列による。刺突列は腕部側縁・背面正中線の脇等にみられる。正中線は太い沈線による。正面側では乳房付近から下位に縄押捺が垂下している。背面下半では刺突列と縄押捺が斜位多段にみられる。

土偶D類(図189-2~4)

多裁竹管状工具による刺突文を主体とする一群である。63~70ラインで出土しており、円筒上層c式の出土ピークと範囲が重なる。

図189-3と4はD類cに分類され同一個体の可能性が高い。3は下端部の破片で、4は胸部付近の破片である。3・4ともにやや大きめの刺突と小さい刺突が一緒に使用され、体貫通孔がみられる特徴を持つ。4の乳房上位には前後に貫通する孔がみられる。

土偶E類(図190)

沈線文を主体とする一群である。67~86ラインの広範囲で出土し、榎林式土器の分布と重なる。

図190-1~4・6はE類aに分類され、カニ手状文様がみられるものである。6は3・4と同一個体の頭部破片である。頭頂部は平坦で、左右に側頭部への貫通孔がみられる。顔面は体部から独立し、三角形の貼付の上に眉と鼻を隆線で、目と鼻を断面円形の棒状工具を垂直に刺して表現している。5は小型の土偶下端部で、正面側がつま先状に広く突出している。図190-7~9はE類bに分類される。剣菱付渦巻き文がみられるものである。7は頭部破片である。頭頂部が皿状に凹み、5カ所の貫通孔がみられる。目と口の刺突内と額部分に黒色物質(アスファルトか?)が付着している。8は両腕と頭部を欠き、裾広がり脚部を持つ。両腕部付け根には上下の貫通孔痕がみられる。10~12はE類だが細分できないものである。11には体貫通孔がみられ、臍剥落部の下位に三角形のモチーフがみられる。12は左腕部の破片である。乳房は円錐状に隆起し、その周囲を2本一対の沈線が弧状に囲っている。正面側に赤色顔料が付着する。

土偶F類(図191~192-3)

沈線文と地文縄文を主体とする一群である。65~86ラインで出土し、おおむねE類と分布範囲が重なる。図191-1~192-2は地文縄文と沈線が、図192-3は地文縄文に縄押捺が用いられている。

図191-1・2は頭頂部が皿状に凹み、後頭部及び側頭部への貫通孔がみられる。顔面は三角形の粘土を貼付し、眉と鼻は隆線で、目と口は刺突により表現されている。この点ではE類と共通している。2は頭部の付き方が特徴的で、実測図では顔面を垂直において作図しているが、本来顔面が斜め上を見上げる様に作られている。また、顔面の突出具合もやや強めであり、遺構外で出土しているI類eの特徴に近い感じを受ける。

図191-4は左腕部の破片である。斜め上方へ向け付き出す腕部の正面側には多条の沈線が縦位に、背面側には地文縄文に沈線で三角形文と蕨手状の文様がみられる。脇から肩にかけては貫通孔がみられる。は剣菱付渦巻き文が中央部にみられる。

図191-6は体部下半の破片である。表裏面に地文縄文がみられ、枝分かれ状の沈線や臍の表現と体貫通孔がみられる。

土偶G類(図192-4・6)

体部文様が無文の一群である。出土点数が少く分布傾向は不明である。4は頭部破片で、顔面が剥落した跡が三角形に残る。頭頂部に横位溝状の凹みがみられ、後頭部へ2箇所貫通孔がみられる。

土偶I類(図192-5)

頭部や脚部などで分類不明のものである。5は脚部の破片である。指は3本表現されている。

土偶J類(図192-7)

1点のみ出土した。報告書刊行以前に「椅子に腰掛けたような」土偶として新聞等に紹介された土偶である。VIII T-64グリッドの2層から出土したが、出土状況の詳細な写真などが無いため供伴する土器は不明である。しかし出土地点に近い3ベルトの2層は円筒上層d・e式が出土しているため、少なくともこれ以降の所産であることは間違いない。4本の脚部の付いた湾曲した板状のパーツの上に人の上半身がのっている特異な形状で、脚部は3本が欠損し、両腕と左側の板状部分も欠損している。通常の土偶とはかけ離れた点が目立つ本例であるが、目・口が円形の刺突で表現される点、眉と鼻が隆線で表現される点、顔面が三角形の粘土板を貼付して成形されている点、頭頂部がおおむね平坦な点など頭部付近の特徴については本遺跡土偶E・F類と近似している。また、板状パーツの側面に沈線が施文されるが、この点もE・F類と同じ沈線文を用いている特徴を持つことがわかる。従って帰属時期については先に述べた出土状況と合わせて円筒上層d・e式以降榎林式の範囲に収まる可能性が高い。製作状況としては、表面に現れた接合痕跡などを見る限り、脚部から頭部付近までが一体で成形された後、板状パーツを腰の周りにスカート状に接着し、パーツ端部と腕部先端部を接着したと考えられる。この点において、「椅子」は否定されるものである。本例の特異な点は、4脚や板状パーツだけではない。破損した腕の断面が丸く、細く棒状の腕が付いていたと考えられ、本県域で出土する土偶が板状土偶との違いが明らかである。さらに、小型品故かもしれないが乳房・臍の表現がないことや、腹部がこのように膨らむのも特異である。ちなみに、肩の部分には肩パット状の突起が左右2個ずつ付いており、下側のものは肩甲骨付近まで延びている。このような特異点と通常の土偶に類似する点があるが、本例は「土偶」の範疇を逸脱するものではないと考えられる。本例の類似例は皆無に等しいが、腕の形状や下ぶくれの腹部形状の他、肩部分の突起などに注目すると、中部高地に存在する「ポーズ土偶」に要素の類似性をみることが可能と考えられる。本例の系譜や性格などについては第6分冊で述べることにする。

ミニチュア土器(図192-8~193-5)

本書でのミニチュア土器の定義は、小型で、通常の土器にはみられない特徴等をもつものとしているが、明確な線引きは難しく、恣意的な部分も多い。器形により深鉢形、鉢・浅鉢形、高台や脚付形等がみられる。特記事項を以下に述べる。

図192-8~19は深鉢を意識したものと考えられる。11~13は無文のものである。14~17には縄文がみられ、15の底面は丸みを帯びた方形である。

図192-20~193-3は鉢及び浅鉢を意識している。22と23は底面が楕円形で長軸端部の口縁付近が低くなっている。胎土に繊維を含むため円筒下層d式期のものと考えられる。図193-1は上面観楕円形の長軸端部に横位橋状の突起が付き、底面丸底の浅鉢状である。胎土に繊維を含まず、3層から出土しているため円筒上層期のものと考えられる。

図193-4・5は脚が付くものである。4は無文の体部が底部に向かいすぼまり、底部から3方向に棒状の脚部が短く突き出す三脚のミニチュア土器である。口縁部は平縁で2個一対の突起が付く。18ベルト付近のIXC-81グリッド2層から出土しており、円筒上層c式～榎林・最花式に帰属する可能性がある。5は高坏状である。4と同一グリッド・層位から出土している。断面逆台形の鉢状の上部に高台が付く。上面観は上半が半円形で、下半は張出しを持ち下端で尖る形状である。尖る部分の外面には橋状の突起が付いている。口唇上面には刺突列がみられ、2箇所には上下の貫通孔がみられる。出土位置と層位からは円筒上層c式以降の可能性があり、文様からは最花式との類似性がみられる。

土製装飾品（図193-6～9、図195-8）

図193-6は耳飾と考えられる。上端部がすぼまり、中位が膨らんだ後下端部でくびれ、底部で張り出す特異な形状である。中心には貫通孔がみられ、側面と底面には刺突列がみられる。VIII-V-66グリッド3層から出土し、文様などの特徴から円筒上層c式期に帰属する可能性が高い。

図193-7は環状の垂飾品?である。側面観が台形状で表面には縄押捺と多裁竹管の刺突列がみられる。表面は一部風化するものの、丁寧に磨かれている。VIII-W-72グリッドII・III層から出土しており、文様・胎土の特徴から円筒上層a～b式期に帰属する可能性がある。

図193-8・9は笠状で中央部が貫通する垂飾品?である。無文で9の一部は欠損している。8は外面が半球状に近い。8がIXC-80、9がIXB-78グリッドから出土し、層位はともに2層である。出土地点は18ベルトに近いため、2層からの出土は円筒上層c式以降と判断できる。

図195-8は土製装飾品である。榎林式土器の口縁部を利用している。口縁波頂部直下の焼成前にあけられた孔を中心に五角形状に仕上げている。

土器片加工品（図193-10～199-3）

土器から切り取った破片を素材に周囲を整形する、貫通孔をあけるなどした一群である。

A・B類（図193-10～195-12）

捨て場内からはA類a～cが143点（捨て場以外で69点）、A類d～fとB類が合計64個出土した。a～cの前期～中期前葉期の量が多いことがわかる。分布範囲も捨て場内に広がるが、71ライン付近で出土量が落ち込む様子は円筒下層d2式期の土器分布と通じるものがあり、素材となった土器片の特徴もこれを支持している。図版では時期毎にきれいに並べてはいないため、詳細な分類は観察表に譲り、以下に特記事項を記す。

図194-8は裏面に盲孔がみられA類b2に分類され、円筒下層d2式土器を素材としている。表面には土器焼成前に描かれた二本一対の沈線による下向き矢印状の文様がみられる。沈線文様のある部分を狙って加工したと考えられる。

図194-15は貫通孔がみられA類c2に分類され円筒下層d2式土器を素材としている。全体形が逆台形状で側縁は研磨されている。両側縁が直線上であり、C類の破片が素材の可能性もある。

図195-1は貫通孔がみられA類c2に分類され円筒下層d2式土器を素材としている。裏面には孔を中心に十字に沈線がみられる。この沈線は土器片加工時に描かれたものである。また、斜行する2本の線は後世についたものである。中心の孔の周囲には円形で細かい沈線がみられるが、これは回転穿孔時に付いた痕跡と考えられる。

図195-10は榎林式土器の破片を利用して半円状に仕上げている。図の上下短部には剥離痕がみら

れたため打ち欠きの土錘の可能性も考えたが円盤状土製品の仲間と捉えた。

図195-12はB類cに分類される。角の丸い三角形状で、表面には沈線と条痕がみられる。文様の特徴から十腰内I b式の破片を利用したと考えられる。

C類(図195-13~199-3)

土器片を切り取り短冊状または石斧刃状の形状に整形したものと及びその素材や残片が相当する。捨て場内で90点出土し、それ以外では18点が出土している。A類a~cと同様捨て場での出土量が大半を占める。切り取りには擦切技術や打ち欠きが使用され、最終的には側縁が研磨されるものが多い。捨て場内での分布はA類a~cとほぼ同じで円筒下層d2~上層c式土器の分布と重なる。

図195~197-4・198-3・199-1~3は完成品及びその破損品である。図195-17のように側縁がほぼ並行するものや、図199-3のように中央部が膨らみ全体形が石斧刃状になるものがある。ちなみに、図195-17は円筒下層d1式土器に、図199-3は円筒上層a式に比定される土器を素材としている。また、両例は一つの土器から複数の土器片を切り出していることがわかる例でもある。

図197-7~198-2は何らかの理由により切り出し途中で終了している破片である。側縁は打ち欠きのままで、中央部等に擦切痕跡が残るものが多い。

その他の土製品(図199-4~200-6)

図199-4は石刀模倣品の柄頭部分と考えられる。柄頭はバットのグリップエンド状に作出され、端面が弱く傾斜している。中央部には表裏を貫通する孔がみられる。表面は丁寧に磨かれている。

図199-5は石皿を模倣したと考えられる。正面には縁辺に縁が作出され、その内部は中央部分が極弱く盛り上がり、下部に溝状の凹みがみられる他はおおむね平坦である。左端には端部に向かい傾斜する溝がみられる。裏面は平坦である。

図200-1は土偶の一部分の可能性はある。図では方形を意識した置き方になっているが、右上方の角を頂点に据えた状態が本来である可能性がある。全体形は環状になり、正面側及び側面には刺突列が、裏面にはLRが回転施文されている。

図200-2は三角形土製品の破片である。正面にはLRが回転施文され、側面観がやや湾曲する。

図200-3は四脚を持つ皿状の土製品である。木器を模倣している可能性がある。上面観は楕円形で左端部に縦位の橋状突起が付くと思われる。口縁部は正面下側に向け傾斜している。

図200-4は用途不明の土製品である。亀甲状の体部側縁に突起が2箇所付いている。長軸端部の欠損部には貫通孔痕が2本みられる。下面は上げ底になっている。

5)石製品

捨て場から出土した石製品には、岩偶(2点)、三角形岩版(10点)、円盤状石製品(11点)、石棒・石刀類(139点)、石冠類(108点)、容器状石製品(26点)、石製垂飾品類(40点)、有孔石製品(32点)、環状石製品類(17点)、擦痕および線刻などがみられる石製品(32点)、その他の石製品(29点)がある。各器種の分布状況については図28~31に掲載した。以下では個々の遺物について特記事項を記す。

細分層位取り上げ石製品

3ベルト出土品(図201-1~5・7)

1は石棒C類である。半球状の頭部が明瞭に作出されている。2a層から出土しているため榎林式以

降に帰属する可能性がある。2から4は3a層から出土したものである。3a層は円筒上層c式以降のものと捉えられるため、これらの石製品も同時期以降に帰属する可能性がある。2は石冠C類aである。底面から前後面にかけて切れ目無く連続している。3は石冠F類aである。二等辺三角形の形状で正面側縁が石皿の縁のように弱く作出されている。5は3c・d層から出土した垂飾品である。キムラホタテの化石を素材に縁辺を研磨し上端部に貫通孔がみられる。同層は円筒下層d式以降と捉えられるため同時期以降に帰属する可能性がある。7は3e層から出土した。石冠G類に分類されるが、小型品である。側面には帯状敲打痕が全周し、底面は円錐状に盛り上がっている。層位は3e層とかなり下位であるがⅧU66グリッド出土であるため捨て場斜面ではなく平坦部に近く寄り新しい時期のピット等が存在しているため、出土層位が遺物の帰属時期を表すか不明である。

13ベルト出土品 (図201-8~12)

8は2a層～出土し、9・10は2a・b層から出土した。同層は円筒上層c式期以降の層と捉えられている。8は有孔石製品である。分厚い凝灰岩製の素材を研磨し中央部に孔を穿っている。9は垂飾品の一部である可能性がある。薄く平坦に加工され、上下端部を欠損するが上端部に貫通孔がみられる。また正面側には刻線がみられる。10は石冠C類cである。両側面に弧状の隆線と円形の凹みが作出されている。11は3b層から、12は3b・c層から出土した。同層は円筒下層d2式以降の層の最上位に当たる層である。11は玉髓製で半透明～白色の小礫であり、加工はない。搬入礫である。12は石冠F類aである。正面形などは図201-3と同様であるが、正面側面の縁が作出されず、弱く凹む。

図202～222にはベルト細分層位以外で取り上げた石製品を掲載した。以下に分類ごとに特記事項を記述する。

岩偶 (図202-1・2)

1・2ともに捨て場東側の82ラインで出土している。1はデイスイト製、2は凝灰岩製であるが、軟質の素材を剥離と研磨で加工している。1は剥離痕が研磨で消し切れておらず未製品の可能性がある。2は正面側に横位の刻線がみられる。出土位置から榎林式以降の可能性がある。

三角形岩版 (図202-3~11)

3は上半が欠損しており全体形は不明である。剥離整形後に一部研磨されており正面には縦位に刻線がみられる。出土地点付近の2層は榎林式以降の土層とみられるが帰属時期は不明である。

4と6は同一グリッドから出土している。4は正三角形で弱く研磨されている。6は角が丸みを帯びる三角形で、左右側縁に沿って刻線がみられる。また、横断面が湾曲している。出土地点付近の2層は榎林式以降と捉えられるため、本例も同時期以降に帰属する可能性が高い。

7・8・10はⅧR62グリッド付近から出土している。3点ともに沈線・刺突等で文様が描かれている。特に7裏面と8正面のモチーフは類似している。出土地点付近には大木10式併行期のSI103等があるため、これらもその時期に帰属する可能性が高い。

5・9・11は73ライン付近からの出土である。5は正三角形に研磨成形されている。9は破片であるが、刻線と盲孔がみられる。岩偶の腕部の可能性もある。11は側面に刻線が巡っている。

円盤状石製品 (図202-12~16)

全体を剥離整形するのみのA類(15)と、全体を研磨成形するB類(12~14・16)がある。12は13ベルト西側の3層から出土した。同層は円筒下層d2式期以降と捉えられることから同時期以降に帰属す

る可能性がある。14はIXD-82 グリッド3層から出土した。同層も円筒下層d2式以降の層と捉えられているため同時期以降に帰属する可能性がある。15はVIII-X-69グリッド2c層から出土した。同グリッドには円筒上層b式期のSI65が存在する。2c層の帰属は明確ではないが、3・13ベルトの状況を見ると円筒上層c式以降の堆積層である可能性が高いと考えられるため、同時期以降に帰属する可能性がある。

石棒・石刀類(図203～209-9)

A類(図203-1～5・8)

捨て場内からは棒状の礫をそのままあるいは一部を加工した石棒A類が48点出土した。層位的に2層出土のものが約2/3を占めており。それらは67ライン付近と78ラインから82ライン付近にややまとまる傾向がある。また3層出土のものは70ラインから西側にまとまる傾向がある。3層はおおむね円筒下層d2式以降円筒上層b・c式あたりまでの時期幅が想定され、2層はそれ以降が想定されるため、A類はほぼおおむねすべての時期に伴う可能性がある。

B類(図203-6・7、図204～206-3)

両端部を平坦もしくは文様を加工したB類は捨て場から27点出土した。

B類aは端部を平坦に加工したもので70ライン付近と80ライン付近にまとまる傾向があるが、a1とa2がどちらかにまとまる傾向はなく層位に関しても2層からの出土が多い。

B類bは端部を凹ませたもので、凹みの状況でb1とb2に分類される。7点出土した。B1は端面の凹み底面が平坦に加工されるもので、図204-1が相当し、67ライン付近にまとまるようである。b2は端面の凹みが椀状に凹むもので、図205-5が相当し80ラインより東側にまとまるようである。

B類cは端面に二重円文がみられるもので、2点出土し66ライン付近にまとまっている。

B類dは端部がすぼまるもので6点出土した。図206-1は唯一3層からの出土である。断面が隅丸方形に近く、裏面中央部が弱く溝状に凹んでいる。出土地点付近の3層は円筒下層d2式以降の可能性が高いため本例もその時期以降に帰属する可能性がある。

C類(図206-5～7)

一方の端部を加工し、頭部を作出したものである。頭部直下のくびれが明確ものとそうではないものがあり、かつくびれ部分の太さが手で握ることができるものと握るのが難しい程太いものがある。おおむね直径7cm程度が境界と考えているが、頭部付近だけ出土した場合D類(石刀)の柄頭との区別が難しい。共通する特徴としては、頭部の作出時に端面が傾斜するように作出することである。傾斜の具合はあまりきつくないものが多い。分布範囲と層位からみるとおおむね円筒上層c～e式期の土器分布と重なるようであり、層位は2層からの出土がほとんどであることから、円筒上層d・e式期に帰属するものが多い可能性がある。

D類・E類(図207～209-9)

棒状の礫を加工し、片側縁に刃部を作出したものの一群である。分布範囲は主に69ラインより西側にまとまり、このエリアのものは3層から出土することが多い。また、2層から出土したものは全域に散らばる傾向がある。全体形状がわかるものが捨て場からはほとんど出土していない。

この中で図209-1～9は凝灰岩製の柔らかく板状の素材を用いているD類dに分類される一群である。特に1・2・4～7には刻線と盲孔による文様が描かれており特徴的である。加えて1と2は左側縁が刃部

であるが、峯部分に断続的な刻線がみられるのが特徴である。これについても青竜刀形石器との関連を思わせる。7は柄部分と考えられる。

なお、E類としたものは、小型品が多く、研磨などの加工が比較的丁寧なものである。図208-6は凝灰岩製で、全体形が屈曲している。刃部は右側縁側がより丁寧に研磨されているため内反りである。刃関は不明瞭である。内反りである点が青竜刀形石器との共通点とみられる。7は薄い板状の凝灰岩を用いている。裏面側が剥離している等全体形は不明であるが、左側縁側が刃部で右側縁側が湾曲気味であるため青竜刀形石器の類似品とした。8は柄に近い部分の可能性はあるが、やはり左側縁が刃部で、右側縁は湾曲し広がるようである。このような特徴から青竜刀形石器の類似品とした。

石冠類(図209-10～図217)

いわゆる石冠とその類品に分類される一群である。A～E類が斧刃状の頭頂部を持つもので、底面の形状などにより分類している。F類は石冠の類品や有溝側縁石器と呼ばれるものに類似し、全体形状や正面の状況等で分類している。G類は本来礫石器に含めるべき北海道式石冠に類似した一群である。

図209-10はF類Aに分類される。扁平な楕円礫を用い、頭頂部を研磨して斧刃状の頂部を作出している。底面は幅の狭いスリ面が形成されている。VIIIU-66グリッドII～III層～出土しているため、円筒上層c式期以降に帰属する可能性がある。

図209-11・2、図210-4・5はB類に分類される。斧刃状で側面観が前後対象の頂部を作出しているものである。図210-5は後側面に刻線がみられる。これらもおおむね円筒上層c式の土器分布と重なるようであり、同時期に帰属する可能性がある。

図210-1・3、図211-1・2・5、図212-1はC類aに分類される。斧刃状で傾斜する頭頂部を持ち、底面から前後側面が連続する一群である。底面の状況により細分しており、C類a4が捨て場東側にやや多い他は72ライン以西に分布がまとまる。C類aの出土層位には2層と3層がみられ、ほぼ同数であり、この範囲では円筒上層c式土器が多く出土するため、同時期以降に帰属する可能性がある。特筆されるものとして図211-5がある。底面側縁に縁状の高まりをもち、基底部に隆線を作出した後刻線が上面に描かれている。

図209-12・13、図210-2、図212-2～図213-3はC類bに分類される。C類aとの違いは底面と前後側面が研磨の稜線により明瞭に区分されることである。また、底面は平坦でやや幅広になるものがあり、側縁が縁状になるものはない。全体的に研磨整形の稜線が明瞭なものが多く、C類bに比べ三角柱状に近い形態となっている。また、側面に刻線や盲孔による文様が描かれるものも目立つ。分布範囲はC類aとあまり大差が無く、2層と3層の比率もほぼ同じである。従って、C類bについても円筒上層c式以降に帰属する可能性がある。特筆されるものとして、図213-2・3があげられる。2点とも側面に盲孔を刻線で繋いだ文様が描かれている。2は実測図左面に四角形と五角形と底辺のない三角形が連結して描かれている。右面には鋸歯状の文様が、後面には菱形文様を横位の刻線で区切った文様が描かれている。3の側面には弧状文様の中央に縦位の刻線が描かれている。特に左面には弧状文の内側に細い刻線が弦のように描かれている。

図213-4・5はC類cに分類される。底面が広く全体形が三角柱状に近い。これらの分布はC類a・bの分布範囲の東側に偏って分布している。出土層位は2層であり、付近の13ベルトと18ベルトを参考

にすると、やはり円筒上層c式期以降に帰属する可能性がある。

図214-1～3はD類に分類される。基底部が明瞭に張出し、烏帽子状の頂部を持つものである。1以外は79ライン付近より東側で出土しており、層位も2層からの出土である。1については、本来C類のいずれかに分類されるべきかもしれないが、基底部が明瞭に張り出すため本類とした。写真図版355では3が榎林式土器の近くから出土している様子を掲載している。土器分布と合わせてみても1以外の本類は榎林式以降に帰属する可能性が高い。特筆すべきものとして図214-2がある。斧刃状の頂部は、前後面側で底面側に屈曲している。基底部は隆線状に張出し、上面に刻線がみられる。前後面には刻線がみられ、前面は十字形、後面は「人」字形のモチーフである。底面は広く平坦である。

図214-4～図215-4はF類aに分類される。石冠の類品等と呼称されるものである。正面形が二等辺三角形状で、正面側が平坦あるいは石皿状に凹むもので、側面観が正面側に緩く内湾するような形状を呈する。分布は62～85ラインまで広範囲に分布し、石冠類A～D類の分布範囲をほぼ網羅している状況である。出土層位は2層と3層があるが、2層からは3層の2倍程度出土している。2層出土品の分布は75～81ラインにまとまり、円筒上層c～e式期の土器分布と重なるようである。特記すべきものとして図214-5がある。本例は両側面に刻線がみられ、上下端面にも凹みがみられる。また、正面は縁付きの石皿状に凹んでいる。また、図215-2は正面を平坦に研磨した後、敲打により大きく凹ませている。図215-3は研磨整形が不明瞭であるが、正面を敲打により広範囲に凹ませている。

図215-5～図216-2はF類bに分類される。正面形状が楕円形もしくは柱状で、小型の石棒にも擦り石にも分類可能な一群である。特徴としては研磨整形が顕著であることである。また、側面観が正面側に弱く湾曲気味なものも存在する。出土層位はすべて2層で、主に77ラインより東側に分布する。これらを石冠の類品とすることにはためらいがあるが、明らかに擦り石などの利器ではないと考えられるため、本類に含めることとした。

図216-3～図217-4・6はG類に分類される。器体側縁に帯状の敲打痕が巡るのが特徴である。底面はそのまま接地させると器体の軸が大きく傾くほどすり減っているものが多い。石冠類とした中で唯一使用痕跡が明瞭なものである。また、被熱しているものも多い。

容器状石製品(図217-5、図218-1～7)

凝灰岩製の礫素材を敲打・研磨により容器状に刳抜きもしくは凹ませている一群である。捨て場全域に分布しており、出土層位は2層からが多い。図217-5は正面側が敲打により緩く湾曲している。容器とはいえないが、利器でもないと思われるためこの一群に分類した。研磨整形で丁寧に形が作られているものには図218-1・2・4がある。1と2は舟状に、4は椀状に整形されている。

石製垂飾品類(図218-8～図219-12)

器体の端部寄りに貫通孔がみられる一群である。図218-8～16はA類に分類される三角形の瑛状耳飾りである。捨て場から9点出土した。16が凝灰岩製であるのを除き、残りは蛇紋岩・ネフライト・ヒスイとされている。ただし、ヒスイとされたものは今後検討を要する。完形品はなく、すべて破損品の端部に穿孔し垂飾品としたものである。

図219-5～7はB類aに分類される。粘板岩などの薄い素材を使用し、形状の成形をほとんどせずに端部付近に穿孔しているものである。

図218-17～図219-4はB類bに分類される。全体形状を研磨などで行っているもので、多様な形状

がみられる。図219-2はIXB-72グリッド2層から出土した。付近に円筒上層e式期のSI66が存在する。刻線がみられる垂飾品で、左上部の貫通孔付近が破損している。全体形状は左側縁がやや直線状で上部が平坦な紡錘形で、側面に刻線が巡っている。表裏面の文様は円と三角形の組み合わせで、土器や土偶にみられるものと似ている。この種の文様は円筒上層e式以降最花式までみられるが、本例は供伴する土器が不明であるため詳細な時期は不明である。図219-3は岩偶の可能性もある。図219-9・10はD類に分類される。棒状の礫素材の両端部からの穿孔がみられる。10は端部からの穿孔と側面側からの穿孔が連結している。図219-11・12はC類に分類される。薄く細長い板状の素材両端部に穿孔がみられる。

有孔石製品（図219-13～図220-14）

中央部に貫通孔がみられる一群である。図219-17はヒスイ製である。SI102付近の3層から出土している。円筒下層d2式以降の可能性もある。図220-2はVIII R-62グリッド3層から出土した。側面観台形で歌面に放射状の刻線と円形の細い刻線がみられる。正面には穿孔時に付いたとみられる円形の刻線がみられる。付近には大木10式併行期の堅穴住居跡が重複しているため、同時期以降に帰属する可能性もある。図220-14は三角形を呈し、側面に刻線が巡る。

環状石製品（図220-15～図220-1～4）

有孔石製品より孔が大きい一群である。図220-16と221-1は形状が異なるが装飾が非常によく似ている。同一グリッド・層位から出土しているため対になる可能性がある。図221-4はデイサイト製で孔が長円形である。多孔質の石材であり、同様の石材を使用した石製品は今回報告範囲で40点ほど出土しており、多くが有孔もしくは環状石製品である。

擦痕および線刻などがみられる石製品（図221-6・8～14、図222-1・2・6・7）

図221-9～11・14・15は格子状の刻線がみられる石製品である。14や15は形状から岩偶の可能性もある。12は線刻のみみられる石製品である。研磨整形により隅丸長方形に整形後正面側に刻線によるモチーフが描かれている。モチーフの意味などは不明である。図222-6・7は穿孔・擦切・刻線などの痕跡が複合する。形を整形する意識が低いため、穿孔等の試行に用いられた可能性もある。

その他の石製品（図221-5～7、図222-3～5・8・9）

器物の模倣品や搬入された特徴的な形状の自然石等をまとめた。図221-5は石槍の模倣品である。図222-3は女陰を模した石製品の可能性がある。

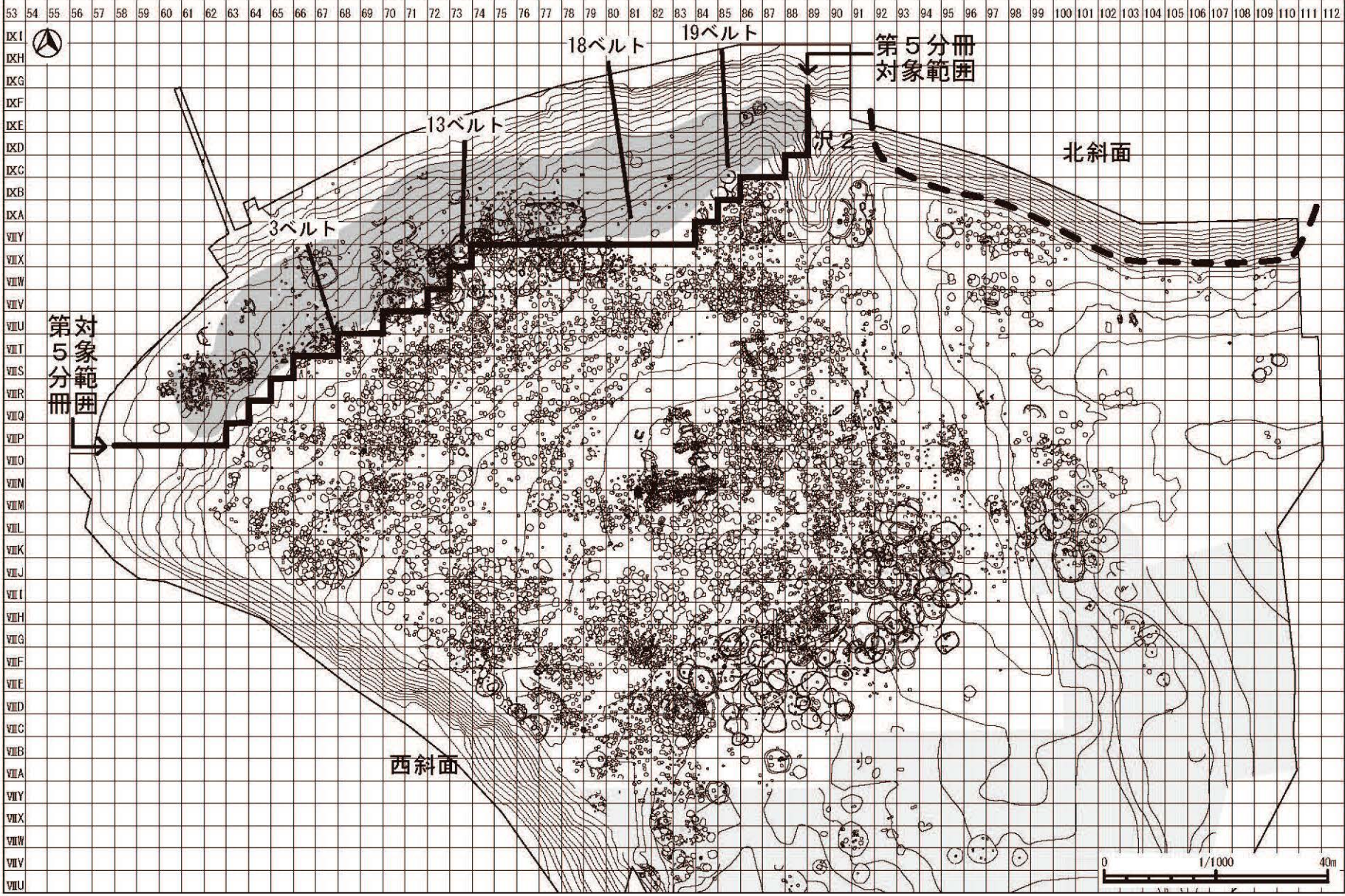


図1 捨て場の範囲と報告対象遺物の範囲図

3ベルト

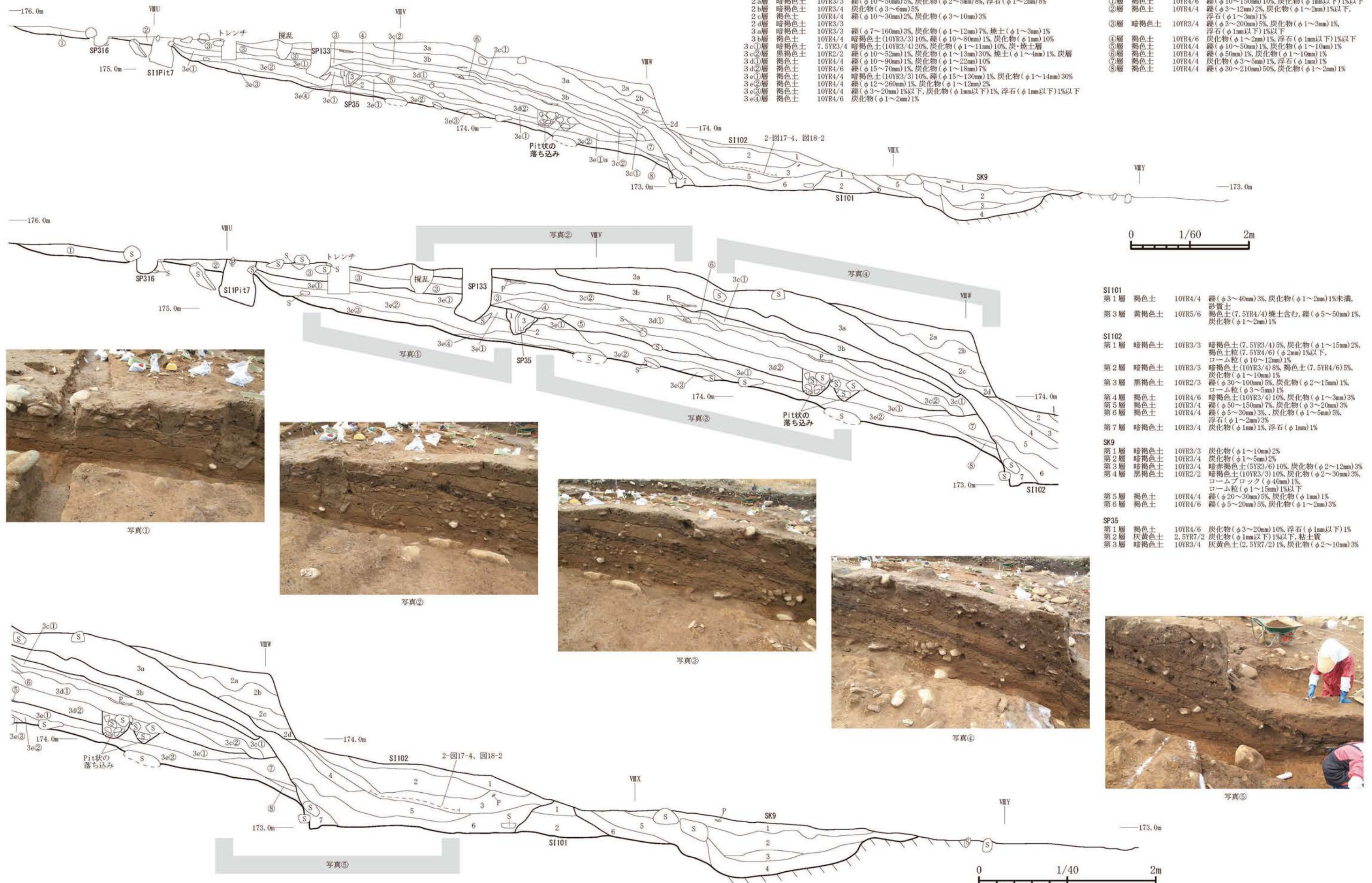


図2 3ベルト土層断面図

13ベルト

2a層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ20~210mm)10%,炭化物(φ1~20mm)5%
2b層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~280mm)1%,炭化物(φ1~15mm)15%
3a層	褐色土	10YR4/4	礫(φ20~60mm)2%,炭化物(φ1~15mm)7%
3b層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ15~100mm)5%,炭化物(φ1~10mm)15%
3c-1層	褐色土	10YR4/4	礫(φ30~170mm)7%,炭化物(φ1~20mm)3%
3c-2層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ20~130mm)2%,炭化物(φ1~10mm)15%, ※斜面部に炭化物が集中して混入している。
3d層	褐色土	10YR4/4	礫(φ20~100mm)3%,炭化物(φ1~15mm)20%, ※斜面部に炭化物が集中して混入している。
3e層	褐色土	10YR4/6	礫(φ20~100mm)2%,炭化物(φ1~20mm)7%
3f層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ20~200mm)3%,炭化物(φ1~30mm)30%, ※斜面部に炭化物が集中して混入している。
3f・3i-1層	褐色土	10YR4/4	暗褐色土10YR3/4,礫(φ20~50mm)2%,炭化物(φ1~10mm)10%
3g-1層	褐色土	10YR4/4	炭化物(φ1~10mm)10%
3g-2層	褐色土	10YR4/4	炭化物(φ1~20mm)20%
3g-3層	褐色土	10YR4/6	礫(φ20~70mm)1%,炭化物(φ1~15mm)7%
3h-1層	褐色土	10YR4/6	炭化物(φ1~15mm)5%
3h-2層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ30~70mm)1%,炭化物(φ1~30mm)7%
3h-3層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ10~100mm)5%,土器(φ100~120mm)2%
3i層	褐色土	10YR4/4	礫(φ20~180mm)2%,炭化物(φ1~20mm)3%
3i-1層	褐色土	10YR4/4	礫(φ20~180mm)2%,炭化物(φ1~20mm)3%
3i-2層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ1mm)1%,褐色土10YR6/1(φ1~10mm)1%
3i-3層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ1~10mm)2%,明黄褐色ローム粒(10YR6/6)(φ13mm)1%
3i-4層	褐色土	10YR4/6	炭化物(φ1~5mm)1%,灰白色粘土粒(φ1mm)1%以下 にぶい黄褐色土 10YR5/4 礫(φ30~70mm)1%,炭化物(φ1mm)1%以下

S166

第1層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ20~210mm)10%,炭化物(φ1~20mm)5%
第2層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~280mm)1%,炭化物(φ1~15mm)15%
第3層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~40mm)2%,炭化物(φ1~10mm)5%
第4層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ20~130mm)2%,炭化物(φ1~10mm)15%
第5層	褐色土	10YR4/6	礫(φ20~100mm)2%,炭化物(φ1~20mm)7%

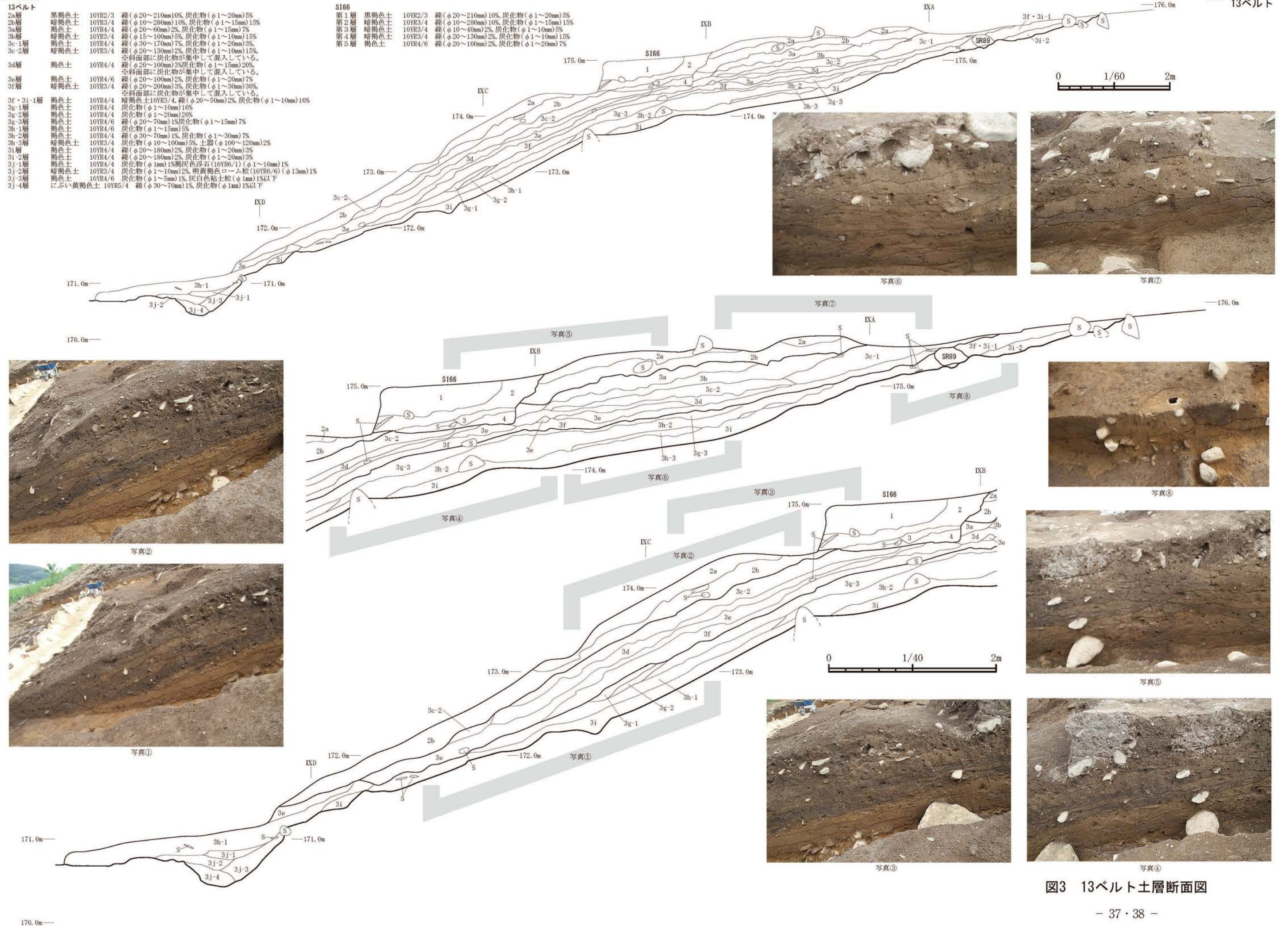
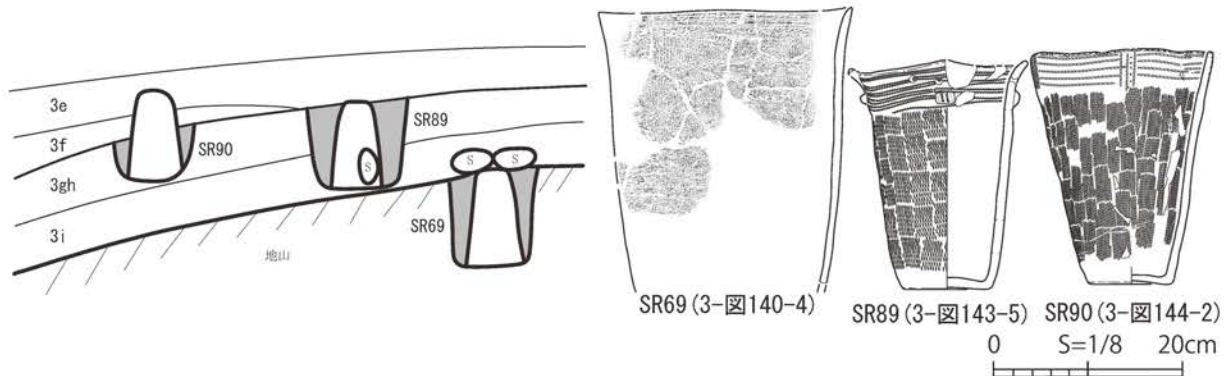


図3 13ベルト土層断面図



遺構名	グリッド	掘り込み面		設置	礎	掘方	時期	備考
		標高	層位					
SR90	IXA-74	175.5m	3gh層	倒立	内部1	小さい 浅い	円筒下層 d2式	検出は3e層中。3f層(円筒下層d2式期)堆積後も地表露出。埋設時に土器の半分以上が地表に露出か。
SR89	IXA-73	174.6m	3gh層上面	倒立	なし	大きい 深い	円筒下層 d2式	土器は掘方にほとんど納まっている。
SR69	IXA-73	175.3m	3i層下面	倒立	上部2	小さい 深い	円筒下層 d1式	3i層(円筒下層d1式期)除去後、礎2個を検出。捨て場堆積土形成初期(以前の可能性も)の土器埋設遺構。
SN67	IXA-74	174.8m	3gh層中	-	-	-	-	検出は3e層ないしは3d層。3f層(円筒下層d2式期)の堆積土の上位層が被熱している。



図4 13ベルト細分層と遺構の前後関係

13ベルト包含礫数量

細分層	写真	土色	炭化物量	層厚	小 ~10cm	中 ~20cm	大 20cm~	総計	遺物			備考
									取器	打製石器	台石石器	
2ab層	①	黒褐色・暗褐色土	多い	30cm	164	134	69	367				大型礫多い
3a層	②	褐色土	少ない	15~20cm	50	50	20	120				
3b層	③	暗褐色土	やや多い	15~20cm	15	68	17	100				
3c層	④	褐色・暗褐色土	少ない	10~15cm	12	30	11	53				
3c中礫集積	⑤	黄褐色土	ない・少ない	15cm	9	85	2	96				局所的な礫集積盛土
3def層	⑥	褐色土・暗褐色土	少ない	20~30cm	14	95	32	141				
3gh層	⑦	褐色土	多い・少ない	20~40cm	0	33	3	36				
3i層	⑧	褐色土	多い	20cm	20	48	8	76				

※集計範囲はIXAグリッド(南北4m)のベルト内(東西2m)である。5cm未満の小型礫は対象外とした。

※計量方法については礫1点ごとの大きさは求めず、礫1点ずつをサイズごとに振り分け数量をカウントし、大きさ順に並べた写真を記録する簡易な方法を採用した。

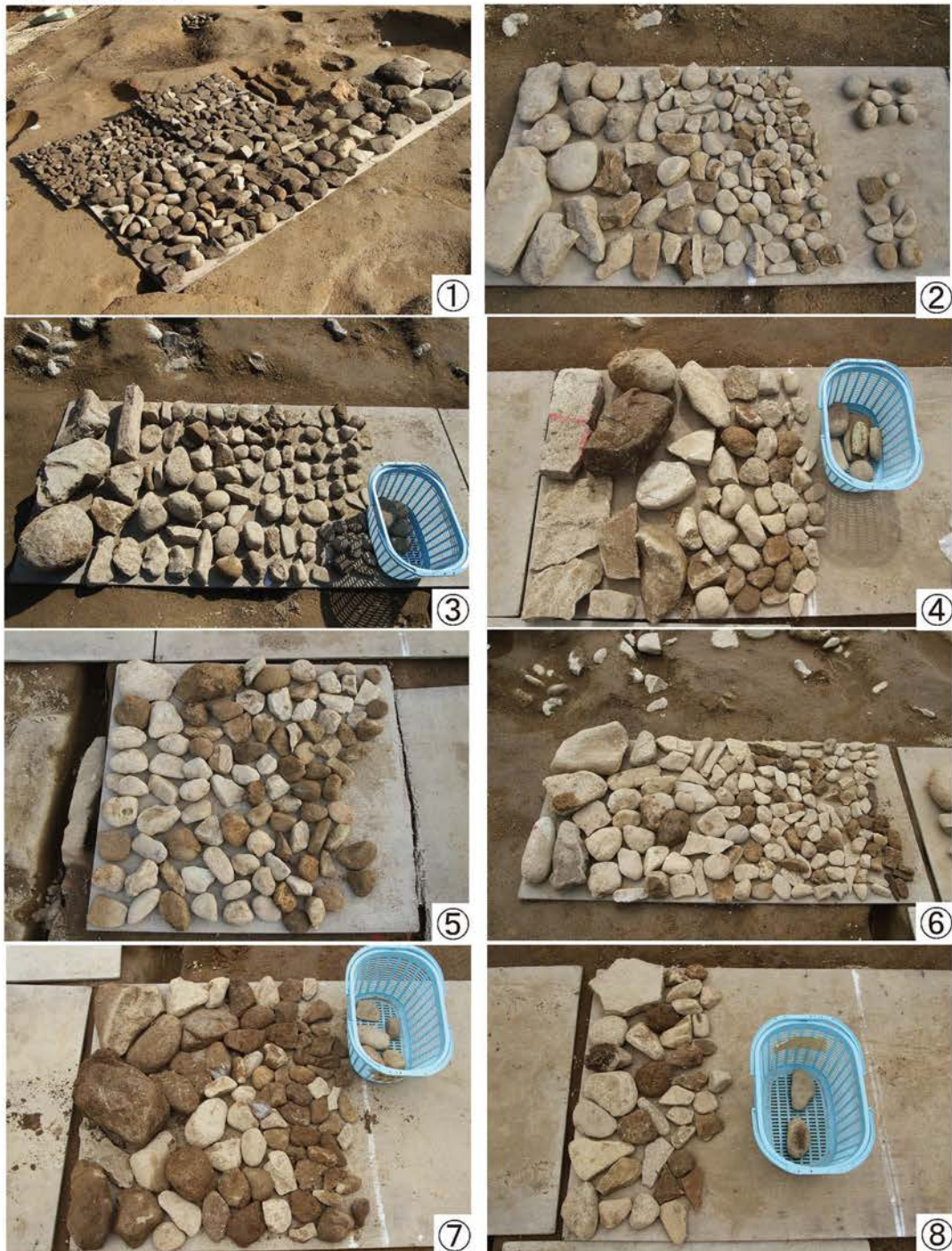


図5 13ベルト包含礫数量



写真②

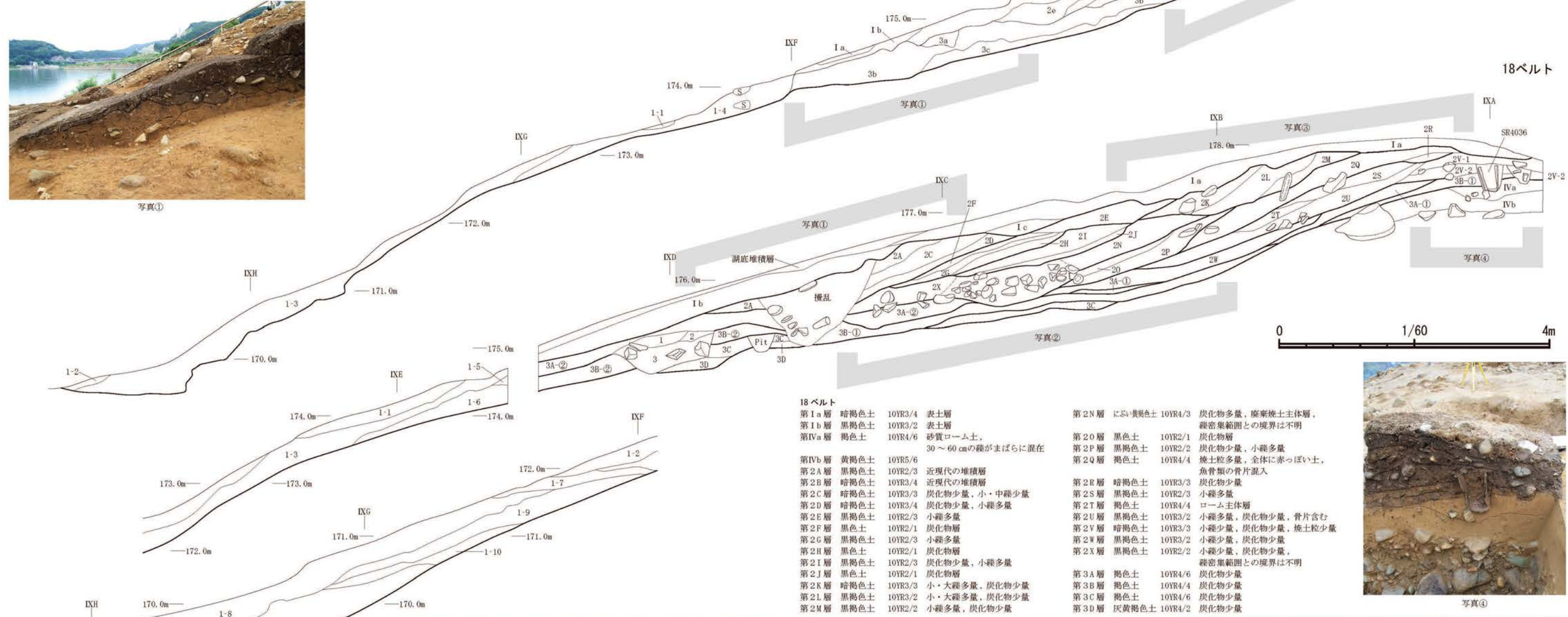


写真③



写真①

- 19ベルト
- 第1a層 灰白色粘土 10YR8/2 湖底堆積層
 - 第1b層 黒褐色土 10YR2/3 表土層
 - 第2a層 暗褐色土 10YR3/4 礫(φ10~140mm)10%, 炭化物粒(φ1~10mm)5%, SI4003(最花式)埋没後の堆積層
 - 第2b層 黒褐色土 10YR3/2 礫(φ10~100mm)3%, 炭化物粒(φ1~10mm)3%
 - 第2c層 褐色土 10YR4/6 暗褐色土(10YR3/4)20%, 礫(φ10~100mm)10%, 炭化物粒(φ1~5mm)3%, 捨て場IV層起源の砂礫を多く含む
 - 第2d層 黒色土 10YR2/1 炭化物(φ1~10mm)30%, 焼土(5YR4/4)にぶい赤褐色土)10%, 炭廃棄層
 - 第2e層 暗褐色土 10YR3/3 礫(φ10~100mm)15%, 炭化物粒(φ1~5mm)5%, 焼土粒(φ1~5mm)5%
 - 第2f層 にぶい赤褐色土 5YR4/4 炭化物粒(φ1~5mm)3%, 焼土廃棄層
 - 第2g層 黒褐色土 10YR2/3 礫(φ10~400mm)30%, 炭化物粒(φ1~20mm)5%, 大小の礫を多く含む
 - 第3a層 褐色土 10YR4/6 炭化物粒(φ1~3mm)2%
 - 第3b層 にぶい黄褐色土 10YR4/3 褐色土(10YR4/4)との混合土, 礫(φ10~300mm)10%, 炭化物粒(φ1~5mm)5%
 - 第3c層 黄褐色土 10YR5/8 褐色土(10YR4/6)20%, 炭化物(φ1~5mm)3%



- 18ベルト
- 第1a層 暗褐色土 10YR3/4 表土層
 - 第1b層 黒褐色土 10YR3/2 表土層
 - 第IVa層 褐色土 10YR4/6 砂質ローム土, 30~60cmの礫がまばらに混在
 - 第IVb層 黄褐色土 10YR5/6
 - 第2A層 黒褐色土 10YR2/3 近現代の堆積層
 - 第2B層 暗褐色土 10YR3/4 近現代の堆積層
 - 第2C層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物少量, 小・中礫少量
 - 第2D層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物少量, 小礫少量
 - 第2E層 黒褐色土 10YR2/3 小礫多量
 - 第2F層 黒色土 10YR2/1 炭化物層
 - 第2G層 黒褐色土 10YR2/3 小礫多量
 - 第2H層 黒色土 10YR2/1 炭化物層
 - 第2I層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物少量, 小礫多量
 - 第2J層 黒色土 10YR2/1 炭化物層
 - 第2K層 暗褐色土 10YR3/3 小・大礫多量, 炭化物少量
 - 第2L層 黒褐色土 10YR3/2 小・大礫多量, 炭化物少量
 - 第2M層 黒褐色土 10YR2/2 小礫多量, 炭化物少量
 - 第2N層 にぶい黄褐色土 10YR4/3 炭化物多量, 炭廃土主体層, 礫密集範囲との境界は不明
 - 第2O層 黒色土 10YR2/1 炭化物層
 - 第2P層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物少量, 小礫多量
 - 第2Q層 褐色土 10YR4/4 焼土粒多量, 全体に赤っぽい土, 魚骨類の骨片混入
 - 第2R層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物少量
 - 第2S層 黒褐色土 10YR2/3 小礫多量
 - 第2T層 褐色土 10YR4/4 ローム主体層
 - 第2U層 黒褐色土 10YR3/2 小礫多量, 炭化物少量, 骨片含む
 - 第2V層 暗褐色土 10YR3/3 小礫少量, 炭化物少量, 焼土粒少量
 - 第2W層 黒褐色土 10YR3/2 小礫少量, 炭化物少量
 - 第2X層 黒褐色土 10YR2/2 小礫少量, 炭化物少量, 礫密集範囲との境界は不明
 - 第3A層 褐色土 10YR4/6 炭化物少量
 - 第3B層 褐色土 10YR4/4 炭化物少量
 - 第3C層 褐色土 10YR4/6 炭化物少量
 - 第3D層 灰黄褐色土 10YR4/2 炭化物少量



写真①



写真②



写真③



写真④

図6 18・19ベルト土層断面図

3ベルト

層位	下c	下d1	下d1~下d2	下d2	上a	上b	上c	上d	上e	榎林	最花	大木10	中末後初	計(g)
2a層										6				6
2ab層下位									1,103					1,103
3a層							1,282	5,600	15		8			6,904
3b層			12	8,050	12,907									20,969
3bc層			465	1,591	1,813	128								3,997
3c層	52	1,906	13,928				1,636							17,522
3d層	486	68	4,654											5,208
3e層		1,131	145											1,276
計(g)	0	1,668	2,596	28,223	14,720	128	2,917	5,600	1,118	6	8	0	0	56,983

13ベルト

層位	下c	下d1	下d1~下d2	下d2	上a	上b	上c	上d	上e	榎林	最花	大木10	中末後初	計(g)
2ab層			623	1,880	441	479	1,969	466	89	98	20			6,064
2cd層							319	346						665
3abc層		127	327											453
3b層			515		3,067									3,582
3bc層		50	156		2,840									3,045
3c層	617	1,417	2,293	3,685			163							8,175
3cd層	21	329	3,733	2,840				65						6,989
3d層			230			11	78	15						333
3de層		38	1,380											1,418
3def層		4,611	2,000	2,272	406			28					26	9,344
3f層		19,394	420	1,401										21,215
3gh層		3,668	491											4,159
3i層		3,767	670				12			22				4,471
計(g)	0	32,116	6,937	9,699	6,931	11	253	109	0	22	0	0	26	56,103

18ベルト

層位	下c	下d1	下d1~下d2	下d2	上a	上b	上c	上d	上e	榎林	最花	大木10	中末後初	計(g)
I a層			34				325	39	216	236	1,085			1,936
I b層							54				131			185
2A~2D層							24	34	27	23	840			948
2E層							28			756	1,600			2,384
2FG層			22				16	24		48	418			528
2H層						193	31	87	124	1,412				1,846
2I層			18				52	198	26	731	457			1,481
2J層								12		53	72			137
2K~M層						155	62	310	282	175	181			1,164
2N~2X層			70				32	139	55	201	981			1,478
2X層			114			186	995	1,646	29	1,235	1,083			5,288
2O~2P層			38		253		5	112	63	30	117			618
2P~2Q層			154		25	75	251	2,042	1,055	159	52			3,811
2P~2R層			16				51	1,073	52	196	13			1,400
2S~2U層			1,999		2,735	286	4,093	12,969	341		79			22,502
2W層			1,601		2,047	1,006	1,332	2,482	40		15			8,522
2U層				420										420
3A-3B-①層		154	509				75		32		17			787
3A-②層		51	21				68			429	1,333			1,903
3B-②層			33				66			115	413			627
計(g)	0	51	488	0	278	608	1,993	5,716	1,929	5,682	8,448	0	0	57,964

19ベルト

層位	下c	下d1	下d1~下d2	下d2	上a	上b	上c	上d	上e	榎林	最花	大木10	中末後初	計(g)
1b層										8	516			524
2a層								25		84	2,568			2,678
2b層						12	22	66		22	3,023			3,145
2c層							10	27		125	1,280			1,440
2d層											7			7
2e層							42		30	87	3,561			3,719
2f層			35					47			193			275
2g層							265	40	66	534	375			1,280
3bc層														0
計(g)	0	0	35	0	0	12	338	205	96	859	11,523	0	0	13,068

<凡例>



図7 細分層別の出土土器数量(重量)

3ベルト

層位	下c	下d1	下d1~下d2	下d2	上a	上b	上c	上d	上e	榎林	最花	大木10	中末後初	計(g)
2a									1					1
2ab層下位														0
3a層							1	1						2
3b層				2	4									6
3bc層				1	1									2
3c層				8										8
3d層		1		3										4
3e層		1												1
計(g)	0	2	0	14	5	0	1	1	1	0	0	0	0	24

13ベルト

層位	下c	下d1	下d1~下d2	下d2	上a	上b	上c	上d	上e	榎林	最花	大木10	中末後初	計(g)
2ab層				1	3	1	2							7
3abc層														0
3b層				1	2									3
3bc層					1									1
3c層														0
3cd層			1	6	1									8
3d層														0
3e層		1												1
3def層		3		7										10
3f層		10	1	3										14
3gh層		6		2										8
3h層		1		1										2
3hi層				1										1
3i層		4												4
計(g)	0	25	2	22	7	1	2	0	0	0	0	0	0	59

18ベルト

層位	下c	下d1	下d1~下d2	下d2	上a	上b	上c	上d	上e	榎林	最花	大木10	中末後初	計(g)
I a層														0
I b層														0
2A~2D層														0
2E層														0
2FG層														0
2H層														0
2I層														0
2J層														0
2K~M層														0
2N・2X層														0
2X層														0
2O・2P層														0
2P・2Q層														0
2P~2R層														0
2S~2U層														0
2W層														0
2U層				1										1
3A・3B-①層														0
3A-②層														0
3B-②層														0
計(g)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

19ベルト

層位	下c	下d1	下d1~下d2	下d2	上a	上b	上c	上d	上e	榎林	最花	大木10	中末後初	計(g)
1b層														0
2a層														0
2b層											2			2
2c層														0
2d層														0
2e層											2			2
2f層														0
2g層														0
3bc層														0
計(g)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

図8 細分層別の出土土器数量(個体土器点数)

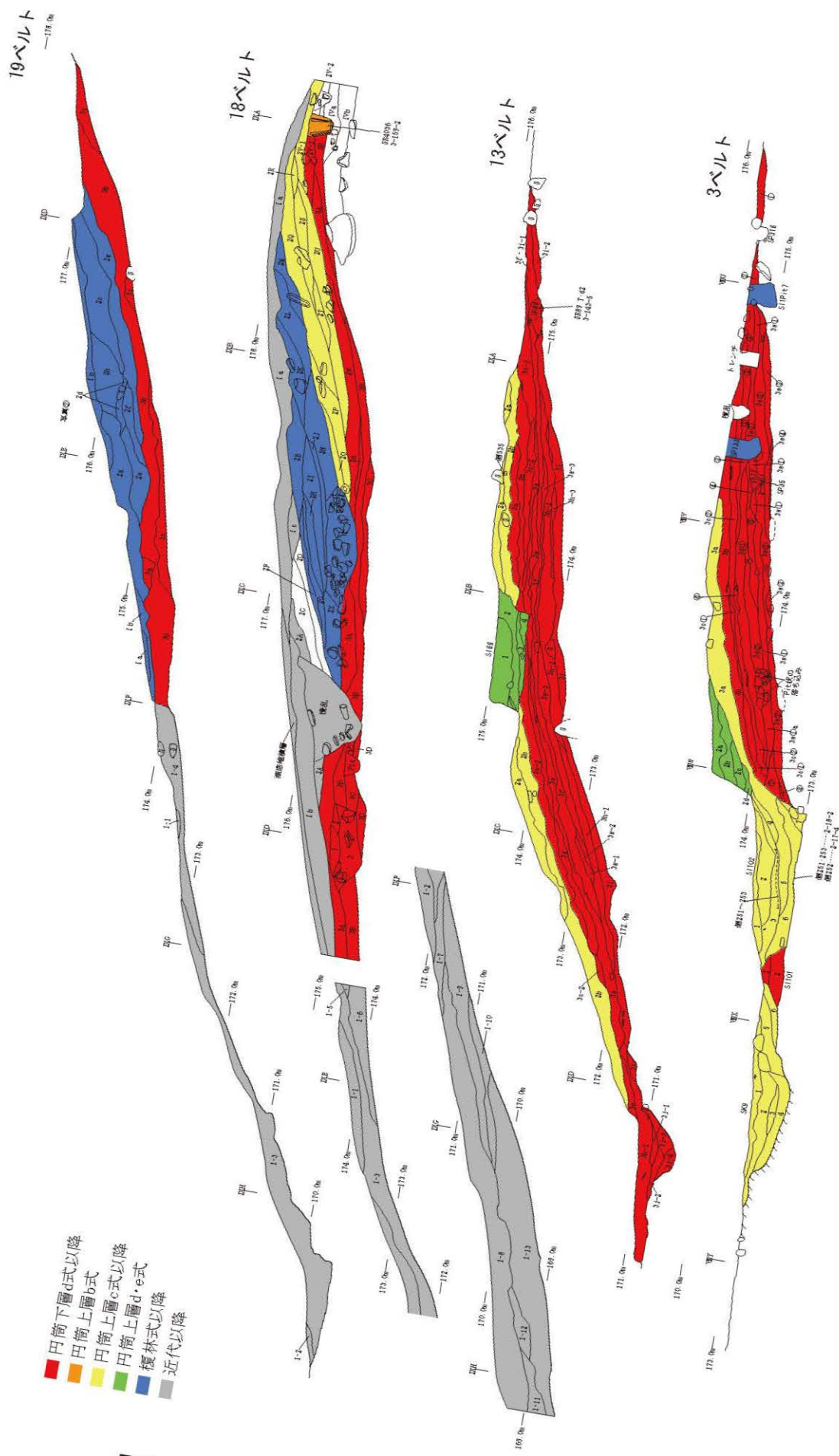


図9 捨て場堆積土と時期

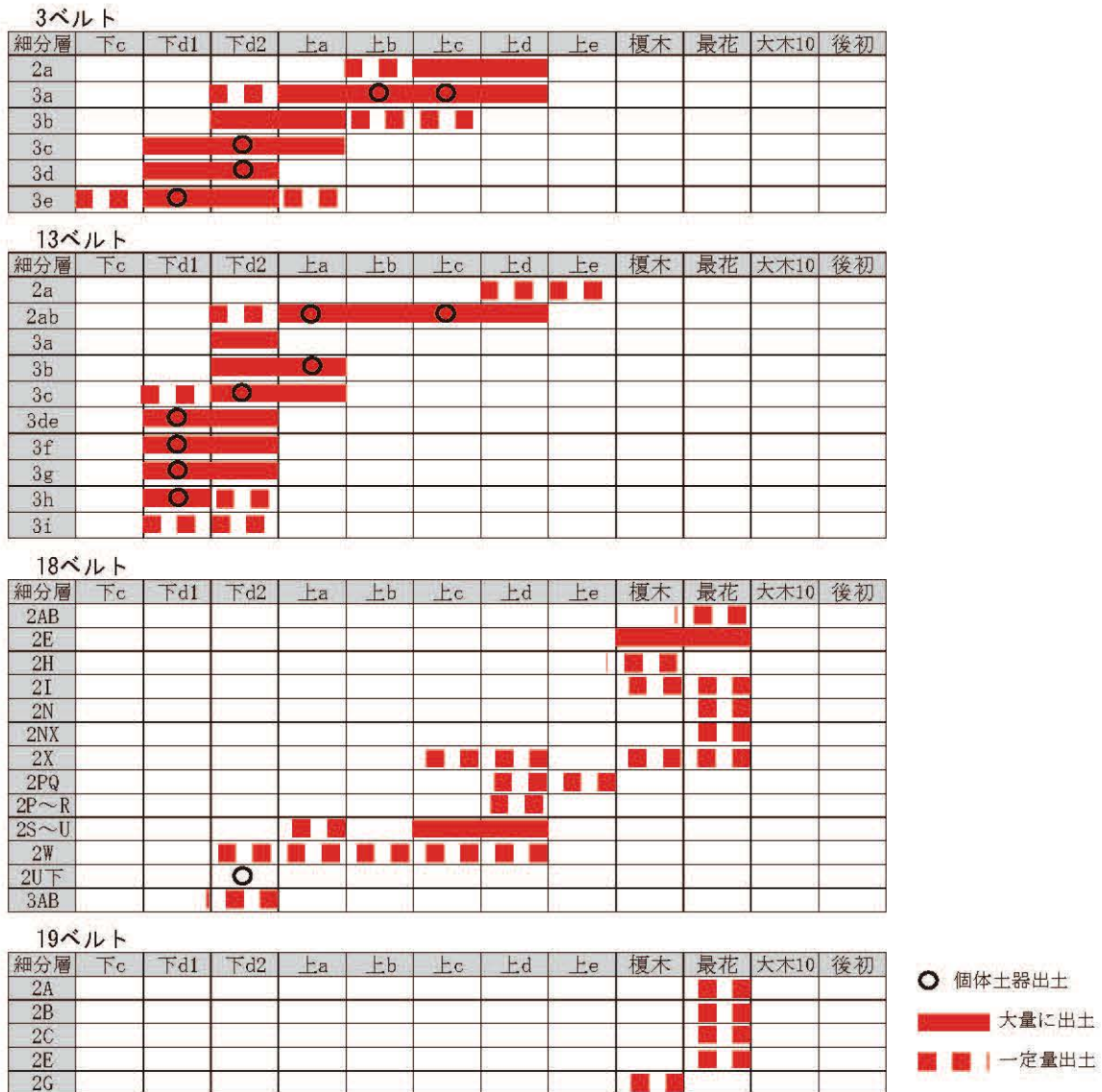


図10 捨て場ベルト別の時期概念図

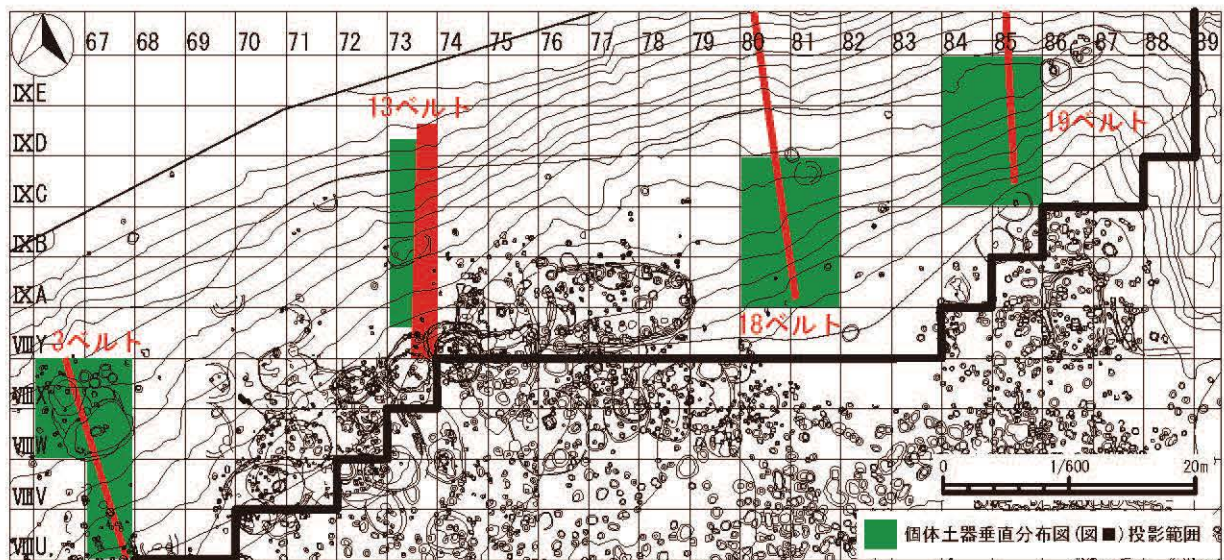


図11 個体土器垂直分布投影範囲

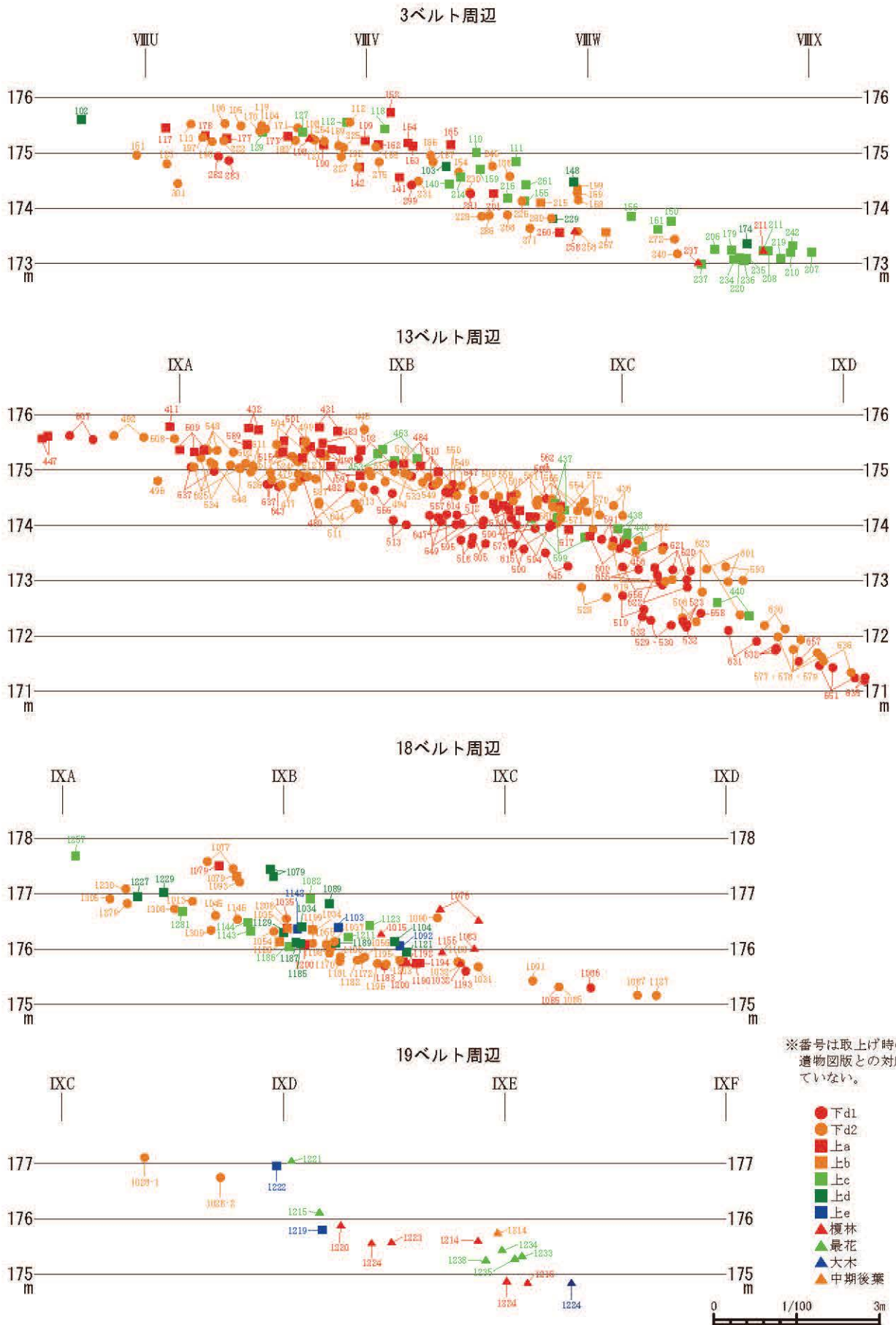


図12 ベルト別 個体土器垂直分布図

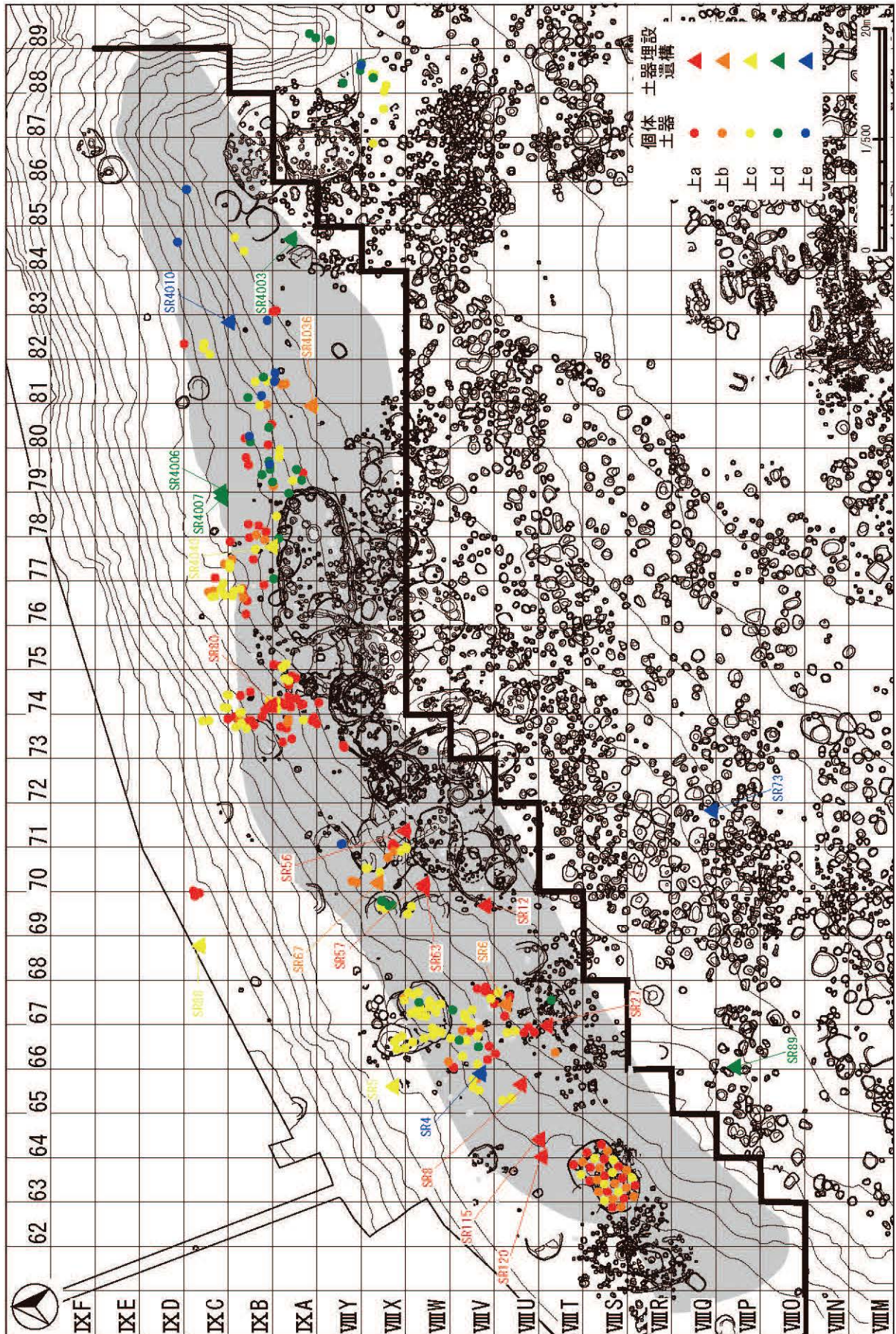


図14 個体土器と土器埋設遺構②(上層a~e式)

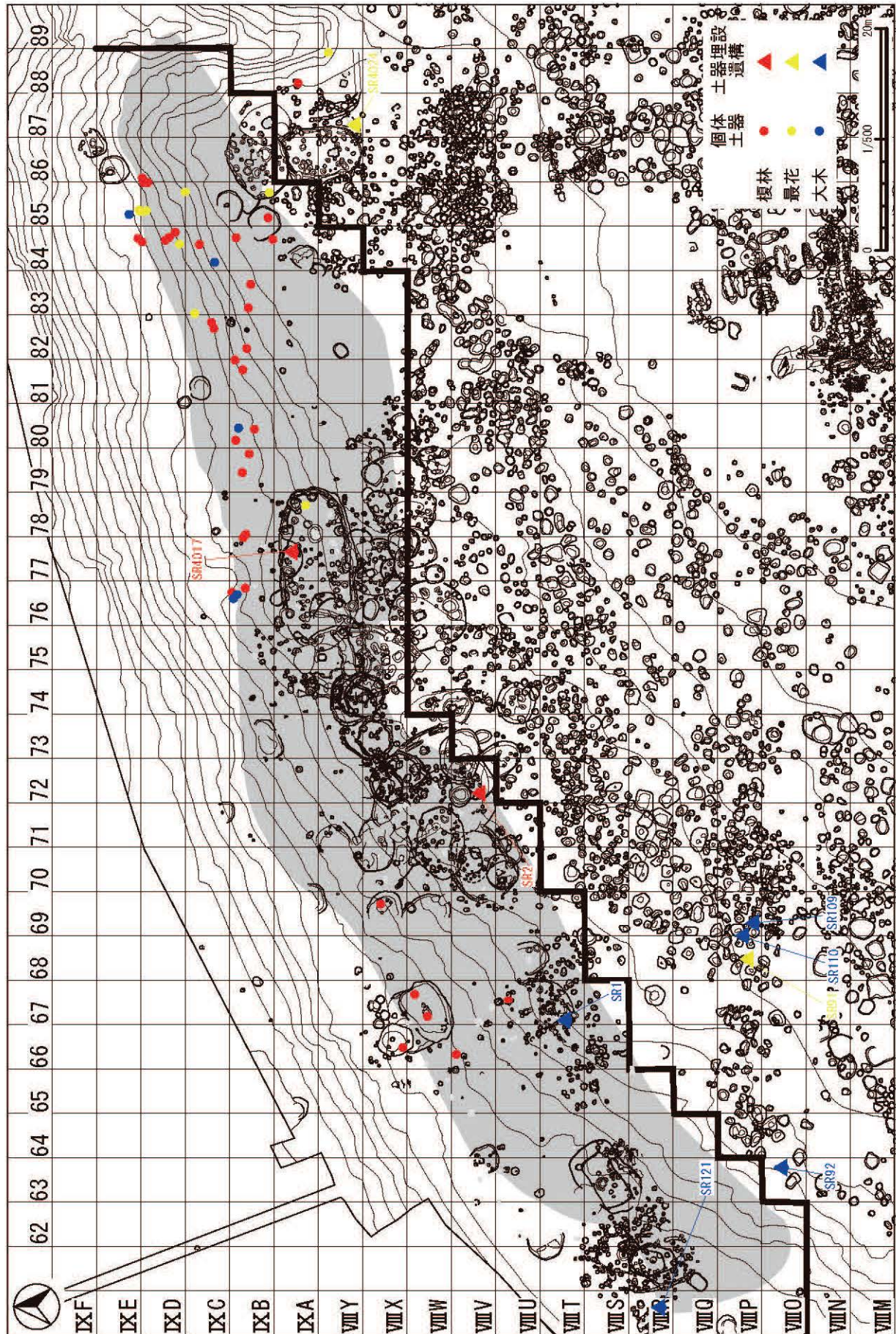


図15 個体土器と土器埋設遺構③(榎林式・最花式・大木10式並行期)

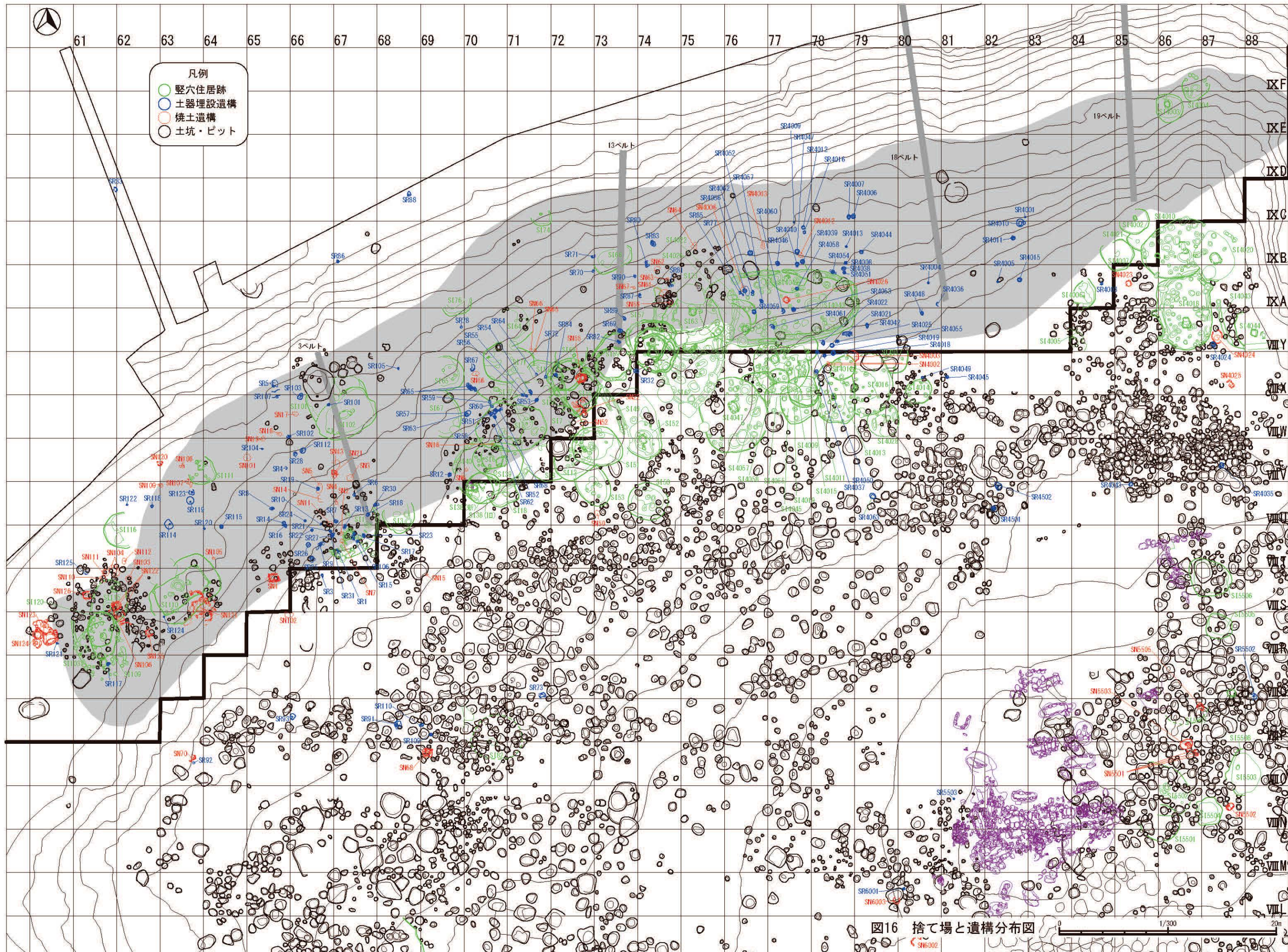
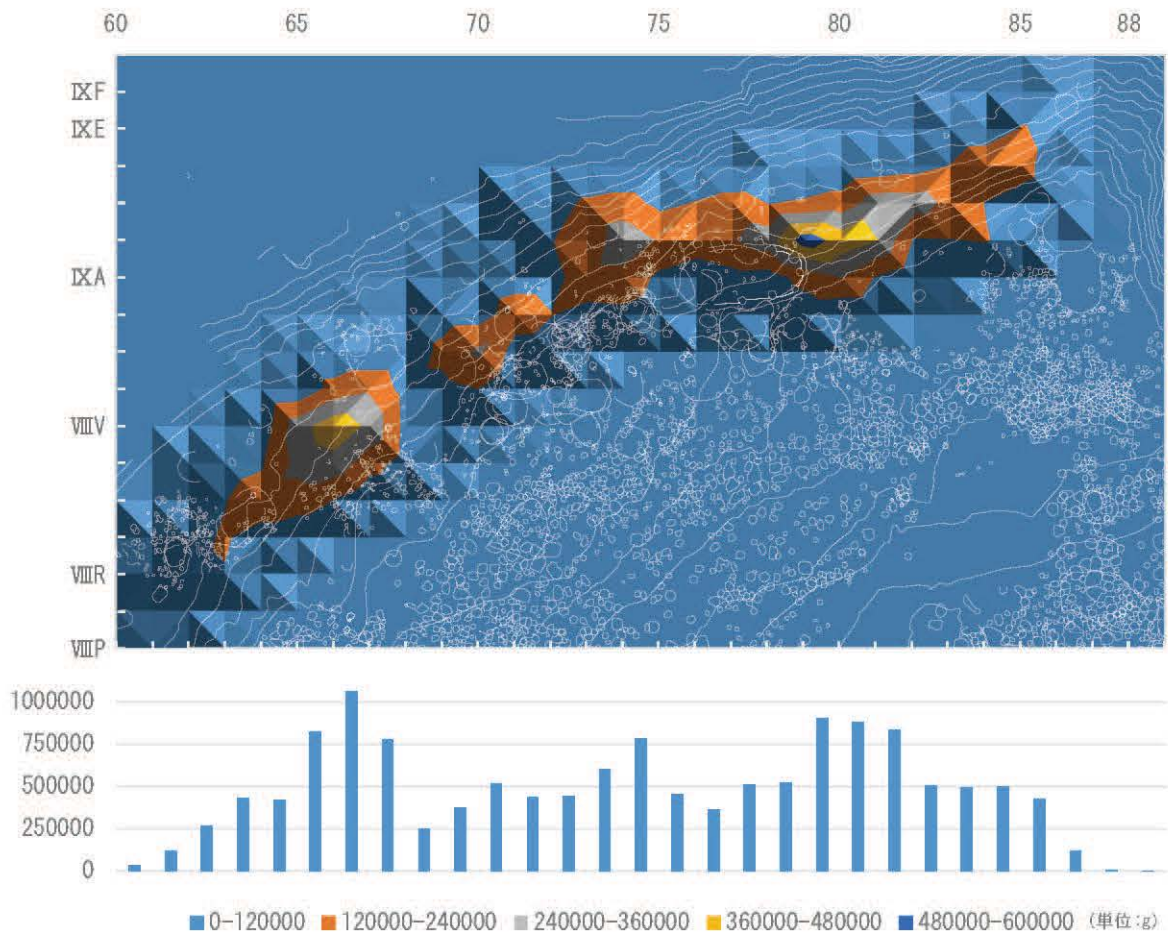


図16 捨て場と遺構分布図

1/300 20m



捨て場内土器重量分布

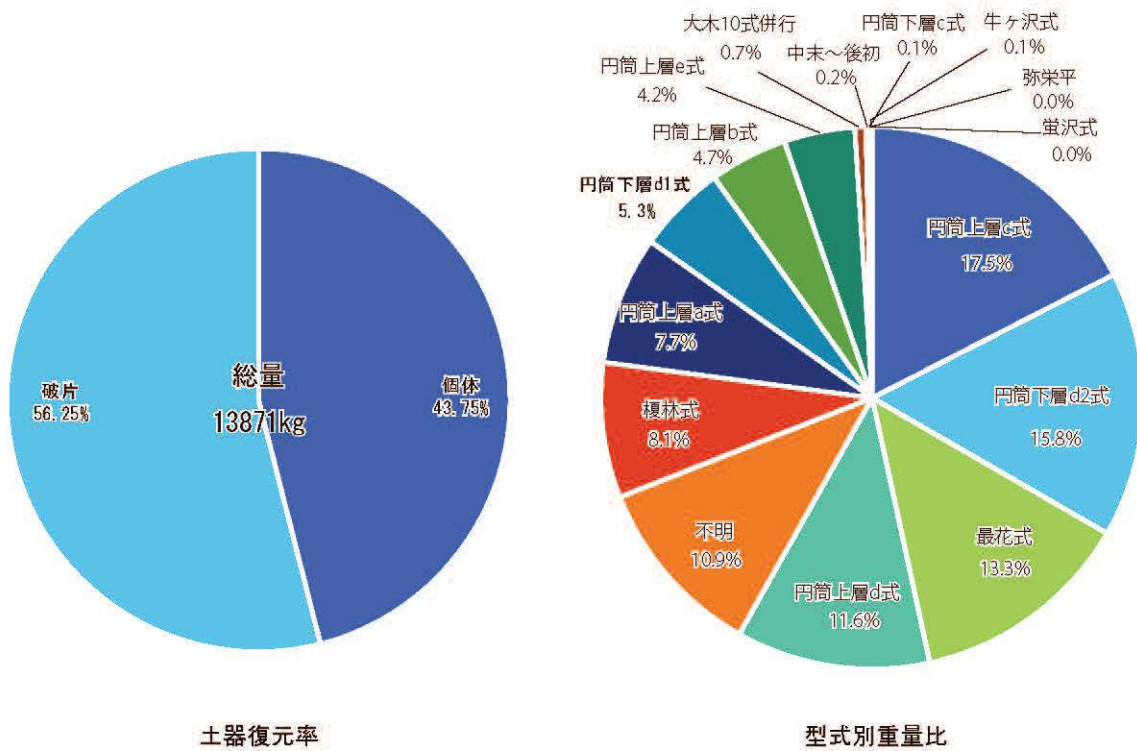


図17 捨て場出土土器の分布・内訳

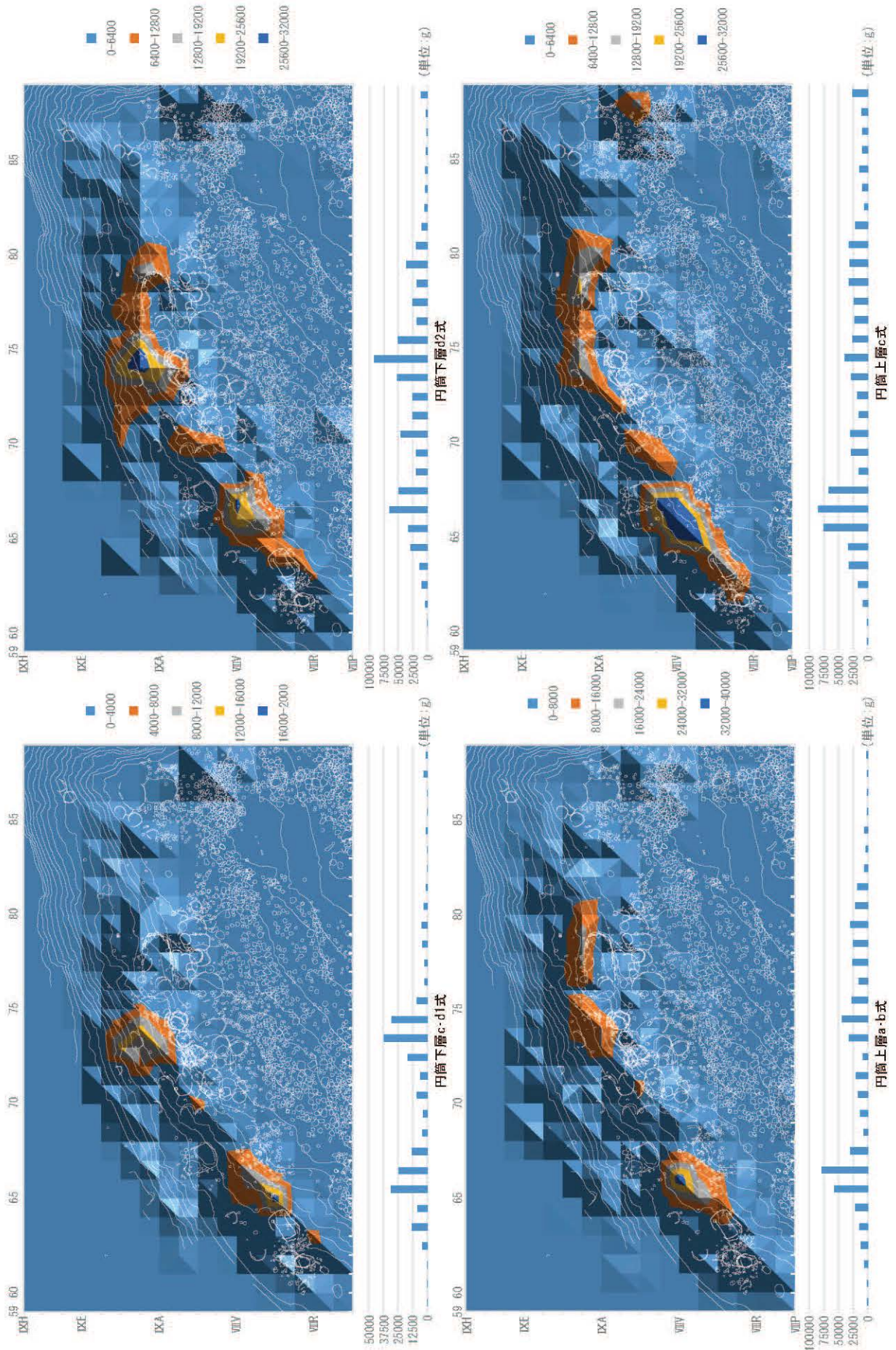


図18 捨て場出土土器重量分布(1)

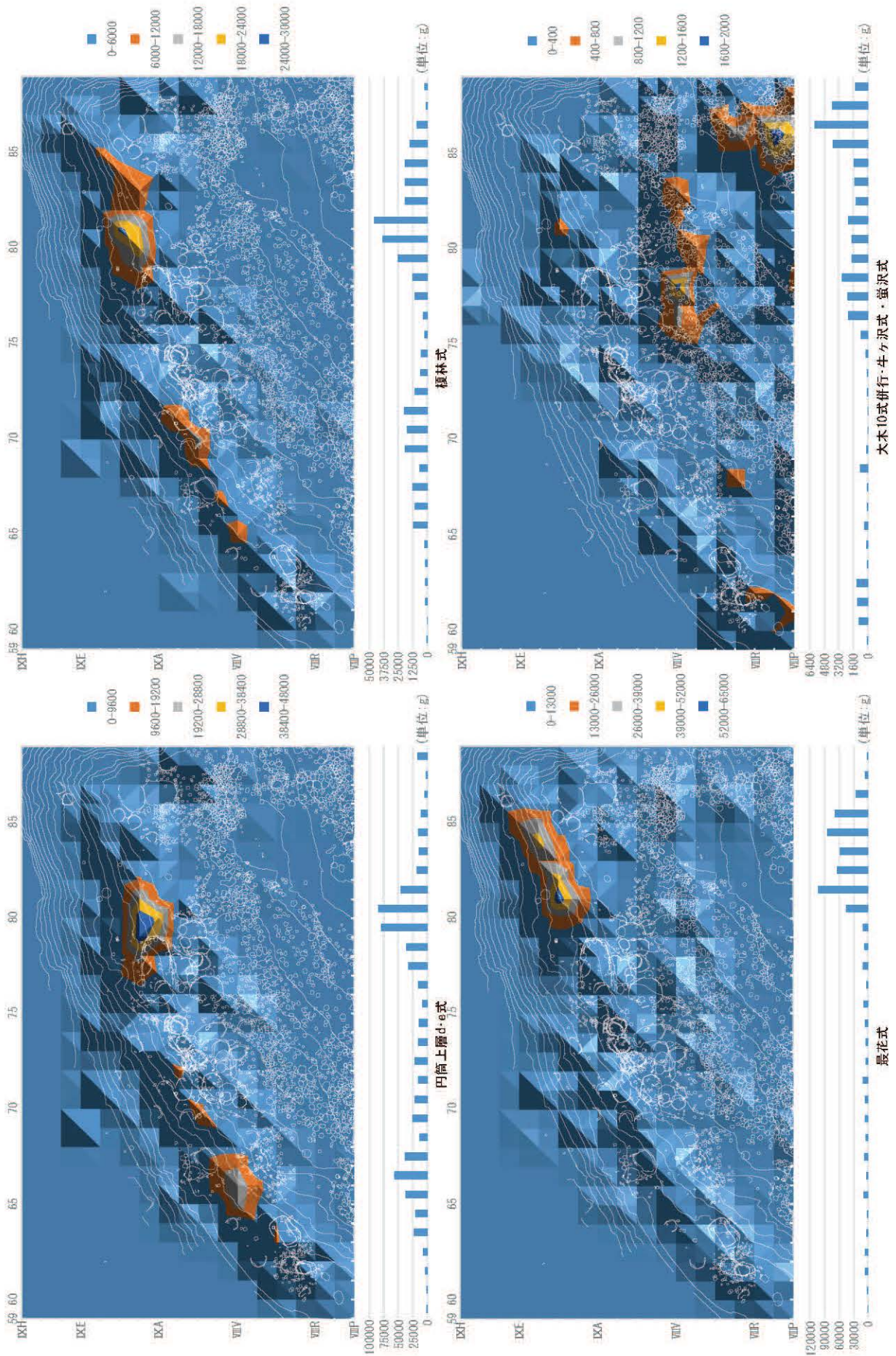
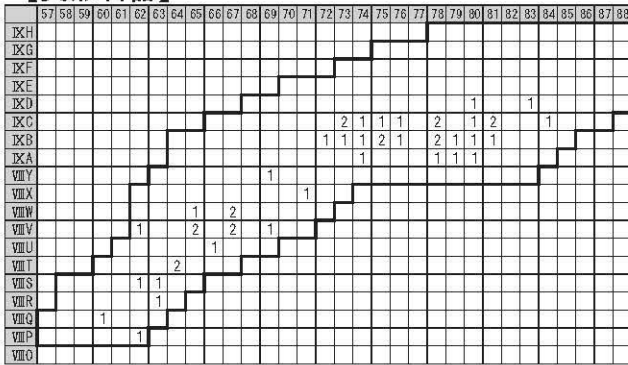
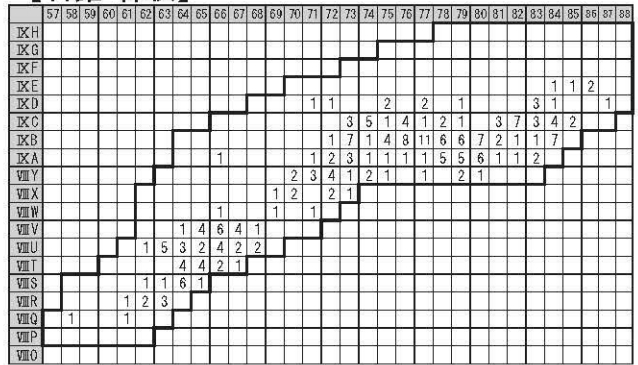


図19 捨て場出土土器重量分布(2)

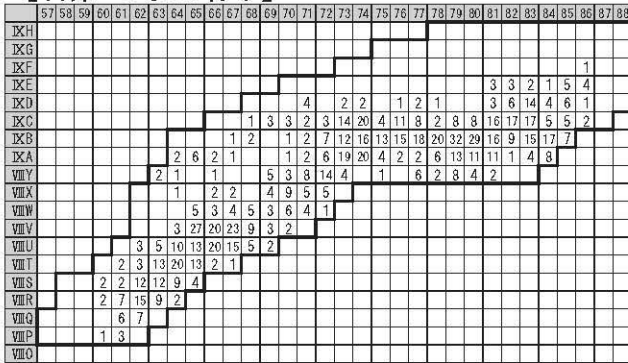
【異形石器】



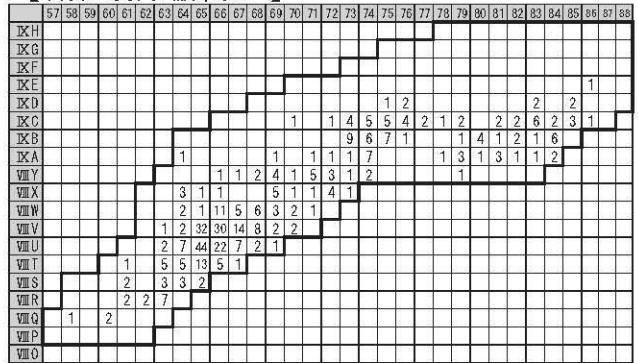
【石錐 棒状】



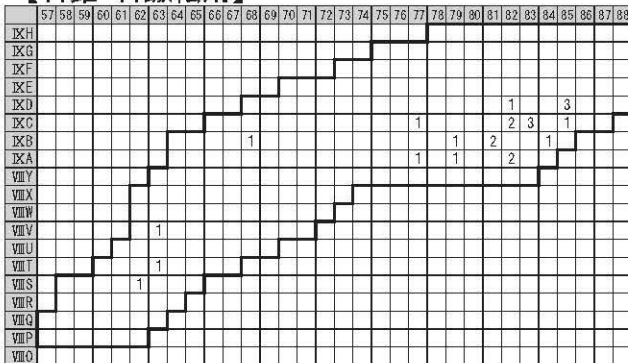
【石錐 つまみ有り】



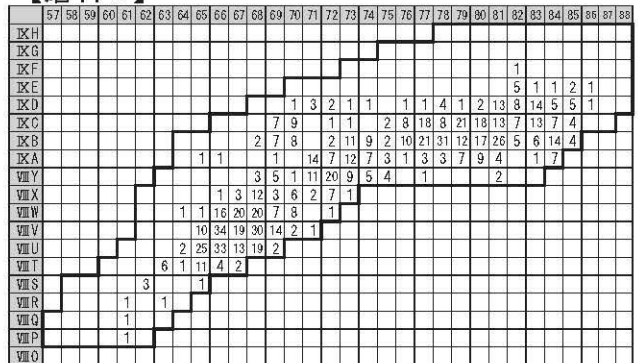
【石錐 剥片端部加工】



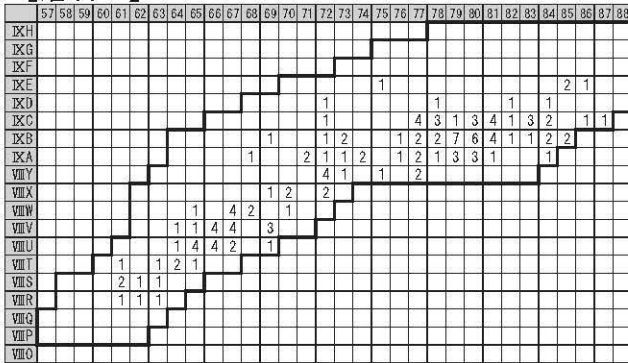
【石錐 石鏃転用】



【磨石Ⅰ】



【磨石Ⅱ】



【凹石】

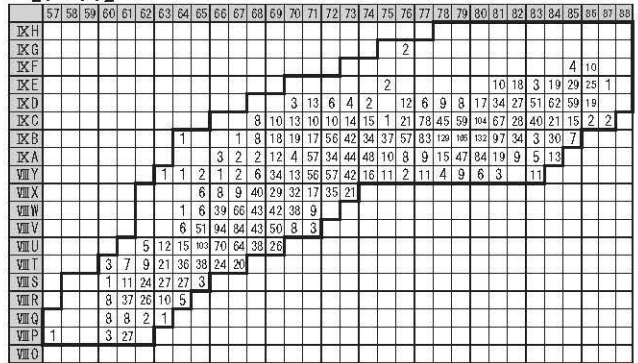
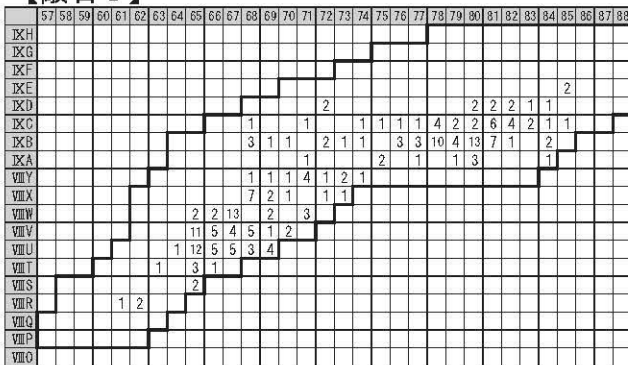
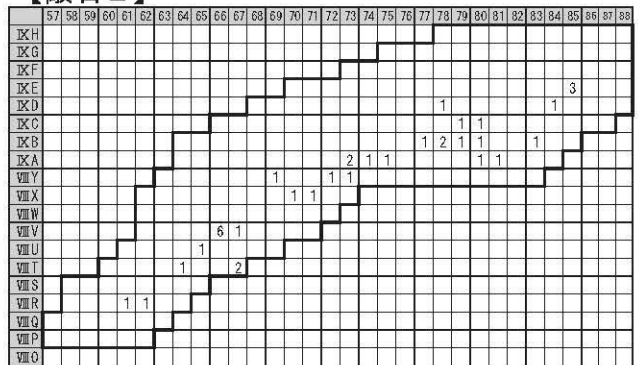


図24 出土遺物分布図4(剥片石器4・礫石器1)

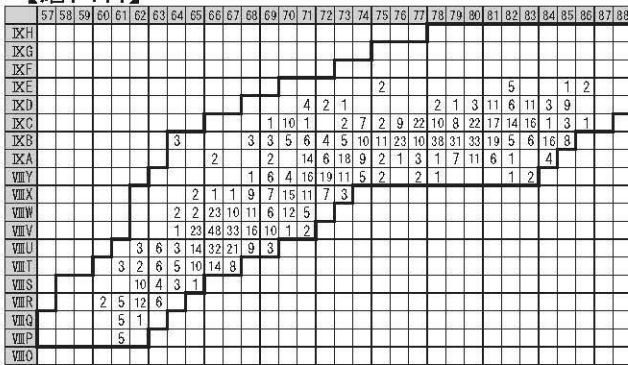
【敲石 I】



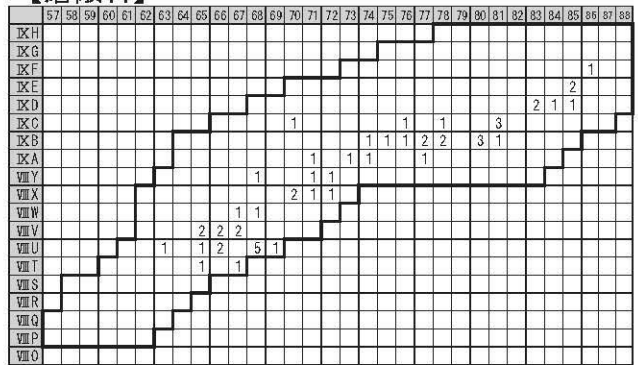
【敲石 II】



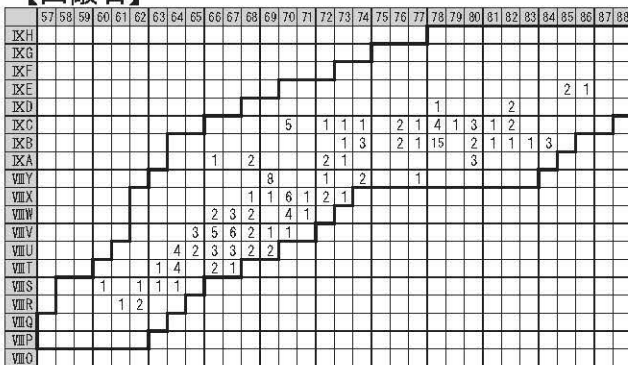
【磨凹石】



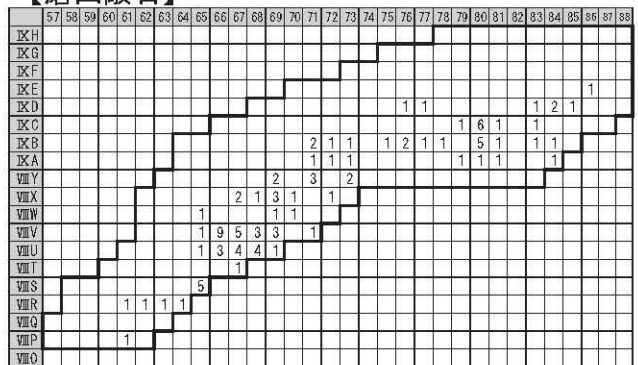
【磨敲石】



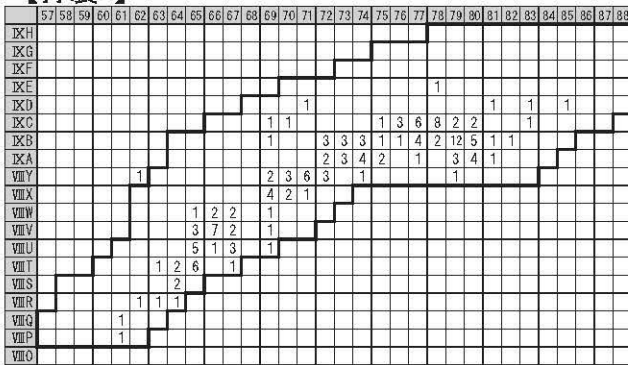
【凹敲石】



【磨凹敲石】



【打製A】



【打製B】

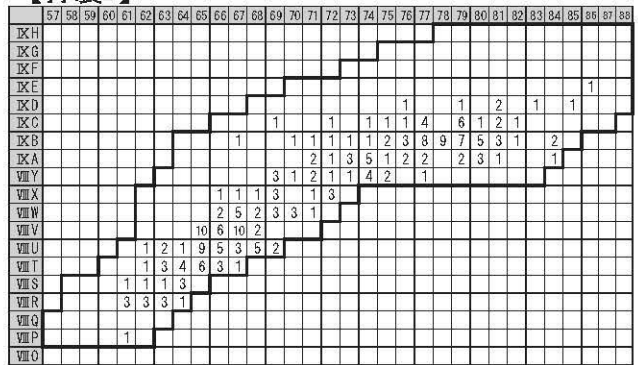
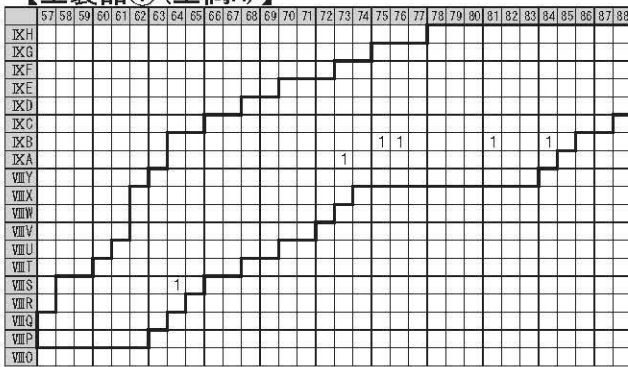
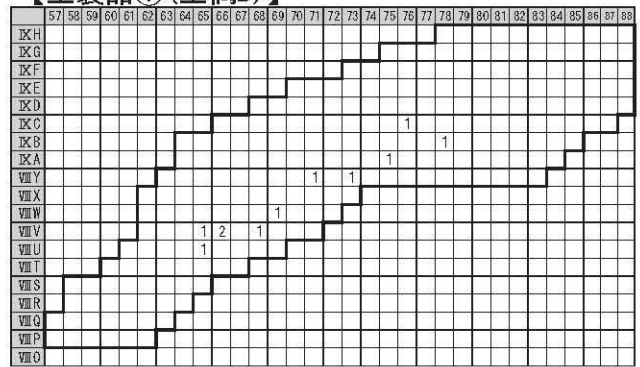


図25 出土遺物分布図5(礫石器2)

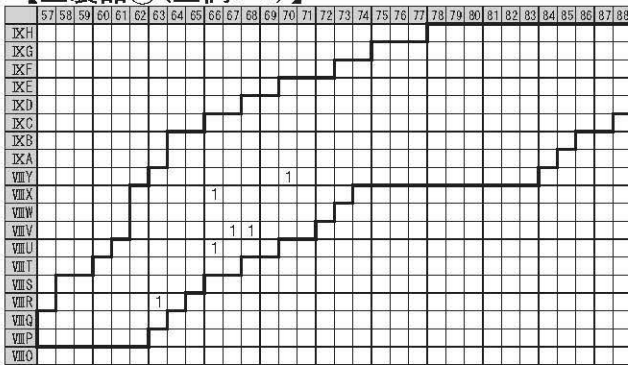
【土製品①(土偶A)】



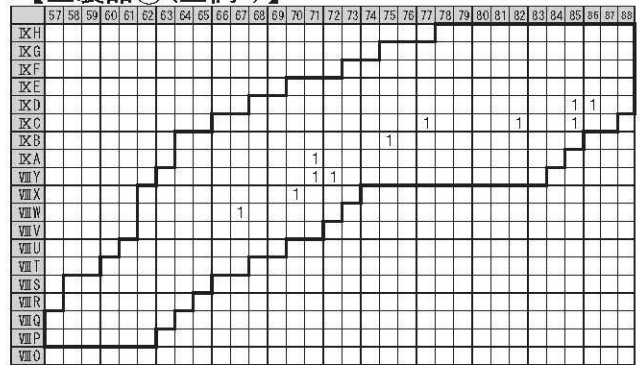
【土製品①(土偶B)】



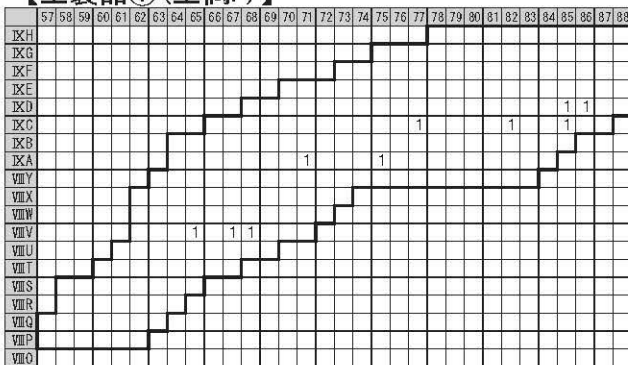
【土製品①(土偶C・D)】



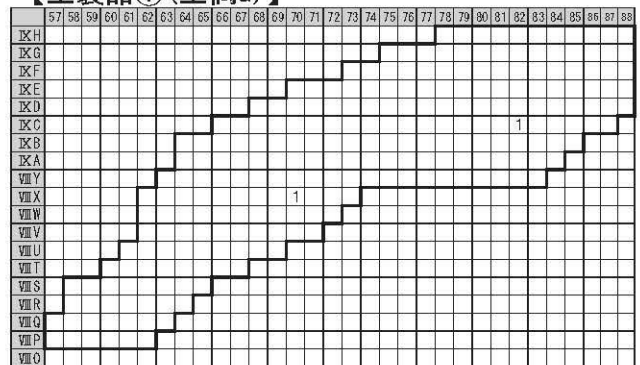
【土製品①(土偶E)】



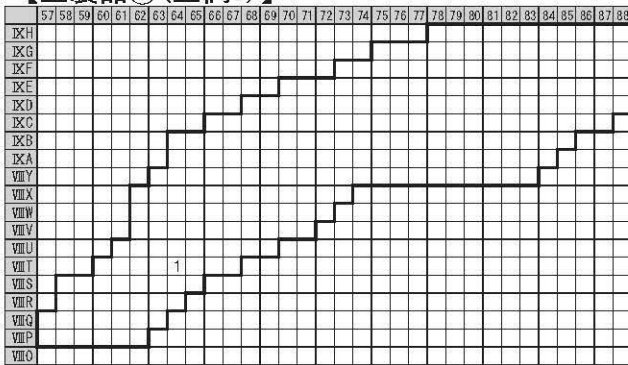
【土製品①(土偶F)】



【土製品①(土偶G)】



【土製品①(土偶J)】



【土製品②(ミニチュア土器)】

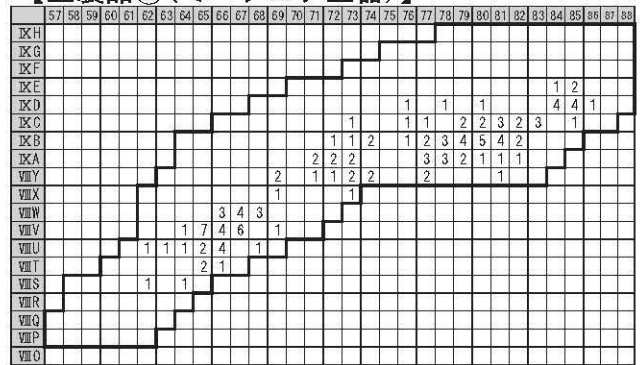


図27 出土遺物分布図7(土製品1)

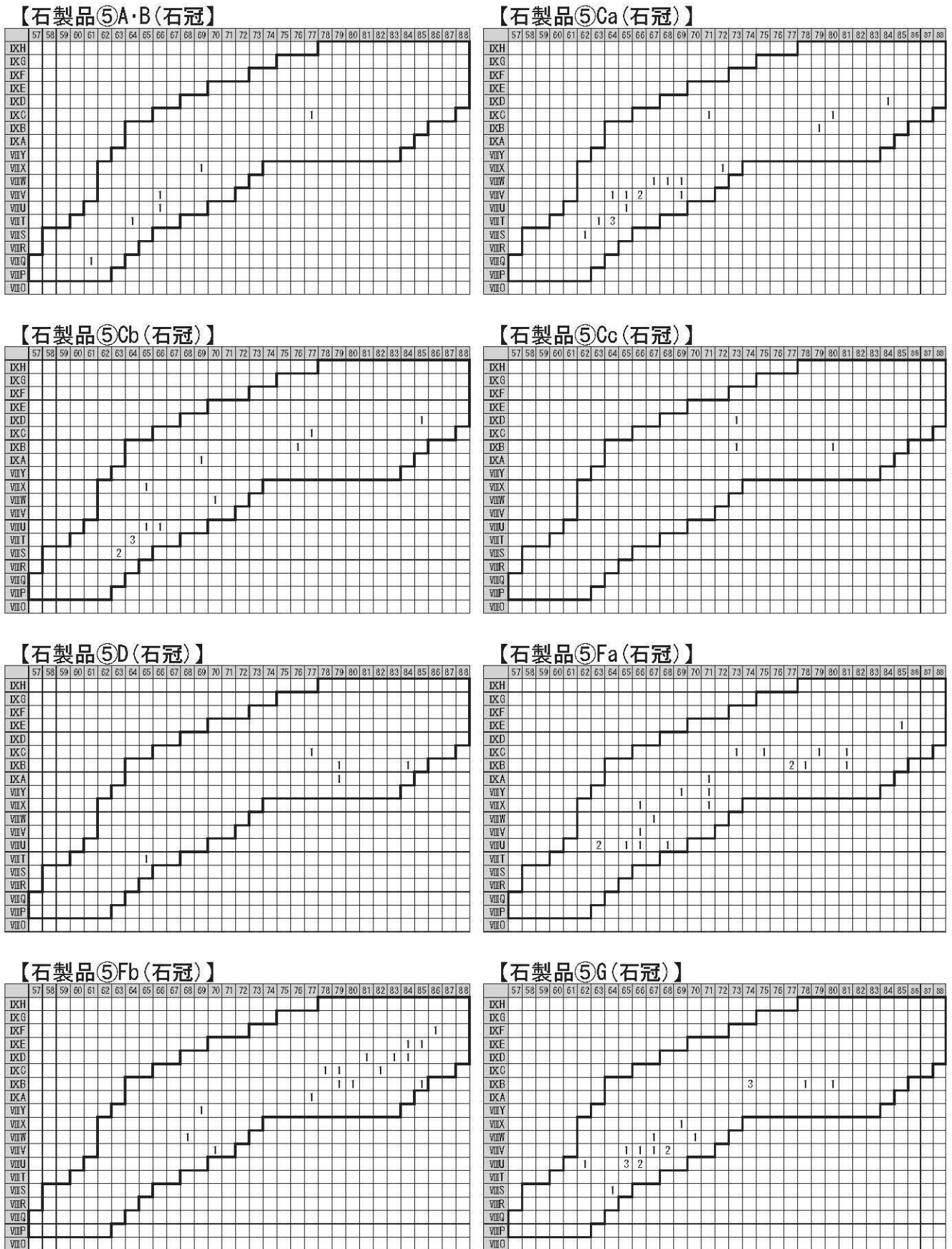
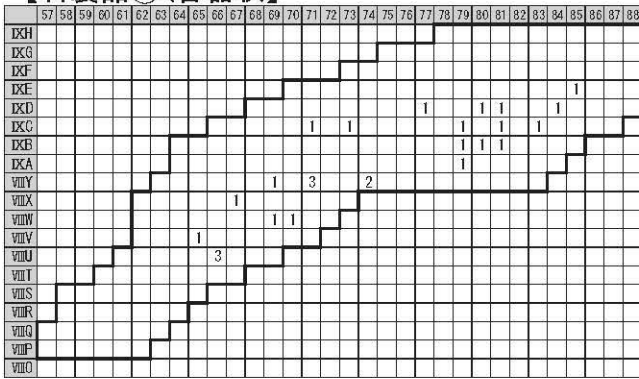
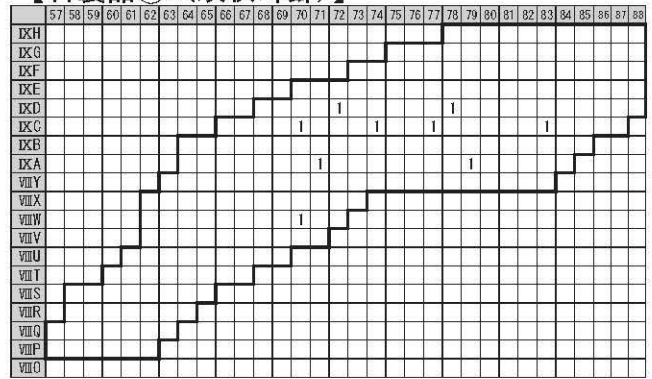


図30 出土遺物分布図10(石製品3)

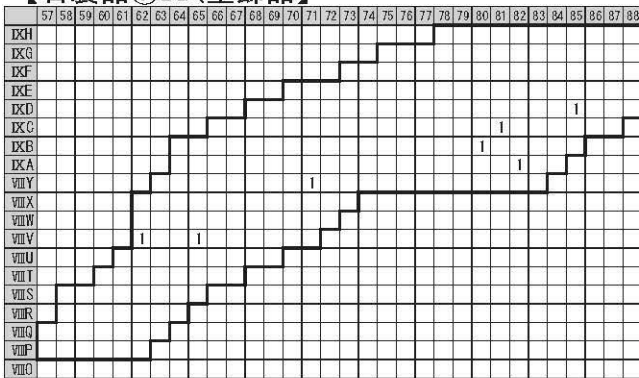
【石製品⑥(容器状)】



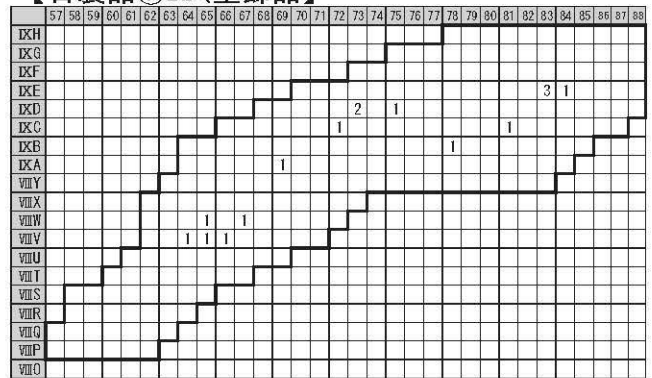
【石製品⑦A(玦状耳飾)】



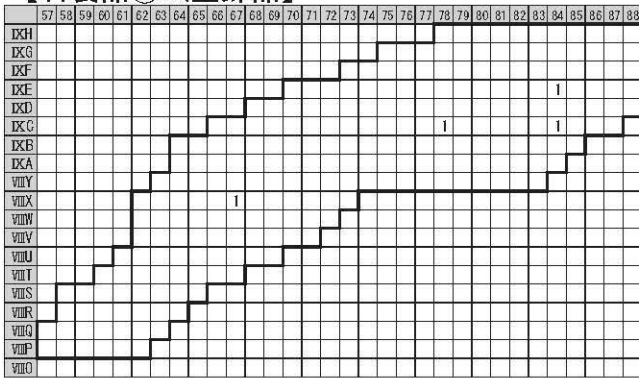
【石製品⑦Ba(垂飾品)】



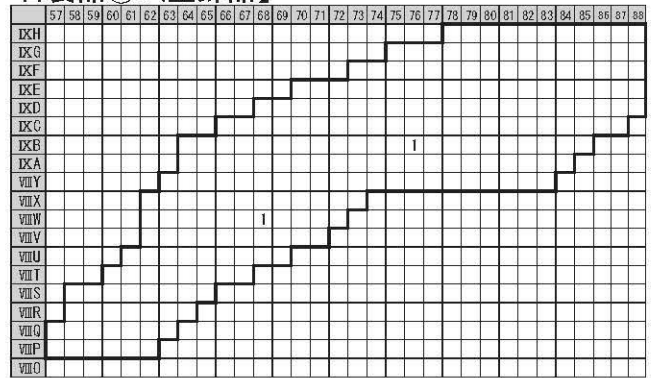
【石製品⑦Bb(垂飾品)】



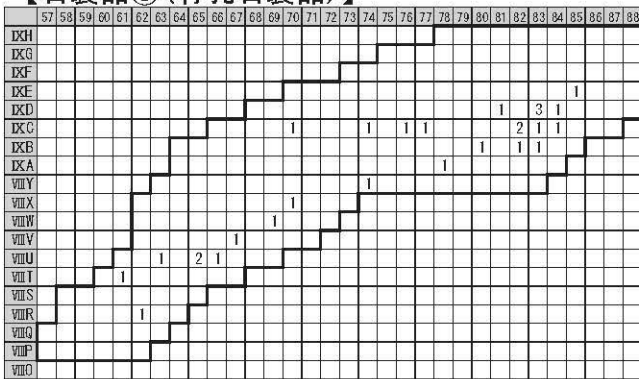
【石製品⑦C(垂飾品)】



石製品⑦D(垂飾品)】



【石製品⑧(有孔石製品)】



【石製品⑨(環状石製品)】

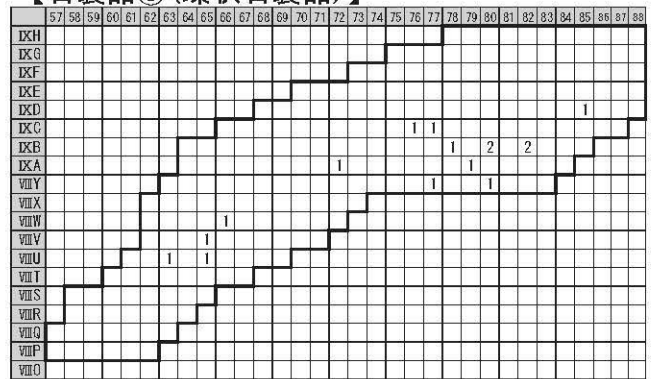


図31 出土遺物分布図11(石製品4)

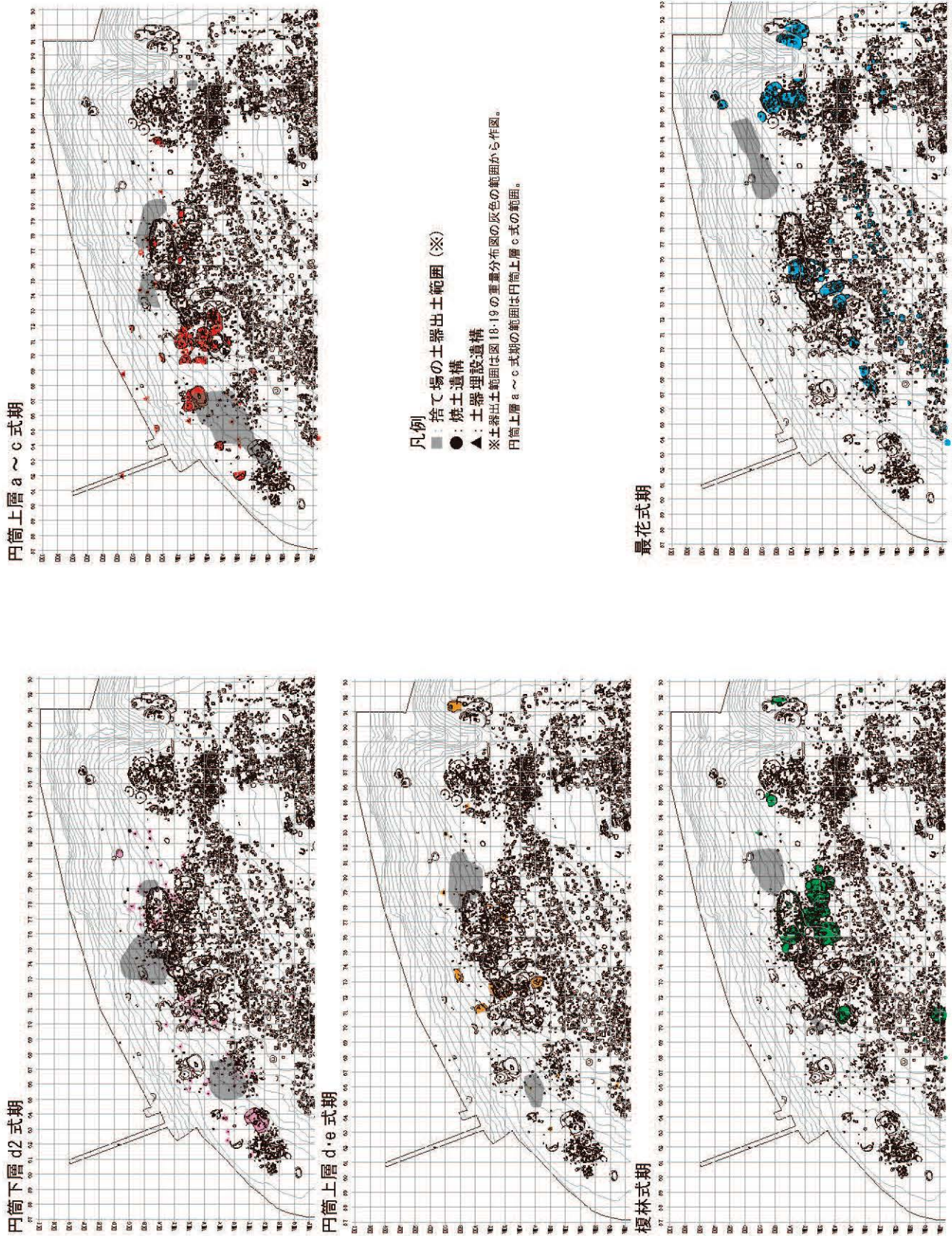


図 32 捨て場内遺構・土器分布変遷図

2a・b層

3a層

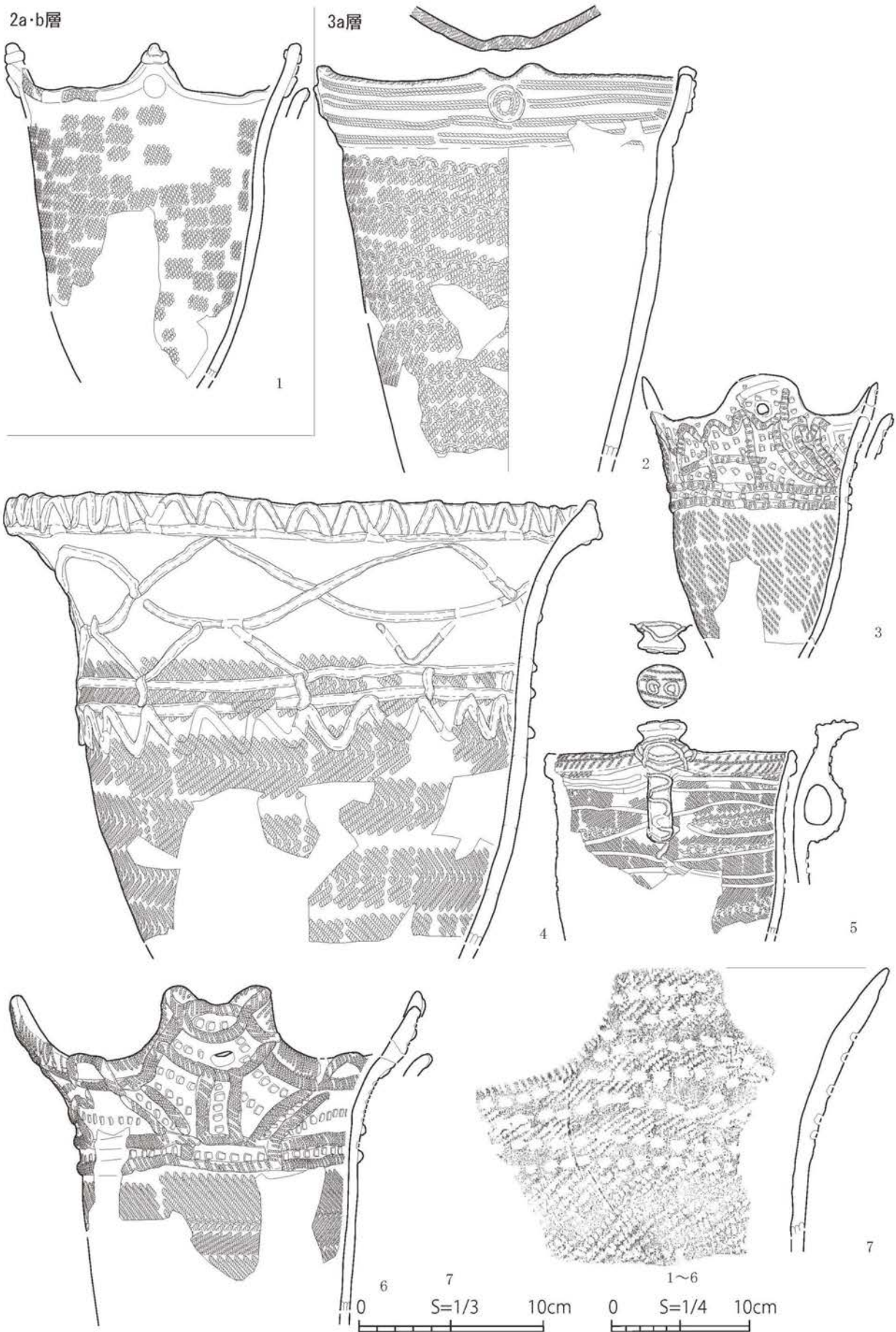


図33 土器1(捨て場細分層)

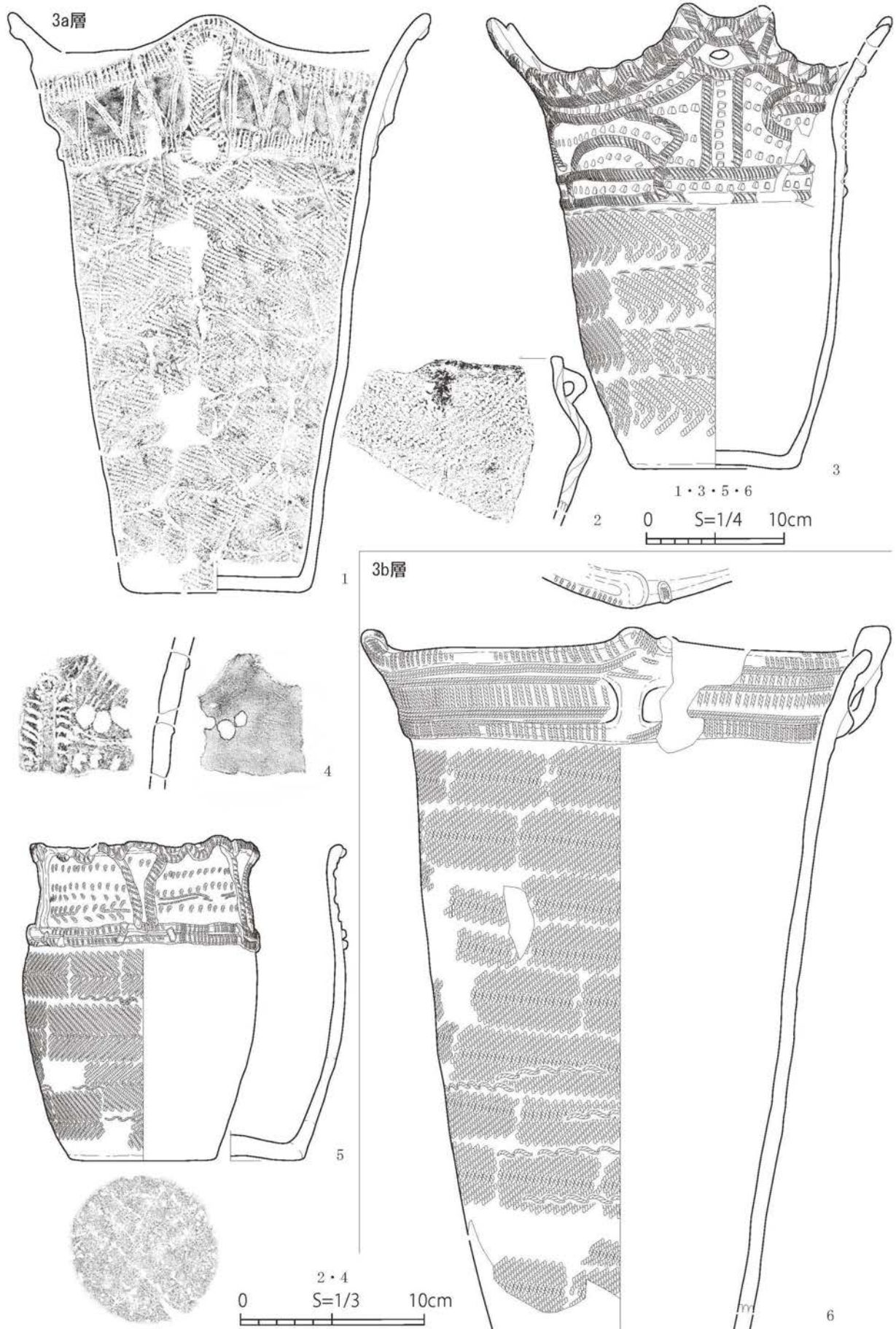


図34 土器2(捨て場細分層)

3b層

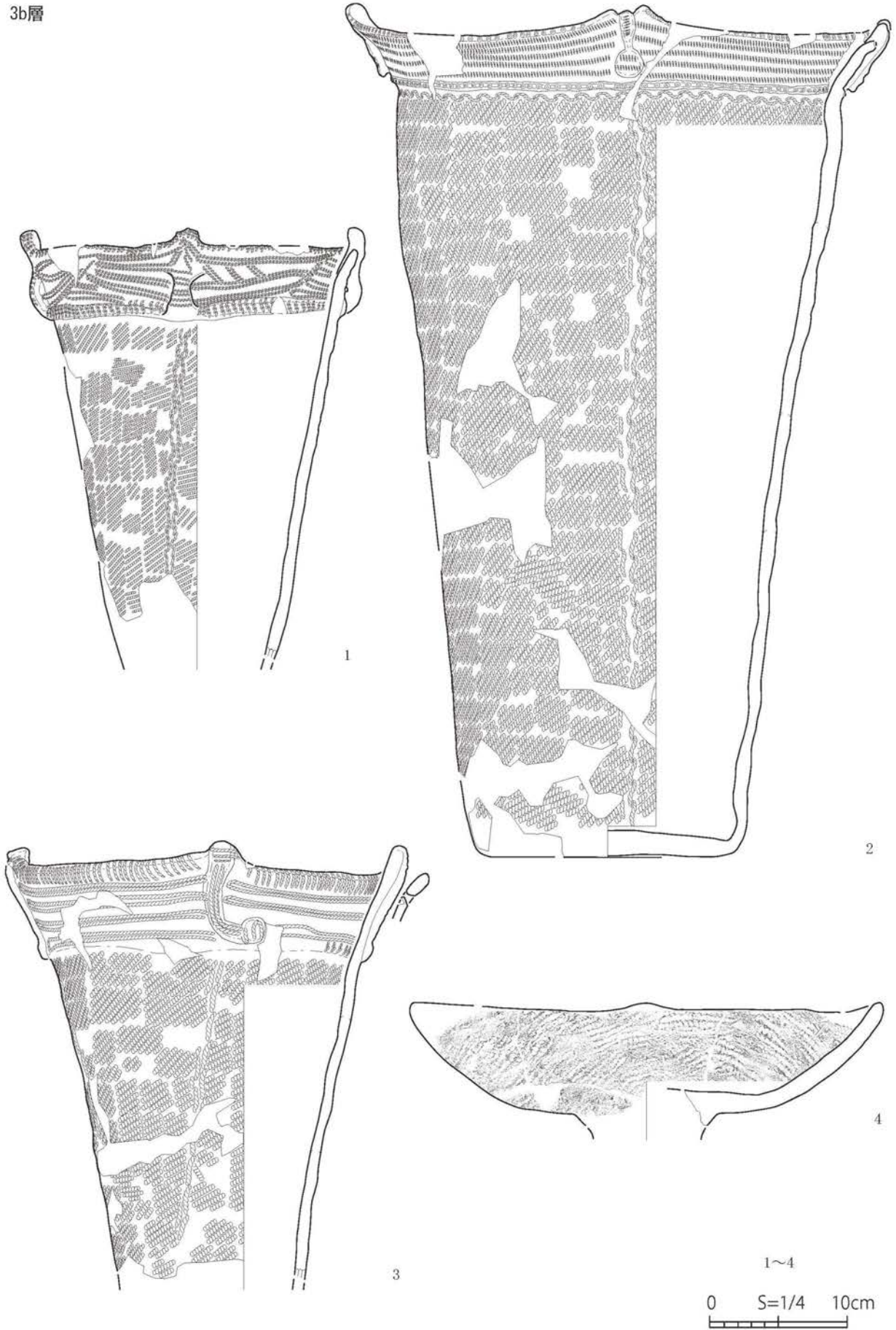
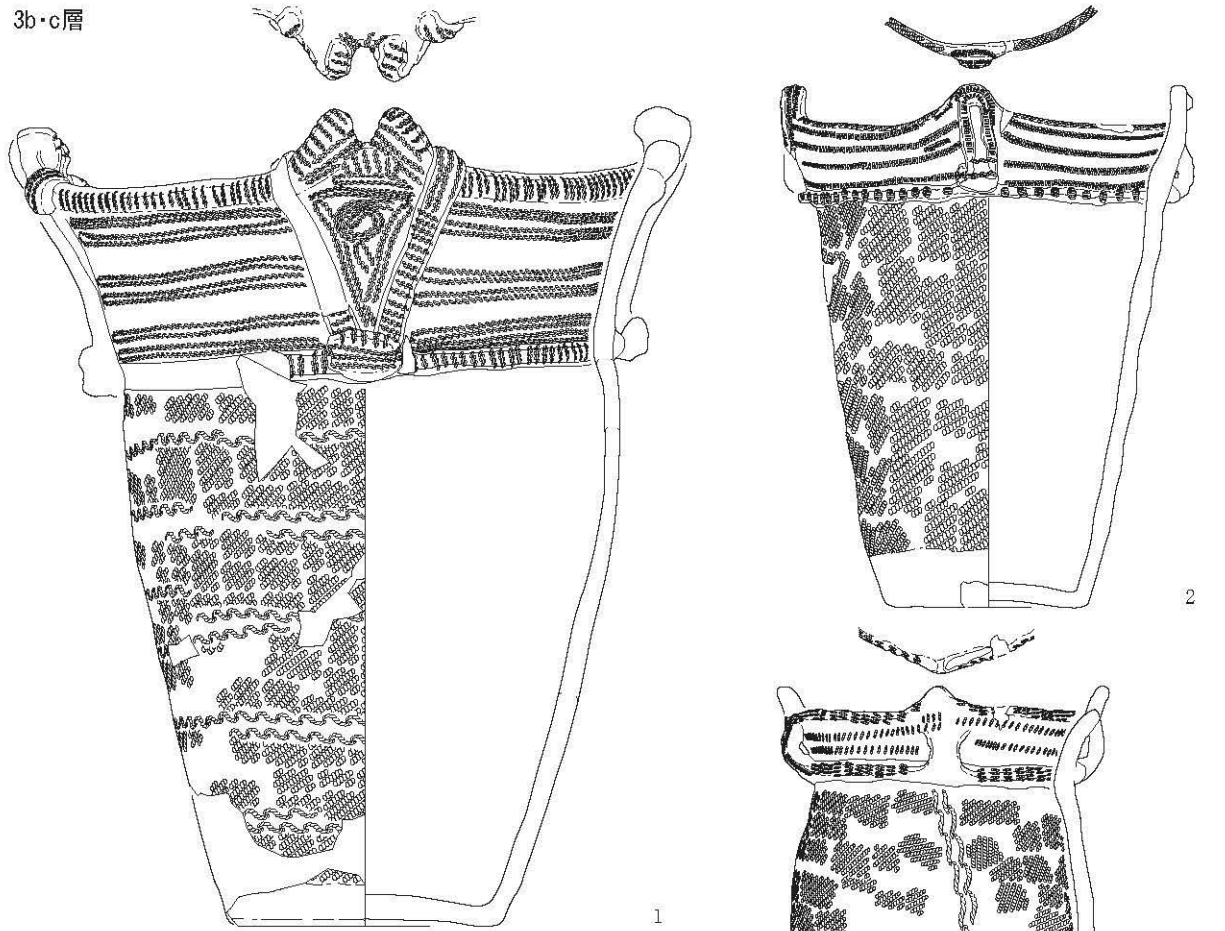


図35 土器3(捨て場細分層)

3b・c層



3c層

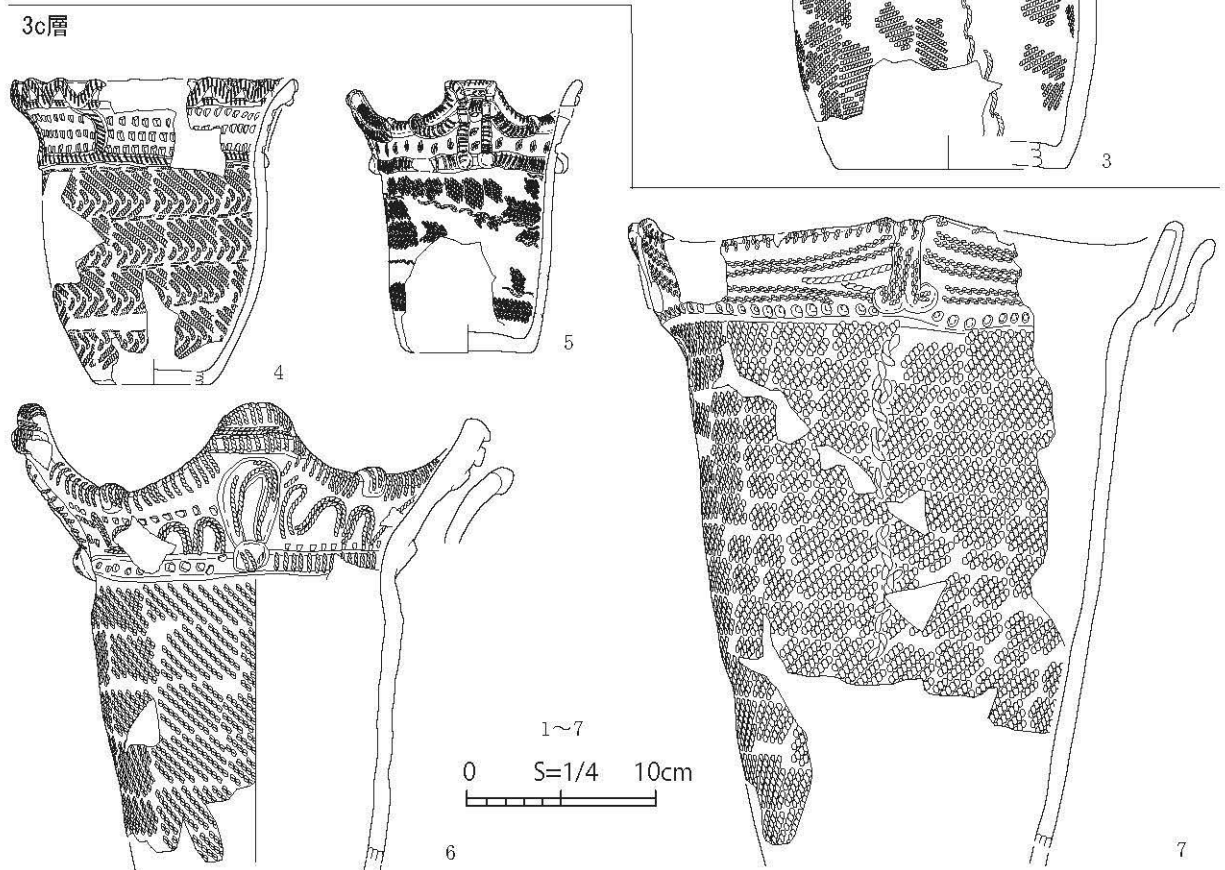
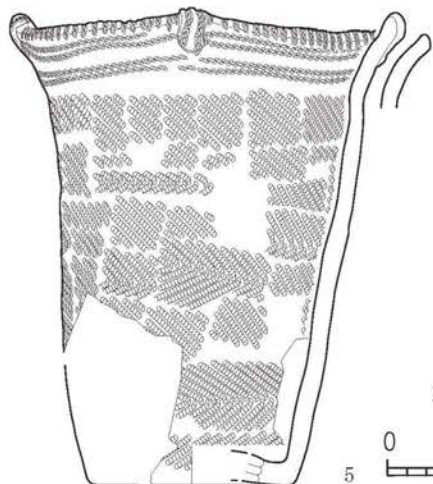
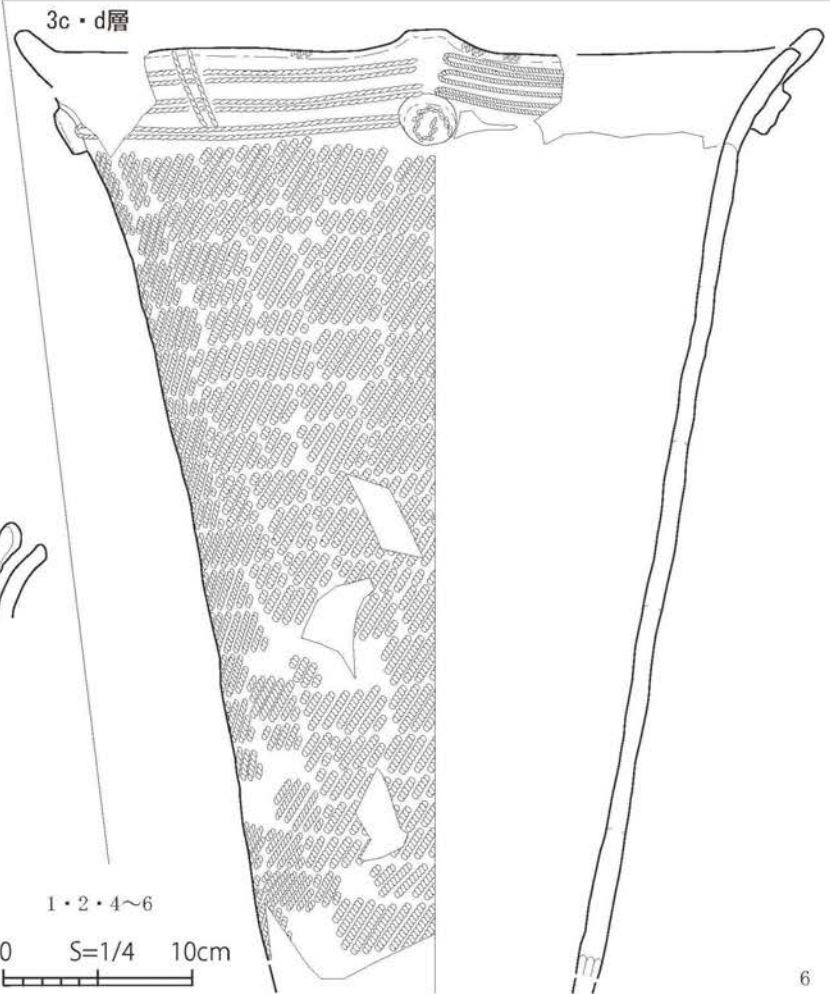
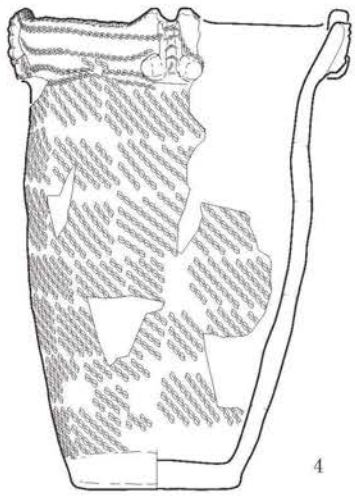
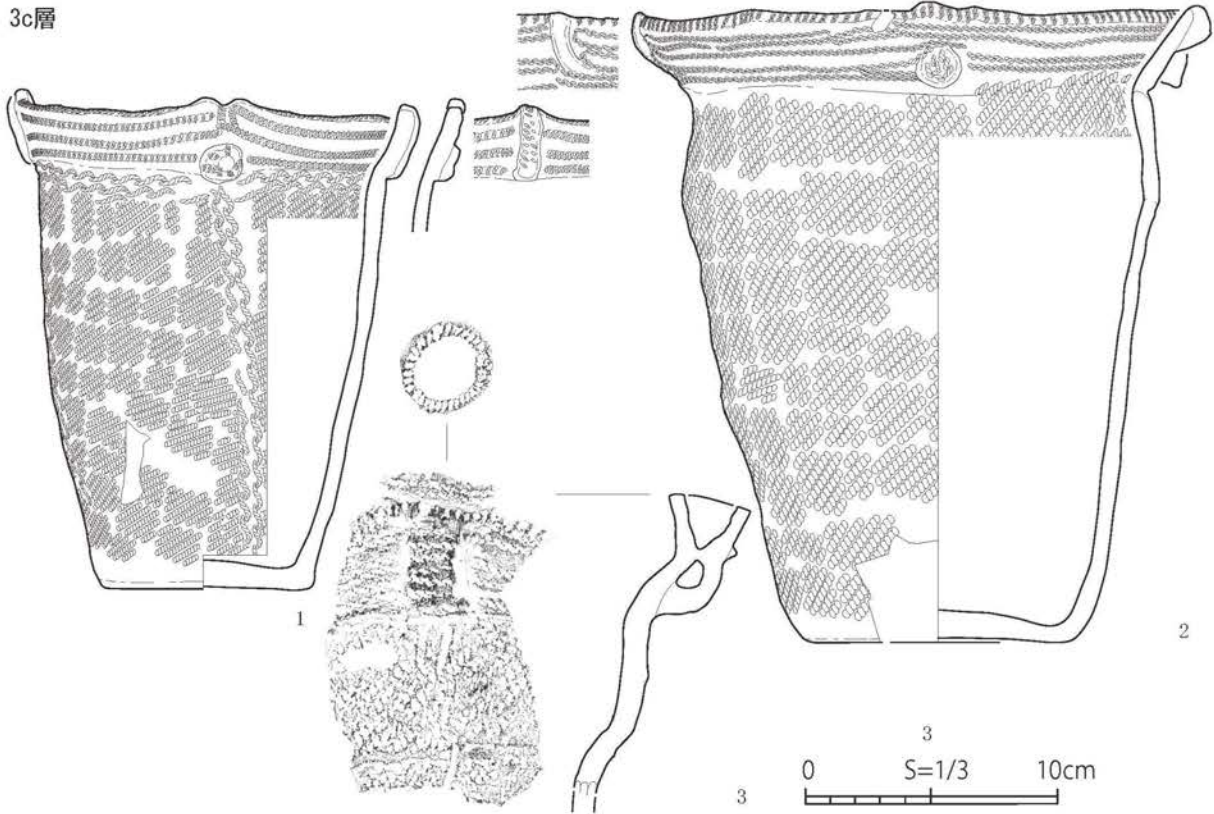


図36 土器4(捨て場細分層)

3c層



1・2・4~6

0 S=1/4 10cm

図37 土器5(捨て場細分層)

3c・d層

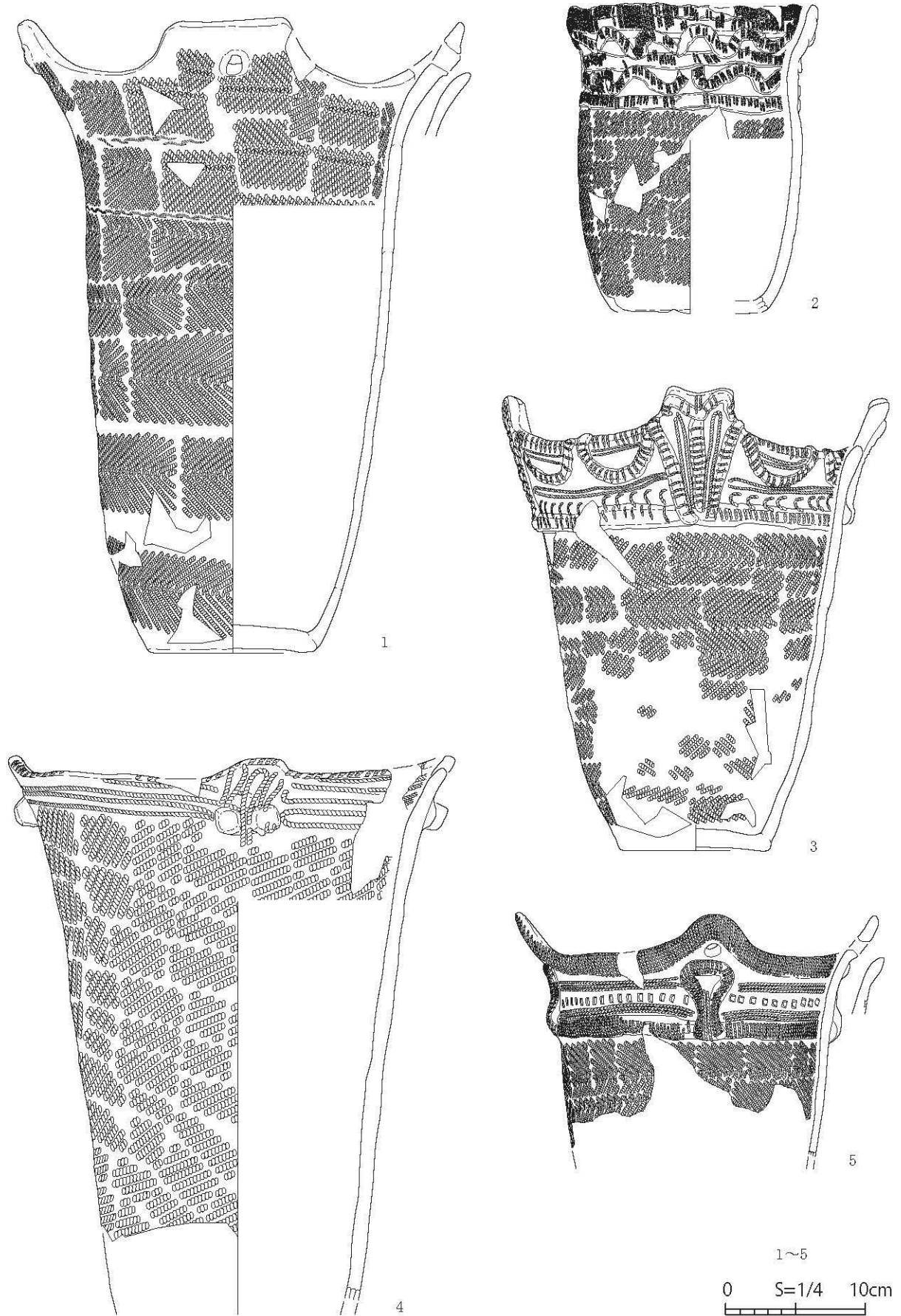


図38 土器6(捨て場細分層)

3c・d層



図39 土器7(捨て場細分層)

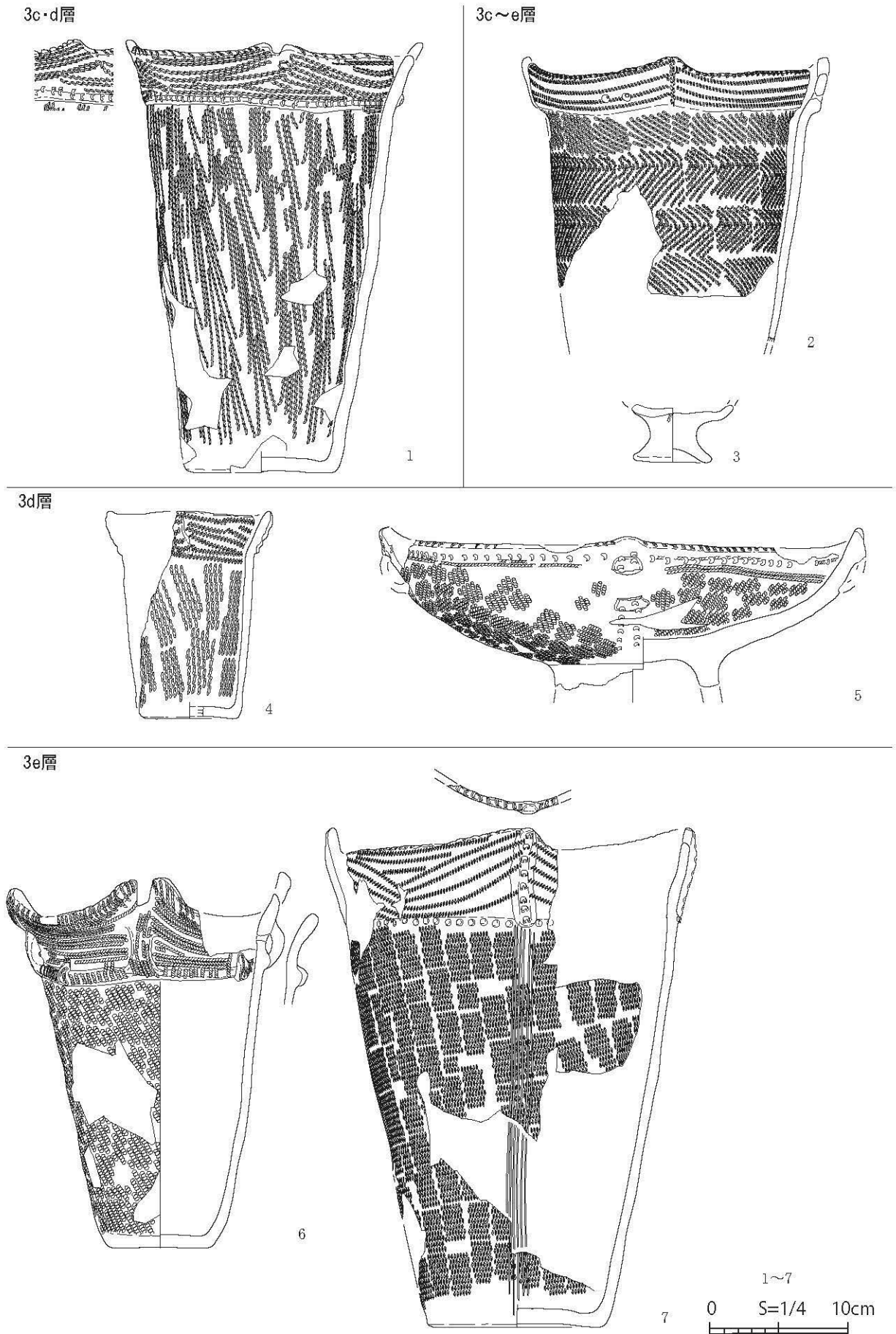


図40 土器8(捨て場細分層)

3e層

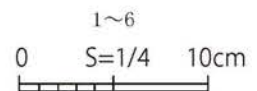
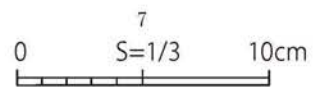
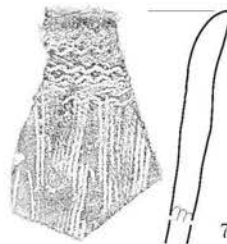
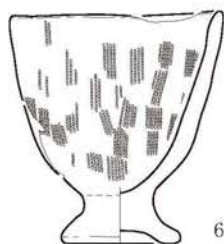
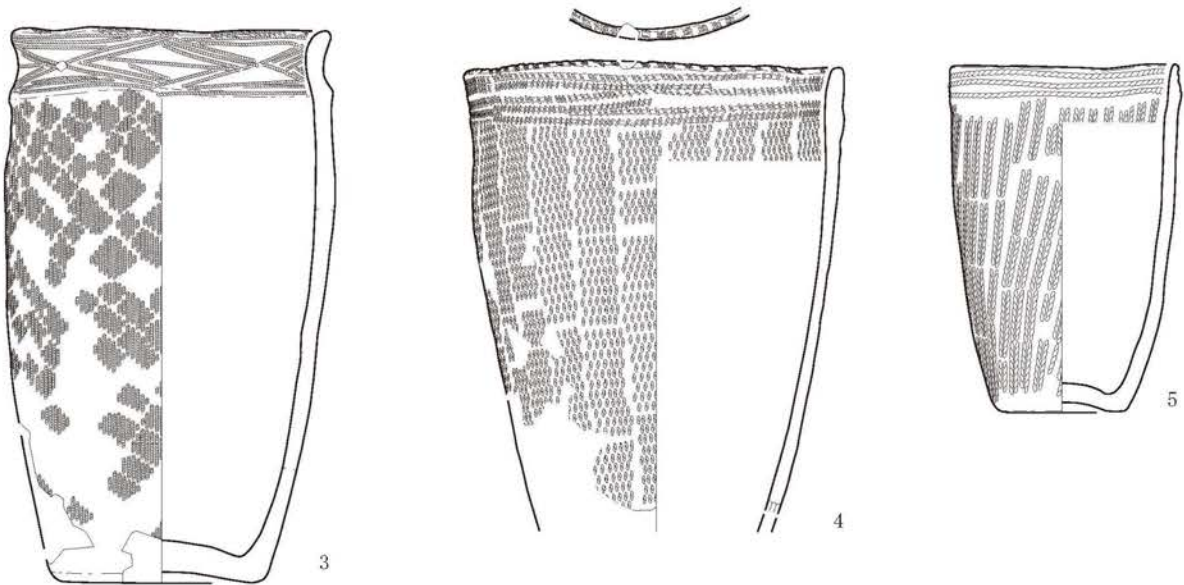
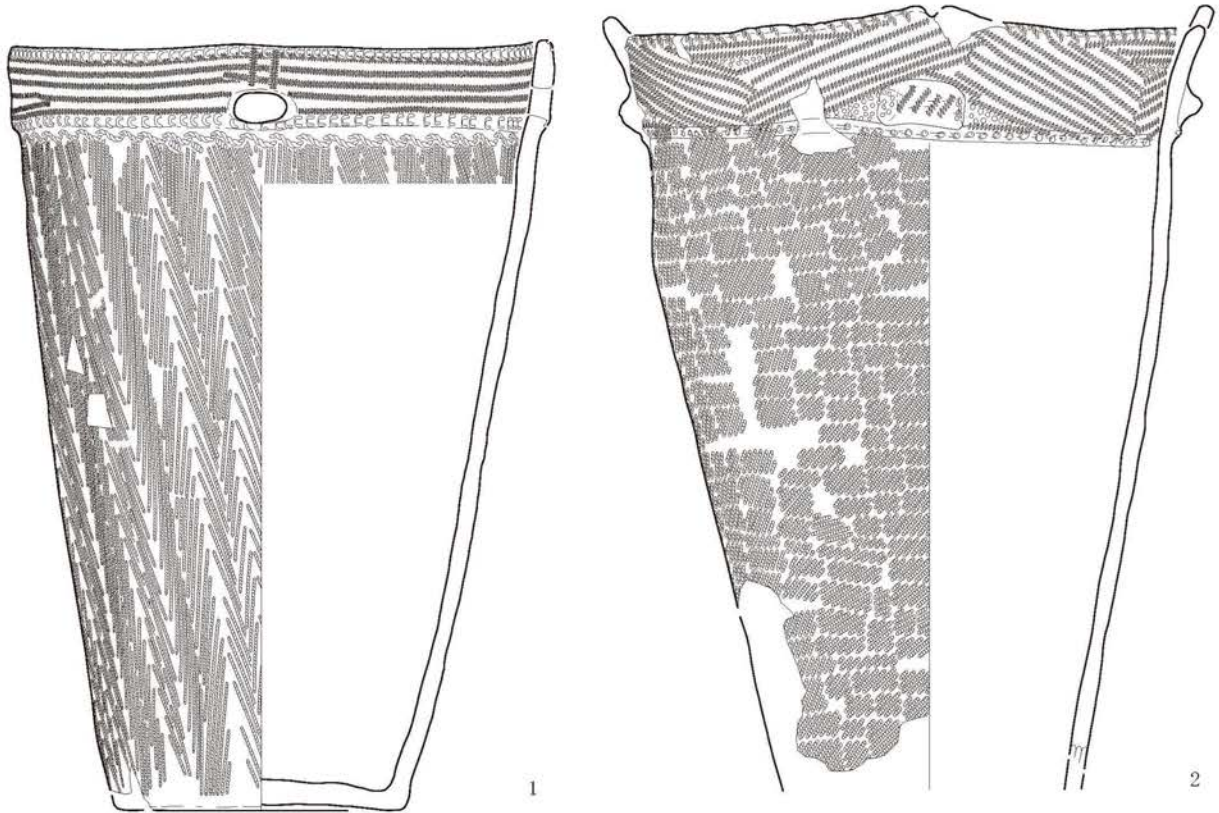


図41 土器9(捨て場細分層)

3e層

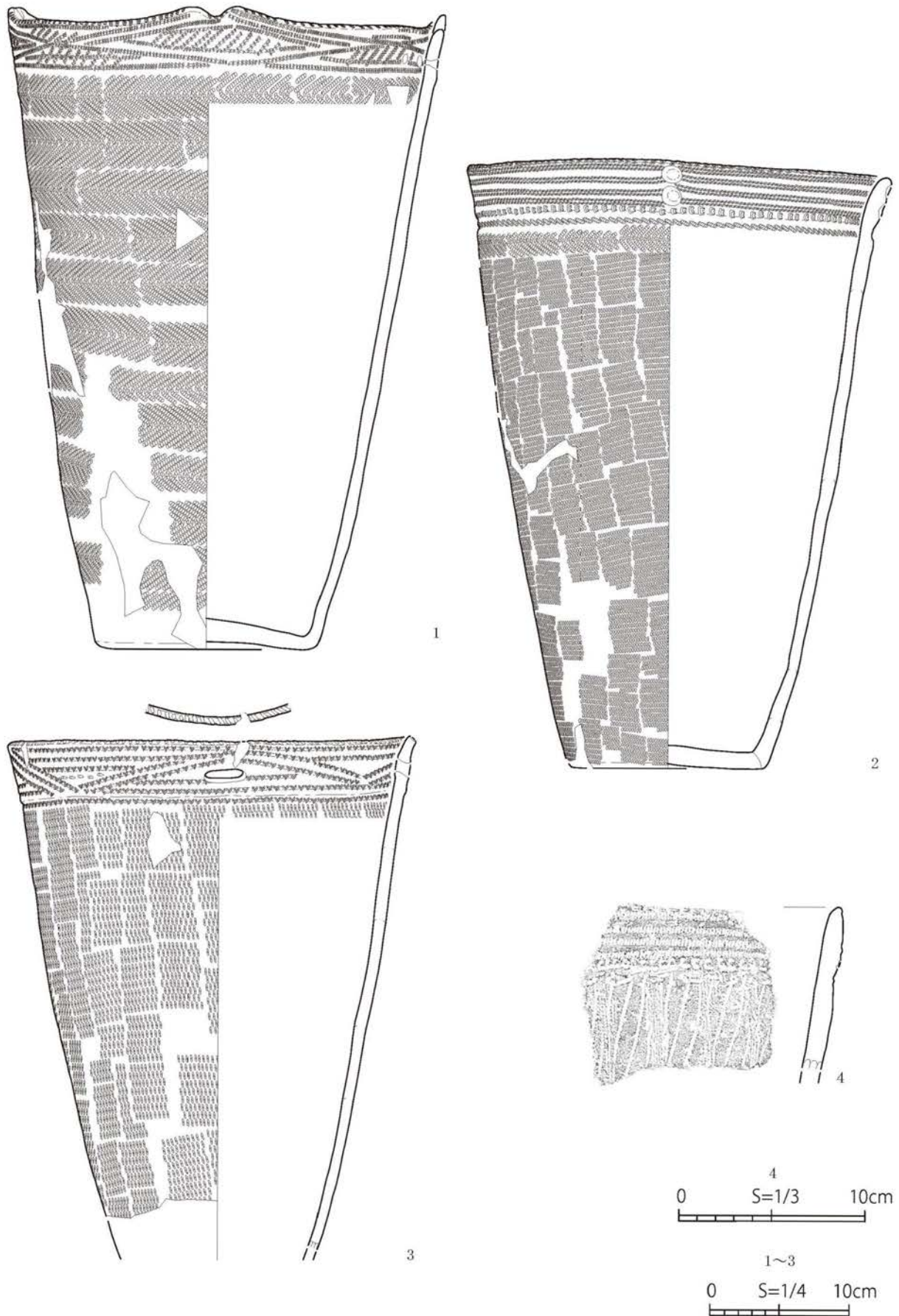
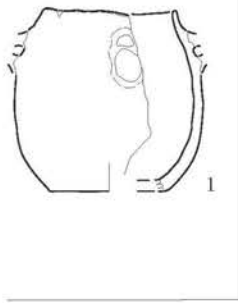
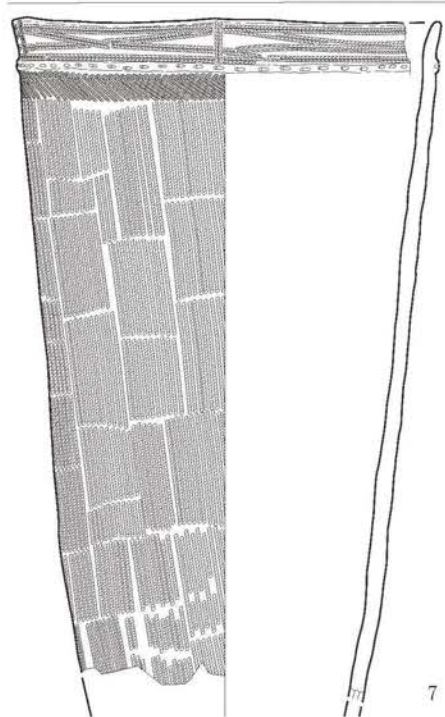
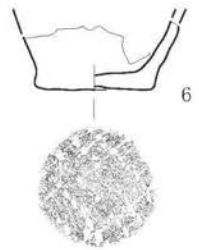
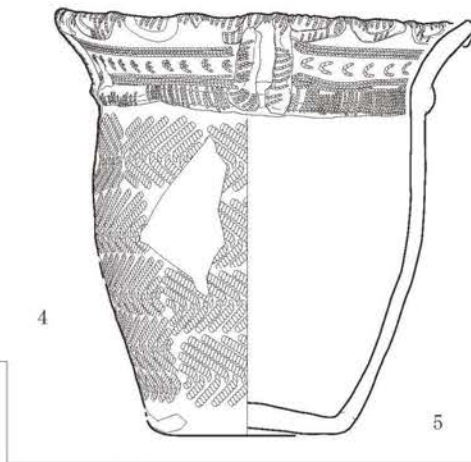
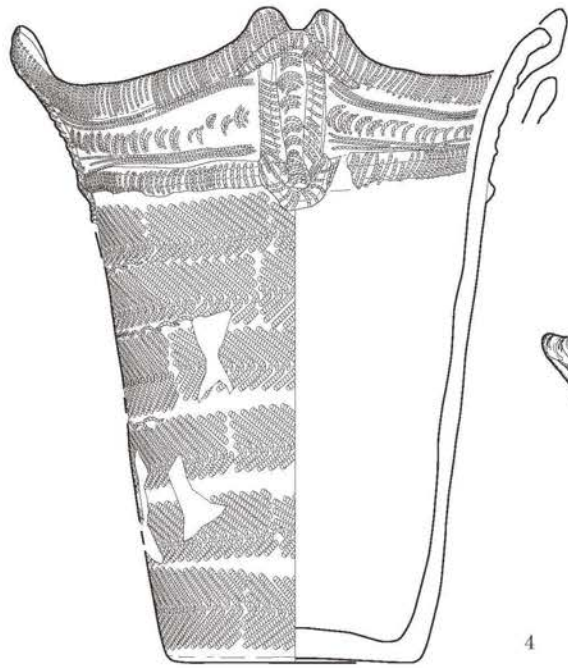
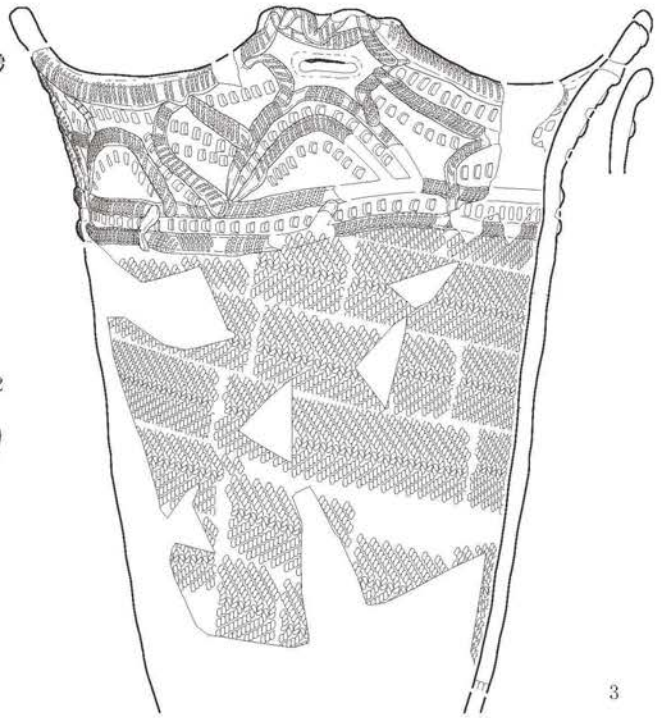
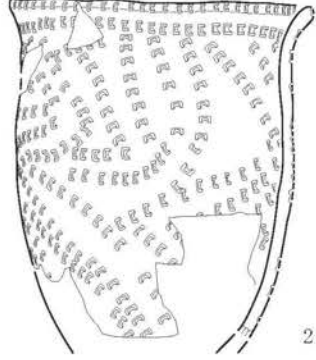


図42 土器10(捨て場細分層)

2a層



2a・b層



3b層

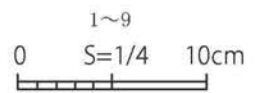
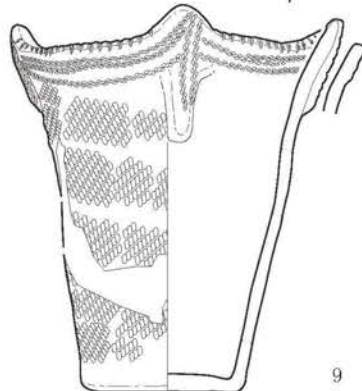
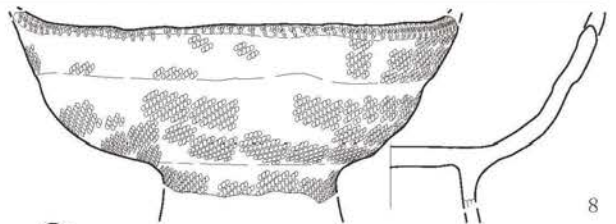
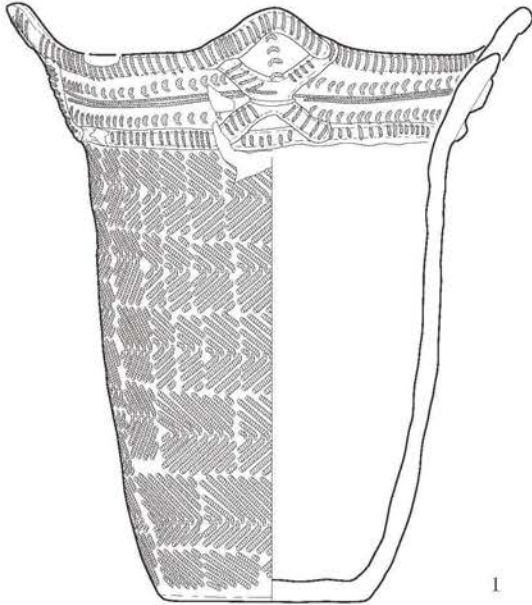


図43 土器11(捨て場細分層)

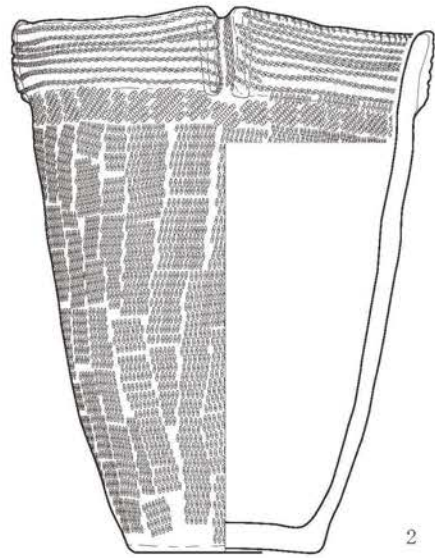
3b・c層

(埋設土器の可能性有り)



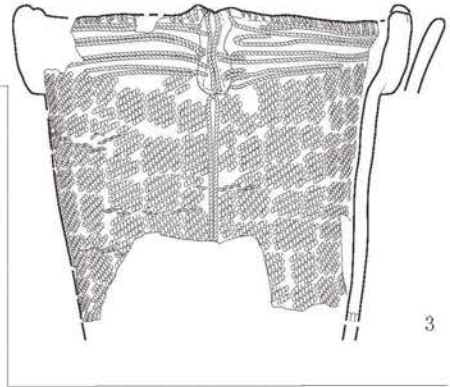
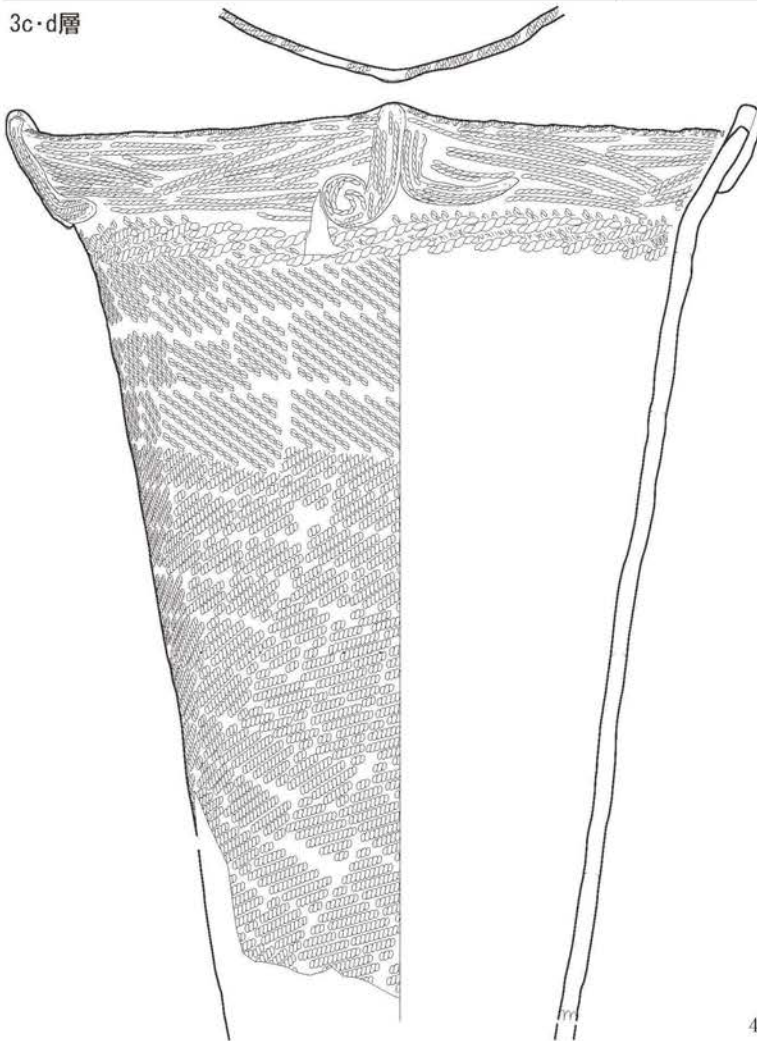
1

3c層

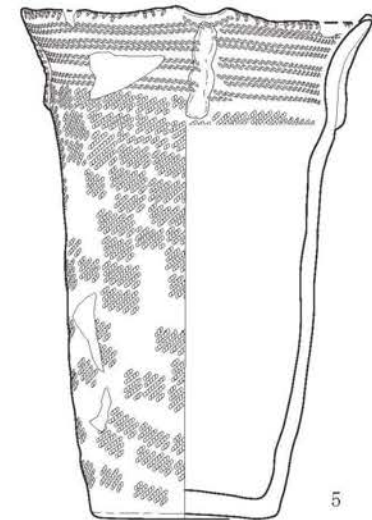


2

3c・d層



3



5



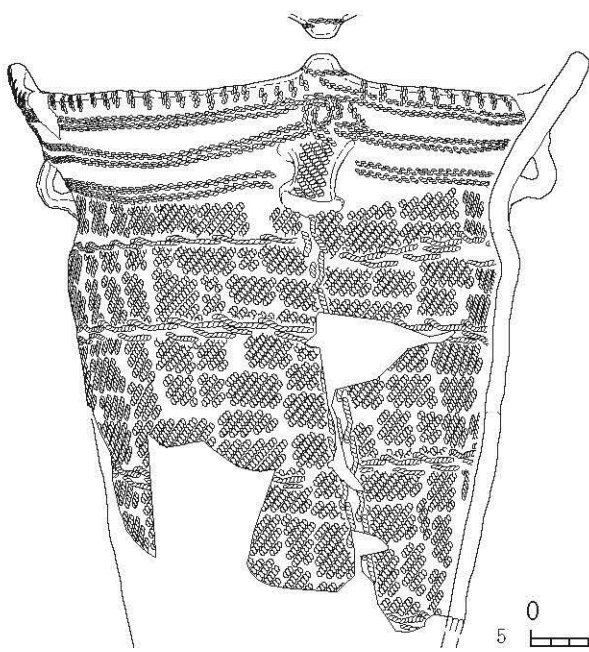
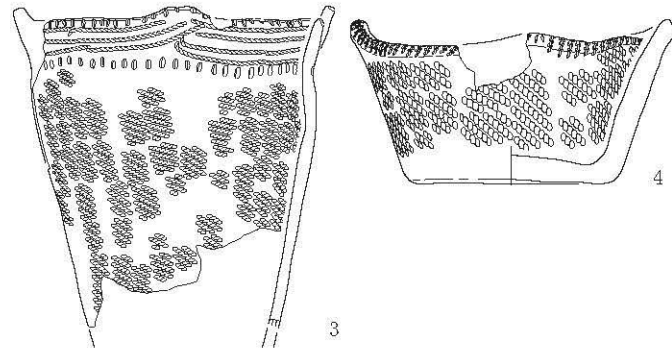
4

6

1~6
0 S=1/4 10cm

図44 土器12(捨て場細分層)

3c・d層



3d層

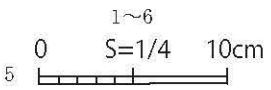
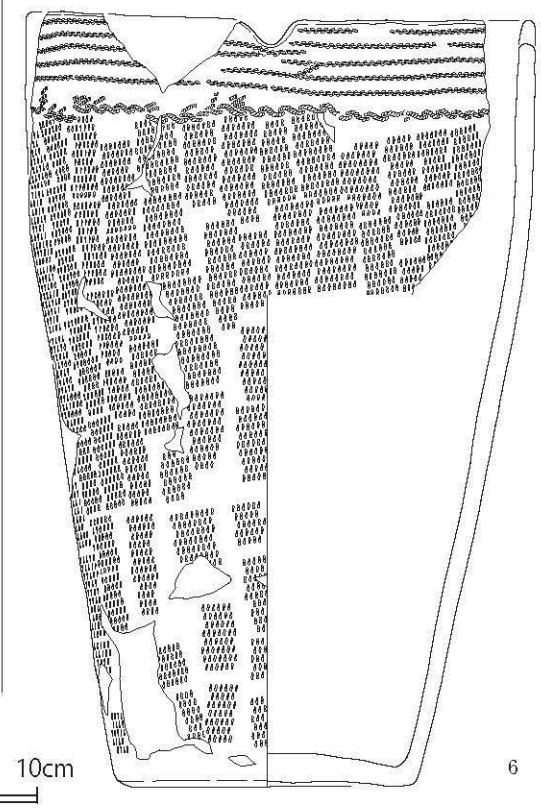
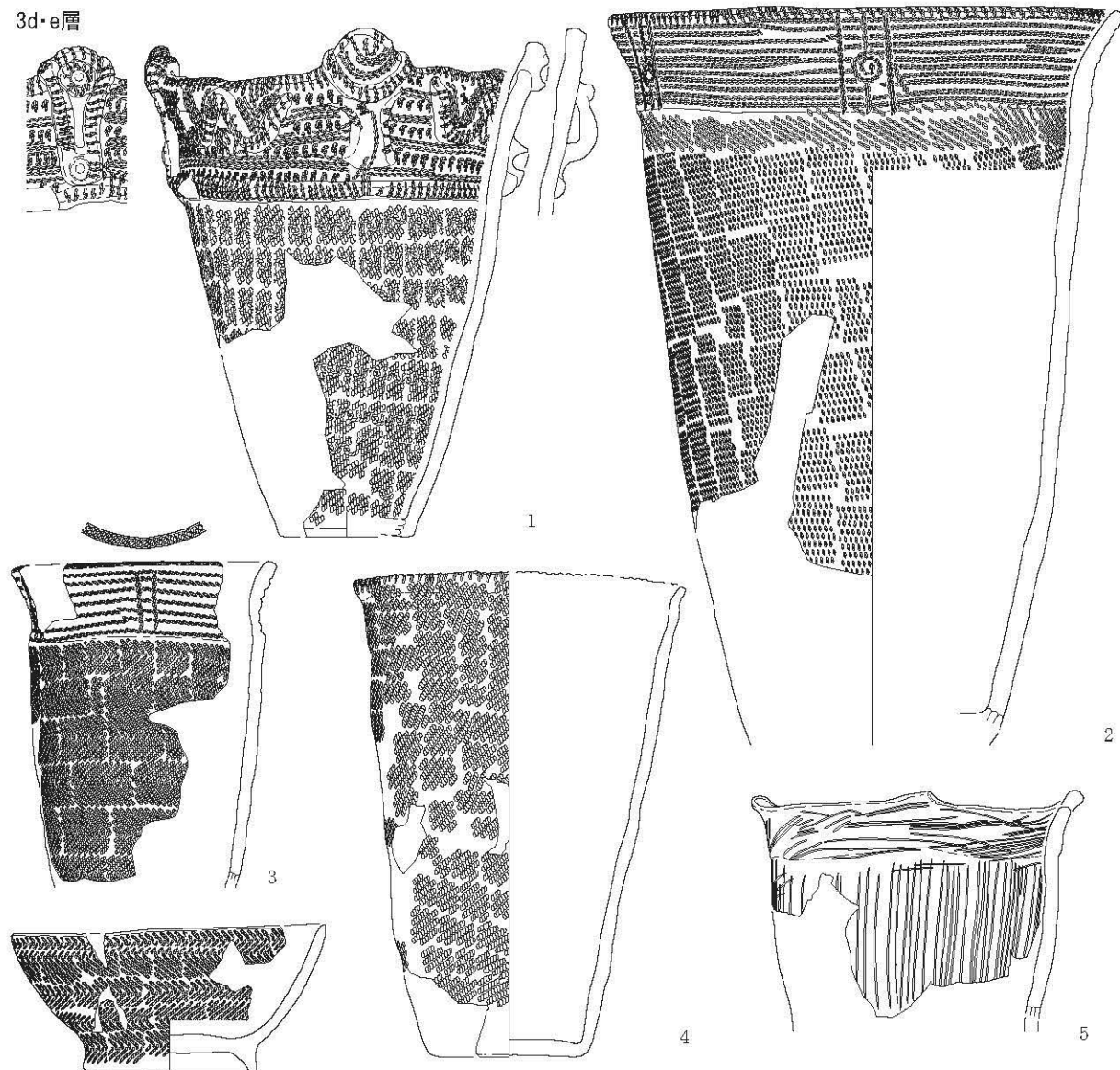
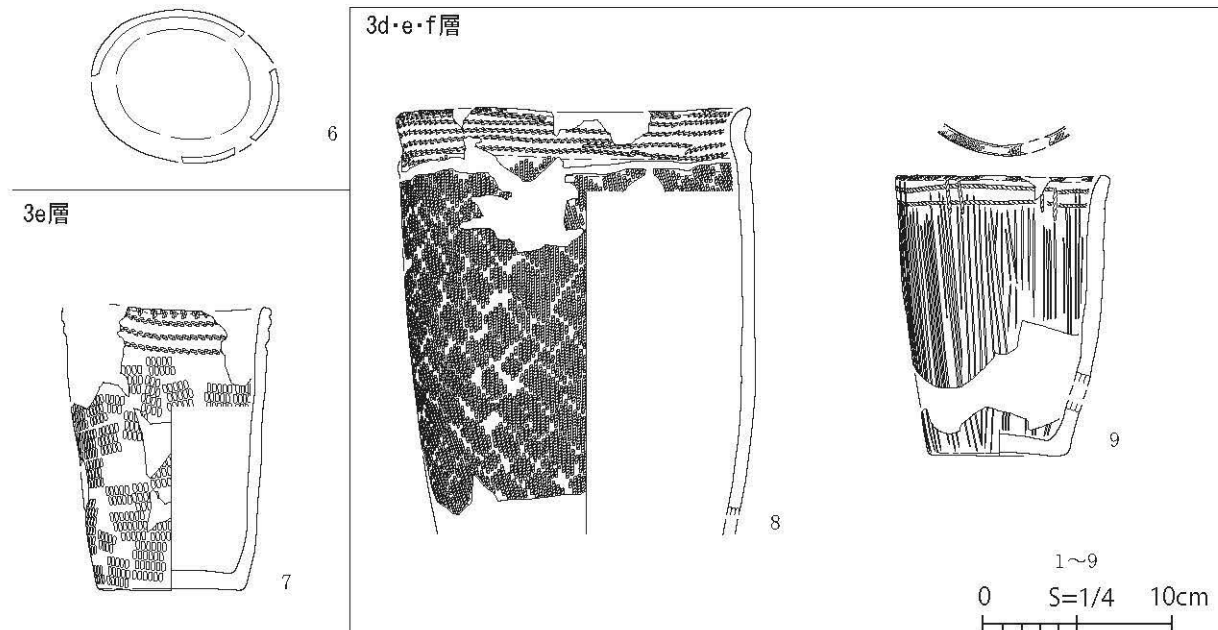


図45 土器13(捨て場細分層)

3d・e層



3d・e・f層



3e層

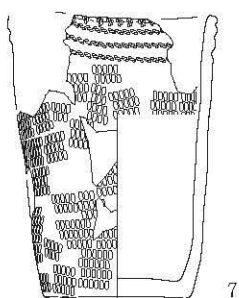


図46 土器14(捨て場細分層)

3f層

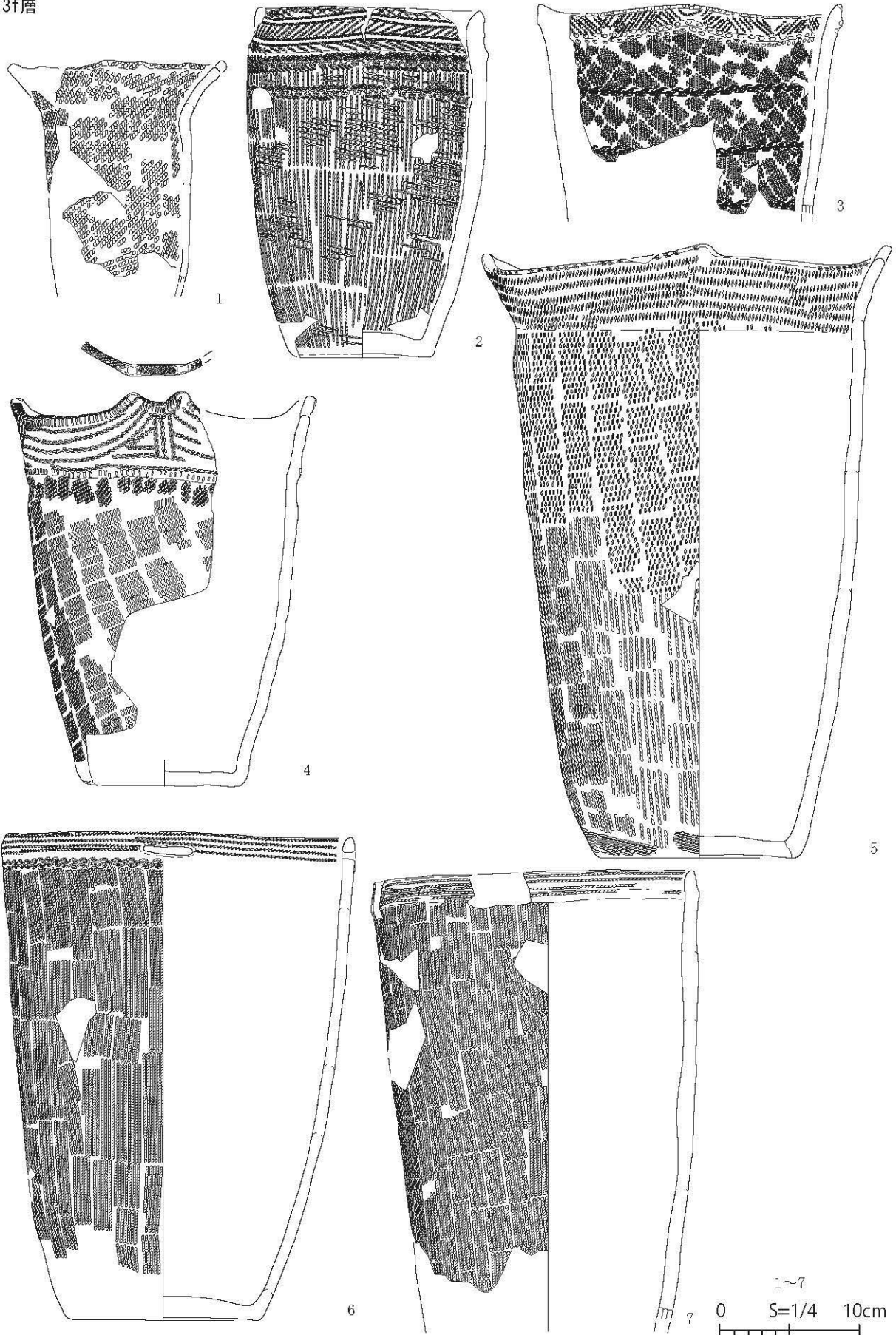
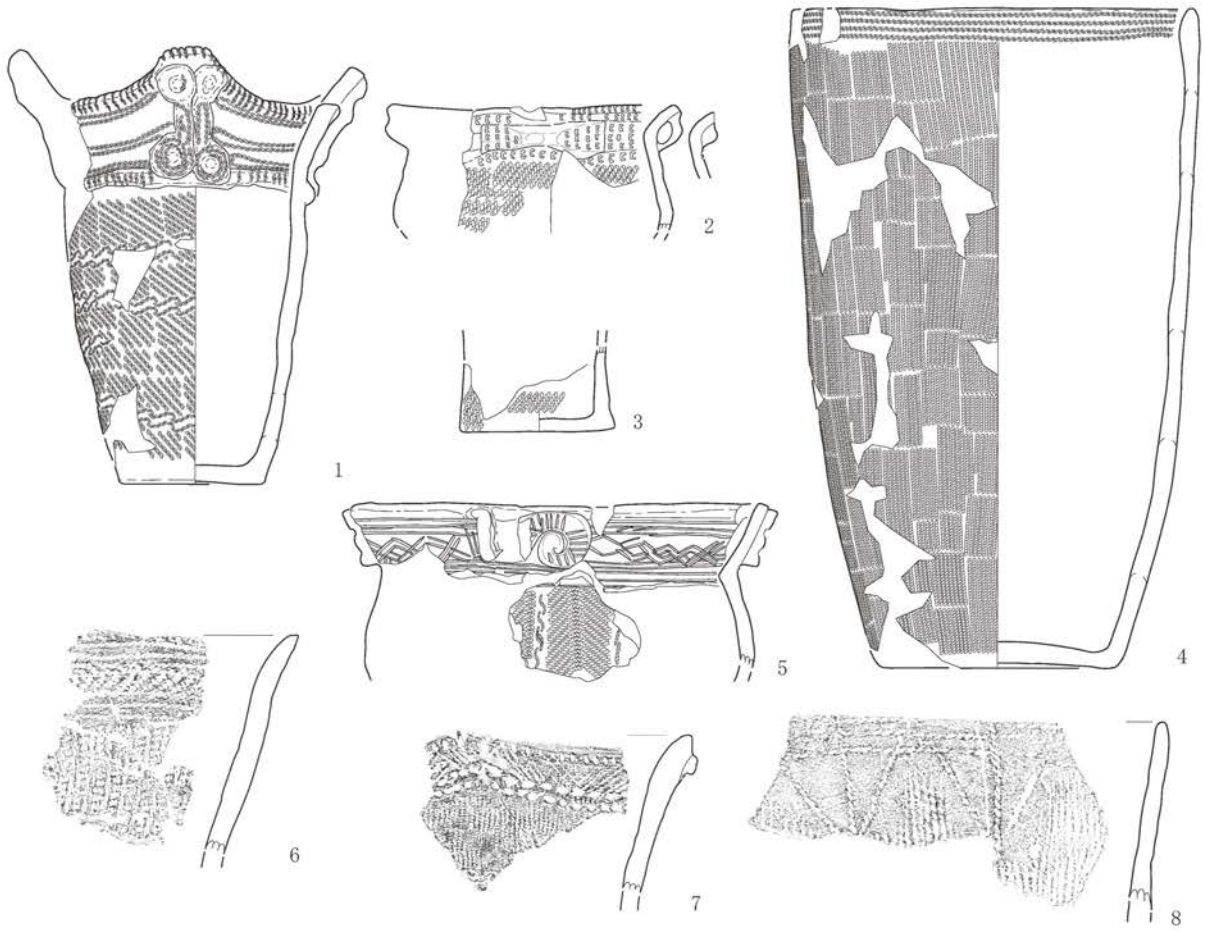


図47 土器15(捨て場細分層)

3g・h層



3h層

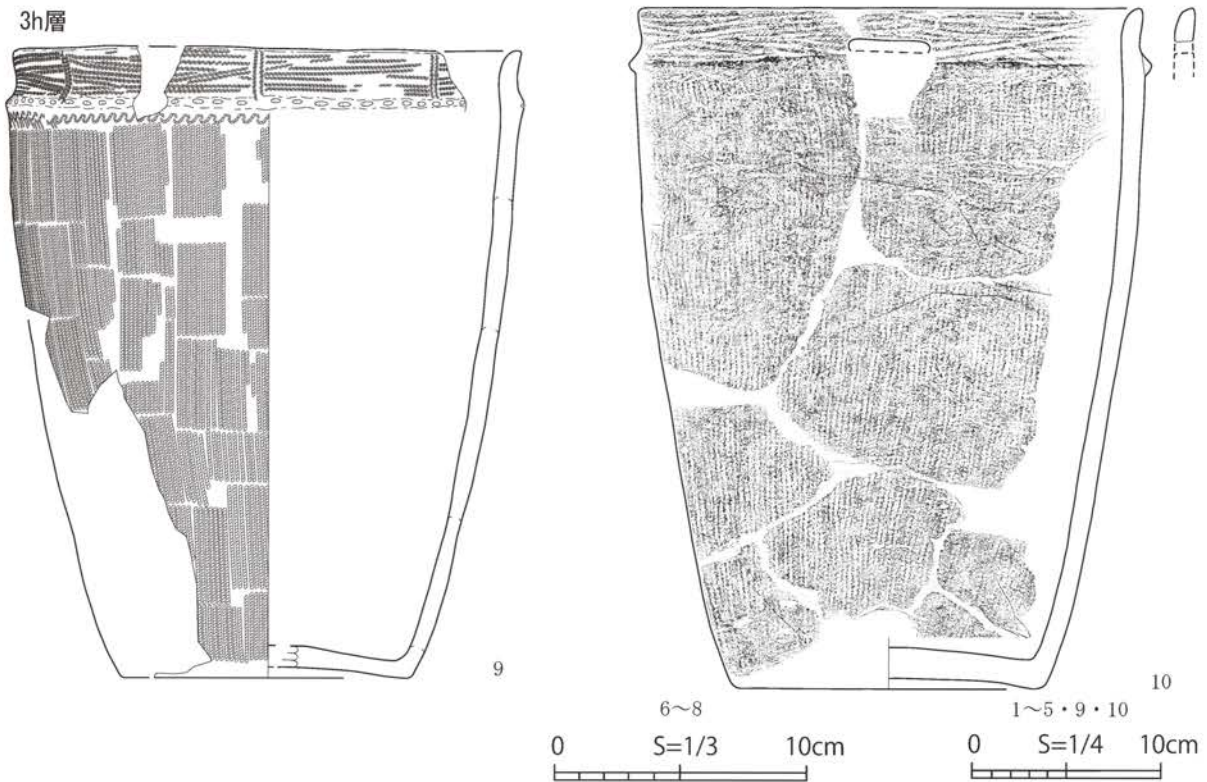
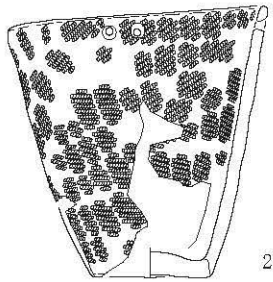
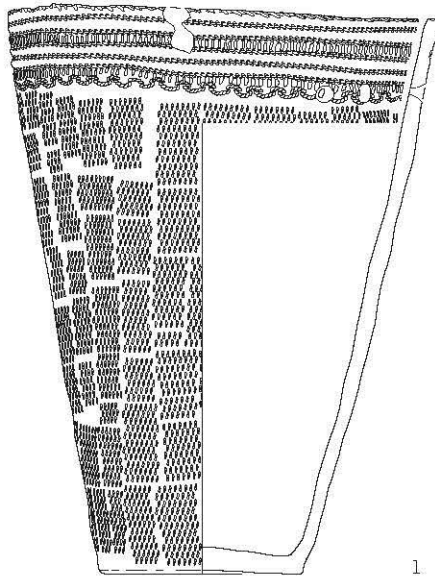
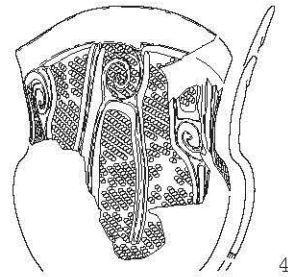


図48 土器16(捨て場細分層)

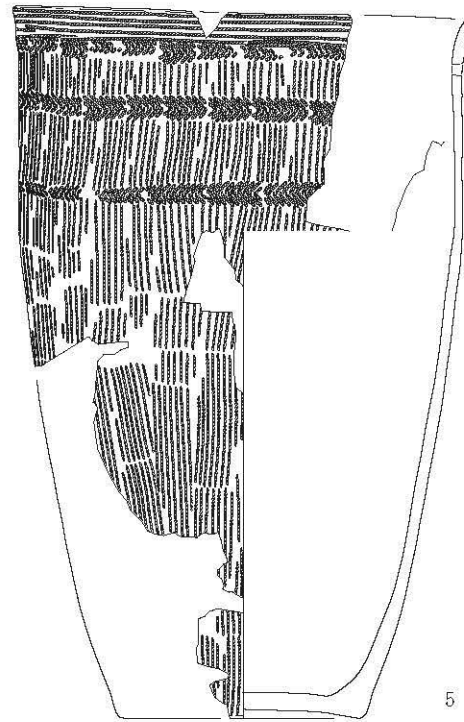
3h層



19トレンチ・ベルト
2e層



3i層



18トレンチ・ベルト
2u層下位

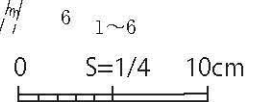
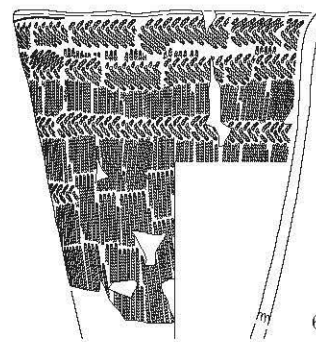
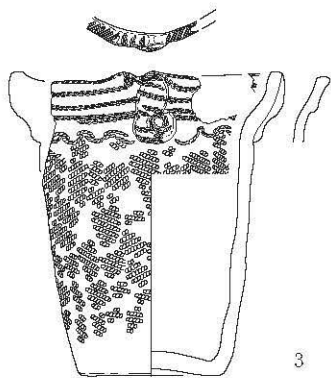


図49 土器17(捨て場細分層)



図50 土器18(捨て場①)

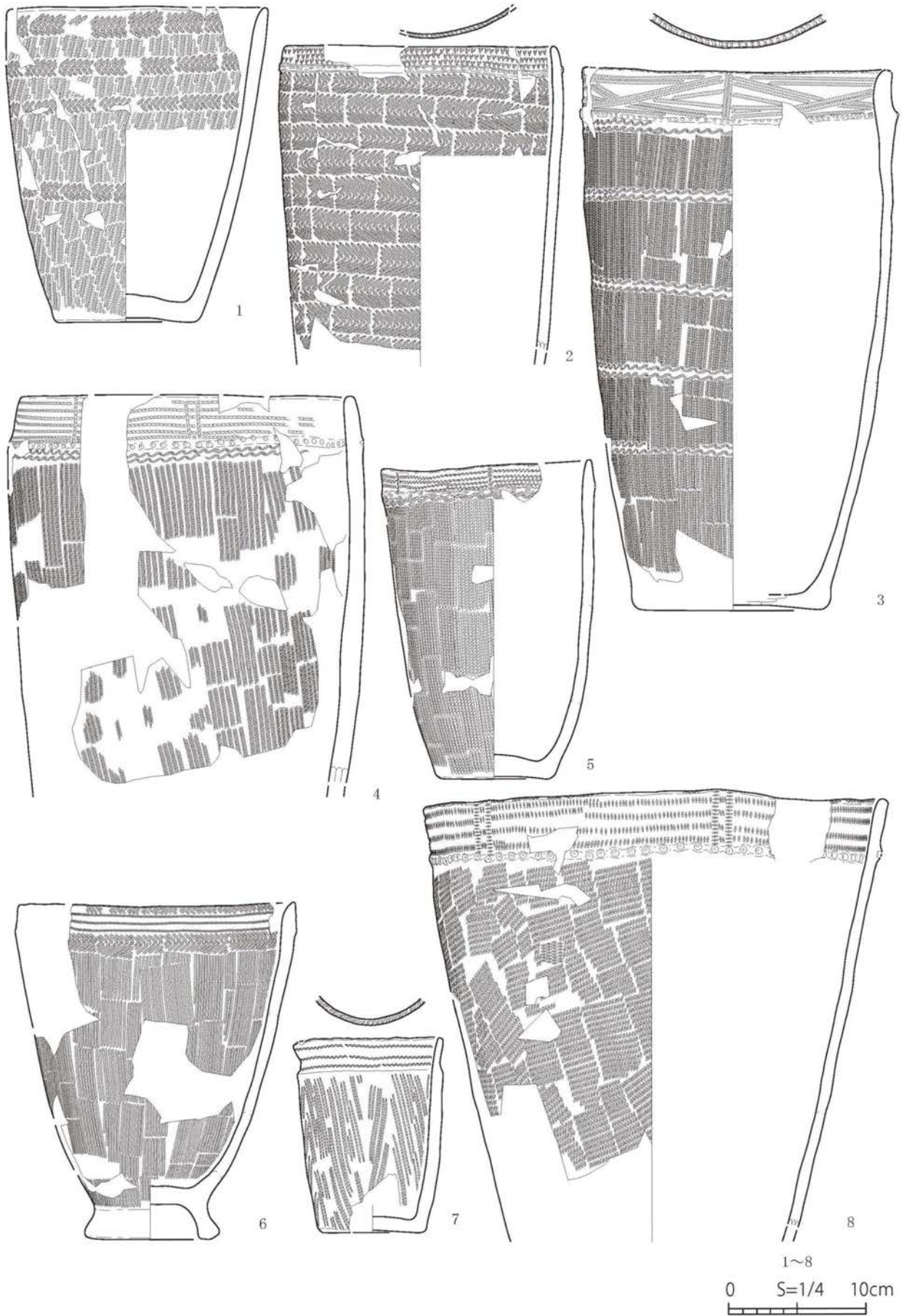


図51 土器19(捨て場②)

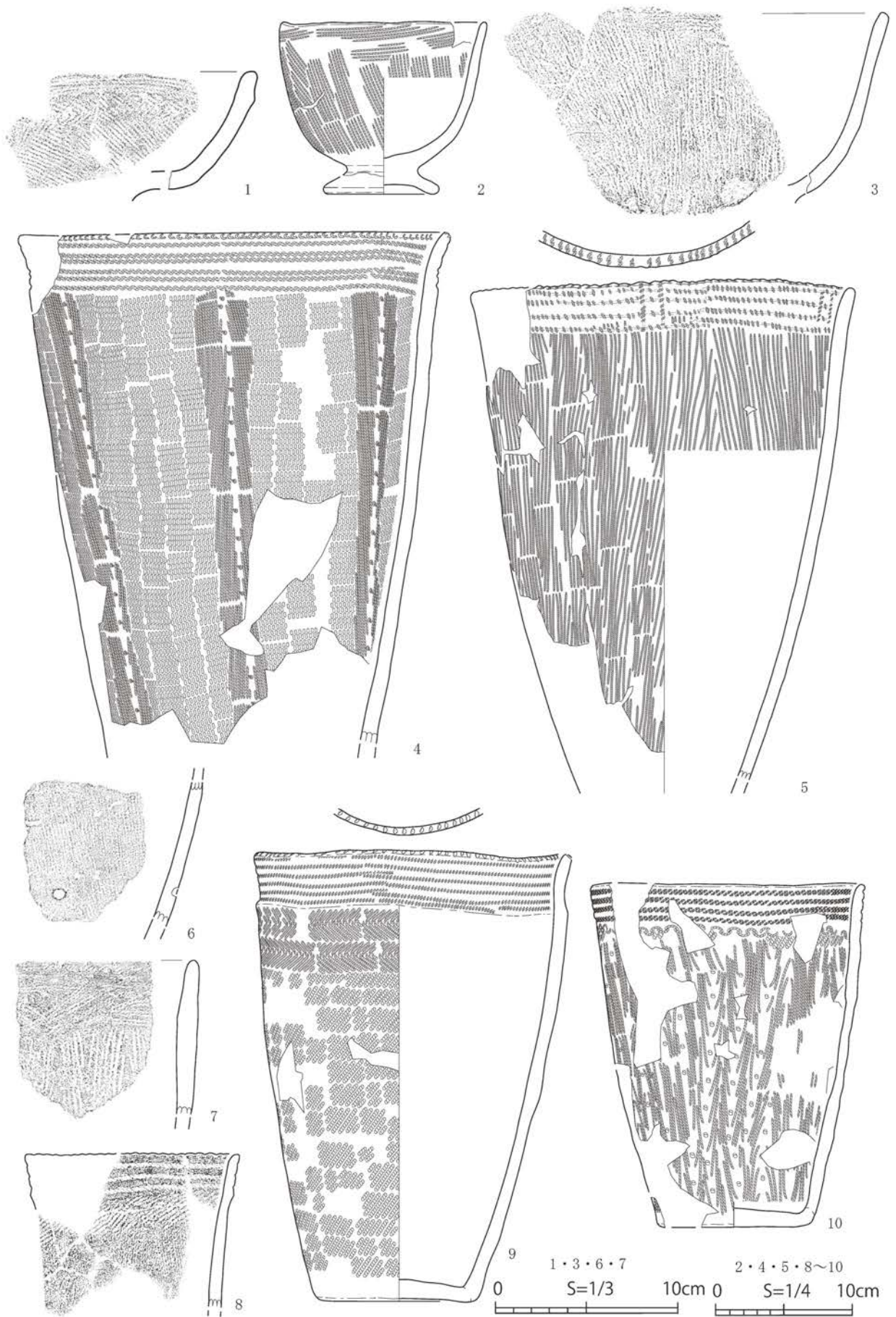


图52 土器20(捨て場③)

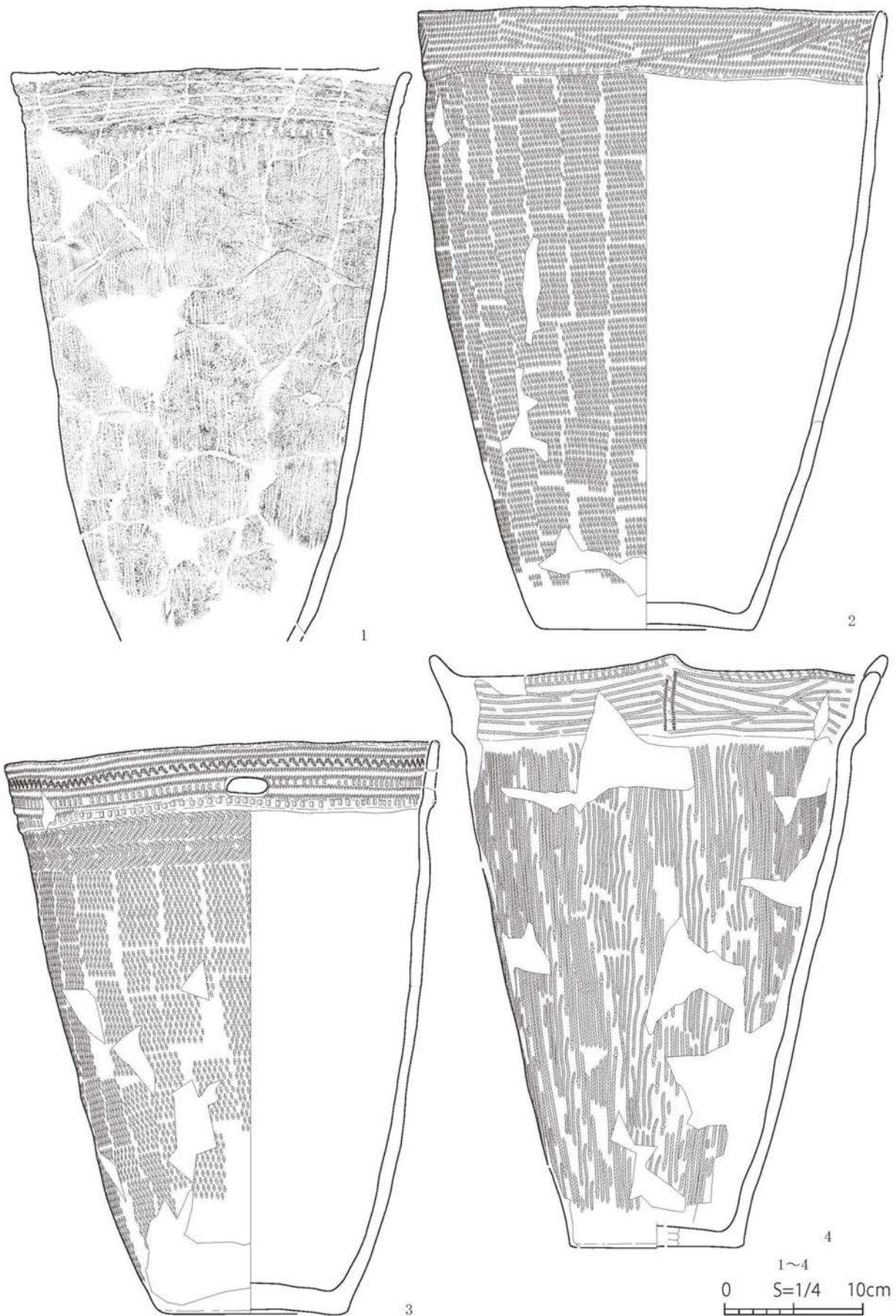


図53 土器21(捨て場④)

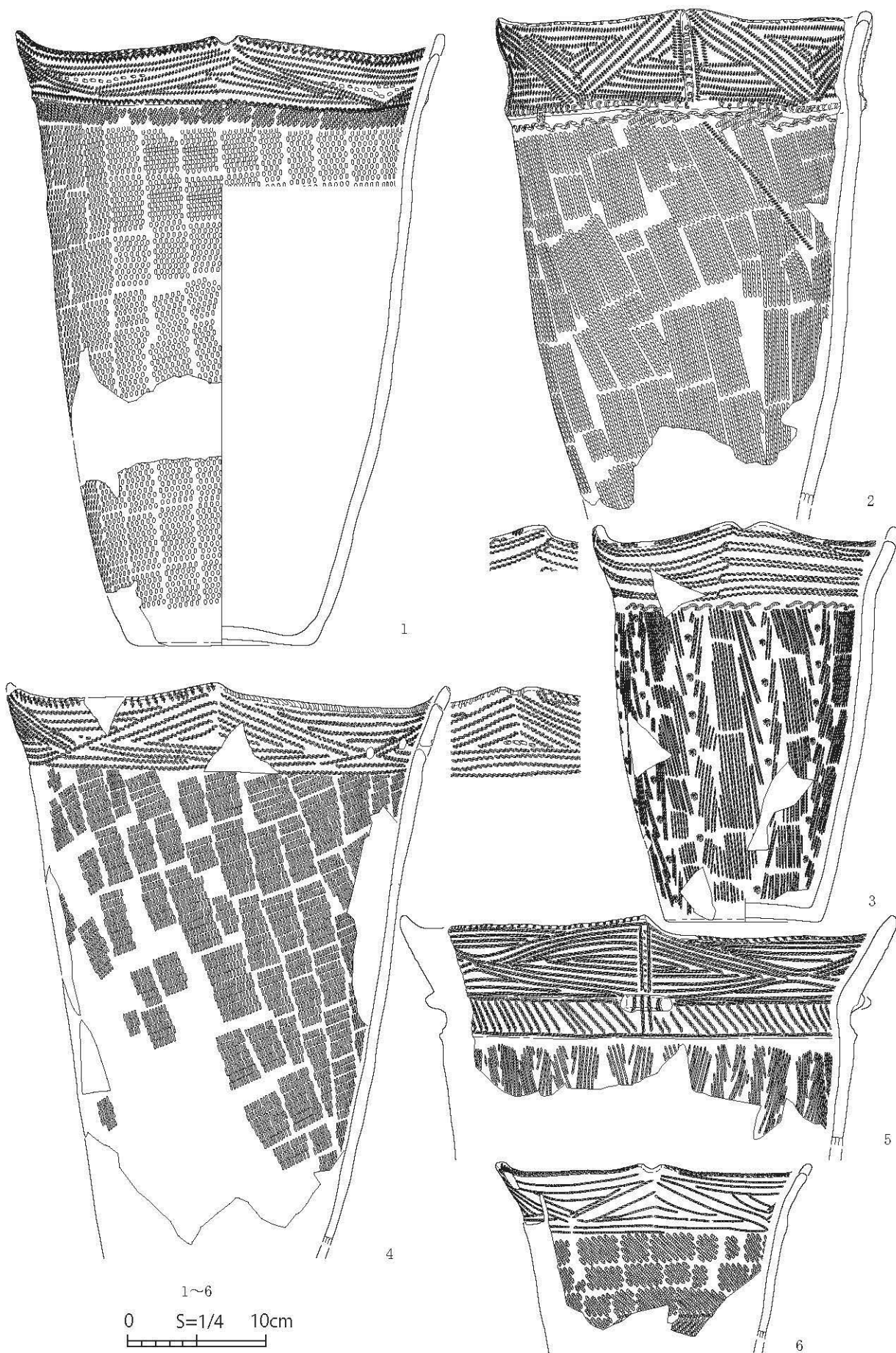


図54 土器22(捨て場⑤)

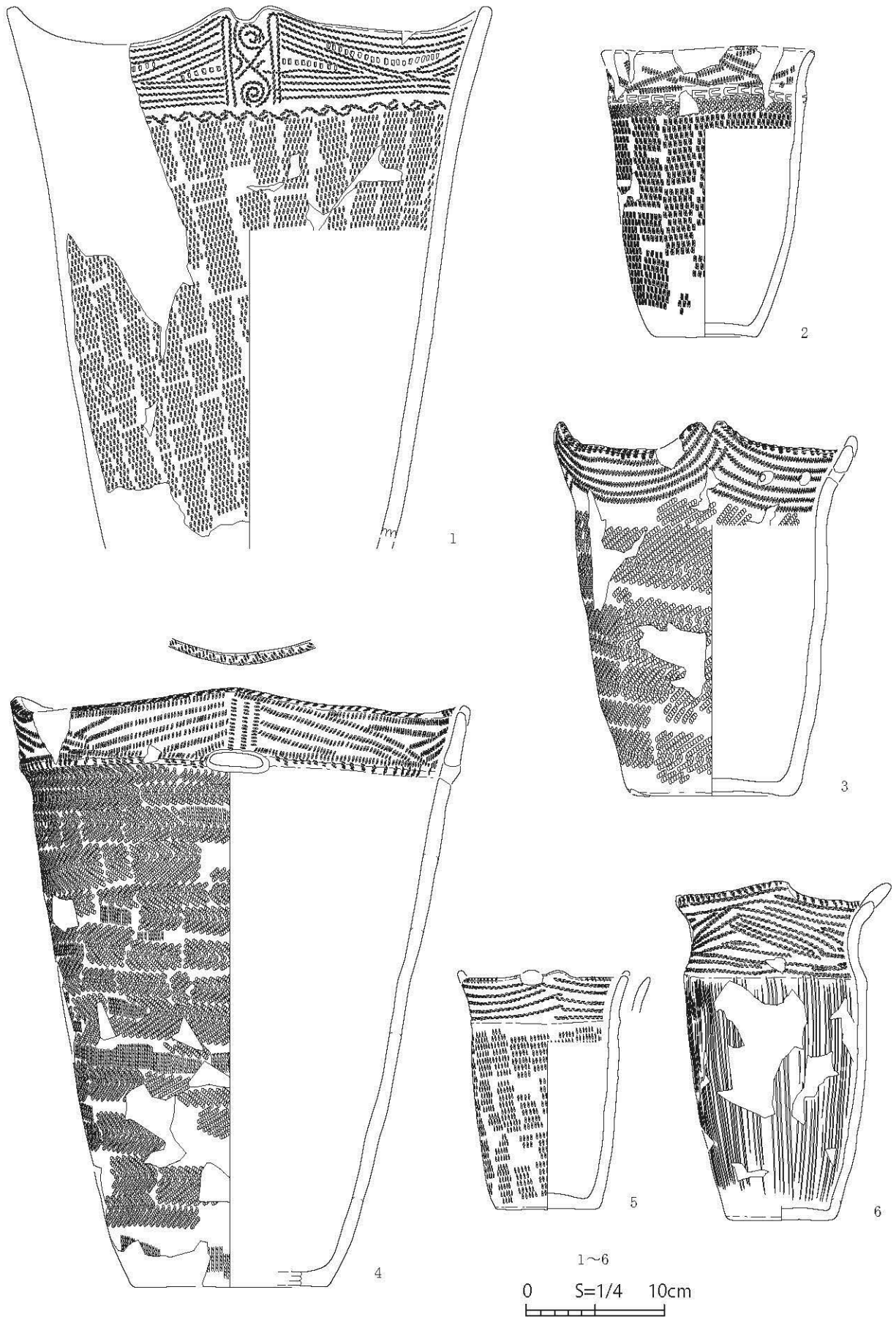


図55 土器23(捨て場⑥)



图56 土器24(捨て場⑦)



図57 土器25(捨て場⑧)

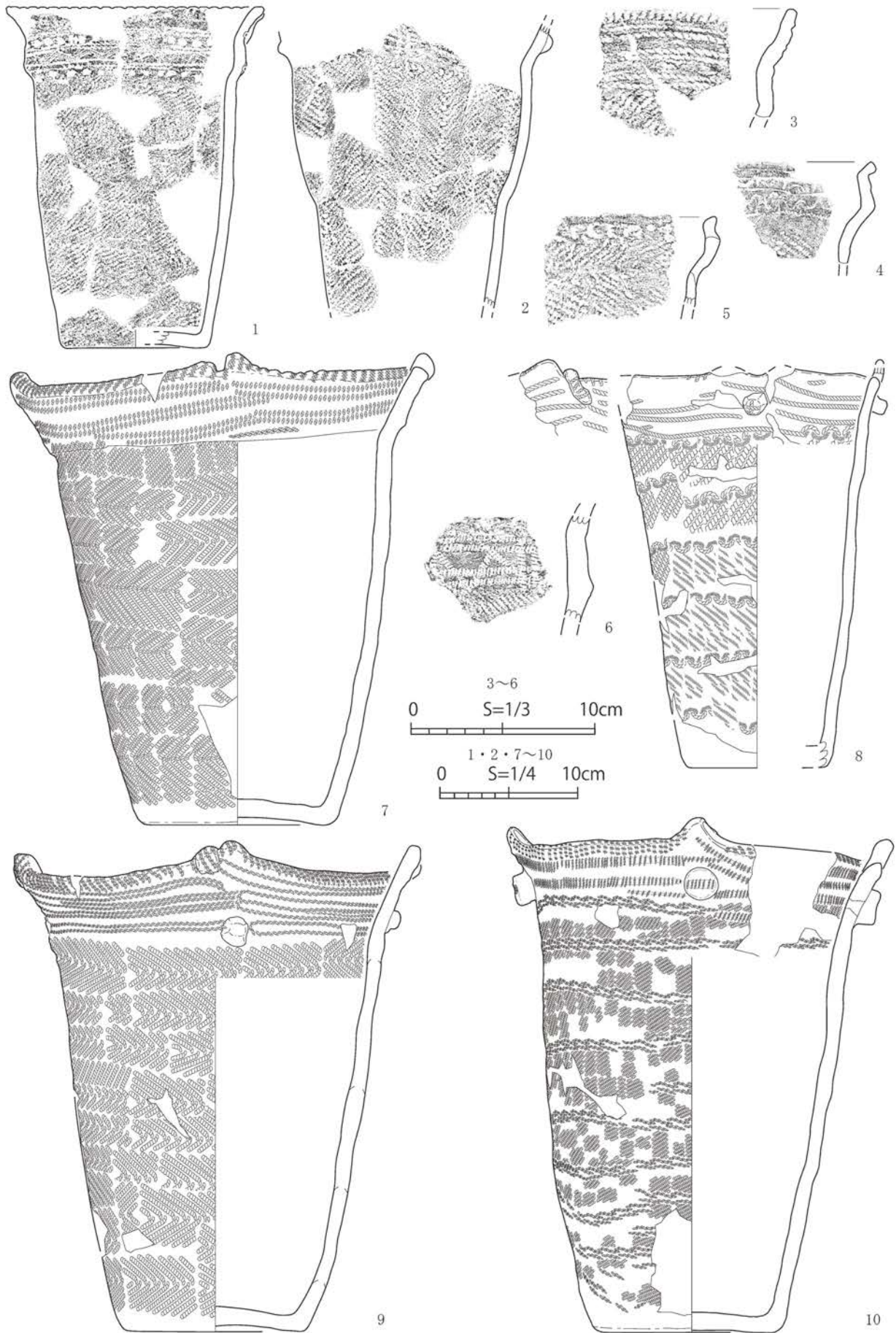


图58 土器26(捨て場⑨)

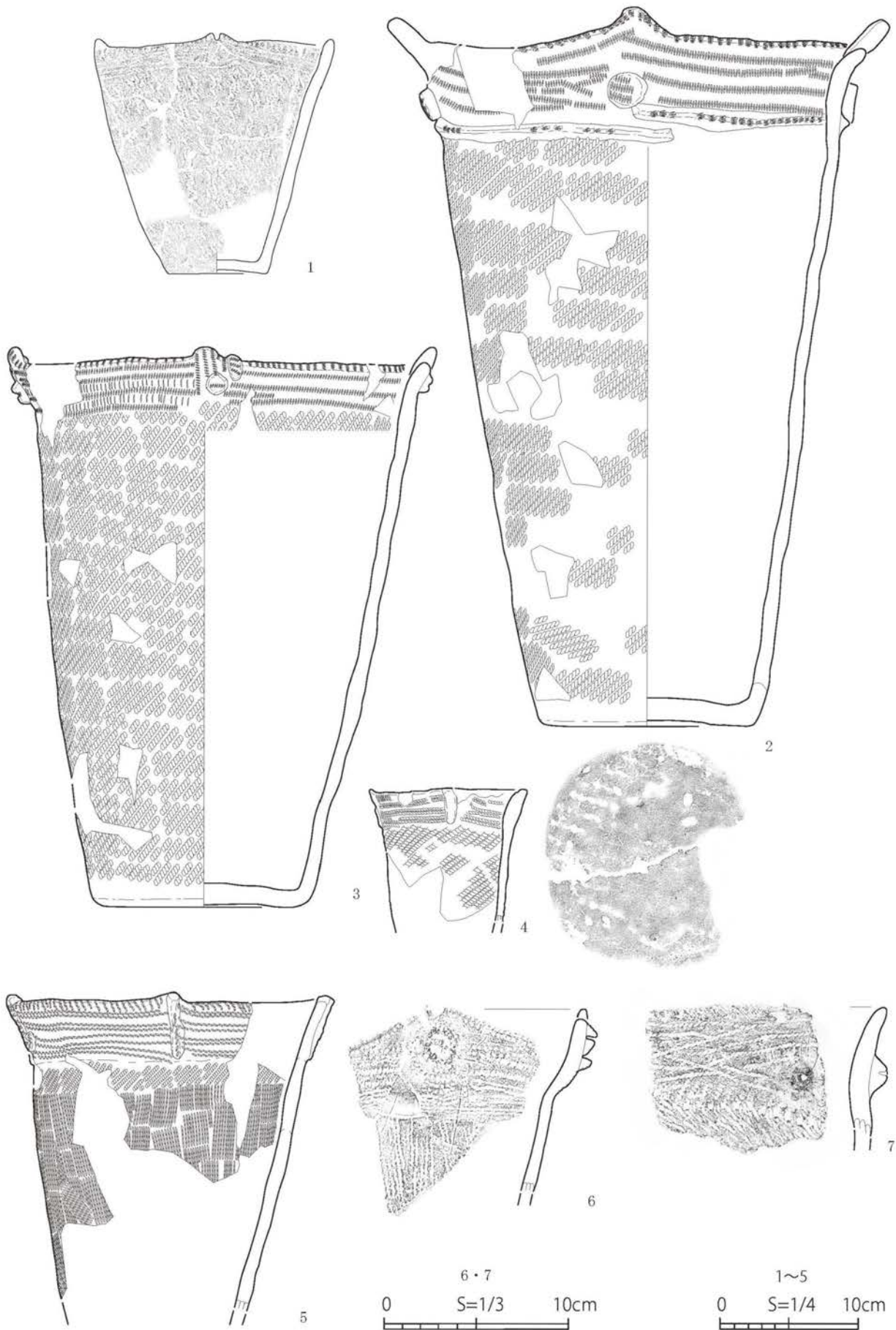


図59 土器27(捨て場⑩)



図60 土器28(捨て場Ⅱ)

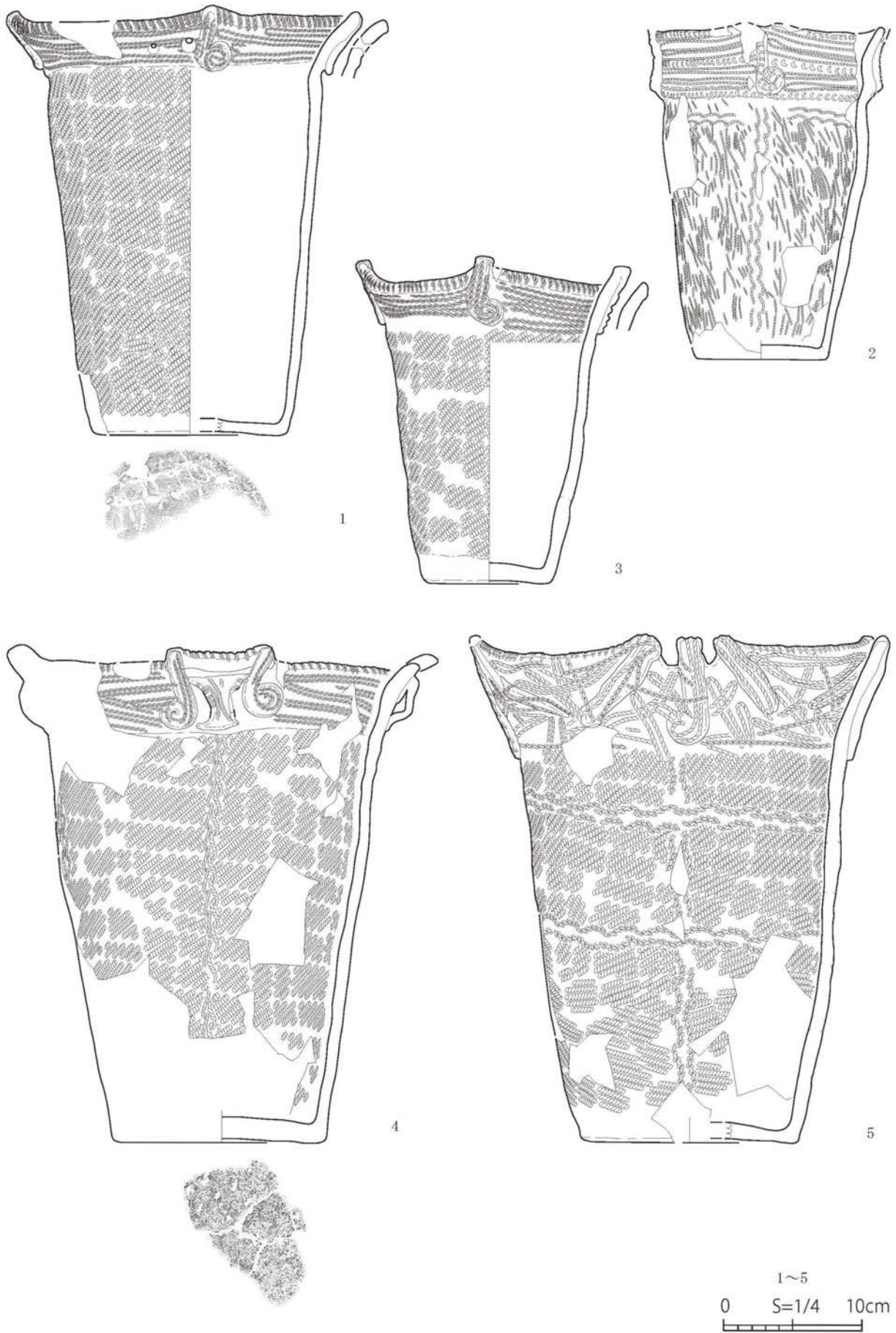


図61 土器29(捨て場⑫)

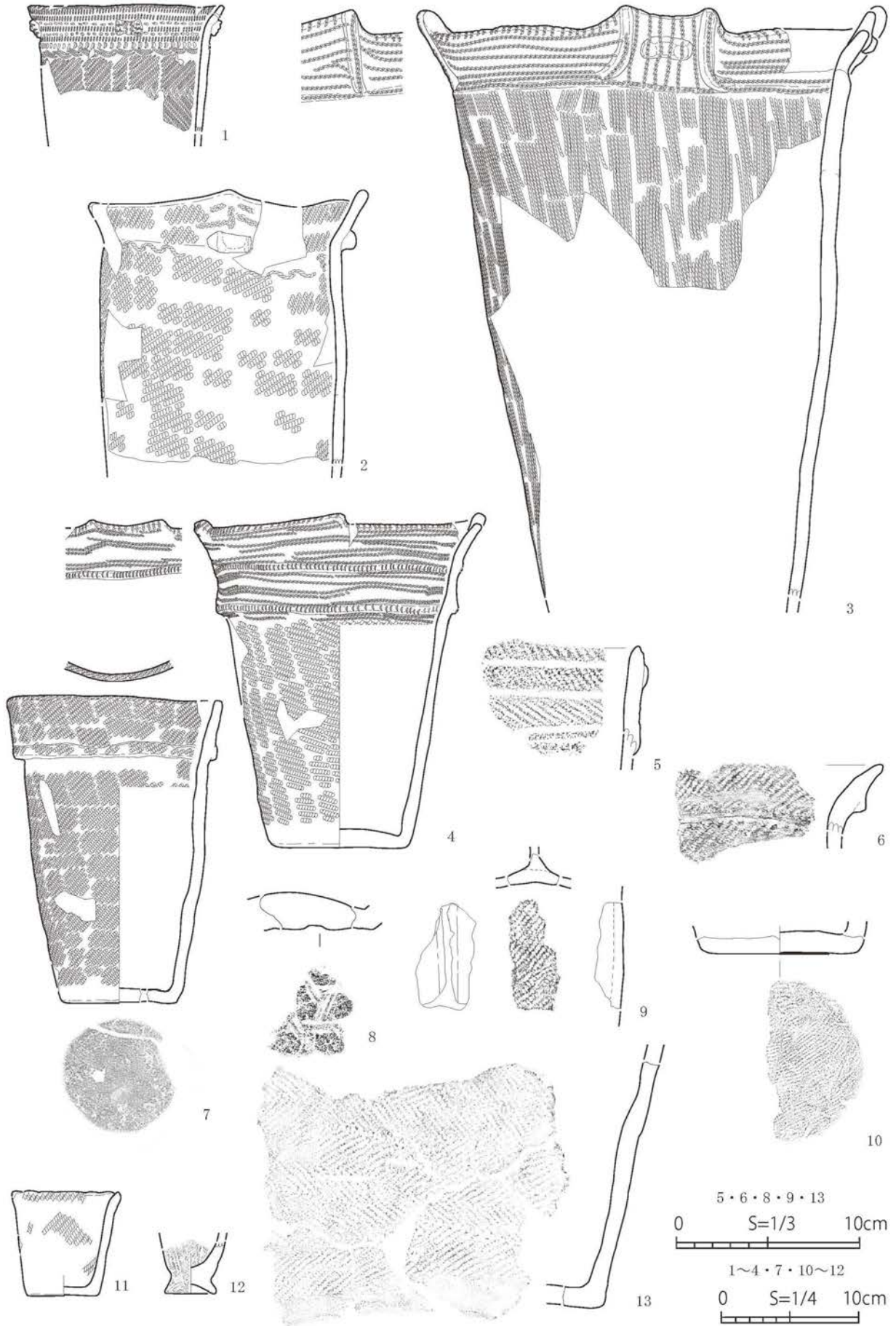


图62 土器30(捨て場⑬)

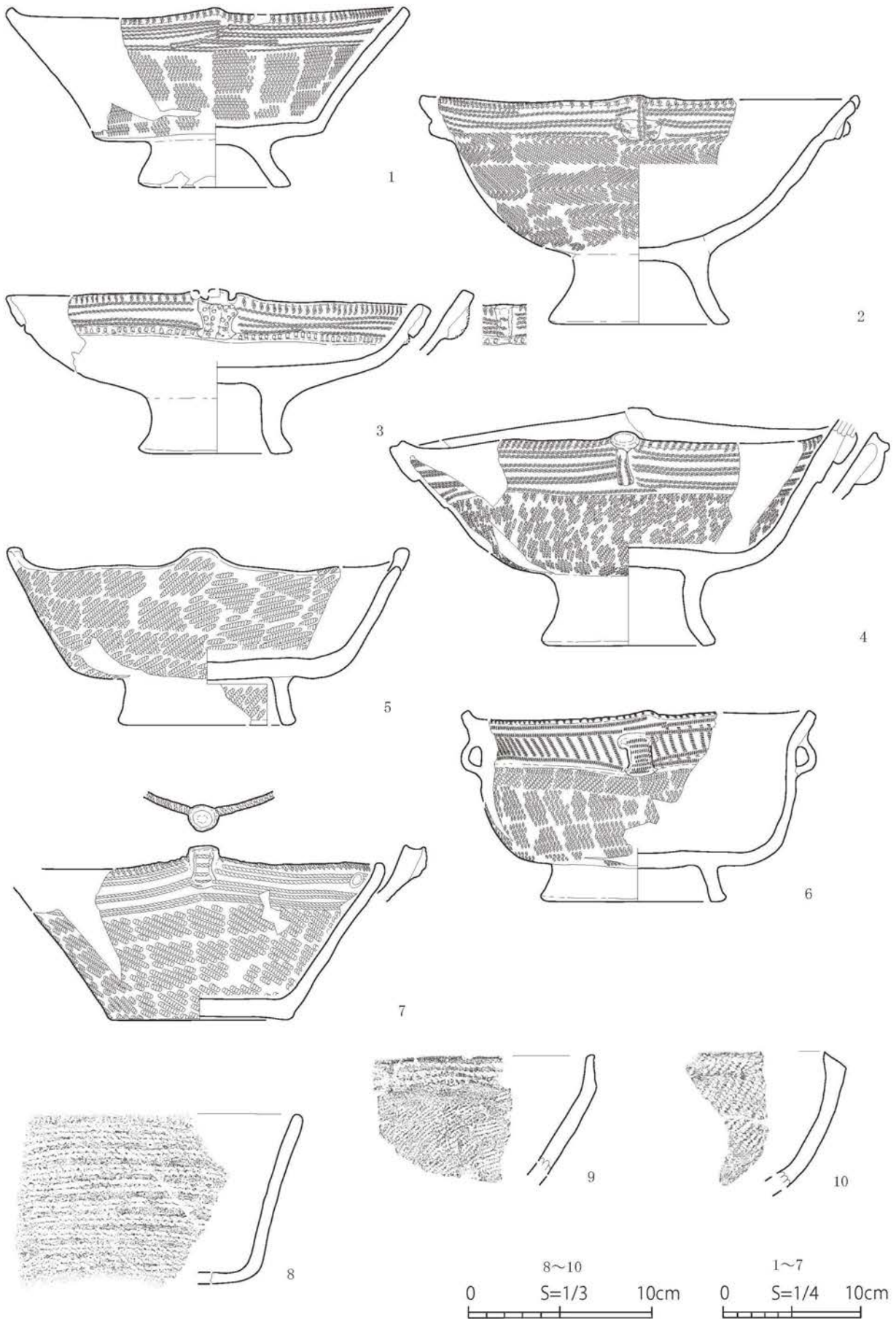


図63 土器31(捨て場⑭)



図64 土器32(捨て場⑮)

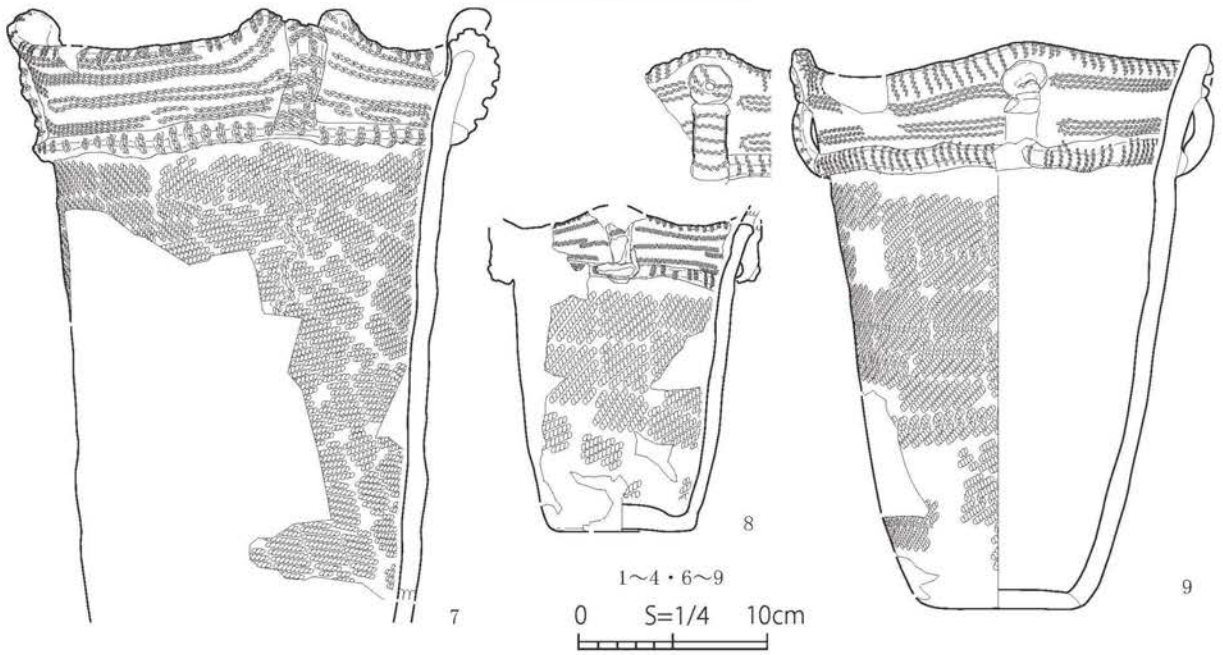
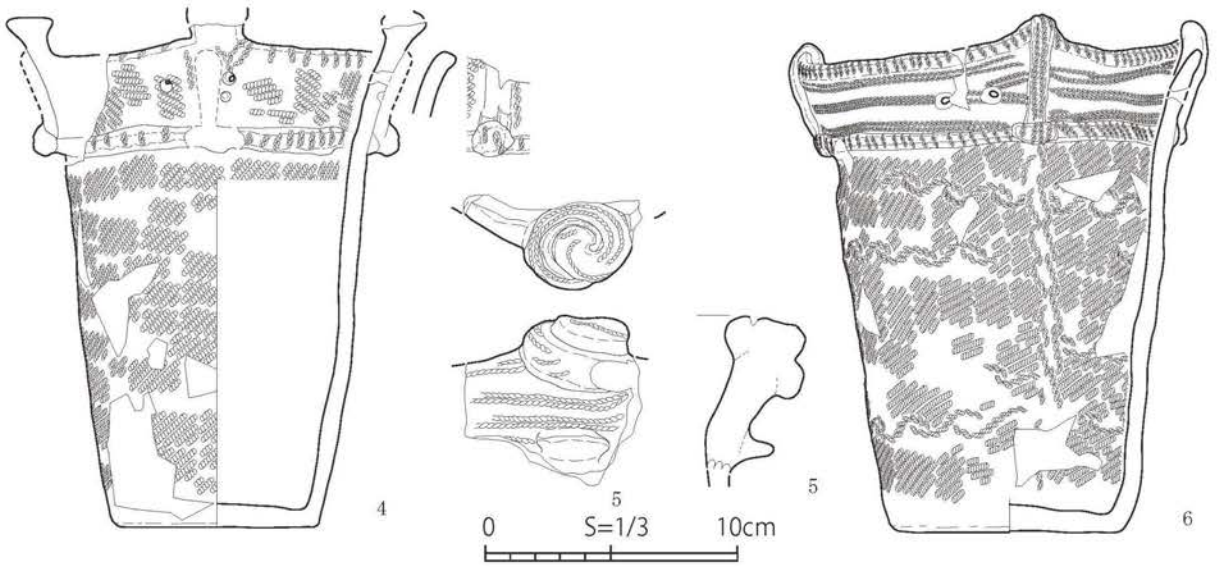
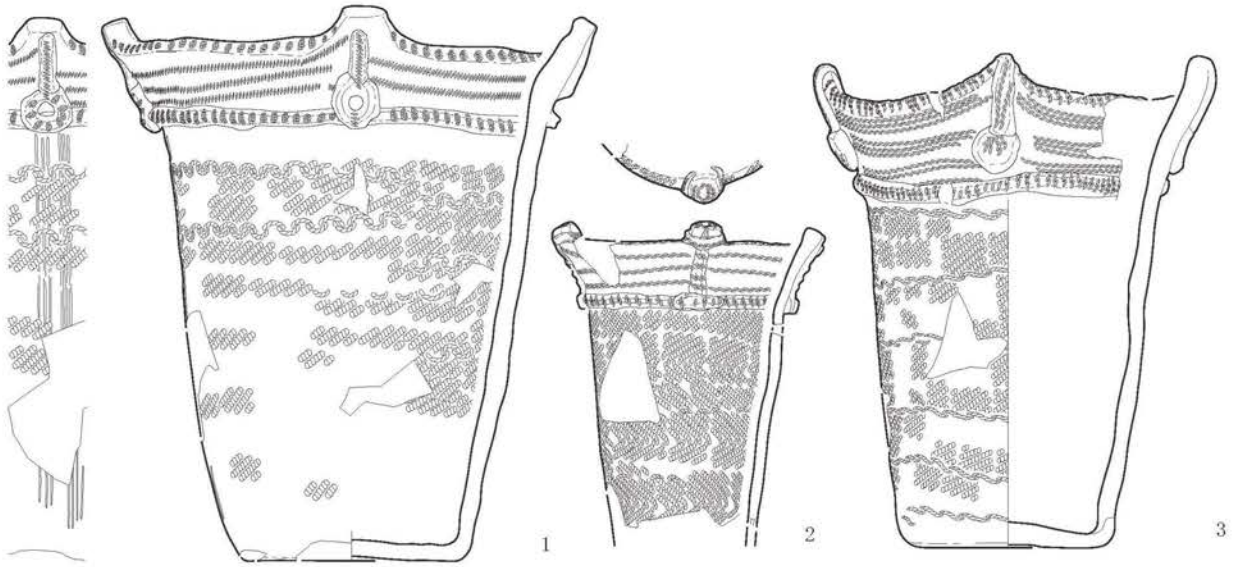


图65 土器33(捨て場⑬)

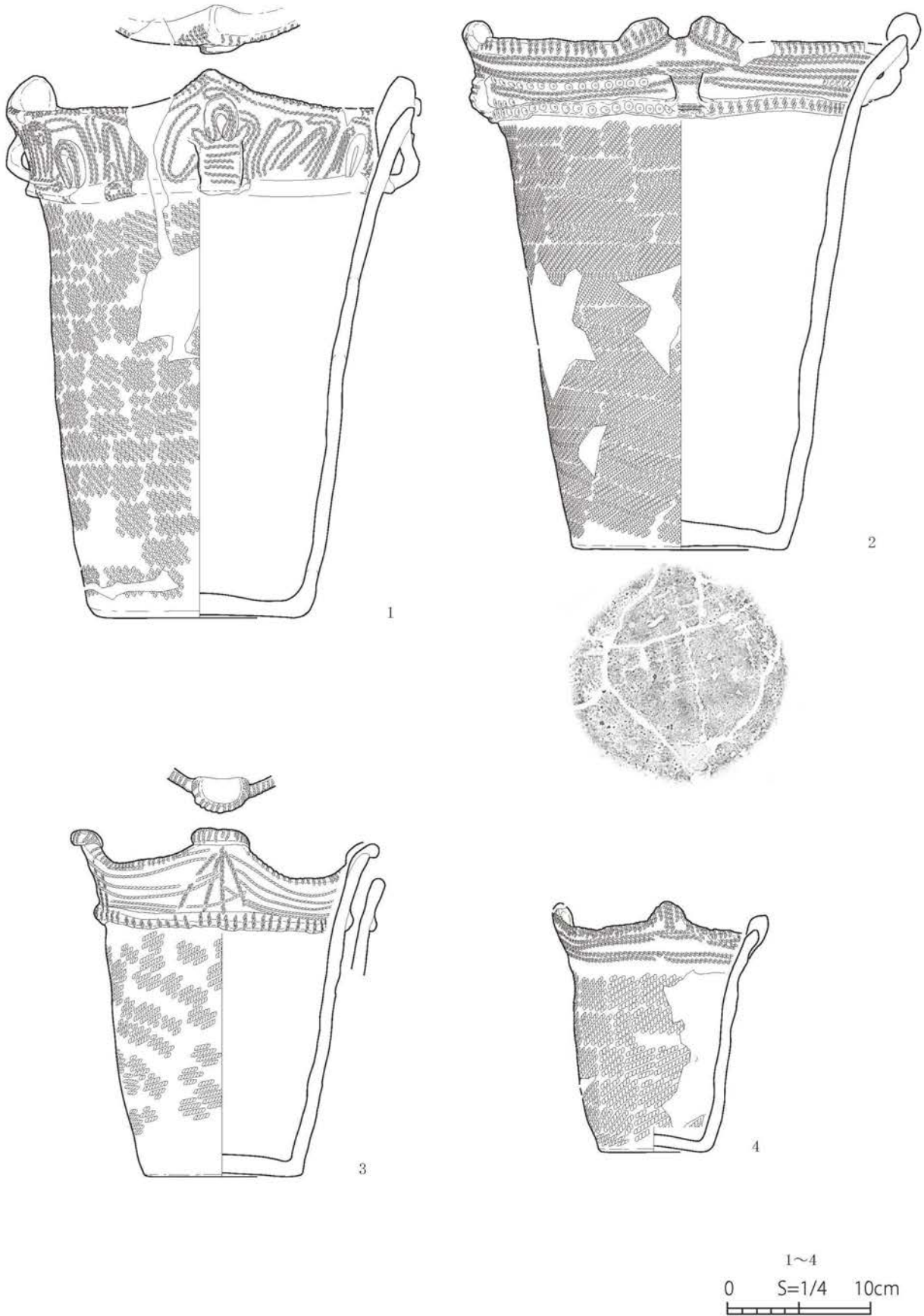


図66 土器34(捨て場⑰)

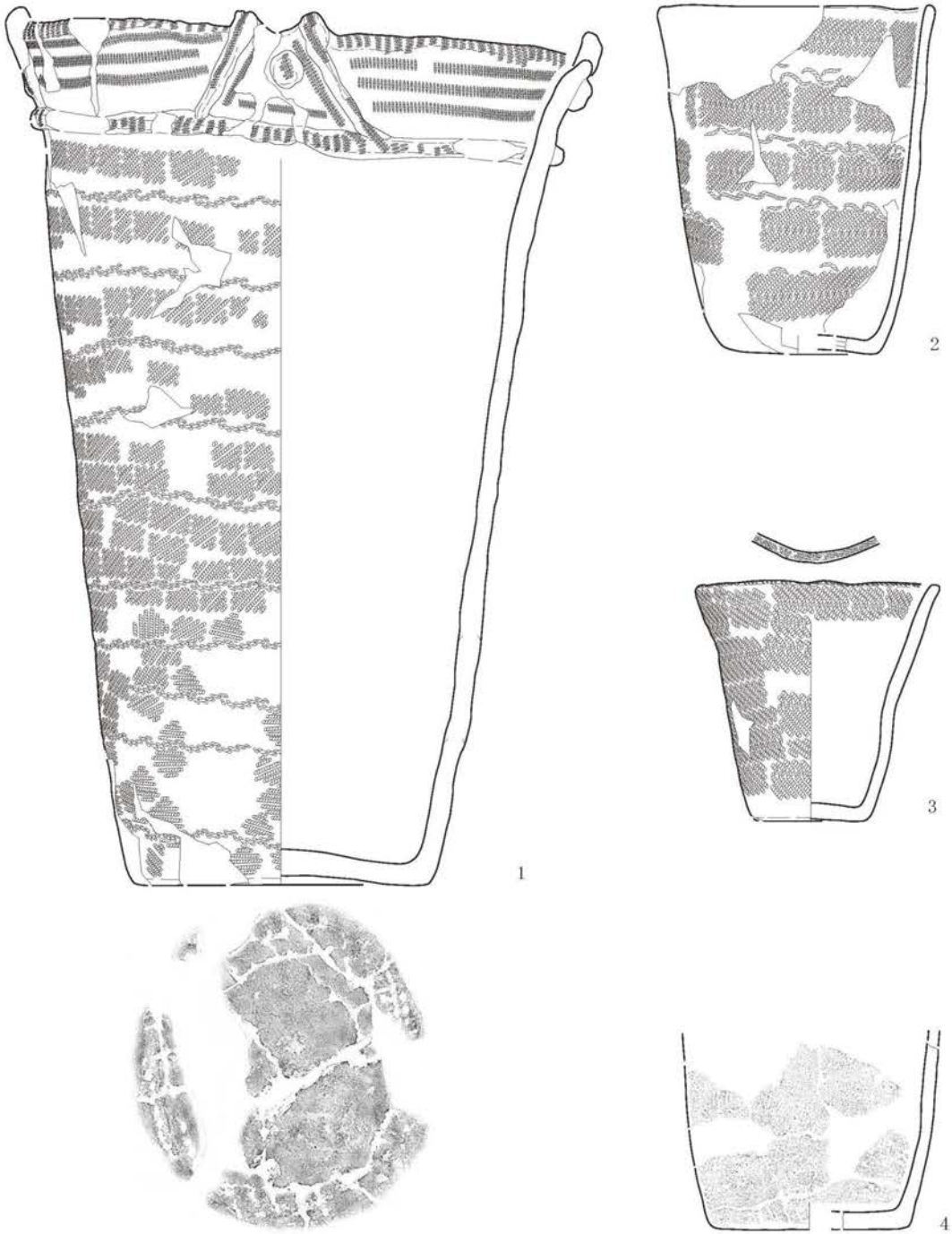


図67 土器35(捨て場⑩)

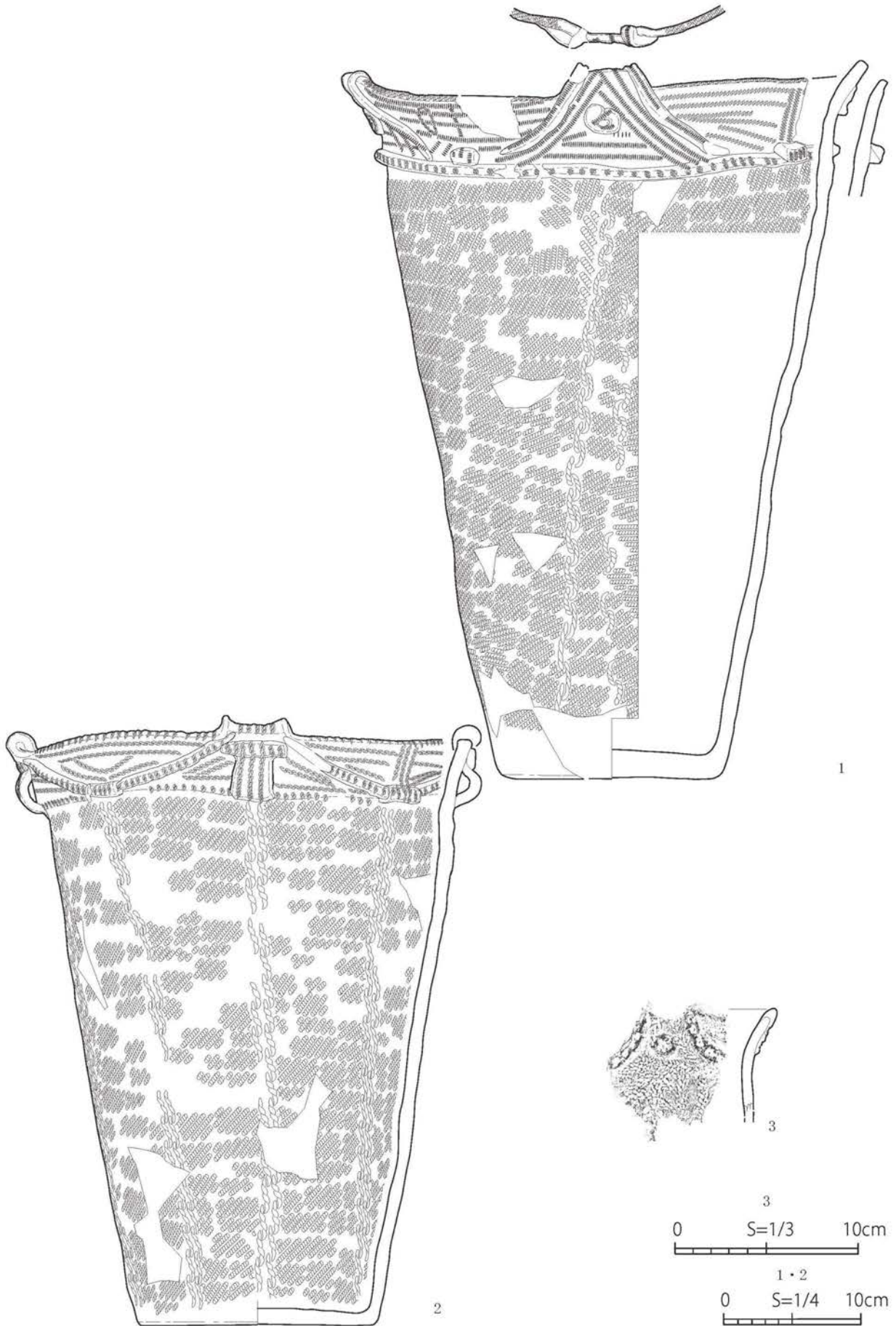
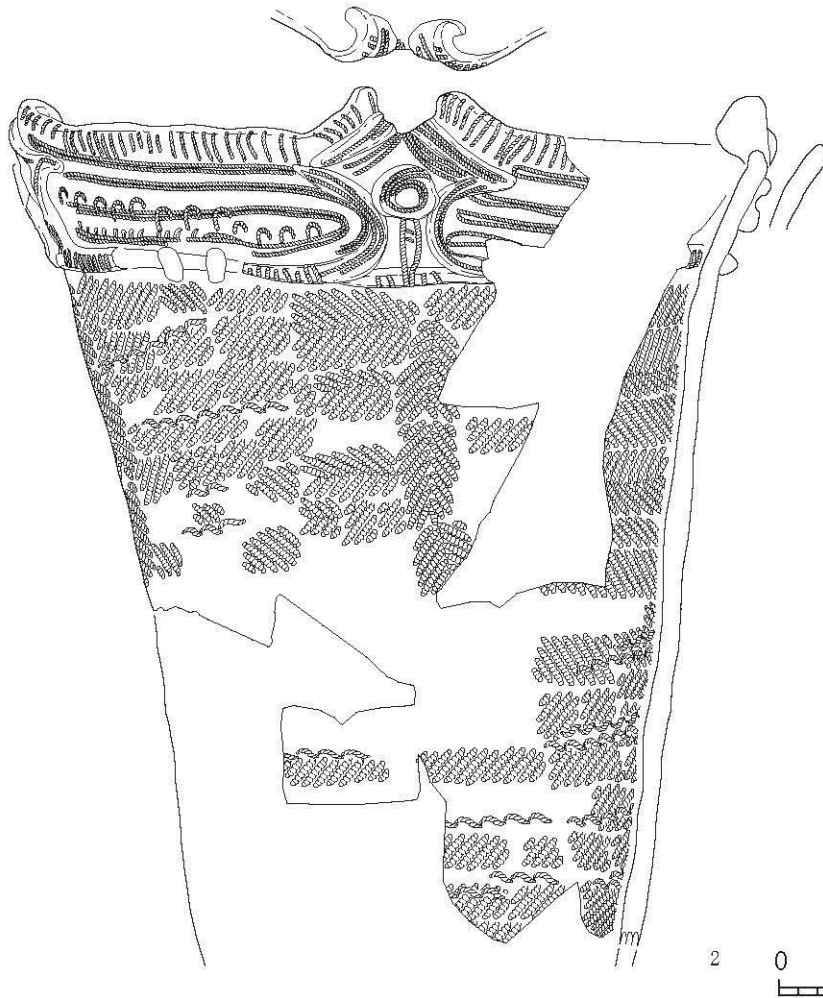
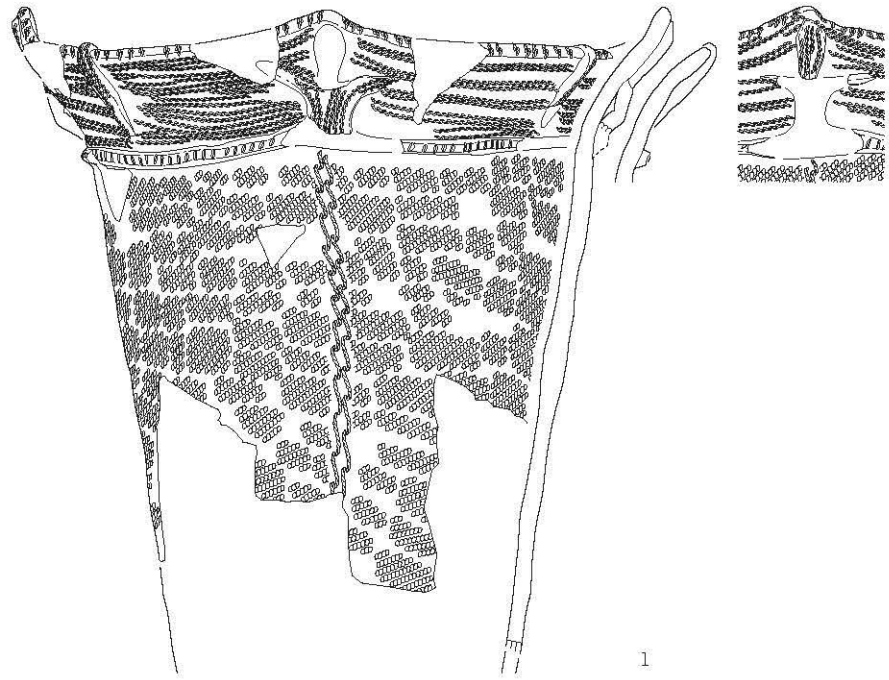


図68 土器36(捨て場⑱)



1・2
0 S=1/4 10cm

図69 土器37(捨て場②)

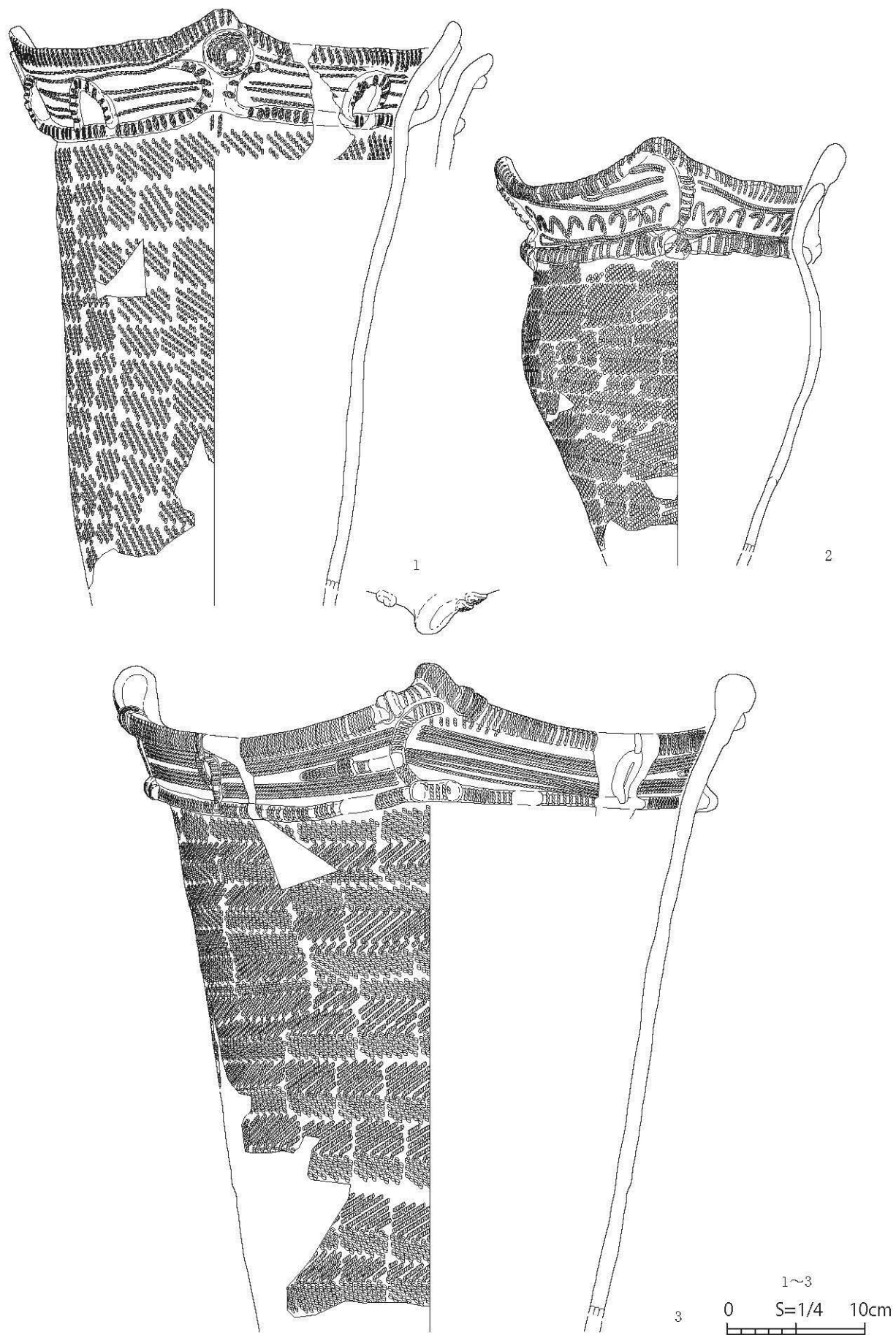


図70 土器38(捨て場②)

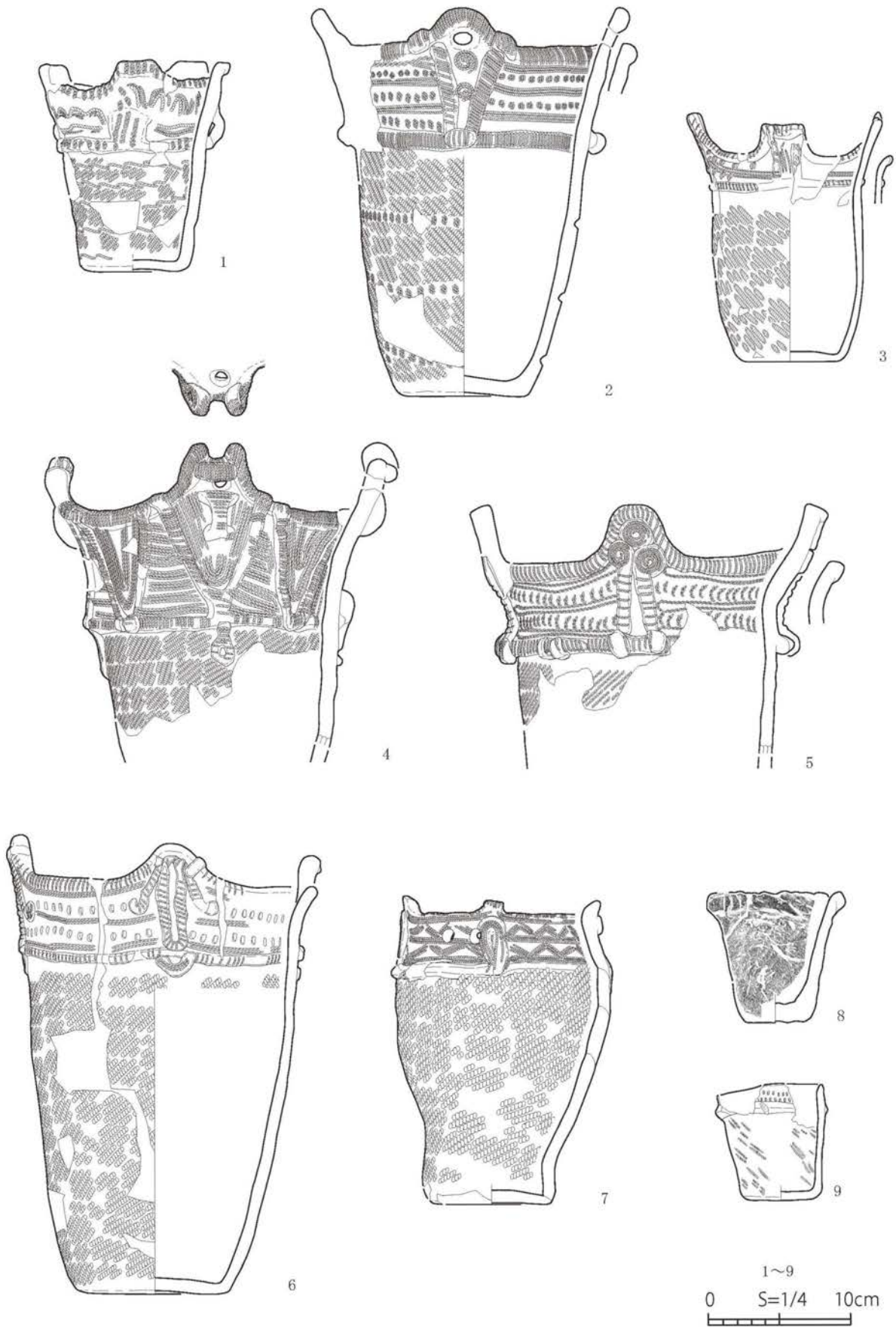


図71 土器39(捨て場②)

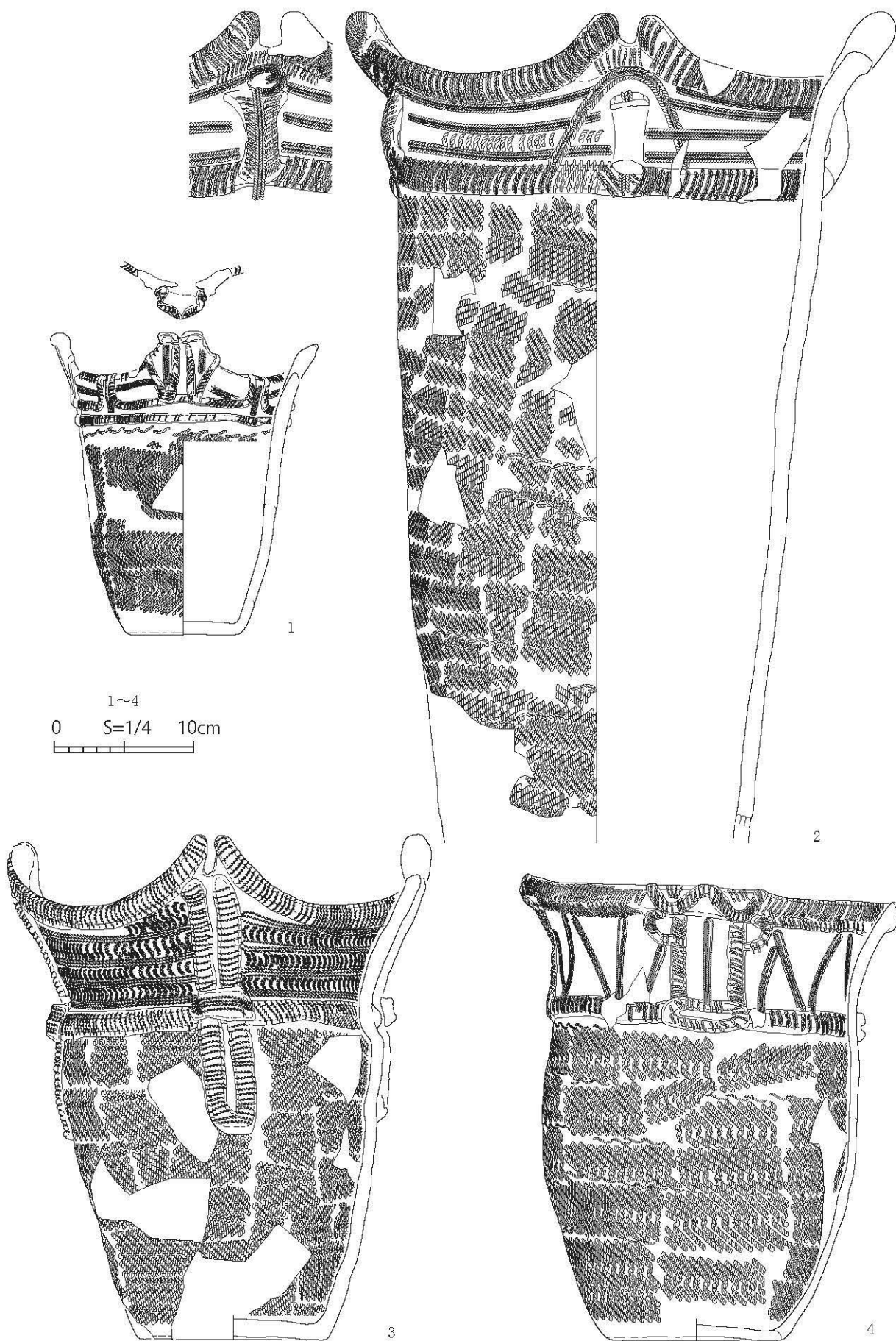


図72 土器40(捨て場㉓)

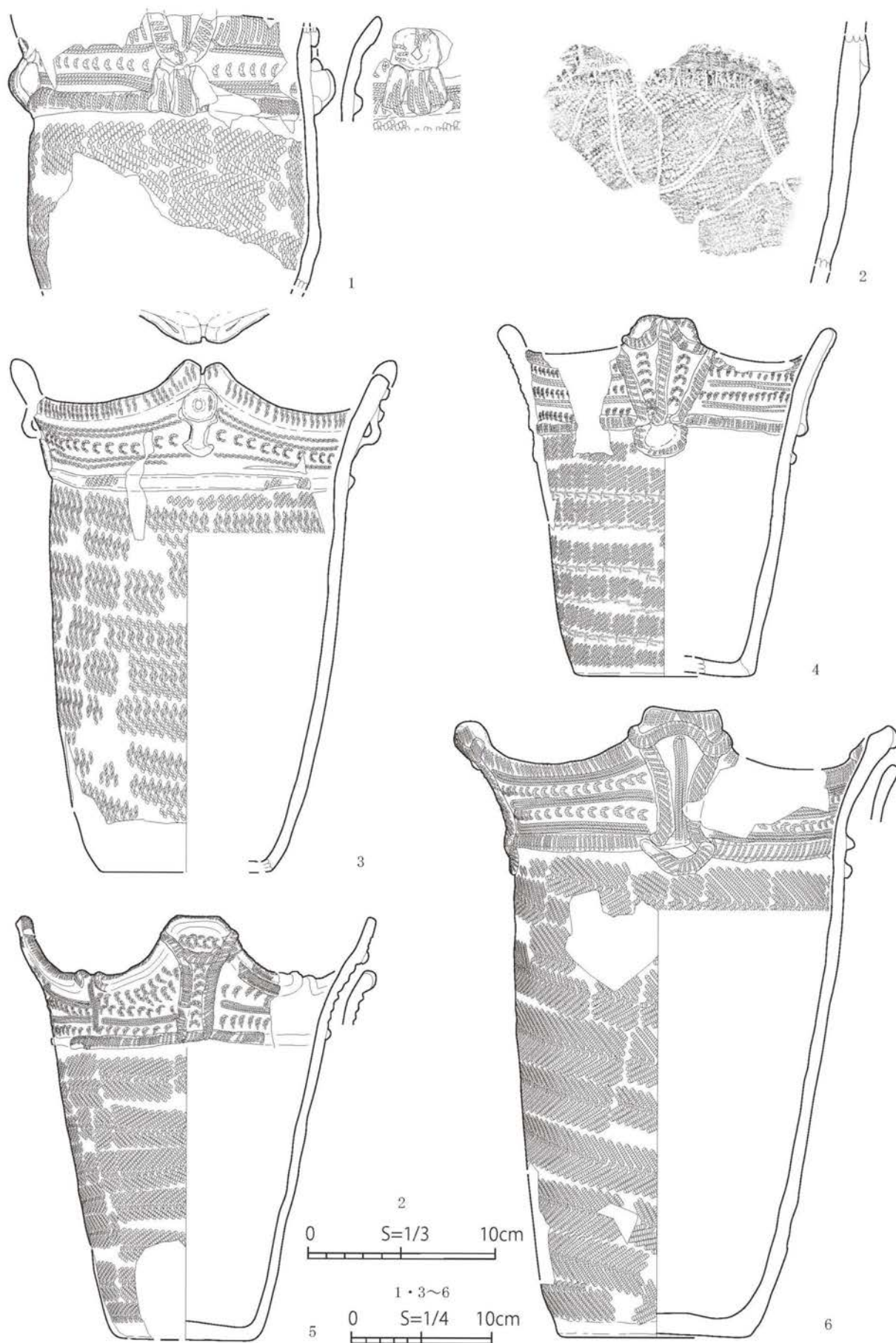


図73 土器41(捨て場②)

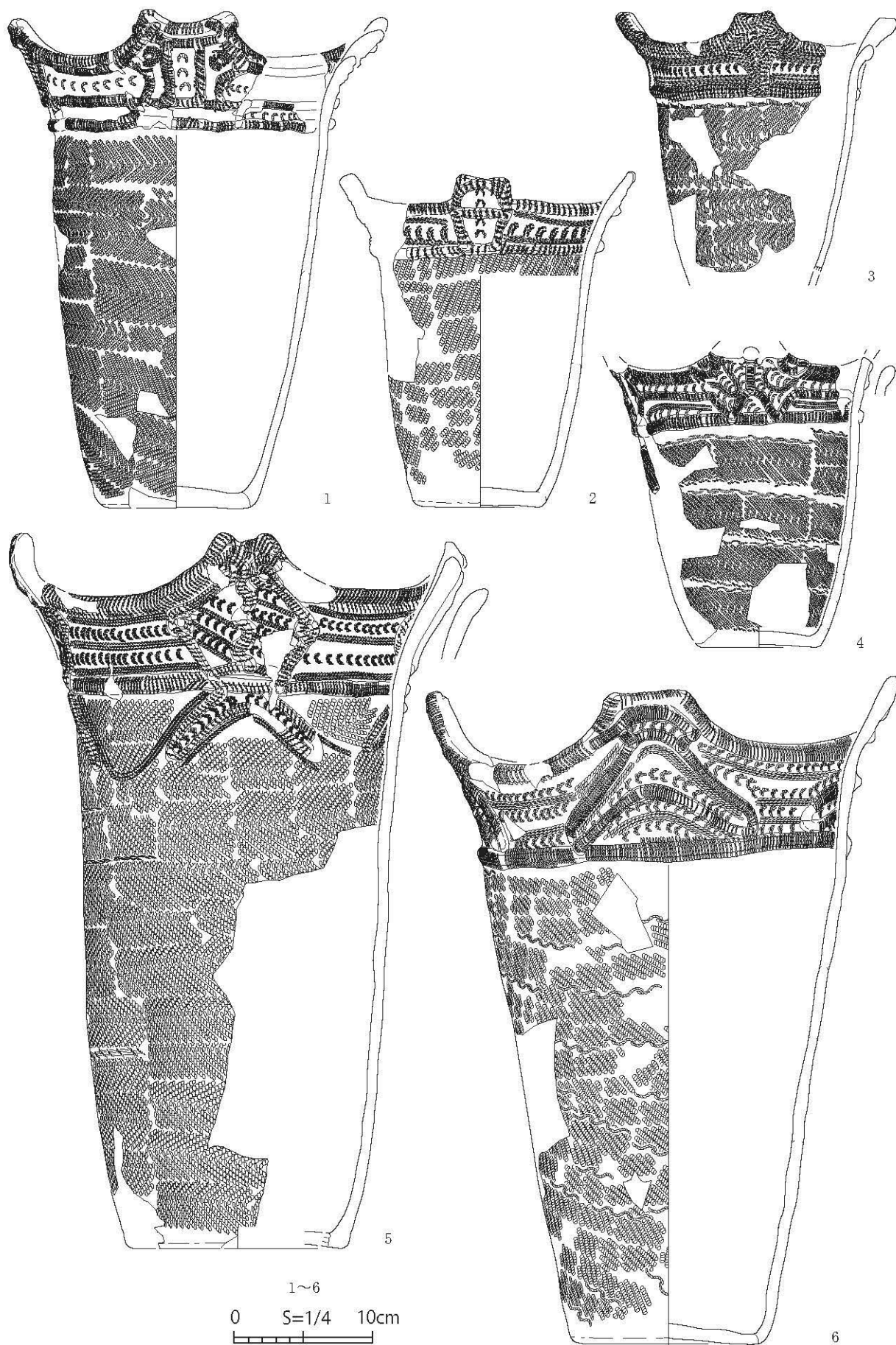


図74 土器42(捨て場②)



図75 土器43(捨て場②)

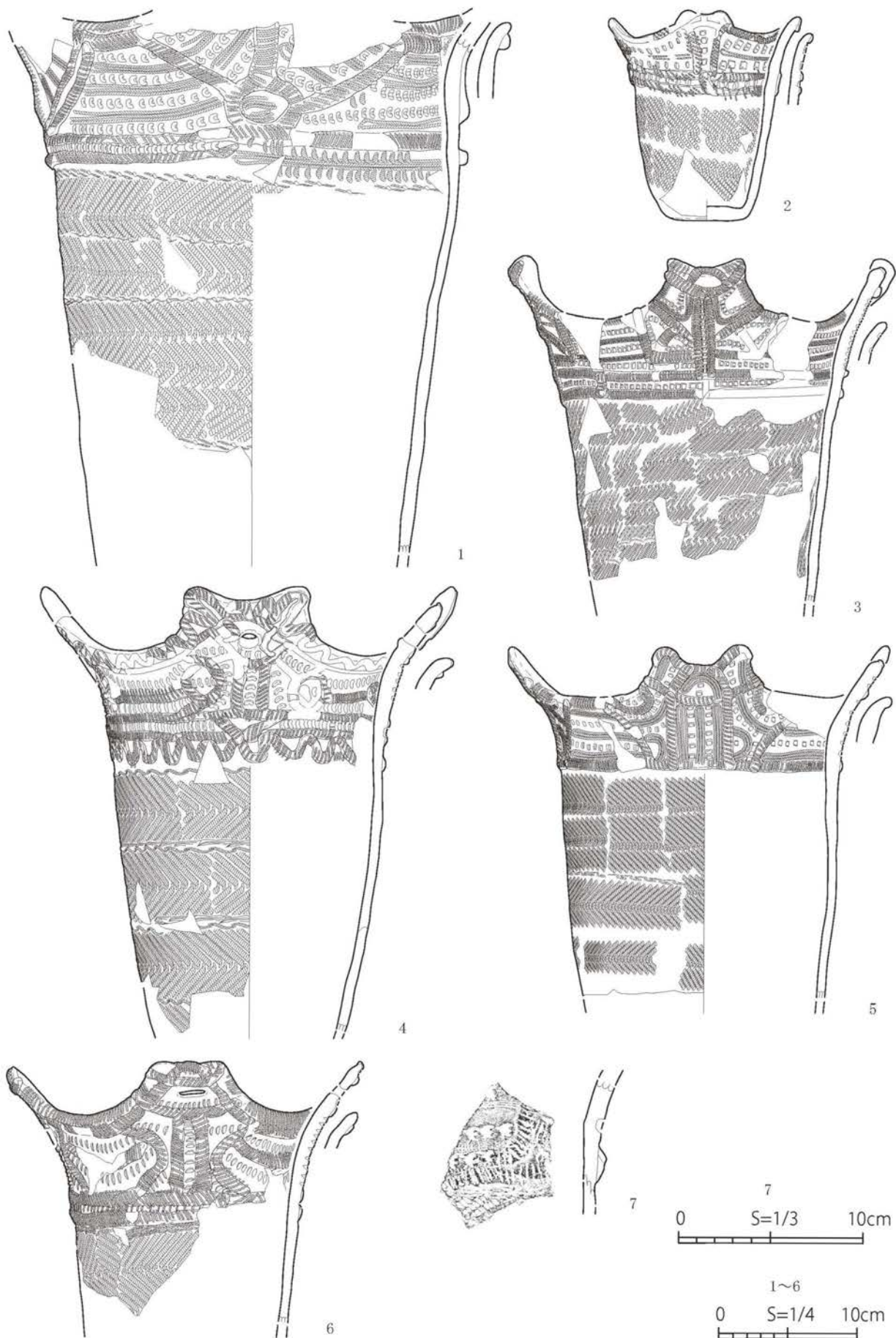


図76 土器44(捨て場②)

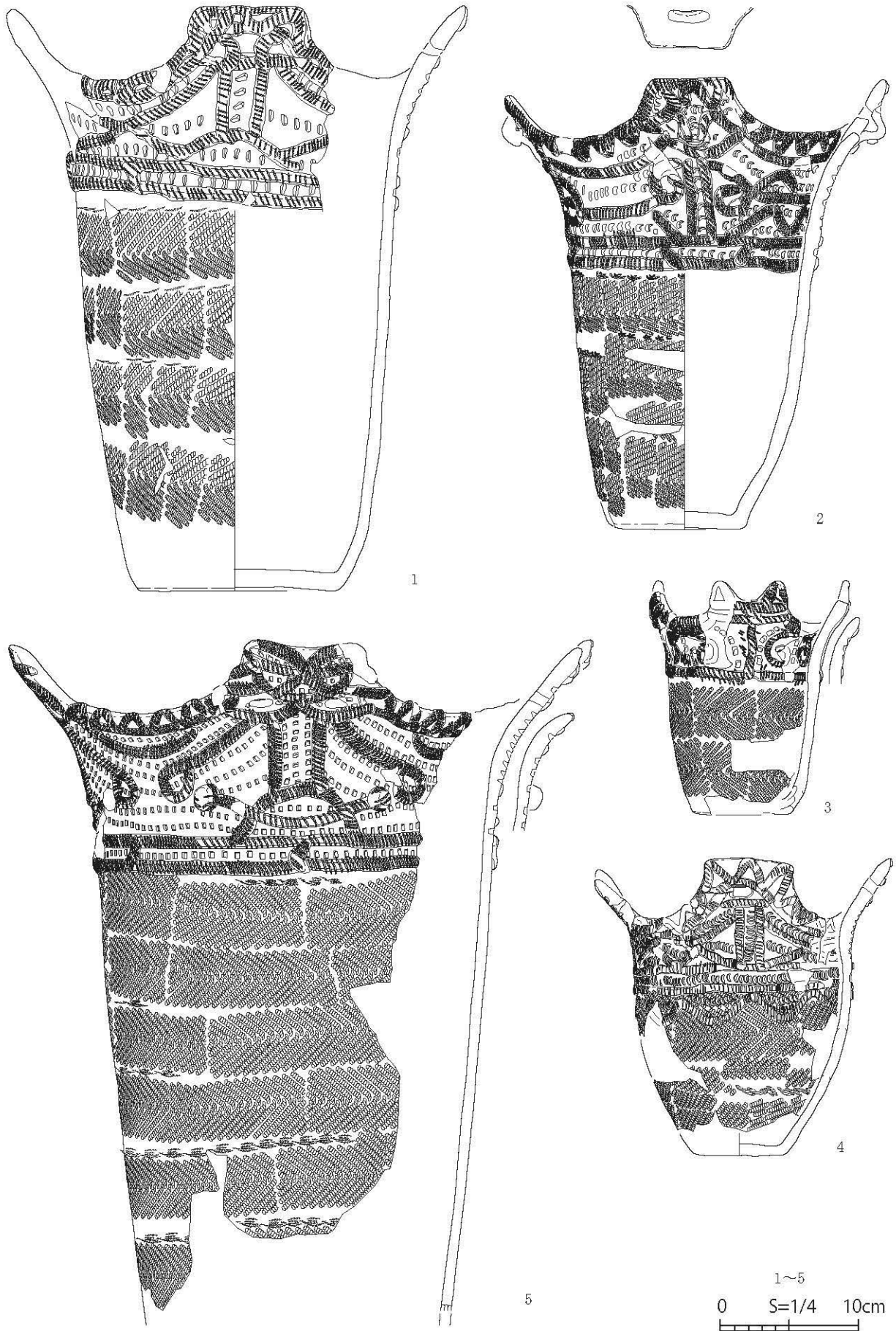


図77 土器45(捨て場②)

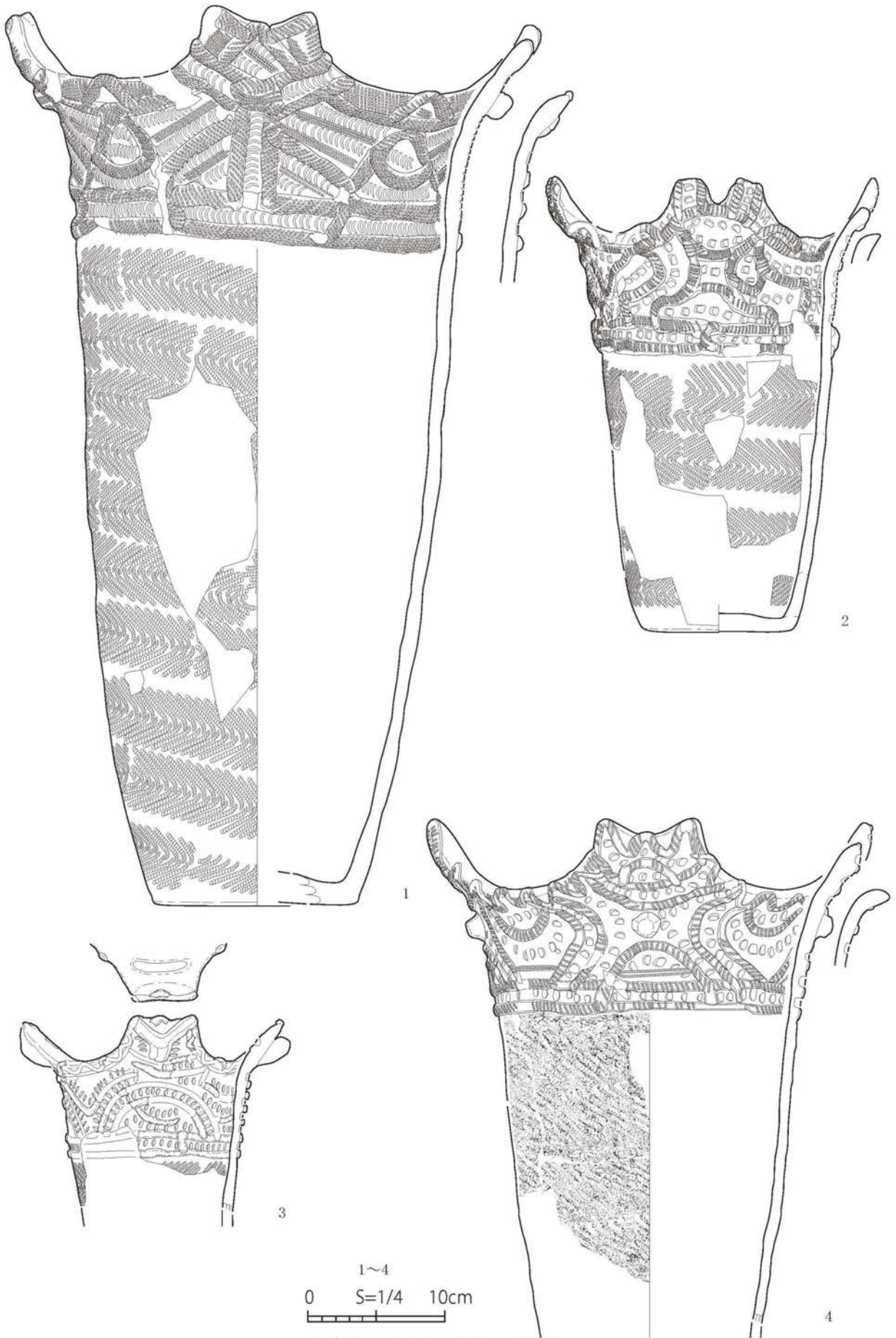


図78 土器46(捨て場②)

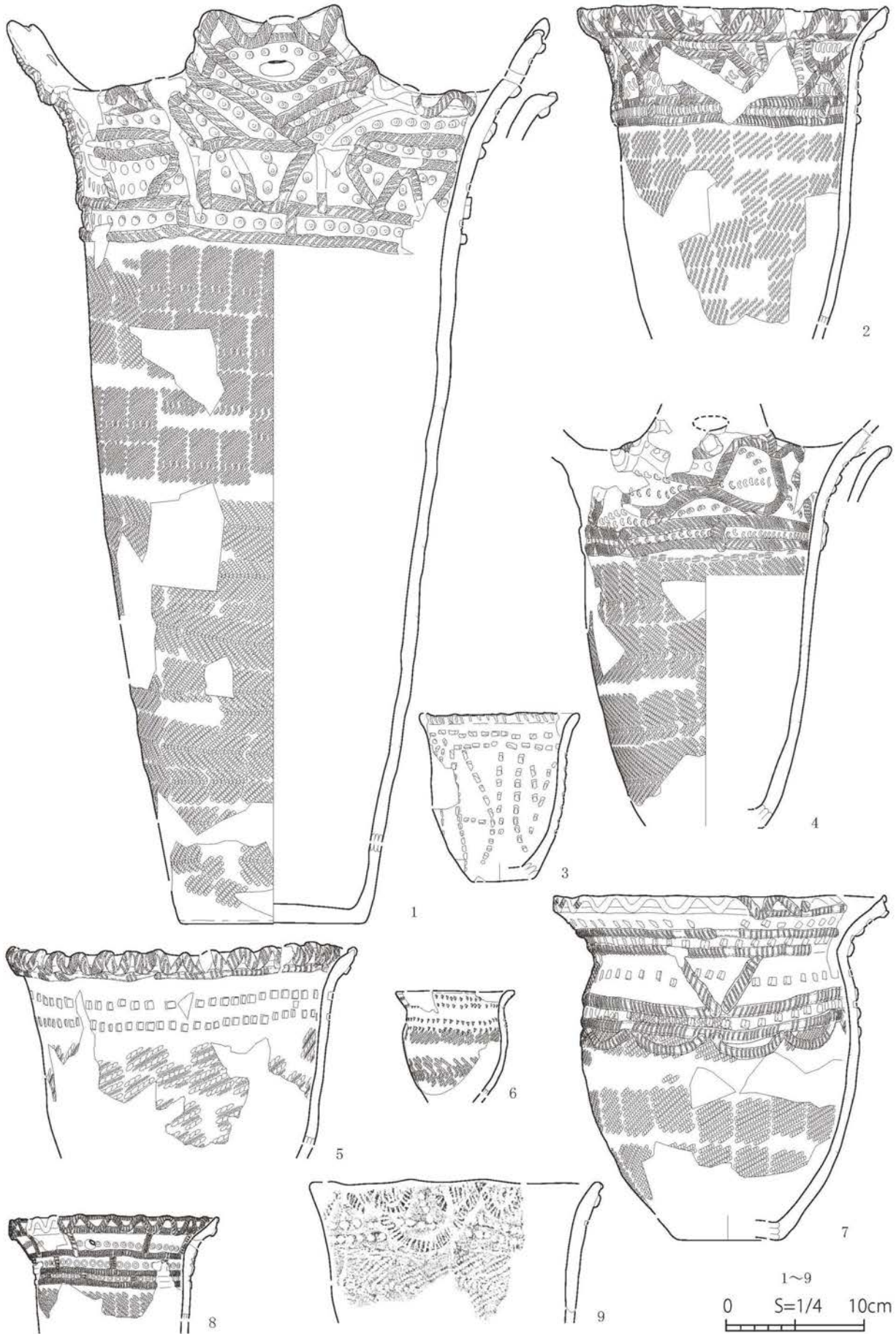


图79 土器47(捨て場③)

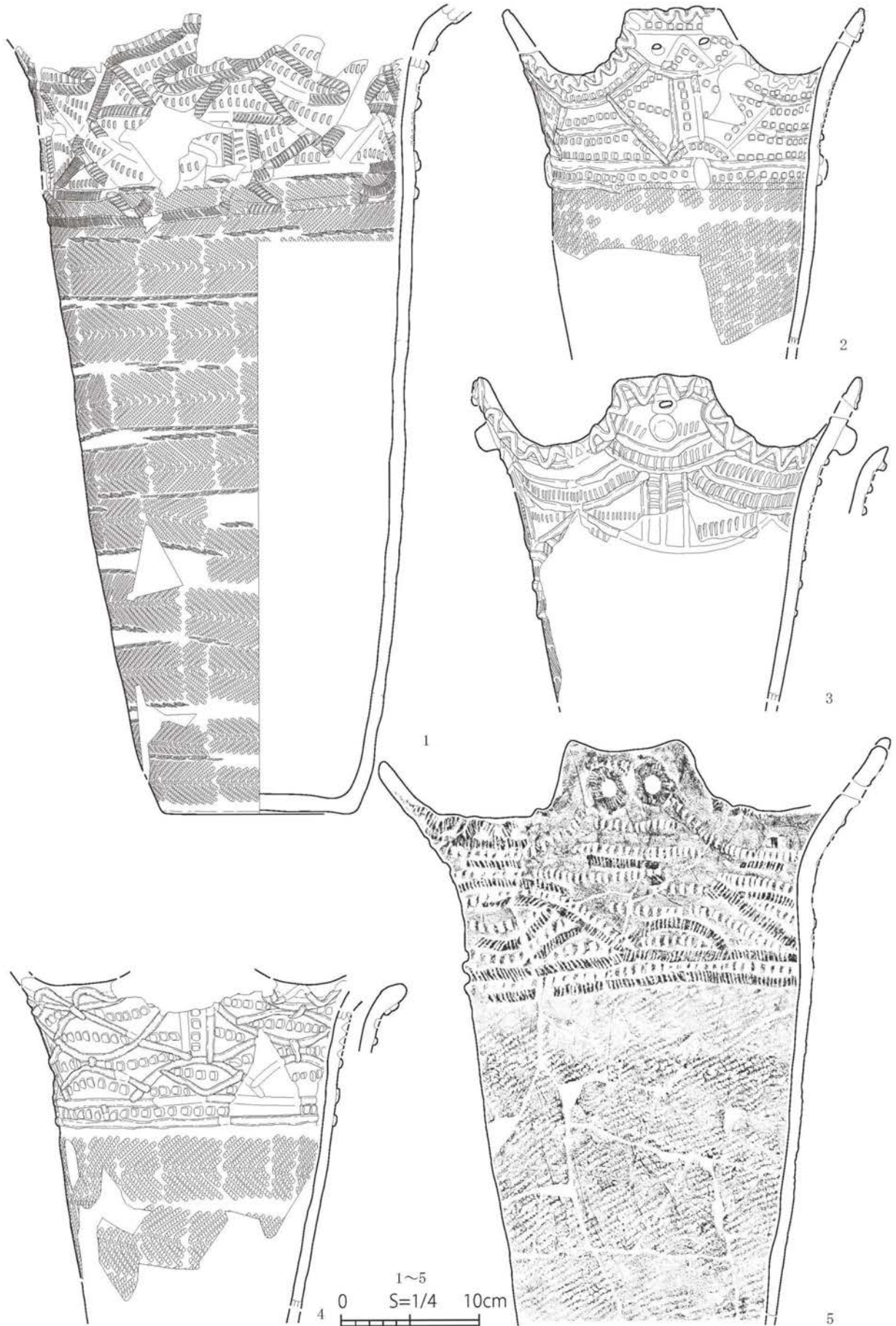


図80 土器48(捨て場③)

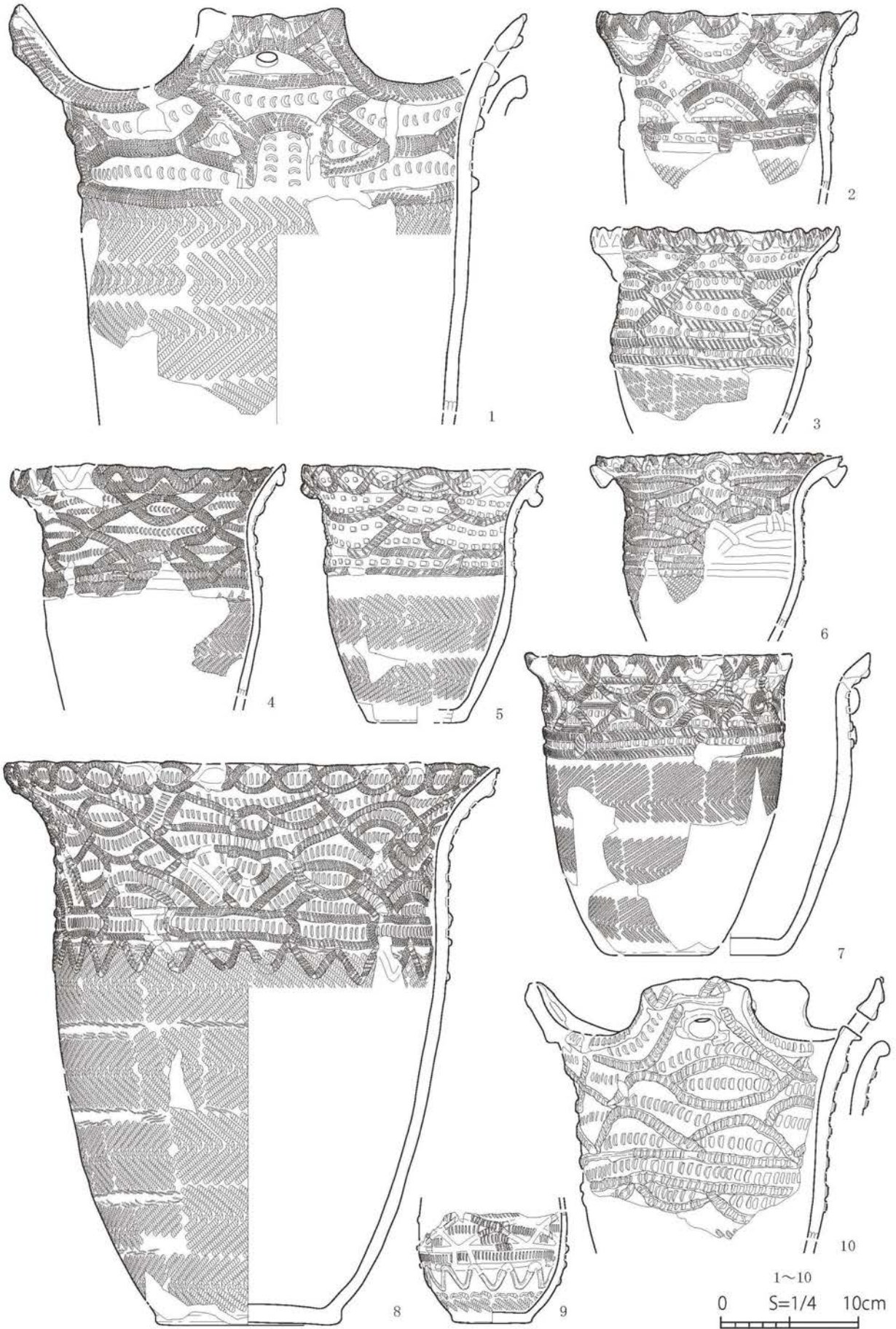


图81 土器49(捨て場③)

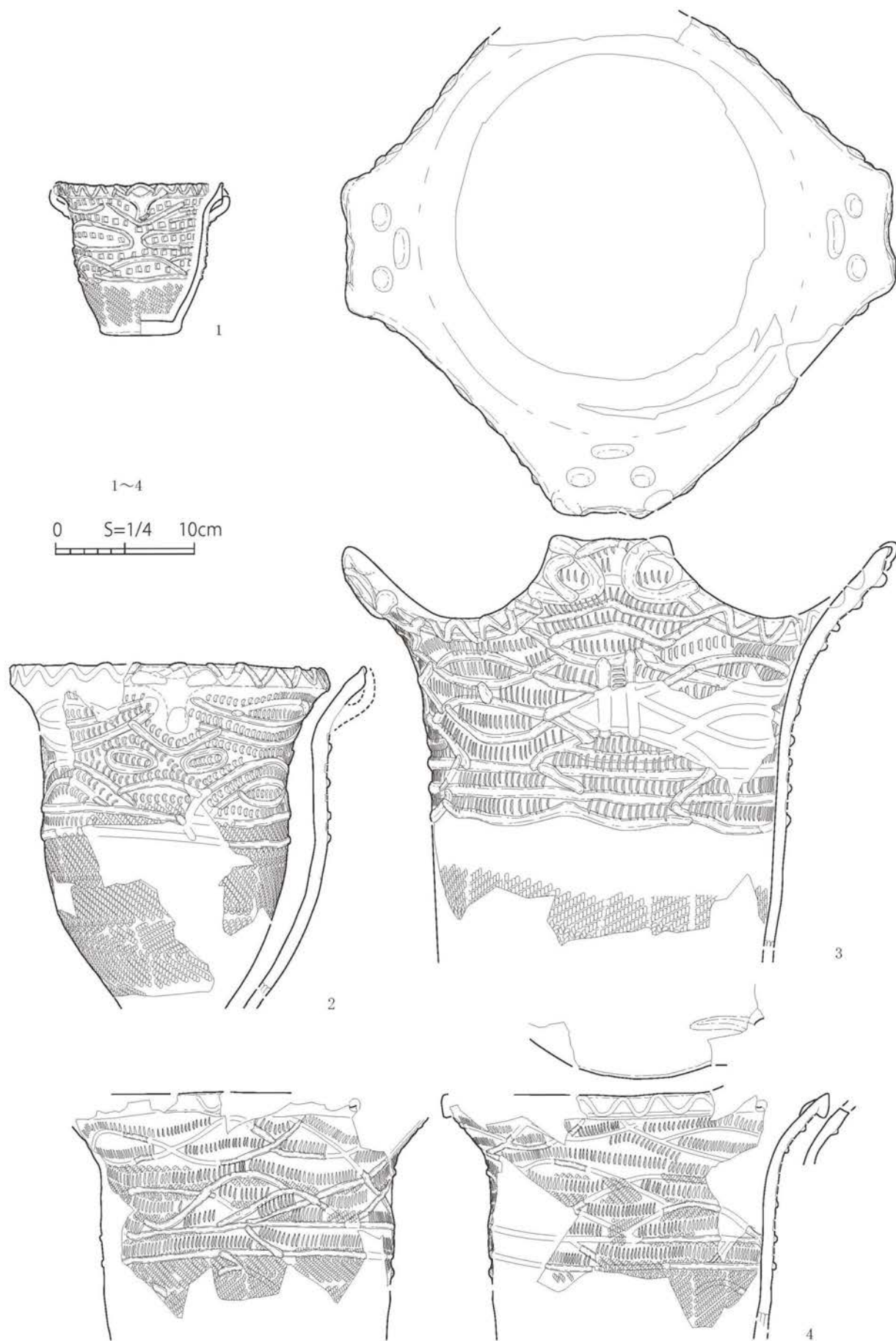


図82 土器50(捨て場③)



図83 土器51(捨て場③)

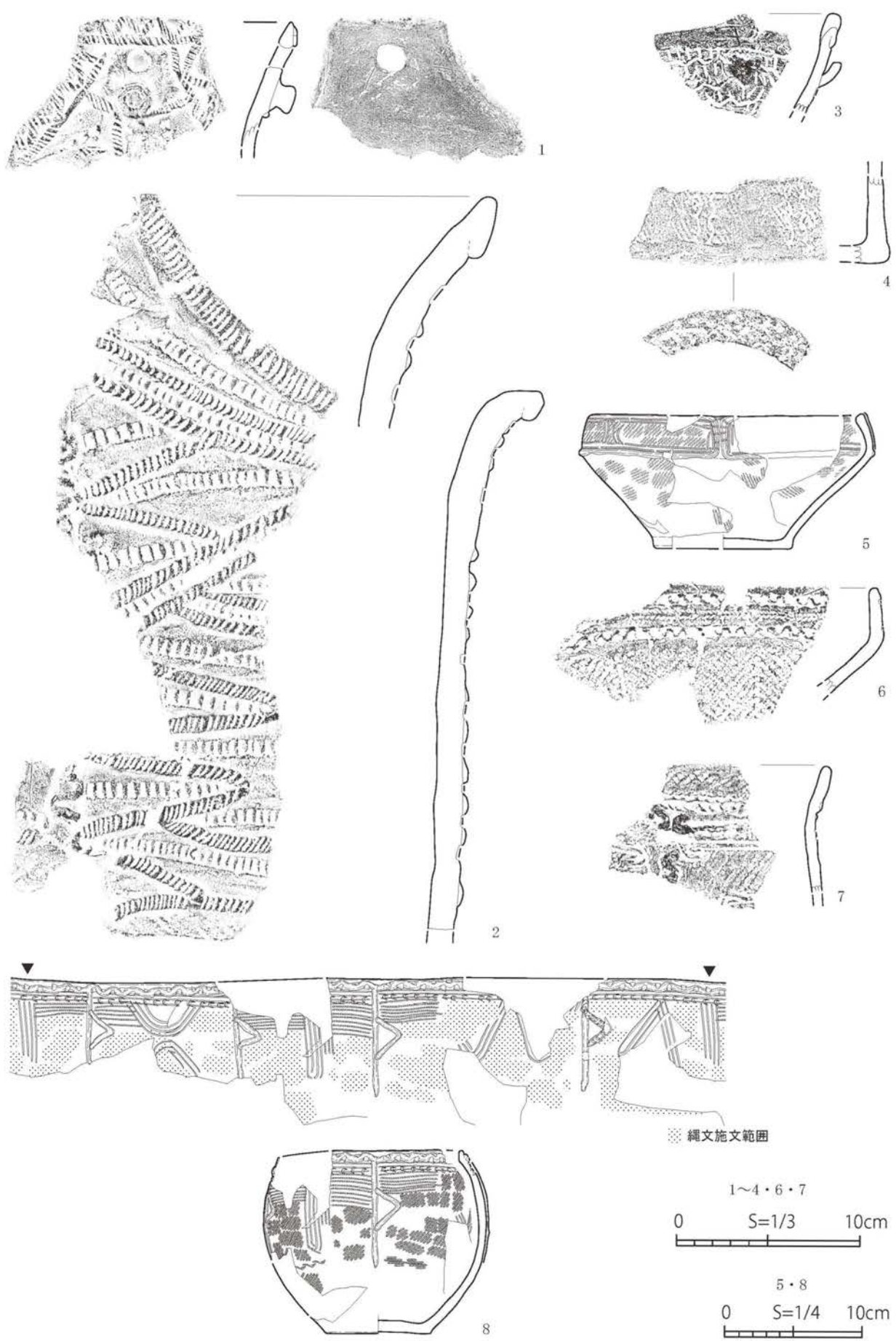


図84 土器52(捨て場③)

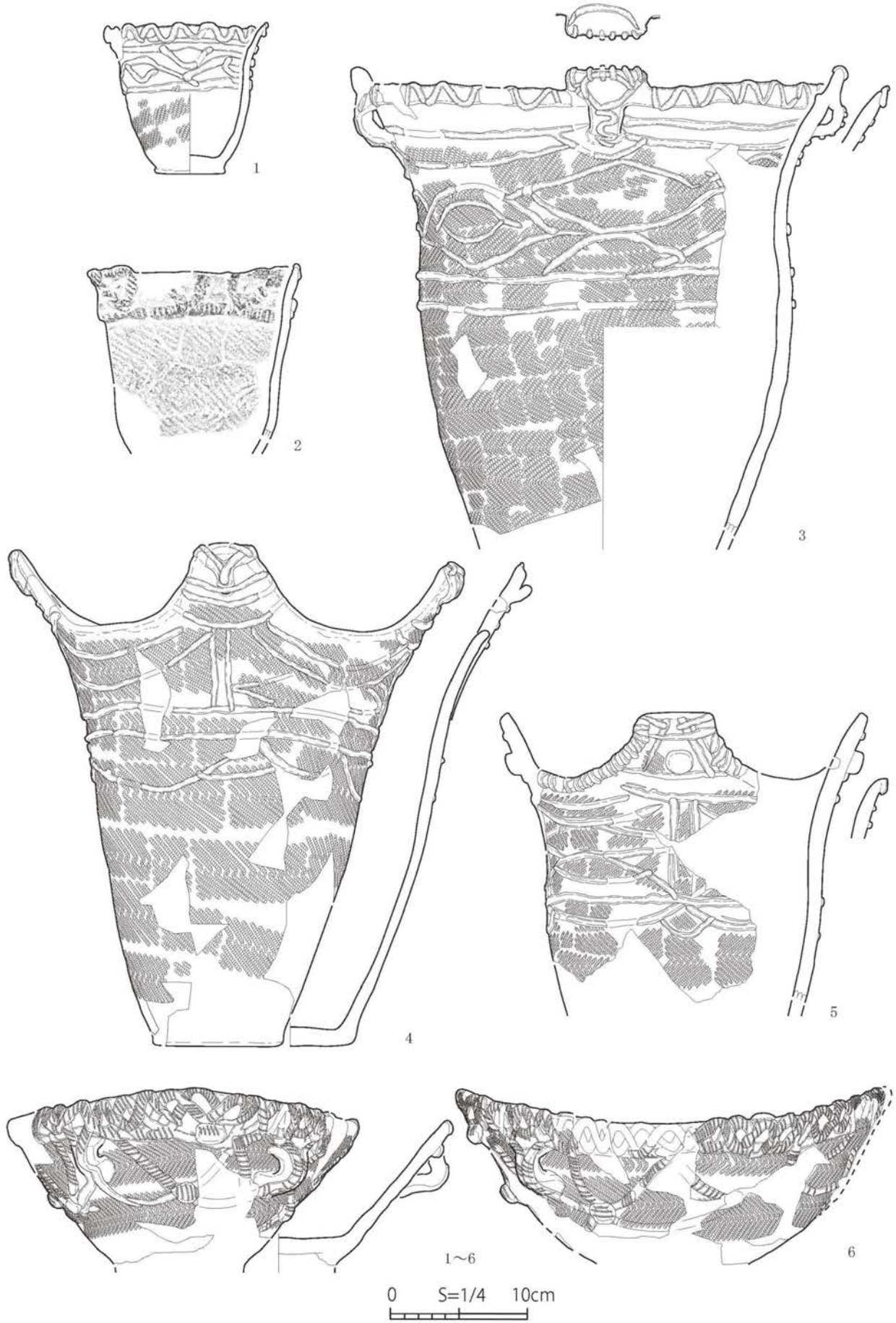


図85 土器53(捨て場③)

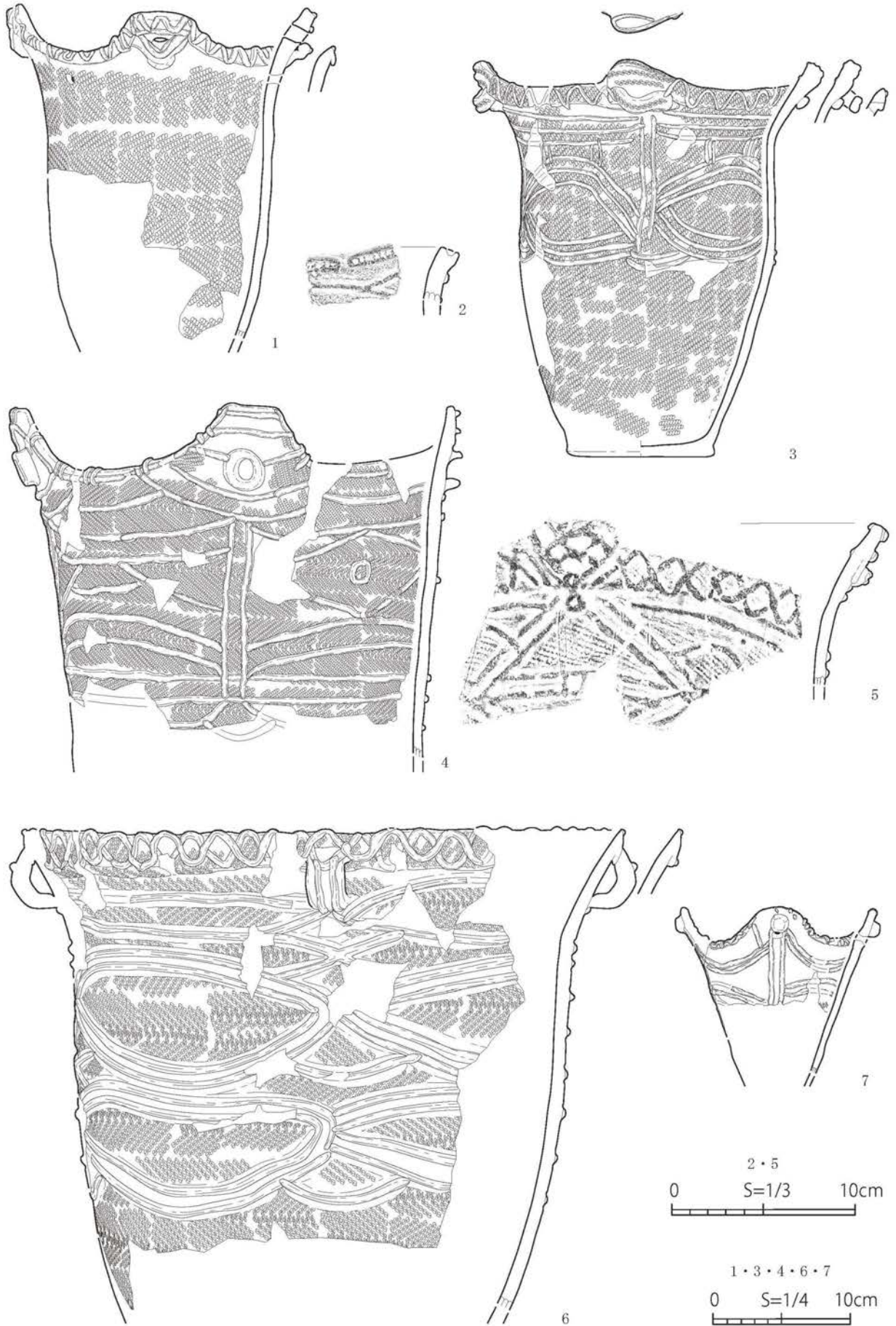


図86 土器54(捨て場③)



图87 土器55(捨て場38)

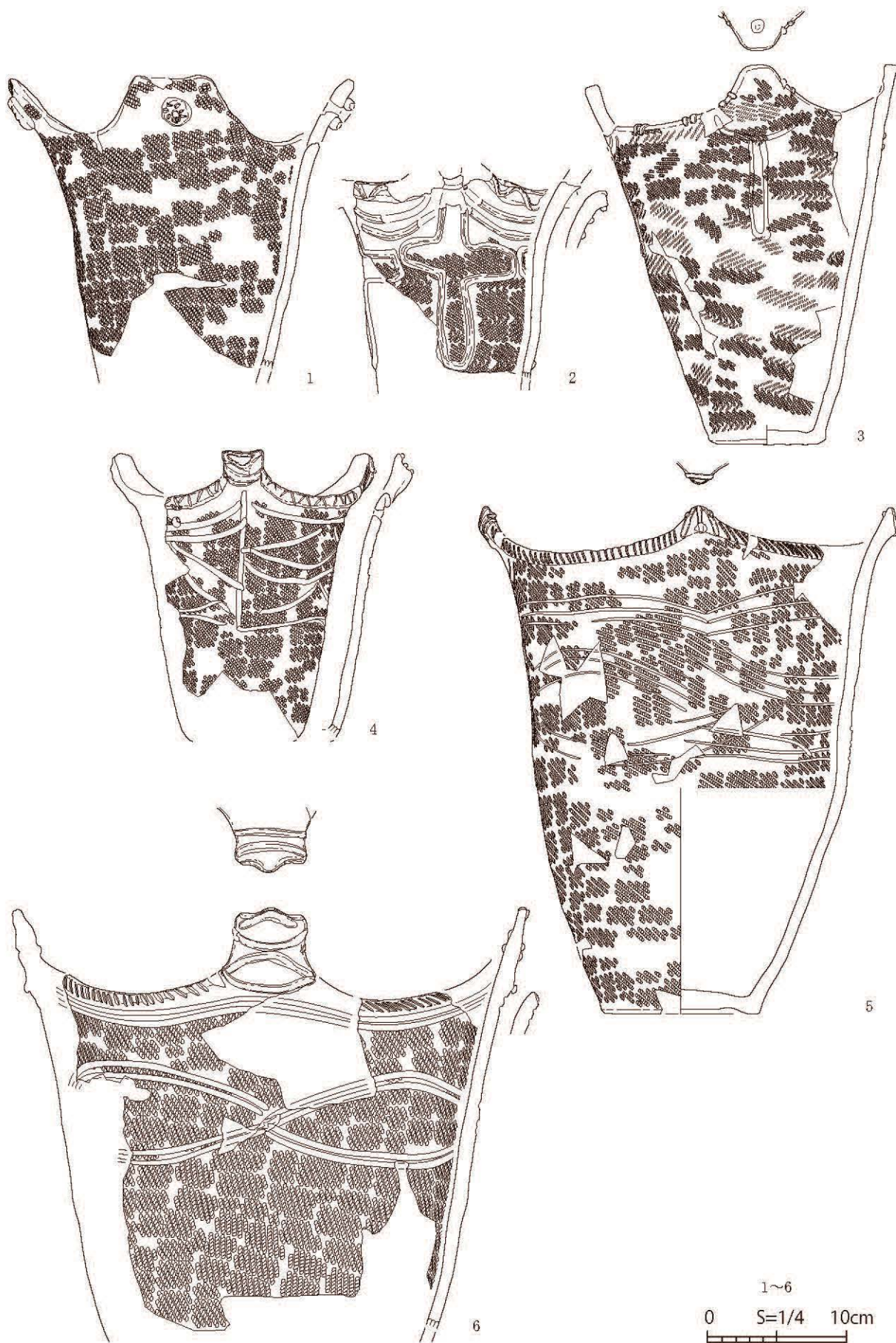


図88 土器56(捨て場③)

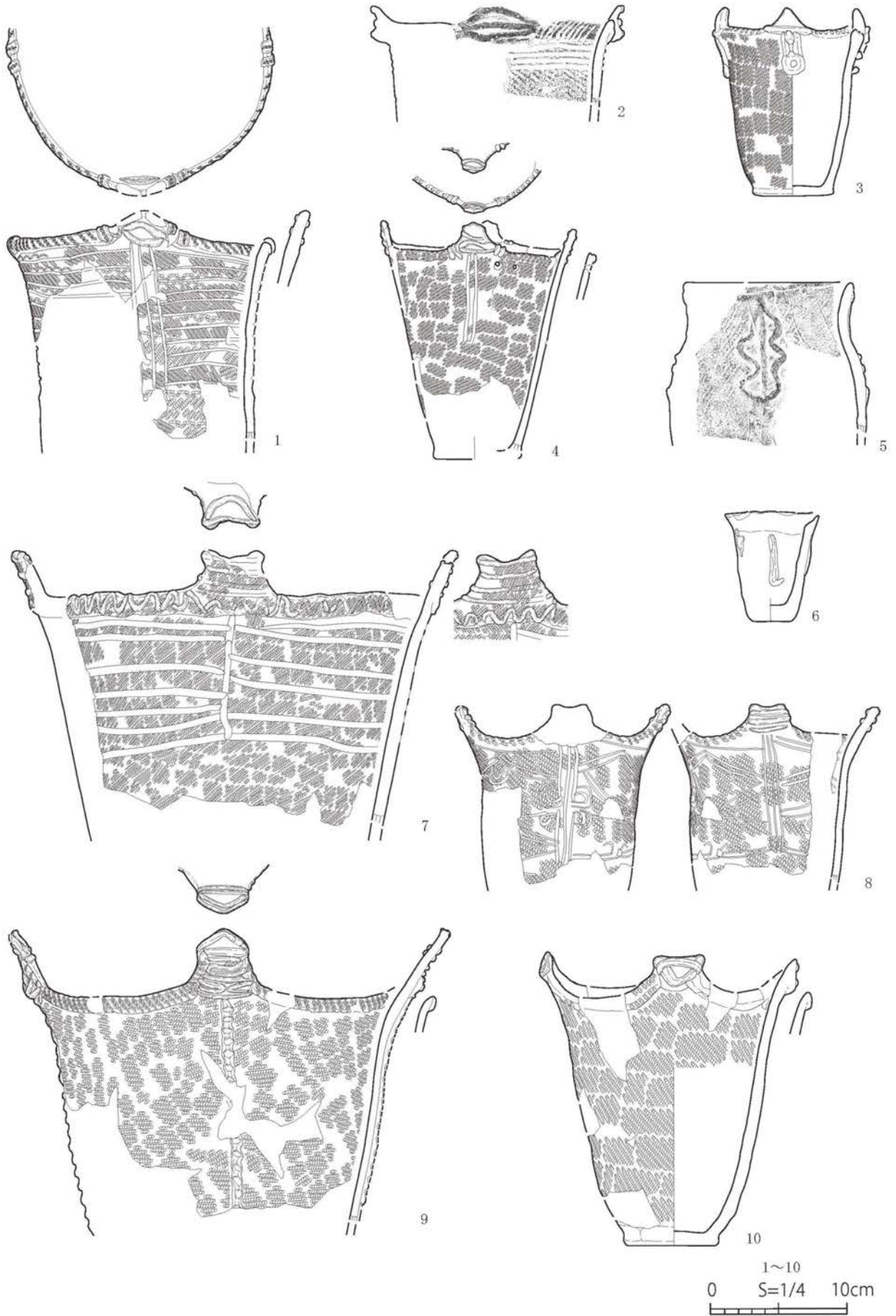


図89 土器57(捨て場④)



図90 土器58(捨て場④)

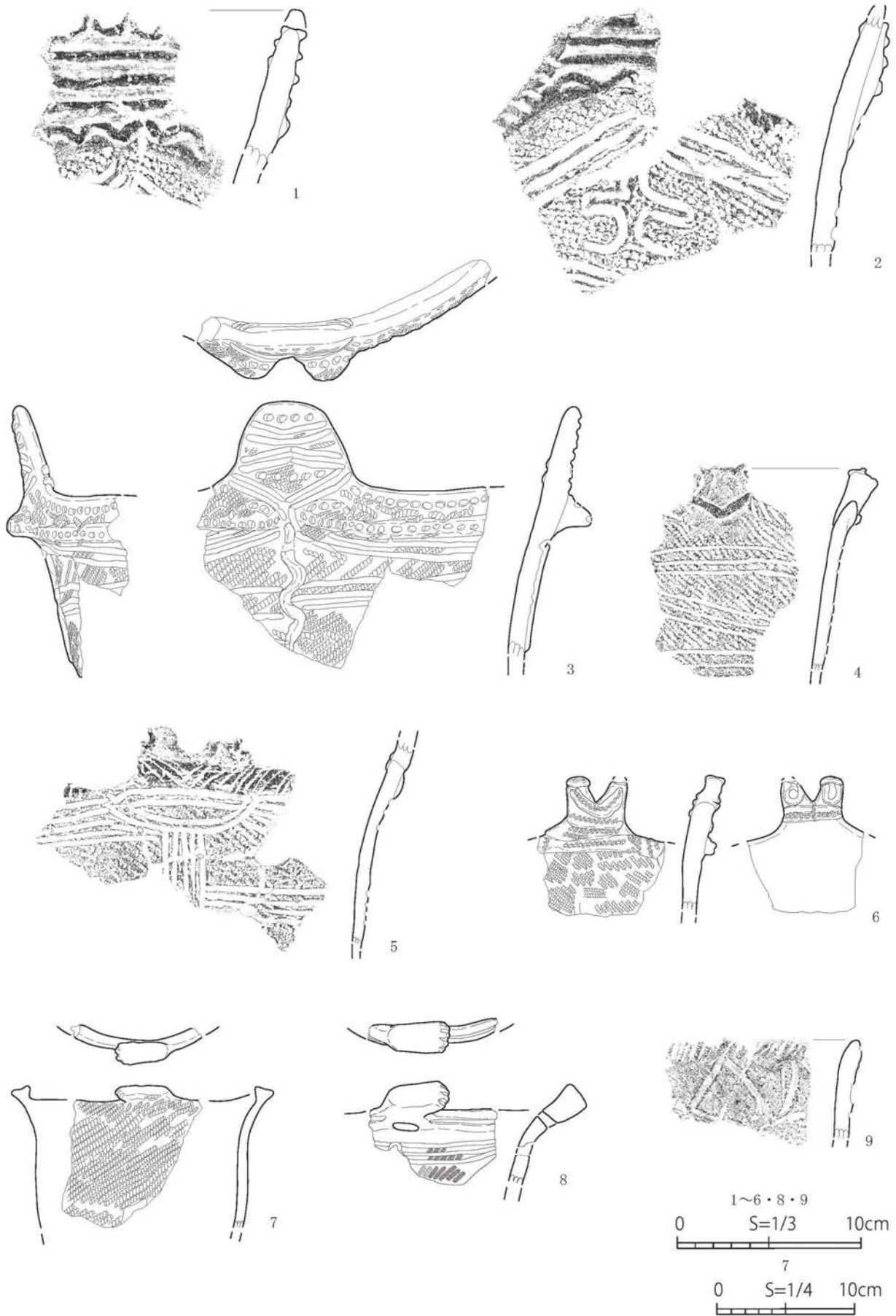


図91 土器59(捨て場④)

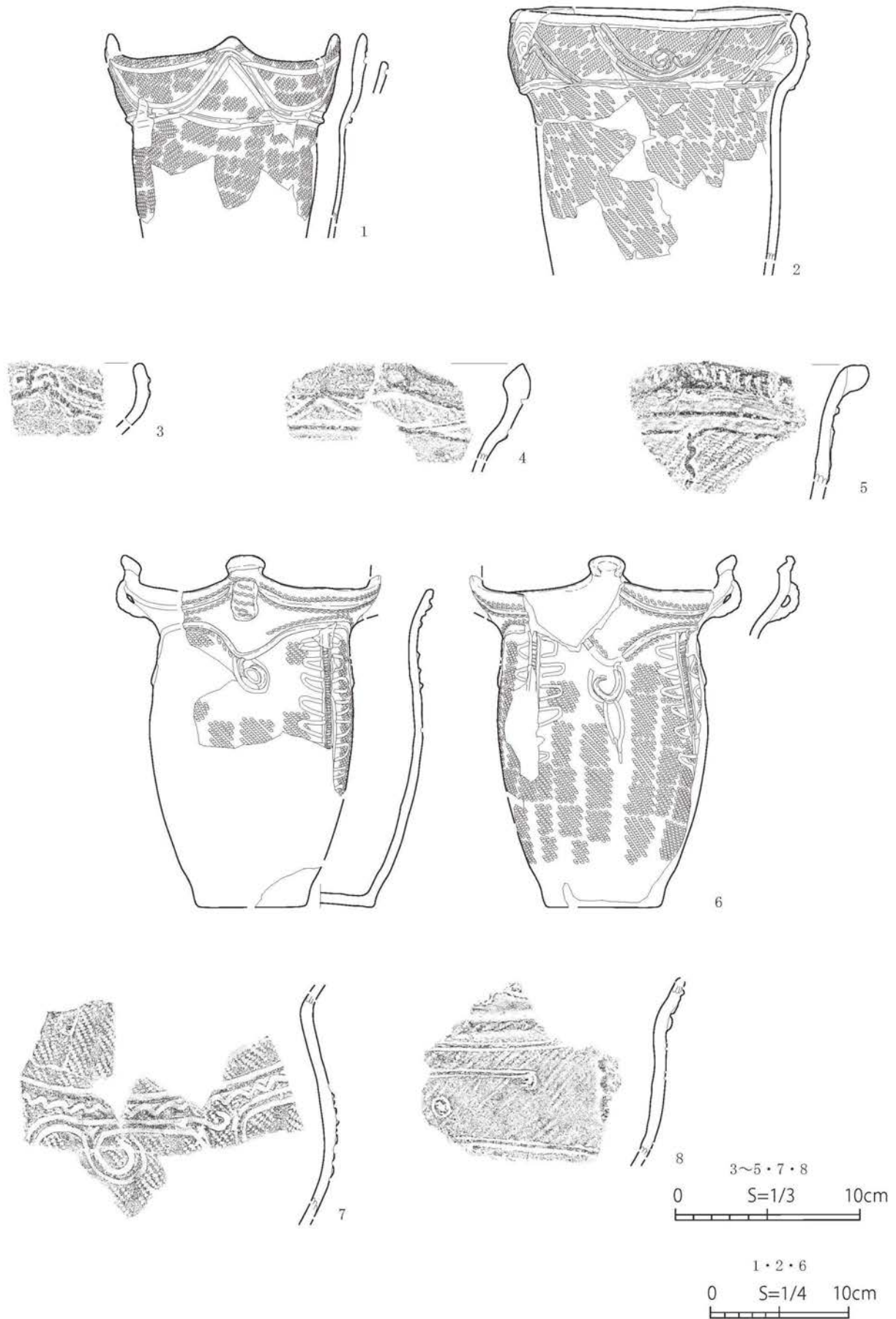


図92 土器60(捨て場④)

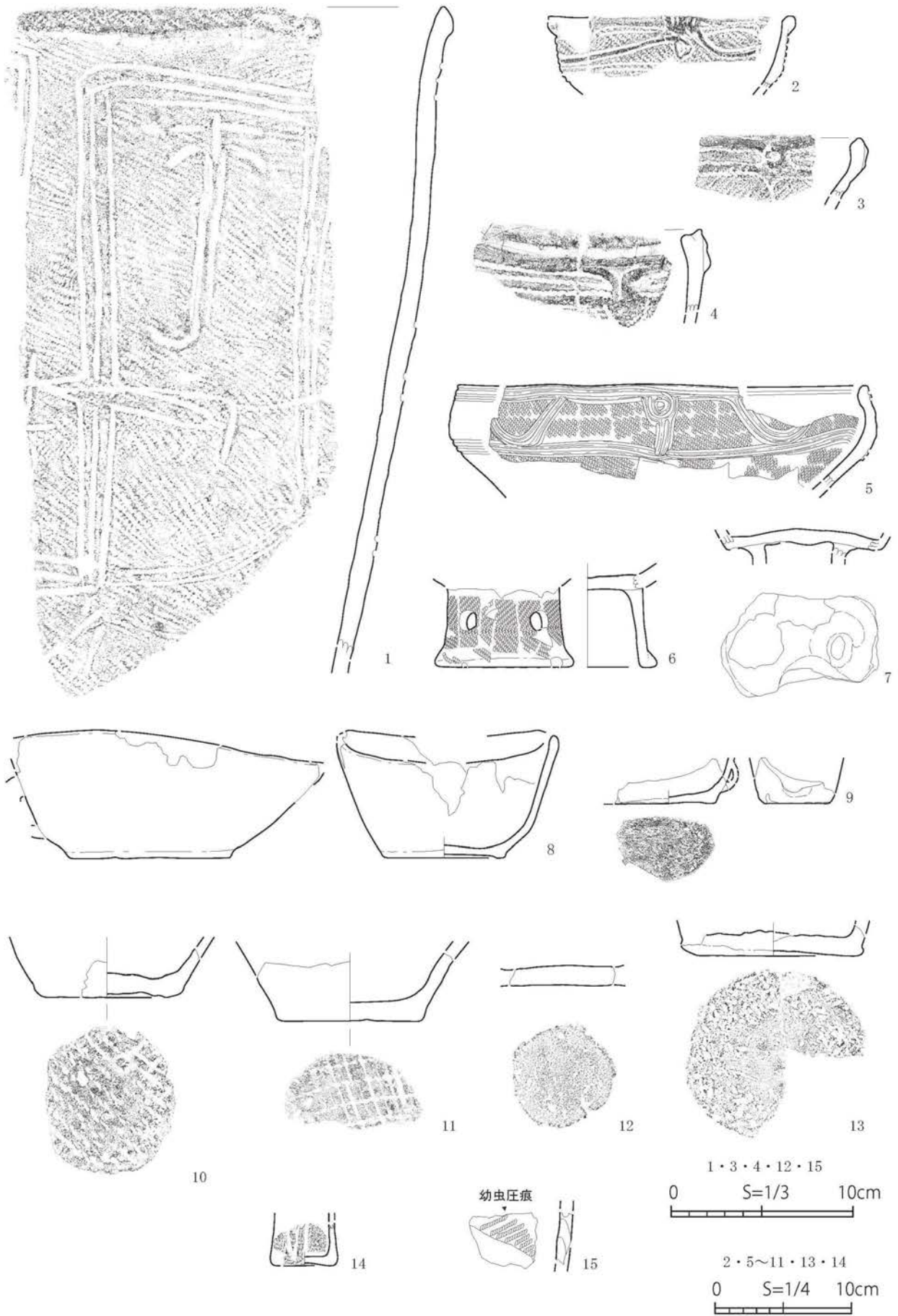


图93 土器61(捨て場④)

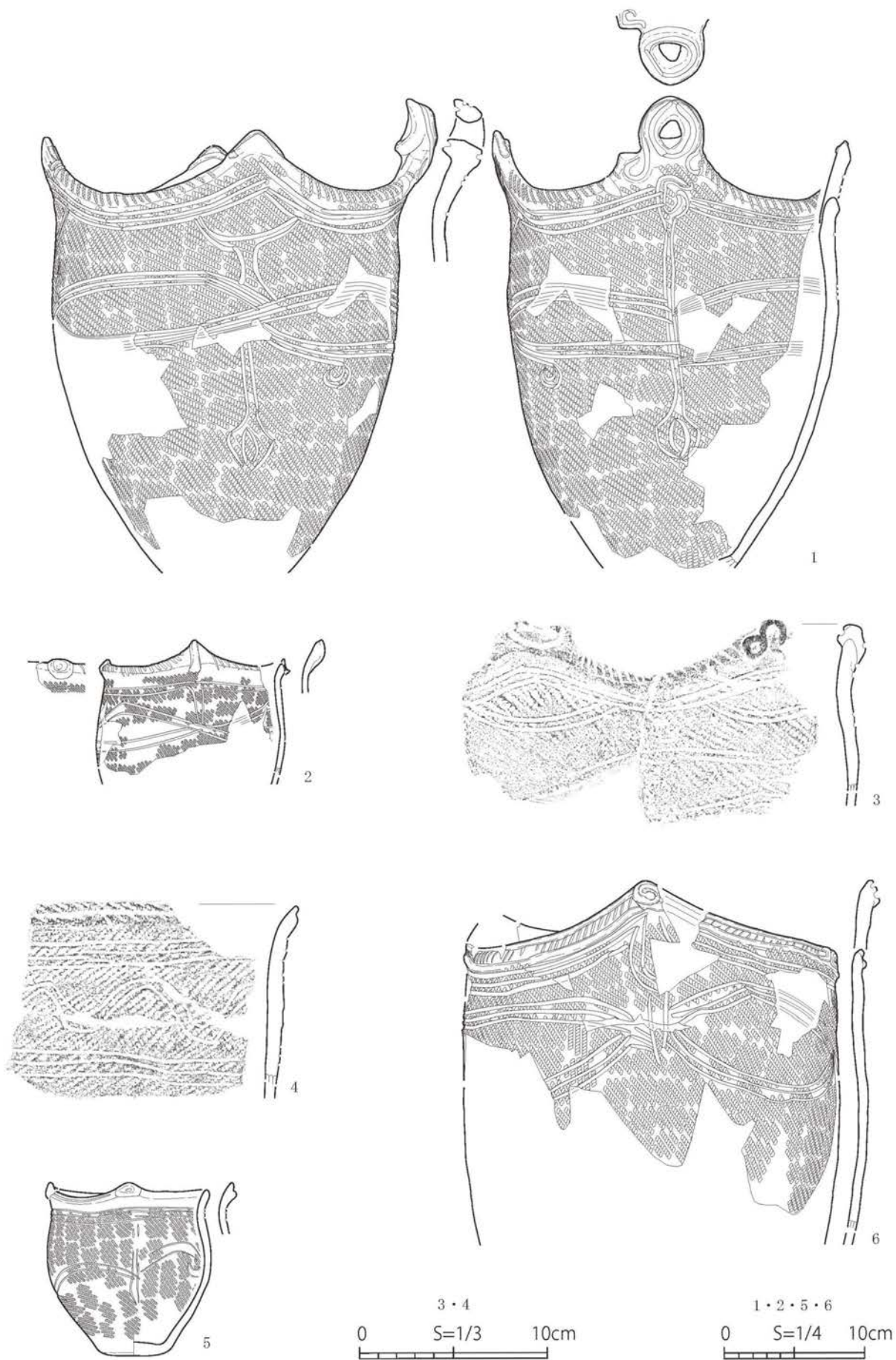


図94 土器62(捨て場④)



図95 土器63(捨て場④)

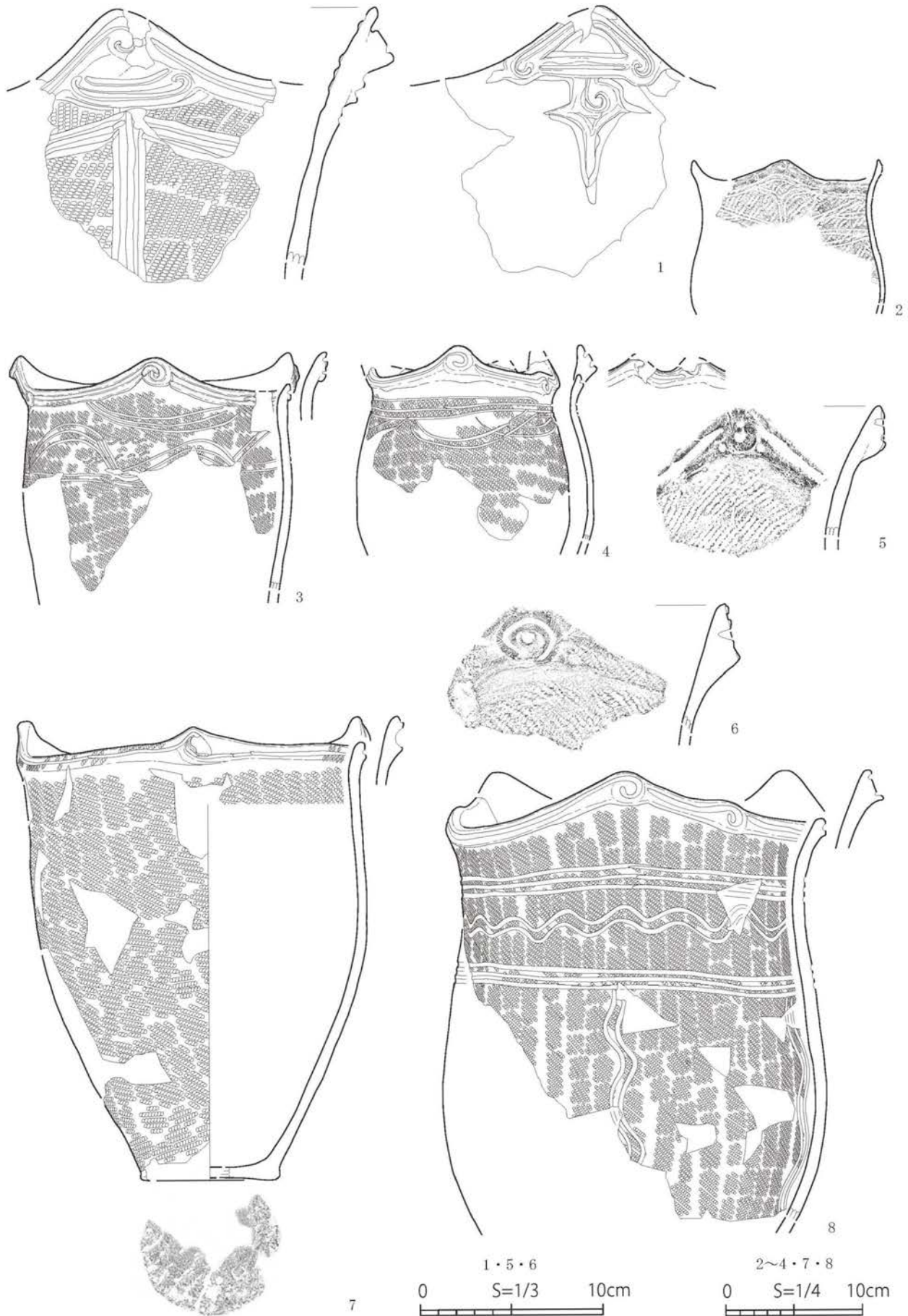


図96 土器64(捨て場⑦)

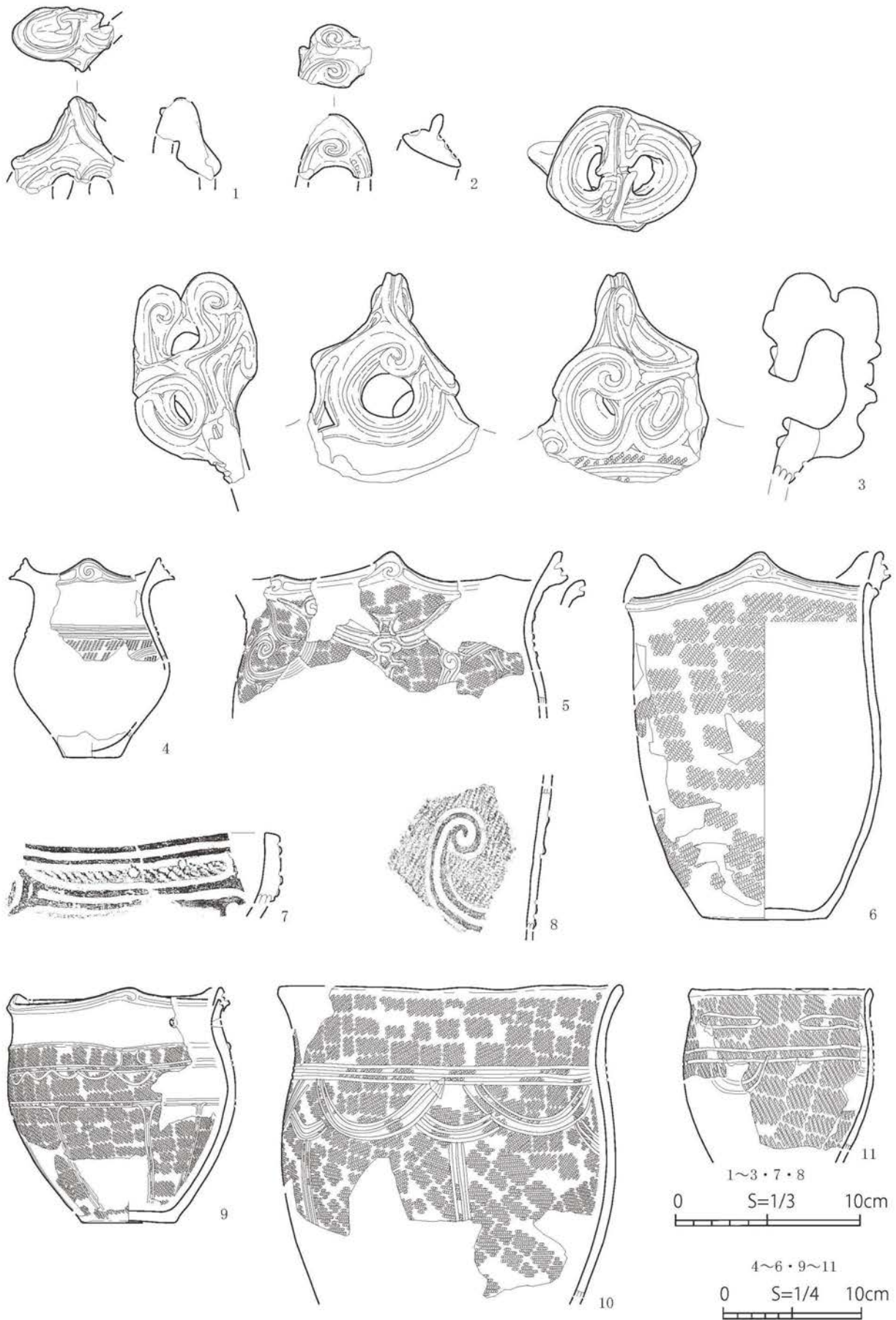


図97 土器65(捨て場④)

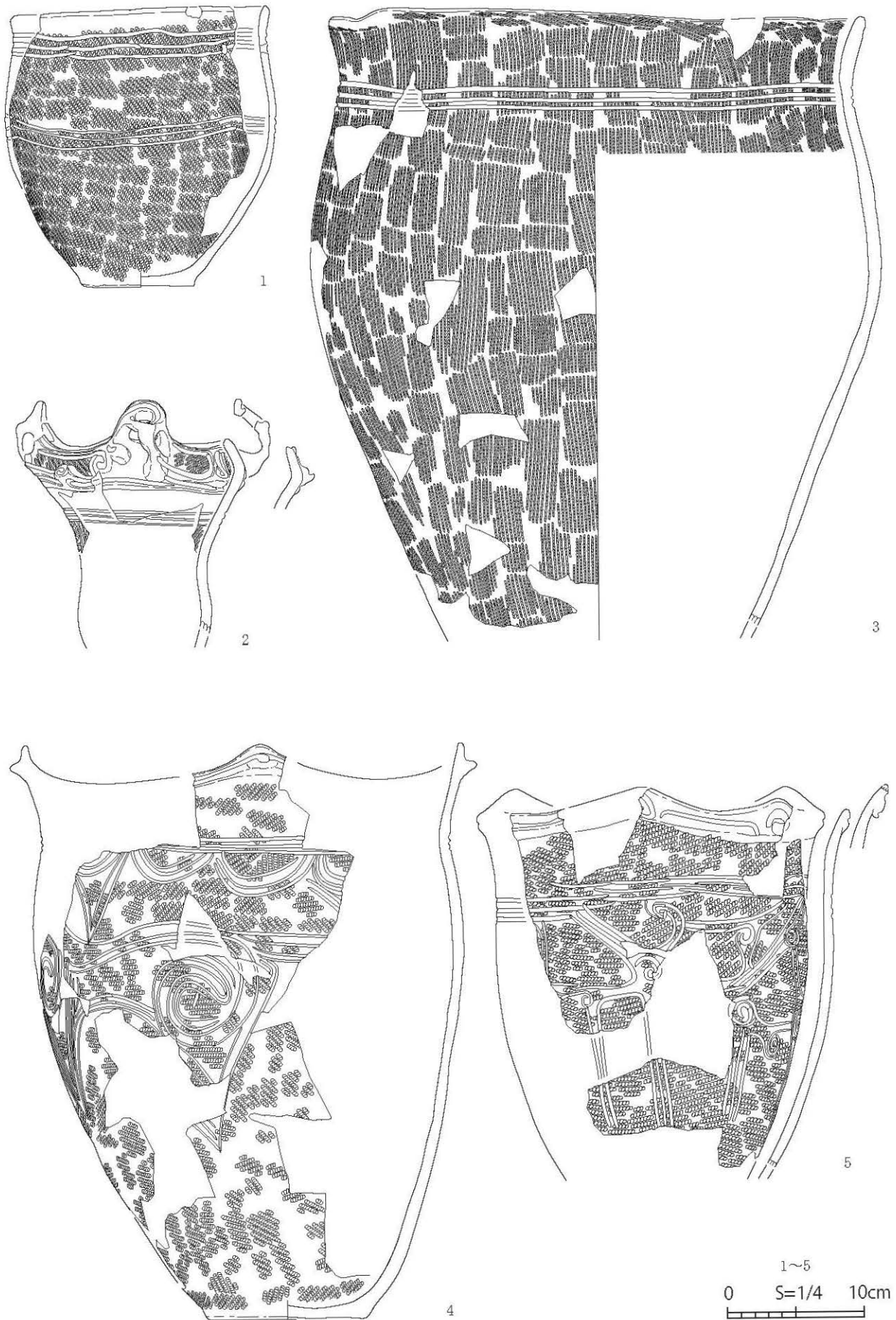


図98 土器66(捨て場④)

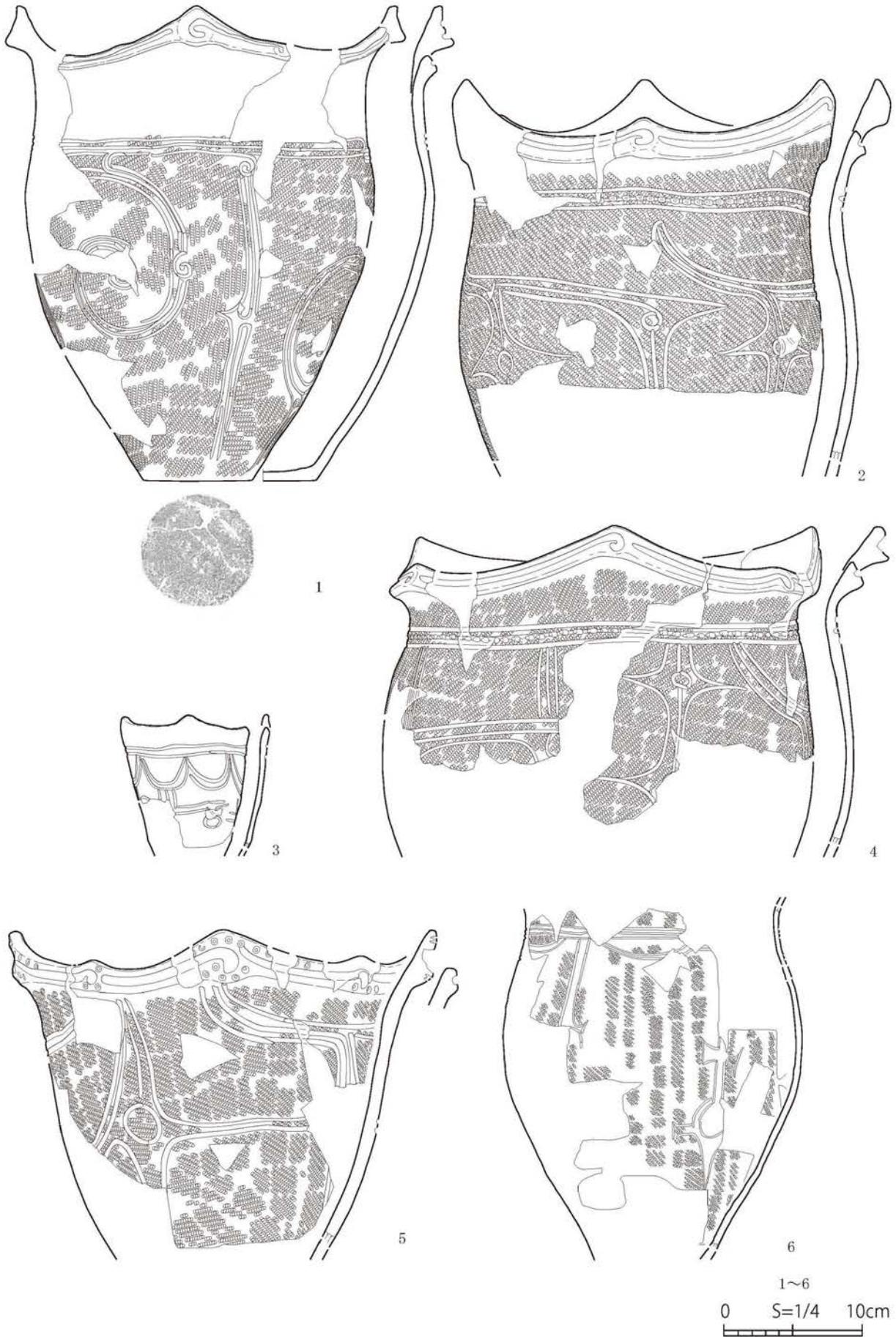


図99 土器67(捨て場⑤)

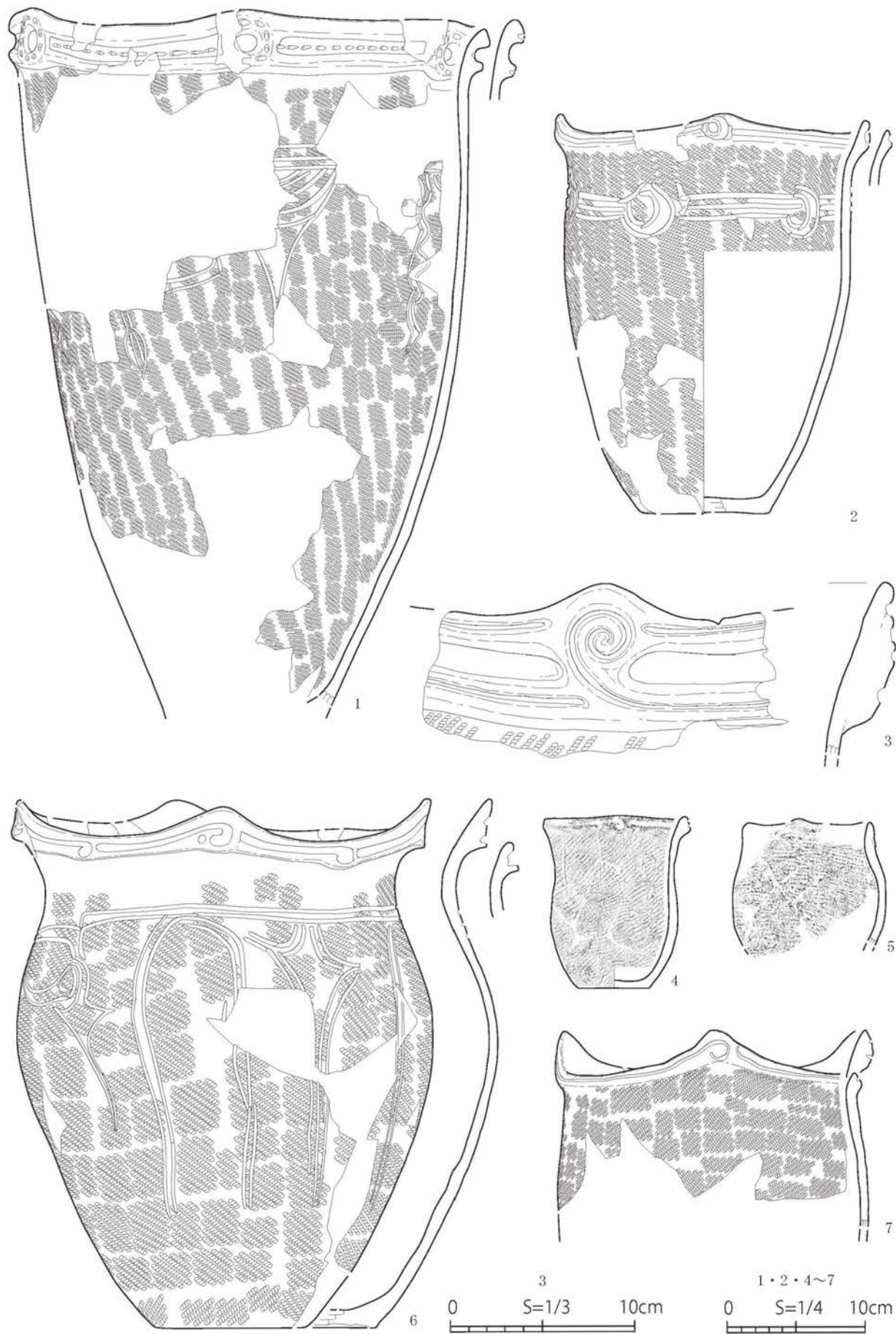


図100 土器68(捨て場⑤)

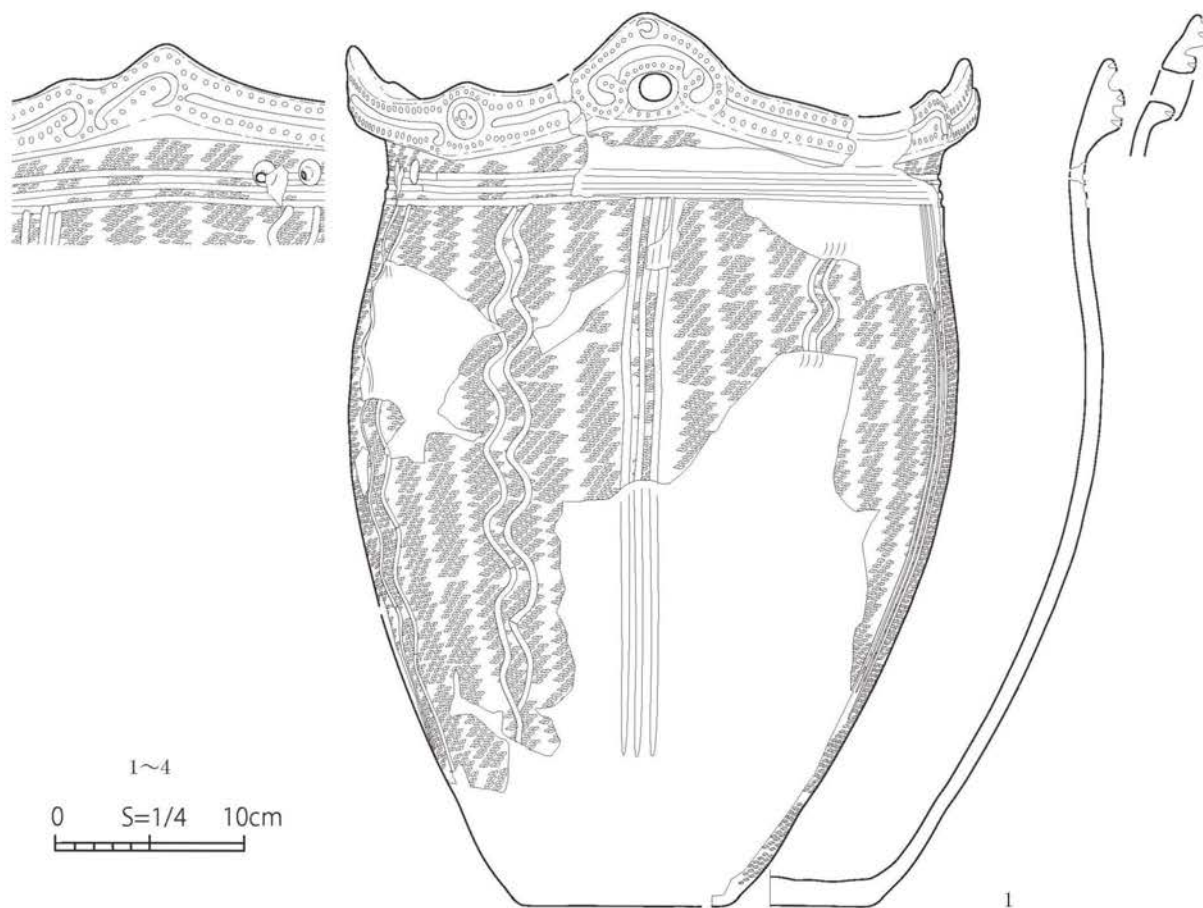


図101 土器69(捨て場②)

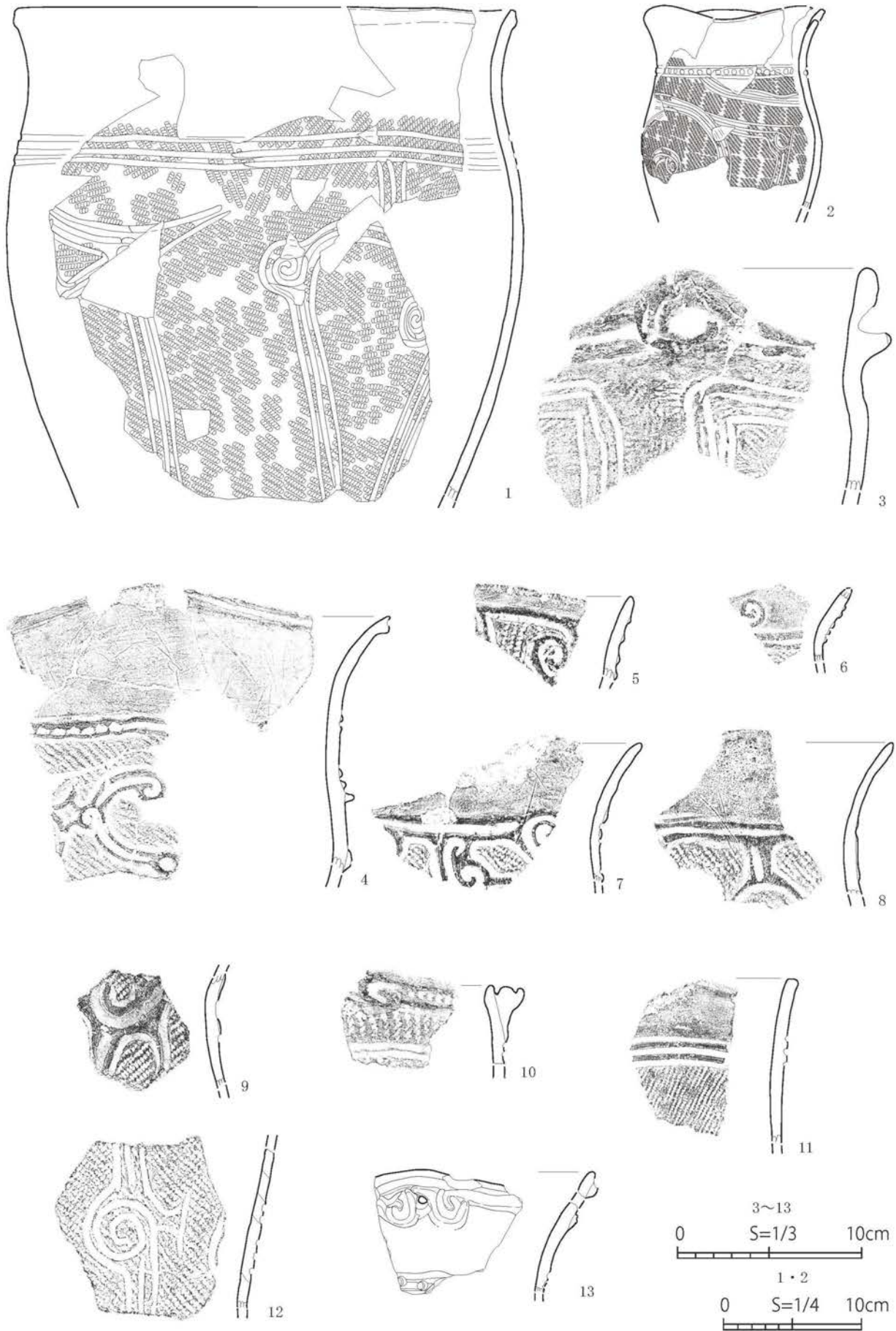


図102 土器70(捨て場⑤)

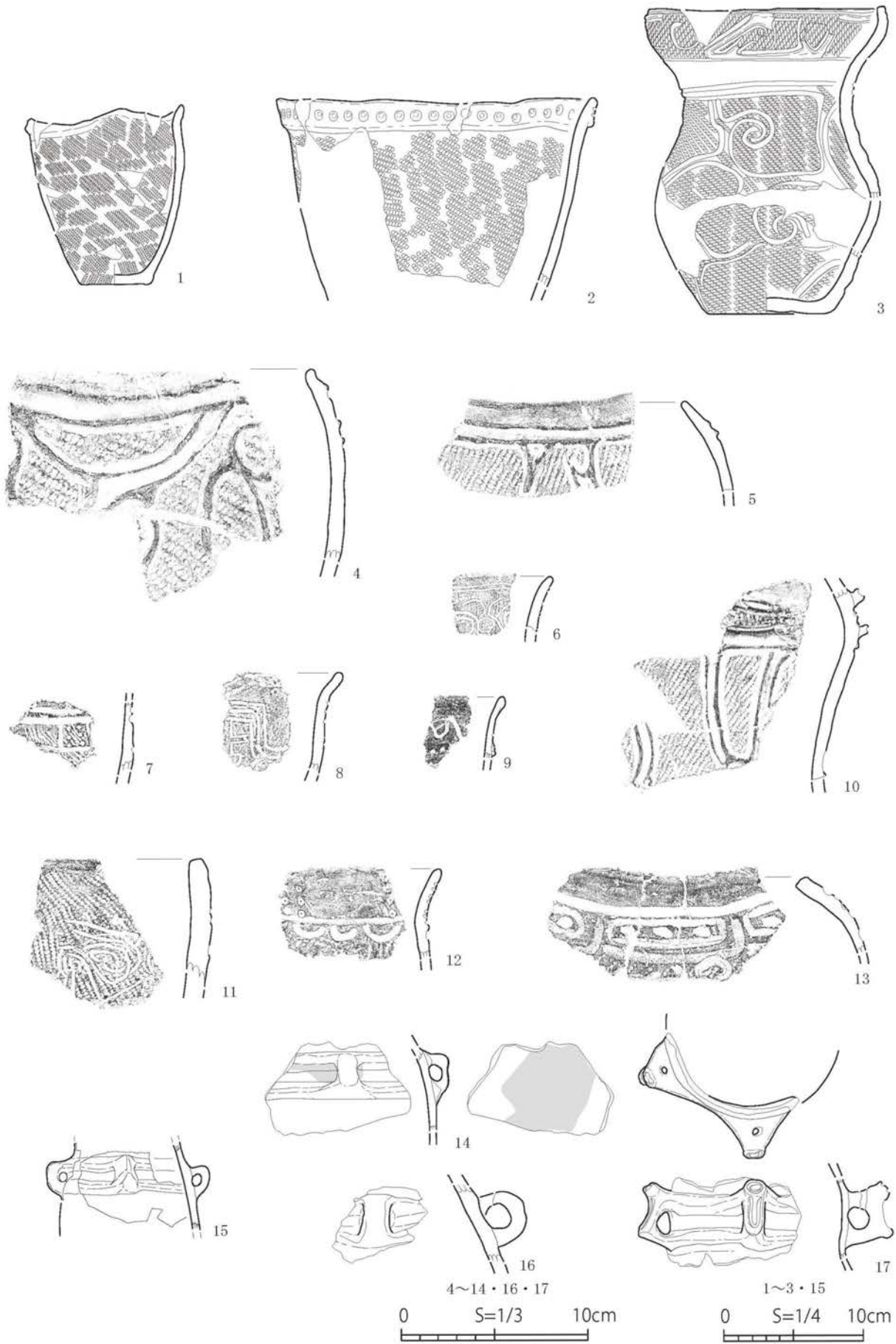


図103 土器71(捨て場54)



図104 土器72(捨て場⑤)

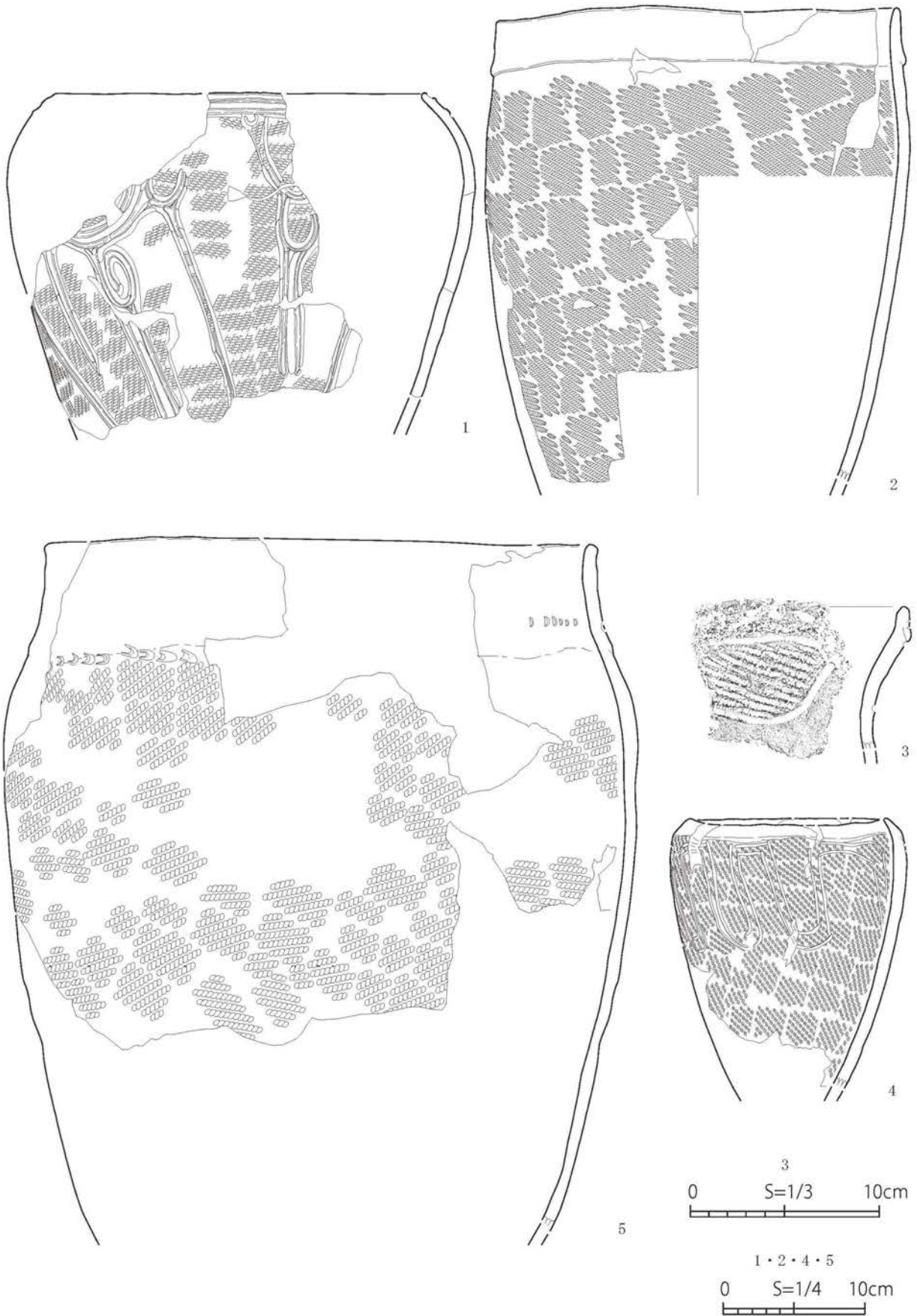


図105 土器73(捨て場56)

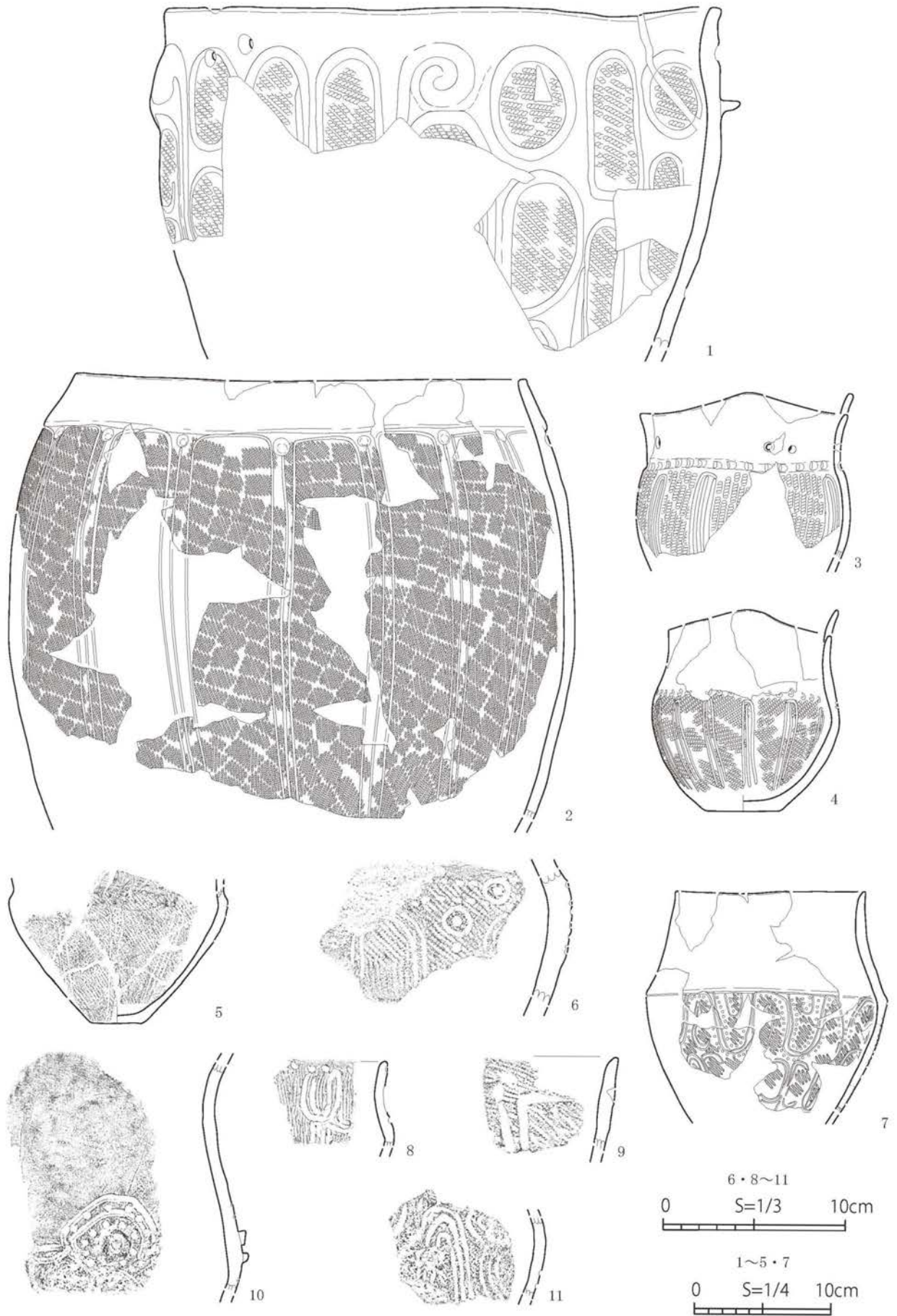


図106 土器74(捨て場⑤)

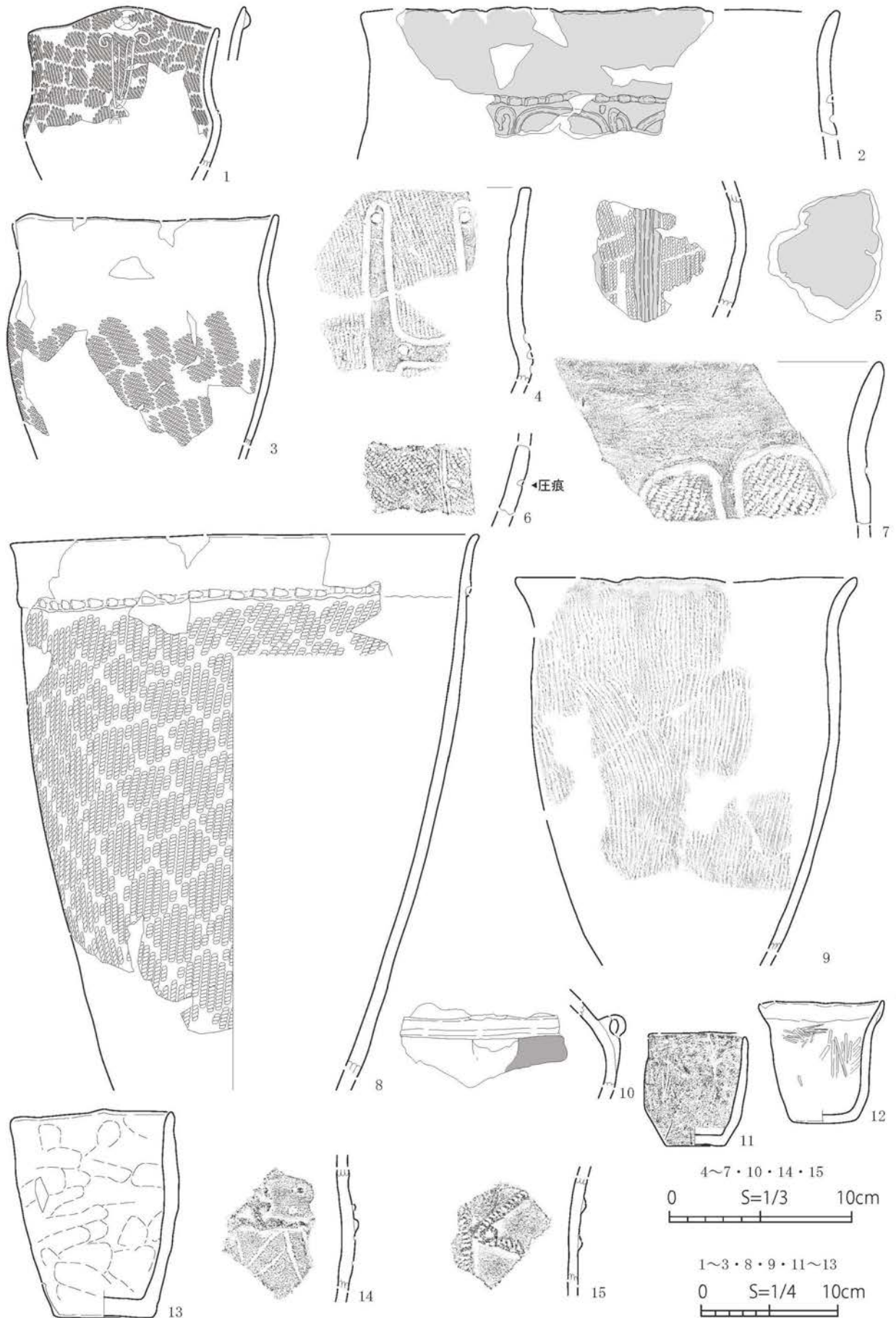


図107 土器75(捨て場50)

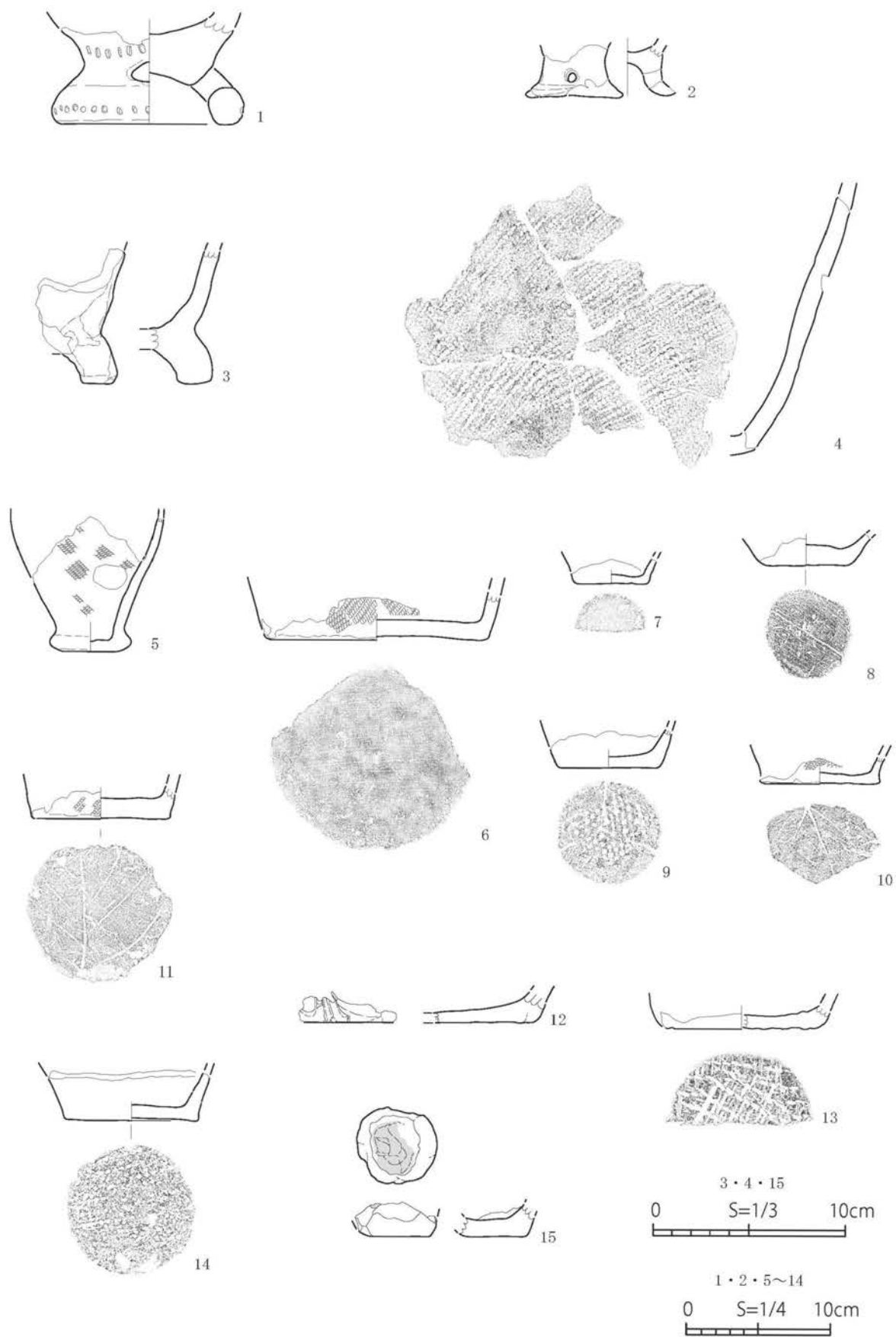


図108 土器76(捨て場⑤)

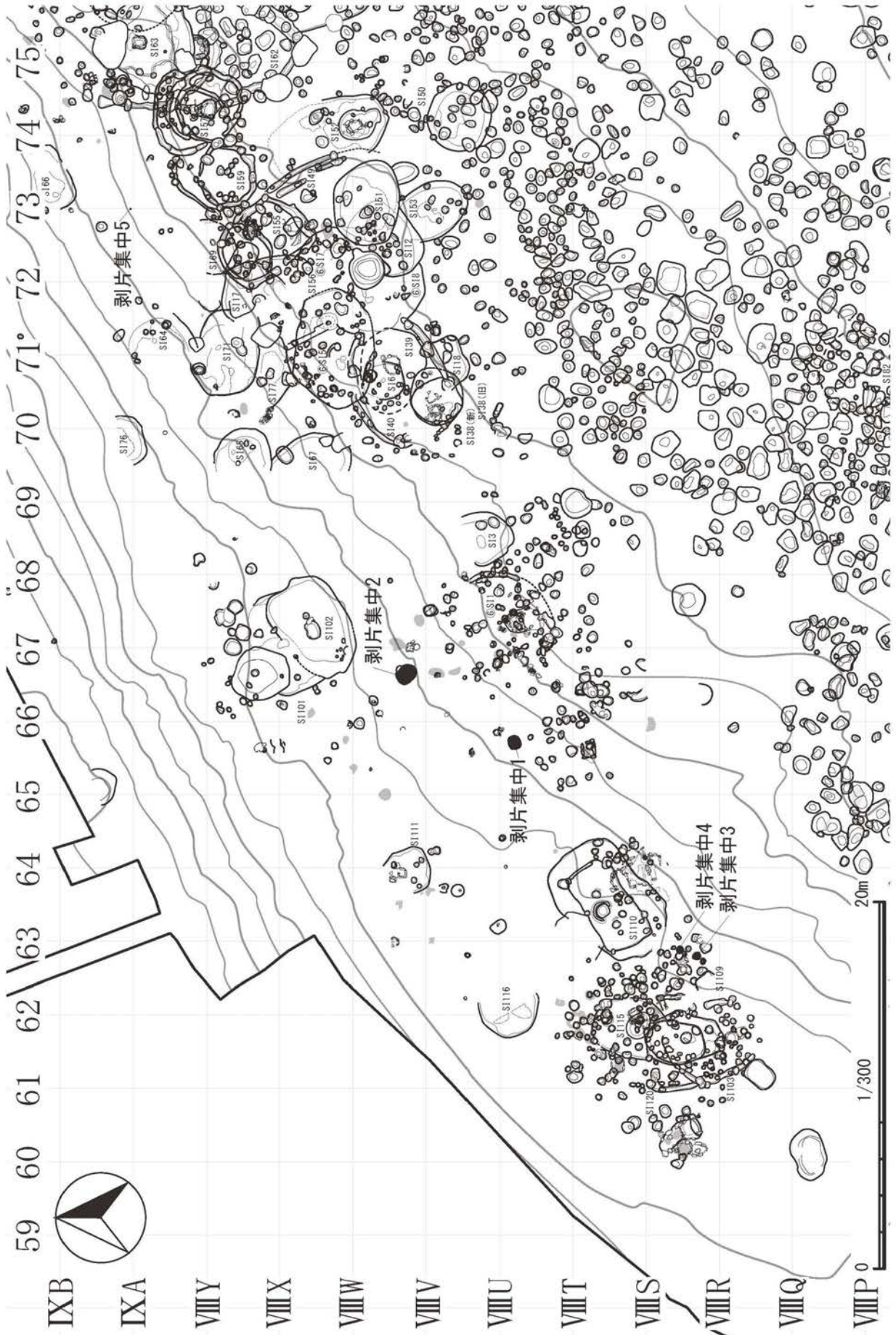
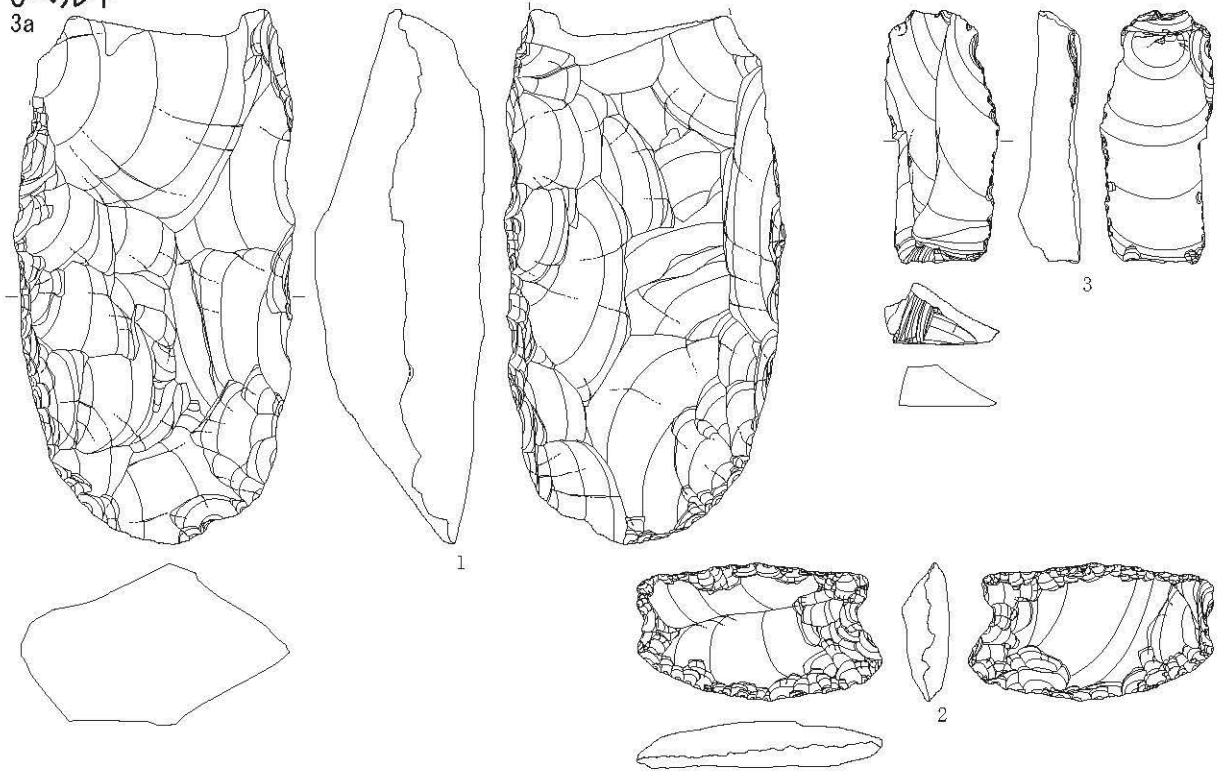
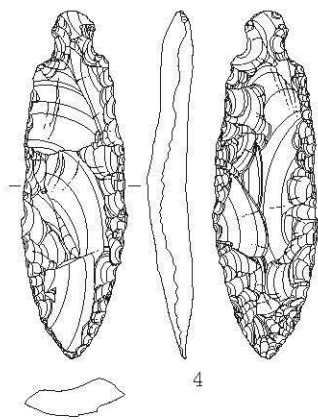


图109 剥片集中1~5位置图

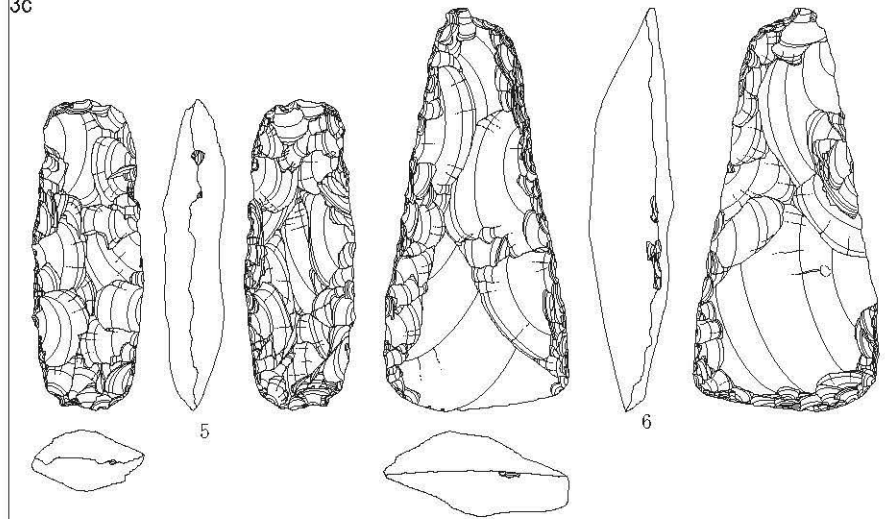
3ベルト
3a



3a·b



3c



3c·d

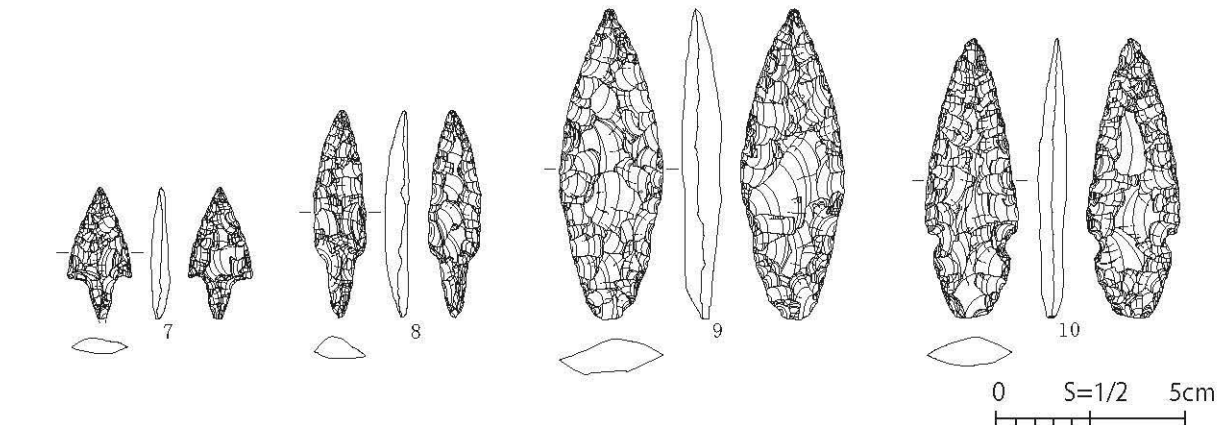


図110 剥片石器1(細分層位)

3ベルト
3c・d



図111 剥片石器2(細分層位)

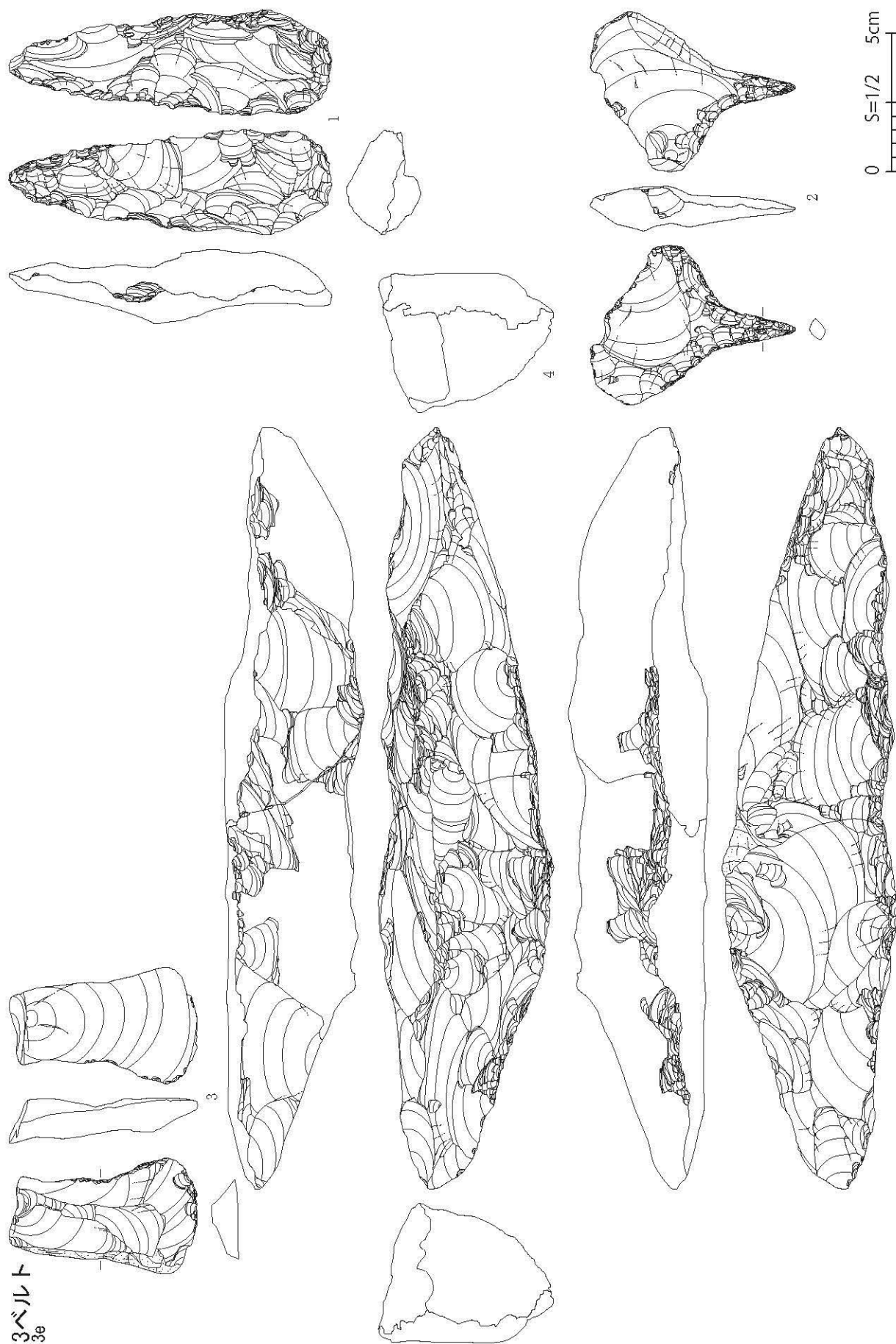
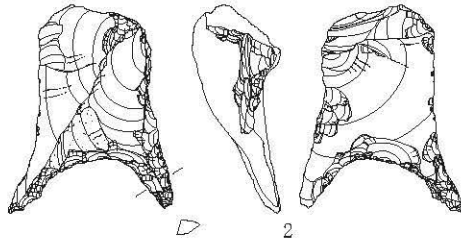
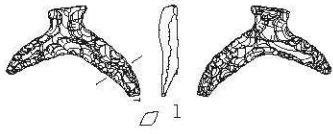
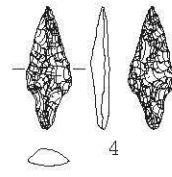


図112 剥片石器3(細分層位)

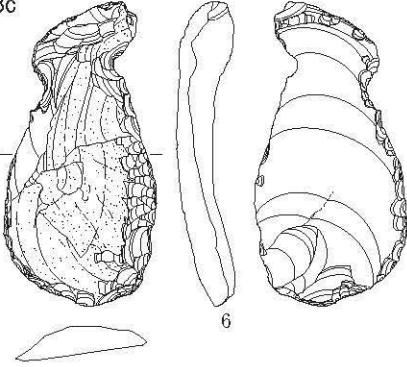
13ベルト
2a, b



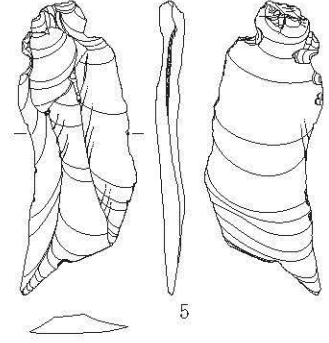
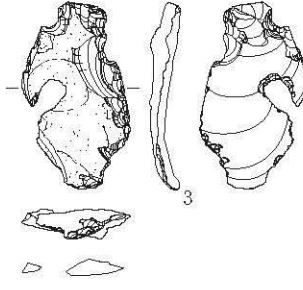
3a~c



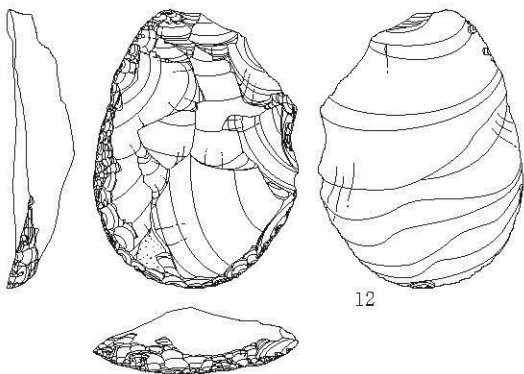
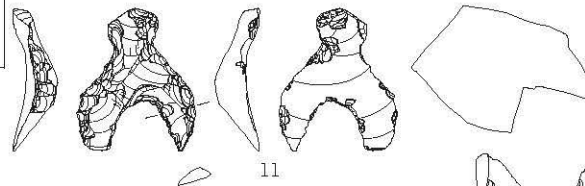
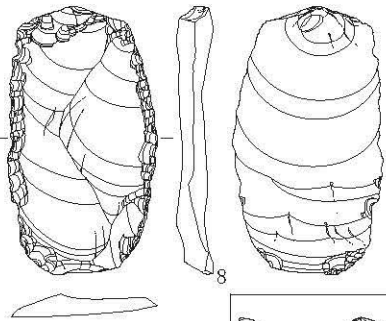
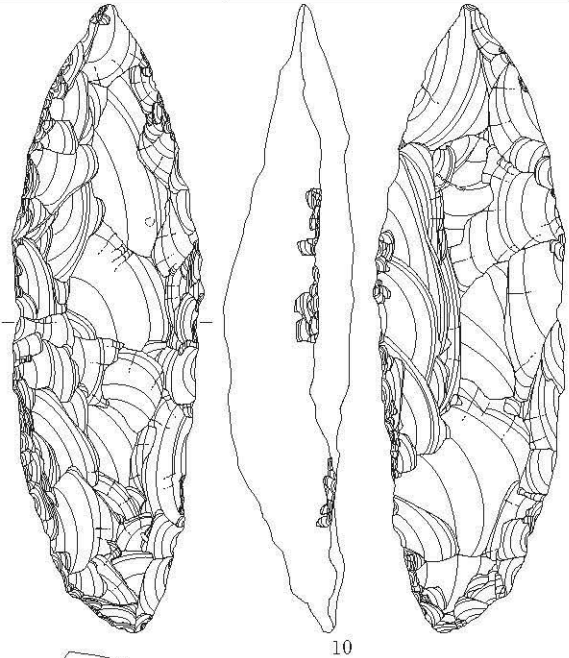
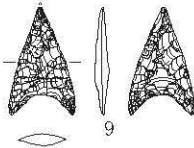
3c



3a



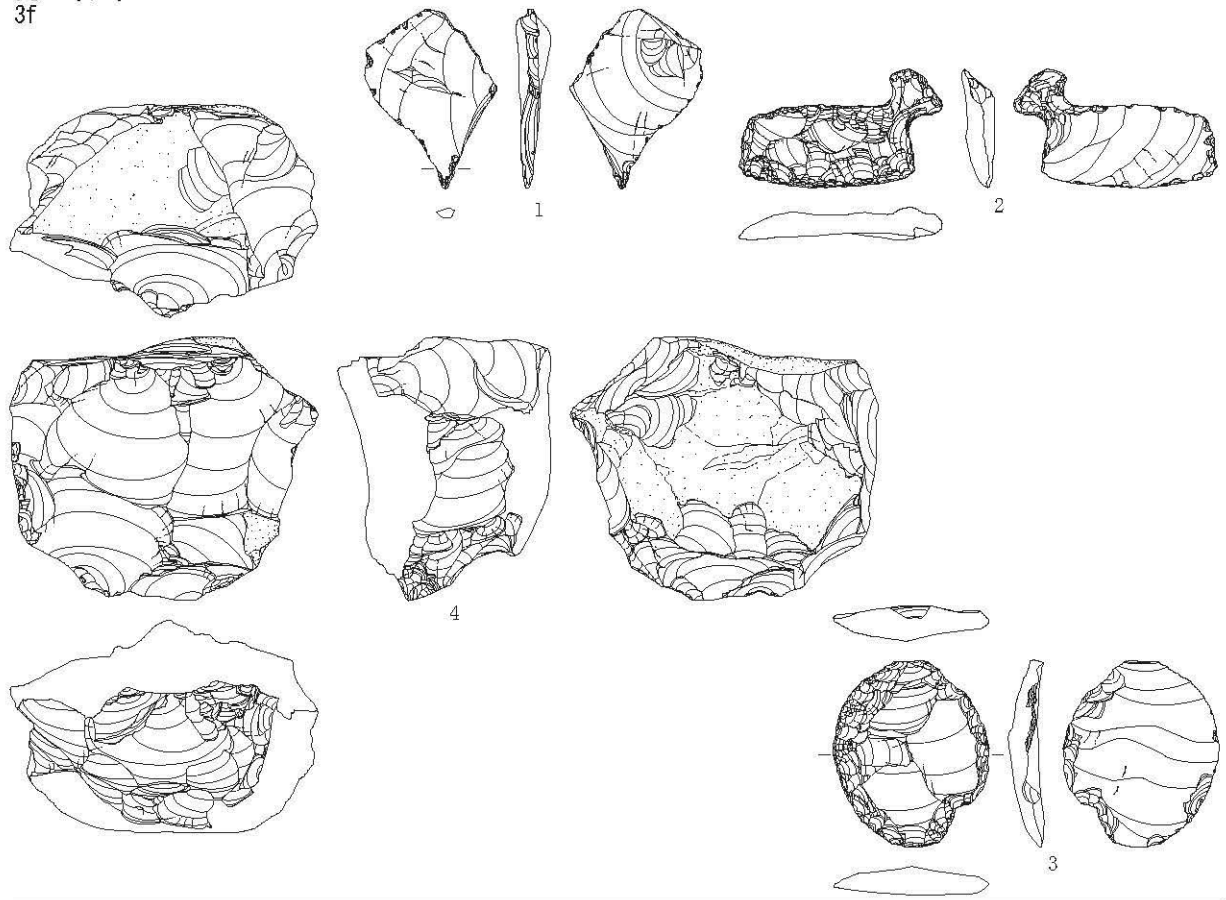
3d~f



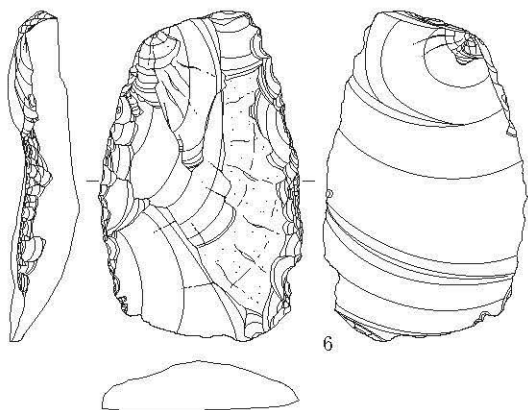
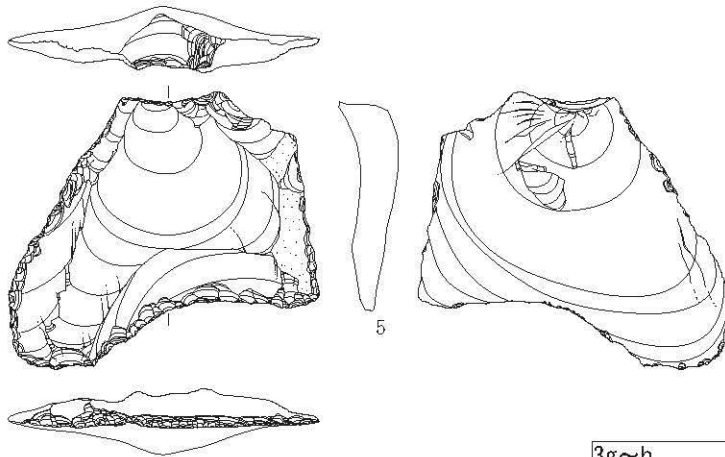
0 S=1/2 5cm

図113 剥片石器4(細分層位)

13ベルト
3f



3g·h



3g~h

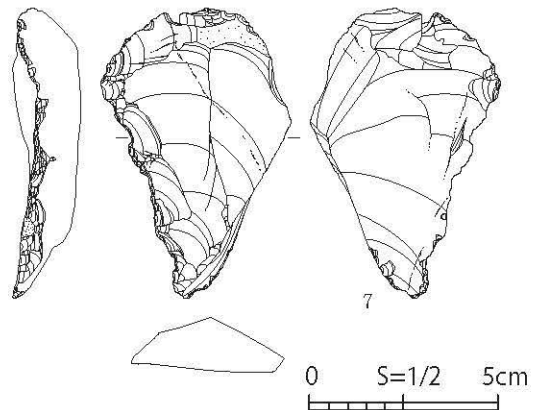


図114 剥片石器5(細分層位)

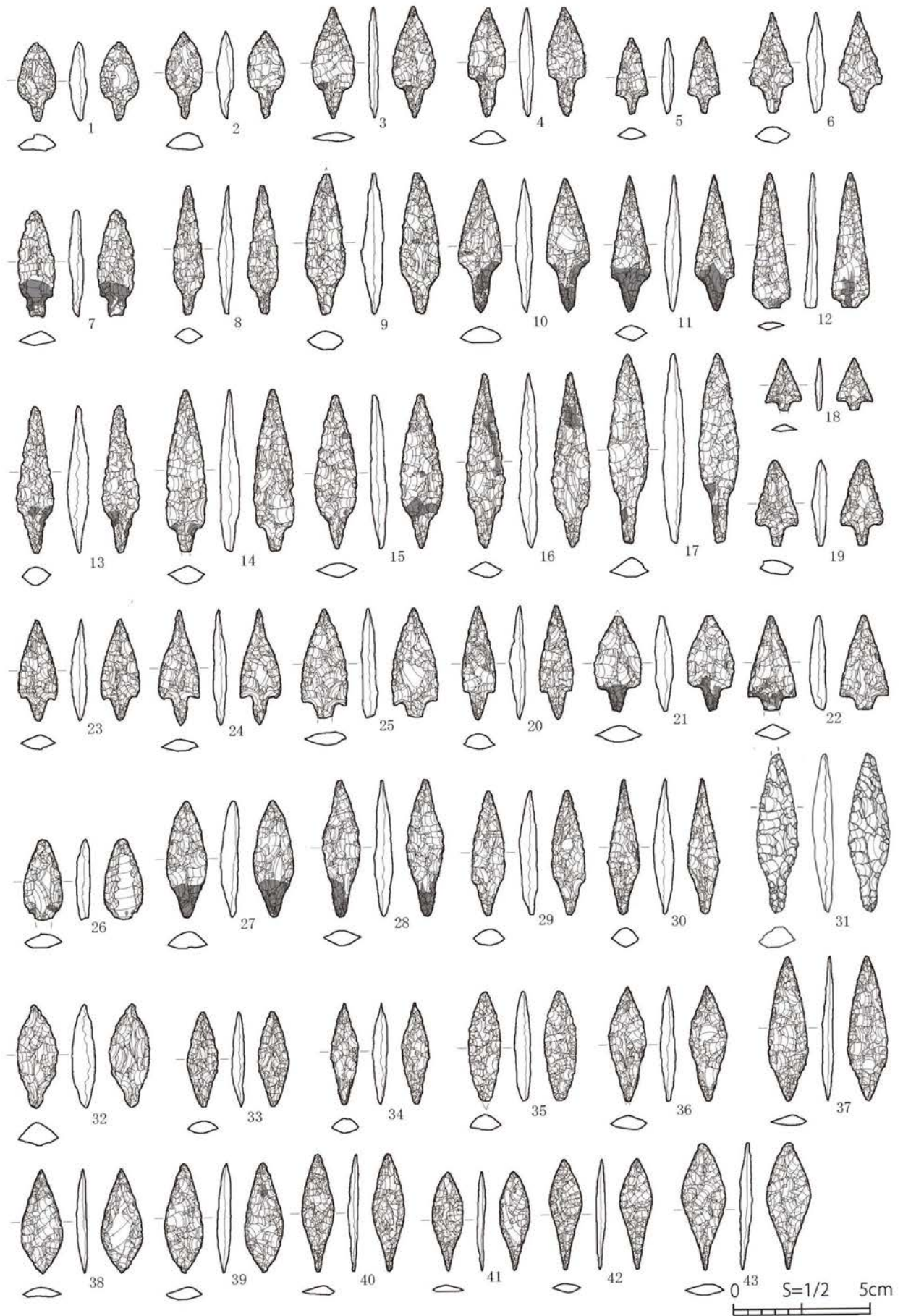


図115 剥片石器6(捨て場)

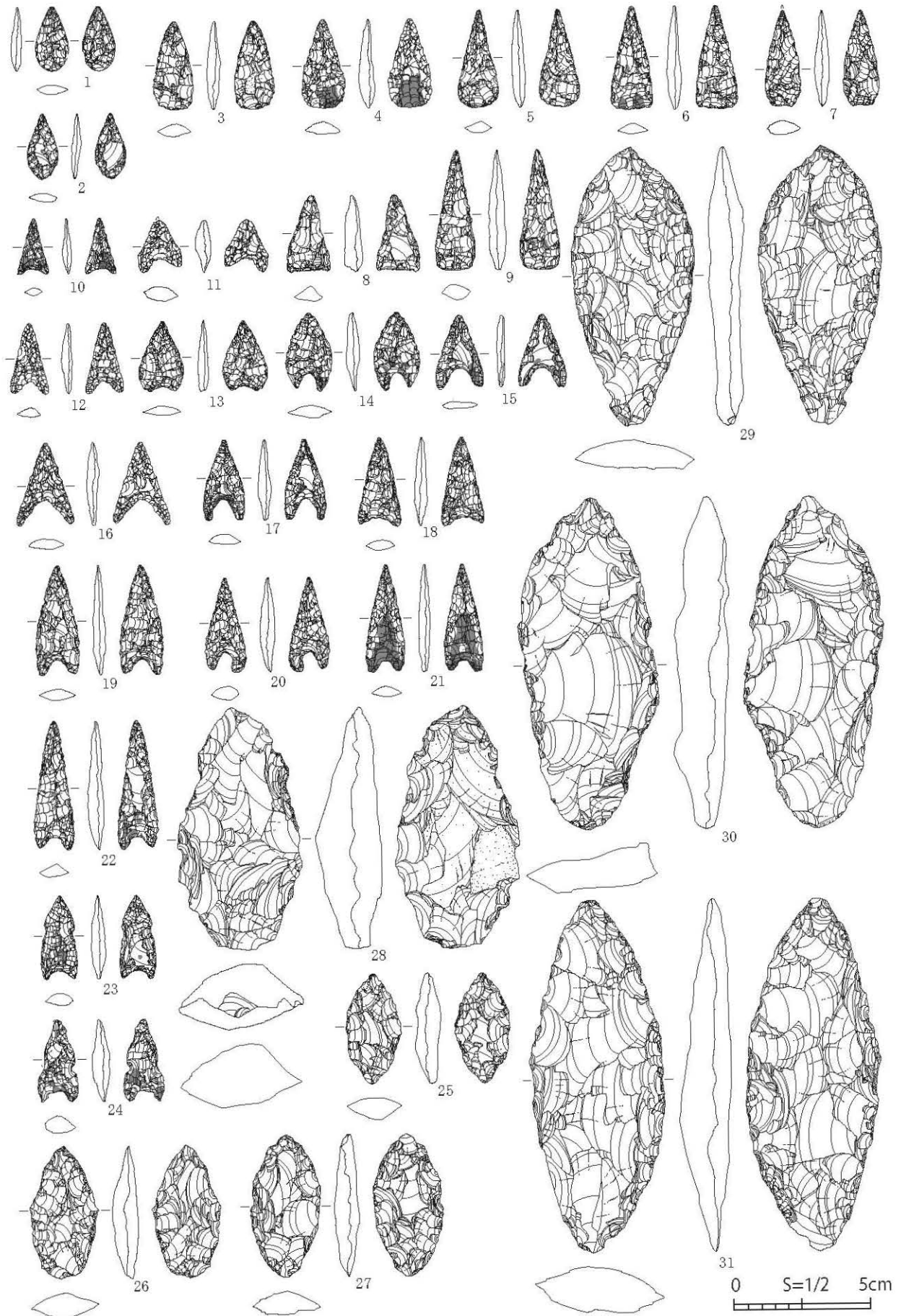


图116 剥片石器7

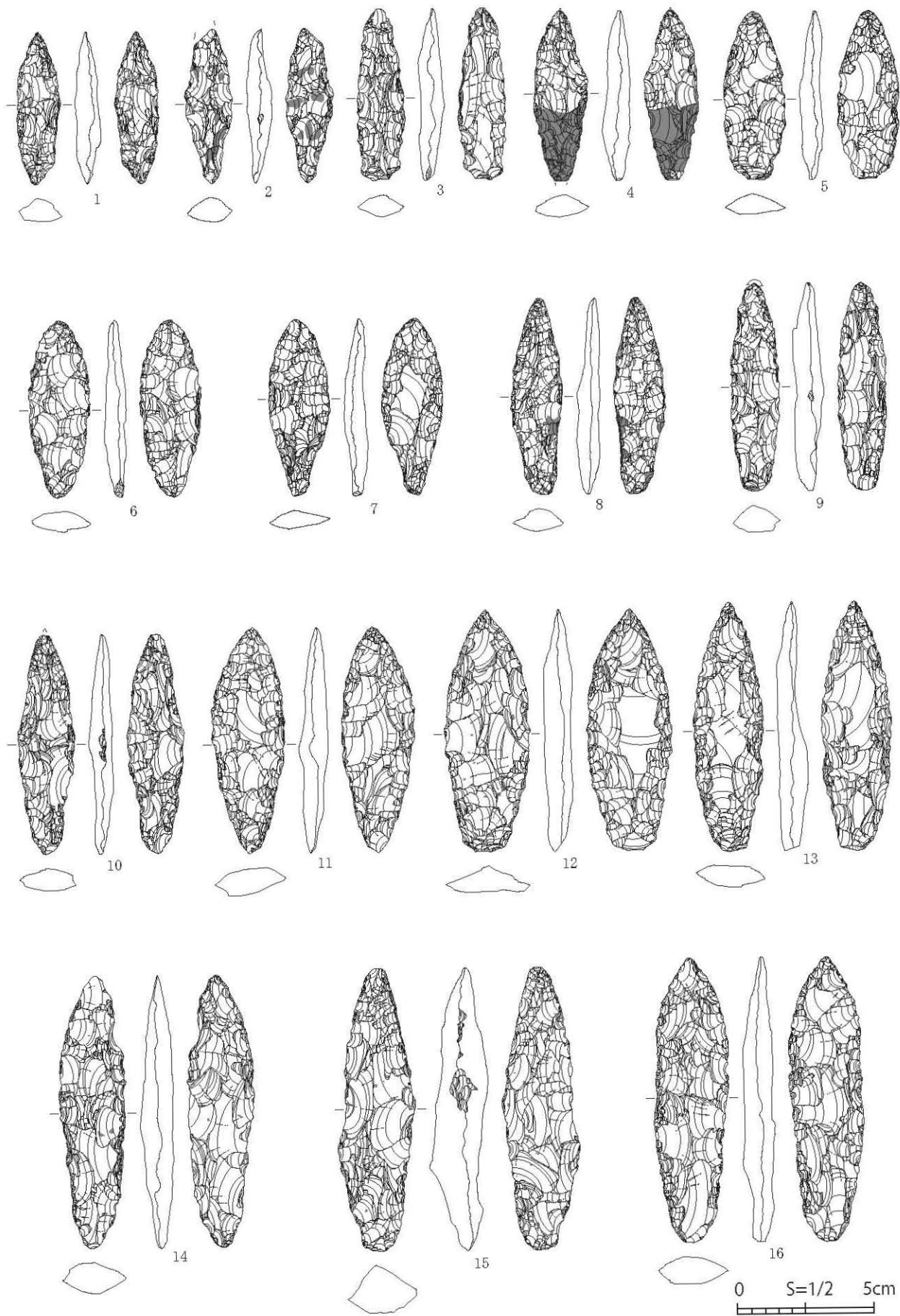


图117 剥片石器8

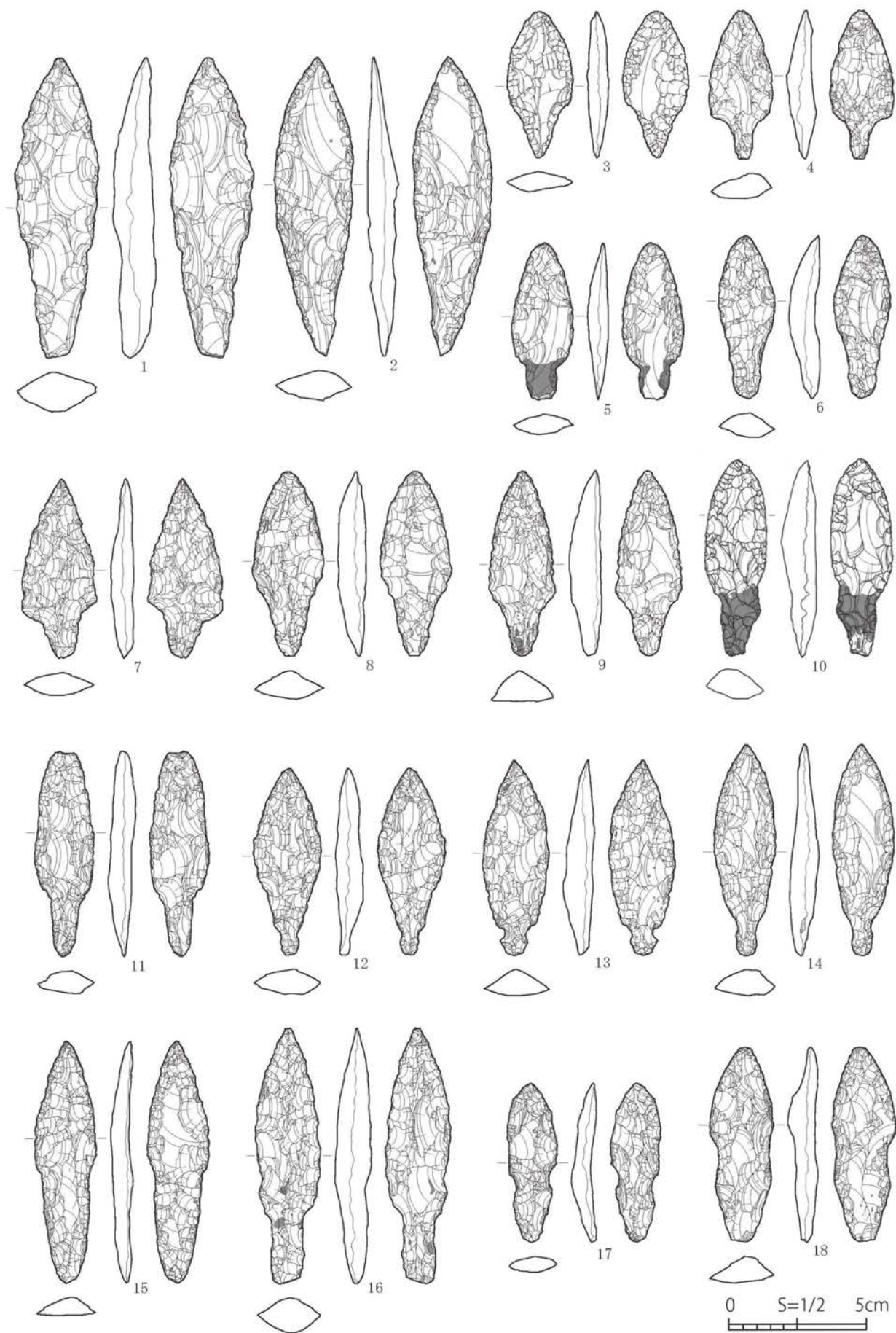


图118 剥片石器9

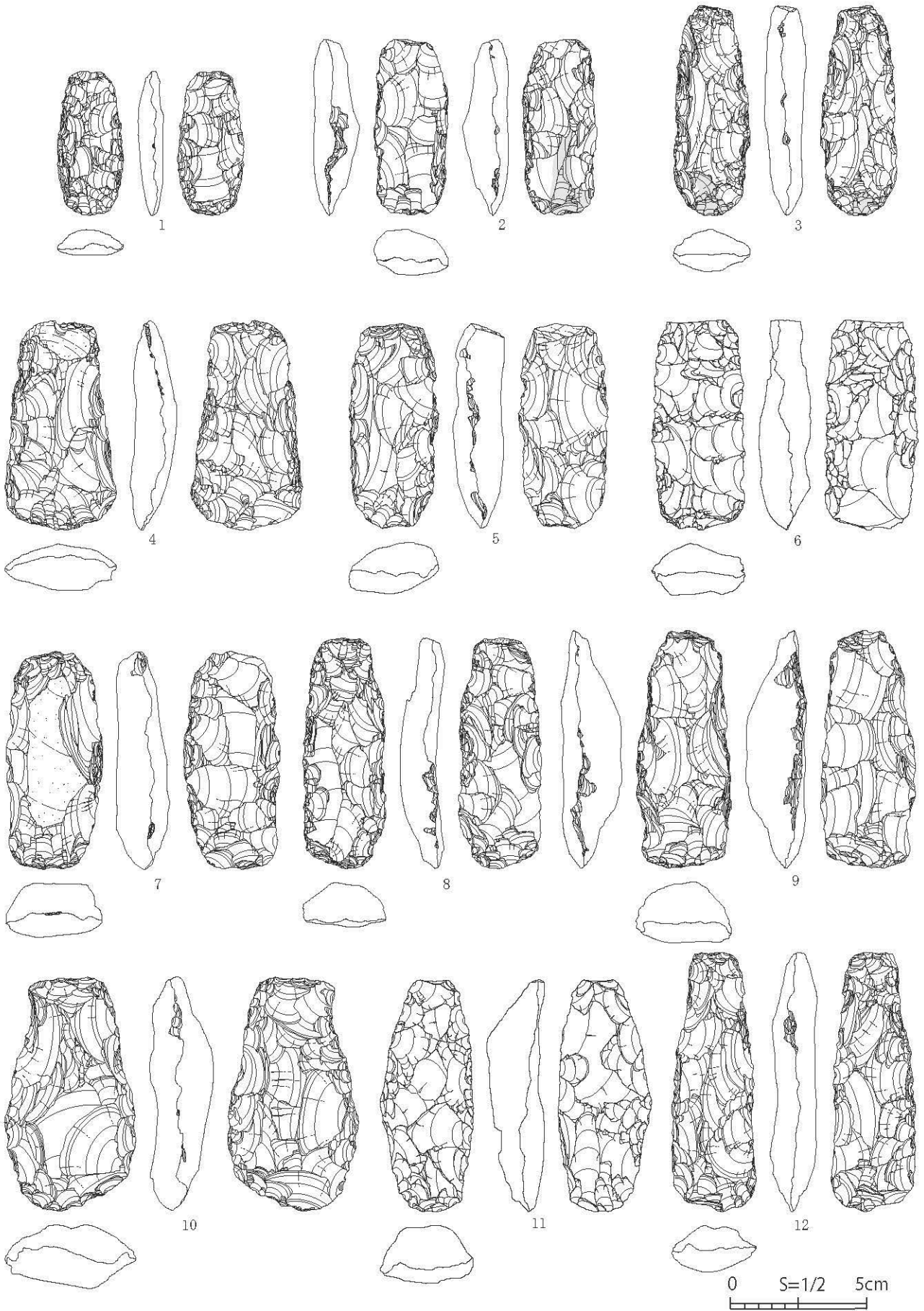


图119 剥片石器10

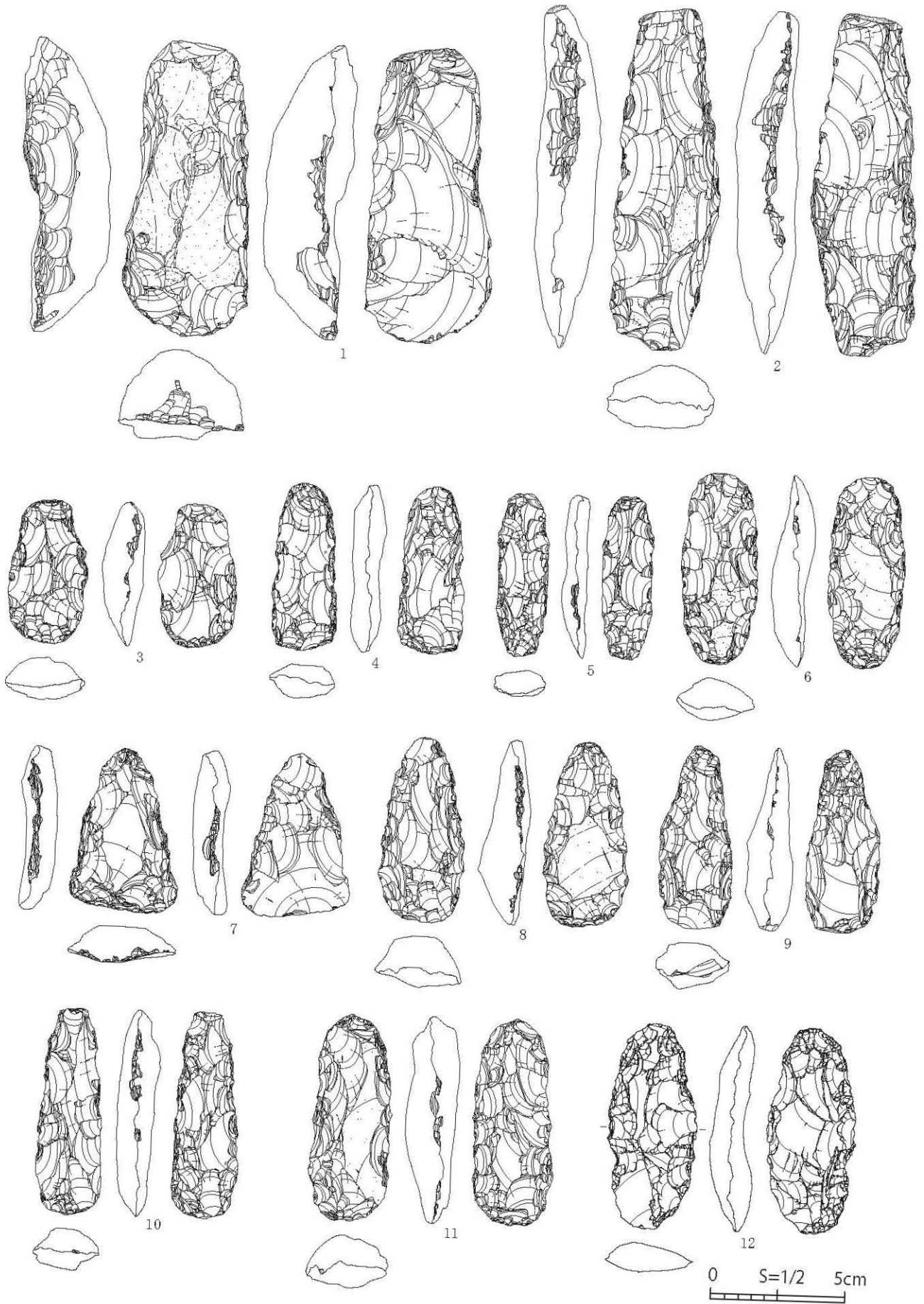


图120 剥片石器11

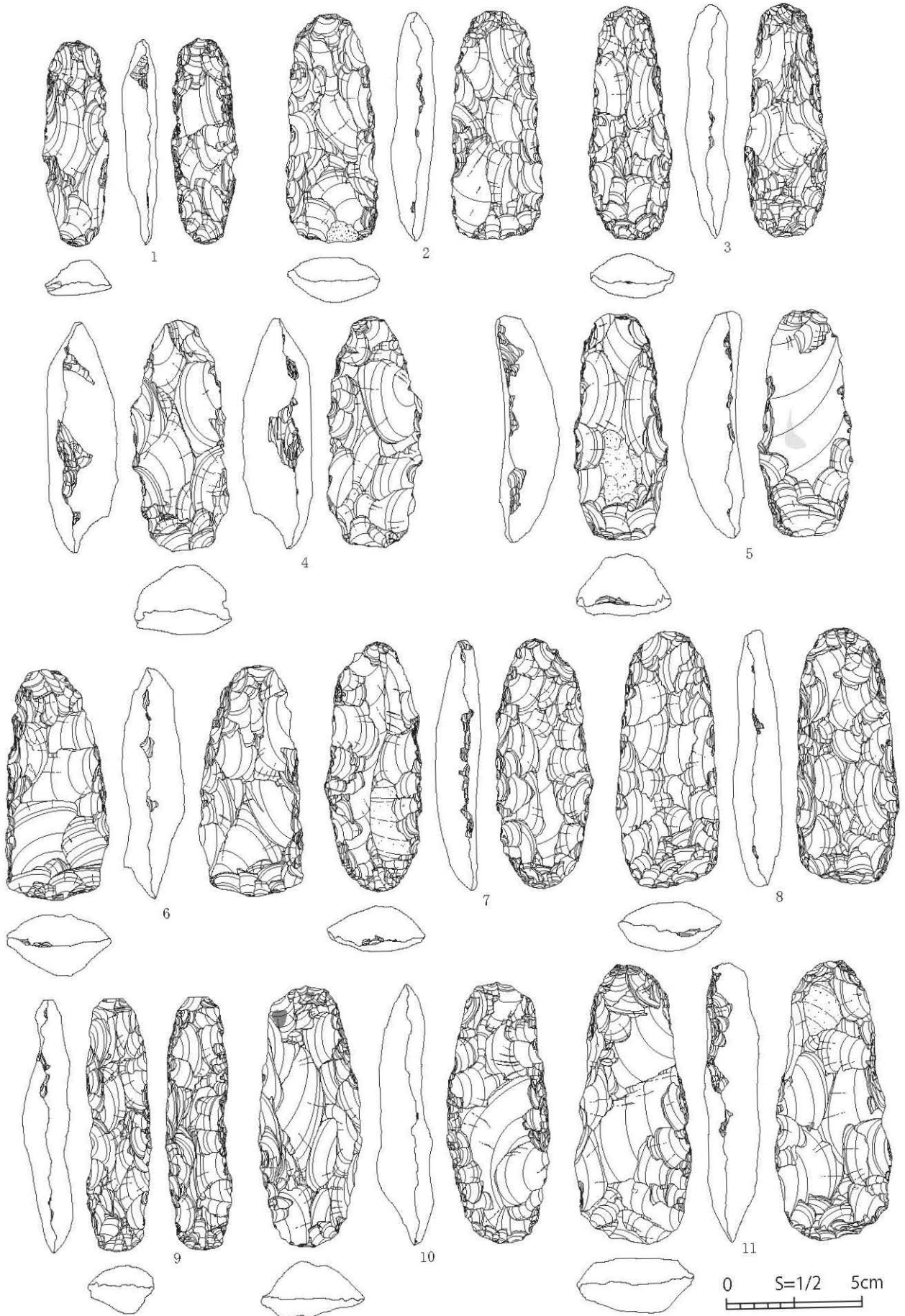


图121 剥片石器12

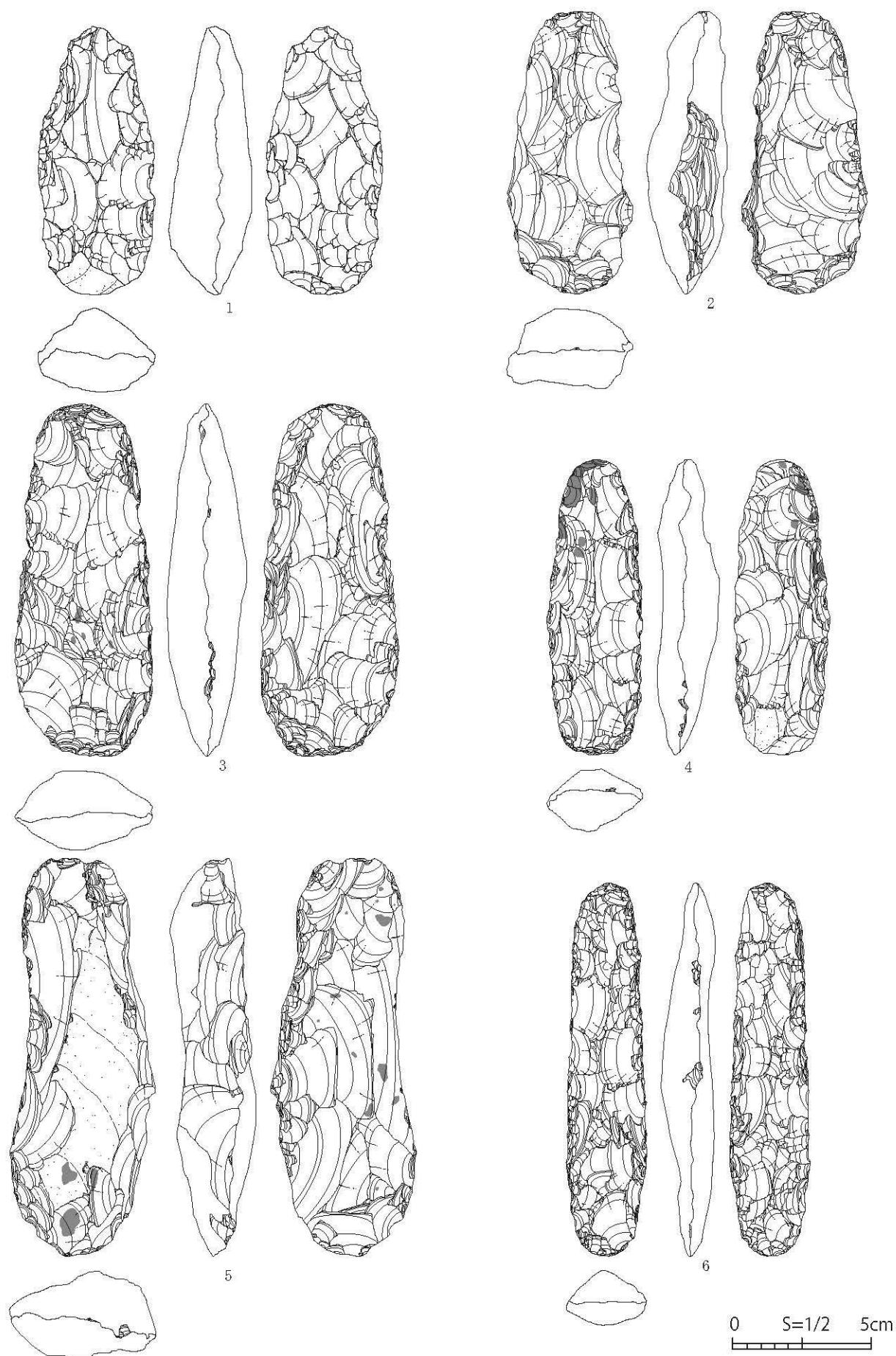


图122 剥片石器13

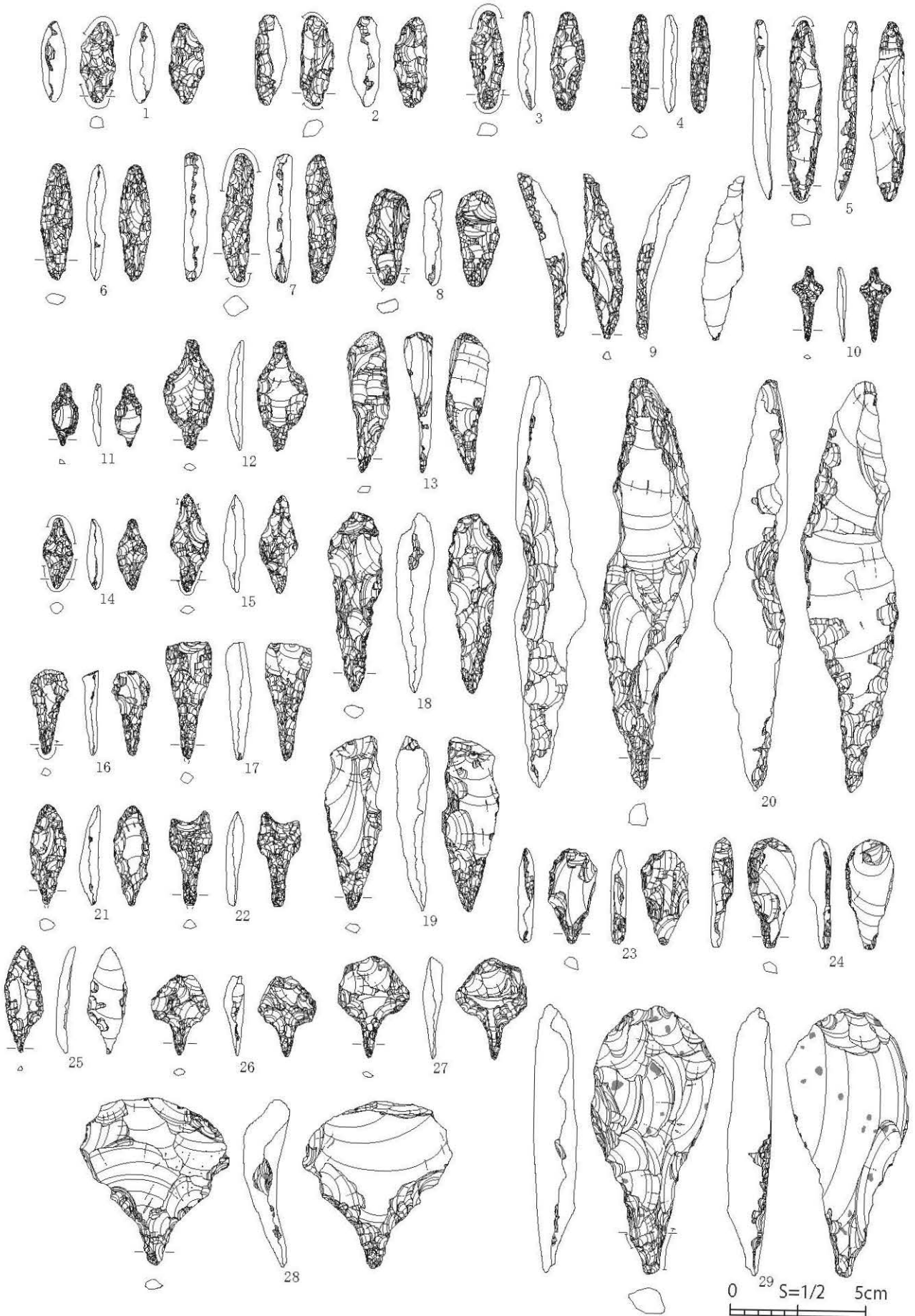


图123 剥片石器14



图124 剥片石器15



图125 剥片石器16

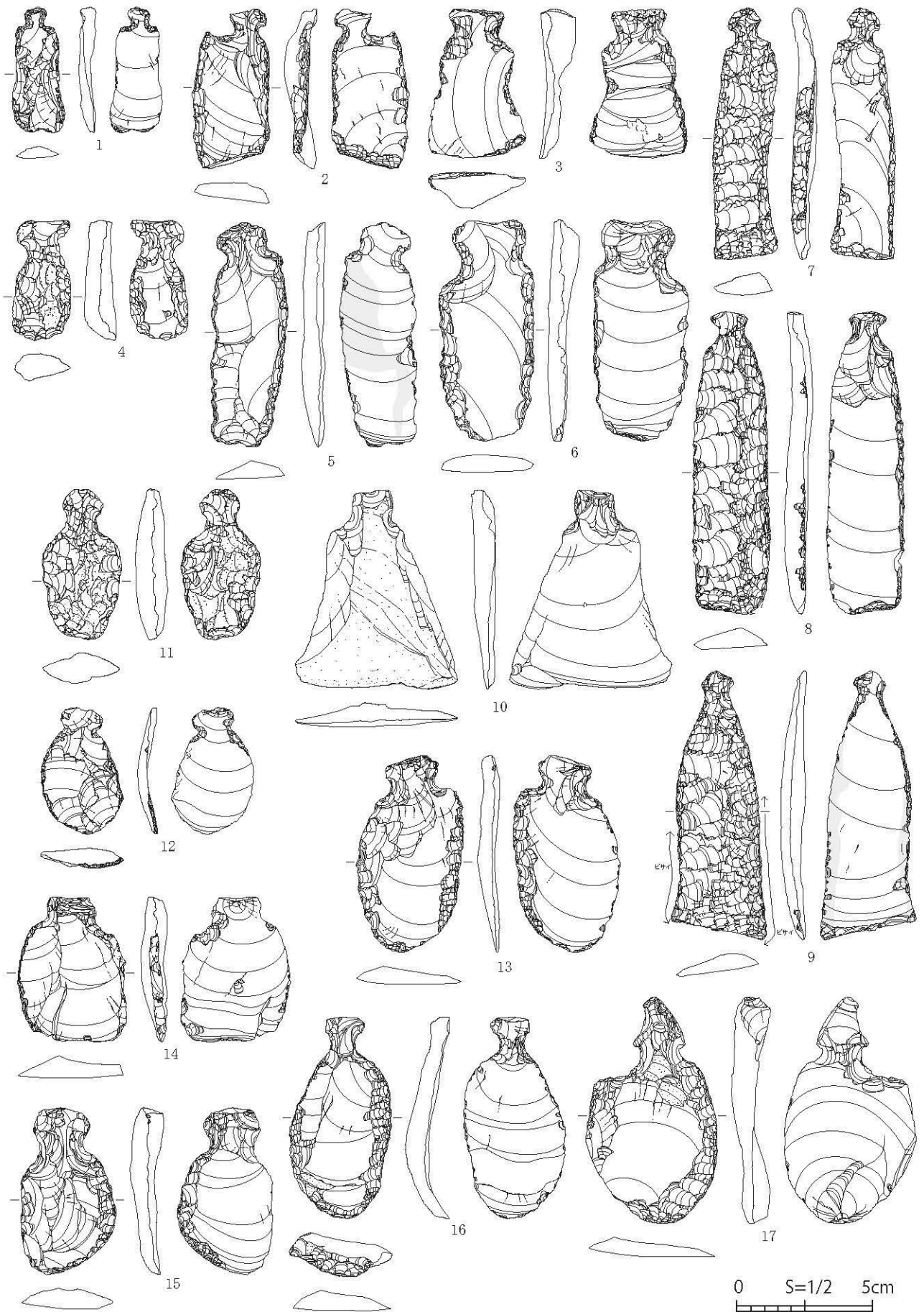


图126 剥片石器17

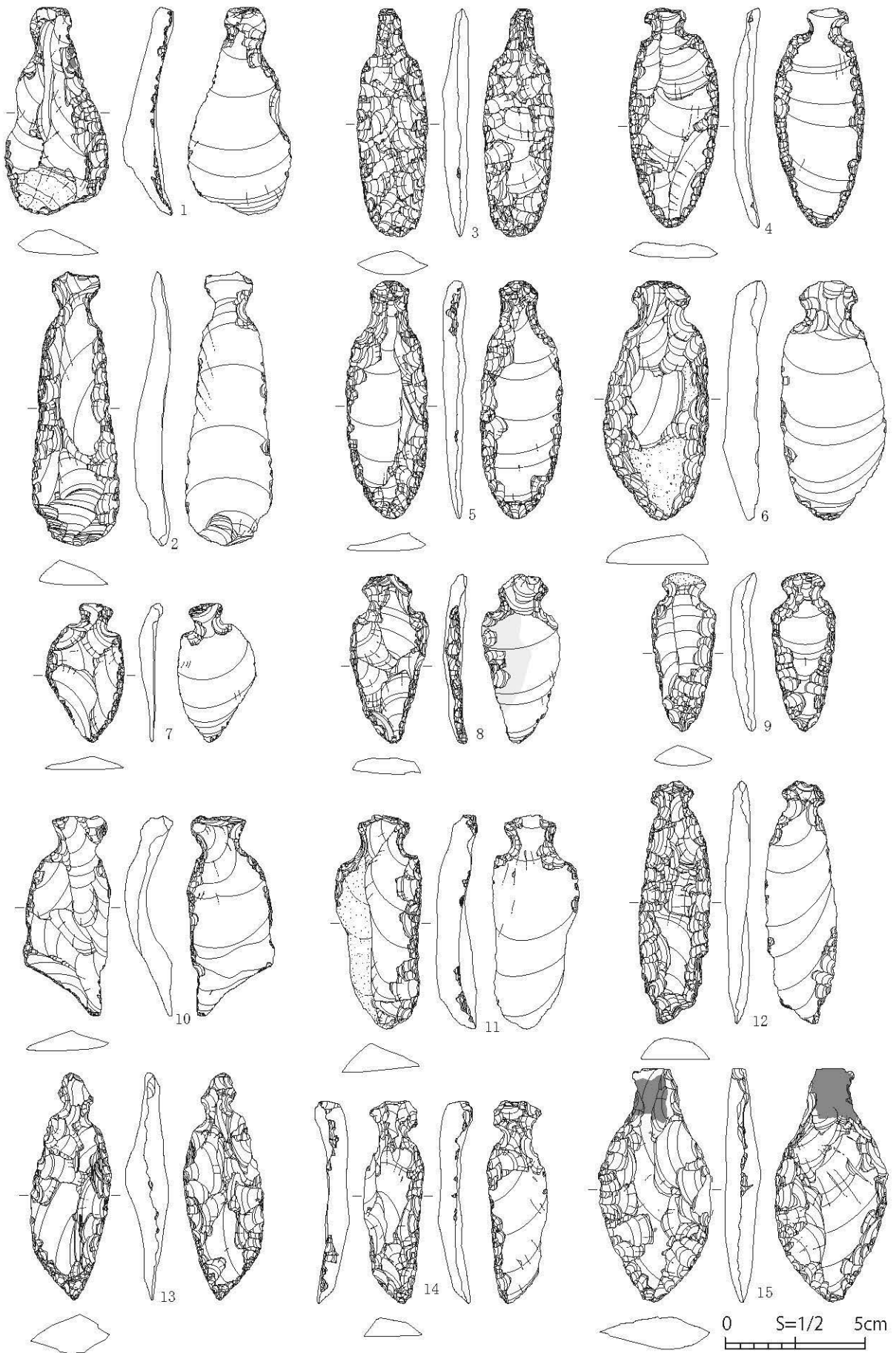


图127 剥片石器18

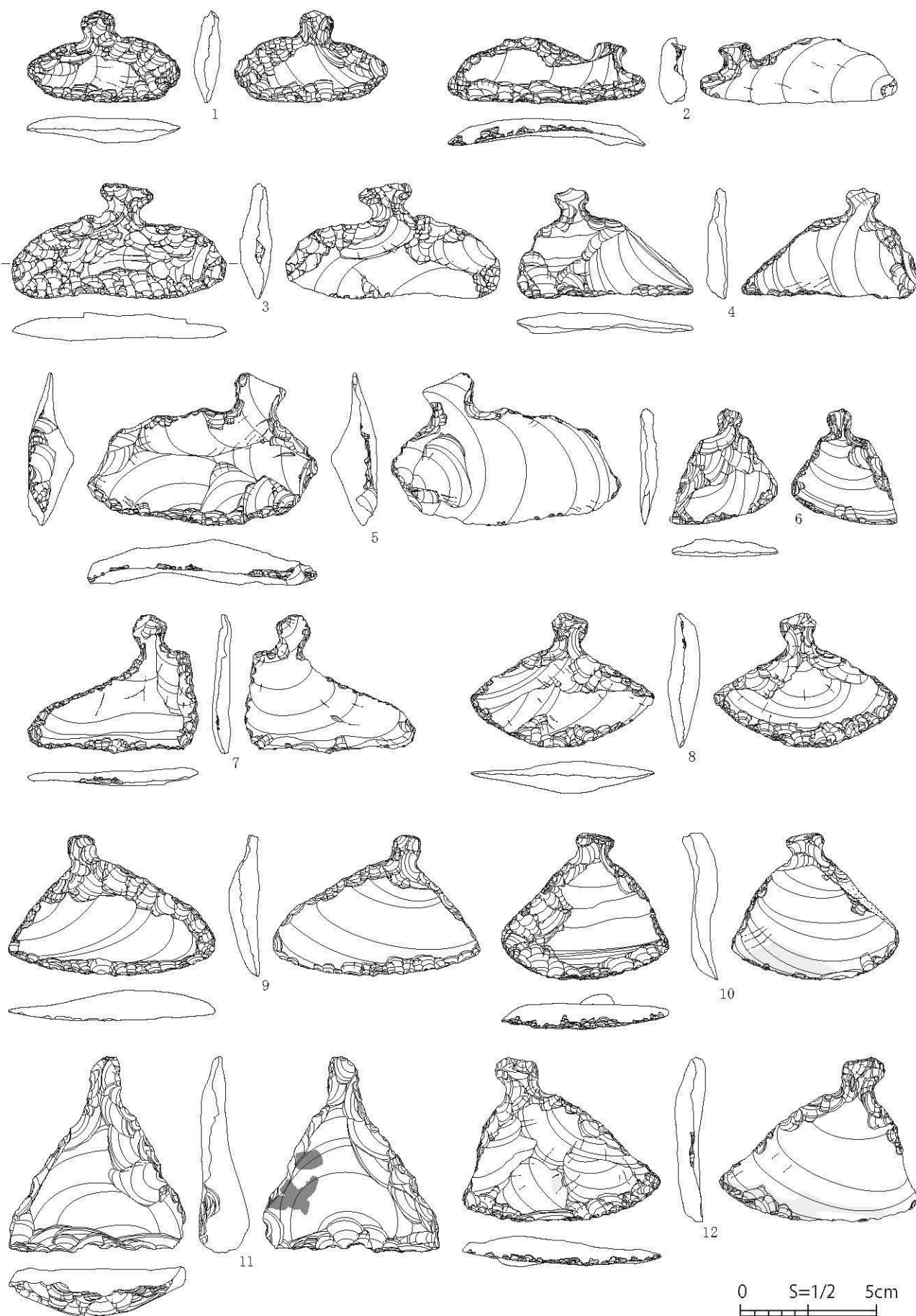


图128 剥片石器19

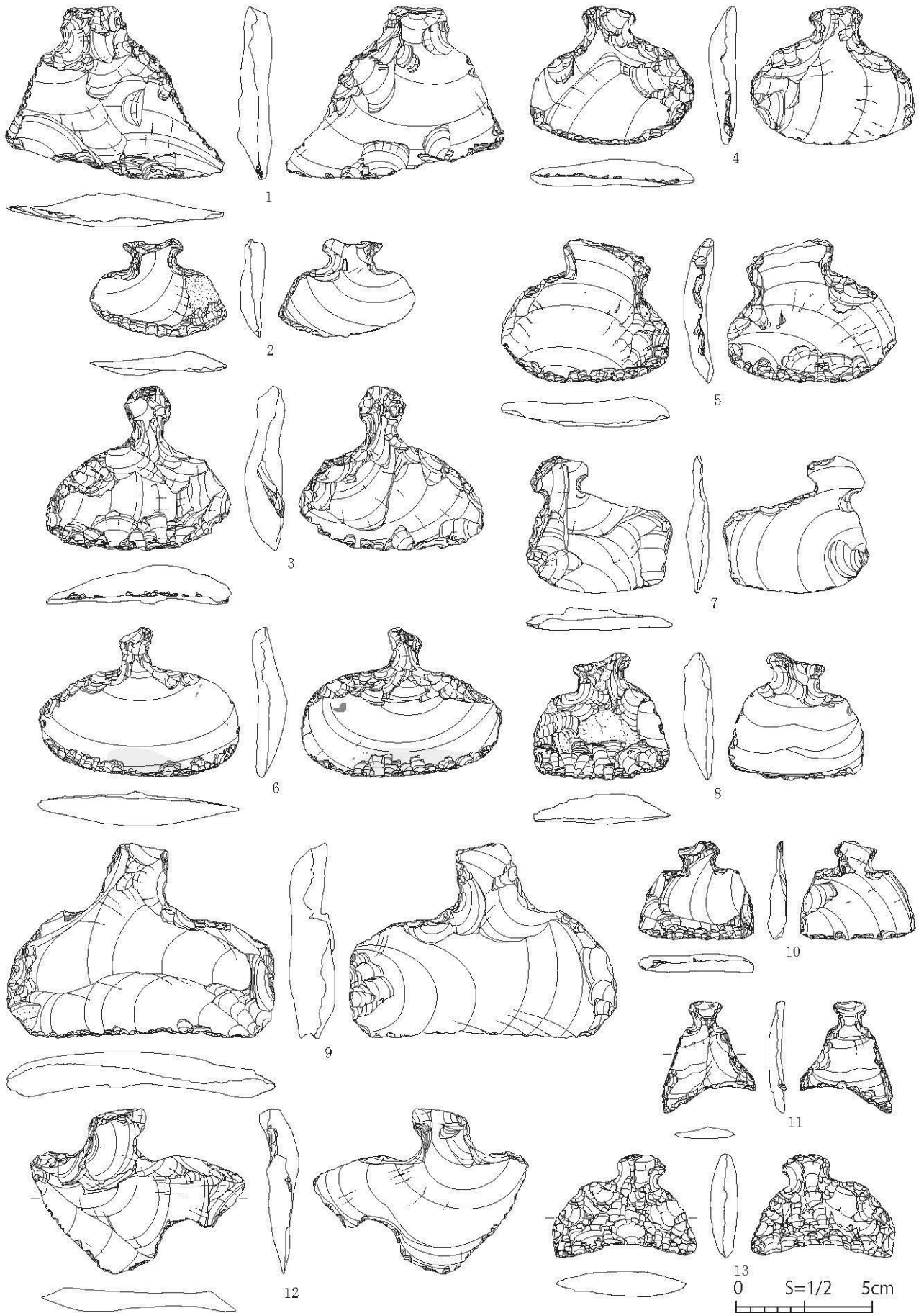


图129 剥片石器20

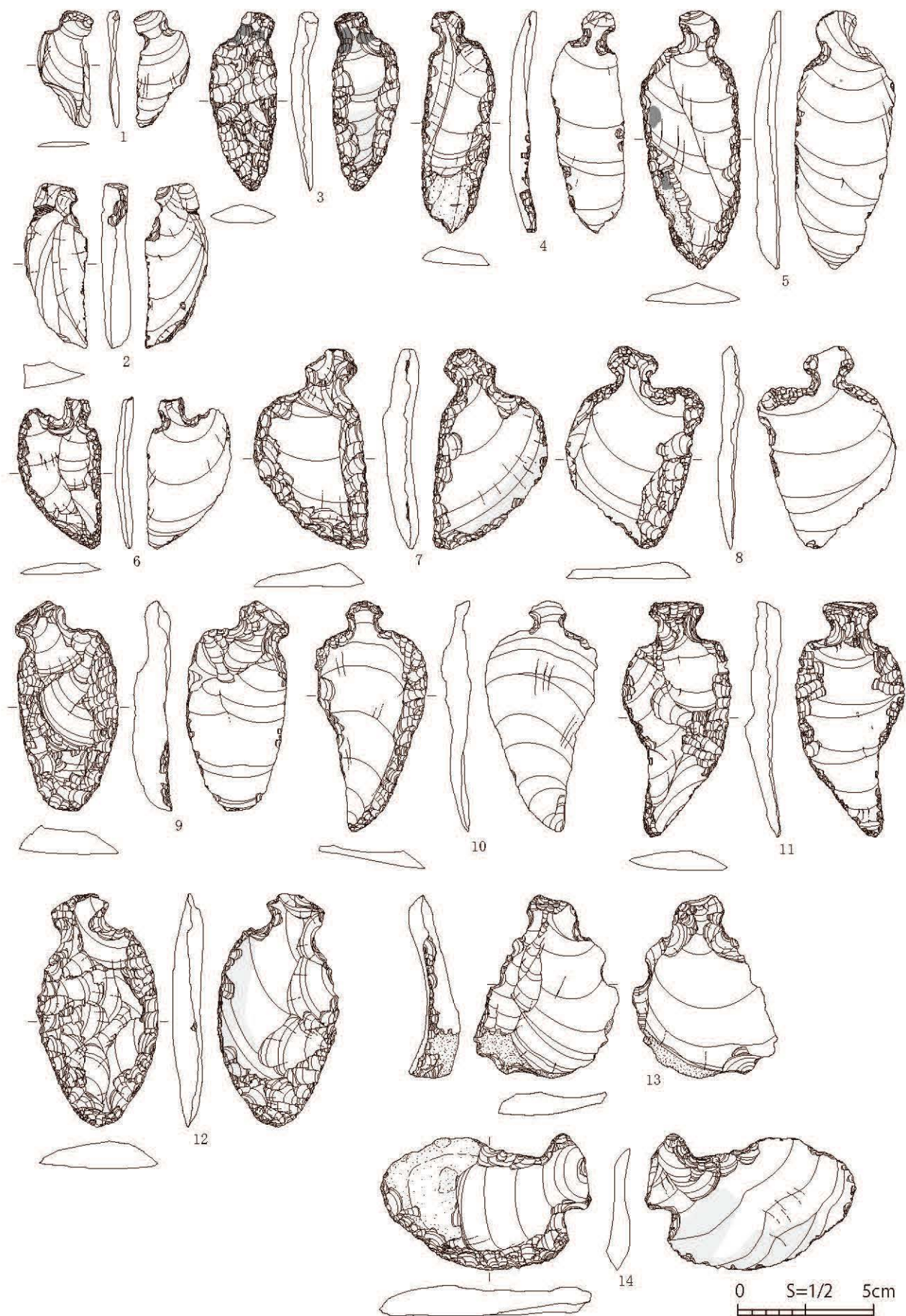


图130 剥片石器21

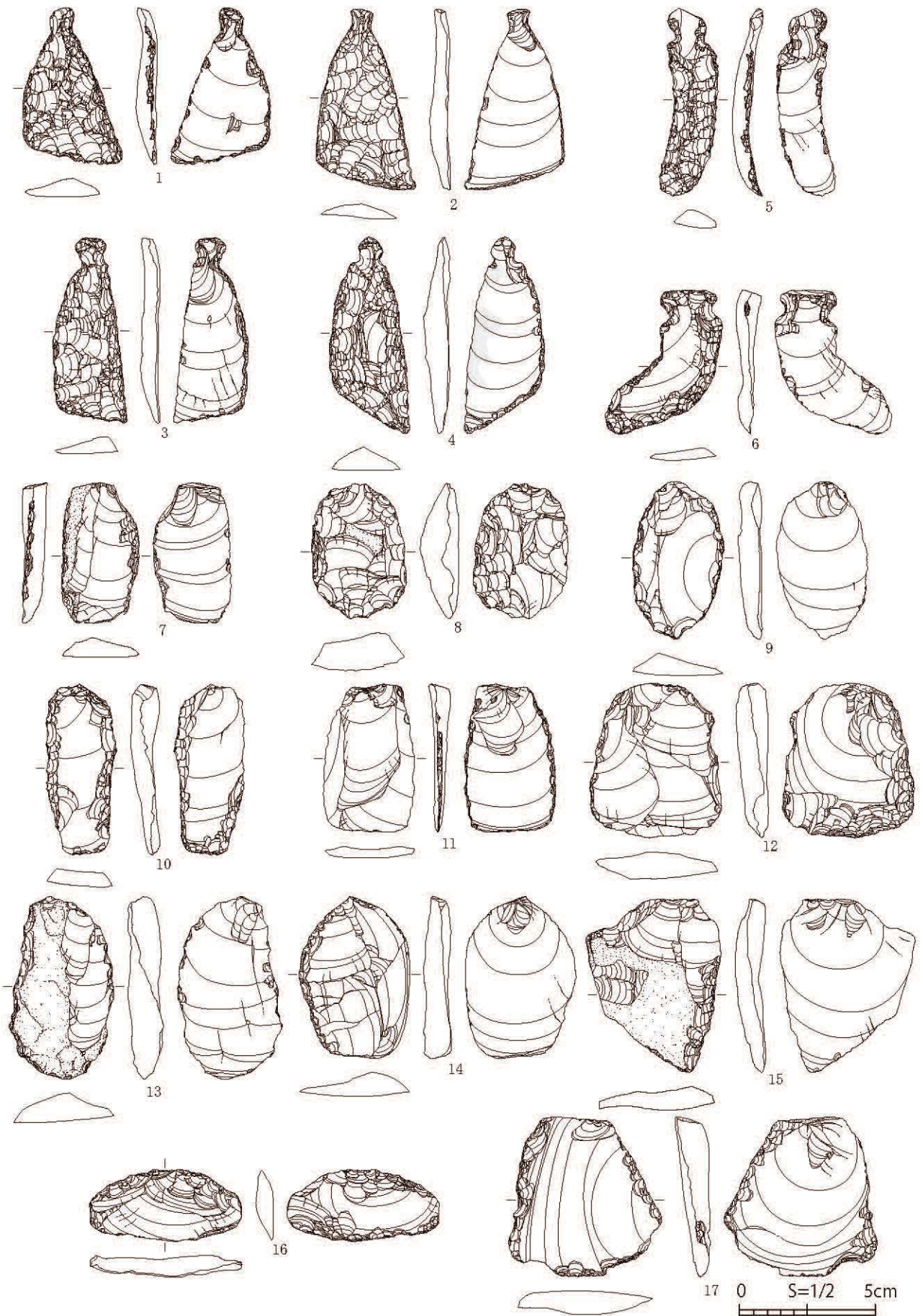


图131 剥片石器22

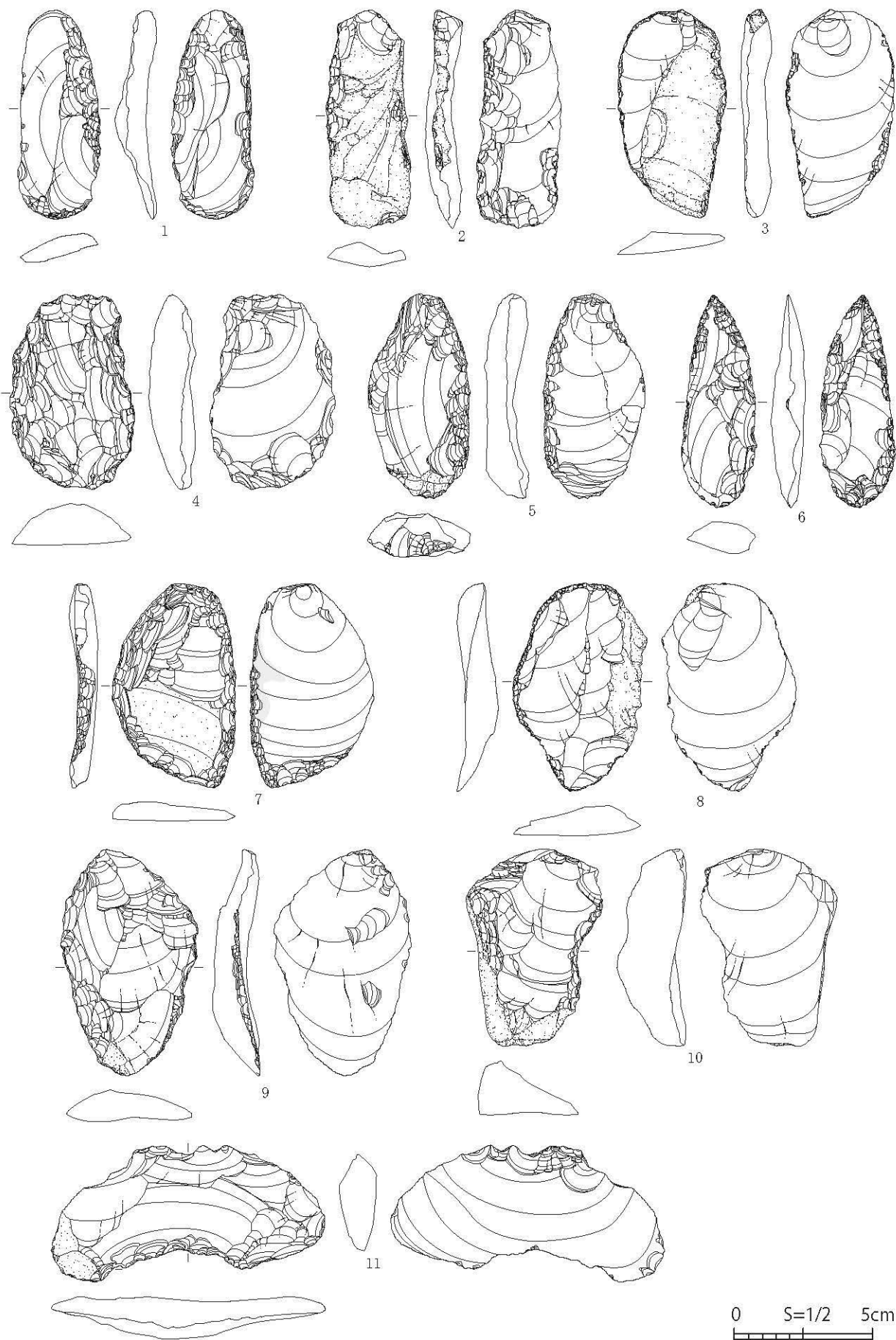


图132 剥片石器23

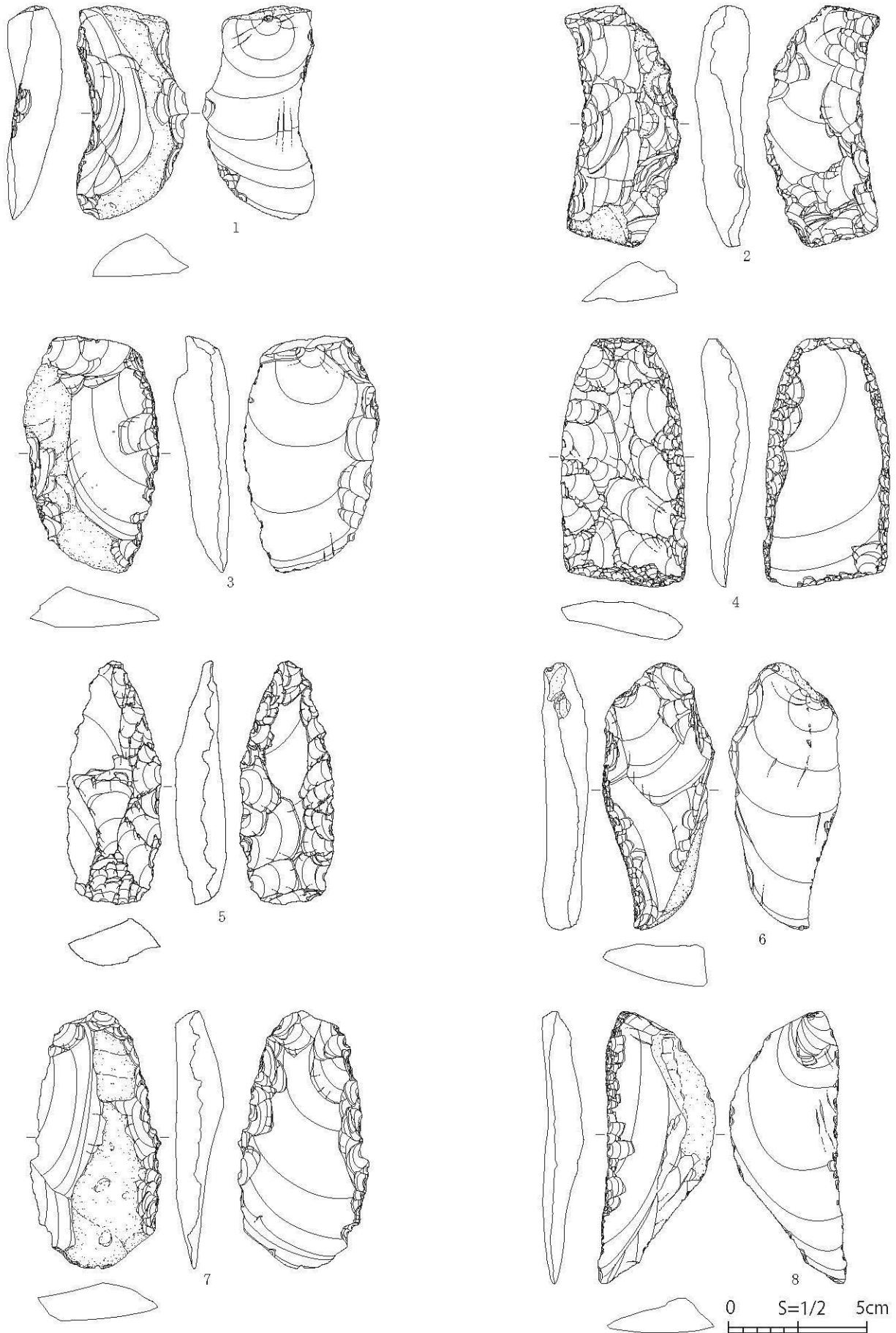


图133 剥片石器24



图134 剥片石器25

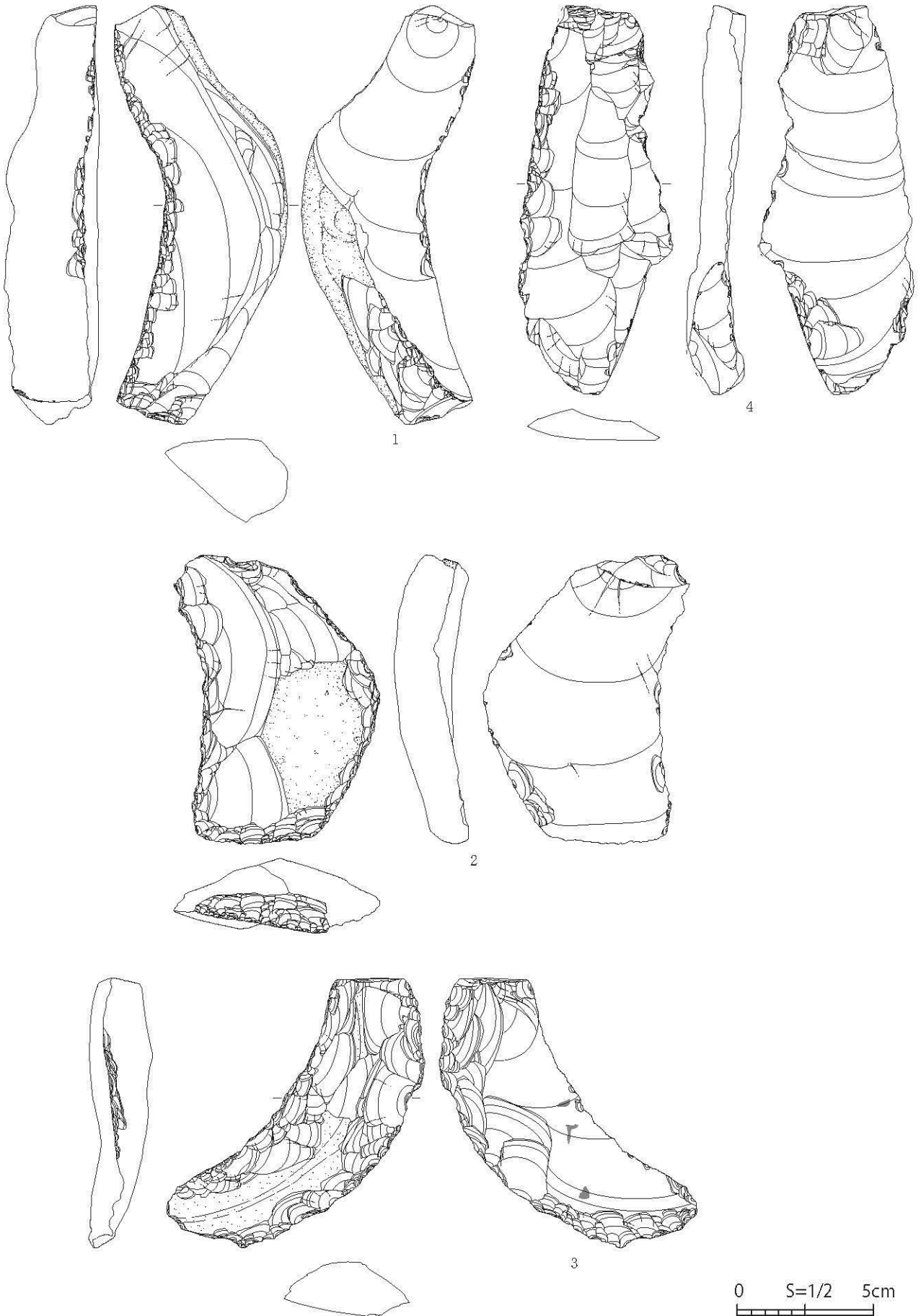


图135 剥片石器26

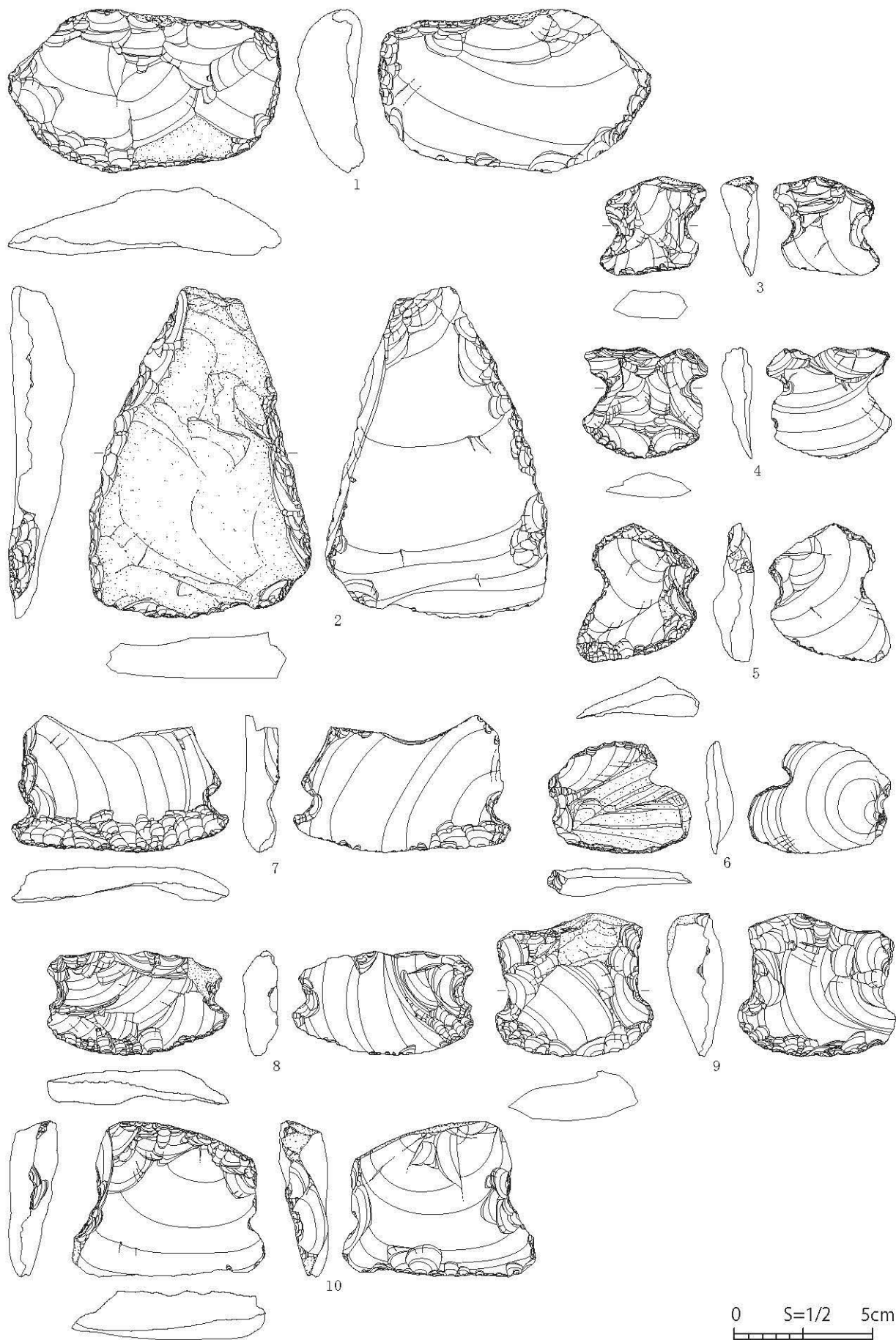


图136 剥片石器27



图137 剥片石器28

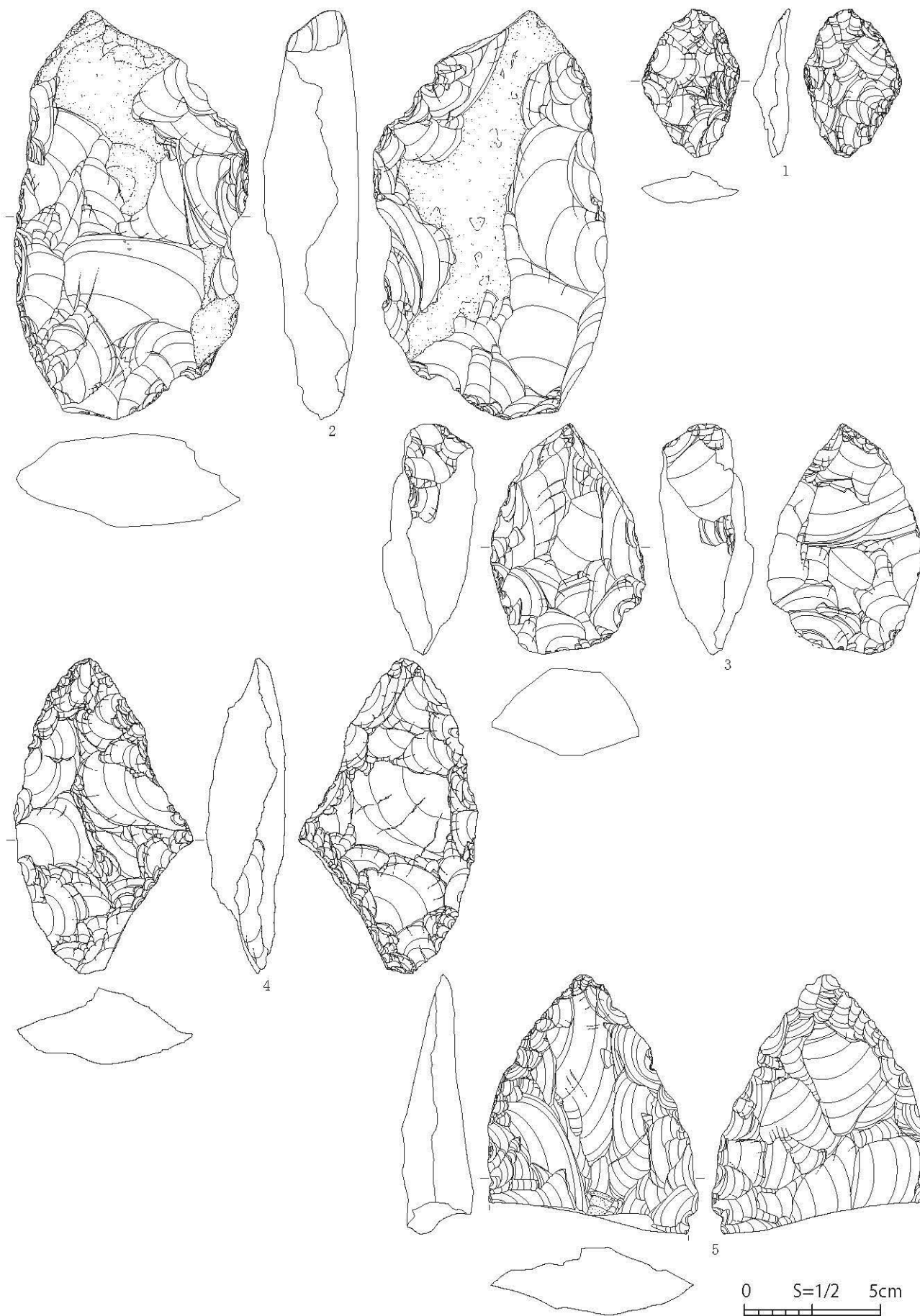


图138 剥片石器29

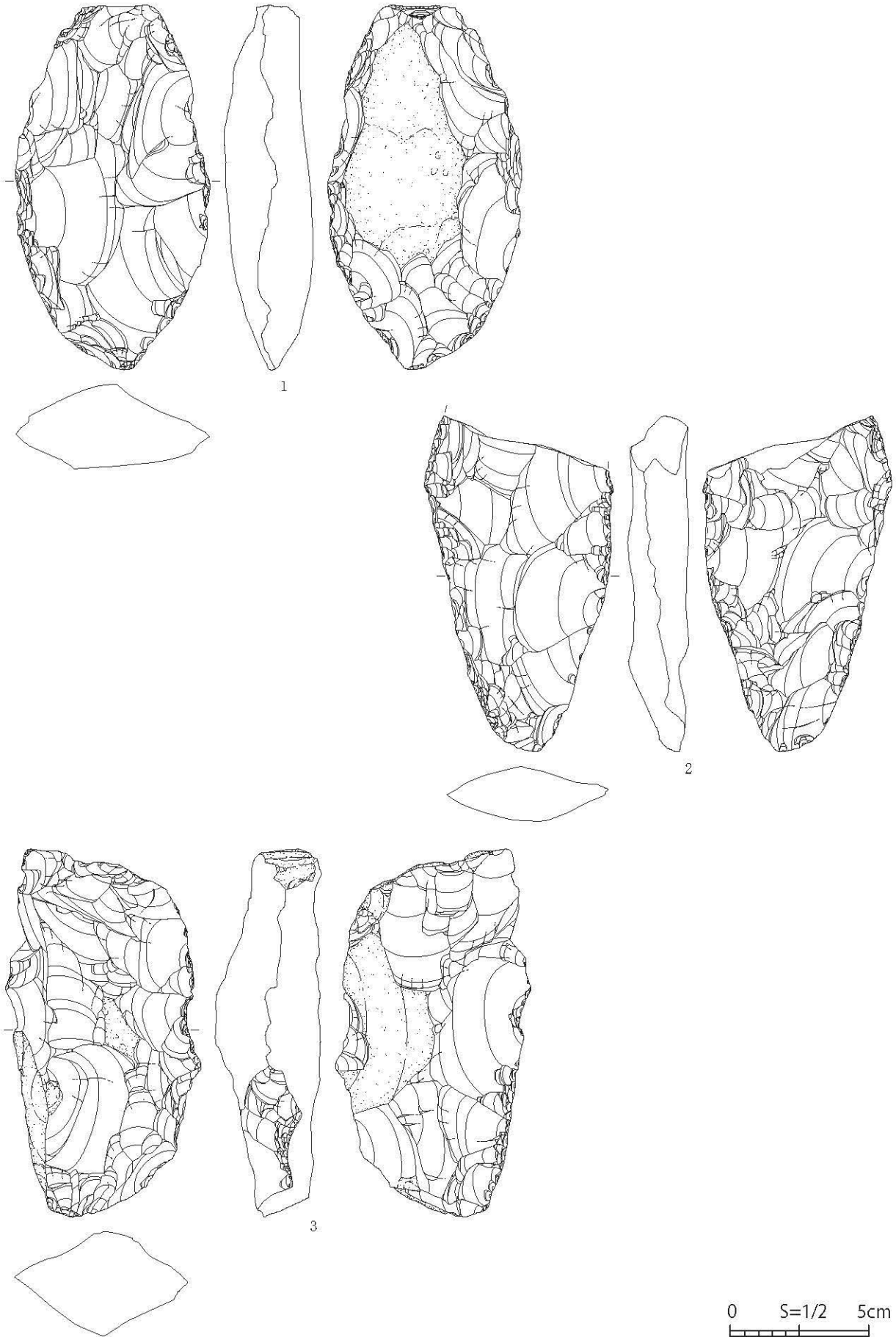


图139 剥片石器30

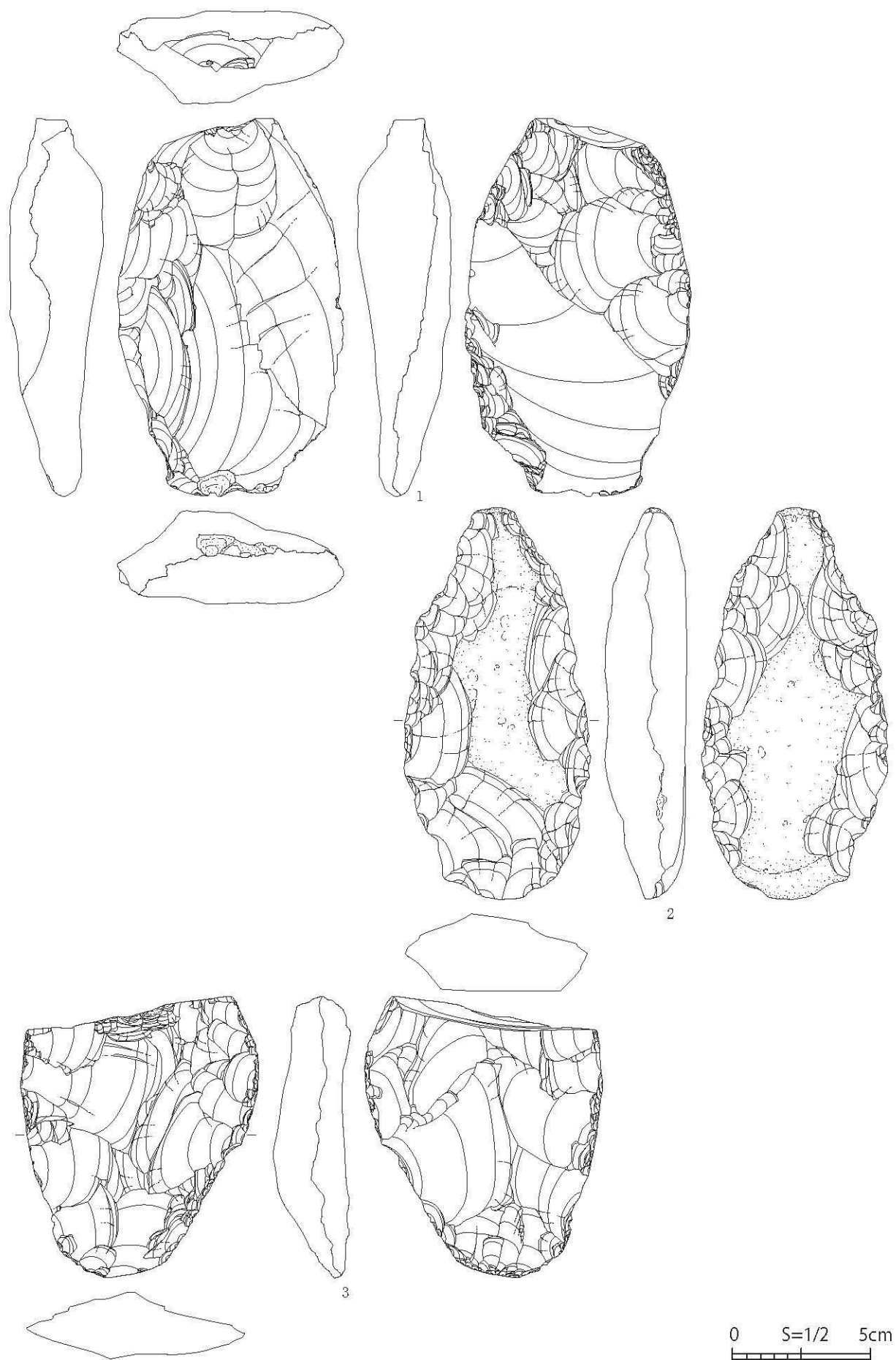


图140 剥片石器31



图141 剥片石器32

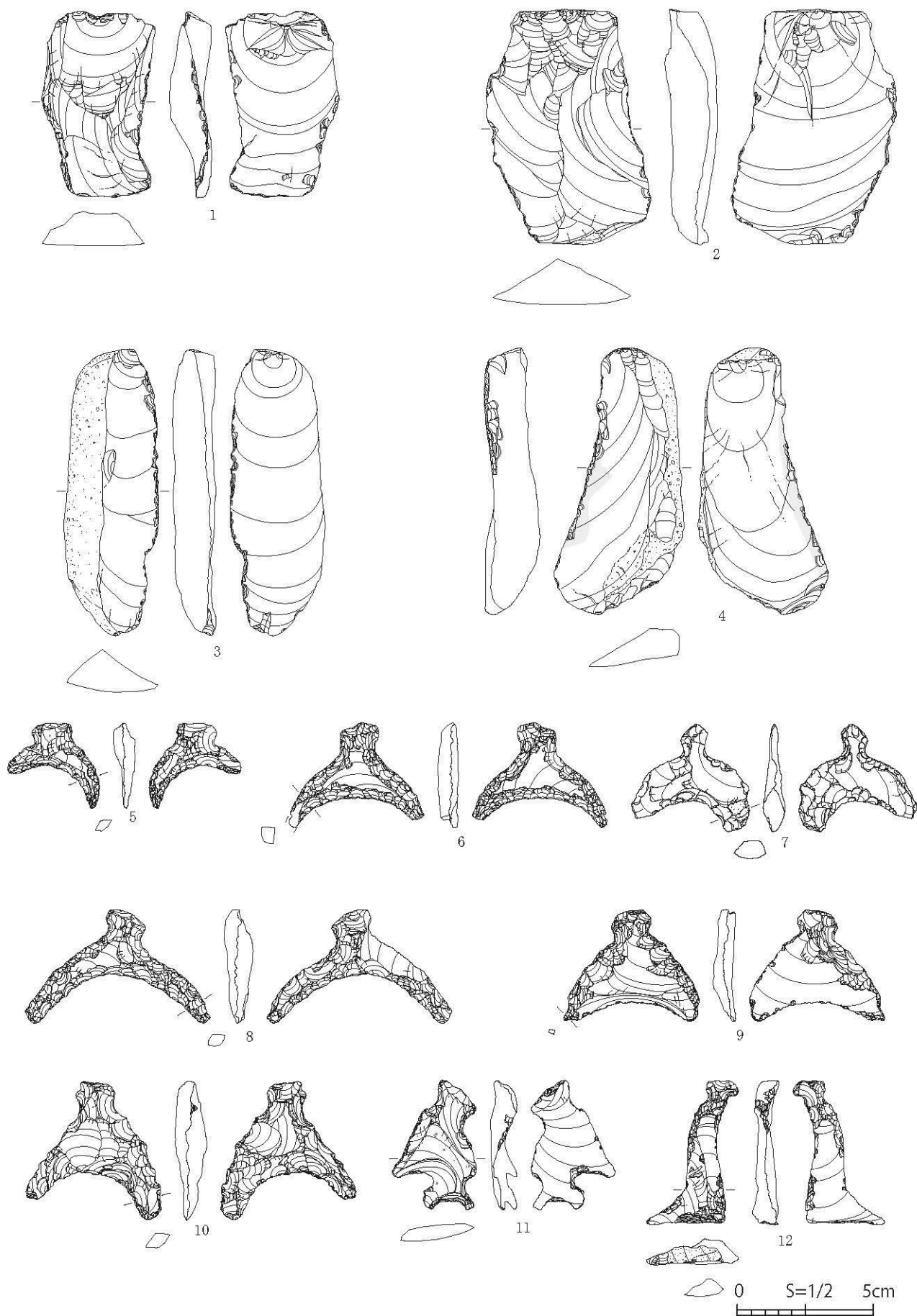


图142 剥片石器33

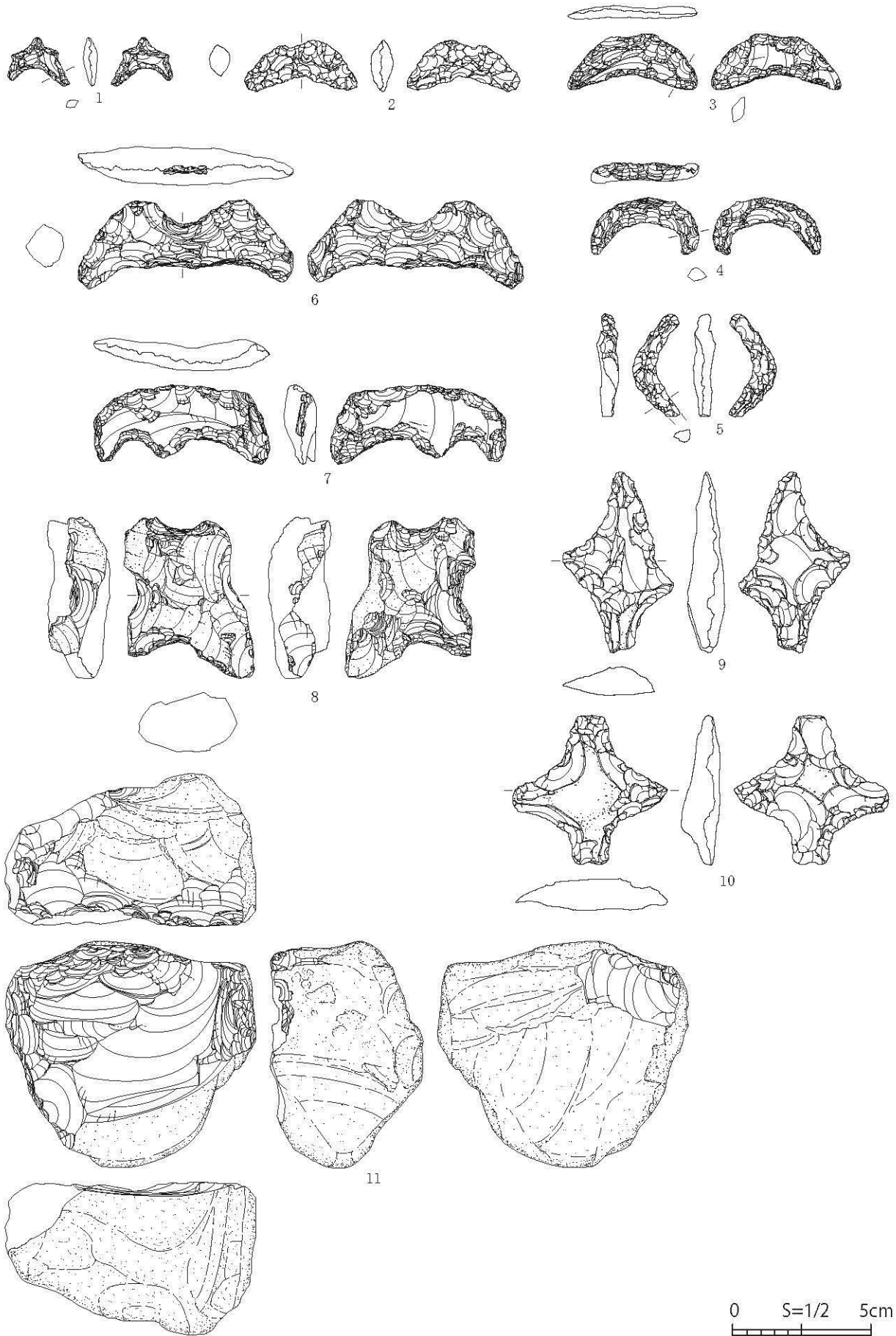
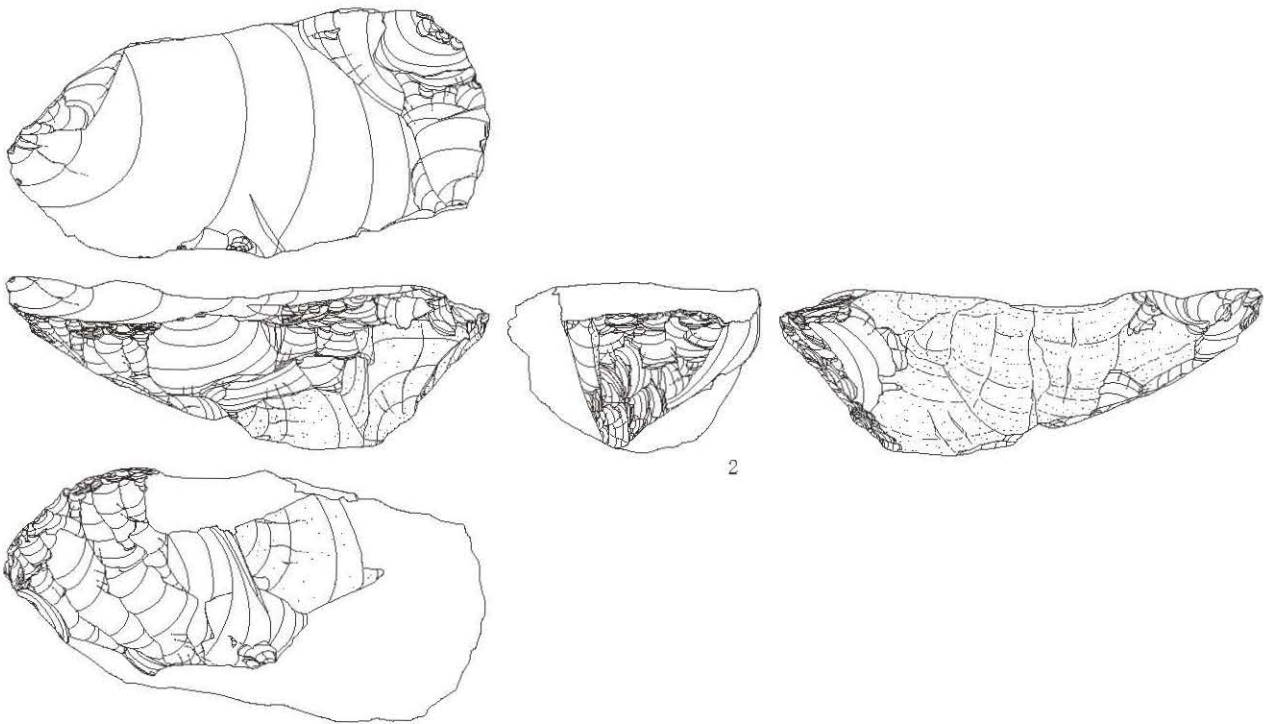
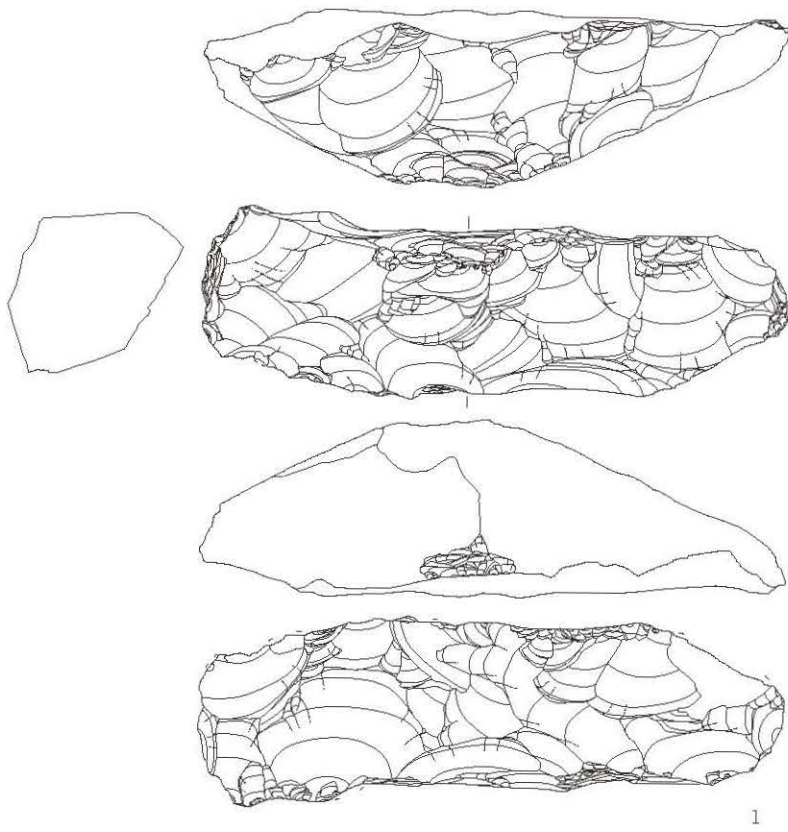


图143 剥片石器34



0 S=1/2 5cm

图144 剥片石器35

3ベルト
3a層

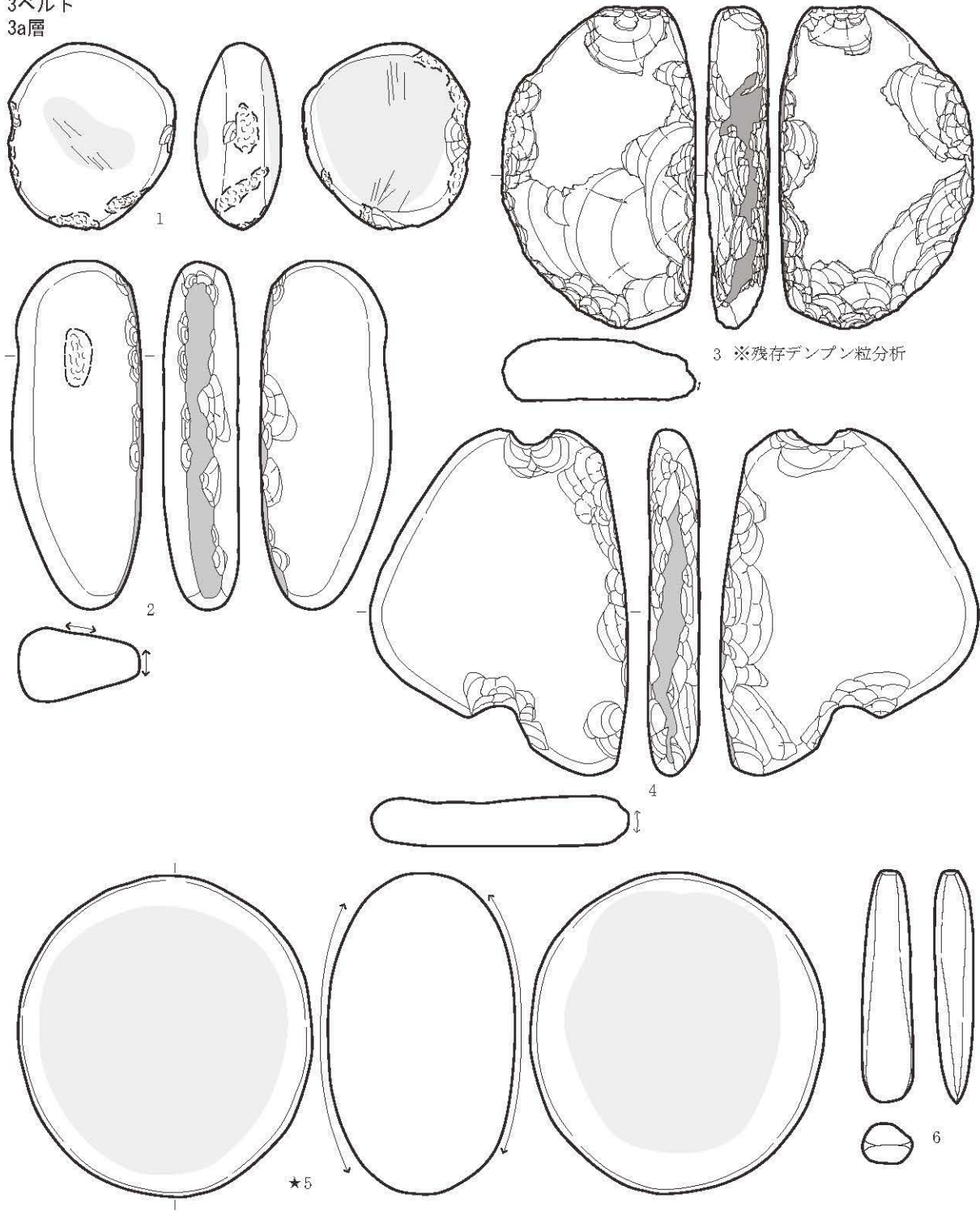
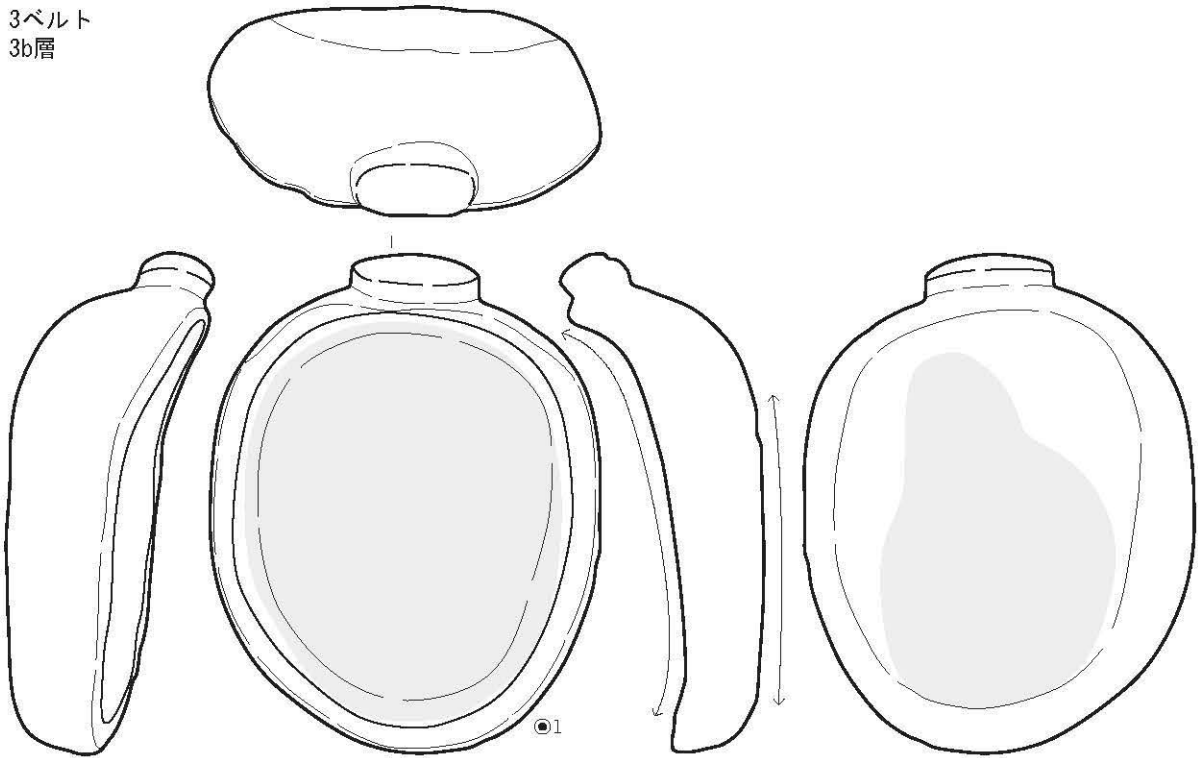
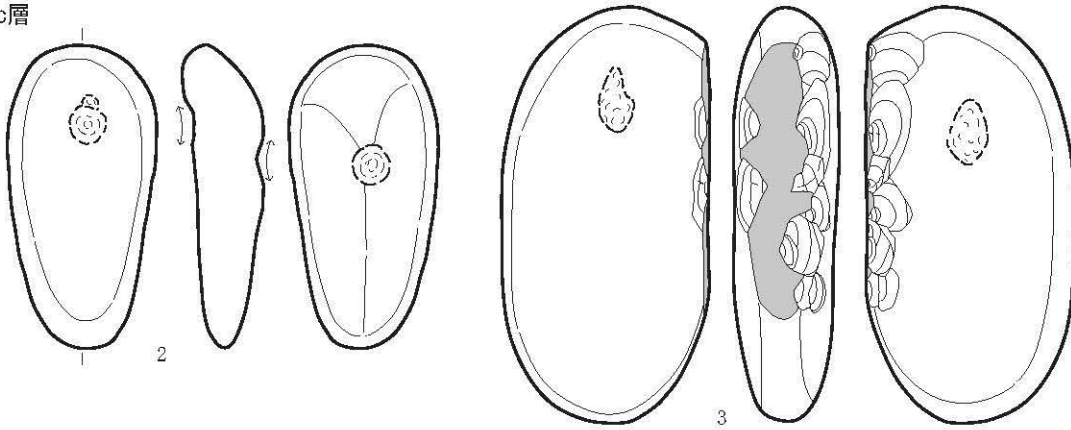


図145 礫石器1(細分層位)

3ベルト
3b層



3c層



3c・d層

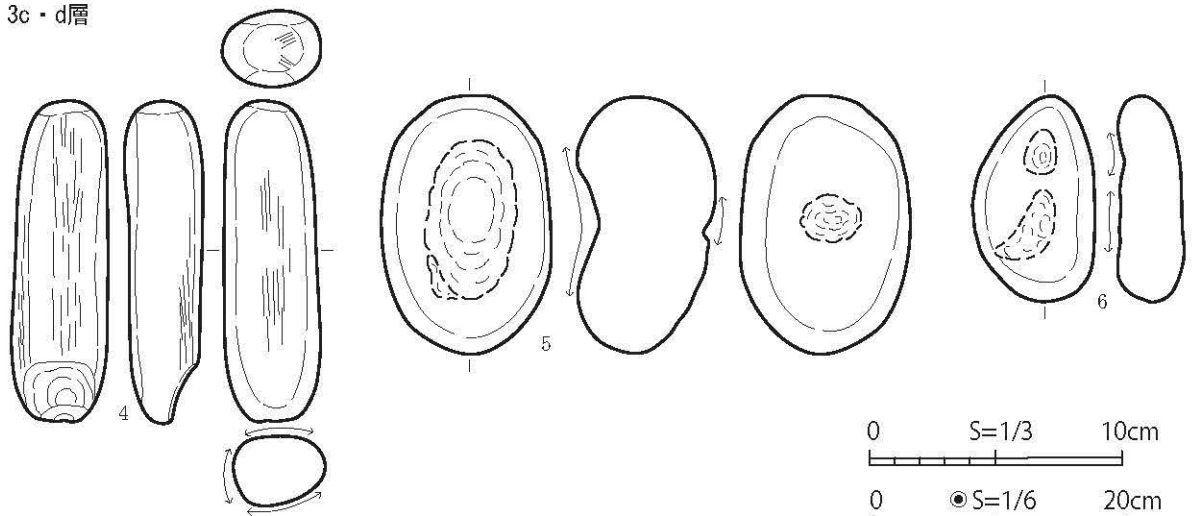


図146 礫石器2(細分層位)

3ベルト
3c・d層

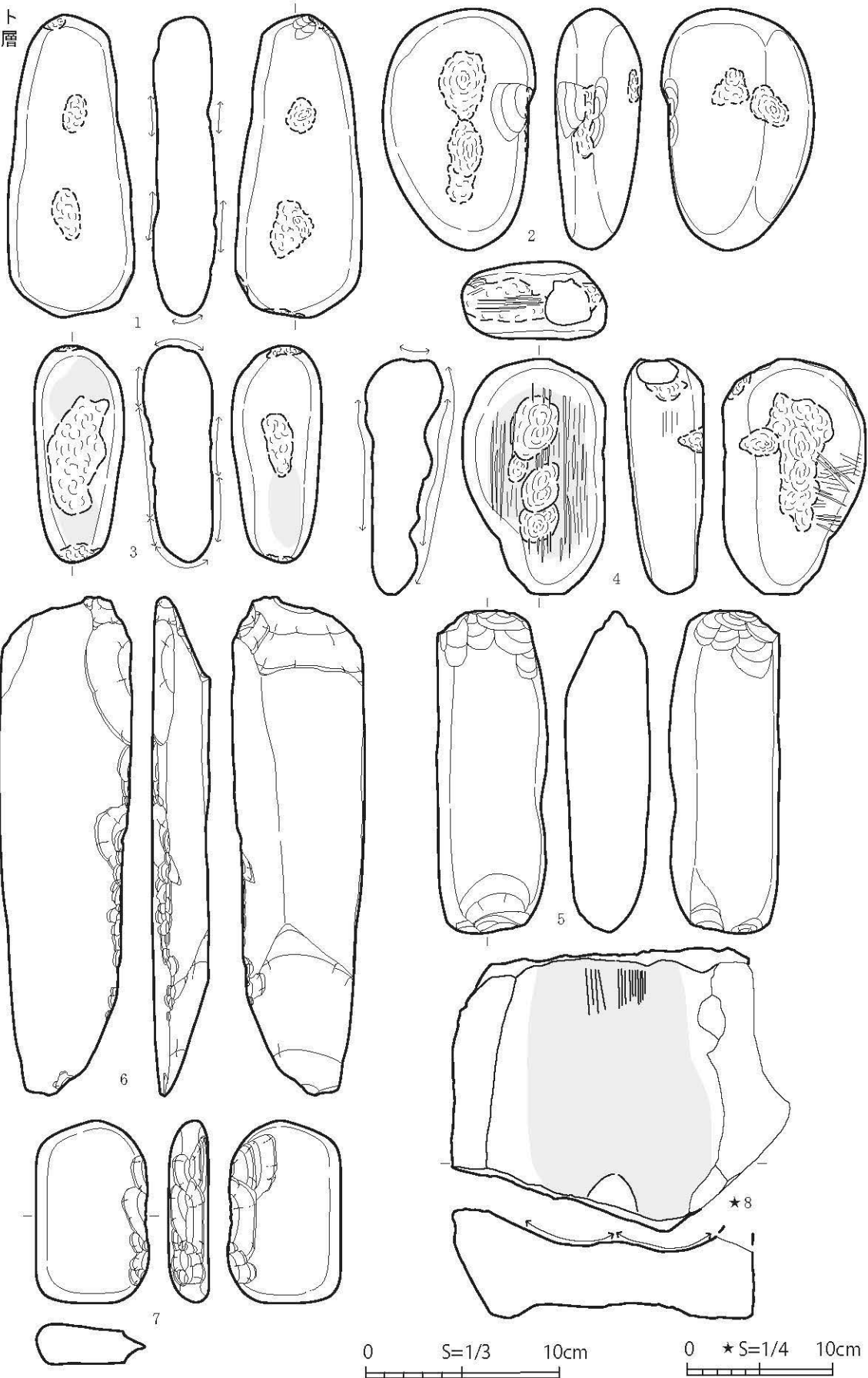
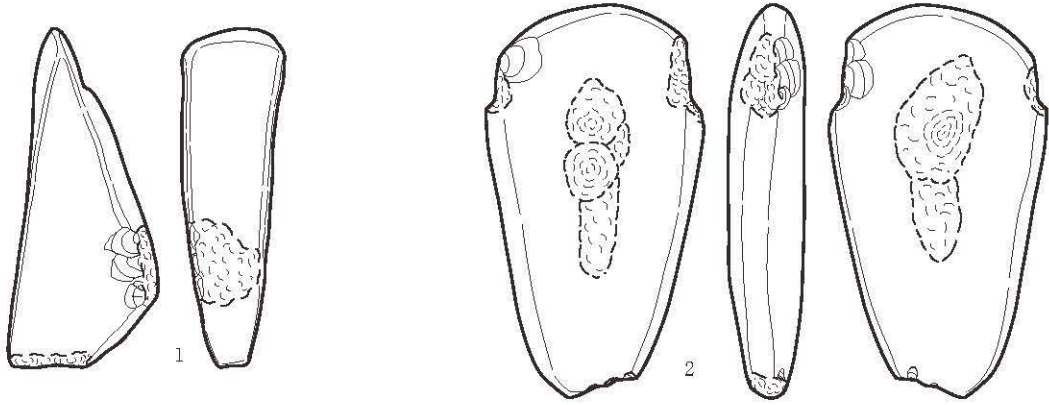
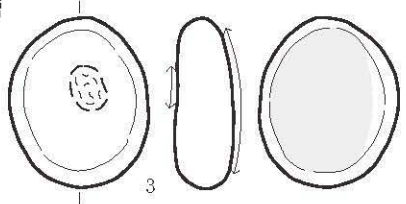


図147 礫石器3(細分層位)

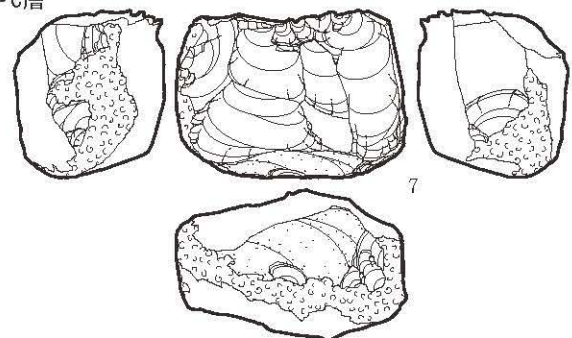
3ベルト
3d層



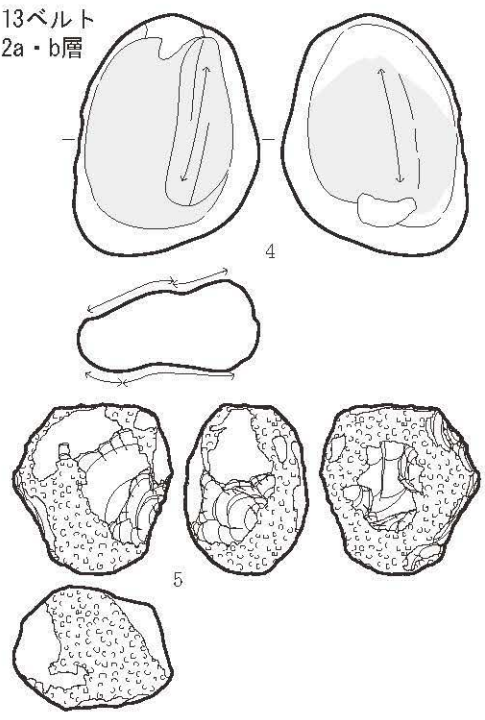
3e層



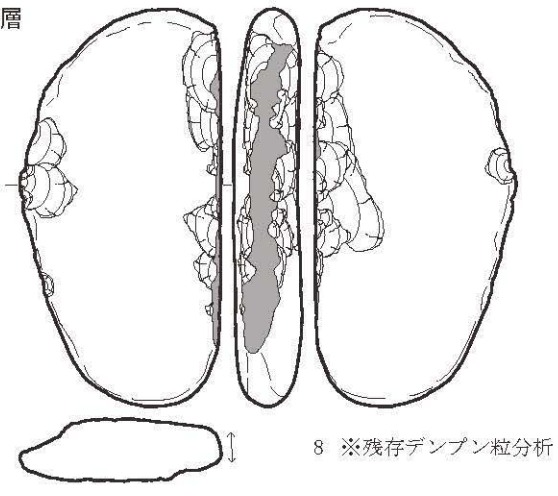
3a~c層



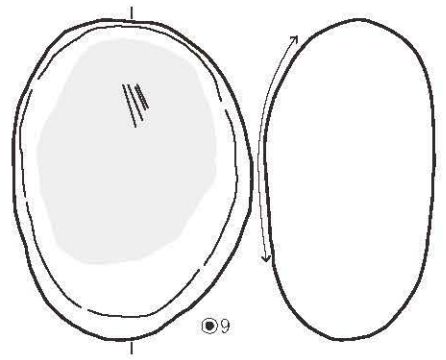
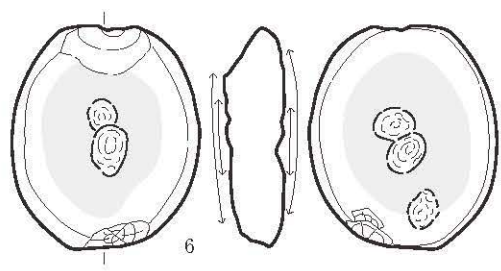
13ベルト
2a・b層



3d・e・f層



3a層

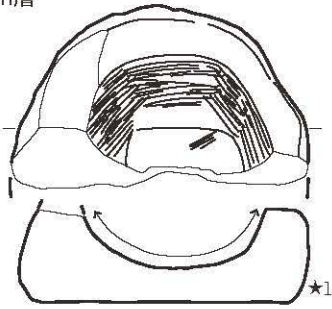


0 S=1/3 10cm

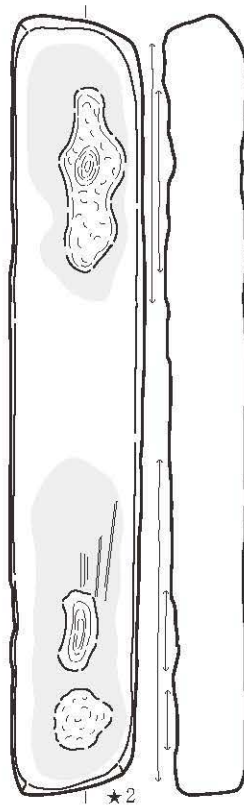
0 ●S=1/6 20cm

図148 礫石器4(細分層位)

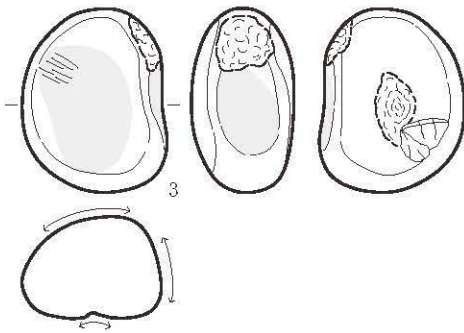
13ベルト
3g・h層



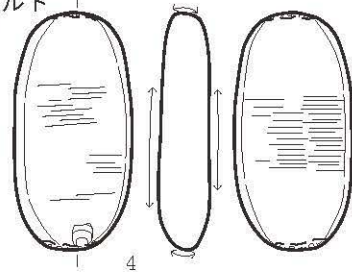
3h層



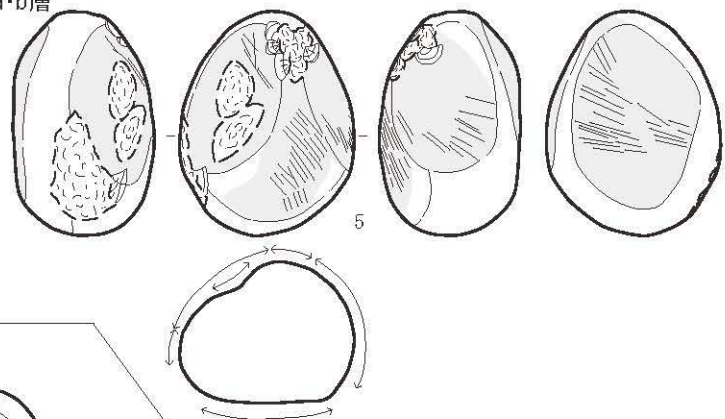
3i層



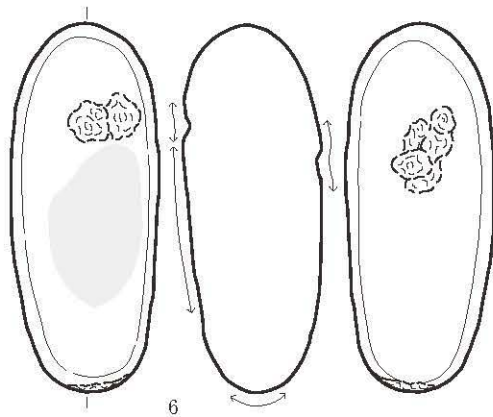
18ベルト
2i層



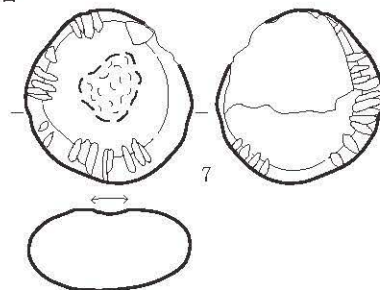
3a・b層



2k~m層



19ベルト
2c層



0 S=1/3 10cm

0 *S=1/4 10cm

図149 礫石器5(細分層位)

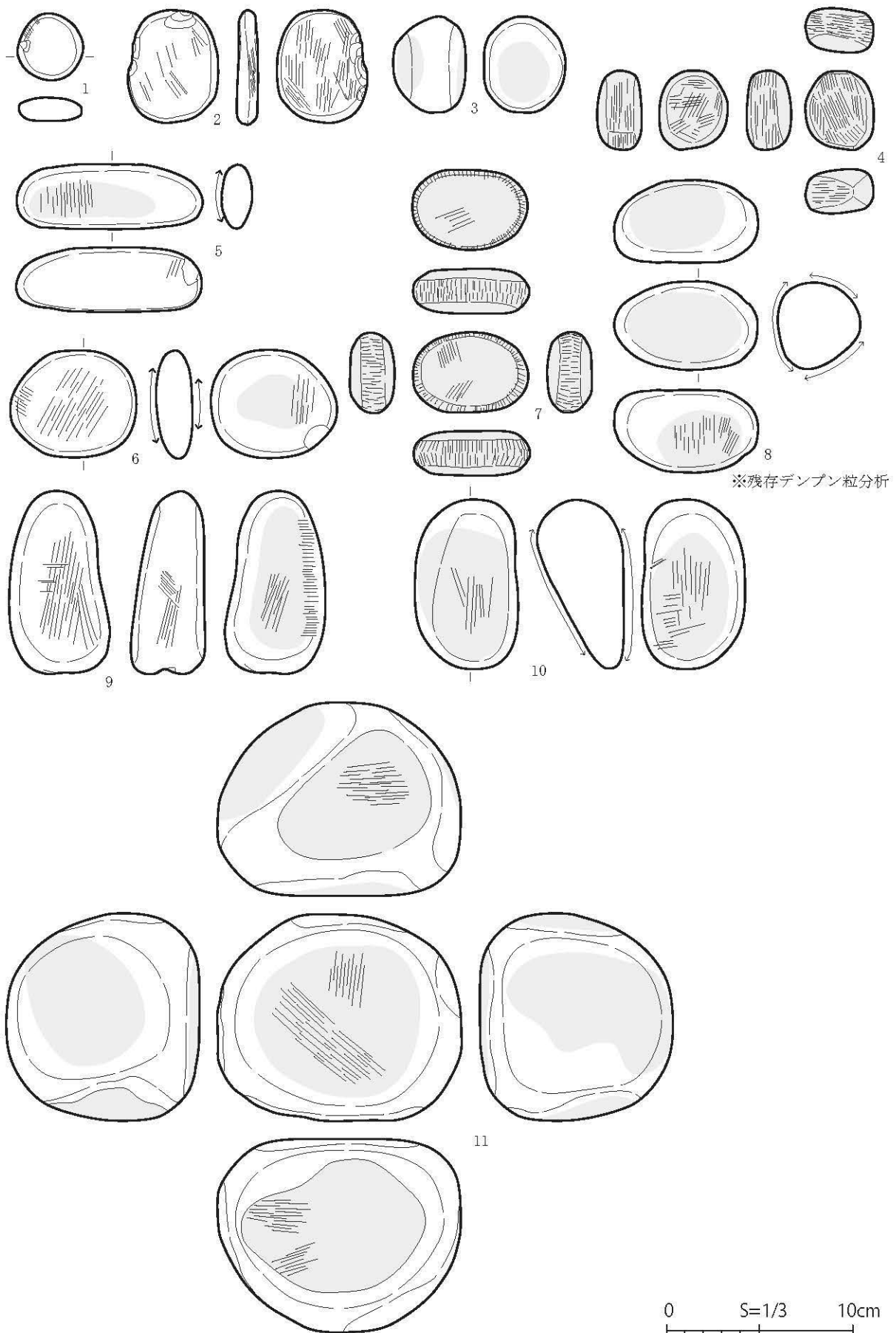


図150 礫石器6

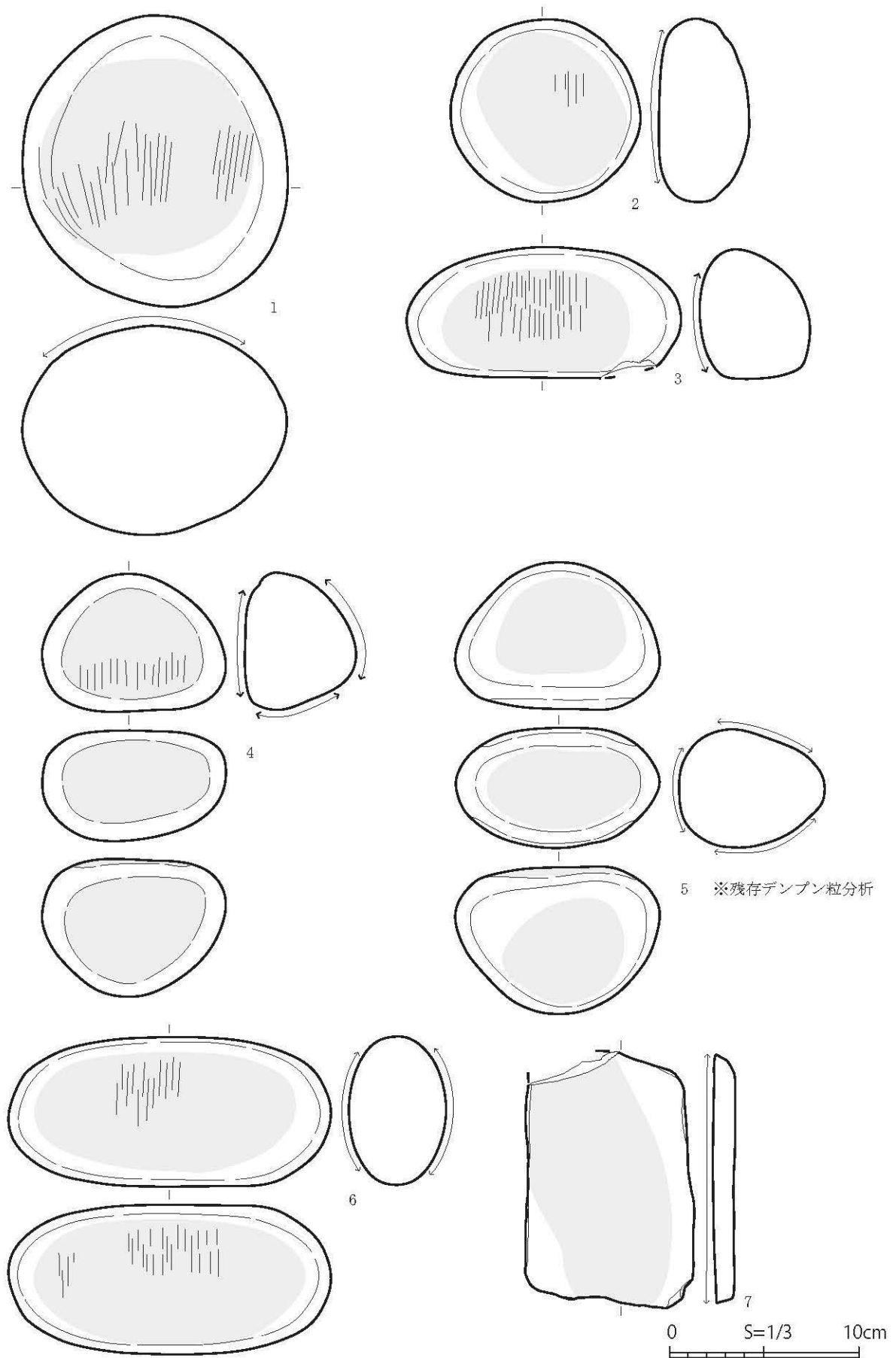


図151 礫石器7



图152 礫石器8

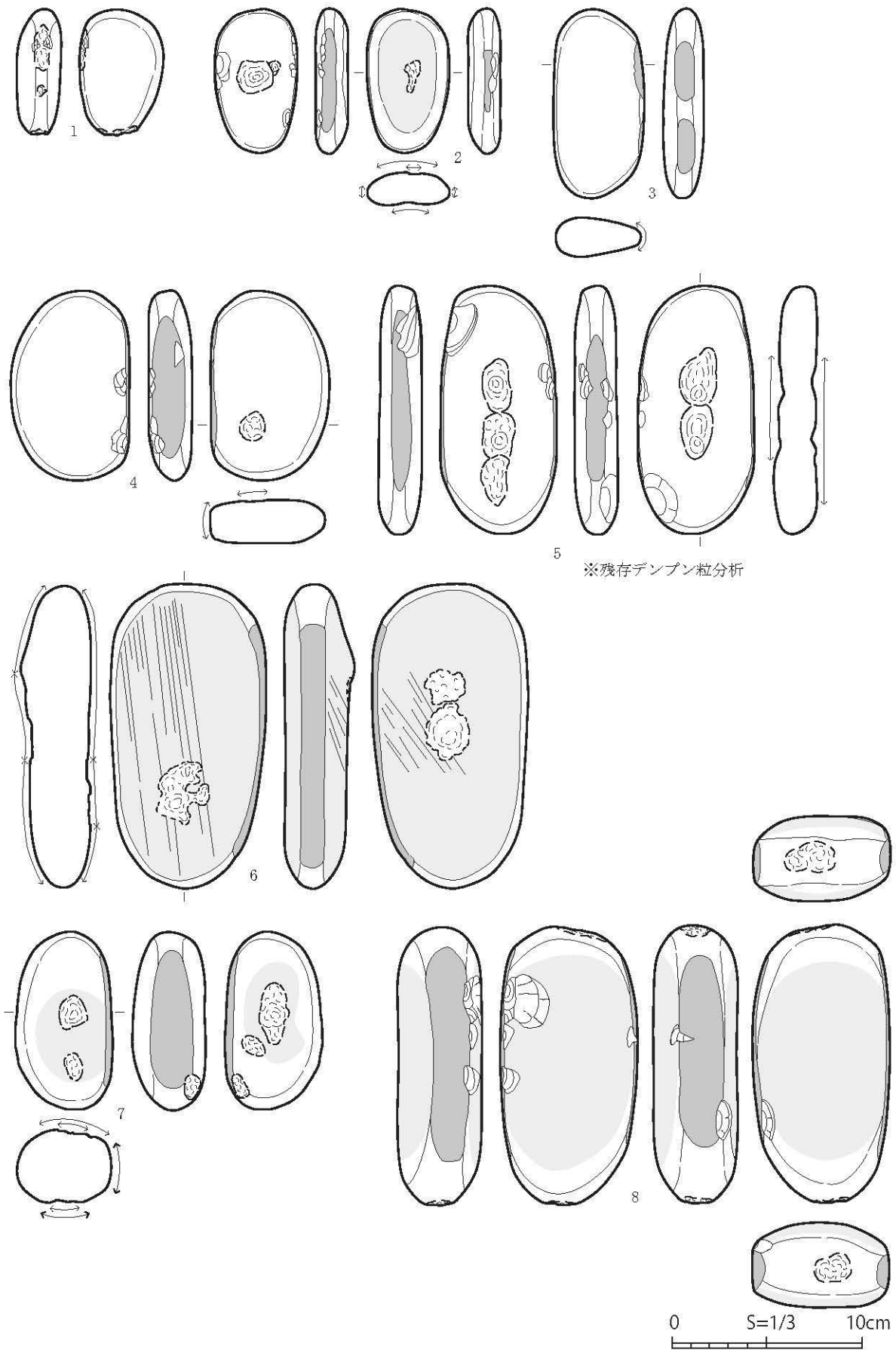


図153 礫石器9

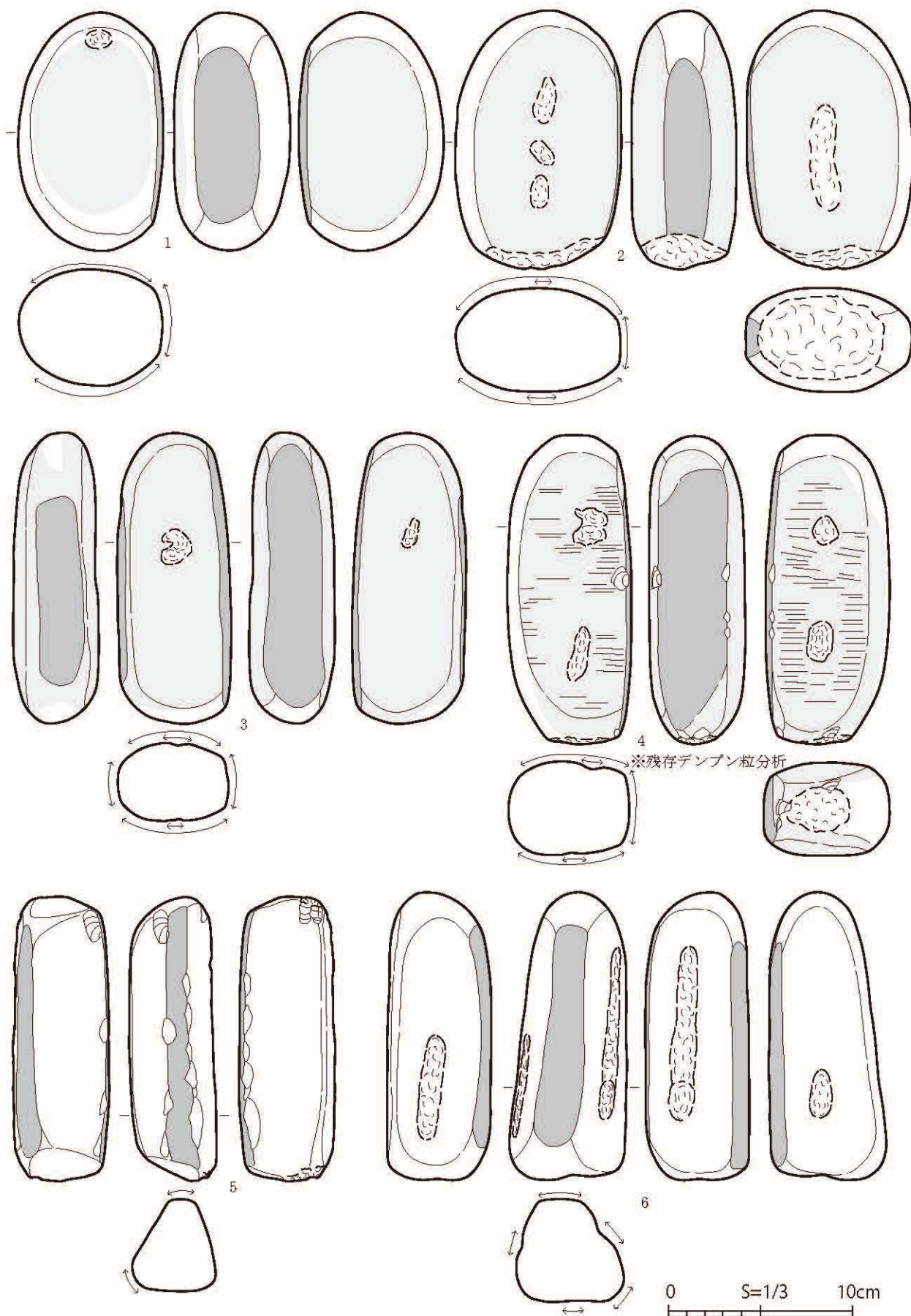


図154 礫石器10

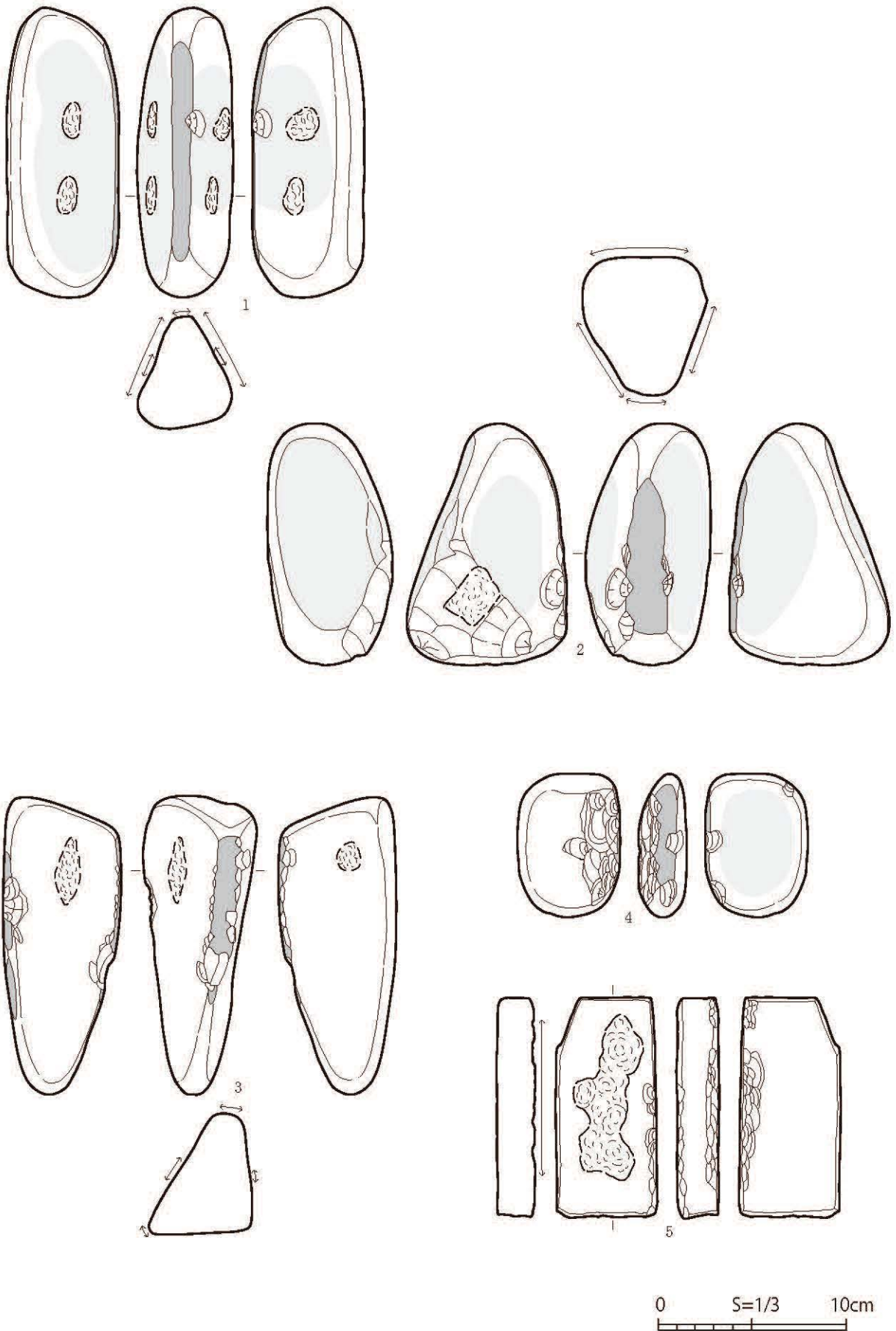


图155 礮石器11

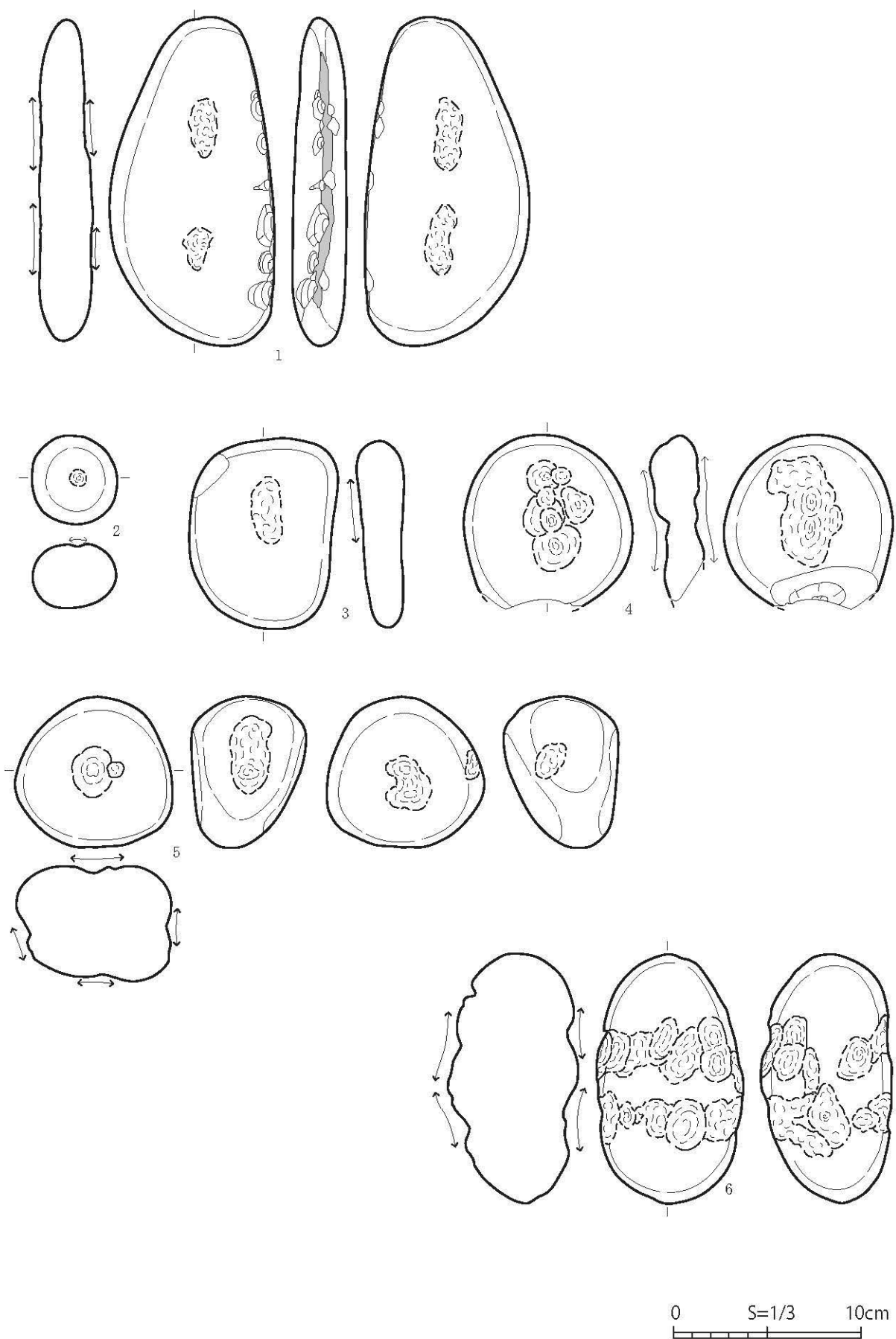


图156 礫石器12

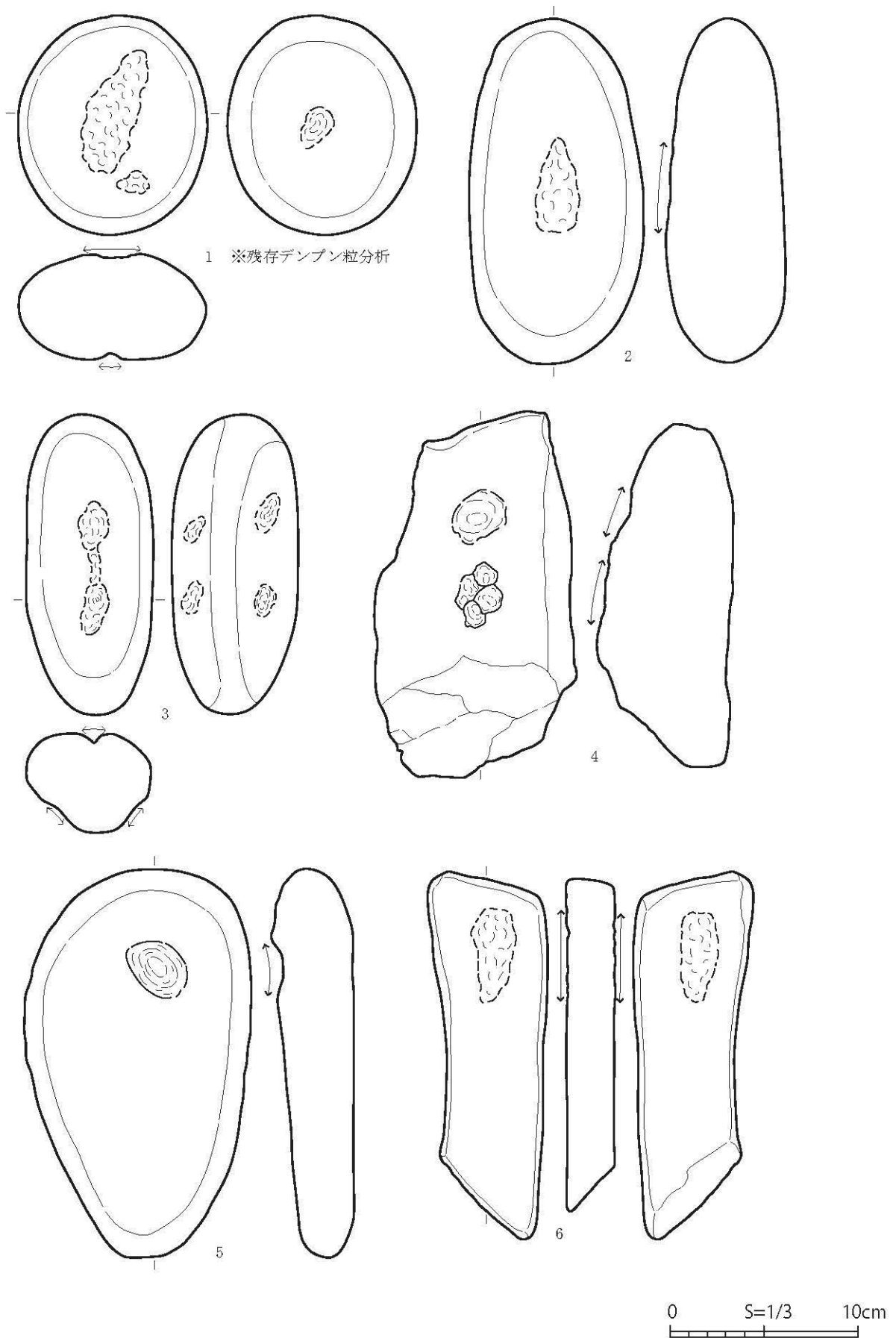


図157 礫石器13

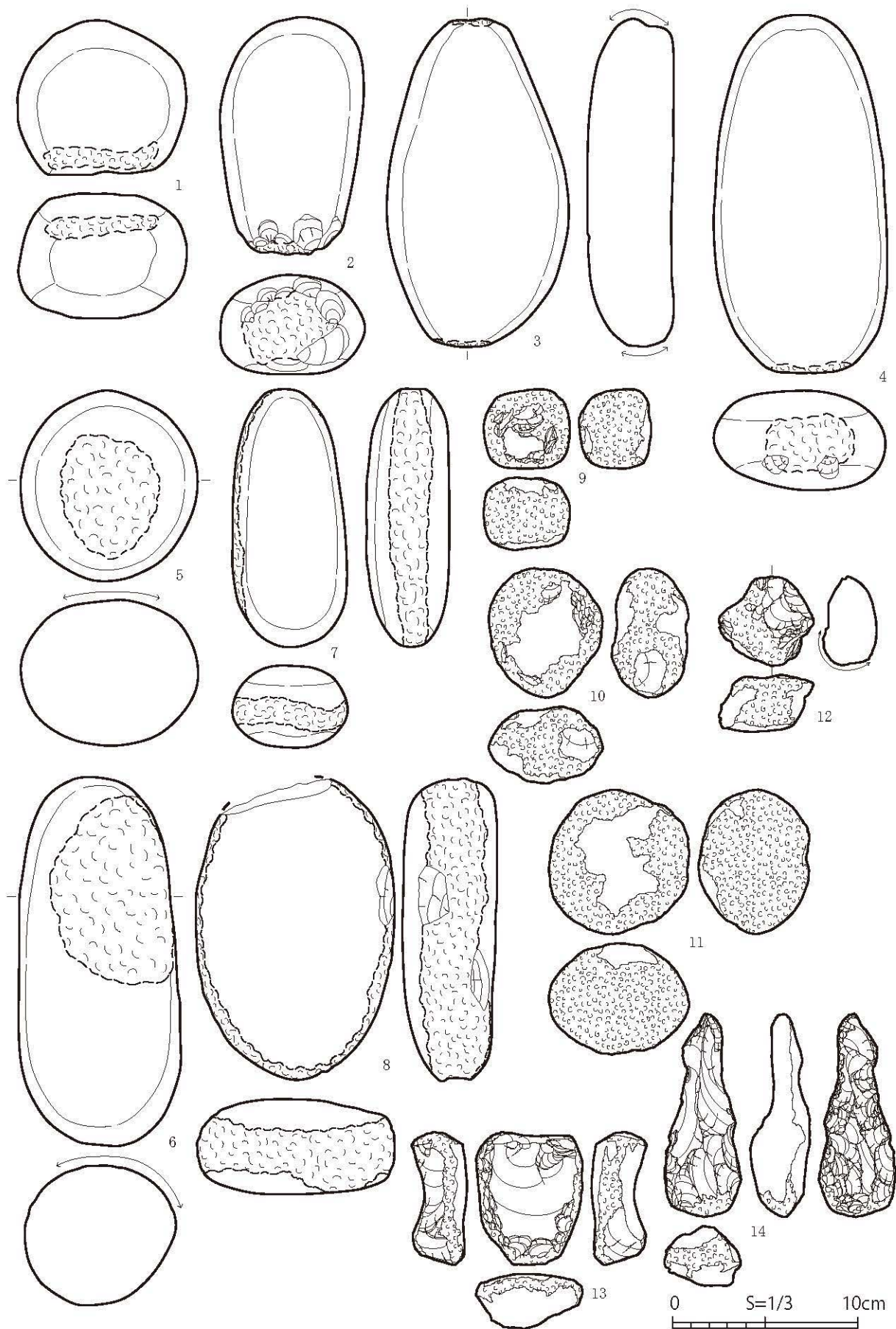


図158 礫石器14

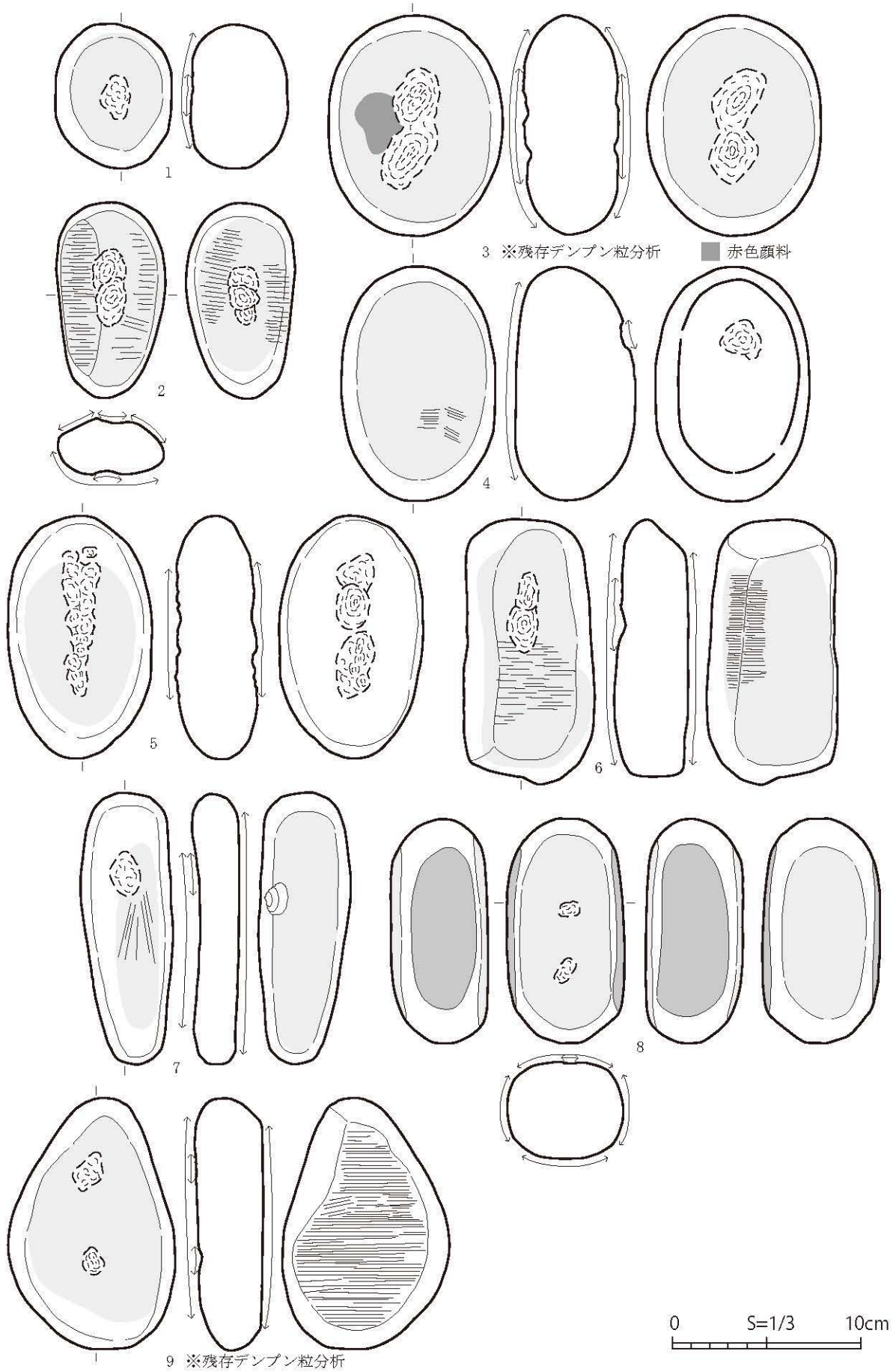


図159 礫石器15

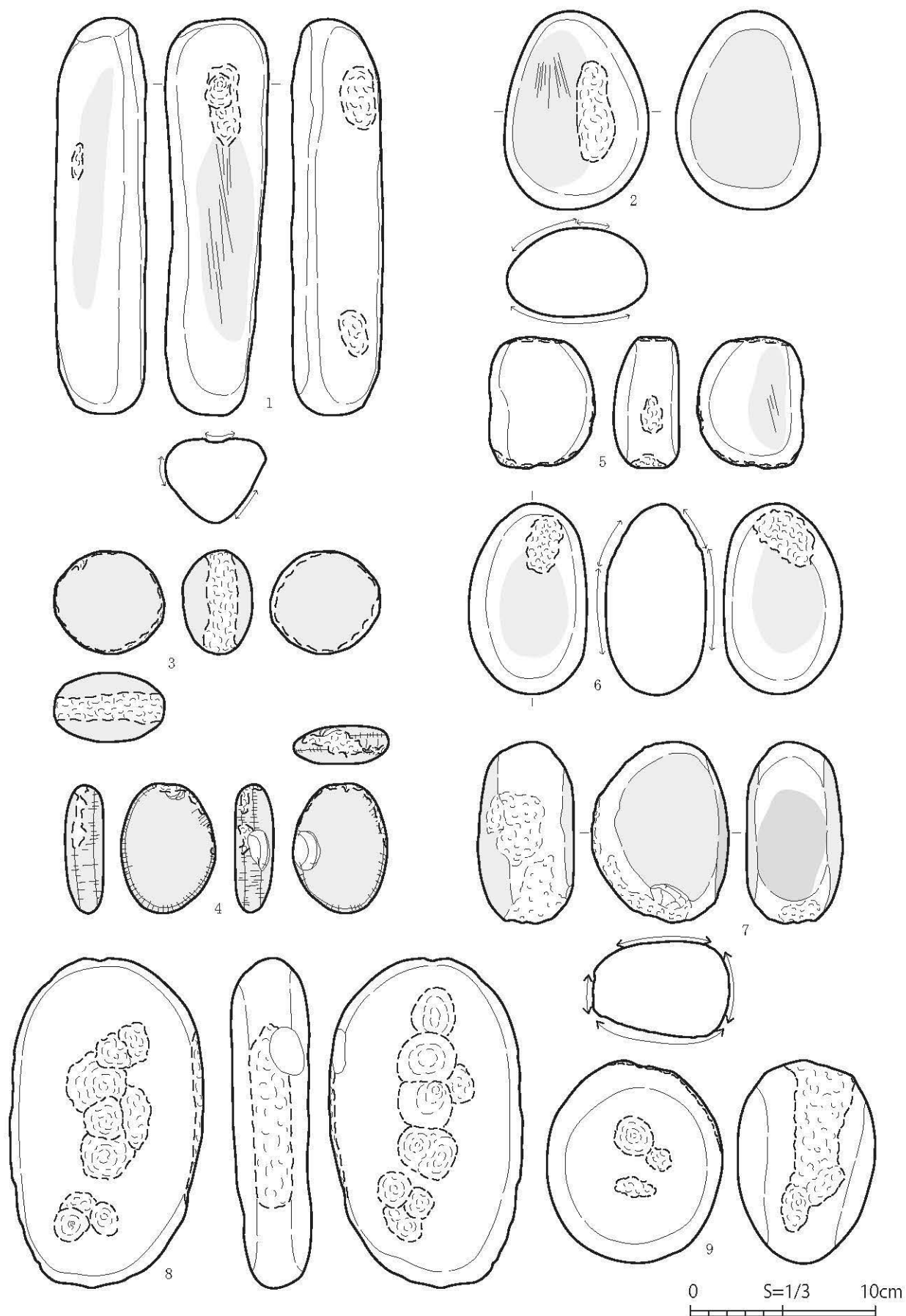


图160 礫石器16

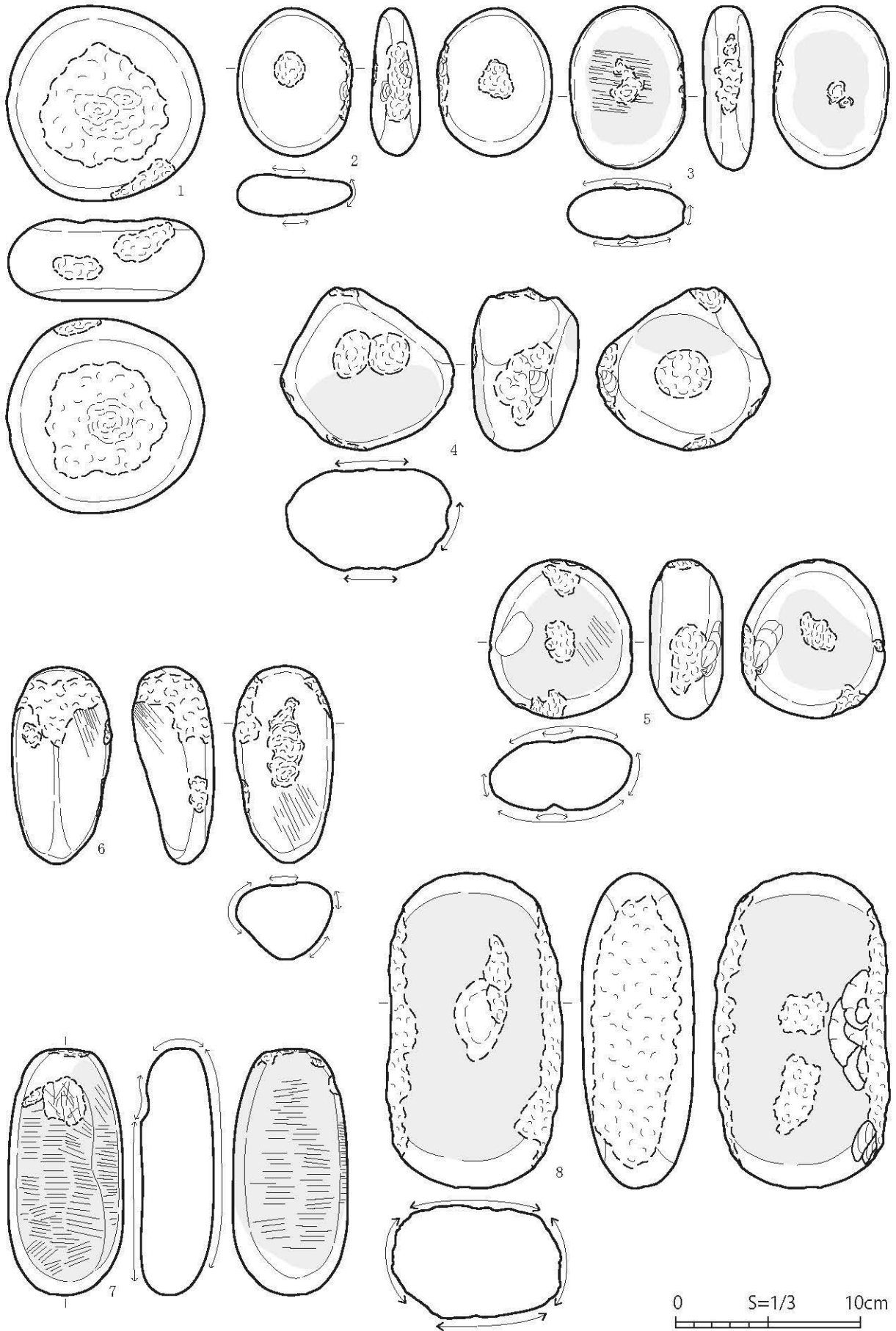


图161 礫石器17

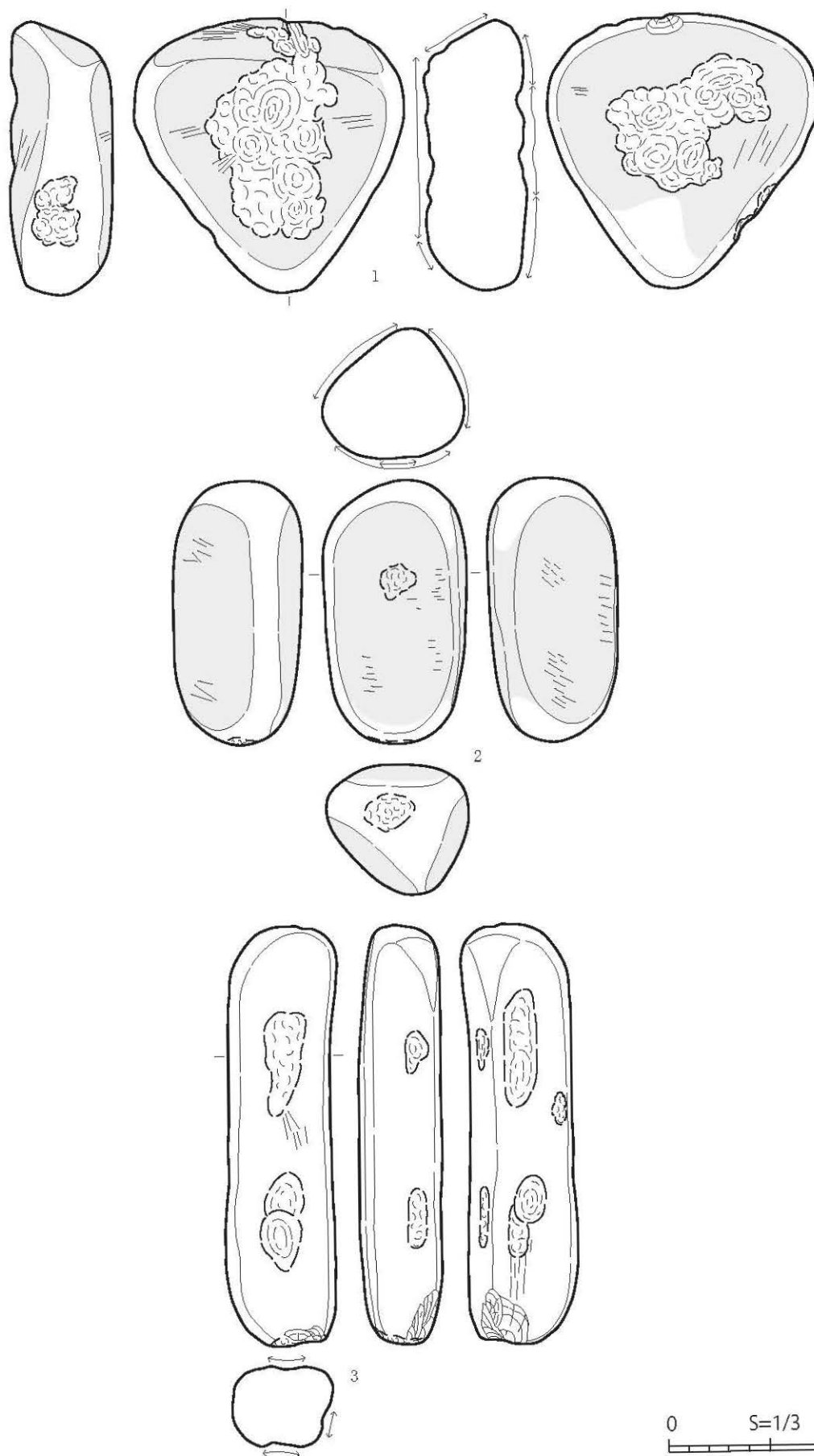


図162 礫石器18

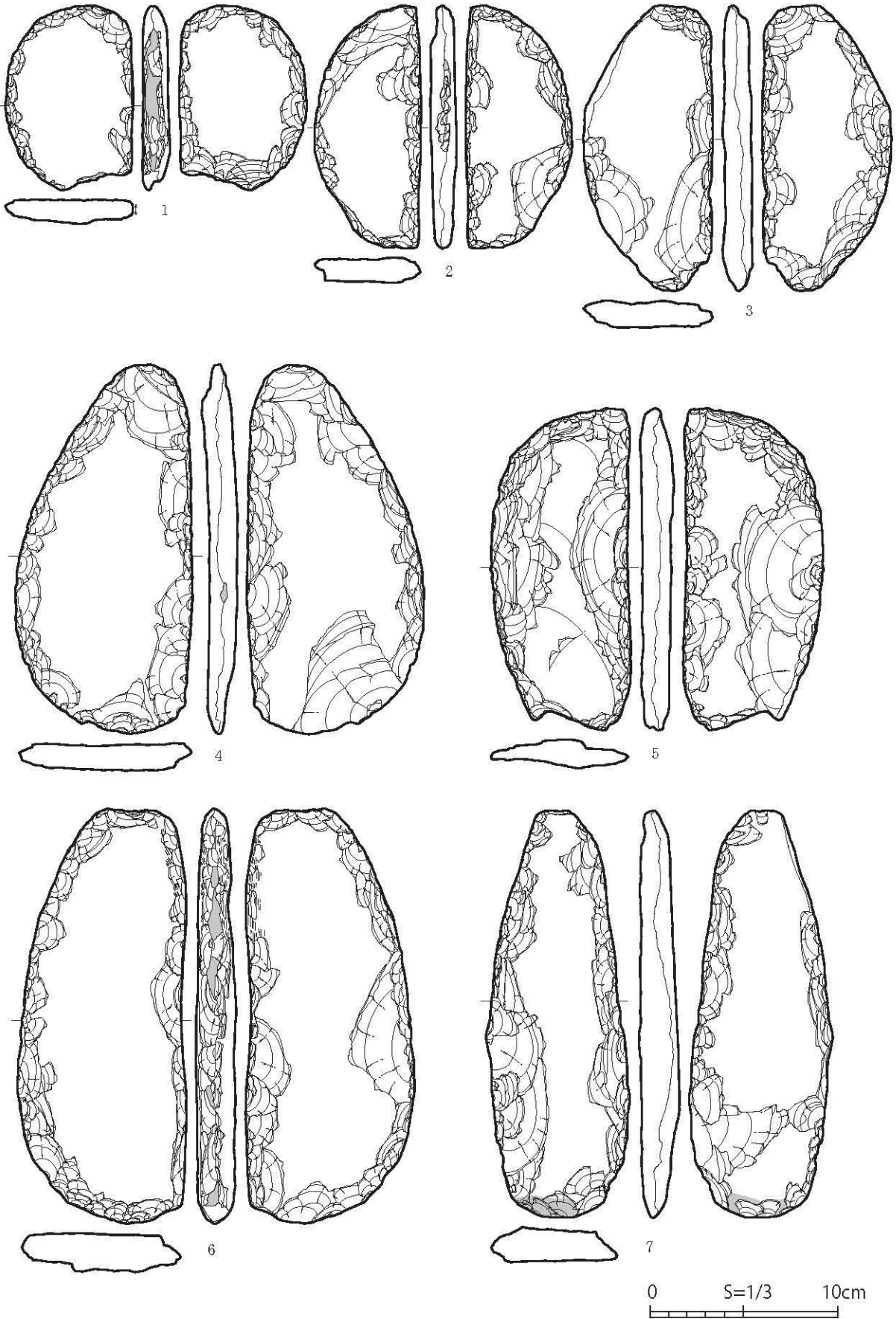


图163 礫石器19

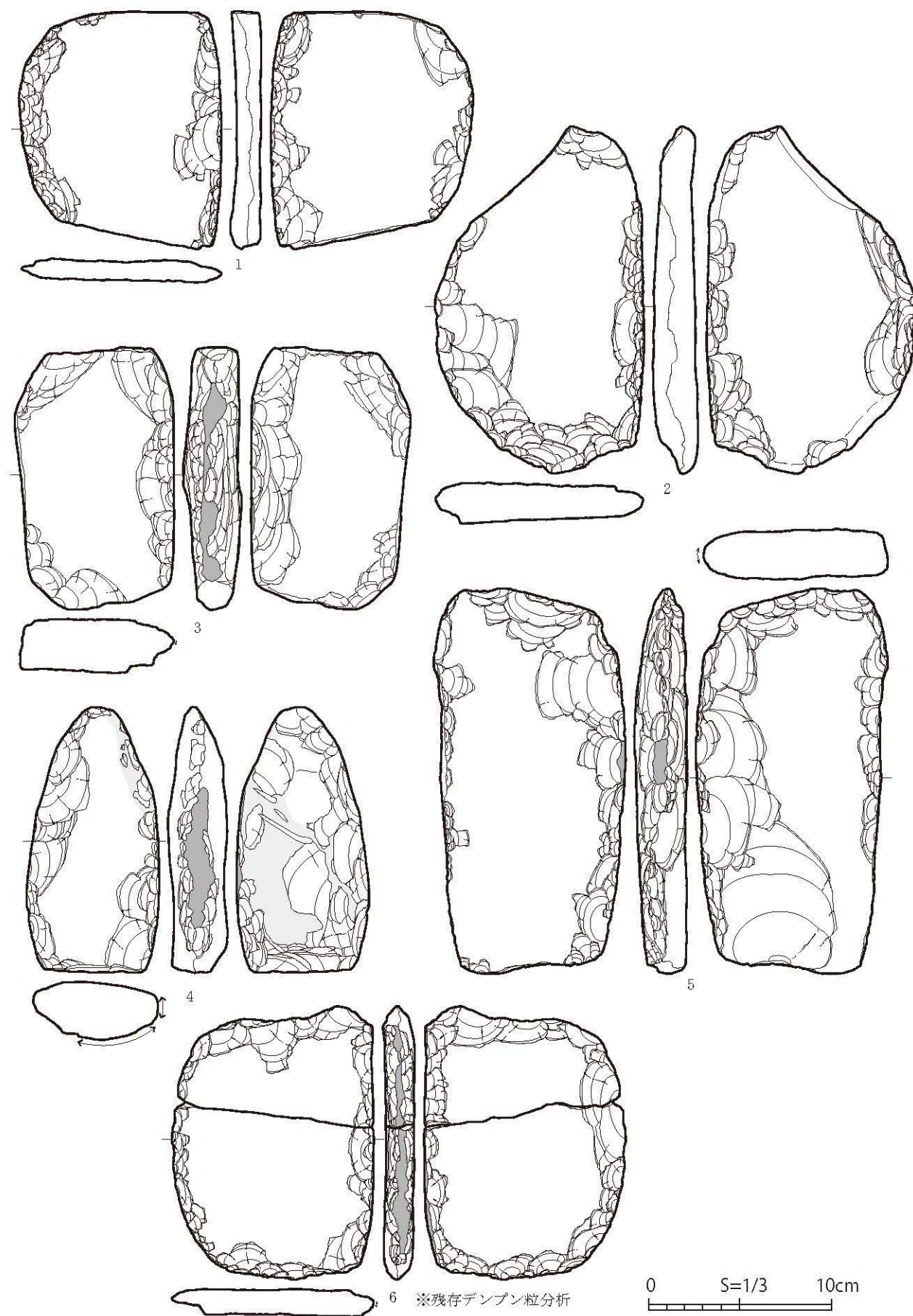


図164 礫石器20

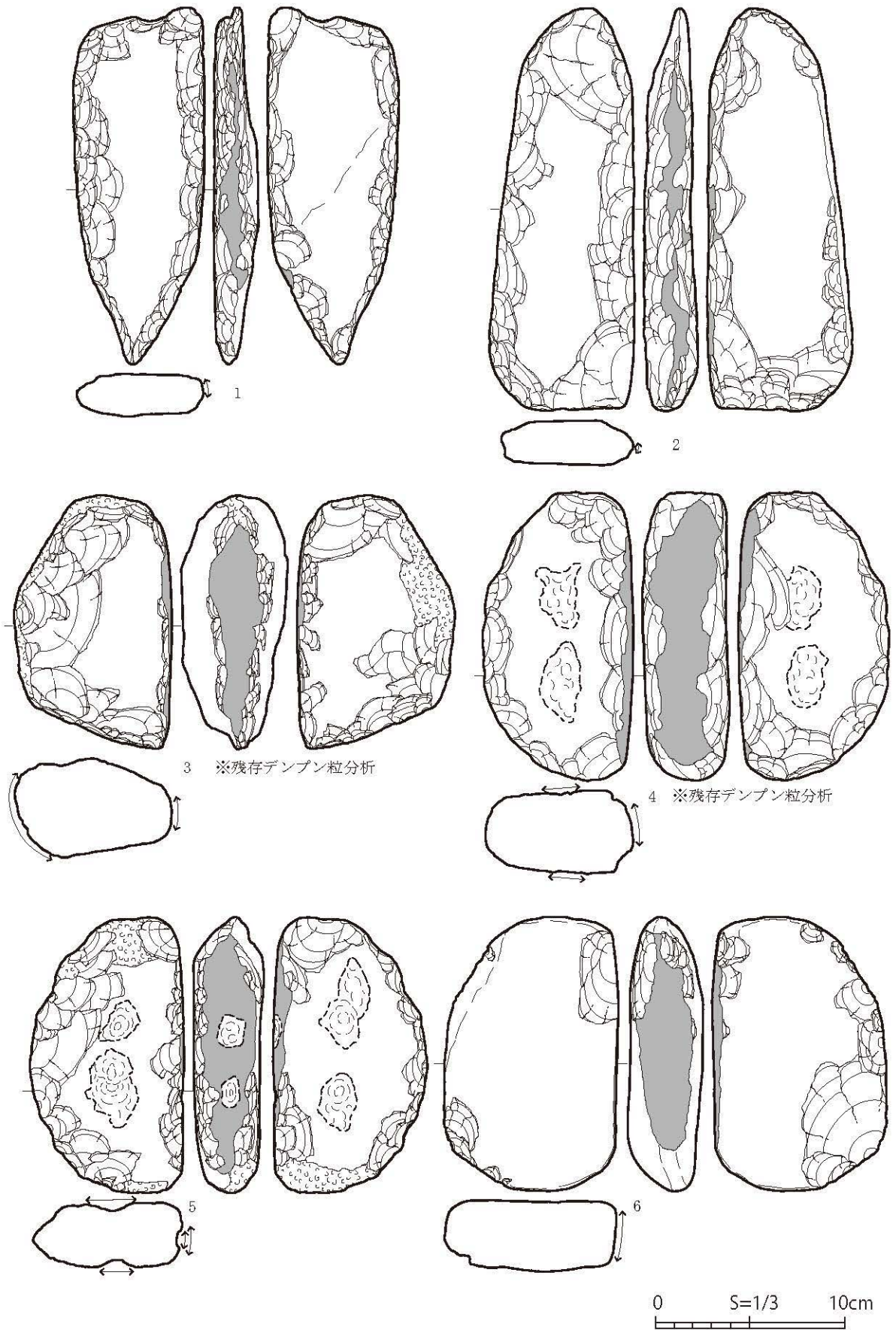


図165 礫石器21

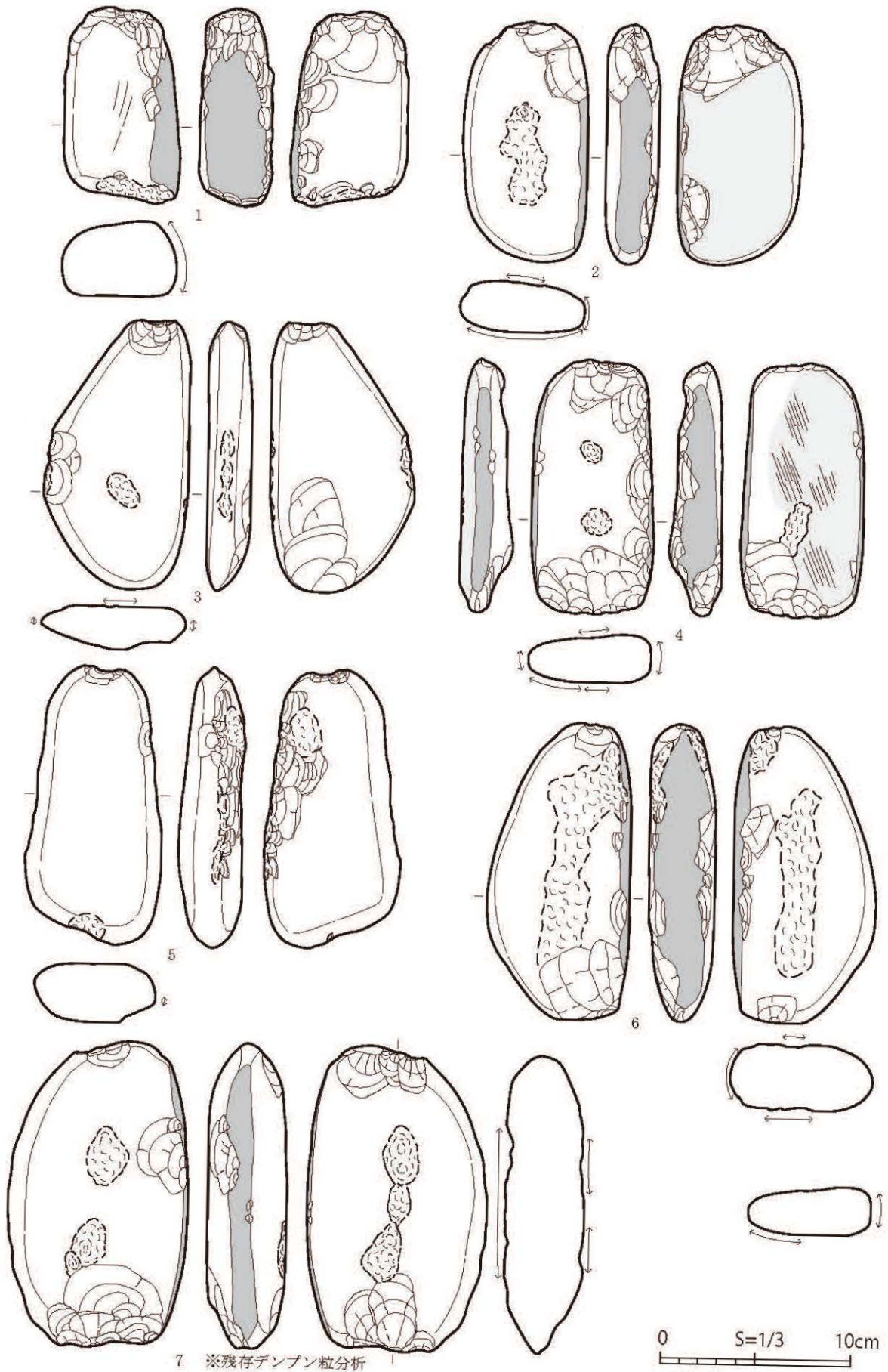


図166 礫石器22

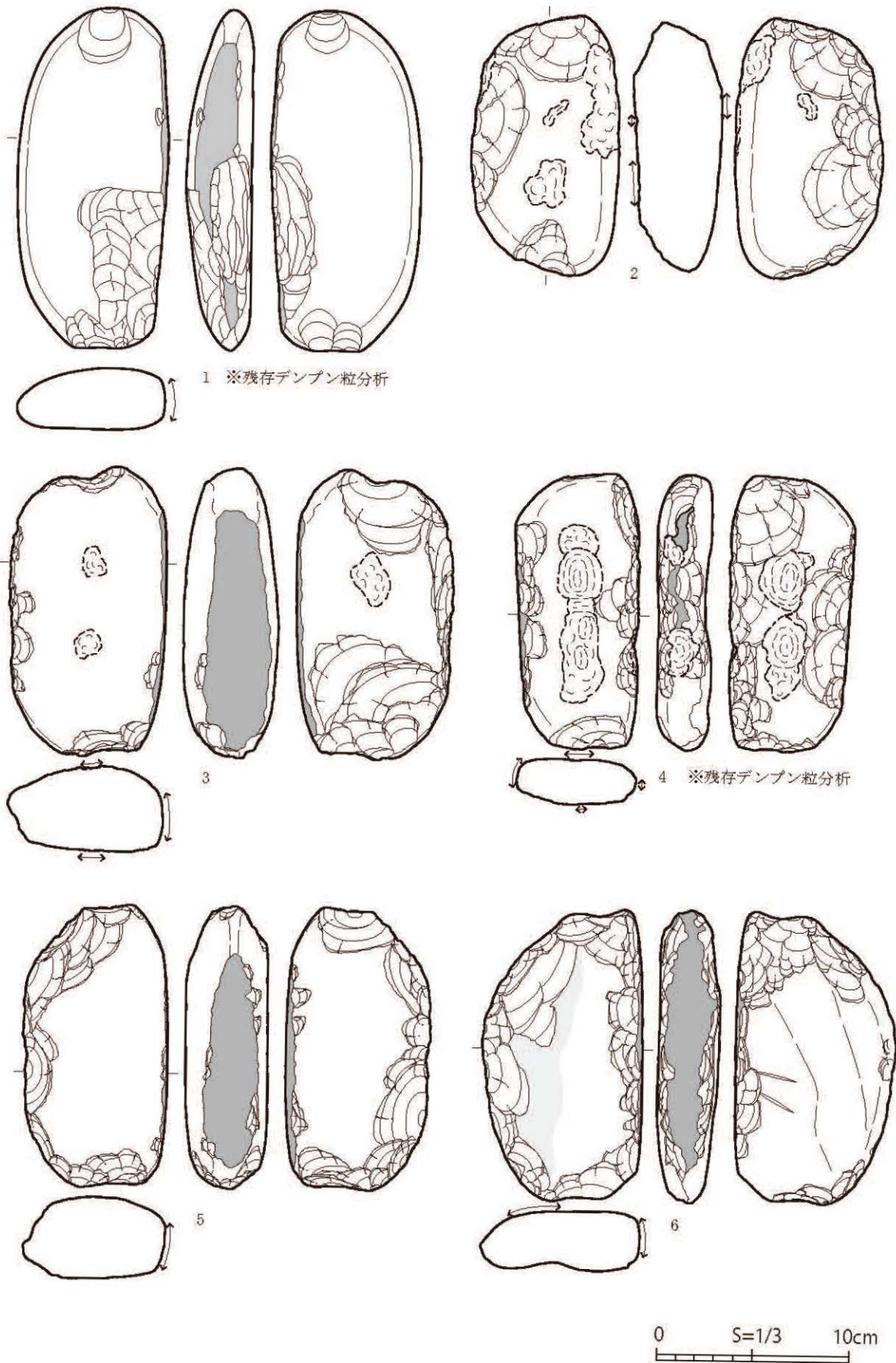


図167 礫石器23

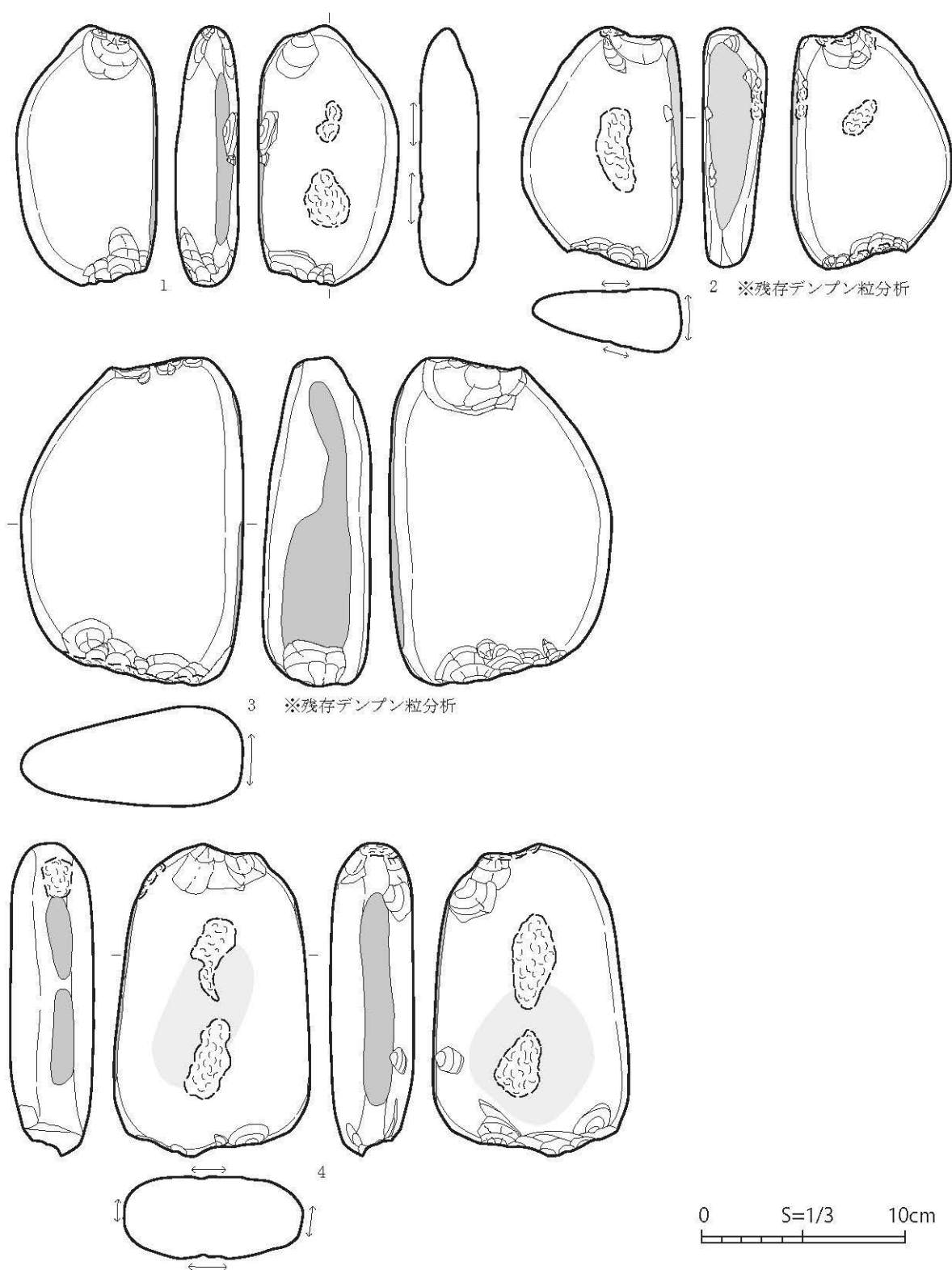


図168 礫石器24

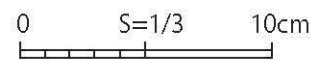
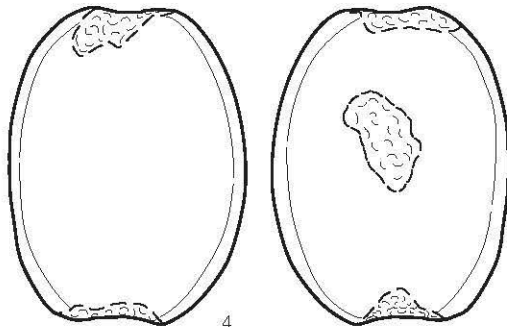
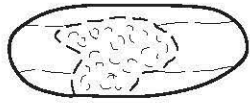
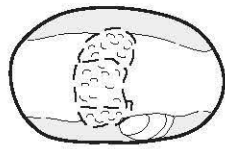
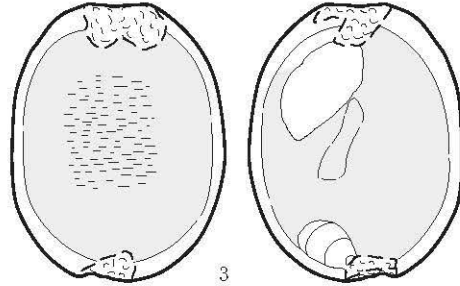
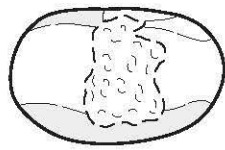
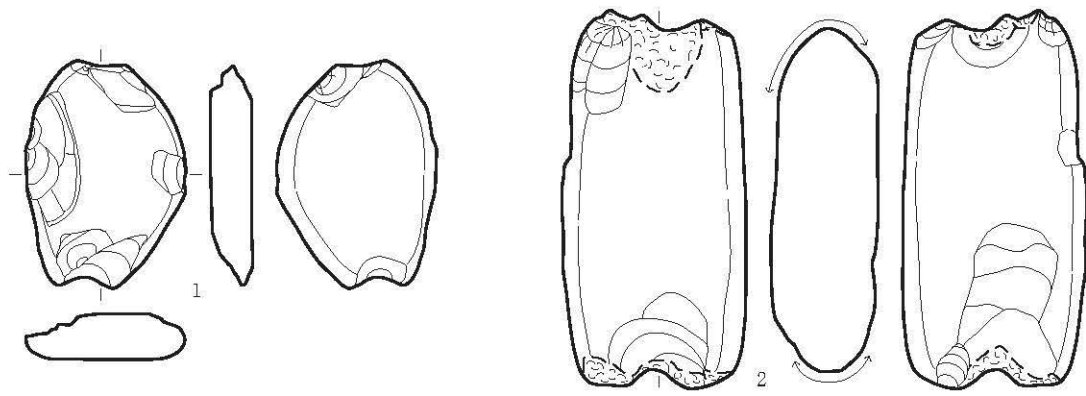


图169 礫石器25

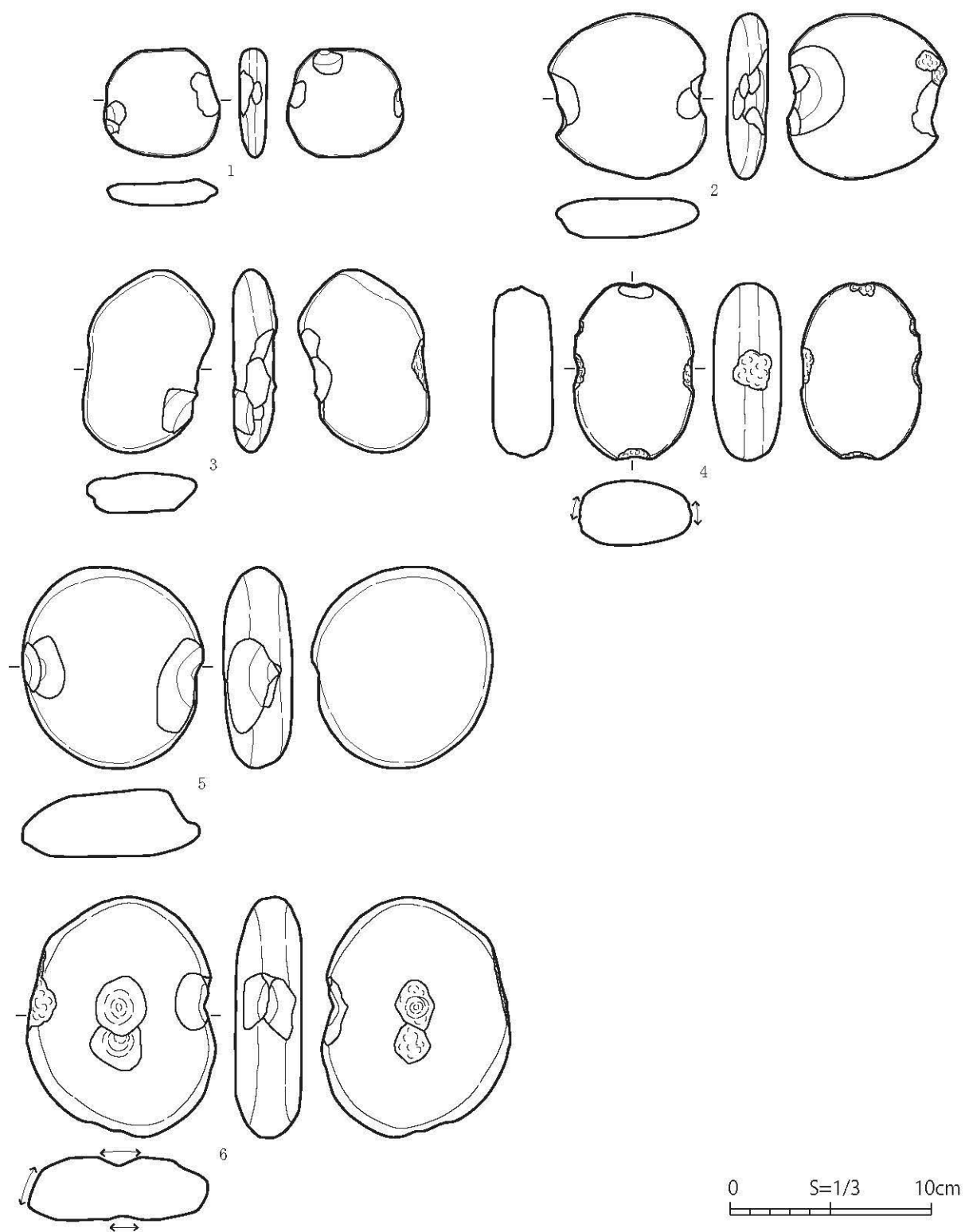


图170 礫石器26

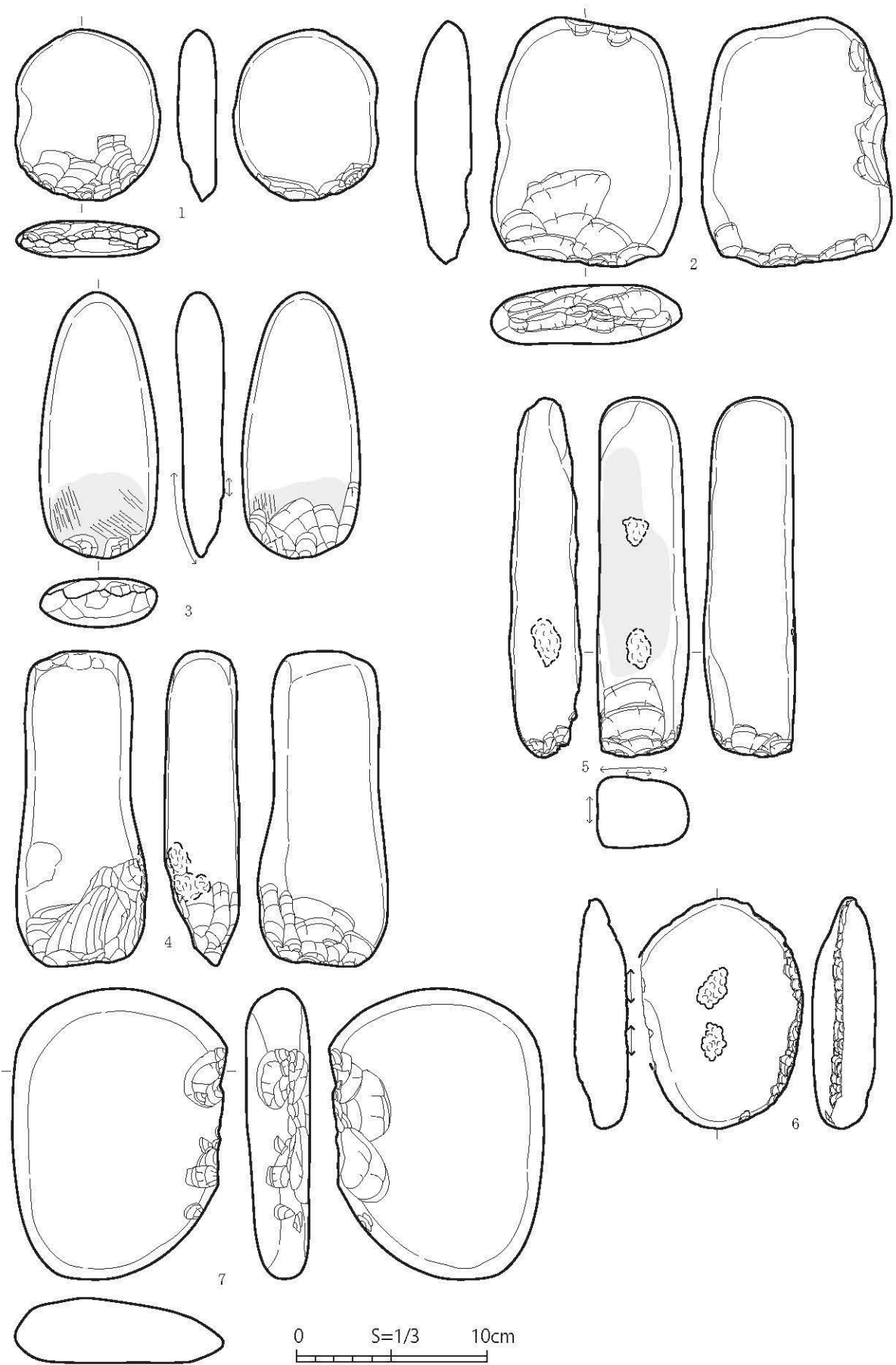


图171 礫石器27

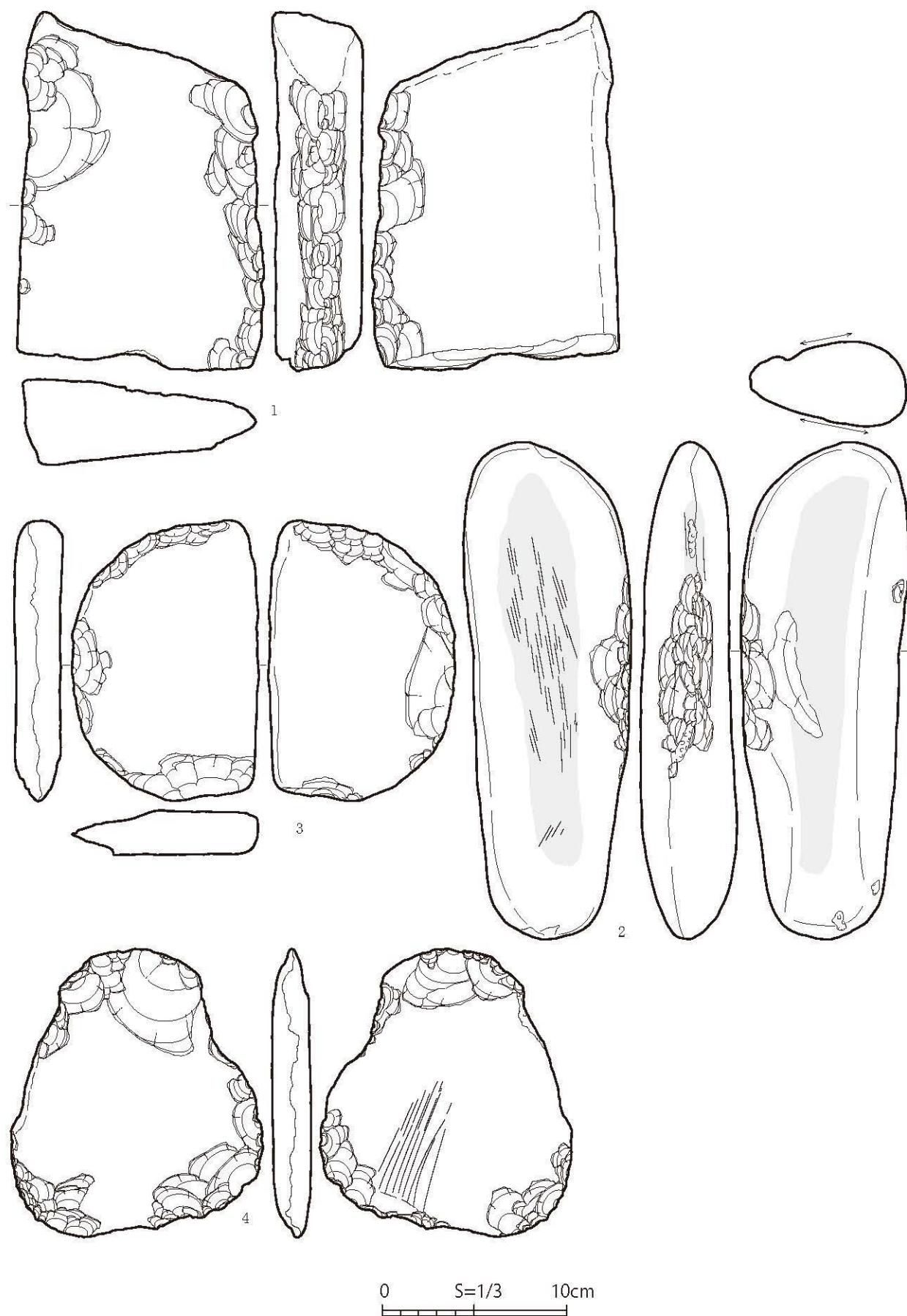


図172 礫石器28

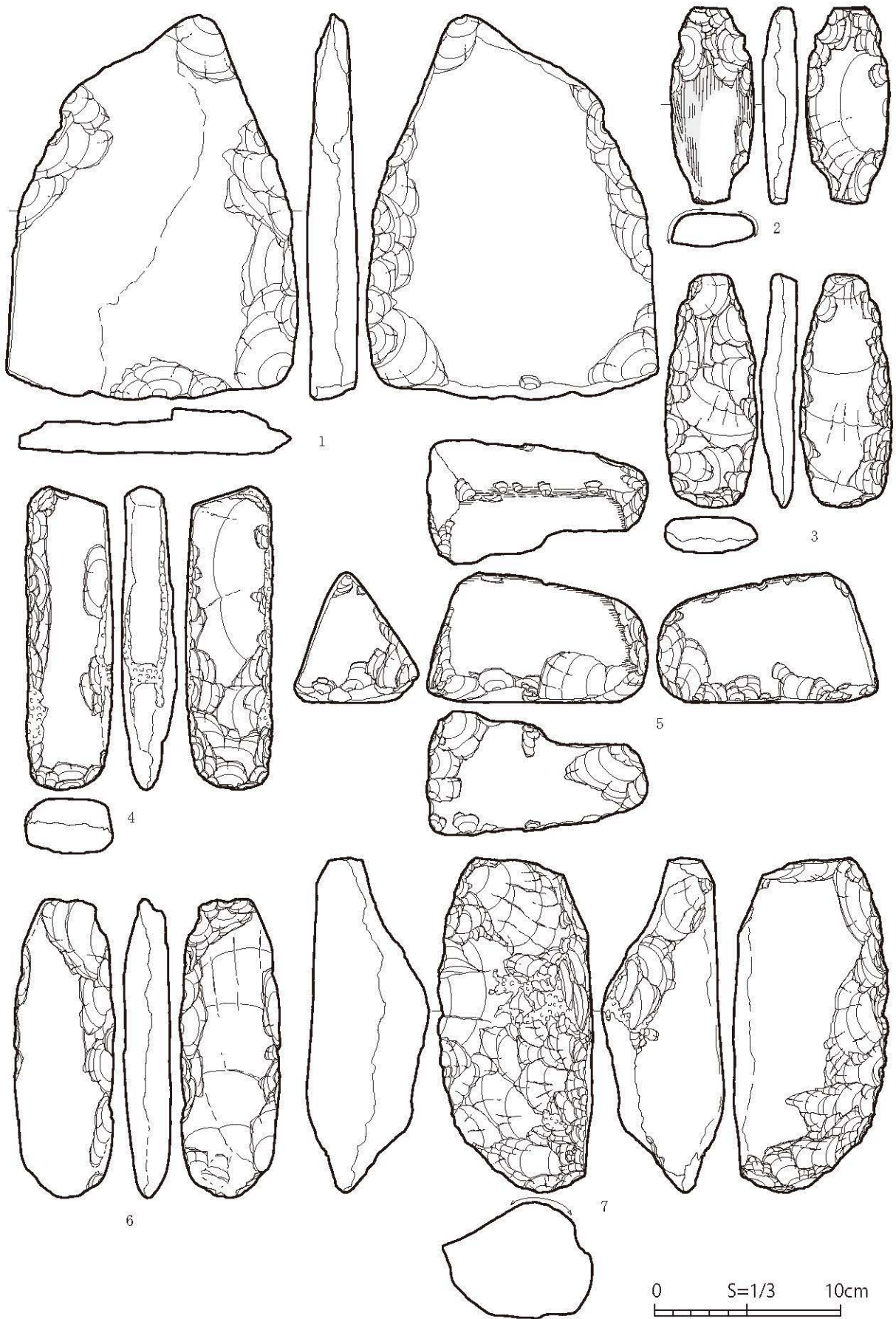


图173 礫石器29



図174 礫石器30

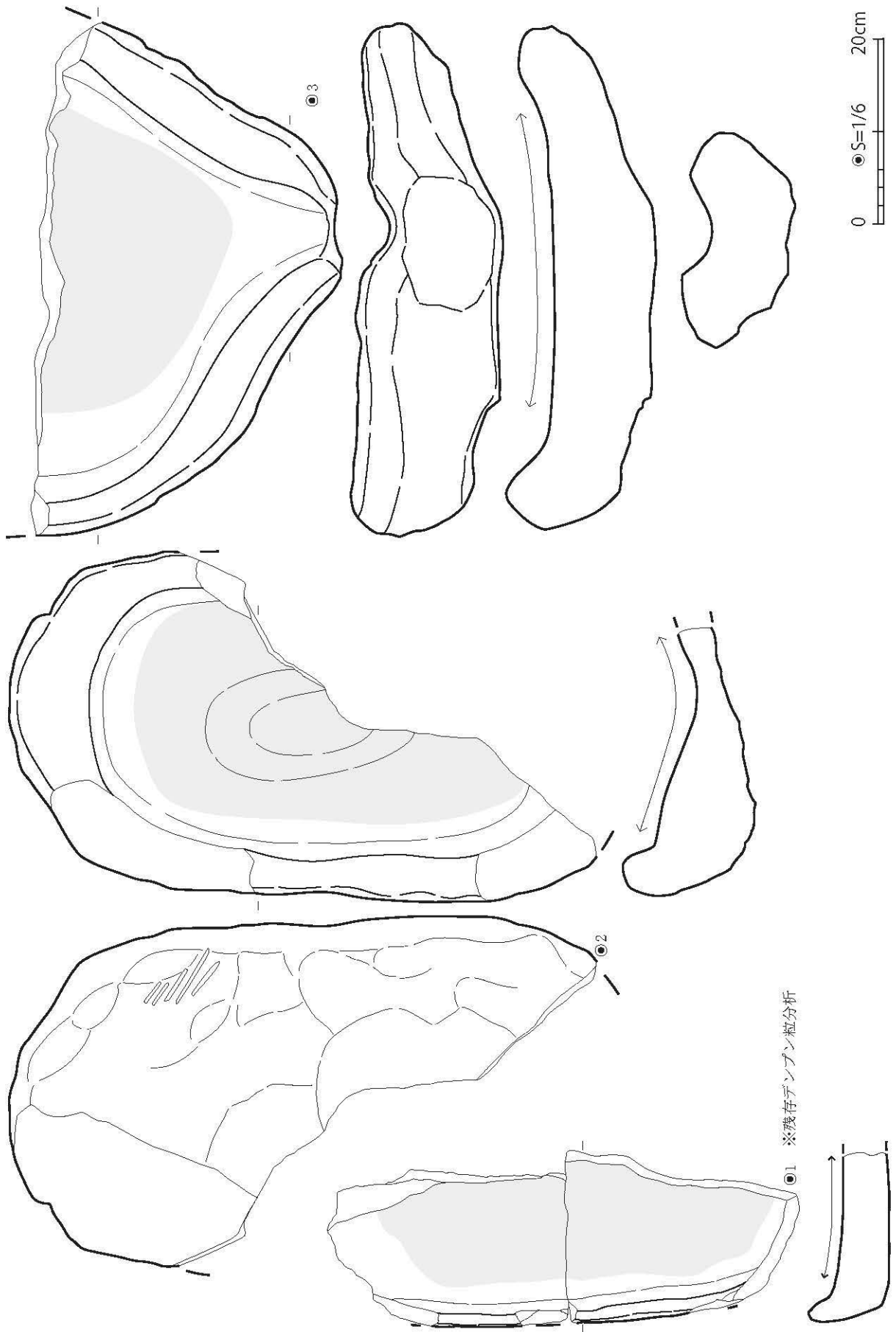


図175 礫石器31

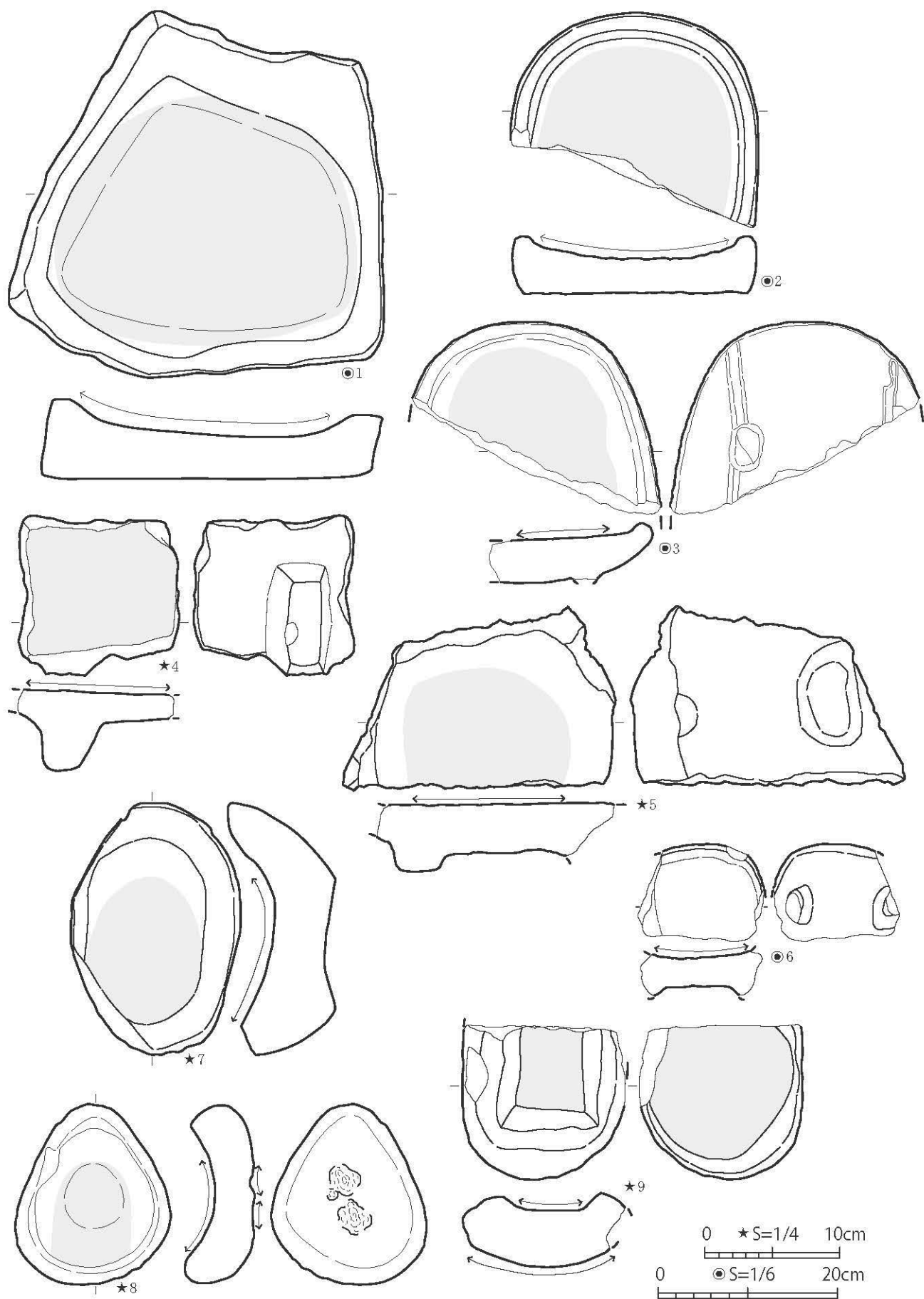


図176 礫石器32

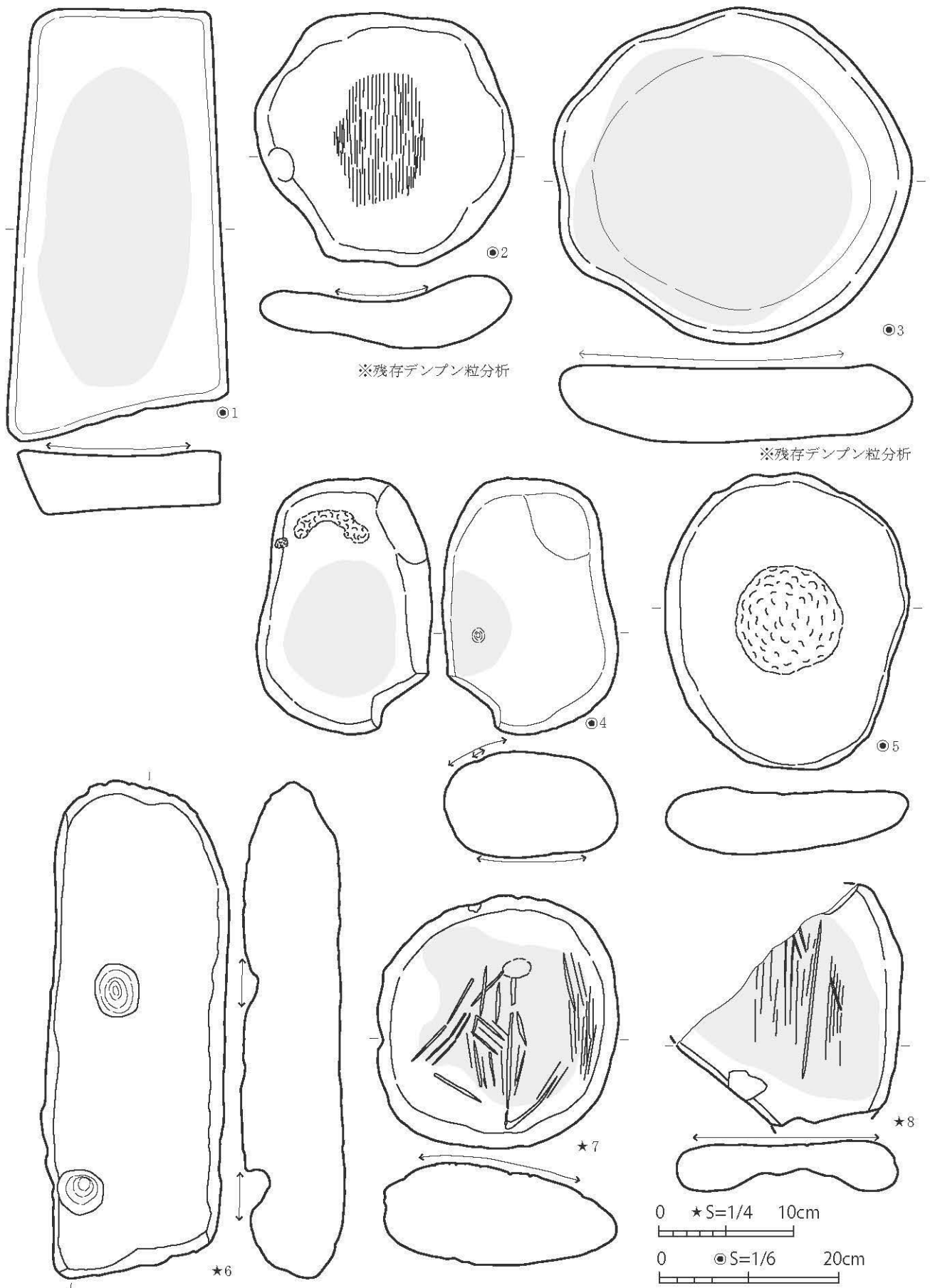


図177 礫石器33



図178 礫石器34

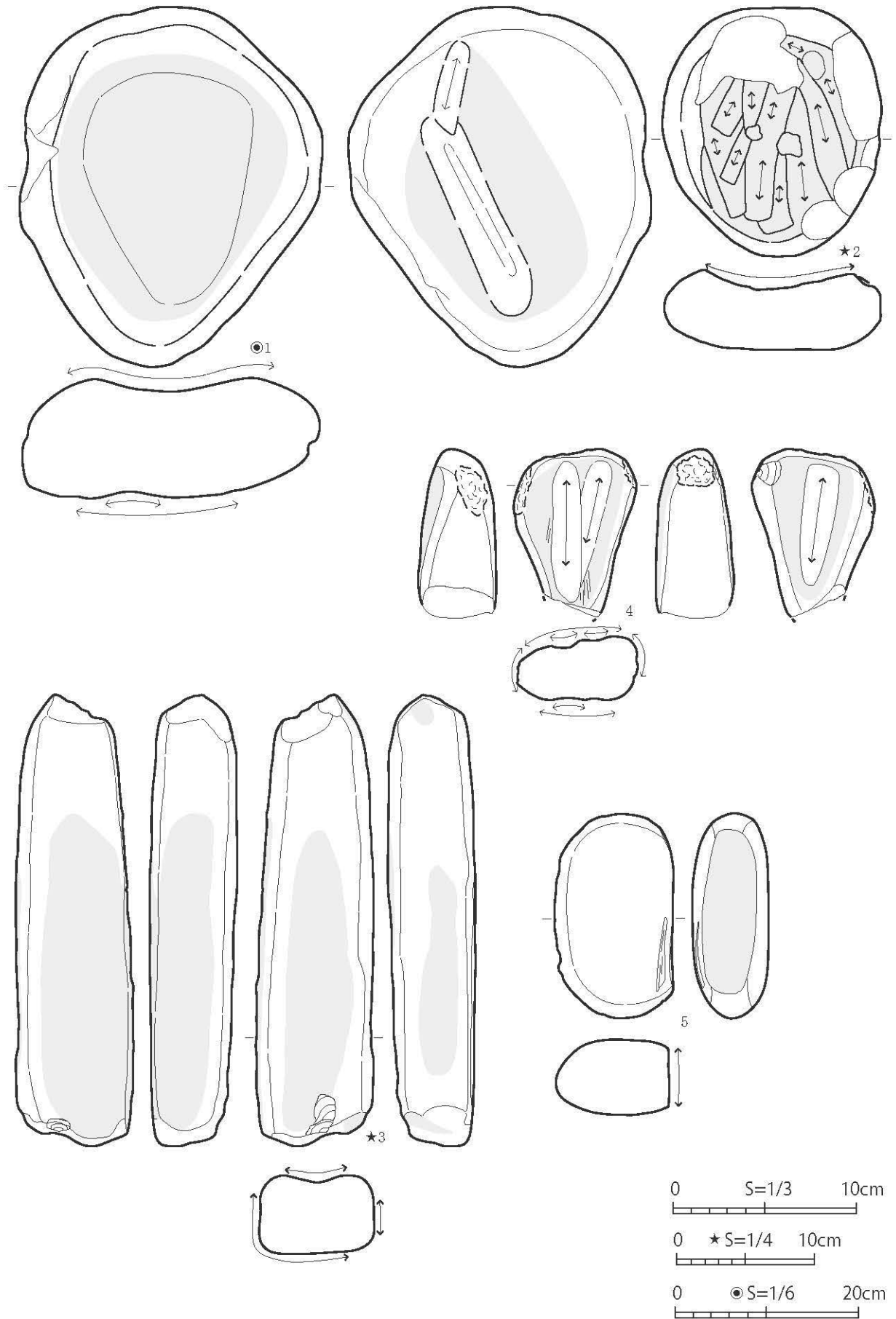


图179 礫石器35

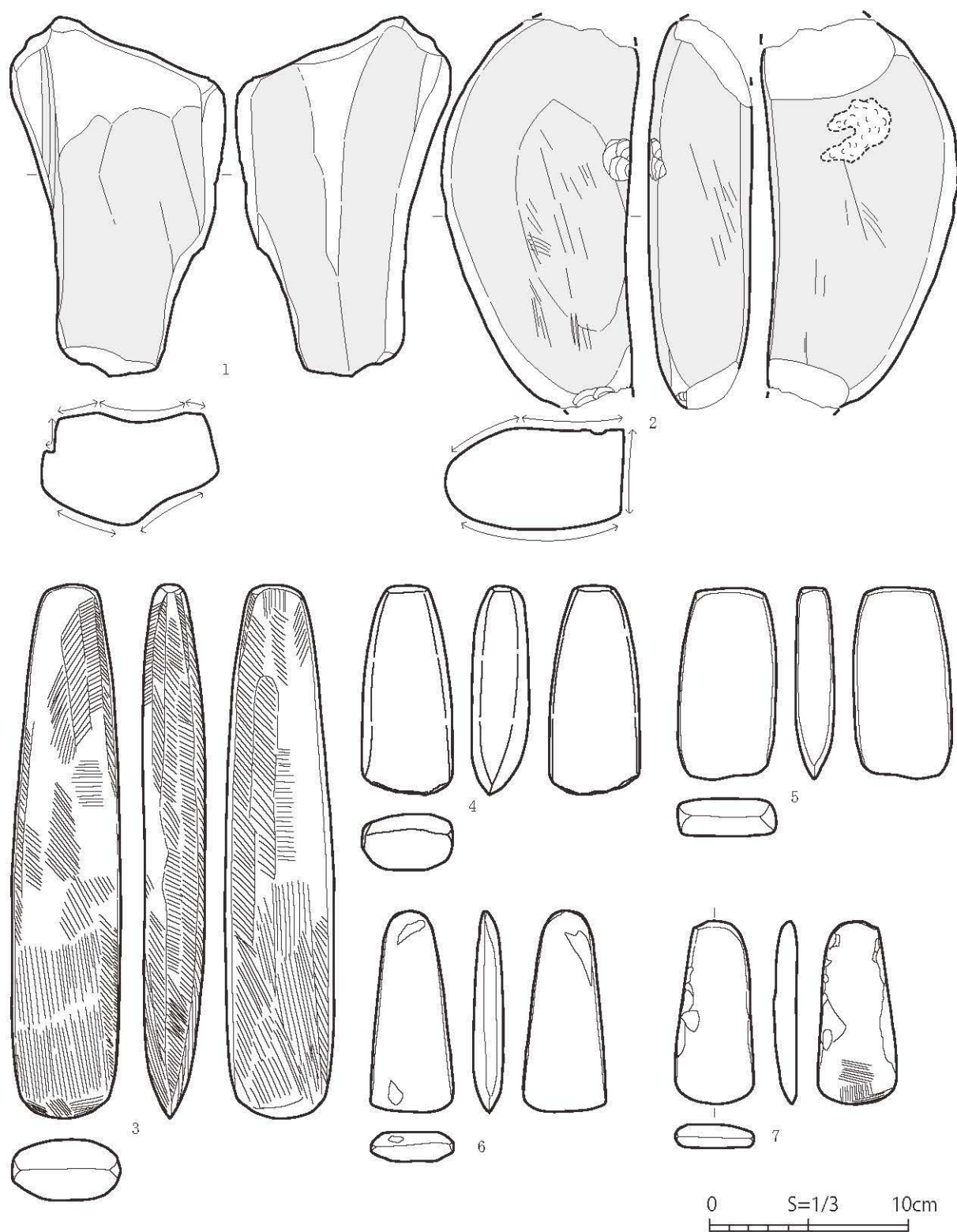


图180 礫石器36

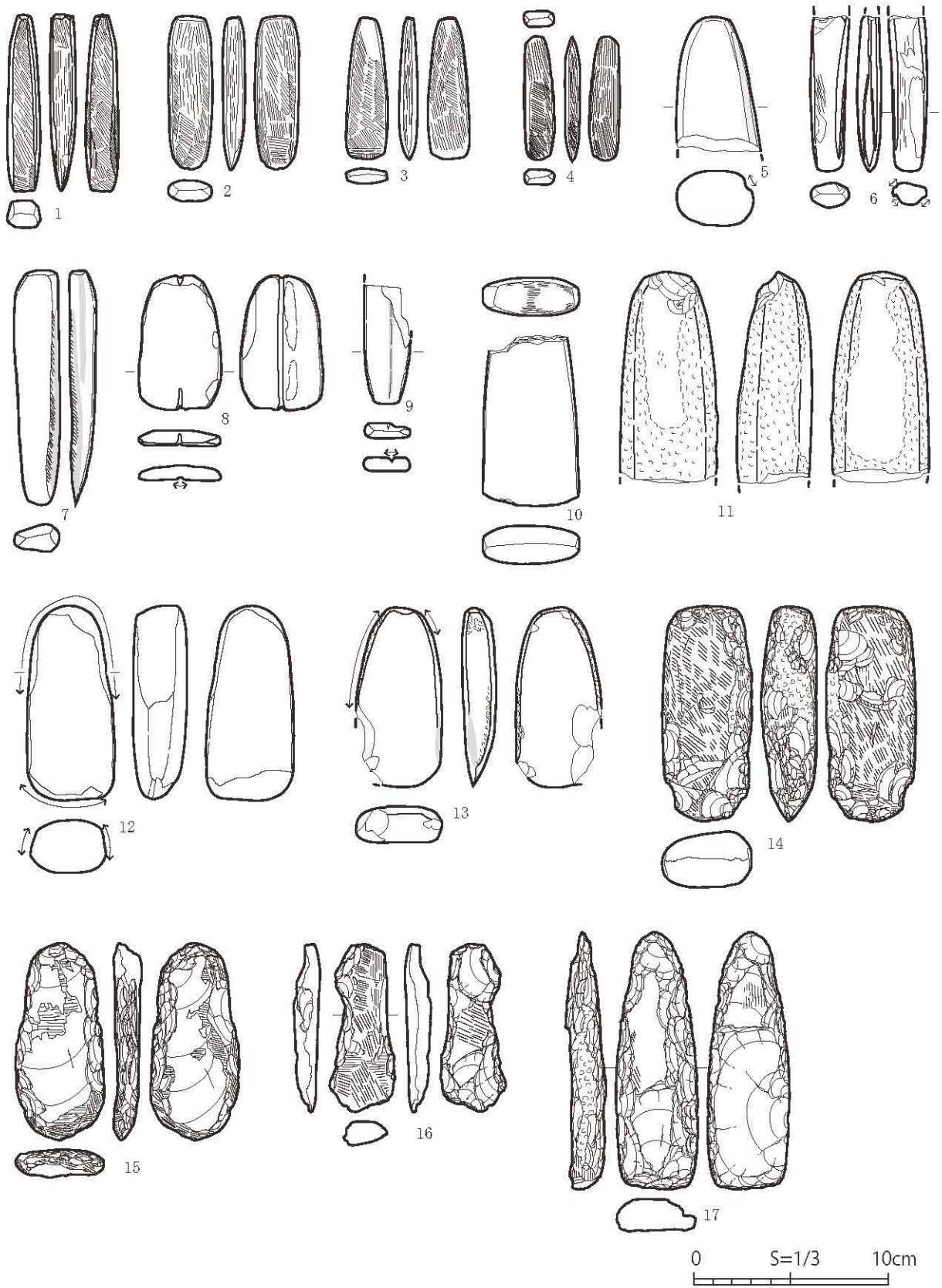


图181 磬石器37

3ベルト 3a層

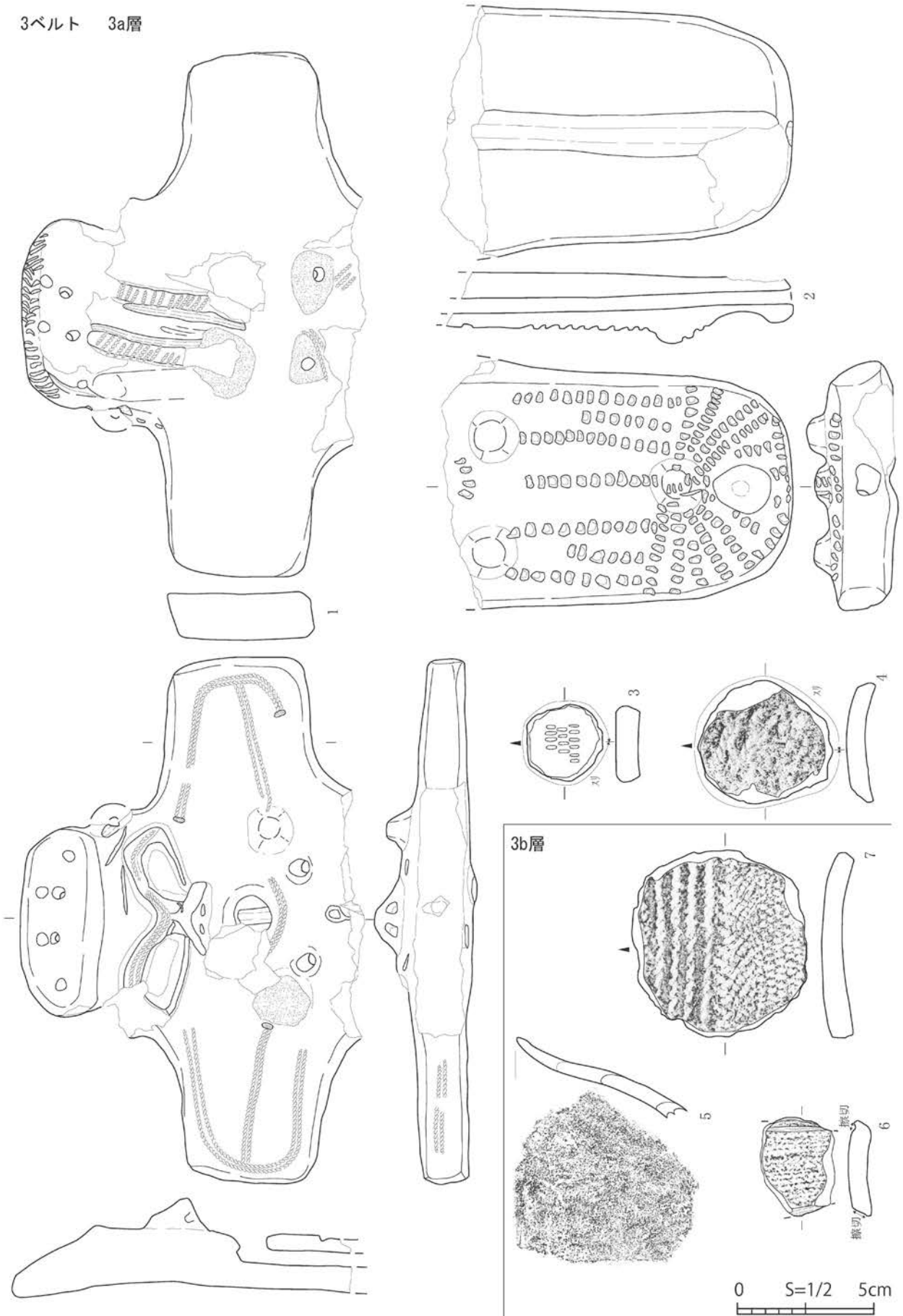


図182 土製品1(細分層位)

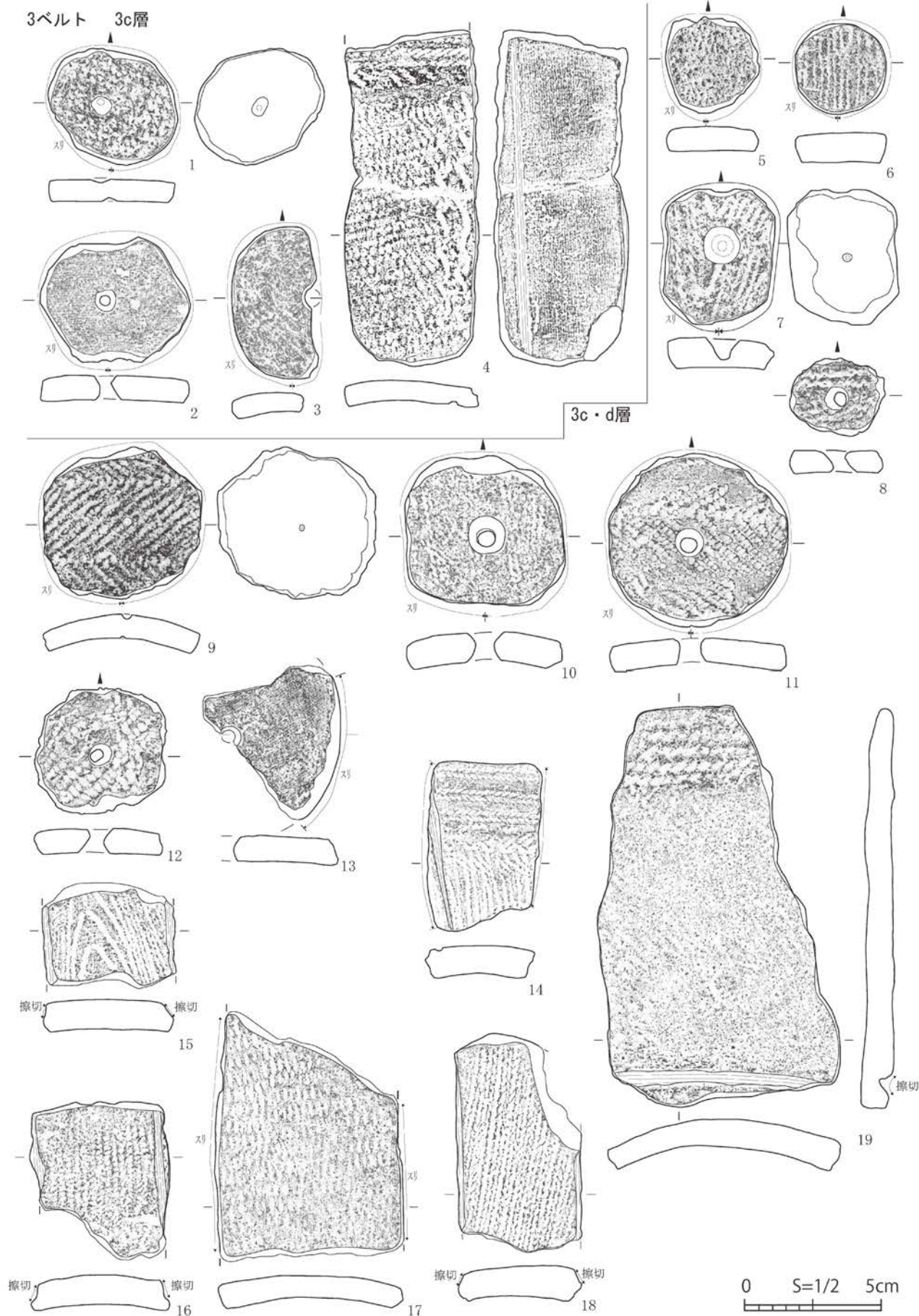


図183 土製品2(細分層位)

3ベルト 3c・d層

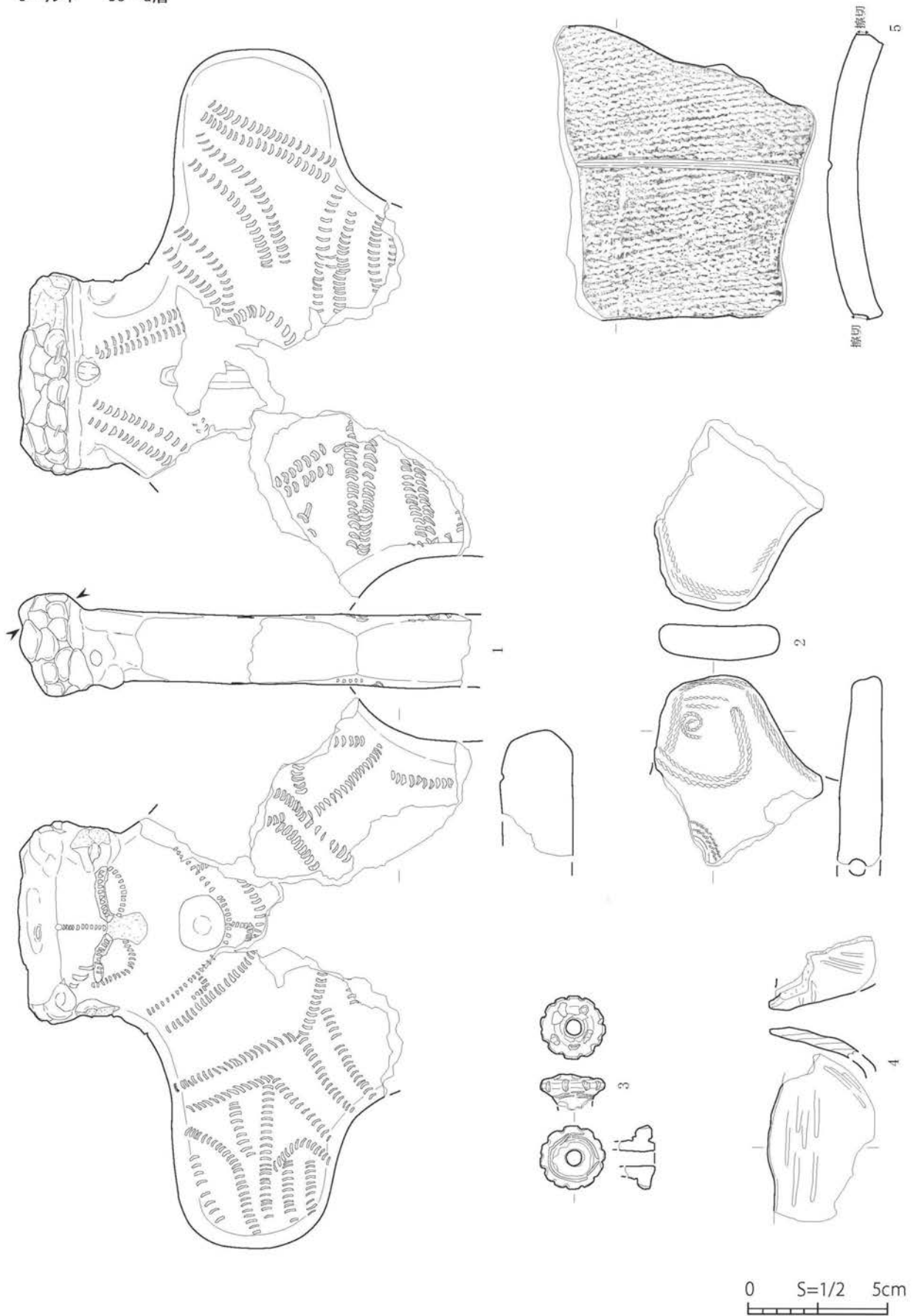
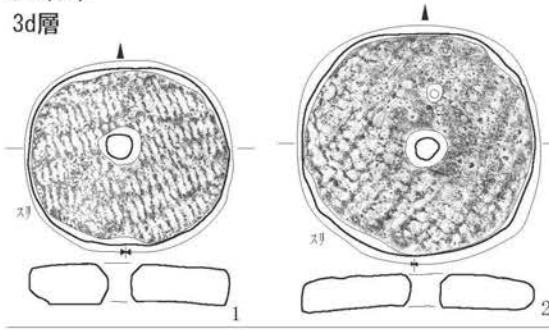
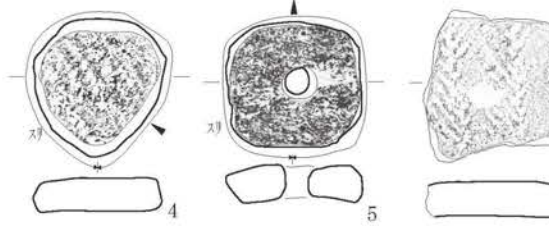
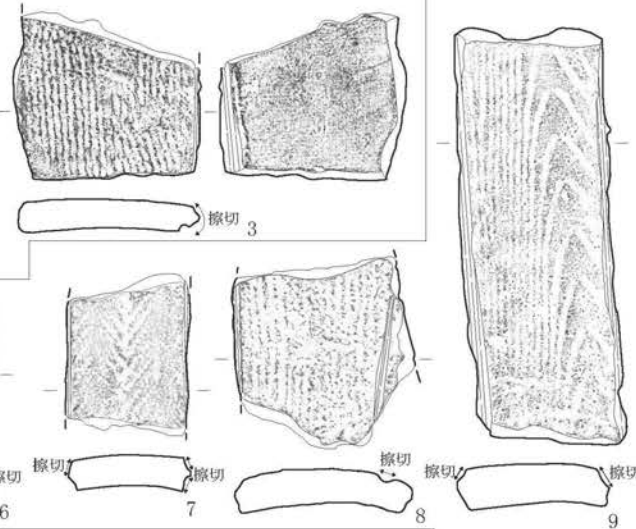


図184 土製品3(細分層位)

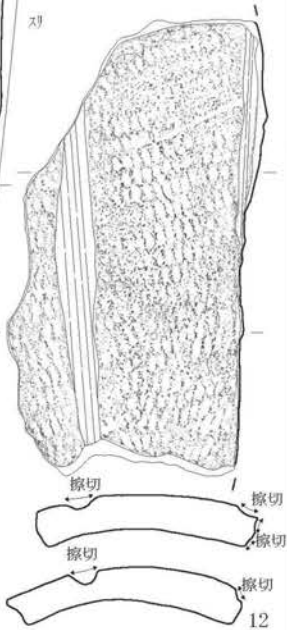
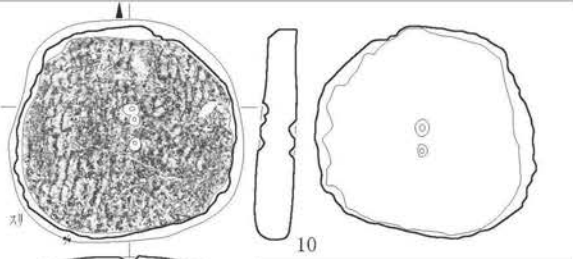
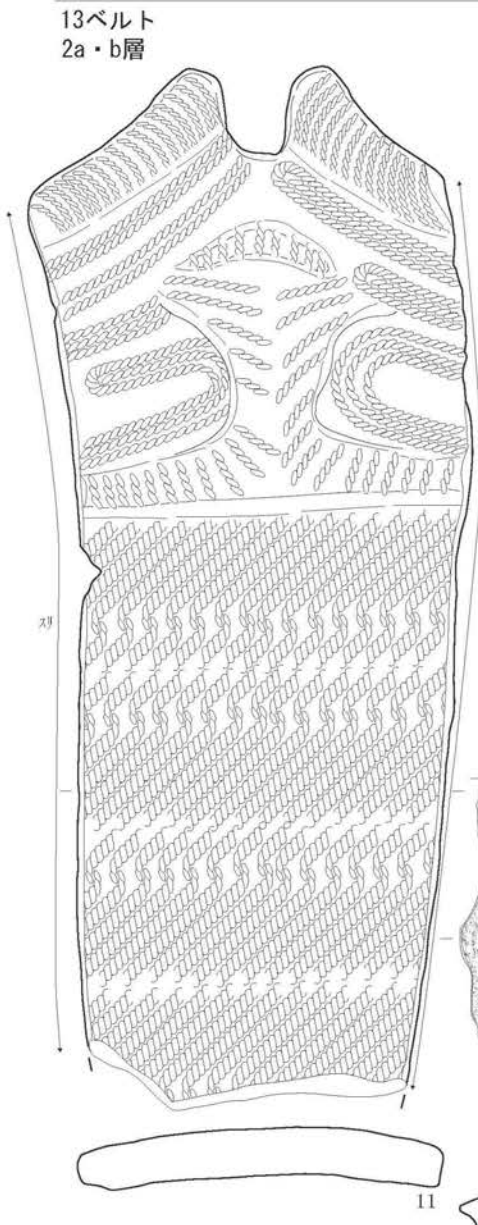
3ベルト
3d層



3e層



13ベルト
2a・b層



0 S=1/2 5cm

図185 土製品4(細分層位)

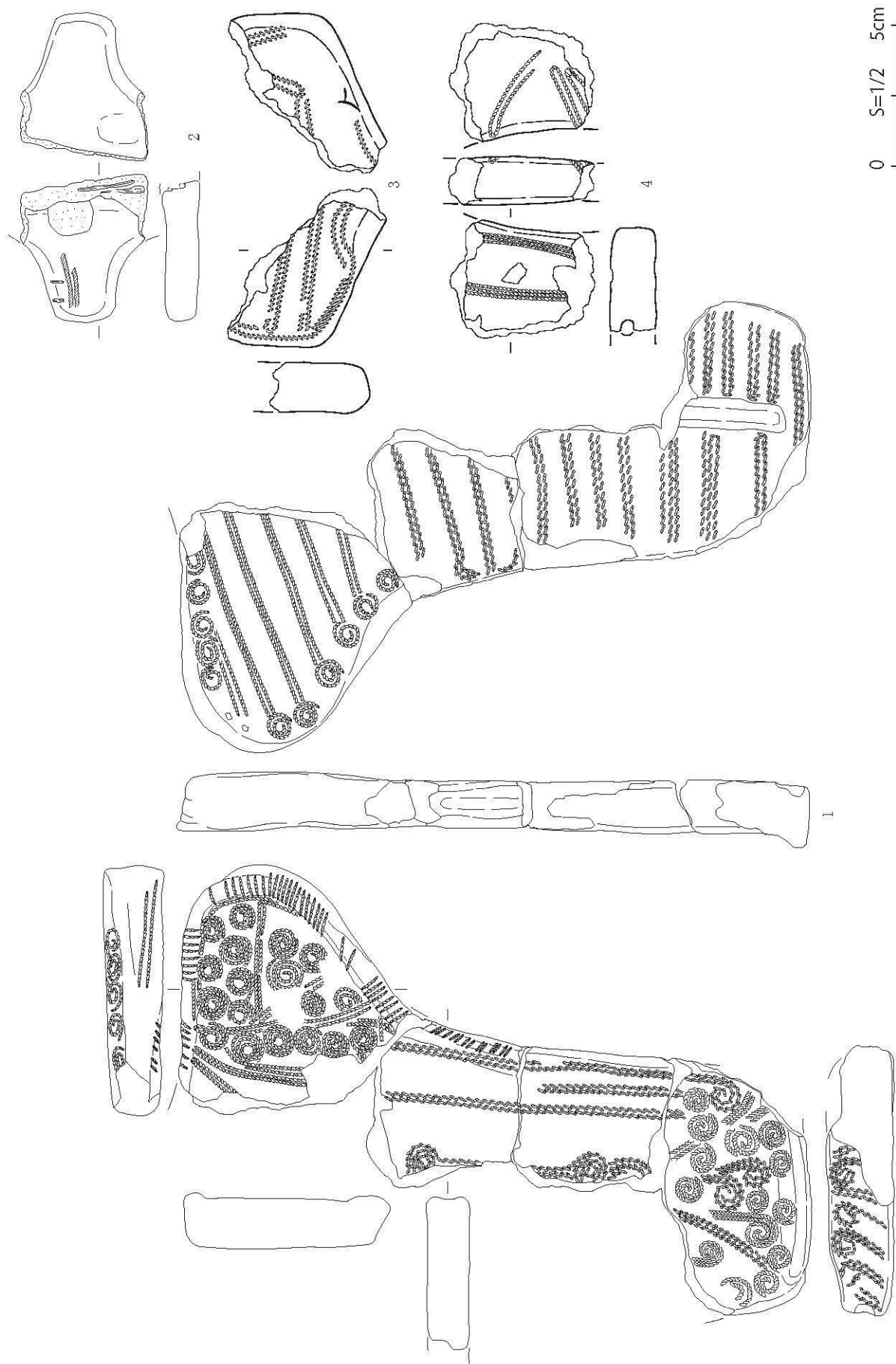


図188 土製品7

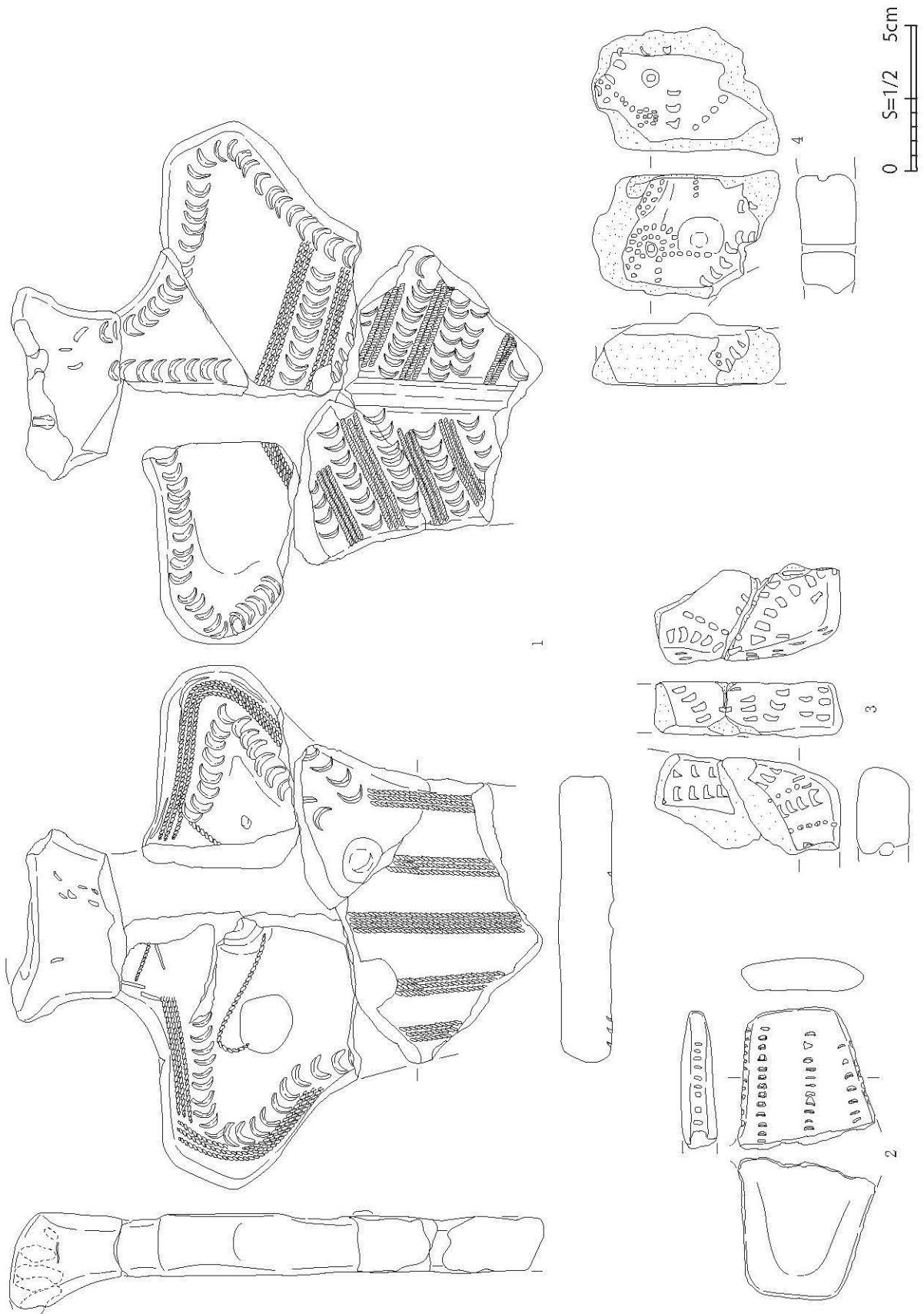


图189 土製品8

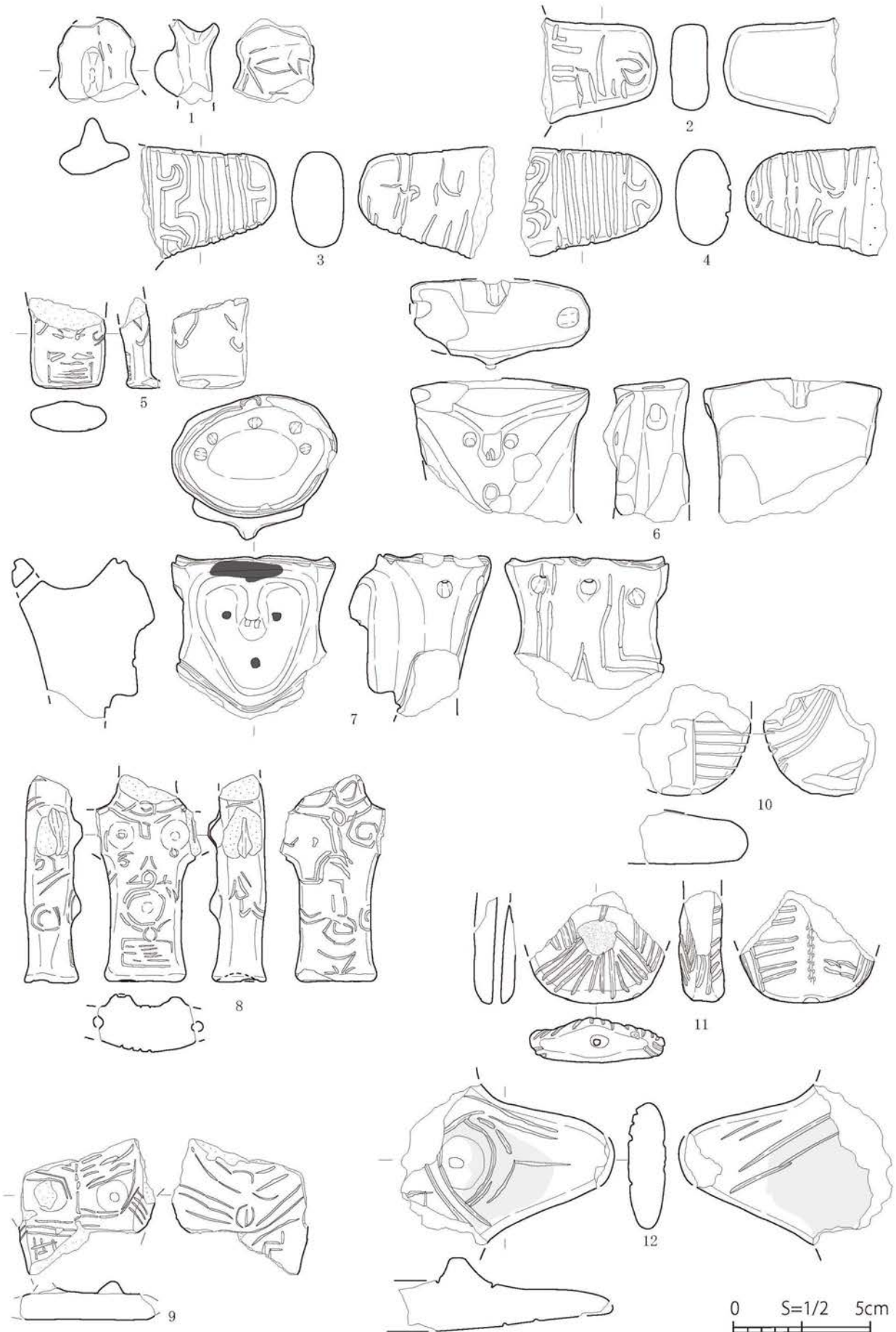


图190 土製品9

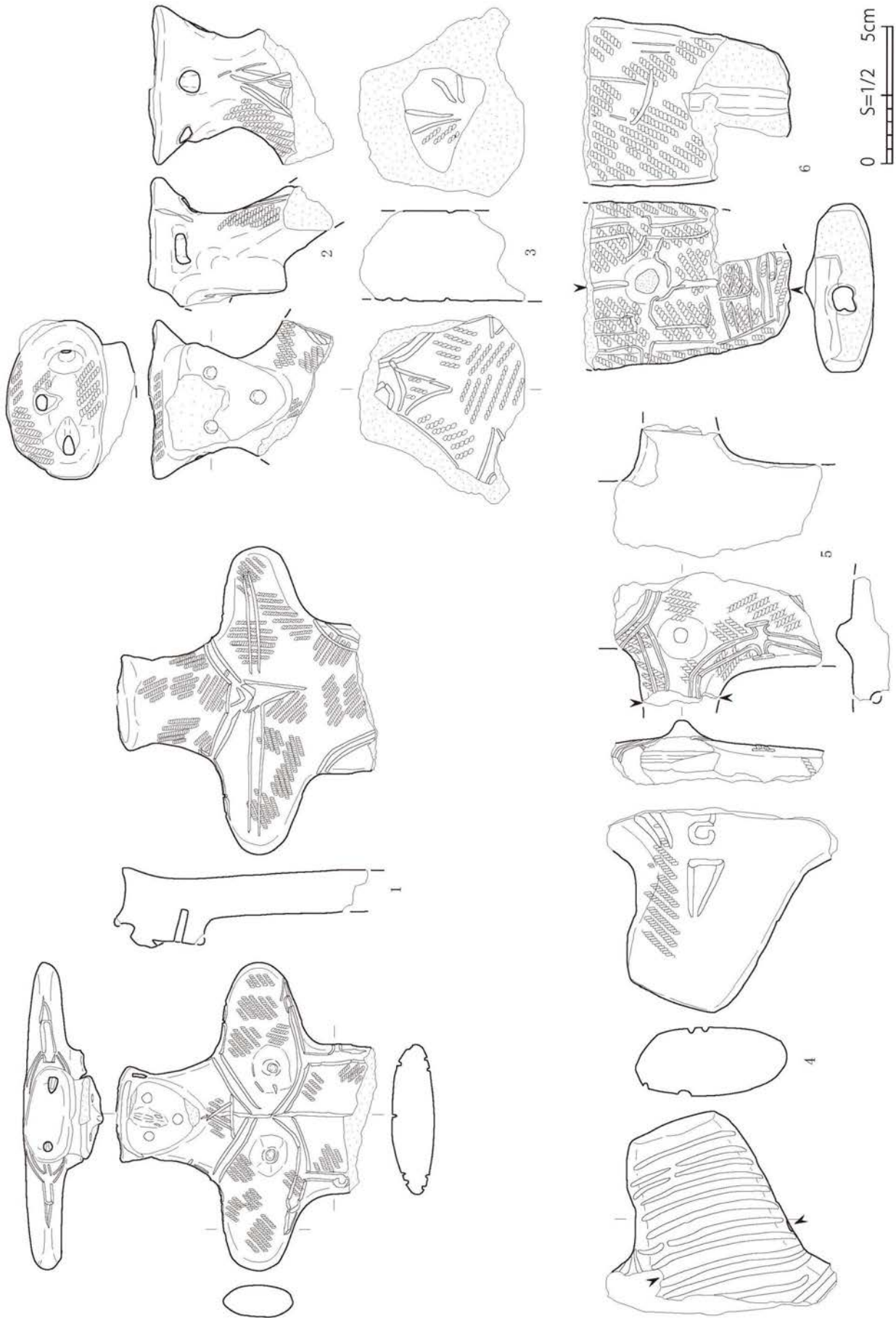


图191 土製品10



図192 土製品11

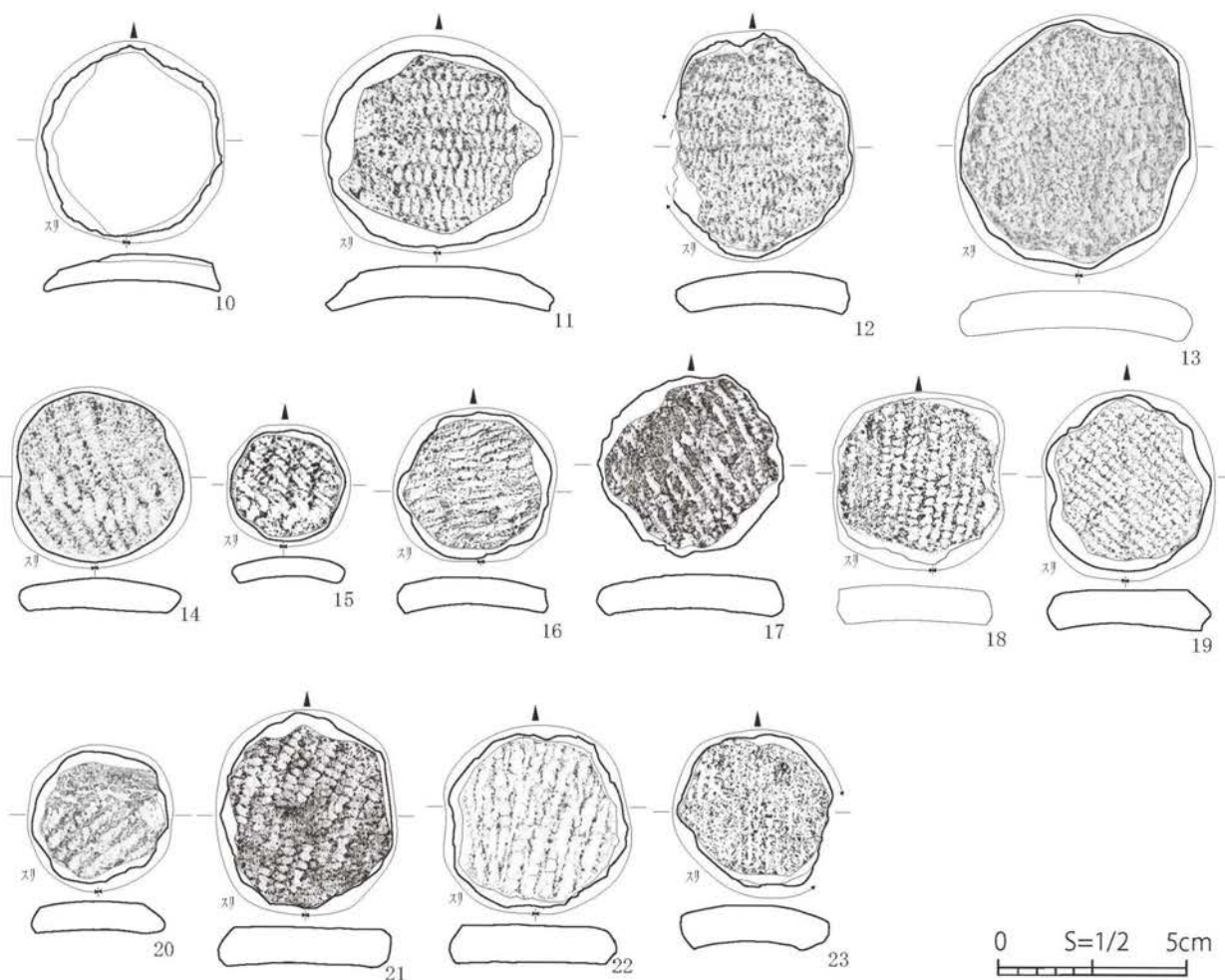
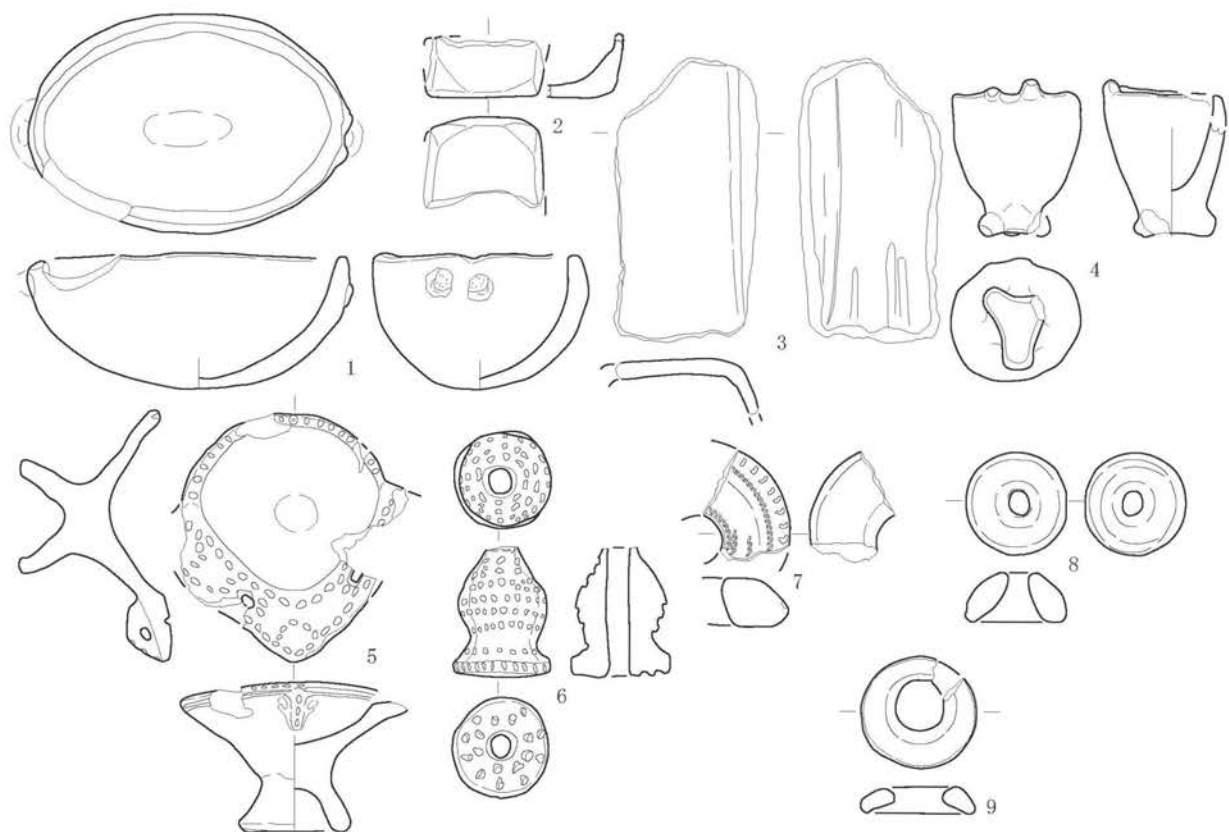


图193 土製品12

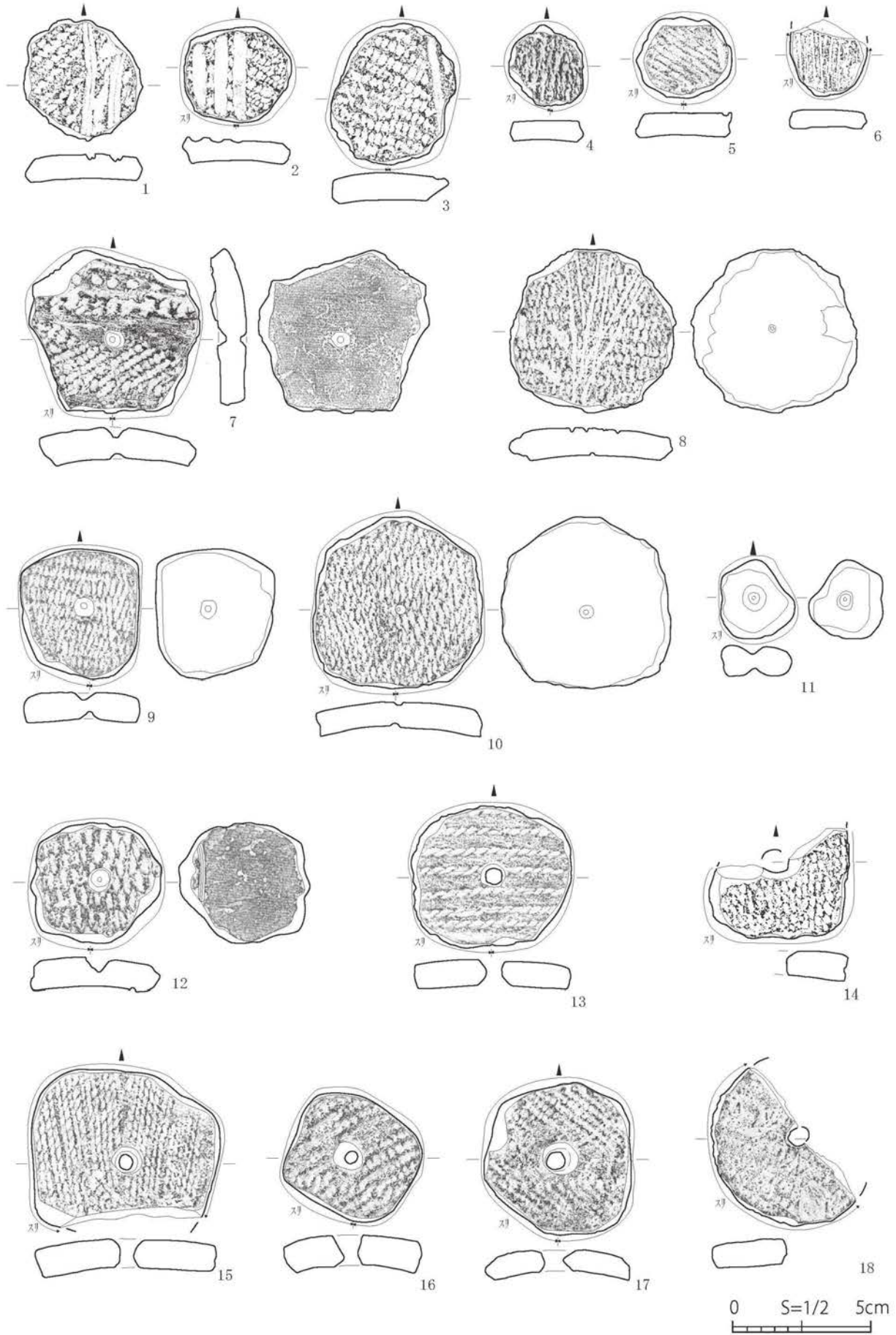


図194 土製品13

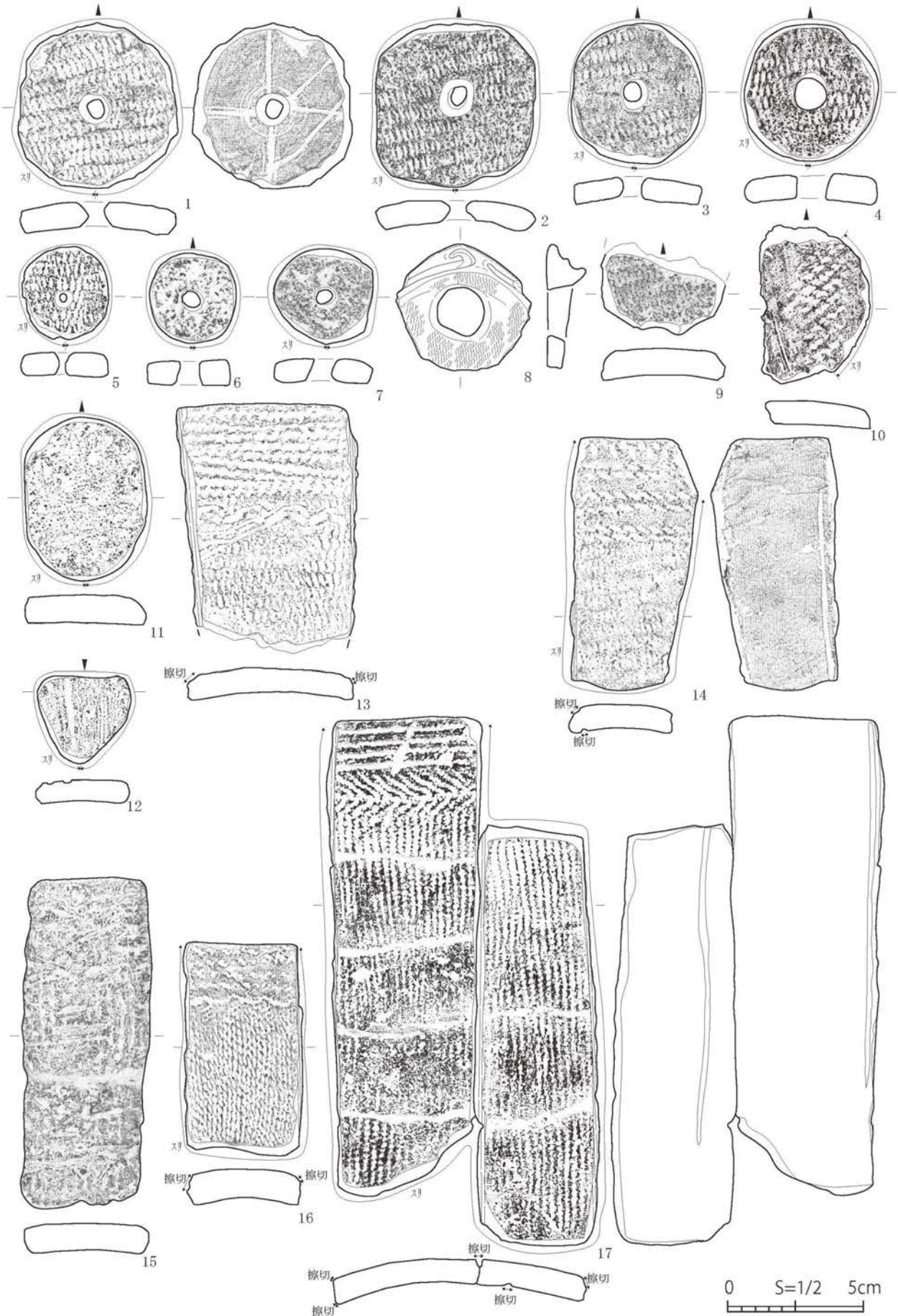


图195 土製品14

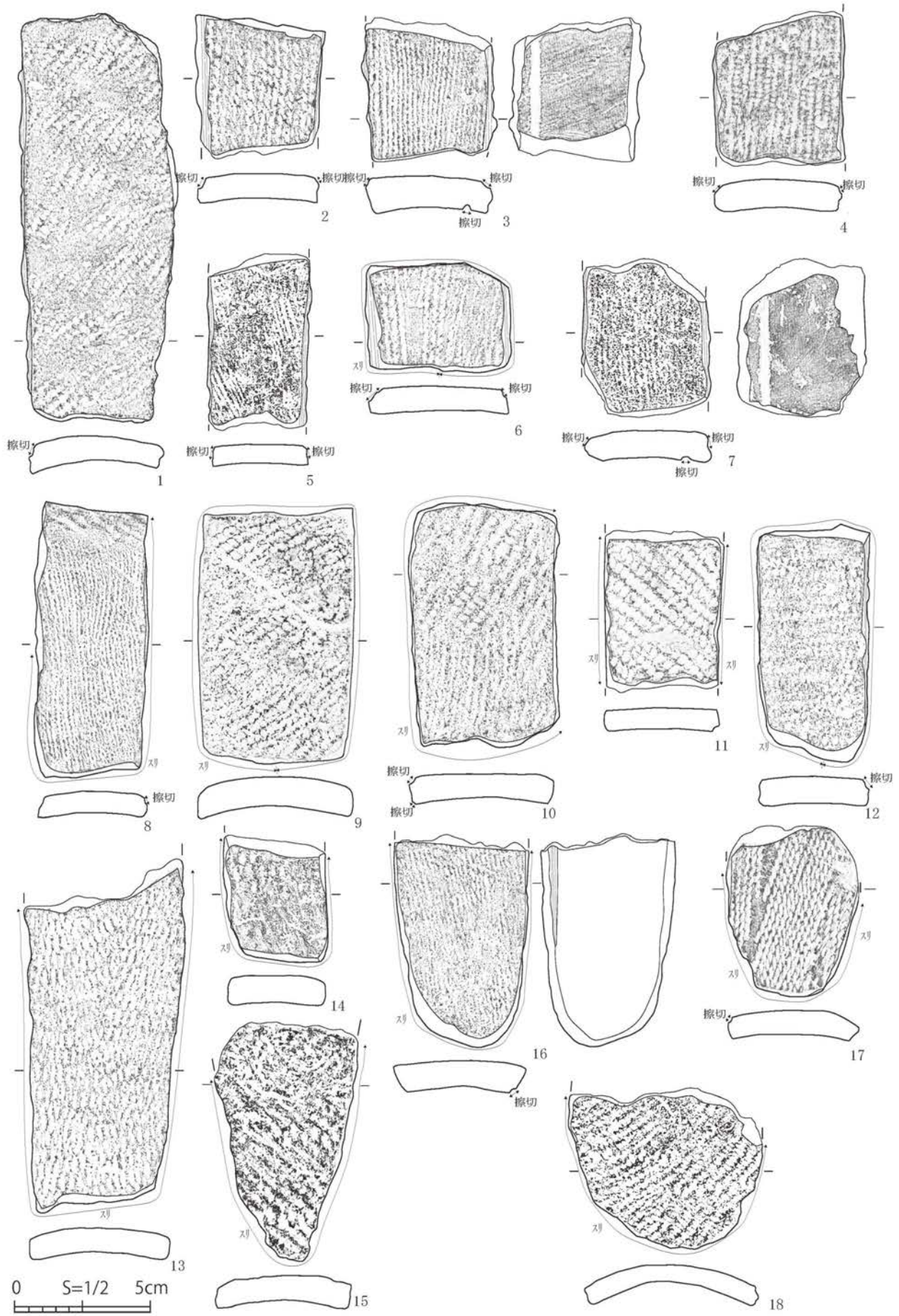


図196 土製品15

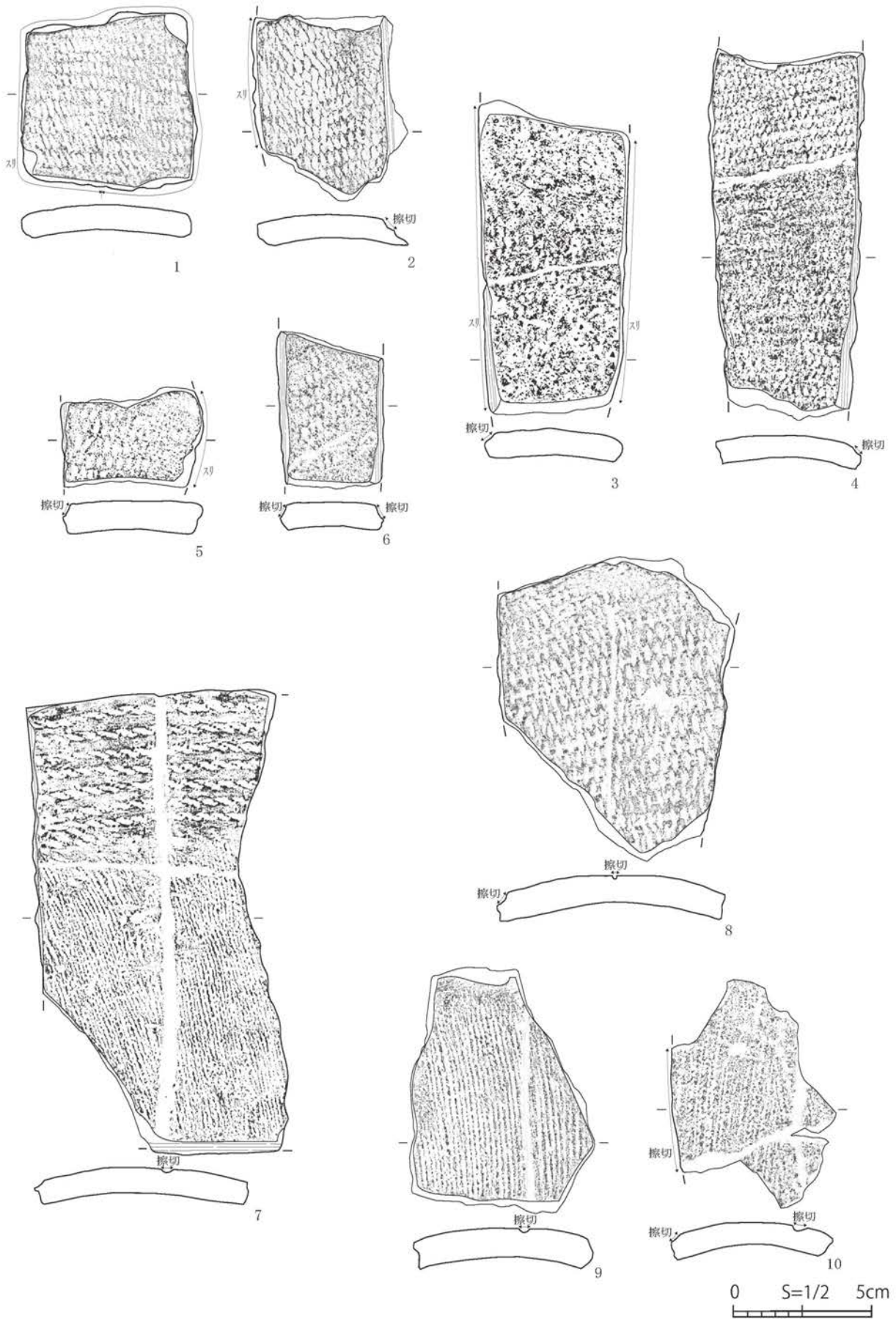


图197 土製品16

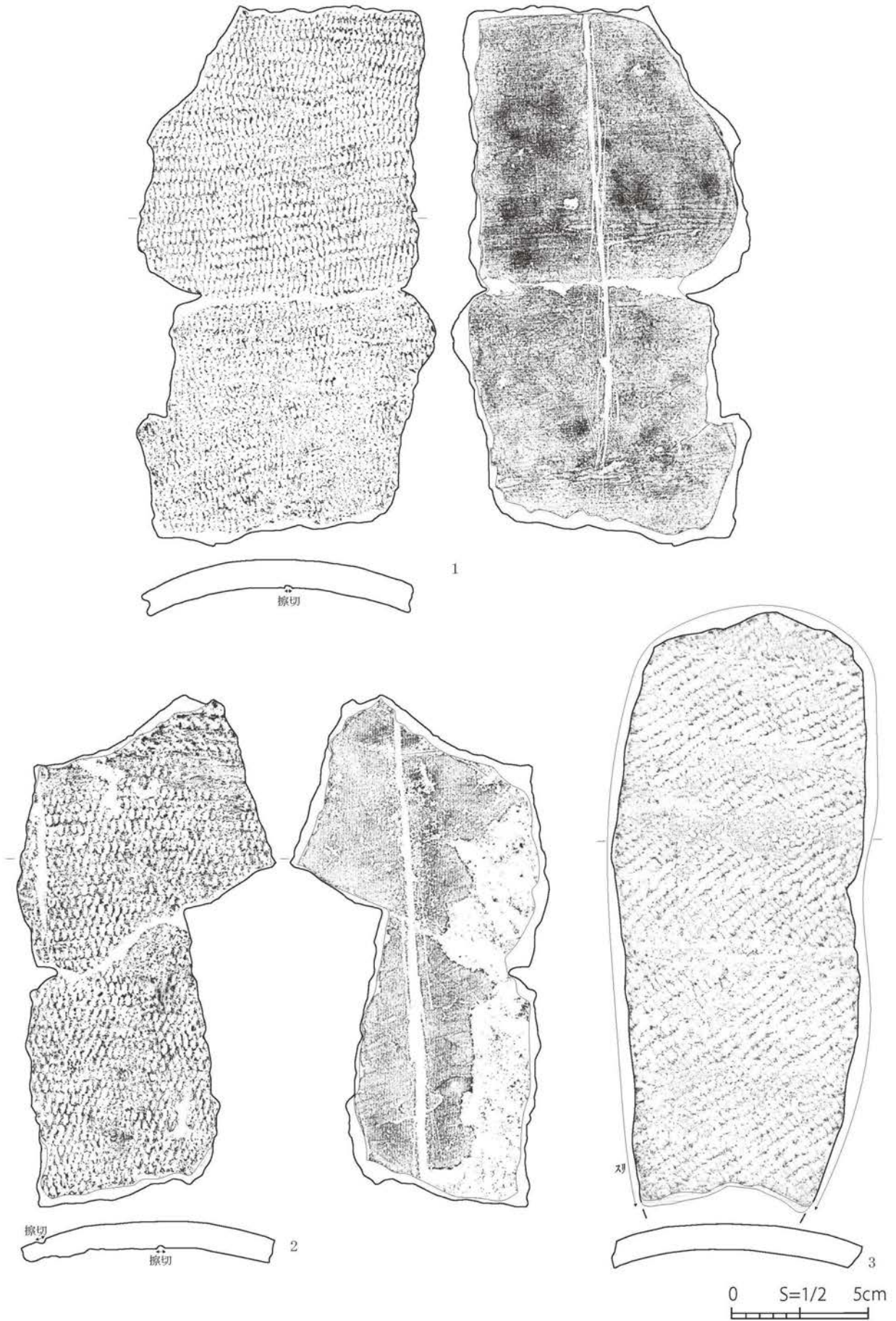
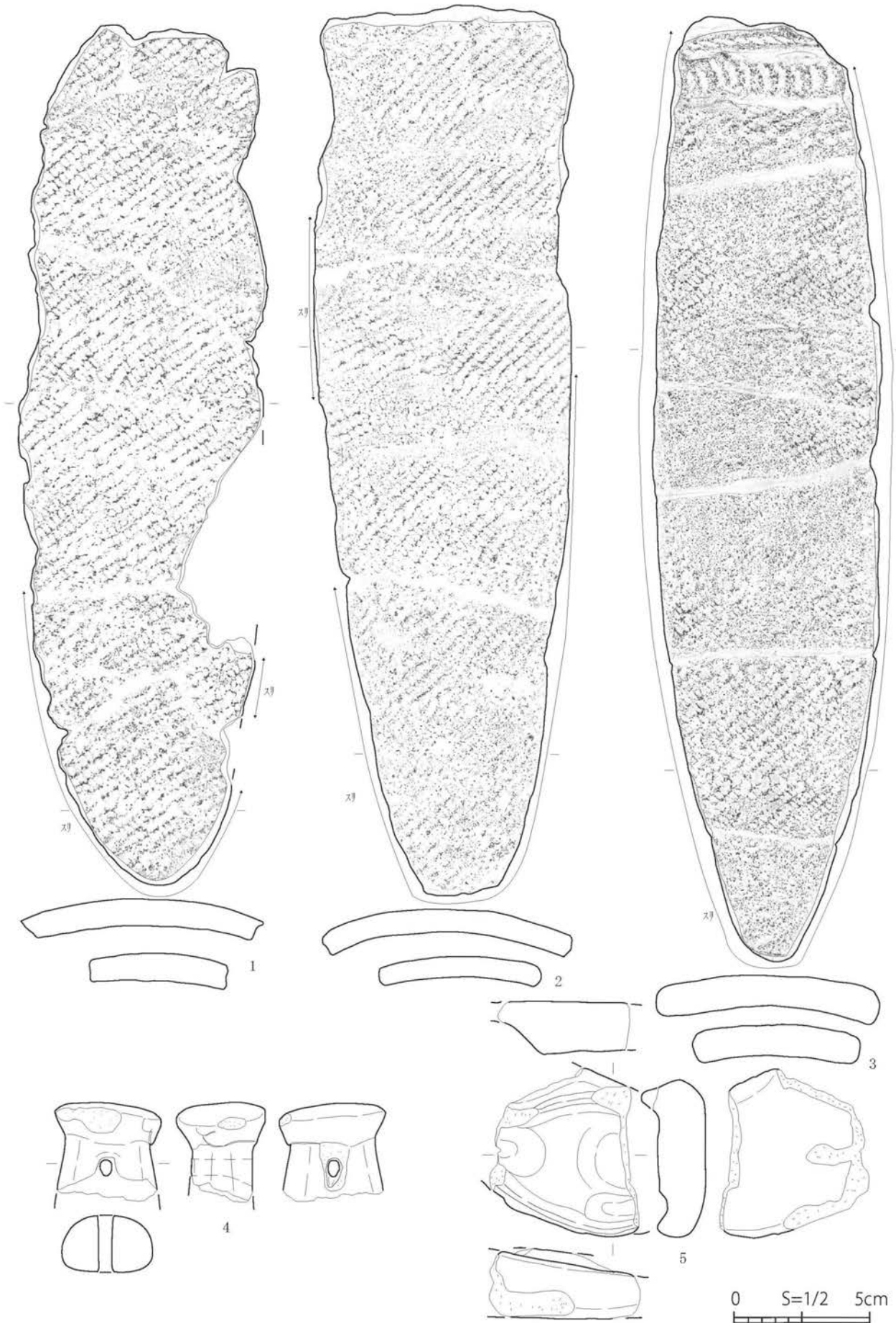


図198 土製品17



图版199 土製品18

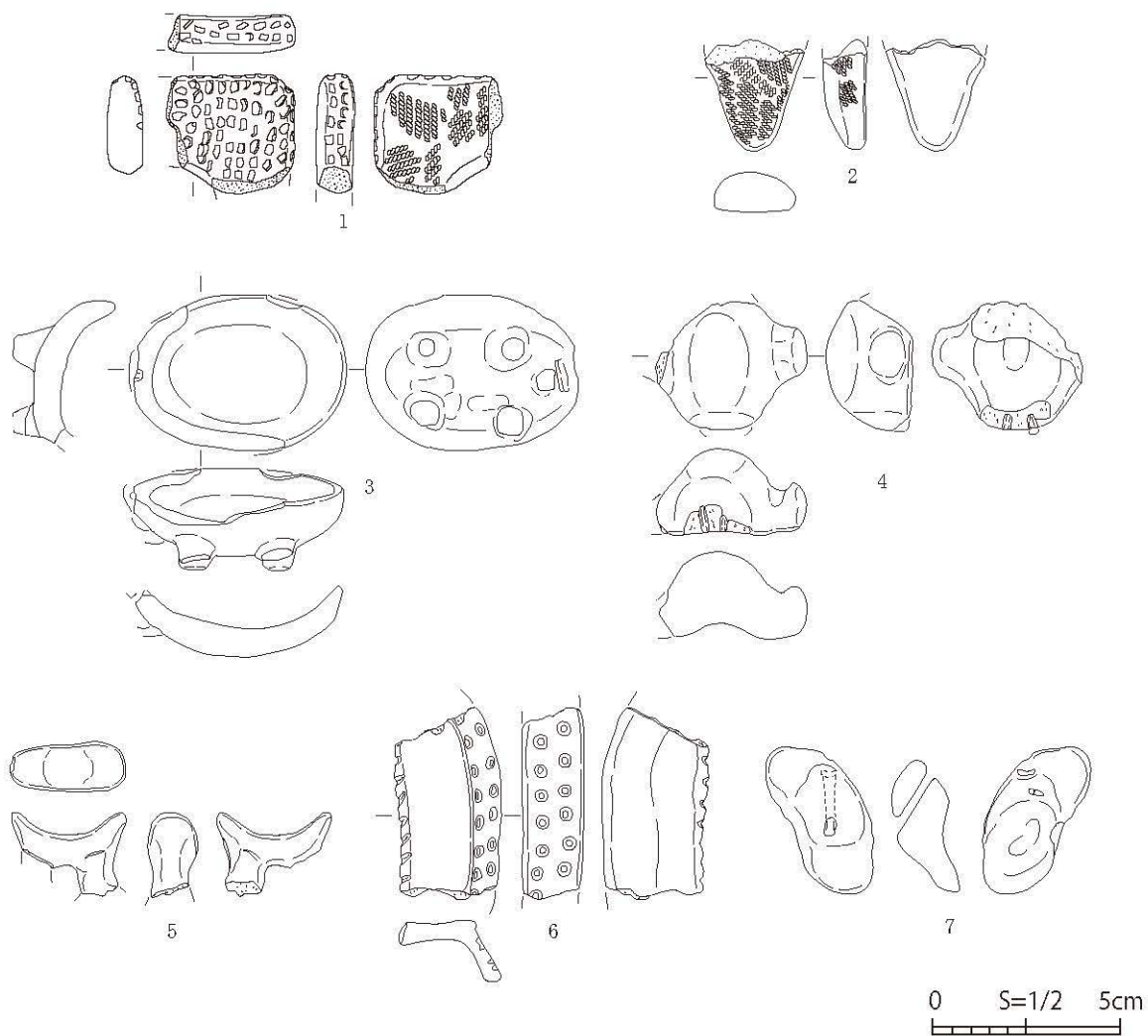


图200 土製品19

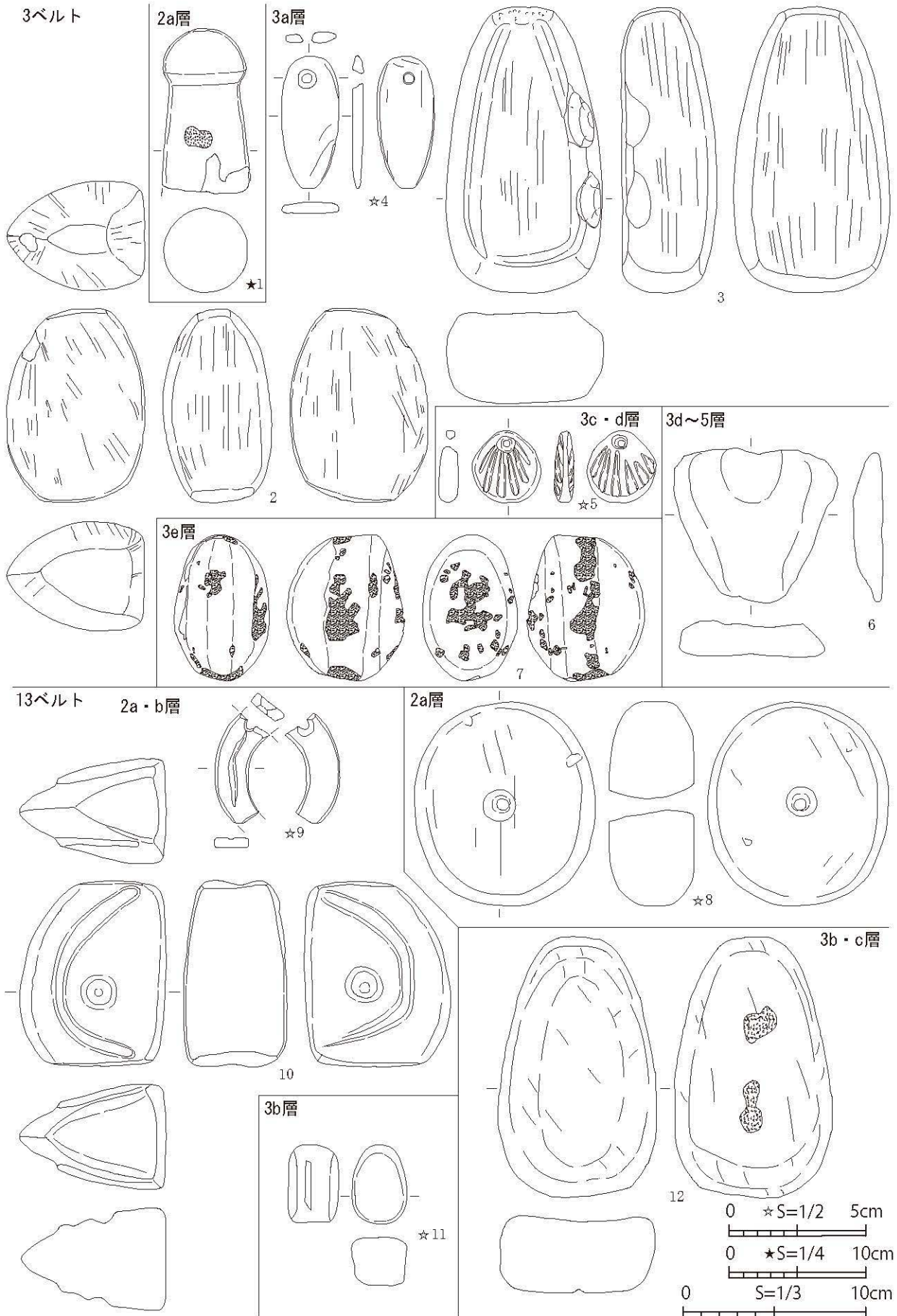


図201 石製品1(細分層位)

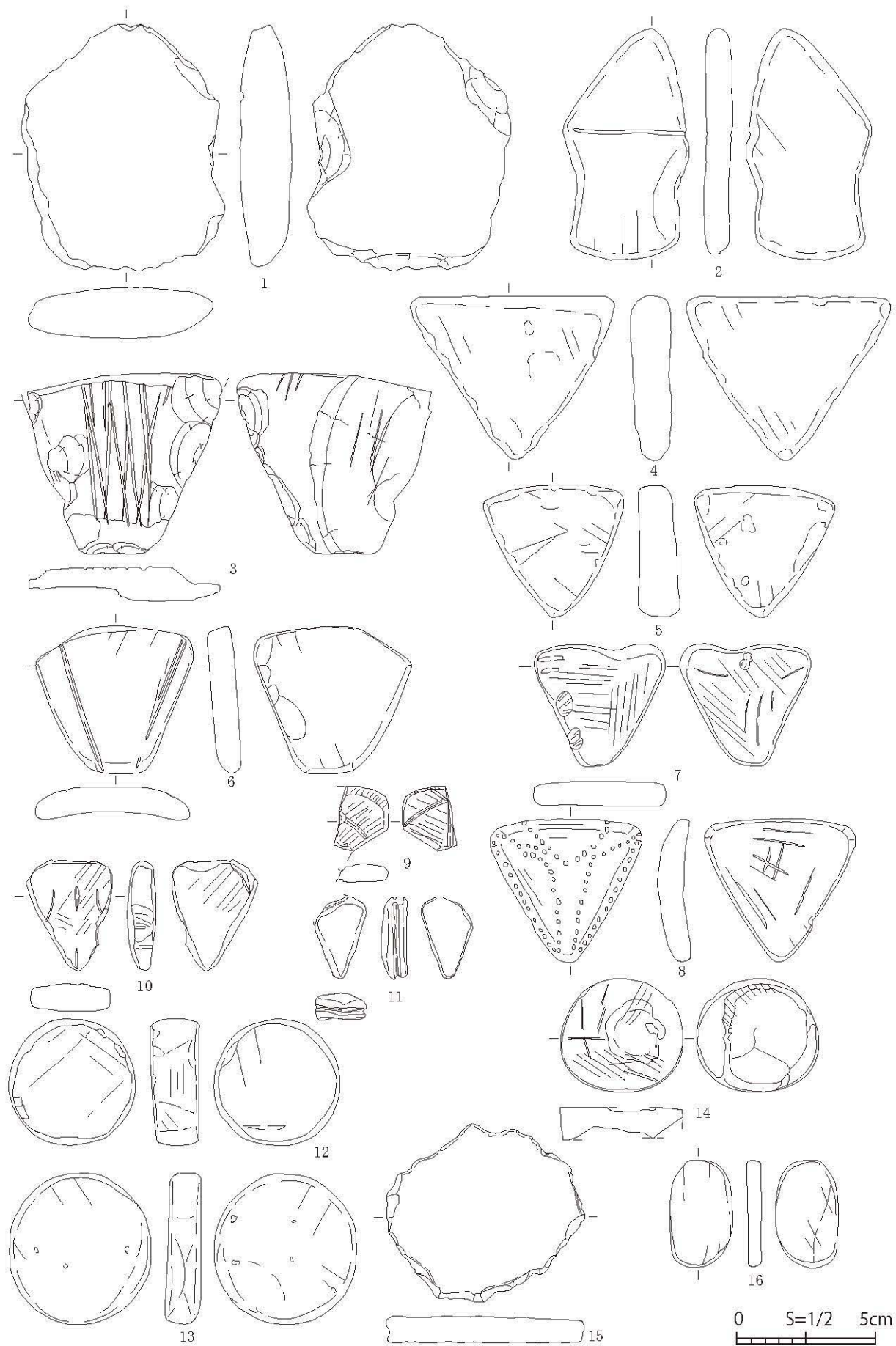


图202 石製品2

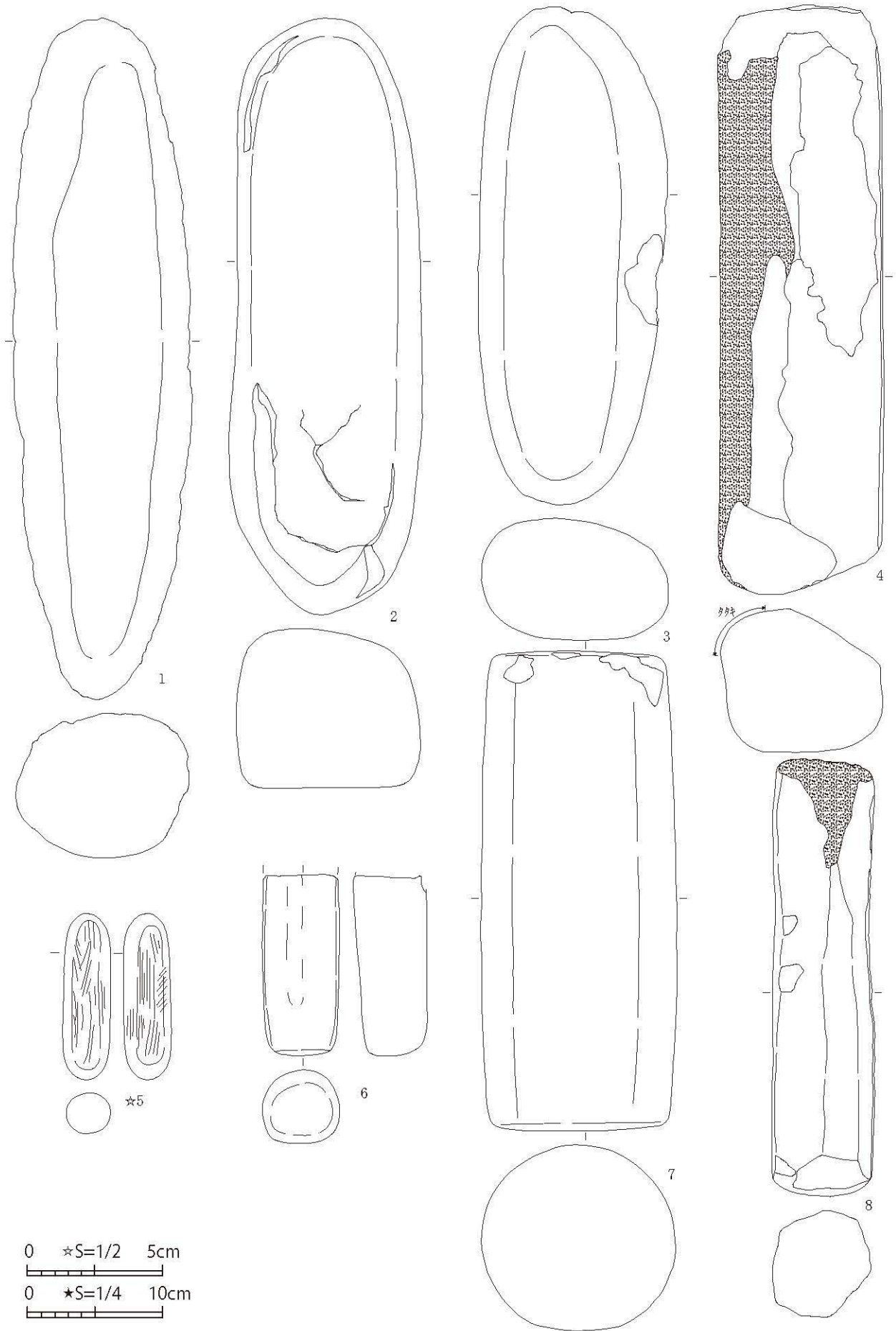


図203 石製品3

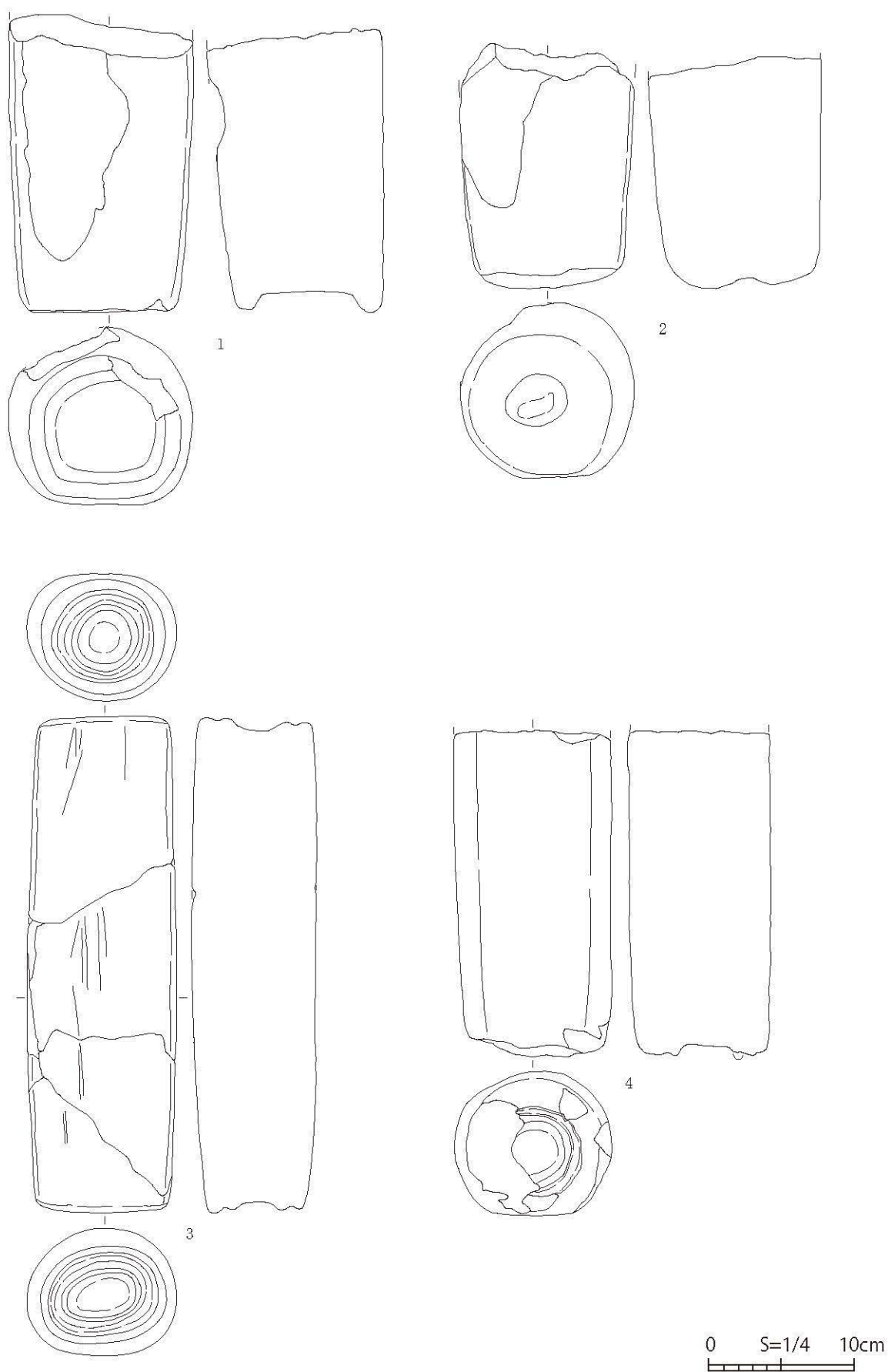


图204 石製品4



图205 石製品5

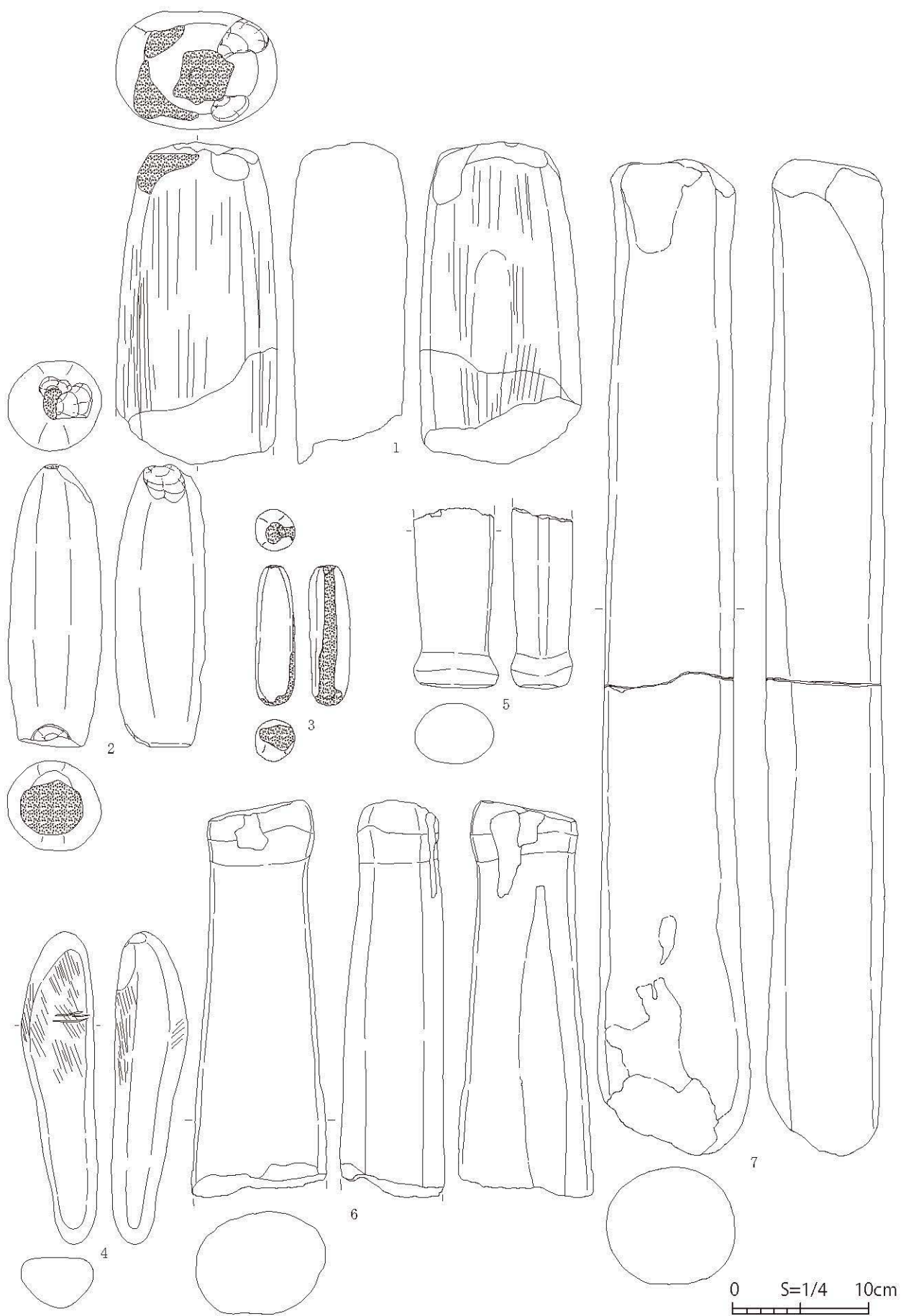


图206 石製品6

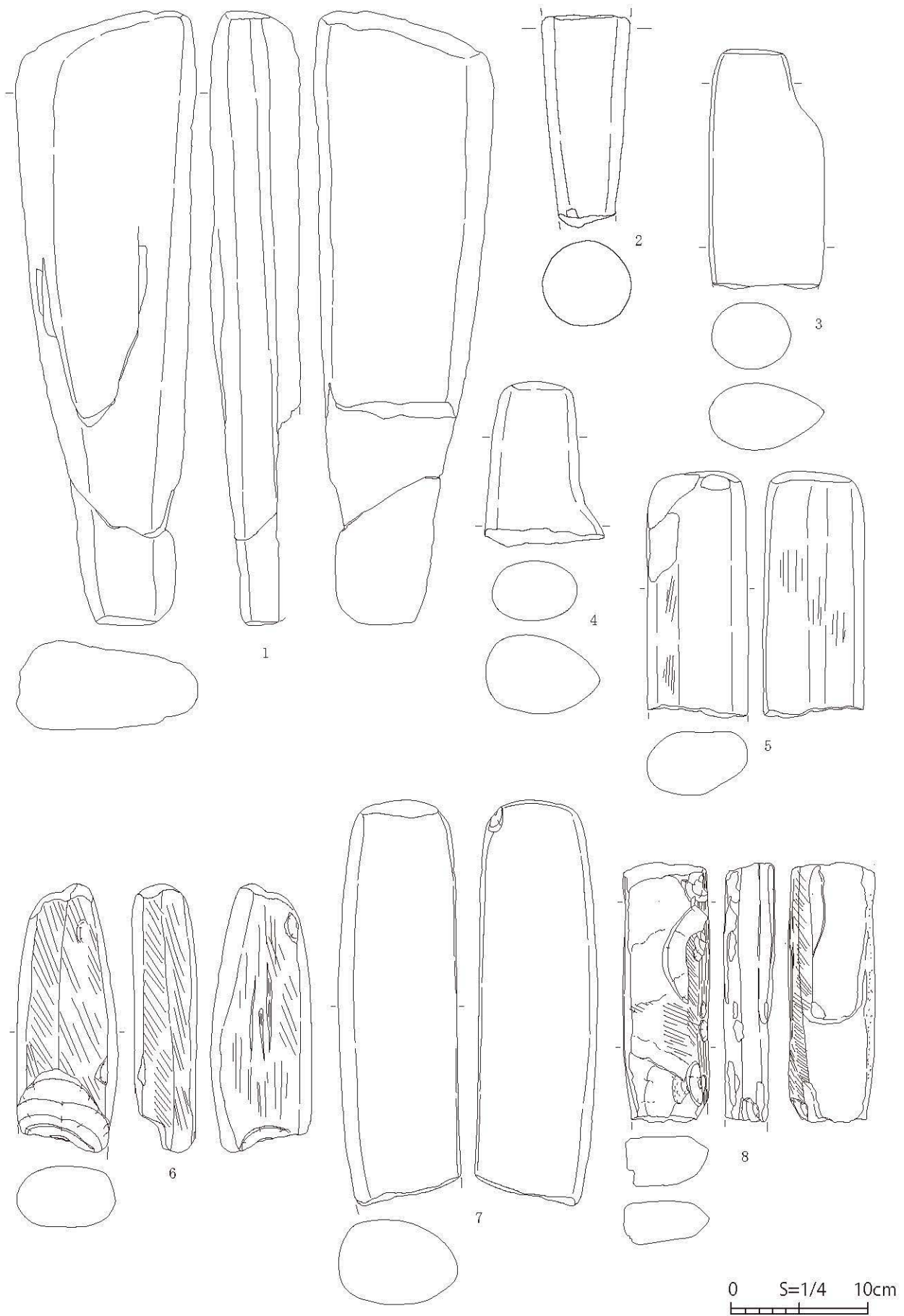


图207 石製品7

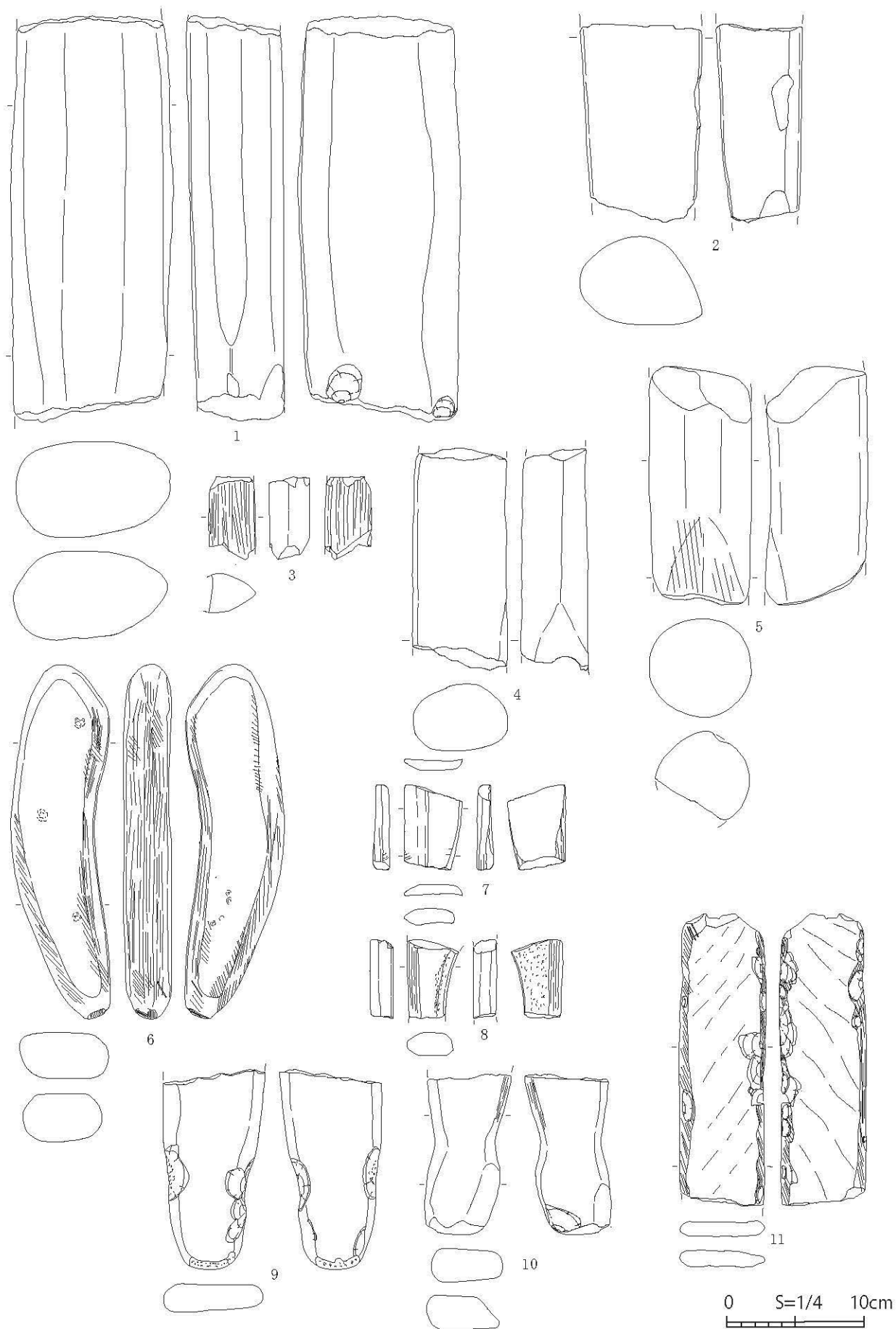


图208 石製品8

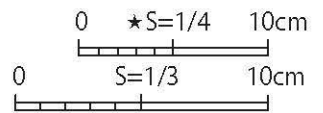
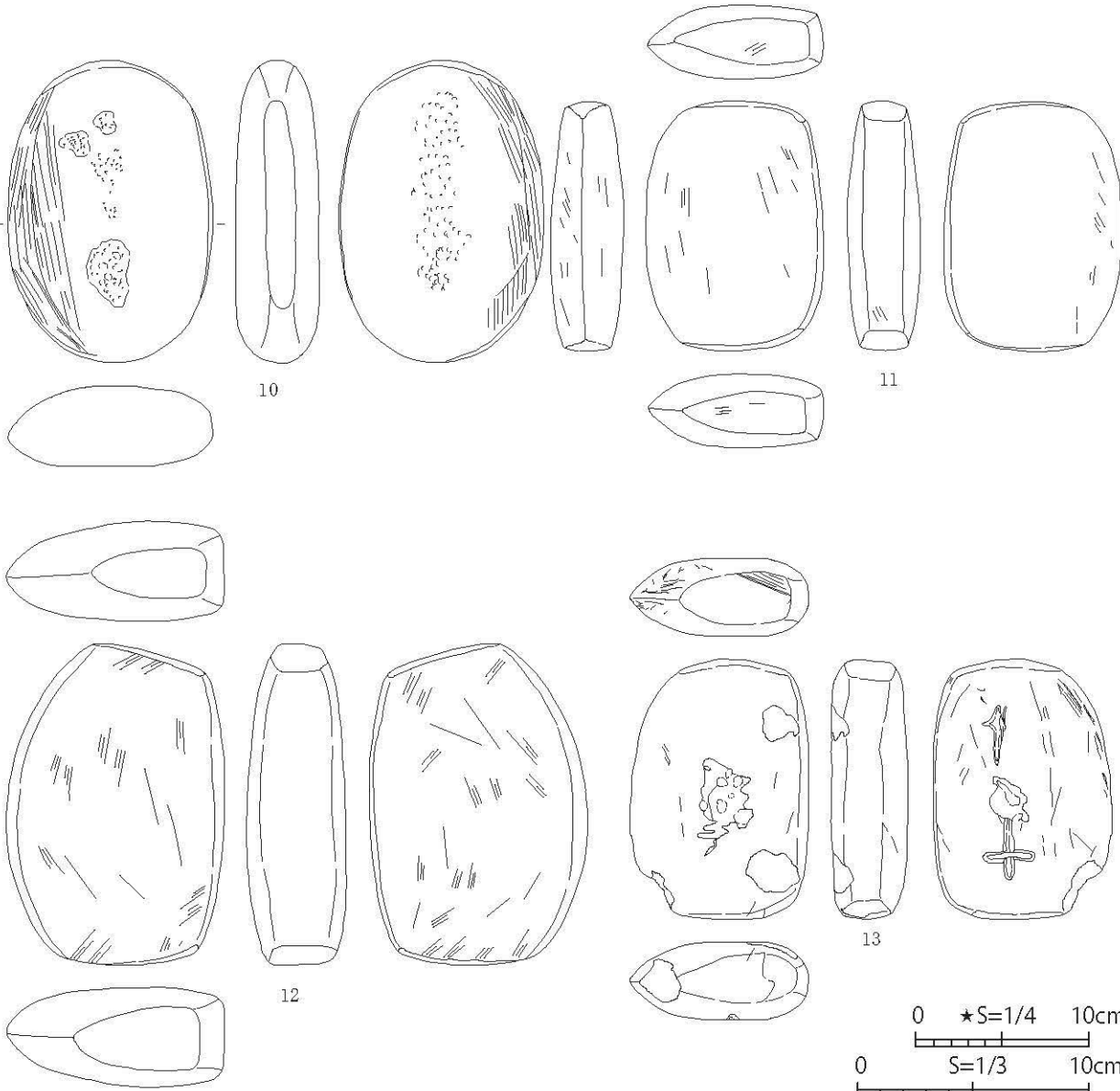
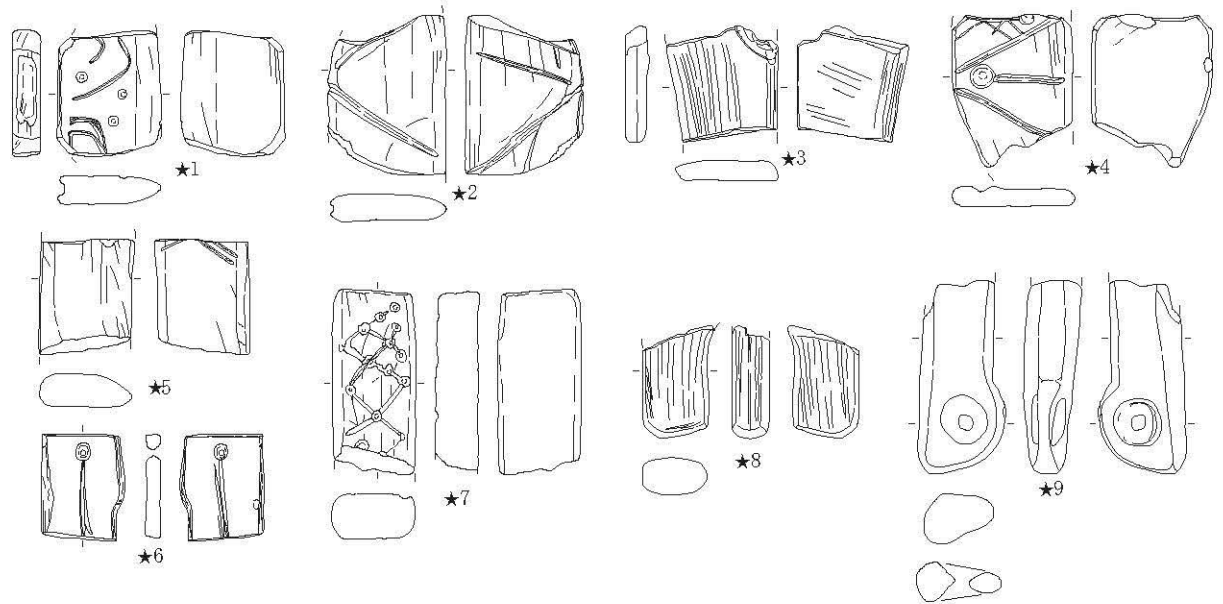


图209 石製品9

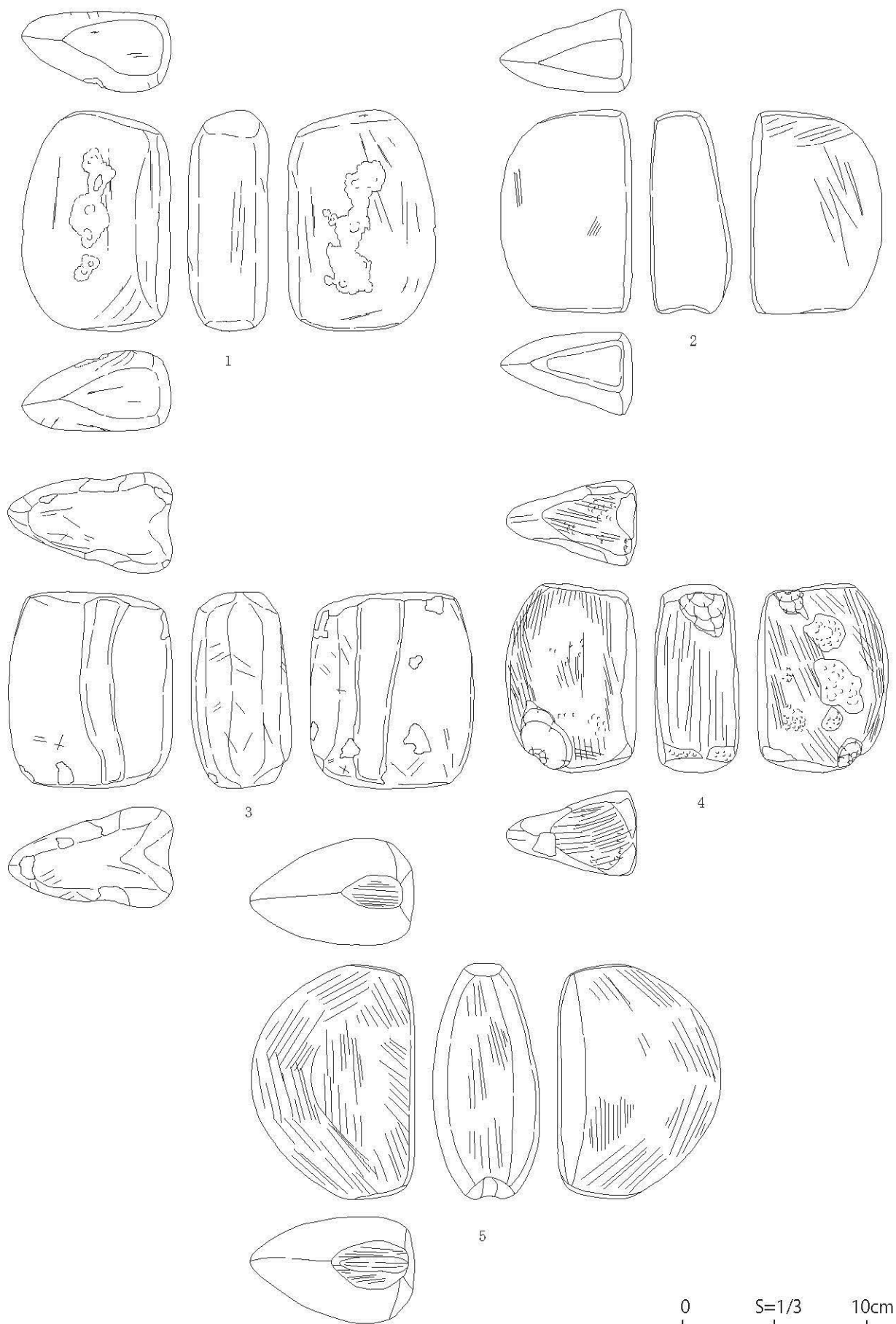


图210 石製品10

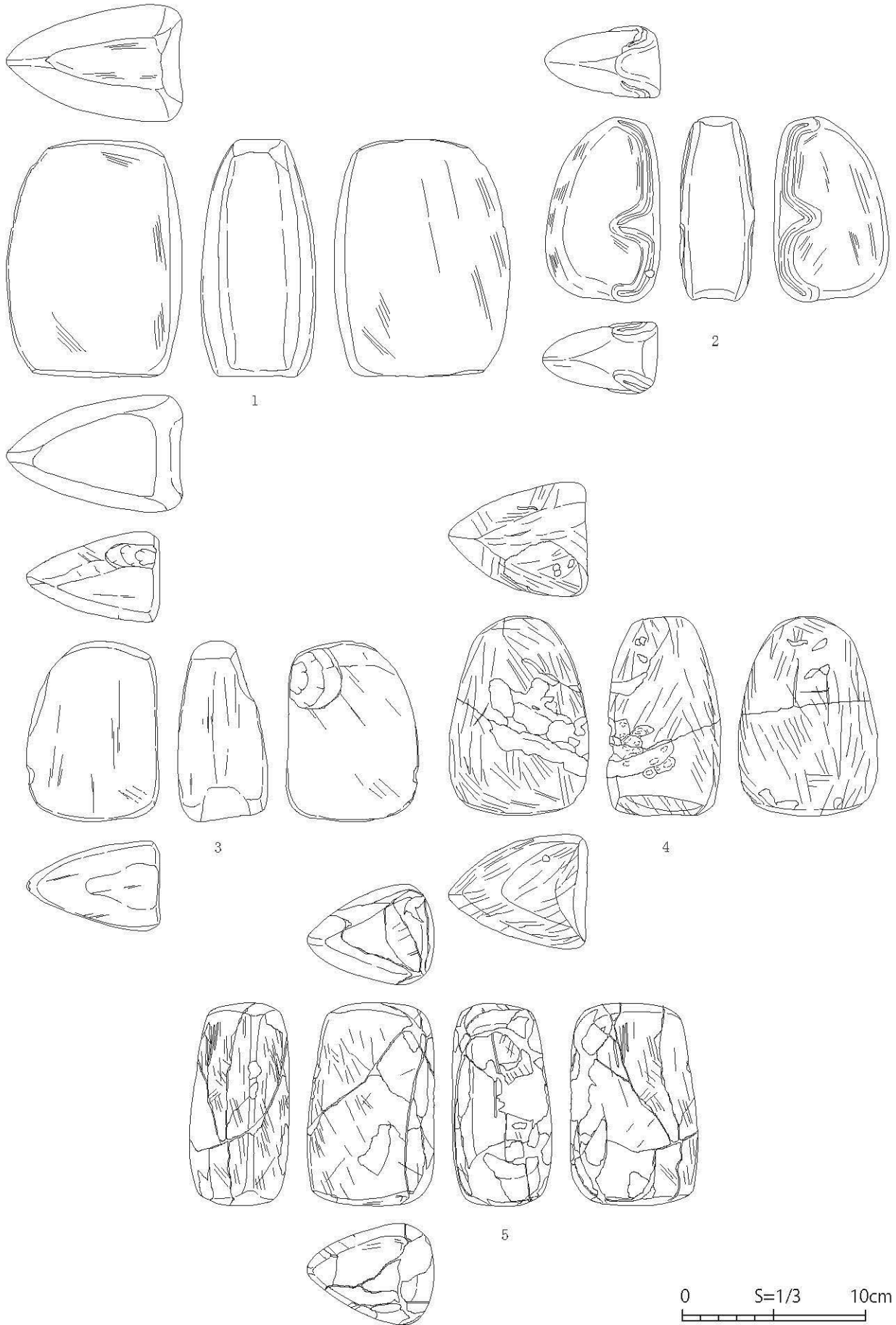


图211 石製品11



図212 石製品12



图213 石製品13



图214 石製品14



图215 石製品15

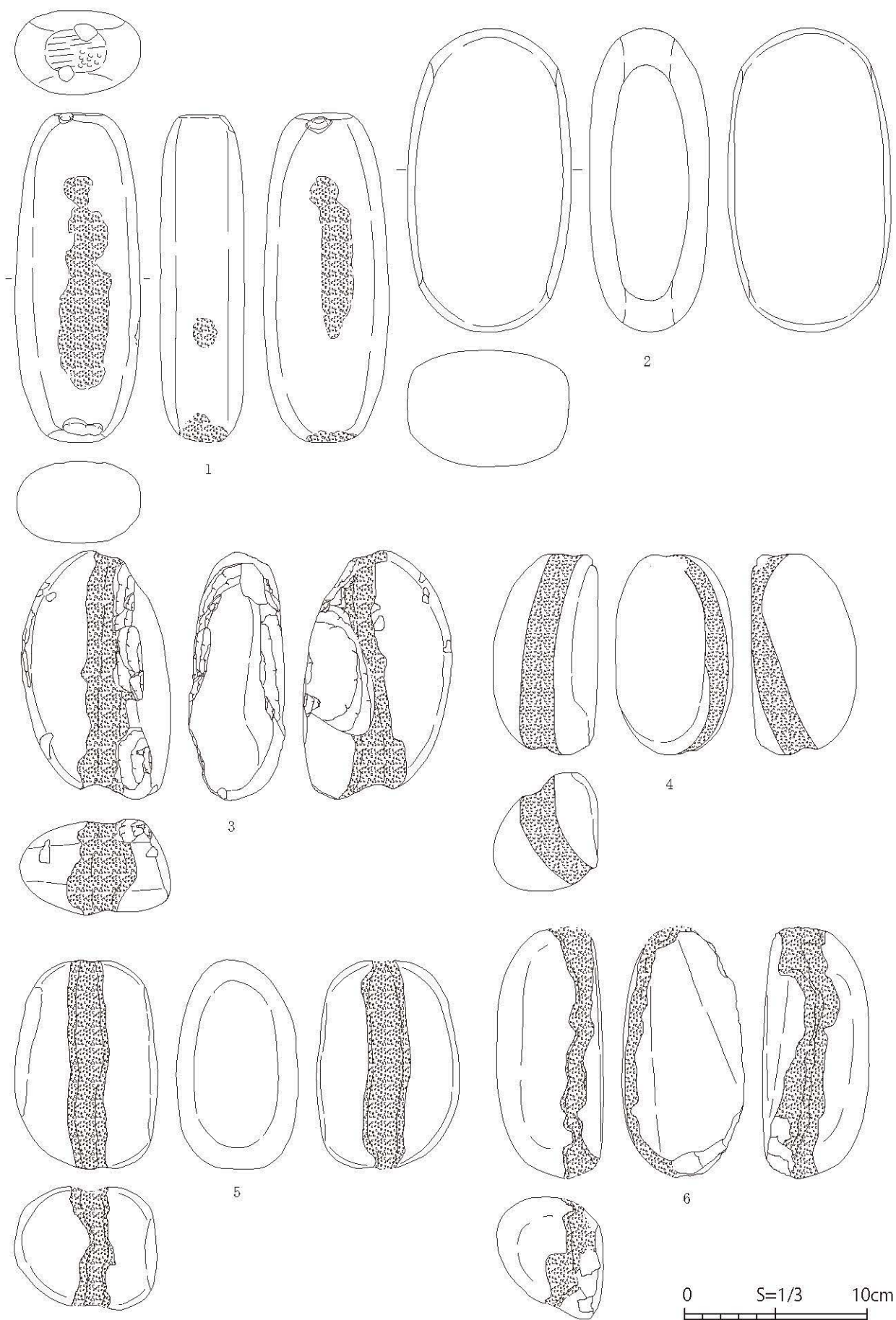


図216 石製品16



图217 石製品17

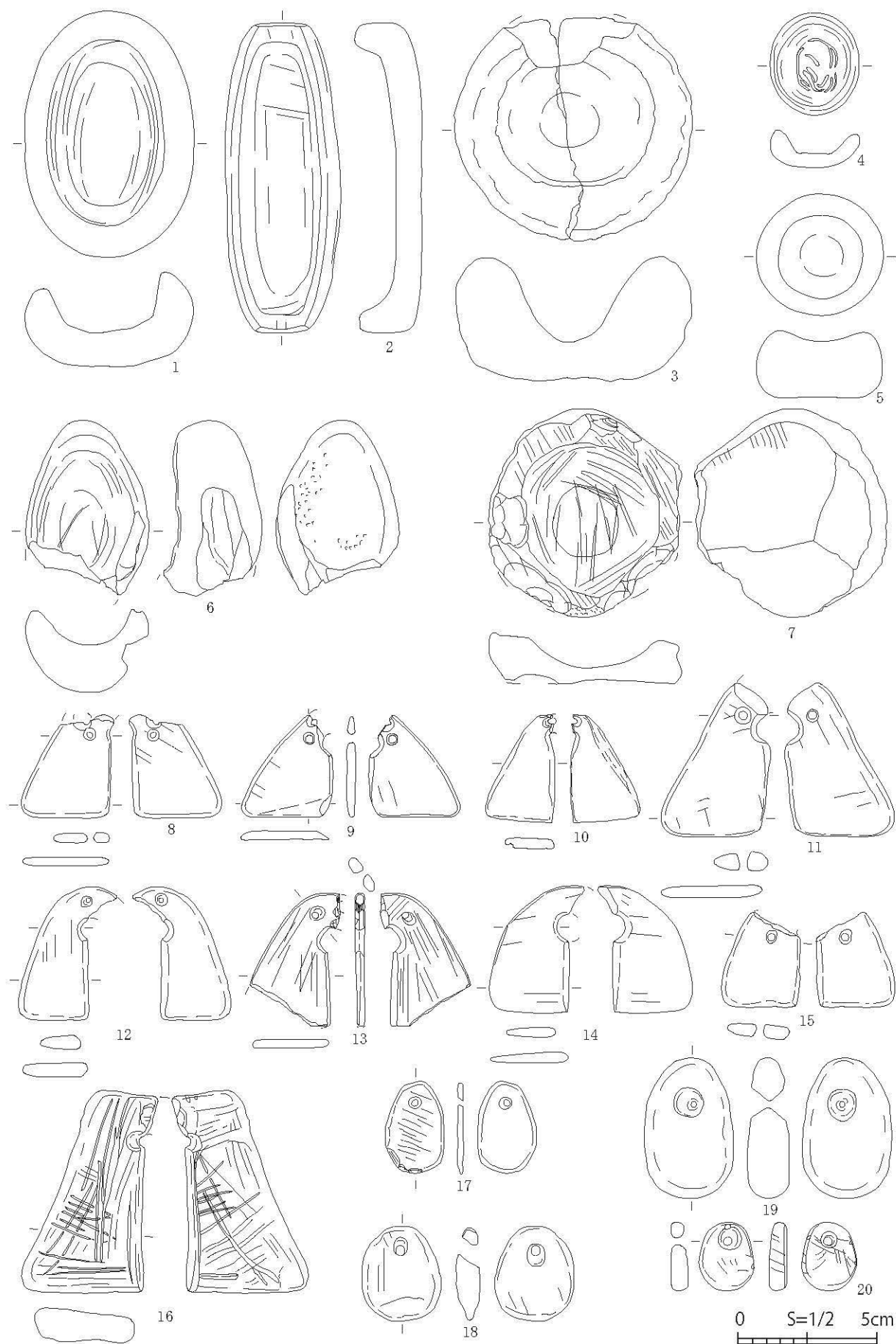


図218 石製品18

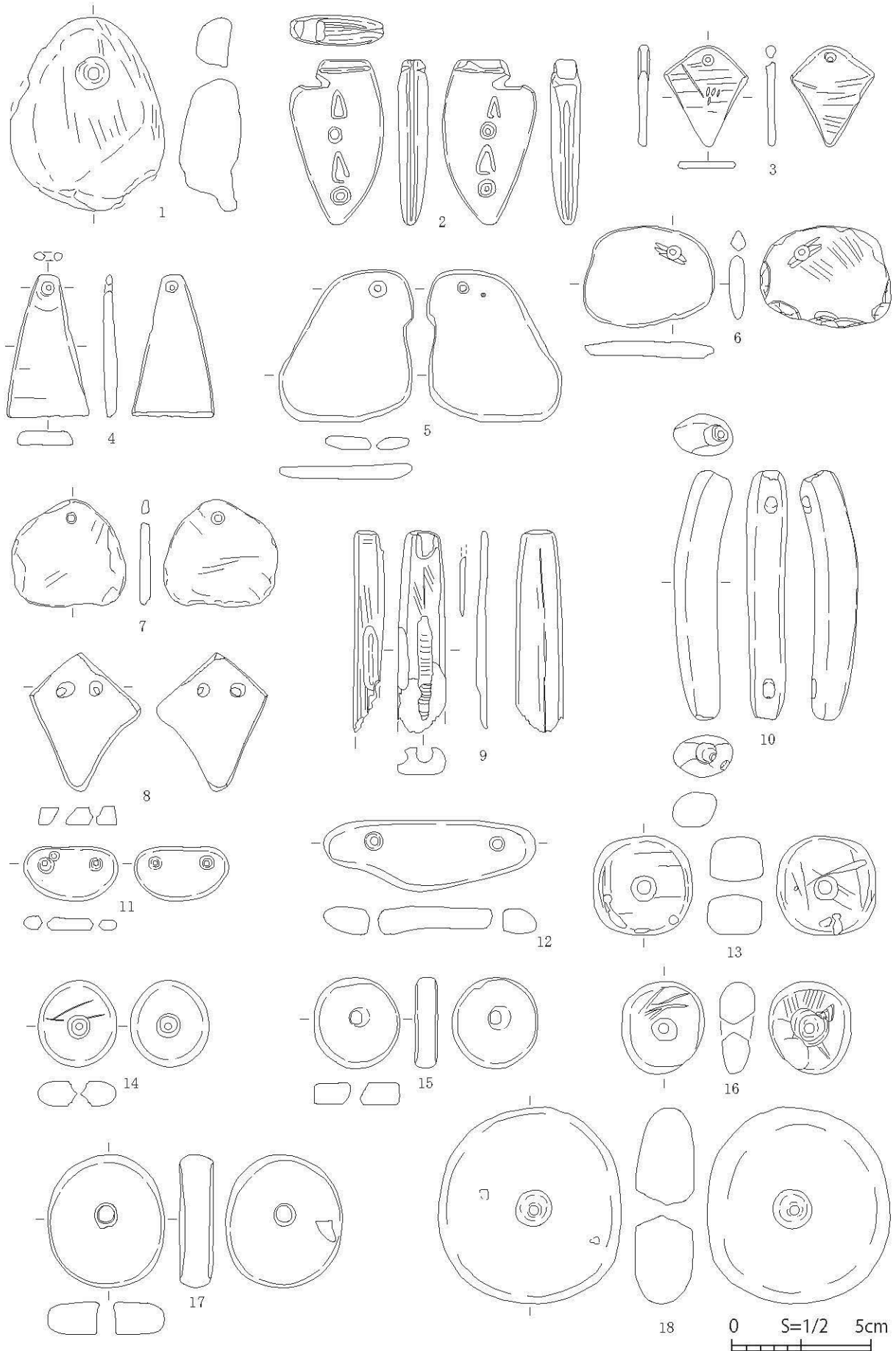


图219 石製品19

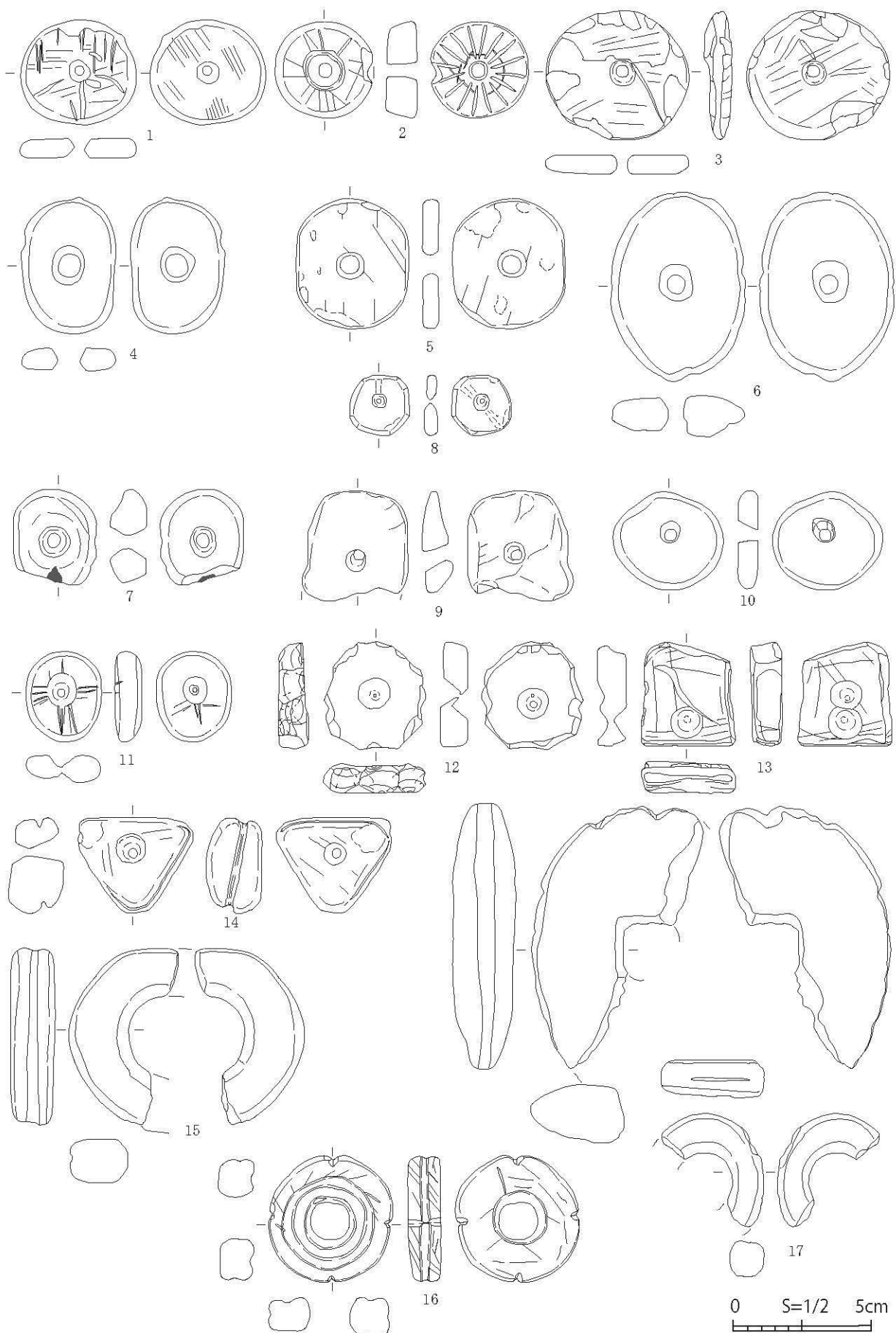


图220 石製品20

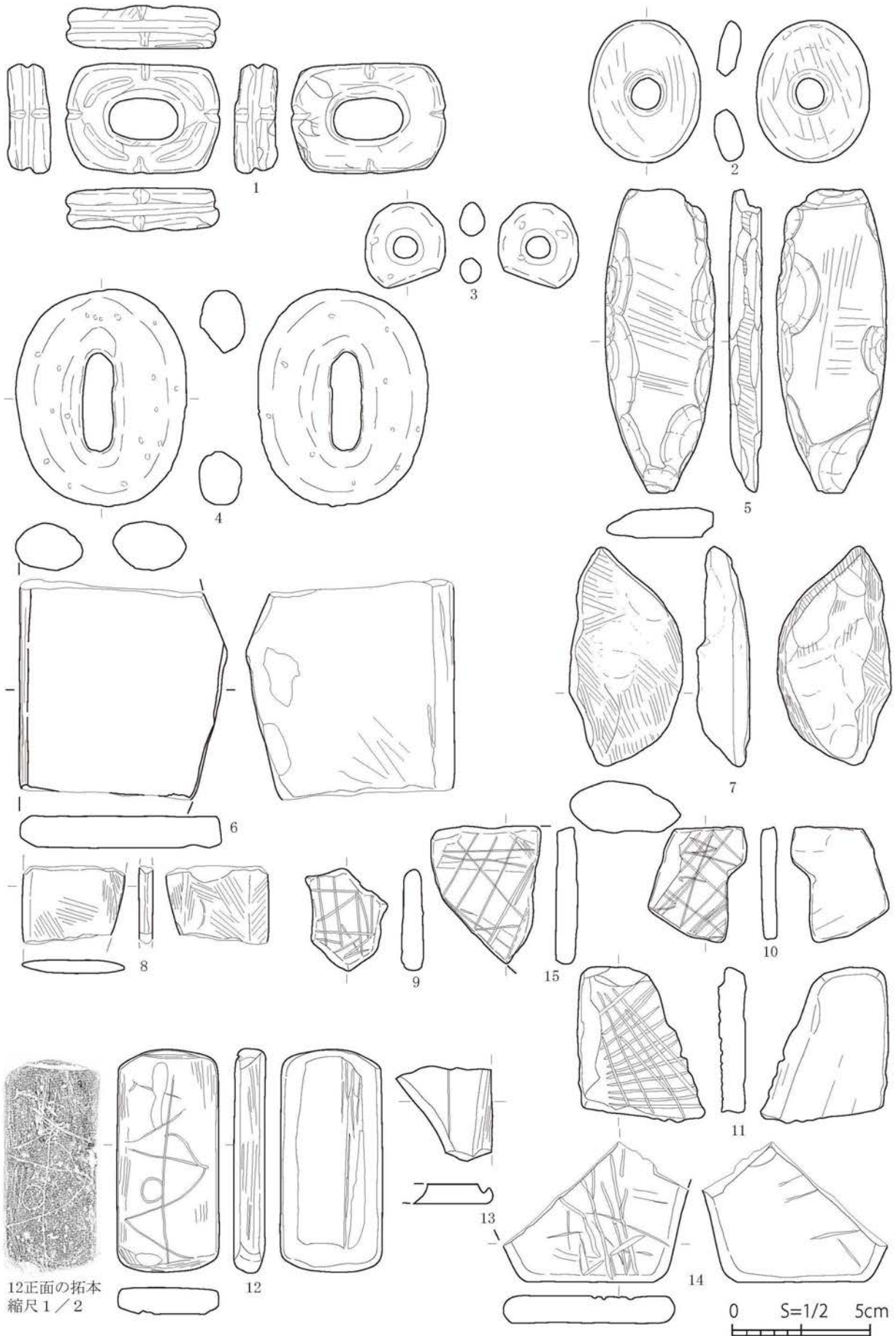


図221 石製品21

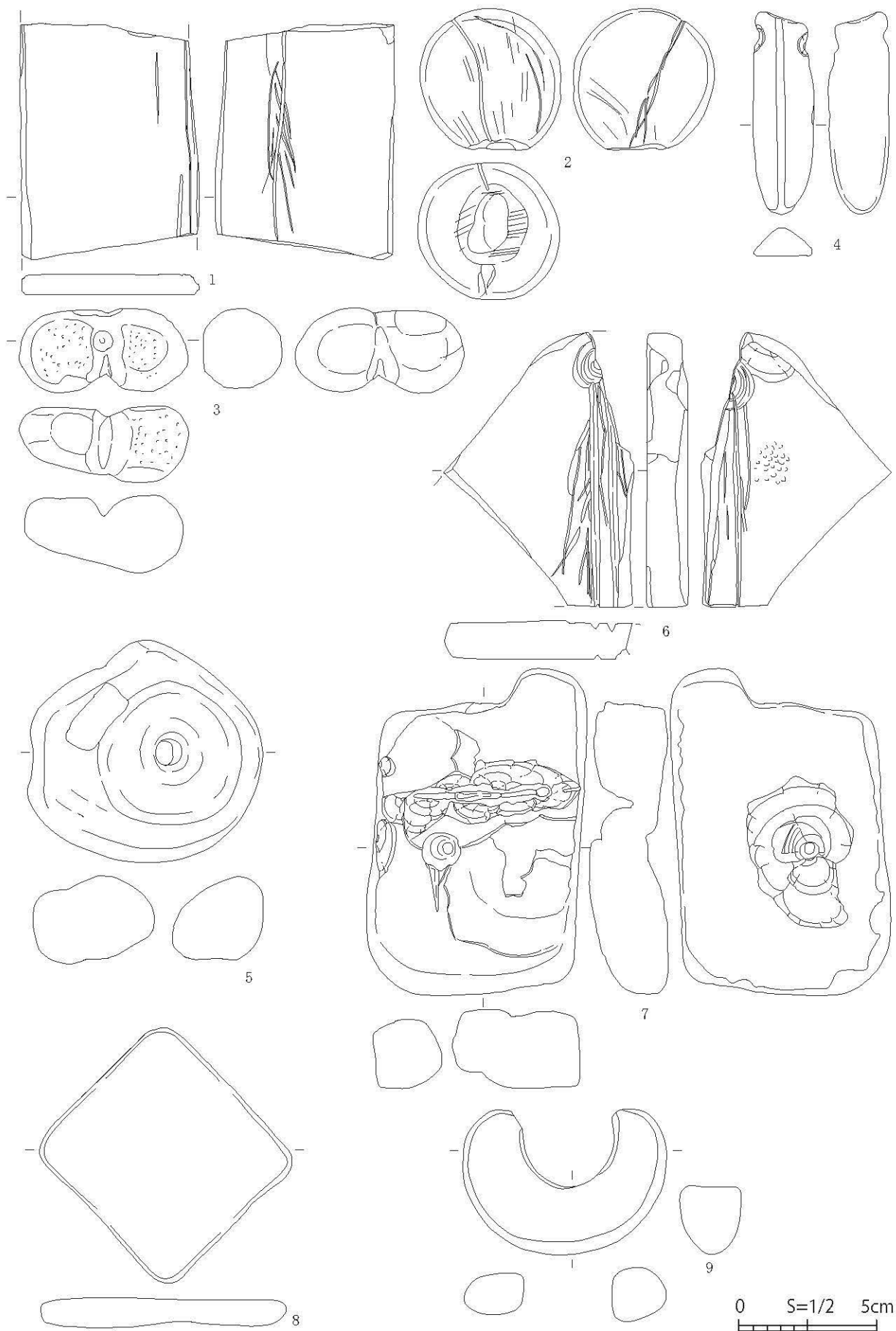


図222 石製品22

土器観察表(ベルト・トレンチ出土1)

管理番号	図番号	遺構名	グリッド	層位	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	文様等の属性	型式	備考
2230	33-1	捨て場	VIII-67	2a・b	深鉢	口縁～胴部	21.3		<24.1>	1103	山形口端突起→鉢巻状隆帯貼付、口縁併走隆帯貼付→ボタン状貼付→LR横回	円上e	3トレ・ベルト内
2660	33-2	捨て場	VIII-67	3a	深鉢	口縁～胴部	27.7		<28.1>	2230	頸部有段、4単位先割れ口端突起、4単位ボタン状突起貼付→口縁部L平行側圧→口端L回、胴部結束2種(LR+LR)横回	円下d2	
2612	33-3	捨て場	VIII-67	3a	深鉢	口縁～胴部	(16.9)		<18.8>	654	4単位山形口端突起、円形貫通孔、隆帯(2条横位区画・口縁波状→斜位・横位・充填弧文)貼付→隆帯上L馬蹄形側圧→角棒斜向刺突列、胴部LR横回	円上c	
2659	33-4	捨て場	VIII-67	3a	深鉢	口縁～胴部	43.0		<32.7>	5600	平口縁、胴部結束1種(0多LR+0多RL)横回→素文隆帯(口縁併走・2条横位区画→口縁鎖状文・口縁波状・ハの字連結)貼付	円上d	3トレ東
2231	33-5	捨て場	VIII-67	3a	深鉢	口縁～胴部	(18.2)		<15.3>	322	口縁併走隆帯→接合痕ナデ消し→1単位?口端スタンプ状突起・橋状把手貼付→口縁LR斜位並列側圧→RL横位側圧→胴部結束2種(RL+RL)横回→沈線(横位、4単位対弧文)→隆帯(突起区画弧文、把手上波状、突起上面環状)貼付	円上e	3トレ・ベルト
2641	33-6	捨て場	VIII-67	3a	深鉢	口縁～胴部	30		<22.8>	1658	4単位波状口縁(台形突起)→円形貫通孔→隆帯(口縁併走・2条横位区画→突起区画弧文・突起間弧文→縦・斜位連結)貼付→隆帯上L側圧→角棒斜向刺突列・充填、胴部結束1種(0多LR+0多RL)横回	円上c	3トレ東
2392	33-7	捨て場	VIII-67	3a	深鉢	口縁～胴部			<14.5>	228	波状口縁(台形突起)、LR横回→口縁L側圧→斜向刺突列	円上c ～d	3トレ・ベルト
9391	34-1	捨て場	VIII-66	3a相当	深鉢	口縁～底部	(30.5)	13.8	41.9	2030	4単位波状口縁(山形突起)、口縁併走隆帯→接合痕ナデ消し・その他隆帯(横位区画→2段4単位環状→縦位連結)貼付→胴部結束1種(RL+RL;別条0結縛付)横回→区画隆帯上R側圧→R・L鋸歯状側圧→口縁R・L側圧→環状及び縦位隆帯上R側圧	円上a	3トレ・ベルト、個141、内面胴部下半タール状炭化物付着
2531	34-2	捨て場	VIII-68	3a	壺形	口縁～胴部			<8.4>	59	内傾接合による成形→LR横回→橋状把手(貫通孔成形時の軸痕跡あり)	榎林～牛ヶ沢	3トレ・ベルト、異系統土器(←北陸系?)
2613	34-3	捨て場	VIII-66	3a相当	深鉢	口縁～底部	29.3	11.4	33.6	2328	4単位波状口縁(台形突起)→円形貫通孔、隆帯(口縁併走・2条横位区画→突起区画弧文→縦位・横位連結・山形文・縦位対弧文、口縁波状)貼付→隆帯上L側圧→角棒斜向刺突列→結束1種(RL+LR;別条r?結縛付)横回	円上c	
2525	34-4	捨て場	VIII-66	3a	深鉢	口縁部			<6.7>	43	縦位隆帯貼付→L側圧(口縁・隆帯刻み、区画内横位)、LR馬蹄形側圧	円上b	補修孔×3有り
2636	34-5	捨て場	VIII-65	3a	深鉢	口縁～底部	16.6	10.6	23.5	1545	隆帯(2条横位区画→4単位V字区画→口縁波状)貼付→区画内L横位側圧→結束1種(0多LR+0多RL)の結束部刺突列充填、隆帯上L・R側圧、胴部結束1種(0多LR+0多RL;L結縛付)横回、底面すだれ状圧痕	円上b	
2608	34-6	捨て場	VIII-67	3b	深鉢	口縁～胴部	38.3		<49.5>	4205	隆帯(口縁併走→端部鉤状成形→4単位口端突起作出→横位区画・口端クリップ)貼付→4単位橋状把手→口縁部R側圧(縦位並列→横位、口端・隆帯・把手刻み)、胴部結束1種(LR+LR;R結縛付)横回	円下d2	繊維混入
2619	35-1	捨て場	VIII-67	3b	深鉢	口縁～胴部	24.7		<31.1>	1350	4単位口端小突起、横位区画隆帯貼付→橋状把手貼付→口縁部LR側圧(4単位斜位→斜位並列→口縁併走→隆帯上・口端刻み)、胴部LR横・斜回→RL結節縦回	円下d2 ～上a	3トレ東
2693	35-2	捨て場	VIII-67	3b	深鉢	口縁～底部	39.2	18.8	61.9	6700	4単位三又状突起(先割れ状+垂下隆帯上端部)、隆帯(横位区画、垂下+ボタン状突起)貼付→R単軸1類側圧(横位平行、垂下隆帯・貼付上)、円形刺突列(口縁、区画隆帯上)、胴部LR横回→R結節横・縦回	円下d2	13トレ東、繊維混入
2615	35-3	捨て場	VIII-67	3b	深鉢	口縁～胴部	29.1		<31.2>	1850	4単位段差状口端突起→4単位ノの字形垂下隆帯+ボタン状突起貼付→口縁部・隆帯上R側圧(横位平行、隆帯・貼付上、口縁刻み)、胴部LR横回→R結節縦回、頸部LR折り曲げ刺突列(部分的)	円下d2	3トレ東、補修孔1ヶ、直下に未貫通孔有り
3378	35-4	捨て場	VIII-68	3b	台付浅鉢	口縁～底部	(34.3)		<9>	840	4単位?口端小突起、LR横・斜回	円下d2	
2624	36-1	捨て場	VIII-67	3b・c	深鉢	口縁～底部	36.0	14.5	43.3	4140	隆帯(口縁併走→端部鉤状成形→4単位先割れ口端突起作出→横位区画→V字形区画→鞍状突起)貼付→口縁部LR側圧(横位・渦巻→隆帯・口縁刻み)、胴部LR(自条R結縛付)横回	円下d2 ～上a	3トレ西
2235	36-2	捨て場	VIII-67	3b・c	深鉢	口縁～底部	21.8	10.6	27.7	1591	4単位山形口端突起、隆帯(横位区画→橋状把手+逆U字形)貼付→L単軸1類側圧(区画内横位→隆帯刻み)、口端LR回、胴部LR横回→底部側面横ミガキ	円下d2 ～上a	繊維混入
2617	36-3	捨て場	VIII-67	3b・c	深鉢	口縁～底部	(17.5)	(12.1)	22.9	1190	4単位山形口端突起、横位区画隆帯貼付→4単位橋状把手貼付→口縁部R単軸1類側圧(横位平行、口縁・隆帯刻み)、胴部LR横回→R結節縦回	円下d2 ～上a	3トレ西
2309	36-4	捨て場	VIII-67	3c	深鉢	口縁～底部	15.0	(6.4)	16	193	平口縁、隆帯(口縁併走・横位区画→縦位区画弧文→口縁波状)貼付→隆帯上L側圧→角棒斜向刺突列、胴部結束1種(0多LR+0多RL;r結縛付)横回	円上c	内面下半ススコグ状炭化物付着
2622	36-5	捨て場	VIII-66	3c	深鉢	口縁～底部	12.4	6.7	14.4	332	4単位波状口縁(台形突起)→口縁併走隆帯貼付→接合痕ナデ消し→その他隆帯(横位区画・4単位突起区画W字文→縦位連結+端部ボタン状突起・口端突起隆帯)貼付→4単位貫通孔→隆帯上L側圧・結束1種結束部?の縄刺突列→結束1種(0多LR+0多RL;0多R結縛)横回	円上a	

土器観察表(ベルト・トレンチ出土2)

管理番号	図番号	遺構名	グリッド	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	文様等の属性	型式	備考
2232	36-6	捨て場	VIIIU-66	3c	深鉢	口縁～胴部	25.2		<23.3>	1227	4単位波状口縁(山形突起)、隆帯(横位区画→突起区画・4単位逆U字+ボタン状突起、口端クリップ)貼付→口縁部R側圧(横位→波状、隆帯・口縁刻み)→区画内・隆帯上の1/4単位に斜向刺突列、胴部RLR横回	円上 a	繊維混入
2236	36-7	捨て場	VIIIU-67	3c	深鉢	口縁～胴部	(29.3)		<32.9>	2170	頸部有段、4単位緩波状口縁(先割れ突起)、4単位鋤形垂下隆帯貼付→口縁部LR側圧(区画内弧状、隆帯上、口縁刻み)・一部R側圧→頸部円形刺突列→胴部RLR横回→R結節縦回	円下d2	繊維混入
2635	37-1	捨て場	VIIIU-66	3c	深鉢	口縁～底部	(21.7)	11.1	25.9	175	頸部有段、4単位口端突起(先割れ×2、山形×2)、2単位垂下隆帯・2単位ボタン状突起貼付→口縁部R単軸1類側圧(2単位縦位→横位→隆帯・突起上)、口端LR回、胴部LR横・斜回→R結節横・縦回	円下d2	繊維混入
2621	37-2	捨て場	VIIIU-66	3c	深鉢	口縁～底部	30.5	13.8	33.9	3281	4単位口端小突起、3/4単位ノの字形垂下隆帯・1/4単位ボタン状突起貼付→口縁部LR側圧(横位平行、突起内渦形、口端刻み)、胴部RLR横回	円下d2	個286、繊維混入、胴部上半ス状炭化物付着
2391	37-3	捨て場	VIIIU-67	3c	球胴深鉢	口縁～胴部			<11.7>	143	小鉢形口端突起→橋状把手→突起区画隆帯→LR側圧(区画内横位、把手・隆帯・口縁刻み)、胴部4段の縄LRLR横回→R結節縦回	円下d2	繊維混入
2642	37-4	捨て場	VIIIU-67	3c	深鉢	口縁～底部	18	8.9	25.6	1107	4単位先割れ口端突起→4単位垂下隆帯+鞍状突起(ボタン状×2)貼付→口縁部LR平行側圧→胴部RLR横回、口端LR回	円下d2	3トレ、繊維混入
2645	37-5	捨て場	VIIIU-66	3c	深鉢	口縁～底部	20.7	10.9	25.2	1231	4単位口端小突起→突起垂下隆帯(上端口端クリップ状)→口縁部LR側圧(横位平行、隆帯上、口縁刻み)、胴部結束1種(LR+RL)横回	円下d2	繊維混入
2658	37-6	捨て場	VIIIU-66	3c・d	深鉢	口縁～胴部	42.6		<50.2>	4730	4単位台形口端突起→4単位ボタン状突起貼付→胴部0多LR横回→口縁部側圧(L×2/4単位・R×2/4単位交互の横位→R縦位・突起上LR渦巻・口端刻み)	円下d2	繊維混入
2639	38-1	捨て場	VIIIU-66	3c・d	深鉢	口縁～底部	31.9	12.0	45.3	2800	4単位波状口縁(台形突起)、結束1種(0多LR+0多RL;0結縛)横回→4単位円形貫通孔	円上 d	
2777	38-2	捨て場	VIIIU-66	3c・d	深鉢	口縁～底部	17.9		21.9	487	隆帯(口縁併走・2段横位区画→口縁緩波状・2段波状)貼付→隆帯上R側圧、胴部結束1種(LR(LR+LR)横回)	円上 a～b	外面上半・内面下半ス状炭化物付着
2623	38-3	捨て場	VIIIU-66	3c・d	深鉢	口縁～底部	27.4	10.6	33.2	1752	4単位波状口縁(台形突起)、隆帯(横位区画→8単位弧状・4単位縦位→4単位V字形・突起外面M字形)貼付→L側圧(区画内横位→隆帯刻み→口縁刻み・馬蹄形)、胴部結束1種(LR+RL)横回	円上 a～b	器面風化著しい
2638	38-4	捨て場	VIIIU-66	3c・d	深鉢	口縁～胴部	31.9		<38.8>	3550	4単位台形口端突起→4単位鞍状突起→L側圧(横位→4単位縦位、口端刻み)、胴部LR斜・横回	円下d2	口縁部内面に穿孔(盲孔)
2245	38-5	捨て場	VIIIU-66	3c・d	深鉢	口縁～胴部	<25.9>		<17.1>	673	4単位波状口縁(山形突起)、横位区画隆帯貼付→R側圧(隆帯刻み)→Ω形隆帯貼付→R側圧(区画内横位、隆帯・口縁刻み)→貫通孔・半竹斜向刺突列、胴部結束1種(0多LR+0多RL;結縛付)横回	円上 a	3トレ・ベルト
2241	39-1	捨て場	VIIIU-67	3c・d	深鉢	口縁～底部	35.9	(15.2)	47.1	4397	6単位口端小突起(2×2/4単位、1×2/4単位)→口縁部LR側圧(横位、口縁刻み)、胴部RLR横回→胴部下位斜位条線(部分的)	円下d2	3トレ・ベルト
2238	39-2	捨て場	VIIIU-67	3c・d	深鉢	口縁～底部	(11.7)	7.6	16.2	550	R側圧(横位区画)、口縁部L側圧、胴部LR多軸縦回、口端LR回	円下d1～d2	3トレ・ベルト、繊維混入、内面口縁直下黒色化
2237	39-3	捨て場	VIIIU-68	3c・d	深鉢	口縁～底部	(19.2)	8.3	20.8	640	4単位口端突起(三叉×2、台形×2)、LR横回	円下d2	3トレ・ベルト、繊維混入
2239	39-4	捨て場	VIIIU-66	3c・d	深鉢	口縁～底部	11.9	7	12.6	360	胴部0多LR横回→口縁部R側圧(横位→波状、口端刻み)	円下d2	繊維混入
2242	39-5	捨て場	VIIIU-67	3c・d	深鉢	口縁～底部	(13.2)	6.9	15.4	405	口端小突起(単位不明)、口縁横ナデ→L単軸1類平行側圧、胴部R多軸(胴部縦回、口端横回)→底部側面横ナデ	円下d2	繊維混入
2644	39-6	捨て場	VIIIU-66 (VIIIU-66)	3c・d	深鉢	口縁～胴部	(22.1)		<30.5>	976	頸部有段、4単位先割れ口端突起→4単位ボタン状突起→R側圧(口縁部横位、突起上環状、口端刻み)→胴部結束2種(LR+LR)横回	円下d2	繊維混入
2244	39-7	捨て場	VIIIU-67	3c・d	台付浅鉢	口縁～底部	(22.1)		<12.1>	356	口端小突起(単位不明)→ボタン状突起→RL横回(口縁、胴部)→R単軸1類側圧(突起上、口端刻み)	円下d2	繊維混入
2522	39-8	捨て場	VIIIU-66	3c・d	深鉢	口縁部			<3.7>	23	折返し状口縁→胴部LR横回・口縁部交互刺突文	円下d2	刺突内炭化物残存、異系統土器(←大木6)
2234	40-1	捨て場	VIIIU-66	3c・d	深鉢	口縁～底部	(21.3)	10.5	31.3	1533	4単位口端突起(先割れ×2、段差状×2)、低隆帯→口縁部LR側圧(4単位弧状→充填横位・弧文)→隆帯上半竹刺突列→胴部LR単軸1A縦回→横ミガキ	円下d1～d2	3トレ・ベルト
2243	40-2	捨て場	VIIIU-67	3c～e	深鉢	口縁～胴部	(22.2)		<20.5>	590	4単位波状口縁(段差状突起)、口縁部R単軸1類側圧(4単位弧状→4単位縦位→口端刻み)、胴部結束1種(直前段附加条LRL+同RLR)横回→胴部上位RLR横回	円下d2	3トレ・ベルト、補修孔一対有り

土器観察表(ベルト・トレンチ出土3)

管理番号	図番号	遺構名	グリッド	層位	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	文様等の属性	型式	備考
3505	40-3	捨て場	VIII-67	3c~e	台付	底部~脚部		5.6	<4.1>	83	胴部LR?横回、脚部斜縄文→ナゲ消し	円下d2	
2240	40-4	捨て場	VIII-67	3d	深鉢	口縁~底部	(12)	6.7	15	154	口縁垂下隆帯貼付→口縁部R単軸1類側圧(横位→斜位)、胴部LR単軸1類縦回	円下d2	繊維混入、内面下半黒色化
2246	40-5	捨て場	VIII-67	3d	台付浅鉢	口縁~脚部	35		<11.4>	1354	4単位口端小突起・橋状把手貼付(剥落)→胴部LR横・斜回→R側圧(口縁部横位、口端刻み)→半竹刺突列(口縁部横位・胴部縦位)	円下d2~上a	繊維混入
3790	40-6	捨て場	VIII-66	3e	深鉢	口縁~底部	20.5	7.4	27.1	1180	4単位波状口縁(口縁併走隆帯→端部鉤状成形→先割れ突起作出)、横位区画隆帯貼付→橋状把手・隆帯クリップ貼付→L・R側圧(区画内横位)→R側圧(隆帯・口端刻み)、胴部LR縦回	円上a	補修孔有り
2250	40-7	捨て場	VIII-66	3e	深鉢	口縁~底部	(26.5)	12.7	36.1	1305	波状口縁、垂下隆帯貼付→竹管刺突列→R単軸1類側圧(斜位→横位)→口端R単軸1類側圧、胴部R多軸縦回→櫛歯状工具による縦位の並行細沈線	円下d2	3トレ・ベルト、繊維混入、内面下位黒色化帯、分割土器?
2249	41-1	捨て場	VIII-66	3e	深鉢	口縁~底部	28.6	(15.1)	40.8	3786	低隆帯(頸部有段化)、4単位楕円形貫通孔→口縁部R単軸1類側圧(横位→縦位)→半竹斜向刺突列、胴部単軸1A類(R+L)縦回→L結節横回	円下d2	繊維混入
2247	41-2	捨て場	VIII-65	3e	深鉢	口縁~胴部	(32.2)		<40.2>	1893	4単位先割れ口端突起、低隆帯→4単位鞍状突起→隆帯上刺突列→L単軸1類側圧(4単位鋸歯状→横位、口端刻み)→円形刺突充填、胴部LR横回	円下d2	繊維微量混入、胴部内面下位黒色帯形成
2647	41-3	捨て場	VIII-65	3e	深鉢	口縁~底部	17.0	10.5	29.4	1879	低隆帯貼付→口縁部L側圧(2単位山形→起点が1/2単位ずれて重複する2単位山形→横位・斜位充填)→胴部0多RL斜位、口端0多RL回	円下d1	繊維混入
2629	41-4	捨て場	VIII-65	3e	深鉢	口縁~胴部	20.6		<23.4>	1380	平口縁、R多軸縦回→R単軸1類側圧(口縁部横位、口端刻み)	円下d1	
2276	41-5	捨て場	VIII-65	3e	深鉢	口縁~底部	12.1	6.9	18.4	584	低隆帯→口縁部R平行側圧、胴部単軸1類(L+R)縦回	円下d1	3トレ・ベルト、繊維多量混入、底部上げ底
2248	41-6	捨て場	VIII-67	3e	台付深鉢	口縁~脚部	11.4	6.2	12.3	420	胴部R単軸1類?縦回	円下d2	3トレ・ベルト、繊維微量混入
2514	41-7	捨て場	VIII-67	3e	深鉢	口縁~胴部			<8.2>	63	胴部R単軸1A類縦回→口縁部R自条自結節?横回	円下d1~d2	
2627	42-1	捨て場	VIII-67	3e	深鉢	口縁~底部	31.3	15.5	46.1	4615	4単位先割れ口端突起→胴部結束1種(LR+RL)横回・口縁R単軸1類側圧(2単位弧文→起点が1/2単位ずれて重複する2単位弧文→横位・斜位充填、口端刻み)→胴部結束1種(LR+RL)横回	円下d1~d2	補修孔一対有り
2634	42-2	捨て場	VIII-65	3e	深鉢	口縁~底部	30.3	(13.8)	43.5	4615	平口縁、低隆帯貼付→口縁部R平行側圧→半竹斜向刺突列→2×4単位円形刺突、口縁LR側圧、胴部R?多軸縦回→結束1種(LR+RL)横回→低隆帯直下LR側圧	円下d1~d2	
2628	42-3	捨て場	VIII-66	3e	深鉢	口縁~胴部	29.3		<36.6>	2744	平口縁、低隆帯貼付→胴部R多軸縦回→R単絡5類側圧(口縁部4単位山形文→横位・斜位充填)→4単位楕円形貫通孔、口端へラ刻み	円下d1~d2	繊維混入
2516	42-4	捨て場	VIII-65	3e	深鉢	口縁~胴部			<8.5>	123	頸部有段気味、R単軸1類(口縁部横位側圧、胴部縦回)→胴部L単軸1又は2類(条間に粗密有り、自条結縛付)縦回→頸部結束2種結束部横回	円下d1~d2	繊維混入、3トレ・ベルト、個291
3511	43-1	捨て場	IXB-73	2a	壺形	口縁~底部	(6.9)	(6)	9.5	72	4単位橋状把手(欠損)		榎林~最花
2258	43-2	捨て場	IXA-73	2a・b	深鉢	口縁~胴部	16		<17.4>	461	半竹刺突列(口縁部横位、胴部斜位・弧状の組み合わせ)	円上c	13トレ・ベルト
2610	43-3	捨て場	IXB-74	2a・b	深鉢	口縁~胴部	33.9		<35.9>	3300	4単位波状口縁(台形突起)、楕円形貫通孔、胴部結束1種(0多LR+0多RL)斜回→隆帯(口縁併走・2条横位区画→8単位山形→充填・連結弧文)貼付→角棒斜向刺突→隆帯上L側圧	円上c	
2611	43-4	捨て場	IXC-73	2a・b	深鉢	口縁~底部	29.3	13.0	34.6	2250	4単位波状口縁(先割れ突起)、隆帯(2条4単位縦位→4単位横位→連結弧文)貼付→L・R平行側圧・R馬蹄形側圧・胴部結束1種(0多RL+0多LR:L結縛付)横回→隆帯上L側圧	円上a	
2616	43-5	捨て場	IXA-73	2a・b	深鉢	口縁~底部	22.3	10.2	22.8	1479	隆帯(横位区画→縦位区画→口縁連弧文)貼付→L・R側圧(区画内横位)→L側圧(隆帯刻み→馬蹄形)、胴部結束1種(0多LR+0多RL:結縛付)横回	円上b	
3542	43-6	捨て場	IXB-73	2a・b	深鉢	胴部~底部		6.2	<3.4>	89	底面すだれ状圧痕	円筒上層期	
2288	43-7	捨て場	IXA-74	3b	深鉢	口縁~胴部	22.4		<35.7>	1928	4単位緩波状口縁、横位区画隆帯→口縁部L・R側圧(4単位X字→斜位・横位充填→4単位縦位)→隆帯上斜向刺突列、胴部L自縄自巻又はL単軸1類縦回→結束1種(LR+RL)横回	円下d1	13トレ・ベルト、繊維混入
2260	43-8	捨て場	IXA-73	3b	台付浅鉢	口縁~胴部	<23.5>		<9.3>	698	2単位口端突起(欠損)、結束1種(LR+RL)横回→口縁LR(結束1種?)側圧	円下d2	13トレ・ベルト
2618	43-9	捨て場	IXB-73	3b	深鉢	口縁~底部	17.4	8.0	20.5	576	4単位山形口端突起、4単位垂下隆帯→LR側圧(4単位弧文→4単位縦位、口端刻み)、胴部LR横回	円下d2	13トレ・ベルト

土器観察表(ベルト・トレンチ出土4)

管理番号	図番号	遺構名	グリッド	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	文様等の属性	型式	備考
2265	44-1	捨て場(埋設?)	IXB-73	3b・c	深鉢	口縁～底部	27.7	10.8	31.4	2840	4単位波状口縁(山形口端突起)、隆帯(突起縁辺・横位区画→4単位X字形)貼付→隆帯上R側圧→区画内L・R平行側圧→L馬蹄形側圧、胴部結束1種(LR+RL;結縛付)横回	円上a～b	13ベルト、3b・c層を掘り込む埋設土器の可能性有り、繊維微量混入、胴部内面黒色化
2643	44-2	捨て場	IXA-73	3c	深鉢	口縁～底部	22.2	9.6	28.8	2293	頸部有段、4単位先割れ口端、2条4単位垂下隆帯貼付→口縁部LR側圧(横位、隆帯脇、口端刻み)、胴部R多軸縦回→LR横回	円下d2	13トレ、繊維混入
2262	44-3	捨て場	VIIIY-73	3c	深鉢	口縁～胴部	(21)		<16.6>	400	4単位口端先割れ突起→4単位垂下隆帯貼付→胴部LR(LR結縛付)横回→L側圧(口縁部平行、縦位、口端刻み)	円下d2	13トレ、繊維混入
2609	44-4	捨て場	VIIIY-66	3c・d	深鉢	口縁～胴部	40.3		<48.1>	4990	4単位口端小突起→4単位ノの字+渦巻付き垂下隆帯貼付→口縁部R側圧(頸部横位→斜位→口縁併走、隆帯上)、口端LR回、胴部下位LR横回→胴部上位RL斜回→R結節横回	円下d2	
2646	44-5	捨て場	IXA-73	3c・d	深鉢	口縁～底部	18.5	9.6	27.2	1278	球胴気味、4単位先割れ口端突起→4単位垂下隆帯貼付→胴部LR横回→口縁部LR側圧(横位平行→突起直下弧文、口端刻み)	円下d2	繊維混入
3389	44-6	捨て場	IXB-73 IXC-73	3c・d	台付浅鉢	口縁～胴部	(19)		<5.8>	79	RL斜回	円下d2	
2263	45-1	捨て場	IXA-73	3c・d	球胴深鉢	口縁～底部	(23.1)		31.9	1940	2/4単位先割れ・2/4単位山形+口端リップ突起→4単位垂下隆帯貼付→鞍状突起→R単軸1類側圧(弧状、横位、隆帯・口端刻み)→斜向刺突列→胴部上位LR横位・胴部下位L多軸縦回→R結節縦回	円下d2	繊維混入、13ベルト
2625	45-2	捨て場	VIIIY-66	3c・d	深鉢	口縁～底部	34.6	14.9	44.1	3350	4単位波状口縁(先割れ突起)→胴部結束2種(RL+RL)横回→口縁部LR側圧(4単位弧文→横位充填→4単位縦位)	円下d2	
2266	45-3	捨て場	IXA-73	3c・d	深鉢	口縁～胴部	(16.8)		<17>	533	台形口端突起、胴部LR縦回→口縁部横ナデ→L側圧(4単位弧状文)→口端・頸部へラ斜向刺突列	円下d2	13ベルト、繊維混入
2264	45-4	捨て場	IXA-73	3c・d	鉢形	口縁～底部	(16.5)	10.7	8.7	420	4単位波状口縁、RL横回→口端LR側圧→底部側面横ナデ	円下d2	13トレ・ベルト
2637	45-5	捨て場	IXA-73	3c・d	深鉢	口縁～胴部	30.6		<30.6>	2200	4単位口端小突起、4単位橋状把手→LR(胴部横回、把手上縦回)→口縁部LR平行側圧(横位→渦巻・口端刻み)、胴部R結節横・縦回	円下d2	
2304	45-6	捨て場	IXC-74	3d	深鉢	口縁～底部	(26.8)	16.0	40.9	2100	口縁三角形切り込み(単位不明)→口縁部ナデ→LR平行側圧、胴部R多軸縦回→LR(片条R結縛付)横回	円下d1～d2	
2640	46-1	捨て場	IXB-74	3d・e	深鉢	口縁～底部	24.0	(7.8)	29.1	1409	4単位山形口端突起→隆帯(横位区画→2/4単位橋状把手・2/4単位V字+ボタン状+環状→2単位突起区画弧文・4単位W形)貼付→LR・RL側圧(区画内横位・隆帯脇・隆帯刻み→LR繩端刺突列、口端刻み、充填弧文)、胴部結束2(LR+RL)横回	円下d2～上a	
2268	46-2	捨て場	IXB-74	3d・e	深鉢	口縁～胴部	29.6		41.1	3542	口縁部LR側圧(横位→口端刻み→3条4単位縦位・4単位渦巻)、胴部R多軸縦回→RLR横回	円下d2	13トレ・ベルト
2277	46-3	捨て場	IXB-74	3d・e	深鉢	口縁～胴部	(15.3)		<18.3>	310	平口縁、口縁LR平行側圧(横位→2条4単位縦位)、口端LR回、胴部結束1(RL+RL)横回	円下d2	繊維混入
2269	46-4	捨て場	IXB-74	3d・e	深鉢	口縁～底部	19	(8.2)	26.9	1240	胴部LR横回→口端LR側圧	円下d2	13トレ・ベルト、繊維混入
2283	46-5	捨て場	IXB-73	3d・e	深鉢	口縁～胴部	19		<13>	320	頸部有段、4単位偏頂口端突起、櫛歯状工具による平行沈線(胴部縦位→口縁部横位)	円下d2	13ベルト、繊維混入
3384	46-6	捨て場	IXB-74	3d・e	台付浅鉢	口縁～脚部	18	9.9	8.4	360	扁平器形、結束1種(LR+RL)横回	円下d1～d2	
2273	46-7	捨て場	IXA-74	3e	深鉢	口縁～底部		7.6	14.9	300	口縁部LR側圧(横位、口端刻み)、胴部R?多軸縦回	円下d1～d2	繊維混入
2285	46-8	捨て場	VIIIY-73	3d～f	深鉢	口縁～胴部	19	7.5	(14.8)	628	低隆帯→口縁部RL側圧(横位→口端刻み)、胴部RL斜回	円下d1	繊維多量混入
2286	46-9	捨て場	IXB-73	3d～f	深鉢	口縁～底部	11.2	7.1	(14.8)	201	櫛歯状工具による縦位の細沈線→口縁部L側圧(横位→縦位)、口端L回	円下d2	13ベルト、繊維混入
2650	47-1	捨て場	IXD-73	3f	深鉢	口縁～胴部	(15.6)		<15.7>	312	LR横回(口縁部、胴部、口端)	円下d2	13ベルト、繊維混入
2284	47-2	捨て場	IXD-73	3f	深鉢	口縁～底部	16.4	(10.2)	25.1	1660	平口縁、低隆帯→口縁部LR側圧(4単位弧状区画文→斜位・網目状充填)・胴部R単軸1類(縦回→横回)→結束2種(LR+RL)横回	円下d1	繊維混入、やや厚手
2752	47-3	捨て場	IXC-74	3f	深鉢	口縁～胴部	(21.6)		<14.9>	420	4単位緩波状口縁、低隆帯→L側圧(突起区画弧文、斜位並列→逆方向斜位充填)、胴部RL斜回→L結節(あや縛り?)横回→隆帯脇斜向刺突列、口端へラ刻み	円下d1～d2	13ベルト、外面上半・内面下半スス状炭化物付着

土器観察表(ベルト・トレンチ出土5)

管理番号	図番号	遺構名	グリッド	層位	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	文様等の属性	型式	備考
2281	47-4	捨て場	VIIY-73	3f	深鉢	口縁～ 底部	(21.8)	(11.1)	28.2	1089	4単位波状口縁(2/4単位先割れ・2/4単位山形の交互突起)、低隆帯→LR側圧(横位区画・突起区画弧文→4単位弧文→3条4単位縦位→横位充填)→隆帯上・口縁へラ刺突列(隆帯・口端刻み)→胴部下位L?多軸縦回→LR横回(胴部上位、口端)	円下d2	繊維混入、13トレ
2652	47-5	捨て場	IXA-74	3f	深鉢	口縁～ 底部	30.1	14.7	43.6	4900	4単位波状口縁(段差状突起)、胴部下位R単軸1類縦回→胴部上位L多軸縦回→口縁部R単軸1類側圧(横位、口端刻み)	円下d2	
2651	47-6	捨て場	IXC-73・74 IXD-73	3f(3i 上面)	深鉢	口縁～ 底部	24.6	13.8	34.8	2627	平口縁、低隆帯→4単位楕円形貫通孔→胴部L単軸1類又はL自縄自巻縦回→口縁部RL平行側圧→R結節横回	円下d1	13ベルト、繊維混入
2656	47-7	捨て場	IXC-73	3f	深鉢	口縁～ 胴部	22.9		<31.8>	2300	平口縁、低隆帯→口縁R平行側圧、胴部L単軸1類又はL自縄自巻縦回	円下d1	13ベルト、繊維混入
2654	48-1	捨て場	VIIY-73	3g・h	深鉢	口縁～ 底部	(18.9)	7.6	23.0	913	4単位波状口縁(台形突起)→隆帯(横位区画→4×4単位環状+2条縦位連結)貼付→LR側圧(区画内横位、隆帯・口縁)、胴部RL(片条RL結縛付)横回	円上 a	繊維混入
2504	48-2	捨て場	IXC-74	3g・h	球胴 深鉢	口縁～ 胴部	(15.5)		<6.5>	126	橋状把手(2/4単位横位、2/4単位非貫通縦位)→半竹刺突列→胴部LR横回	円下d2	
2505	48-3	捨て場	IXC-74	3g・h	球胴? 深鉢	胴部～ 底部		8.2	<4.4>	104	LR横回	円下d2	
2655	48-4	捨て場	IXA-73	3g・h	深鉢	口縁～ 底部	(21.2)	(12.4)	34.8	2350	胴部L単軸1類又はL自縄自巻縦回→口縁部RL平行側圧	円下d1	繊維混入
2446	48-5	捨て場	IXC-74	3g・h	深鉢	口縁～ 胴部	22.9		<8.5>	52	渦巻き隆帯(付橋状把手?)貼付→半竹内面側を用いた沈線(横位→鎖状文、隆帯刻み)、胴部結束1種(LR+RL;別条L結縛付)縦回	円下d2	13ベルト、異系統土器(←大木6?)
2906	48-6	捨て場	IXA-74	3g・h	深鉢	口縁～ 胴部			<8.5>	43	口縁部RL横位側圧→結束1種(LR+RL)横回、胴部R附加条LR斜回	円下d2	
2908	48-7	捨て場	IXC-73	3g・h	深鉢	口縁～ 胴部			<6.1>	51	緩波状口縁、口縁併走隆帯貼付→接合痕ナデ消し→胴部RL斜回・口縁部LR側圧(綾杉状)→斜向刺突列(隆帯脇、隆帯刻み)	円下d1	繊維混入
2493	48-8	捨て場	IXC-73	3g・h	深鉢	口縁～ 胴部			<7.3>	80	口縁部L側圧(横位→斜位+縦位)、胴部R単軸1類縦回	円下 c ～d1	外面スス状炭化物付着
2653	48-9	捨て場	IXC-73	3h	深鉢	口縁～ 底部	(26.8)	(15.4)	33.3	3030	平口縁、低隆帯→口縁部RL側圧(2単位山形→起点の異なる2単位山形→横位・斜位充填→8単位縦位)・隆帯上斜向刺突列、胴部L単軸1類又はL自縄自巻縦回→R結節横回	円下d1	繊維混入
2199	48-10	捨て場	IXC-73	3h	深鉢	口縁～ 底部	26.5	16.5	35.8	2000	平口縁、4単位楕円形貫通孔、低隆帯→口縁部RL側圧(2×2単位で重複する山形文→横位・斜位充填)、胴部RL斜回又はL自縄自巻縦回	円下d1	繊維混入
2649	49-1	捨て場	IXB-74	3h	深鉢	口縁～ 底部	23.0	10.9	30.1	1982	平口縁、胴部R多軸縦回→口縁部L横位側圧→R結束2種結束部横回・へラ刺突列、口端へラ刻み	円下d1 ～d2	繊維混入、補修孔一対有り
2289	49-2	捨て場	IXC-72	3h	深鉢	口縁～ 底部	13.7	(6.2)	14.4	424	平口縁、LR(口縁部横回、胴部縦回)	円下d1 ～d2	繊維多量混入、器面残存不良、補修孔一対有り
2759	49-3	捨て場	IXA-80	2u 下位	深鉢	口縁～ 底部	(14.6)	7.6	16	420	先割れ口端突起、渦巻付垂下隆帯貼付→LR側圧(口縁部・隆帯上横位)、LR回(胴部横・斜位、口端)→RL結束又は結束2種(RL+RL)結束部横回	円下d2	18ベルト、外面上半・内面下半ススコグ状炭化物付着、底面磨き調整
2868	49-4	捨て場	IXD-85	2e	深鉢	口縁～ 胴部	(11.3)		<13.2>	220	2単位波状口縁(折返し状)→胴部L縦回→隆帯(渦巻付逆U字・H形垂下文)貼付→隆帯脇沈線、口縁部ミガキ	大木9	19ベルト、外面ススコグ状炭化物付着、器面風化顕著
2751	49-5	捨て場	IXB-73	3i	深鉢	口縁～ 底部	(24)	(12.7)	37.5	1300	平口縁、微隆起帯→胴部R単軸1類縦回→結束1種(RL+LR)横回→口縁部R平行側圧	円下d1	補修孔有り、繊維混入
2290	49-6	捨て場	IXB-73	3i	深鉢	口縁～ 胴部	16.2		<16.5>	571	R単軸1類縦回→結束1種(LR+RL)横回→口縁部L側圧(一部)	円下d1	繊維混入、内面下半ススコグ状炭化物付着

土器観察表(1・2・3層一括1)

管理番号	図番号	出土位置	グリッド	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	文様等の属性	型式	備考
2900	50-1	捨て場	VIIIU-64	3e	深鉢	口縁部			<5.6>	46	平口縁、横位区画隆帯→RR自縄自巻?横回→隆帯上刺突列(爪形+指頭押圧)	円下b	繊維混入
2903・2905	50-2	捨て場	IXB-71	3	深鉢	口縁~胴部			<12.3>	170	緩波状口縁、低隆帯貼付→胴部0他RL斜回又は0他L自縄自巻縦回→口縁部結束1種(LR+RL)横回・側圧	円下c	繊維混入、口縁外面スス状炭化物付着
2534	50-3	捨て場	VIII R-62	3	深鉢	口縁~胴部	18.2		<17.3>	372	平口縁、低隆帯→結束1種(0多LR+0多LR)横回→同3条横位側圧	円下c	繊維多量混入
2529	50-4	捨て場	VIIIS-63	3e	深鉢	口縁~胴部	(16)		<14.8>	318	平口縁、口縁部結束1種(LR+RL)横回→胴部L単軸1類縦回→結束1種側圧(口縁併走、横位区画)	円下c	繊維混入
2901	50-5	捨て場	VIIIU-64	3e	深鉢	口縁部			<4.9>	22	平口縁、結束1種(LR+RL)横回→RL横位側圧	円下c	外面スス状炭化物付着
9393	50-6	捨て場	IXB-77	2	深鉢	口縁~胴部	17.2		<26>	790	平口縁、LRL斜回→結束1種(LR+RL)横回→口縁部LR横位側圧	円下d1	個1112、繊維混入
9392	50-7	捨て場	IXB-77	3	深鉢	口縁~底部	20.7	14	34.9	2230	低隆帯、胴部LLR斜回→結束2種結束部横回、口縁部LR横位側圧	円下d1	個1167、繊維多量混入
2340	50-8	捨て場	IXA-73	3	深鉢	口縁~底部	17.8	10.0	21.3	1140	平口縁、胴部L単軸1類A類縦回→結束1種(LR+RL)横回→口縁部RL横位側圧	円下d1	繊維混入、外面・内面下半ススコゲ状炭化物付着
2278	50-9	捨て場	VIIIS-64	3e	深鉢	口縁~胴部	27.8		<39.2>	3786	平口縁、胴部R単軸1類斜回→R単軸1A縦回→結束1種(LR+LR)横回→口縁部・R横位側圧、口端LR?回	円下d1	繊維混入
2632	50-10	捨て場	VIIIT-64	3e	深鉢	口縁~底部	27	13.4	45.2	4216	平口縁、低隆帯→口縁部・R横位側圧、口端LR回、胴部単軸2類?縦回→結束1種(LR+RL)横回	円下d1	繊維混入、個531
2339	51-1	捨て場	VIIIU-63	3層上面	深鉢	口縁~底部	(18.9)	10.5	22.9	1148	平口縁、異条RL又はRRL斜回→結束1種(LR+RL)横回	円下d1	繊維混入
2341	51-2	捨て場	VIIIT-64	3	深鉢	口縁~胴部	19.8		<22.1>	737	平口縁、横位区画隆帯→隆帯上斜向刺突→口縁部L単軸5類横位側圧、胴部結束1種(RL+LR)横回、口端LR回	円下d1	繊維混入
2666	51-3	捨て場	VIIIX-72	3	深鉢	口縁~底部	22.9	14.3	39.6	3446	平口縁、低隆帯貼付→口縁部側圧(2単位右下がり斜位→2単位左下がり斜位→横位充填→4単位縦位)→低隆帯上円形刺突列、口端へラ刻み、胴部L・R単軸1類縦位→L結節横回	円下d1	繊維混入
2648	51-4	捨て場	VIIIT-64	3e	深鉢	口縁~胴部	24.1		(28.2)	2424	平口縁、低隆帯貼付→単軸1類(L+R)縦回→口縁部L平行側圧(横位→2条8単位?縦位)→低隆帯上斜向刺突列、隆帯直下L結節横回	円下d1	繊維混入
2664	51-5	捨て場	IXC-74	3	深鉢	口縁~底部	15.0	8.8	23.1	916	低隆帯貼付→口縁部RL側圧(横位→縦位)、胴部L単軸1類又はL自縄自巻縦回→L結節横回→隆帯上円形刺突列	円下d1	繊維混入
2580	51-6	捨て場	IXA-74	3	台付深鉢	口縁~脚部	(20)	9.9	24.4	1148	平口縁、低隆帯貼付→胴部L単軸1類縦回→胴部・口縁部結束1種(RL+LR)横回→口縁部ナゲ消し→口縁部L単軸1類横位側圧	円下d1	繊維混入
2342	51-7	捨て場	IXC-74	3	深鉢	口縁~底部	10.9	7.8	14.2	411	頸部有段、口縁横ナゲ→胴部単軸1A類(L2条+R2条)縦回→口縁部LR側圧、口端LR横回	円下d1	繊維混入
2665	51-8	捨て場	IXB-74	3	深鉢	口縁~胴部	33.1		<30.8>	1400	平口縁、低隆帯貼付→口縁部R単軸1類側圧(横位→2条縦位)→隆帯上円形刺突列、口端LR回、胴部L多軸縦~横回	円下d1	繊維混入
3391	52-1	捨て場	IXB-69	3c・d	(台付)浅鉢	口縁~胴部			<6.4>	99	低隆帯→胴部結束1種(LR+RL)横回→口縁部L・R横位側圧	円下d1	繊維混入
2377	52-2	捨て場	IXC-74	3	台付鉢	口縁~脚部	(15)	(8)	12.5	424	単軸1類(L+R)口縁横回→同胴部縦回	円下d1	繊維混入
3388	52-3	捨て場	IXB-72	2	(台付)鉢	口縁~胴部			<9.8>	148	単軸1類(L+R)胴部縦回、同口縁・口端横回	円下d1	繊維混入
2765	52-4	捨て場	IXB-80	2	深鉢	口縁~胴部	(31.9)		<37.2>	2840	平口縁、胴部多軸(燃り方向不明)縦回→R単軸1A類縦回、口縁部L平行側圧→口端半竹刺突列	円下d1~d2	個1031-2、繊維混入、外面上半ススコゲ状炭化物付着、内面化粧土?
2345	52-5	捨て場	IXB-75	3	深鉢	口縁~胴部	(28)		<35.6>	2750	口縁部R単軸1側圧(横位→2条8単位?縦位)→胴部単軸1A類縦回→口端LR側圧	円下d1~d2	繊維混入
3732	52-6	捨て場	VIIIV-66	3	深鉢	胴部			<7.8>	44	RL斜回	円下d1	繊維混入、圧痕観察実施(6分冊4章2節参照:圧02)

土器観察表(1・2・3層一括2)

管理番号	図番号	出土位置	グリッド	層位	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	文様等の属性	型式	備考
2528	52-7	捨て場	IXC-75	3	深鉢	口縁~胴部			<8.3>	77	胴部R単軸1A類縦回、口縁部R側圧(2条横位・斜位)	円下d1~d2	繊維混入
2025	52-8	捨て場	VIIY-70	3	深鉢	口縁~胴部	(15.6)		<11.2>	289	口縁部L側圧(横位、口端刻み)、胴部下位L単軸1縦回→胴部上位0多LR横回	円下d1~d2	
2575	52-9	捨て場	IXA-75	3	深鉢	口縁~底部	23.2	11.3	33.0	2684	低隆帯→口縁部横ナデ→胴部下位LR横回→胴部上位結束1種(LR+RL)横回→口縁部R単軸1類横位側圧、口端ヘラ刻み	円下d1~d2	繊維混入
2279	52-10	捨て場	VIII T-65	3e	深鉢	口縁~底部	19.6	11	25.2	1540	平口縁、口縁部横ナデ→RL平行側圧、胴部R単軸1A類縦回→結束2種(LR+RL)横回	円下d1~d2	繊維混入、内面下半黒色化
9394	53-1	捨て場	IXB-79	3	深鉢	口縁~胴部	28.7		<40.4>	3210	平口縁、低隆帯→半竹斜向刺突列、口縁部L側圧(4条横位)、胴部R単軸2?類縦回、口端ヘラ刻み	円下d1~d2	個1188、繊維混入
2631	53-2	捨て場	VIII T-64	3e	深鉢	口縁~底部	34.0	16.0	45.0	5835	低隆帯(頸部有段化)、胴部R多軸縦回、口縁部R単軸1類側圧(2単位弧文→起点が1/2単位ずれて重複する2単位弧文→横位・斜位充填)→半竹内面側を用いた刺突(低隆帯・口端刻み)	円下d1~d2	内面胴部下半黒色化
2577	53-3	捨て場	IXC-72	3	深鉢	口縁~底部	31.3	13.4	40.9	3460	平口縁、4単位楕円形貫通孔、低隆帯→胴部R多軸縦回→胴部結束1種(LR+RL)横回→低隆帯脇ナデ→口縁部R単軸1類側圧(横位→連続ループ状)→斜向刺突列(隆帯上、隆帯脇、口端)	円下d2	個467、繊維混入
2770	53-4	捨て場	IXB-80	3	深鉢	口縁~底部	(32.9)	(12.5)	43	1960	頸部有段、4単位?段差状口端突起、口縁部L側圧(斜位→横位・弧状→口端刻み)→R単軸1類側圧(2条4単位縦位)、胴部単軸1A類(L+R;割竹使用の同方向巻)縦回	円下d2	16トレンチ、個1055、外面上半スロゲ状炭化物付着
2760	54-1	捨て場	IXC-77	2	深鉢	口縁~底部	30.8	(13.4)	43.9	3800	4単位波状口縁(先割れ突起)、低隆帯→胴部多軸縦回→口縁部R単軸1類側圧(4単位V字区画→充填横位)→R単軸5類側圧(口縁~口端、隆帯上)→胴部上位LR横回、口縁部斜向刺突充填	円下d2	外面上半・内面下半スロゲ状炭化物付着
2270	54-2	捨て場	VIII S-64	3e	深鉢	口縁~胴部	26.7		35.7	3250	4単位波状口縁(先割れ突起)、口縁部隆帯(横位区画→縦位)貼付→半竹刺突列(隆帯上、口端刻み)→R単軸1類側圧(4単位V字区画→縦位・横位充填→斜位充填)、胴部R単軸1類縦回・側圧(≠地文原体)→R結節(LR結縛部?)横回	円下d2	繊維混入
2768	54-3	捨て場	IXB-78	2	深鉢	口縁~底部	21.9	11.1	28.4	2480	4単位波状口縁(先割れ突起)、胴部R単軸1A類(軸中央に結節有り)縦回→頸部R結縛又は結束2種の結束部横回、LR(口縁部横位・弧状側圧、口端横回)	円下d2	個1165、内面下半スロゲ・外面液垂れ状炭化物付着
2579	54-4	捨て場	VIII W-70	3	深鉢	口縁~胴部	31.9		(40.4)	2796	4単位波状口縁(1/4単位先割れ・3/4単位段差状口端突起)、胴部多軸(燃り方向不明)縦・斜回→口縁部LR側圧(2単位区画弧文→起点が1/4単位ずれる2単位弧文→横位・斜位充填)、口端ヘラとLRによる刻み、斜向刺突充填	円下d2	補修孔一対有り
2872	54-5	捨て場	IXA-80	2・3	深鉢	口縁~胴部	(35.7)		<16.3>	890	段差状口端突起、鞍状突起→口縁部LR側圧(頸部・肩部横位区画・4単位X字形対弧文→弧文・横位充填→2条4単位縦位・突起刻み→斜位並列、口端刻み)→胴部R単軸1A類縦回	円下d2	16トレンチ、内面コゲ状炭化物付着
2758	54-6	捨て場	IXC-71	2	深鉢	口縁~胴部	22.6		<12.4>	328	4単位波状口縁(先割れ突起)、胴部・口端結束1種(LR+RL)横回→口縁部L側圧(4単位?山形文→斜位充填→横位充填)	円下d2	外面スロゲ状炭化物付着
2344	55-1	捨て場	VIII T-64	3	深鉢	口縁~胴部	(35)		<38.2>	2024	4単位?波状口縁(先割れ突起)、胴部R多軸縦・斜回→口縁部LR側圧(4単位?弧文→充填弧文・横位)→2×4単位逆U字垂下→渦巻他充填)→LR結節横回・ヘラ斜向刺突列	円下d2	
2274	55-2	捨て場	VIII T-64	3e	深鉢	口縁~底部	(15.3)	7.2	21.1	723	低隆帯→胴部R2条多軸縦回・口縁部L単軸1類側圧(2単位?山形文→起点が1/2単位ずれて重複する2単位山形文→充填斜位・横位)→胴部上位結束1種(LR+RL)横回→隆帯上半竹斜向刺突列	円下d2	3トレ・ベルト、繊維混入
2550	55-3	捨て場	VIII T-65	3	深鉢	口縁~底部	21.6	12.2	25.9	2030	4単位波状口縁(先割れ突起)→口縁部単軸1類側圧(4単位弧文→充填弧文→口端刻み)→胴部結束1種(LR+RL)横回	円下d2	繊維混入 内面穿孔の補修孔一対有り
2633	55-4	捨て場	VIII T-65	3e	深鉢	口縁~底部	32.9	(14)	41.9	3492	4単位緩波状口縁、低隆帯→4単位楕円形貫通孔→口縁部単軸1類側圧(4単位山形→充填横位・斜位)→3条4単位縦位→口端刻み、胴部R単軸1類縦回→結束1種(LR+RL)横回	円下d2	繊維混入
2771	55-5	捨て場	IXA-81	3層上面	深鉢	口縁~底部	(12.4)	7.3	17.2	600	2×4単位口端小突起、低隆帯→胴部R多軸縦回・口縁部LR側圧(5段4単位弧文)・口端R側圧	円下d2	外面上半・内面下半スロゲ状炭化物付着
2630	55-6	捨て場	VIII T-64	3e	深鉢	口縁~底部	15.4	7.9	24	820	1単位段差状口端突起→胴部櫛歯状細沈線(5~6条1単位;縦位)→口縁部LR側圧(口縁併走・横位区画)→2単位弧文→充填弧文→横位充填→口端刻み	円下d2	
2871	56-1	捨て場	IXB-80	3	深鉢	口縁~底部	12.3	7.4	15.8	700	4単位波状口縁(段差状又は偏頂突起)、櫛歯状沈線(5~6本1単位;縦位)	円下d2	16トレンチ、外面上半・内面下半スロゲ状炭化物付着
2367	56-2	捨て場	IXC-75	3	深鉢	口縁~胴部	(17.8)		<20.5>	807	平口縁、頸部有段(口頸部受け口状屈曲)、胴部櫛歯状細沈線(縦位)、口縁部R平行側圧→口端ヘラ刻み	円下d2	

土器観察表(1・2・3層一括3)

管理番号	図番号	出土位置	グリッド	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	文様等の属性	型式	備考
2343	56-3	捨て場	IXD-71	3	深鉢	口縁～底部	19.7	9.7	28.3	1630	2単位口端小突起、楯歯状工具?による細沈線(6条1単位;縦位)→口端ヘラ刻み	円下d2	外面上半・内面下半スコグ状炭化物付着
2282	56-4	捨て場	VIII-X-70	3	深鉢	口縁～底部	(15.4)	(7.4)	20.4	760	頸部有段気味、口縁部横ナデ→LR側圧、胴部r(Lの燃り戻り?)結節縦回→R結節横回	円下d2	繊維混入
2602	56-5	捨て場	IXC-74	2	深鉢	口縁～底部	(20.9)	(10.6)	21.7	802	4単位波状口縁→低隆帯(口縁併走・横位区画)貼付→RL側圧(口縁部2条4単位弧文→充填弧文→2条4単位縦位垂下)→隆帯上斜向刺突、口端ヘラ刻み、胴部RL斜回	円下d2	繊維混入
2576	56-6	捨て場	IXC-74	3	深鉢	口縁～底部	(19.6)	(9.8)	26.9	1109	2単位山形口端突起→低隆帯→口縁部LR横位側圧→半竹斜向刺突列・胴部R多軸縦回	円下d2	
2769	56-7	捨て場	IXB-80	2	深鉢	口縁～胴部	<15.5>		<19.6>	900	4単位波状口縁、低隆帯(頸部有段化)、R単軸1類側圧(4単位弧文→充填弧文、口端刻み)→胴部結束1種(RR+LL)横回→斜向刺突列	円下d2	16トレンチ、外面上半・内面下半スコグ状炭化物付着
2024	56-8	捨て場	VIII-Y-70	3	深鉢	口縁～胴部	(20.4)		<15.6>	239	4単位波状口縁、低隆帯→4単位垂下隆帯貼付→胴部結束1種(LR+RL)横回→R結節横回(結束1種の結縛部?)→口縁部LR側圧→口端LR回→半竹斜向刺突列	円下d2	繊維微量混入
2301	56-9	捨て場	IXA-75	2	深鉢	口縁～胴部	22.3		<20.9>	1295	4単位山形口端突起、頸部有段、口縁部LR側圧(1単位対弧文→充填弧文・横位)→口端半竹刺突列・胴部L?多軸縦回→胴部上位LR横回	円下d2	繊維混入
2347	56-10	捨て場	IXB-74	3	深鉢	口縁～底部	19.8	(9.8)	26.7	1120	平口縁、頸部有段、口縁部LR側圧(横位→口端刻み)、胴部RL縦回	円下d2	内面下半スコグ状炭化物付着
2346	57-1	捨て場	IXB-75	3	深鉢	口縁～底部	21.6	12.4	28.0	2145	平口縁、頸部有段気味、口縁部LR横位側圧、口端LR回、胴部結束1種(RL+LR)横回	円下d2	繊維混入、補修孔有り、外面スコグ状炭化物付着
2559	57-2	捨て場	VIII-Y-73	3	深鉢	口縁～底部	(18.3)	10.5	26.5	1043	低隆帯→胴部結束1種(RR+LL)横回→口縁部L・R横位側圧、口端縄端?刺突	円下d2	繊維混入、補修孔有り
4084	57-3	捨て場		2	深鉢	口縁～底部	22.8	13	32.3	2060	胴部多軸縦回→口縁部LR斜回、口端LR回	円下d2	外面スコグ状炭化物付着
2852	57-4	捨て場	IXB-79	炭2層下	深鉢	口縁～底部	22.7	(10.3)	30	1320	4単位?段差状口端突起、R多軸斜回→LR横回(一部)、内面化粧土塗布?	円下d2	外面上半・内面下半スコグ状炭化物付着
2754	57-5	捨て場	IXB-79	炭2層下	球胴深鉢	口縁～胴部	(30.8)		<23.9>	1650	4単位段差状突起、胴部R多軸斜回→口縁部LR側圧(横位→口縁刻み)→橋状把手(非貫通)貼付→LR・R結節横回(球胴部直上・直下)、内面化粧土塗布?	円下d2	外面上半・内面下半スコグ状炭化物付着
2762	57-6	捨て場	IXB-77	3層上面	球胴深鉢	口縁～胴部	(17.6)		<16.3>	380	4単位先割れ口端突起、4単位鞍状突起→垂下隆帯、胴部LR横回→口縁部L・R横位側圧→頸部半竹刺突列、口端LR回	円下d2	外面上半・内面下半スコグ状炭化物付着
2557	57-7	捨て場	IXA-74	3	球胴深鉢	口縁～胴部	21.6		<18.1>	1053	4単位波状口縁(1単位段差状突起、3/4単位?台形突起)、4単位ボタシ状突起貼付、口縁部LR側圧(横位→4単位弧状→充填弧文・横位・斜位→口端刻み、突起上渦巻)、球胴部R単軸1類縦回→頸部直下結束1種(LR+RL)横回・胴下位LR単軸1類縦回→L結束・結節縦回	円下d2	
2338	57-8	捨て場	IXC-72	3	球胴深鉢	口縁～底部	(22.5)	(14)	33.3	1869	頸部区画隆帯→口縁部R単軸1類側圧(斜位→横位→口端刻み)→半竹斜向刺突列→胴部R多軸斜・縦回	円下d2	繊維混入、内面球胴部以下黒色化
2026	58-1	捨て場	VIII-Y-69・70	3	球胴深鉢	口縁～底部	(18.6)	10.4	24.7	717	4単位垂下隆帯→LR側圧(横位・隆帯刻み→口端刻み)→鋸歯状沈線・斜向刺突列、胴部結束1種(LR+LR)横回	円下d2	繊維混入
2020	58-2	捨て場	VIII-Y-70	3	球胴深鉢	頸部～胴部			<20.6>	560	横位隆帯→鞍状突起→隆帯・突起上側圧、胴部結束1種(RL+LR)縦回→R結節縦回	円下d2	
1639	58-3	捨て場	VIII-Y-69	3	球胴深鉢	口縁～胴部			<5.8>	46	口縁LR横位側圧→0多LR横回、口端LR刻み	円下d2～円上a	繊維混入
2980	58-4	捨て場	IXC-78	2	球胴深鉢	口縁～胴部			<5.4>	28	口縁併走隆帯→接合痕ナデ消し→L側圧(波状、横位)、胴部LR縦回	円下d2～円上a	異系統土器(←大木7a?)
2403	58-5	捨て場	VIII-U-65	3	深鉢	口縁～胴部			<4.8>	32	LR(馬蹄形側圧、横・縦回)	円下d2～円上a	異系統土器(←大木7a?)
2907	58-6	捨て場	IXB-74	3	深鉢	頸部～胴部			<5.7>	40	R単軸1類側圧(鋸歯状→縦位→横位)、胴部RL横回	円下d2	繊維混入
2261	58-7	捨て場	IXB-69	3a	深鉢	口縁～底部	30.8	13.6	34.1	3500	4単位先割れ口端突起、頸部有段、胴部結束1種(LR+RL)横回→口縁部R単軸1類側圧(横位→口端刻み)	円下d2	繊維微量混入、内面下位黒色化

土器観察表(1・2・3層一括4)

管理番号	図番号	出土位置	グリッド	層位	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	文様等の属性	型式	備考
2558	58-8	捨て場	VIIU-65	3	深鉢	口縁～底部	20.1	(10.1)	29.4	1184	4単位口端突起(2/4単位先割れ、2/4単位山形)、外面粗い縦ケズリ→2単位ノの字垂下隆帯(端部クリップ状)貼付・2単位ボタン状突起貼付、胴部結束2種(0多LR+0多RR)横回→口縁部・口端・突起上L側圧(口縁部横位、突起状X字形、隆帯・口端刻み)	円下d2	
2553	58-9	捨て場	VIIU-66	3	深鉢	口縁～底部	29.5	12.9	35.4	3352	4単位波状口縁(クリップ隆帯貼付による先割れ突起形成)、4単位ボタン状突起貼付→口縁部LR側圧(横位、弧状、隆帯・口端刻み)→胴部結束1種(LR+RL)横回→底部側面縦ケズリ	円下d2	繊維混入
2333	58-10	捨て場	IXA-74	3	深鉢	口縁～底部	28	12.5	37.3	1678	4単位山形口端突起→4単位ボタン状貼付→口縁部L単軸1類側圧(横位・弧状→口縁刻み、突起上)、胴部LR横回→R結節横回→底部側面横ミガキ	円下d2	繊維混入、補修孔有り
2533	59-1	捨て場	VIII T-60	3e	深鉢	口縁～底部	17	7.2	17.5	640	4単位先割れ口端突起、口縁部L側圧(4単位弧文→縦・斜位、口端刻み)→胴部L・R結節?縦回	円下d2	外面スス状・内面タール状炭化物付着
2583	59-2	捨て場	VIIU-65	3	深鉢	口縁～底部	(36.4)	15.4	51.9	5020	4単位口端突起→横位区画隆帯(両端が瓦葺き上に重なる4単位から構成)・ボタン状突起貼付→R単軸1類側圧(区画内横位・弧状、口端・隆帯・突起刻み)・胴部LR横回、底面すだれ状圧痕	円下d2	繊維混入
2761	59-3	捨て場	IXB-79	2	深鉢	口縁～底部	30.9	14.1	40.4	4000	4単位口端小突起、4単位ボタン状突起・口端クリップ隆帯→口縁部R単軸1類側圧(横位平行、3条4単位垂下、突起・隆帯・口端刻み)→爪形刺突列・胴部LR横回	円下d2	外面上半・内面下半ススグ状炭化物付着
3504	59-4	捨て場	VIII T-65	3層上面	深鉢	口縁～胴部	7		<9.7>	198	4単位垂下隆帯→口縁部L平行側圧、胴部RL縦回	円下d2	
2604	59-5	捨て場	IXC-75	2	深鉢	口縁～胴部	(23.6)		(23.2)	1040	頸部有段、4単位段差状口端突起→口縁部隆帯(3/4単位垂下、1/4単位渦巻)貼付→LR側圧(横位平行、隆帯・口端刻み)、胴部R単軸1類縦回→LR横回	円下d2	
2384	59-6	捨て場	IXC-72	2	深鉢	口縁～胴部			<9.5>	79	頸部有段、波状口縁(先割れ突起)、渦巻隆帯貼付→口縁部刺突列(口縁併走、斜位、隆帯上・隆帯脇)→頸部R横位側圧・口縁部R単軸1A類横位側圧、胴部R単軸1A類縦回	円下d2	繊維混入
2527	59-7	捨て場	IXB-75	III	深鉢	口縁部			<6.9>	98	胴部結束1種(LR+RR)横回→ボタン状突起貼付→接合痕ナゲ消し→口縁部L側圧(区画弧文と充填弧文?)	円下d2	外面スス状炭化物付着
2337	60-1	捨て場	IXB-74	3	深鉢	口縁～底部	(29)	(15.4)	42.4	2376	4単位緩波状口縁→4単位垂下隆帯貼付→口縁部R単軸1類側圧(横位→隆帯・口端刻み)、胴部R多軸縦回→R結節縦・横回、口縁部RL側圧(4単位?逆U字形)	円下d2	繊維混入
2573	60-2	捨て場	VIII T-65	3	深鉢	口縁～底部	25.7	(16.6)	40.5	3350	2単位段差状口端突起(内面ノの字状隆帯)→隆帯(横位区画・2単位逆T字・2単位L字形)貼付→胴部RL斜・横回→LR結節横・縦回、R単軸1類側圧(横位平行、隆帯・口端刻み)	円下d2	繊維混入
2570	60-3	捨て場	VIII S-65	3	深鉢	口縁～底部	28.9	12.7	30.7	2351	4単位波状口縁、2/4単位ボタン状突起・2/4単位ノの字形垂下隆帯交互貼付→胴部・口端LR(自条R結縛付)横・斜回→口縁部R単軸1類側圧(4単位弧状→充填弧文・斜位、隆帯・突起上)	円下d2	繊維混入
2267	60-4	捨て場	VIII W-70	2e	深鉢	口縁～胴部	(31.9)		<39.1>	2350	4単位波状口縁(扁頂突起)→渦巻付垂下隆帯→胴部R単軸1類縦回→口縁部LR側圧(4単位弧文→横位・斜位充填、隆帯上、口端刻み)	円下d2	1トレ、繊維混入、外面胴部上半・内面下半黒色化
2574	61-1	捨て場	VIIU-66	3	深鉢	口縁～底部	25.7	(13.8)	30.5	2041	4単位口端小突起、4単位渦巻付垂下隆帯貼付→口縁部LR側圧(隆帯上→横位平行→口端刻み)→胴部LR横回、底面すだれ状圧痕	円下d2	補修孔一対有り
2581	61-2	捨て場	IXB-75	3	深鉢	口縁～底部	<17.1>	(9.3)	<24>	742	頸部有段、口端突起(4単位先割れ?)、渦巻付垂下隆帯貼付→口縁部L平行側圧→半竹斜向刺突列、胴部L単軸2類縦回→L結節縦・横回→底部側面横ミガキ	円下d2	
2554	61-3	捨て場	VIIU-65	3	深鉢	口縁～底部	19.7	9.2	23.7	1344	4単位波状口縁→垂下隆帯(上端部クリップ状)貼付→胴部LR横回・口縁部LR側圧(横位平行→隆帯上・口縁刻み)	円下d2	繊維混入
2774	61-4	捨て場	IXC-77	2	深鉢	口縁～底部	(31)	(15.3)	36	1960	4単位台形口端突起、4単位橋状把手→渦巻付垂下隆帯貼付→口縁部LR側圧(横位、斜位又は弧文、隆帯刻み)→R側圧(把手上、口端刻み)、胴部0段多条LR横回→R結節(8の字?)縦回、底面網代痕→ナゲ消し	円下d2	個1058、外面上半・内面下半ススグ状炭化物付着、器壁に種実様圧痕あり
2572	61-5	捨て場	IXC-74	3	深鉢	口縁～底部	(30.3)	16.1	36.7	3300	4単位三叉状口端突起→垂下隆帯(ハの字形+渦巻付垂下)貼付→胴部LR横・斜回→LR結縛横・縦回→口縁部L側圧(斜位・縦位・弧状を乱雑に配置→隆帯上)→LR側圧(不規則)→口端L側圧	円下d2	
2371	62-1	捨て場	VIII Y-70	3	深鉢	口縁～胴部	14.3		<9.2>	215	4単位鞍状突起貼付→LRL側圧、胴部R附加条結束1種(LR+RL;自条結縛付)横回、口縁部R単軸1類平行側圧→斜向刺突列(口縁部棒状・頸部半竹状工具使用)	円下d2	補修孔一対有り、胎土の粒子が突出して細かい
2551	62-2	捨て場	VIII V-65	3	深鉢	口縁～胴部	20.3		<19.7>	1265	1単位口端小突起→突起下鞍状貼付→LR(胴部横回・口縁部矢羽根形側圧)→R結節(LR結縛部の可能性あり)横回	円下d2	器面風化著しい

土器観察表(1・2・3層一括5)

管理番号	図番号	出土位置	グリッド	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	文様等の属性	型式	備考
2571	62-3	捨て場	IXB-75	3	深鉢	口縁～胴部	40		<42.8>	1879	頸部有段、4単位口端突起(2/4単位台形、2/4単位段差状の交互)、口縁部隆帯(2/4単位への字形+鞍状突起・2/4単位垂下)貼付→胴部R単軸1A類縦回→口縁部LR側圧(横位平行、隆帯上、縦位、口端刻み)	円下d2	
2657	62-4	捨て場	VIII-71	1・10	深鉢	口縁～底部	21.0	10.3	24.4	1500	4単位段差状突起、2条低隆帯貼付→口縁部LR平行側圧→口端L側圧・低隆帯上半竹刺突列、胴部RL斜回→底部側面ミガキ	円下d2	7トレ
2385	62-5	捨て場	VIII-64	3	深鉢	口縁部			<5.9>	46	2条横位隆帯貼付→0多LR縦回→L単軸1A類側圧(隆帯脇)	円下d2 ～円上a	
2902	62-6	捨て場	IXB-79	3	深鉢	口縁部			<3.7>	49	横位隆帯(断面三角形、頸部有段化)貼付→接合痕ナゲ消し→LR横回	円下d2	繊維混入、外面スス状炭化物付着
2870	62-7	捨て場	IXB-78	2	深鉢	口縁～底部	15.6	8.2	21.9	800	平口縁、横位区画隆帯→口縁部・胴部・口端LR横回、底面すだれ状圧痕	円下d2	外面上半・内面ススコグ状炭化物付着、底面に焼成後穿孔(直径7mm)あり
9381	62-8	捨て場	IXX-81	2相当	深鉢?	底部		<5.1>	<2>	56	底面籠目圧痕	円下d2?	
2402	62-9	捨て場	VIII-66	2	間仕切り深鉢	胴部			<5.7>	20	外面LR横回	円下d2	間仕切り土器
3534	62-10	捨て場	IXA-75	3	深鉢	底部		11	<1.6>	117	底面RL回	円下d2?	
3503	62-11	捨て場	IXA-73	2	小型深鉢	口縁～底部	(7.7)	5.5	7.8	109	LR横回	円下d2	
3500	62-12	捨て場	IXC-72	3	小型台付深鉢	胴部～脚部		3.6	<3.6>	40	台部・胴部RRL?縦・横回	円下d2	
1638	62-13	捨て場	VIII-69	3	深鉢	胴部～底部		<2.2>	<13.4>	341	結束1種(0多LR+0多RL)横回	円下d2	
2755	63-1	捨て場	IXA-80	2	台付浅鉢	口縁～脚部	(29.2)	10.9	13	1080	4単位段差状口端突起、口縁部LR側圧(横位区画→斜位→横位充填、口端刻み)→胴部多軸(撚り不明)縦回、内面化粧土塗布?	円下d2	
2772	63-2	捨て場	IXB-81	2	台付浅鉢	口縁～脚部	(31.5)	13.1	16.5	1100	口端小突起、横位区画隆帯→接合痕ナゲ消し(頸部有段化)、4単位鞍状突起貼付→胴部結束1種(LR+RL)横回→口縁部LR側圧(横位→縦位→口端刻み)→内面化粧土塗布?	円下d2	
2875	63-3	捨て場	IXB-78	2	台付浅鉢	口縁～脚部	(30.6)	11.1	11.5	1640	2×2単位口縁切り込み(三叉状口端突起作出)、横位区画隆帯→2単位橋状把手・2単位垂下隆帯→口縁LR刻み→RL・LR横位側圧→隆帯・把手上刺突列、内面化粧土塗布?	円下d2	個1131
2378	63-4	捨て場	IXB-74	3	台付浅鉢	口縁～脚部	(33.7)	12.5	<16.1>	1749	頸部有段、4又は5単位口端突起(上面凹み成形)→非貫通橋状把手貼付→口縁部LR側圧(横位、隆帯上、口縁刻み)、胴部LLR横回	円下d2	
2375	63-5	捨て場	VIII-69	3	台付浅鉢	口縁～脚部	(29)	(13.0)	12.8	1290	4単位口端小突起、LR横・斜回	円下d2	繊維混入
2757	63-6	捨て場	IXB-79	3	台付浅鉢	口縁～脚部	25.7	13.4	14	880	段差状口端突起、低隆帯→4単位橋状把手→R多軸縦回→胴部結束1種(0多LR+0多RL)横回、R単軸1A類側圧(横位→斜位、橋状把手・口端刻み)→内面化粧土塗布?→横ミガキ	円下d2	
2600	63-7	捨て場	IXC-71	2	浅鉢	口縁～底部		13.1	12.4	910	4単位口縁突起(上端皿状)、非貫通橋状把手→L側圧(口縁部・把手上横位、口端)→胴部LR横回	円下d2	焼成後穿孔(非貫通補修孔?)有り
3387	63-8	捨て場	VIII-70	3	(台付)鉢	口縁～底部			<9.1>	127	LR平行側圧	円下d2	繊維混入
2988	63-9	捨て場	IXA-83	2相当	(台付)浅鉢	口縁～胴部			<6.4>	54	口縁部LR側圧(横位長楕円→横位充填)、胴部LR横回	円下d2	
2909	63-10	捨て場	IXB-85	2	(台付)鉢	口縁～胴部			<7.3>	30	断面三角形口縁、LR横回	円下d2	個1025、繊維混入
3439	64-1	捨て場	IXB-80	3	台付	脚部		<9.2>	<4.2>	69	4単位?楕円形貫通孔	円下d2?	
2929	64-2	捨て場	IXB-77	2	深鉢	口縁～胴部	<12.1>		<11.9>	104	台形口端突起、ボタン状突起・2条横位区画隆帯貼付→半竹(口縁部刺突列・鋸歯状沈線)、胴部結束1種(LL+RR:別条R結縛付)縦回	円下d2	繊維混入

土器観察表(1・2・3層一括6)

管理番号	図番号	出土位置	グリッド	層位	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	文様等の属性	型式	備考
2524	64-3	捨て場			深鉢	口縁~胴部	(21.4)		<6.2>	155	4単位逆U字形隆帯貼付→口縁・隆帯上・半竹刺突列、半竹内面側を用いた鋸歯状沈線文	円下d2	異系統土器(←大木6?)
2442	64-4	捨て場	VIIU-62	3	球胴深鉢	頸部~胴部			<5.9>	213	胴部隆帯(横位→2条鋸歯状・弧状、他)貼付、LR横回	円下d2	
2984	64-5	捨て場	IXB-75	2	深鉢	胴部			<4.9>	17	垂下隆帯→L結節付LR縦回→隆帯脇ナデ	円下d2	外面スス状炭化物付着
2979	64-6	捨て場	VIII・Y-70	3	深鉢	胴部			<9>	115	R多軸縦回→R単軸1類縦回→半竹内面側を用いた沈線(2条横位区画→鋸歯状)	円下d1~d2	
3520	64-7	捨て場	IXB-78	2	小型深鉢	胴部			<3.8>	7	細沈線文(縦位→蛇行垂下)、刺突列	円下d1~d2	異系統土器(←大木6)
2523	64-8	捨て場	VIIIW-66	3	深鉢	口縁部			<2.2>	11	内面隆起帯、口端小突起、口縁併走沈線→半竹内面側を用いた押し引き沈線	円下d1~d2	異系統土器(←大木6)
2450	64-9	捨て場	VIIIU-67	3	鉢形?	口縁~胴部			<5.7>	49	皿状口端突起、LR横回→横位隆帯→半竹内面側を用いた沈線(横位区画→弧状、鋸歯状、環状)	円上a	
2519	64-10	捨て場	VIIIY-69・70	3	深鉢	口縁部			<3.8>	78	波状口縁?、口縁併走隆帯→口縁・隆帯上L平行側圧(横位→縦位)	円上b	
2486	64-11	捨て場	VIIIY-74	3	深鉢	頸部~胴部			<17.5>	234	低隆帯→胴部LR(片条R結縛付)縦回・頸部LR側圧(縦位並列→環状)	円下d2	個471
3026	64-12	捨て場	IXB-76	3	深鉢	胴部			<8.8>	132	胴部結束1種(LR+RL)横回→竹管内面側を用いた沈線文(縦位→横位)	円下d2	異系統土器(朝日下層式?)
2444	64-13	捨て場	VIII R-62	2	深鉢	胴部			<3.7>	12	半竹内面側を用いた半隆起線文(鋸歯状?区画文→縦位充填→横位充填)	北陸系?	異系統土器(←朝日下層式?)、胎土分析実施(6分冊4章7節:No.10)
2443	64-14	捨て場	VIII R-62	2	深鉢	胴部			<2.1>	8	縄文(種別不明)→隆帯文→隆帯脇沈線	円下d2	
2985	64-15	捨て場	VIII X-70	3	深鉢	胴部			<6.8>	35	半竹内面側を用いた半隆起線文(横位平行→鋸歯状)→LR横回	円下d2	異系統土器(←朝日下層)
4187	64-16	捨て場	IXB-76	2	深鉢	胴部			<6.6>	50	LR+RLの非結束羽状縄文→半竹内面側を用いた沈線(横位→縦位鋸歯状→縦位)	円下d2	
2763	65-1	捨て場	IXB-80	炭2層下	深鉢	口縁~底部	26.1	(11.4)	29	2580	4単位台形口端突起(上面凹み成形)、隆帯(横位区画→4単位環状→垂下)貼付→口縁部R単軸1側圧(横位→隆帯上、口端刻み)→胴部半竹内面側を用いた縦位沈線(1単位のみ)→結束2種(LR+LR)横回	円上a	繊維混入
2779	65-2	捨て場	IXB-76	3	深鉢	口縁~胴部	14.4		<15.7>	440	4単位台形口端突起→隆帯(横位区画→4単位垂下→突起区画・鞍状突起)貼付→口縁部LR側圧(区画内横位、突起上面渦形、隆帯刻み)、口端LR回、胴部結束1種(LR+RL:L結縛付)横回	円上a	17トレ、外面上炭化物付着、補修孔有り
2556	65-3	捨て場	VIII S-64	3上面	深鉢	口縁~底部	(20.6)	10	26.1	1027	4単位波状口縁(山形突起)、隆帯(横位区画→4単位ボタン状突起→垂下)貼付→口縁部LR側圧(区画内横位・弧状、隆帯・突起上、口端刻み)、胴部LR(R結縛付)横回	円上a	
2775	65-4	捨て場	IXB-78	2	深鉢	口縁~底部	(22.1)	10.7	<26.5>	1200	4単位口端突起(欠損)、隆帯(横位区画→4単位垂下)貼付→鞍状・ボタン状突起貼付→胴部・口縁部LR横回→口端・突起・隆帯上・隆帯脇LR側圧	円上a	内外面スス状炭化物付着、補修孔(非貫通含む)有り
2904	65-5	捨て場	IXB-81	3	深鉢	口縁部			<6.1>	80	口端突起(渦巻隆帯貼付)→橋状把手(欠損)→L・R平行側圧	円上a?	
2552	65-6	捨て場	VIII U-68	3	深鉢	口縁~底部	22.1	11.5	27.2	1908	4単位山形口端突起、隆帯(横位区画→4単位縦位→鞍状突起)貼付→胴部LR横回→LR結節(胴部地文原体の結束部又は結縛部の可能性有り)横・縦回、口縁部LR側圧(区画内横位→隆帯・口縁刻み)	円上a	3トレ、繊維混入、補修孔一対有り、異系統土器(←大木8a)
2626	65-7	捨て場	VIII V-69	3c	深鉢	口縁~胴部	<25.5>		<31.1>	1455	4単位先割れ口端突起(4単位口縁併走隆帯→隆帯端部鈎状成形→接合痕ナデ消し・内面ヒレ状隆起に連続する先割れ突起作出)→横位区画隆帯→非貫通橋状把手貼付→口縁部LR側圧(区画内横位→隆帯・口端刻み)、胴部LR・RL横・斜回→LR結節(地文LRの結節部又は結縛部の可能性有り)縦回	円上a	個269、繊維混入
2569	65-8	捨て場	IXC-70	3	深鉢	口縁~底部		7.5	<16.9>	356	4単位?波状口縁(突起欠損)、隆帯(横位区画→垂下隆帯→鞍状突起)貼付→口縁部R?単軸1類側圧(区画内横位、隆帯・口縁刻み)、胴部LR横回	円上a	
2601	65-9	捨て場	IXA-75	2	深鉢	口縁~底部	22.9	8.3	30.0	1900	4単位波状口縁、隆帯(横位区画→4単位橋状把手→4単位環状)貼付→口縁部LR側圧(区画内横位、隆帯・口縁刻み)、胴部結束1種(0多LR+0多LR)横回	円上a	

土器観察表(1・2・3層一括7)

管理番号	図番号	出土位置	グリッド	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	文様等の属性	型式	備考
2620	66-1	捨て場	IXA-74	3	深鉢	口縁～底部	28.8	15.3	38.3	2673	4単位波状口縁(山形突起、内面ヒレ状隆起)、隆帯(横位区画→4単位橋状把手→4単位逆U字形)貼付→口縁部LR側圧(U字・逆U字等の不規則な充填文→隆帯・口縁刻み)、胴部RL横回	円上a	器面風化著しい
2599	66-2	捨て場	IXB-75	2	深鉢	口縁～底部	32	14.7	37.2	3280	4単位先割れ口端突起、隆帯(4単位口縁併走→先割れ突起成形、横位区画→4単位橋状把手)貼付→口縁部LR側圧(口縁併走・横位充填→隆帯・口縁刻み)→側圧間・隆帯上円形刺突、胴部結束1種(0多LR+0多LR)横回、底面すだれ状圧痕	円上a	
2766	66-3	捨て場	IXB-81	3	深鉢	口縁～底部	21.4	11	24.5	1800	4単位波状口縁(台形突起)、隆帯(横位区画、突起区画)貼付、口縁部RL側圧(4単位鳥足形→4単位弧状・横位→口縁刻み)、区画帯上LR側圧、胴部LR斜回	円上a	底面指ナデ、外面上半・内面下半スス状炭化物付着
2598	66-4	捨て場	IXB-75	2	深鉢	口縁～底部	14.9	7.7	17.4	580	4単位山形口端突起→口縁部LR側圧(横位平行→口端・突起刻み)、胴部LR横回	円上a	突起内面膨隆
2582	67-1	捨て場	VIIIU-65	3	深鉢	口縁～底部	35.5	18.2	51.8	5723	隆帯(横位区画→上端が突出して口端突起を形成するハの字形)・ボタン状貼付→口縁部R単軸1類側圧(区画内横位、貼付・隆帯上、口縁刻み)、胴部LR(自条?LR結縛付)横回、底面すだれ状圧痕	円上a	繊維混入
2578	67-2	捨て場	VIIIU-66	3	深鉢	口縁～底部	(16.4)	9	20.7	608	平口縁、結束1種(LR+RL;自条?R結縛付)横回	円上a	器面風化著しい
2817	67-3	捨て場	IXB-79	2	深鉢	口縁～底部	14.4	(6.4)	14	537	結束1種(RL+RL)横回→口端(結束第1種?)RL回	円上a	内面上半ススコゲ状炭化物付着
4098	67-4	捨て場	IXB-79	3	深鉢	胴部～底部		11.6	<10.9>	200	R単軸1類?縦回	円上a	内外面スス状炭化物付着、器外面残存不良
2782	68-1	捨て場	IXC-76	3	深鉢	口縁～底部	(38.2)	16	52.1	5612	4単位台形口端突起、隆帯(横位区画→4単位ハの字形・環状・鞍状)貼付→口縁部R単軸1類側圧(区画内横位→縦位・楕円、隆帯・突起上)、口端LR横回、胴部LR縦回→R結束2種縦回(4単位)	円上a	外面上半・内面下半スス状炭化物付着
2781	68-2	捨て場	IXC-76	2	深鉢	口縁～底部	34.5	16.8	43.2	3300	低隆帯→4単位鞍状口端突起・橋状把手→4単位区画弧文隆帯・鞍状突起貼付→口縁部LR側圧(口縁併走・隆帯脇→充填横位・弧文、隆帯・突起・口縁刻み)→縄端刺突列、胴部LR横回→R結節縦回(8単位)	円上a	外面上半・内面下半ススコゲ状炭化物付着
2399	68-3	捨て場	VIIIW-67	3	深鉢	口縁部			<5.8>	22	波状口縁(先割れ突起)、4単位口縁併走隆帯・ボタン状貼付→オオバコ花序圧痕(隆帯脇→横位→縦位・斜位)・隆帯上竹管斜向刺突	円下d2	繊維混入、圧痕観察実施(6分冊4章2節参照:レ圧-03)
2753	69-1	捨て場	IXB-76	3	深鉢	口縁～胴部	(34.9)		<34.1>	3040	4単位波状口縁(山形突起)、4単位橋状把手、隆帯(横位区画、4単位垂下+逆U字、4単位垂下)貼付→口縁部LR側圧(横位平行、把手・隆帯上、口縁刻み)・横位隆帯上ヘラ刻み、胴部LR横回→4単位R結節縦回、内面化粧土塗布?	円下d2～円上a	個1038、内面下半ススコゲ状炭化物付着
2607	69-2	捨て場	IXB-73	3	深鉢	口縁～胴部	40.4		<44.8>	5100	4単位先割れ口端突起(内面ヒレ状隆起)、隆帯(横位区画→4単位ハの字+X形対弧文→環状)貼付→口縁部爪形(部分的)→L側圧(区画内横位→馬蹄形・隆帯上、口縁刻み)、胴部結束1種(LR+RL;R結縛付)横回→同縦回	円上a	13ベルト、L側圧に伴う爪跡有り
2334	70-1	捨て場	VIIIV-66	3	深鉢	口縁～胴部	32.6		<40.9>	2420	4単位山形口端突起、4単位橋状把手→隆帯(横位区画→把手上X形対弧文→4単位逆U字形)貼付・ボタン状突起→LR側圧(区画内横位、突起内渦巻、隆帯・口縁刻み)、胴部RL横回	円上a	繊維混入
2566	70-2	捨て場	VIIIU-65	3	深鉢	口縁～胴部	25.3		(29.9)	1520	4単位波状口縁(山形突起)→隆帯(横位区画→4単位ノの字形垂下→2×4単位ボタン状突起)貼付→L側圧(区画内横位→馬蹄形、隆帯・口縁刻み)、胴部結束1種(LR+RL)横回	円上a	
2380	70-3	捨て場	VIIIW-66		深鉢	口縁～胴部	46.3		(47.3)	7500	4単位波状口縁(山形突起)、口縁併走隆帯貼付(鈎状端部で突起内面の隆起帯を成形)→接合痕ナデ消し、その他隆帯(横位区画→4単位ノの字形・逆U字形→鞍状突起、口縁クリップ)貼付→R側圧(区画内横位→隆帯・口縁刻み)、胴部結束1種(LR+RL)横回	円上a	
2585	71-1	捨て場	IXB-75	2	小型深鉢	口縁～底部	(13.4)	7.0	14.9	358	不均等4単位の台形口端突起、隆帯(口縁併走・横位区画)貼付→不均等4単位橋状把手→口縁部L・R側圧(横位・波状)→口縁・隆帯上LR側圧、胴部LR又はLLR(R結縛付)横回	円上a	
2565	71-2	捨て場	VIIIV-66	3	深鉢	口縁～底部	(22.3)	8.8	27.3	1379	4単位山形口端突起、口縁併走隆帯(4方向で橋状となり、突起と貫通孔を形成)→隆帯(横位区画→V字区画→鞍状突起・口縁クリップ)貼付→胴部特殊結束横回→口縁部L側圧(隆帯刻み→区画内横位・渦形、口縁刻み)→縄端刺突列(=胴部原体結束部?)、口縁部RL側圧(一部)	円上a	
2365	71-3	捨て場	VIIIS-63	3	小型深鉢	口縁～底部	13.6	7.0	17.4	424	4単位波状口縁(台形突起)、隆帯(口縁併走、横位区画、2×4単位縦位)→区画内L・R平行側圧→L側圧(馬蹄形、口縁・隆帯刻み)、胴部・一部隆帯上RR横回	円上a	外面上半・内面全面ススコゲ状炭化物付着
2332	71-4	捨て場	VIIIS-65	3	深鉢	口縁～胴部	(24.6)		<21.2>	950	4単位波状口縁(先割れ突起)、口縁併走隆帯(鈎状端部で突起内面の隆起帯を形成)→4単位非貫通橋状把手→突起穿孔→隆帯(横位区画→8単位V字形→4単位環付垂下文)貼付→胴部LR(結縛付)横回→L側圧(隆帯脇・横位充填→隆帯・把手刻み)	円上a	

土器観察表(1・2・3層一括8)

管理番号	図番号	出土位置	グリッド	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	文様等の属性	型式	備考
2783	71-5	捨て場	IXB-77	2	深鉢	口縁~胴部	(25.1)		<17.3>	750	4単位山形口端突起、隆帯(口縁併走・横位区画→突起下ボタン状突起→2条渦巻付垂下・隆帯クリップ)貼付→RL側圧(区画内横位→馬蹄形)→R側圧(隆帯刻み、渦巻)、胴部LR横回	円上 a	
2791	71-6	捨て場	IXA-82	2	深鉢	口縁~底部	21.9	10.5	30.6	1460	4単位山形口端突起、隆帯(横位区画・4単位逆V字+U字・口端クリップ・4単位垂下弧文)貼付→R側圧(区画内横位、口縁・隆帯刻み)→半竹斜向刺突列、胴部LR横回	円上 a	外面上半・内面下半ススコゲ状炭化物付着
2778	71-7	捨て場	IXB-76	3	深鉢	口縁~底部	13.8	(8.3)	21.5	940	4単位口端小突起(台形)、隆帯(横位区画→逆U字)貼付→胴部LR横回・口縁部R・L側圧(横位・隆帯上→鋸歯状・口端刻み)	円上 a	7トレ、補修孔有り、外面上半一部ススコゲ状炭化物付着、風化顕著
3524	71-8	捨て場	IXC-77	3	小型深鉢	口縁~底部	9	4.4	9	131	口縁併走隆帯(折返し状)貼付、隆帯上R?側圧、胴部結束1種(LR+RL)横回	円上 a	胎土に束状の繊維混入
3499	71-9	捨て場	VII-X-69	3	小型深鉢	口縁~底部	(7.3)	4.5	8.1	92	横位区画隆帯貼付、口縁部刺突列、胴部R横回	円上 a	
2597	72-1	捨て場	VIII-T-64	2	深鉢	口縁~底部	19.0	7.8	21.8	994	4単位台形口端突起→隆帯(横位区画・4単位L形区画→2×4単位V字形、突起側面・内面)貼付→L・R側圧(区画内横位・縦位)・L側圧(口端・隆帯刻み)、胴部結束1種(0多LR+0多RL;R結縛付)横回	円上 a	器面風化著しい
2319	72-2	捨て場	IXB-74	3	深鉢	口縁~胴部	39.8		<58.3>	5790	4単位波状口縁(先割れ突起)、隆帯(口縁併走、横位区画)貼付→橋状把手→R・L平行側圧(隆帯刻み→横位平行→4単位へノ字形→横位平行・並列短線・渦巻→口縁刻み)、胴部結束1種(0多LR+0多RL)横回	円上 a	内面下部に炭化物付着帯有り
2362	72-3	捨て場	VIII-T-54	3	深鉢	口縁~底部	30.4	(13.5)	36.3	3300	4単位波状口縁(先割れ突起)、口縁併走隆帯(端部鉤状、突起内面のヒレ状隆起作出)→隆帯(横位区画→縦位・U字垂下→鞍状突起)貼付→口縁部LR側圧(区画内横位→馬蹄形→隆帯刻み)→胴部結束1種(LR+RL)横回	円上 a	胴部内面黒色化
2568	72-4	捨て場	VIII-V-65	3	深鉢	口縁~底部	26.8	12.9	33.5	3056	平口縁、隆帯(2重の口縁併走・L形区画→4単位楕円形・連結弧文→4単位W字形)貼付→L・R側圧(隆帯刻み→縦位・鋸歯状)→胴部結束1種(0多LR+0多RL;別条0結縛付)横回、口縁R・L側圧	円上 a	
2151	73-1	捨て場	VIII-X-70	3	深鉢	口縁~胴部			<19.3>	1560	横位区画隆帯→鞍状突起→隆帯(V字形・環状・縦位)貼付→L側圧(区画内横位、隆帯・口縁刻み、馬蹄形)、胴部結束1種(LR+RL;自条結縛付)横回	円上 b	トレンチ、繊維混入、胴部内面黒色化、外面接合痕、圧痕観察実施(6分冊4章2節参照:R14)
2910	73-2	捨て場	IXA-73	2	深鉢	胴部			<12.5>	190	隆帯(横位区画→U字文?)貼付→隆帯上L側圧→胴部LR横回→L側圧(連弧状)	円上 a	
2797	73-3	捨て場	IXB-76	2	深鉢	口縁~底部	(27.6)	(12.3)	36.5	2600	4単位波状口縁(先割れ突起)、口縁併走隆帯(鉤状端部で突起内面の隆起を形成)貼付→橋状把手→ボタン状貼付、横位区画隆帯→LR側圧(区画内横位・口縁・隆帯刻み→馬蹄形)・胴部結束1種(LRL+RLR)横回→LR横回	円上 b	内面化粧土塗布? 外面上半・内面下半ススコゲ状炭化物付着
2587	73-4	捨て場	VIII-V-66	3	深鉢	口縁~底部	(24.2)	12.6	25.6	1596	4単位波状口縁(台形突起)、隆帯(口縁併走・横位区画→突起外面弧文→縦位・斜位)貼付→L側圧(区画内横位→口縁・隆帯刻み)→LR馬蹄形側圧、胴部LR(r別条結縛付)横回→胴部LRナゲ消し→U字形垂下隆帯貼付	円上 b	
2567	73-5	捨て場	VIII-V-65	3	深鉢	口縁~底部	(25.6)	9.3	30.3	1106	4単位波状口縁(台形突起)→隆帯(クリップ状端部の4単位口縁併走・横位区画→突起区画弧文→2条4単位縦位)貼付→R・L側圧(区画内横位→縦位→隆帯・口端刻み)→LR馬蹄形側圧、胴部結束1種(LR+RL)横回	円上 b	
2596	73-6	捨て場	IXB-73	2・3	深鉢	口縁~底部	31.7	13.8	45.0	3580	4単位波状口縁(台形突起)、隆帯(横位区画→4単位X字形対弧文→突起区画波状文・区画帯垂下弧文)貼付→L側圧(区画内横・縦位→馬蹄形→隆帯・口縁刻み)、胴部結束1種(0多LR+0多RL)横回→ナゲ消し(→隆帯垂下弧文貼付)	円上 b	
2595	74-1	捨て場	IXA-74	2	深鉢	口縁~底部	27.2	10.8	35.8	2254	4単位波状口縁(台形突起)→口縁併走隆帯貼付→接合痕ナゲ消し→隆帯(口縁併走・2条横位区画→突起区画弧文→縦位・連結弧文、口縁併走追加)貼付→L側圧(渦巻、馬蹄形、隆帯・口縁刻み)、胴部結束1種(0多LR+0多RL)横回	円上 b	
2560	74-2	捨て場	VIII-U-66	3	深鉢	口縁~底部	(21.2)	9.2	24	864	4単位台形口端突起、隆帯(横位区画→逆U字+横位)→LR側圧(区画内横位・馬蹄形→口縁・隆帯刻み)→胴部LR横回	円上 b	
2300	74-3	捨て場	IXA-74	2	深鉢	口縁~胴部	(20.1)		<18.1>	428	4単位波状口縁(台形突起)、隆帯(口縁併走・横位区画→非貫通橋状把手→口端クリップ)貼付→口縁部LR側圧(隆帯・把手刻み→区画内横位→馬蹄形)、胴部結束1種(0多LR+0多RL;別条0結縛付)横回	円上 b	繊維微量混入

土器観察表(1・2・3層一括9)

管理番号	図番号	出土位置	グリッド	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	文様等の属性	型式	備考
2562	74-4	捨て場	VIIV-65	3	深鉢	口縁～底部			<20.8>	849	4単位波状口縁(突起欠損)、貫通孔、隆帯(横位区画→4単位台形区画+山形連結文→弧状→4単位縦位連結)貼付→L側圧(隆帯区画内横位・弧状→隆帯上・口縁→馬蹄形)、胴部結束1種(RL+RL;別条r結縛付)横回	円上b	
2381	74-5	捨て場	VIIU-66	3	深鉢	口縁～底部	32.8	(15.3)	50.6	3535	4単位波状口縁(先割れ突起)、口縁部隆帯(横位区画→環状・渦巻→連結斜位→連結横位→蛇行垂下文)貼付→への字形隆帯区画文貼付→胴部結束1種(RL+RL)横回→LR側圧(横位→隆帯脇・隆帯刻み・口縁羽状→馬蹄形)	円上b	繊維微量混入
2606	74-6	捨て場	VIII R-63	2相当	深鉢	口縁～底部	34.0	12.9	48.1	3873	4単位波状口縁(台形突起)→隆帯(口縁併走・横位区画→4単位への字形区画文→連結斜位)貼付→R側圧(隆帯刻み→区画内横位)→RL馬蹄形側圧→R隆帯脇・口縁刻み、胴部RL(L結縛付)横回	円上b	
2780	75-1	捨て場	IXB-77	3上面	深鉢	口縁～底部	26.8	12	33	1700	4単位波状口縁(台形突起)、隆帯(横位区画・突起区画W字→縦位連結・U字)貼付→隆帯上・口縁L側圧→区画内L・R平行側圧→L馬蹄形側圧→胴部結束1種(RL+RL;別条0結縛付)横回	円上b	補修孔有り、外面上半・内面下半ススロゲ状炭化物付着
2663	75-2	捨て場	VIIIT-66	3	深鉢	口縁～底部	(15.4)	7.5	16.9	279	隆帯(2条口縁併走→垂下弧文?)貼付→隆帯上L側圧、胴部結束1種(RL+RL)横回	円上b	
2563	75-3	捨て場	IXA-74	3	深鉢	口縁～底部	25.3	(14.4)	34.5	2070	平口縁、隆帯(口縁併走→4単位楕円形→波状)貼付→隆帯上R側圧、胴部LR(R結縛付)横回	円上a	
2542	75-4	捨て場	VIIIS-63	3上面	深鉢	口縁～底部	22.4	13.6	27.9	2986	平口縁→LR(別条結縛付)横位→隆帯(横位区画→波状)貼付→隆帯上・口端L側圧	円上a	繊維微量混入
2785	75-5	捨て場	IXC-77	3	深鉢	口縁～胴部	20.3		<18.4>	580	平口縁、隆帯(横位区画→波状)貼付→L側圧(隆帯刻み→口縁刻み→馬蹄形)、胴部結束1種(RL+RL)横回	円上b	
2387	75-6	捨て場	VIIIT-65	3	深鉢	口縁～底部	(15.8)	(6.4)	16.4	250	平口縁、隆帯(口縁併走上段→4単位弧文→m字・連結弧文・口縁併走下段→連結横位)貼付→L・R平行側圧(隆帯脇・隆帯区画内→隆帯刻み)→垂下沈線(顔部)→L馬蹄形側圧/串状工具による刺突列、胴部結束1種(LRL+RL)横回	円上b	人面様装飾、未貫通孔(補修孔?)有り
2784	75-7	捨て場	IXB-78	2	深鉢	口縁～胴部	18.2		<19.8>	790	平口縁、隆帯(口縁併走・横位区画→波状文→8単位縦位連結)貼付→区画内R・L平行側圧→爪形を伴うR馬蹄形側圧→隆帯上R側圧→胴部結束1種(0多LR+0多RL)横回	円上b	外面上半・内面全体ススロゲ状炭化物付着
2963	75-8	捨て場	IXB-77	2相当	深鉢	口縁～胴部			<11.9>	264	波状口縁(内湾する先割れ突起)、円形貫通孔→隆帯(横位区画→漏斗形区画・斜位区画・弧状文・楕円文)貼付→隆帯区画内L・R平行側圧→L馬蹄形側圧→L側圧(隆帯・口縁刻み)	円上b	
2515	75-9	捨て場	VIIIV-66	3	深鉢	口縁部			<5.6>	41	先割れ口端突起、隆帯(口縁併走→U字・V字)貼付→R2条平行側圧→刺突列→R2条馬蹄形側圧→隆帯上R側圧、口縁内面刺突列	円上b	内面刺突内にスス状炭化物残存
3247	75-10	捨て場	VIIU-66	3	深鉢	口端突起			<6.5>	88	台形突起、貫通孔×2、隆帯(突起区画横位・山形→連結斜位・波状、他)貼付→0多L馬蹄形側圧、隆帯上L側圧	円上b ～c	
2593	76-1	捨て場	IXB-75	2	深鉢	口縁～胴部			(38.8)	3723	4単位波状口縁(突起欠損)、隆帯(口縁併走・2条横位区画→4単位環状→縦位・斜位)貼付→区画内L・R平行側圧→隆帯上L側圧→半竹刺突列、胴部結束1種(0多LR+0多RL;LR側R・RL側r結縛付)横回→区画帯下L・R平行側圧→0多L並列短線側圧	円上c	
2539	76-2	捨て場	VIIIV-65	3	深鉢	口縁～底部	13.9	5.7	15.2	349	4単位波状口縁(先割れ突起?)、隆帯(横位区画2条→口縁併走→縦位区画)貼付→区画内L側圧→隆帯上L側圧→角棒斜向刺突、胴部結束1種(RL+RL)横回	円上c	
2326	76-3	捨て場	IXA-74	2	深鉢	口縁～胴部	27.9		<24.6>	1053	4単位波状口縁(台形突起)、隆帯(2条横位区画→突起区画弧文→連結縦位→連結横位→充填弧文・縦位・斜位)貼付→隆帯上R刻み→区画内R・L平行側圧→口縁R側圧→半竹斜向刺突列、胴部結束1種(0多LR+0多LLR;別条0結縛付)横回	円上c	
2592	76-4	捨て場	VIIIT-64	2	深鉢	口縁～胴部	30.1		<31.8>	1955	4単位波状口縁(台形突起)、突起内貫通孔、隆帯(口縁併走・2条横位区画→突起区画弧文→縦位区画→環状・横位・斜位連結、口縁波状・区画帯下波状)貼付→隆帯上L側圧→半竹刺突列、胴部結束1種(0多LR+0多RL;別条R結縛付)横回	円上c	
2564	76-5	捨て場	VIIIS-64	3	深鉢	口縁～胴部	(27.2)		<25.2>	1731	4単位波状口縁(先割れ突起)、隆帯(横位区画・突起併走・突起縁辺弧文→斜位・突起区画弧文・4単位逆U字)貼付→区画内L平行側圧→角棒斜向刺突列・隆帯上・口縁L側圧、胴部結束1種(0多LR+0多RL;別条r結縛付)横回	円上c	

土器観察表(1・2・3層一括10)

管理番号	図番号	出土位置	グリッド	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	文様等の属性	型式	備考
2310	76-6	捨て場	IXC-71	2	深鉢	口縁~胴部	25.8		<18.7>	710	4単位波状口縁(台形突起)、楕円形貫通孔、隆帯(口縁併走・2条横位区画→2条突起区画弧文・4単位縦位対弧文・縦位連結→充填弧文)貼付→隆帯上・口縁L側圧→半竹?斜向刺突列・胴部結束1種(LR+RL;別条R結縛付)横回	円上c	
2911	76-7	捨て場	IXB-77	2	深鉢	胴部			<8.8>	54	隆帯貼付→隆帯上・区画内L平行側圧→L単軸絡条体の端部?による斜向刺突列	円上b	刺突部分圧痕観察実施(6分冊4章2節参照:レ圧-05)
1047	77-1	捨て場	VIIW-66	2・3	深鉢	口縁~底部	(33.2)	14.4	42.2	2700	4単位波状口縁(台形突起)、隆帯(口縁併走・2条横位区画→突起区画・4単位山形→4単位X字形区画・縦位→弧文・口縁波状)貼付→突起内貫通孔→隆帯上L側圧→ヘラ刺突列、胴部結束1種(LR+0多RL;別条0結縛付)横回、底面網代痕?→ナデ消し	円上c	
2328	77-2	捨て場	VIII-X-70	3	深鉢	口縁~底部	(27.7)	(10)	32.6	2039	4単位波状口縁(台形突起)、貫通孔→4単位桶状把手→隆帯(口縁併走・2条横位区画→突起区画弧文→渦形→縦位連結→連結横位・斜位→波状)貼付→隆帯上L側圧→半竹刺突列、胴部結束1種(LR+RL;別条L結縛付)横回	円上c	内面胴下位~底部黒色化
2548	77-3	捨て場	VIII-U-65	3	深鉢	口縁~底部	14.5	7.2	16.9	400	4単位波状口縁(先割れ突起)、隆帯(横位区画→突起区画→4単位口縁併走→縦位区画・突起外面横位・三角文→4単位双頭渦文)貼付→隆帯上・口縁L側圧、角棒斜向刺突列、胴部結束1種(0多LR+0多RL;結縛付)	円上c	
2545	77-4	捨て場	VIIW-67	3	深鉢	口縁~底部	21.5	(6.5)	21.5	664	4単位波状口縁(台形突起)、楕円形貫通孔、隆帯(口縁併走・2条横位区画→突起下横位・4単位ハの字又は山形→縦位→重複弧文、口縁・区画帯下波状)貼付、胴部結束1種(0多LR+0多RL;R結縛付)横回→区画帯下波状隆帯貼付→隆帯上ヘラ刻み→区画内半竹刺突列	円上c	
2793	77-5	捨て場	IXB-81	2	深鉢	口縁~胴部	(42.3)		<48.4>	2560	4単位波状口縁(台形突起)、2×4単位貫通孔、隆帯(2条横位区画・口縁併走→4単位山形・突起外面連弧文→縦位連結→口縁波状・充填弧文・環付斜位・交差弧文+端部ボタン状突起)貼付→隆帯上L側圧→半竹斜向刺突列、結束1種(0多LR+0多RL;別条r結縛)	円上c	個1082
2661	78-1	捨て場	VIII-X-70	15・19	深鉢	口縁~底部	39	15	65.6	7930	4単位波状口縁(台形突起)、隆帯(口縁併走・2条横位区画→突起裝飾・縦位区画・4単位山形→充填弧文・連結斜位・ボタン状突起)貼付→区画内・隆帯上・口縁L側圧→区画内半竹刺突列、胴部結束1種(LR+RL)横回	円上c	7トレ
2591	78-2	捨て場	VIII-T-64	2	深鉢	口縁~底部	24.2	11	33.2	1552	4単位波状口縁(先割れ突起)、隆帯(口縁併走・2条横位区画→突起区画弧文・4単位凸形文→連結弧文→口縁波状)貼付→角棒斜刺突列→隆帯上L側圧、胴部結束1種(LR+RL)横回	円上c	
2667	78-3	捨て場	VIII-U-65	3	深鉢	口縁~胴部	19.7		<13.9>	531	4単位波状口縁(台形突起)、三脚桶状把手(非貫通)→隆帯(口縁併走・2条横位区画→4単位弧文・突起区画弧文→4単位V字・弧文充填・連結縦位、口縁波状)貼付→半竹斜向刺突列、胴部結束1種(LR+RL)横回、突起内面に短い太沈線	円上c	
2792	78-4	捨て場	IXC-82	3	深鉢	口縁~胴部	32.4		<36.1>	2800	4単位波状口縁(台形突起)、4単位ボタン状突起、隆帯(2条横位区画・口縁波状→突起区画弧文・4単位弧文・山形文→縦位連結弧文→充填弧文)貼付→斜向刺突列→区画内L側圧、胴部0多RL(結束1種?;R結縛付)横回	円上c	個1124、外面下半ススコゲ状炭化物付着
2605	79-1	捨て場	VIII-T-64	2	深鉢	口縁~底部	40.0	13.4	(67.0)	7580	4単位波状口縁(台形突起)→楕円形貫通孔、隆帯(口縁併走・2条横位区画→突起区画弧文・8単位逆プラスコ形→横位→縦・斜位連結→口縁波状)貼付→隆帯上L側圧→竹管円形刺突、胴部下半結束1種(RL+LR)・胴部上半結束1種(LR+LR)横回	円上c	
2590	79-2	捨て場	VIII-T-64	2	深鉢	口縁~胴部	22.1		<22.9>	915	平口縁(折返し状)、隆帯(口縁併走・2条横位区画→不規則な弧文の組み合わせ・連結縦位・口縁波状)貼付→隆帯上・口縁L側圧→半竹斜向刺突列、胴部RL横・斜回	円上c	
2928	79-3	捨て場			深鉢	口縁~底部	(11.5)	<4.6>	12	176	半竹斜向刺突列(口縁2条併走、2×4単位縦位、縦位弧文)、口縁ヘラ刻み	円上c	
2588	79-4	捨て場	VIII-V-65	3	深鉢	口縁~胴部			<28.4>	1368	4単位波状口縁(突起欠失)、楕円形貫通孔、隆帯(2条横位区画→連結縦位・波状・弧状等)貼付→半竹斜向刺突列→隆帯上L側圧、胴部結束1種(0多LR+0多RL;r結縛付)横回	円上c	
2320	79-5	捨て場	VIII-V-65	3	深鉢	口縁~胴部	25.3		<14.1>	1048	平口縁、隆帯(口縁併走→口縁波状)貼付→隆帯上L側圧、角棒斜向刺突列→胴部LR(R附加条)横回	円上c	内面黒色化
3497	79-6	捨て場	VIII-V-66	3	小型深鉢	口縁~胴部	(8.5)		<7.4>	58	平口縁、胴部結束1種(LR+RL;別条結縛付)横回→口縁部横ナデ→角棒斜向刺突列	円上c	

土器観察表(1・2・3層一括11)

管理番号	図番号	出土位置	グリッド	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	文様等の属性	型式	備考
2561	79-7	捨て場	VIV-65	3	深鉢	口縁～底部	(24)	(7.9)	24.9	1625	平口縁、結束1種(LR+RL)横回→隆帯(3条口縁併走・2条横位区画→4単位V字形・口縁波状・区画帯下連弧文)貼付→隆帯上L側圧→角棒斜向刺突列	円上c	
3496	79-8	捨て場	VIT-65	3	深鉢	口縁～胴部	15.1		<7.5>	119	平口縁、隆帯(2条口縁併走→2条横位区画→3段8単位連結縦位→口縁波状)貼付→竹管刺突列充填→隆帯上・口縁R側圧、胴部0多RL(別条r結縛付)横回	円上c	補修孔有り
2330	79-9	捨て場	VIV-69	3	深鉢	口縁～胴部	(21.2)		<9.3>	245	平口縁、隆帯(口縁併走・横位区画→4単位弧文)貼付→半竹?斜向刺突列、胴部結束1種(LR+RL)横回	円上c	
2794	80-1	捨て場	IXC-83	3	深鉢	口縁～底部		14	<58.3>	5920	結束1種(0段多条RL+RL;R結縛付)横回→隆帯(2条横位区画→4単位への字区画文→連結縦位・斜位・横位・充填弧文)→ヘラ斜向刺突列→隆帯上L側圧	円上c	外面中位・内面下半スコグ状炭化物付着
2668	80-2	捨て場	VIV-67	3	深鉢	口縁～胴部	(26.2)		<24.1>	1340	4単位波状口縁(台形突起)、2×4単位の貫通孔、胴部LR横回→隆帯(2条横位区画・突起区画弧文・4単位山形→縦位連結→口縁波状→斜位連結→口縁併走→斜位連結→横位連結)貼付→角棒斜向刺突列	円上c	
2313	80-3	捨て場	VIIU-64	2	深鉢	口縁～胴部	28.3		<23.6>	1270	4単位波状口縁(台形突起)→ボタン状突起・口縁併走隆帯貼付→隆帯(波状→横位区画→弧状文・縦位)貼付→ヘラ刺突、RL横回、口縁突起に貫通孔	円上c	口縁部穿孔
2329	80-4	捨て場	VIV-67	3	深鉢	口縁～胴部			<23.2>	1700	4単位波状口縁(突起欠損)、隆帯(口縁併走・2条横位区画→4単位山形→縦位区画・4単位X字形対弧文→充填弧文・連結縦位、口縁波状)貼付→斜向刺突列、胴部結束1種(LR+RL)横回	円上c	胴部内面下位黒色化
9390	80-5	捨て場	IXB-84	2	深鉢	口縁～胴部	37		<41.7>	5140	4単位波状口縁(台形突起)、胴部結束1種(LR+LR;別条r結縛付)横回→隆帯(2条口縁併走・2条横位区画→2単位山形文→連結・充填弧文、口縁波状)貼付→半竹斜向刺突列→2×4単位円形貫通孔→2×4単位環状貼付→隆帯ヘラ刻み	円上c	個1072
2589	81-1	捨て場	VIX-70	10・15	深鉢	口縁～胴部	37.5		<28.7>	2750	4単位波状口縁(台形突起)、隆帯(口縁併走・横位区画→突起区画弧文・4単位逆U字文→X字形対弧文→口縁波状)貼付→突起内貫通孔→隆帯上L側圧→区画内半竹刺突列、胴部結束1種(0多RL+0多LR)横回	円上c	7トレ
2549	81-2	捨て場	VIIU-65	3	深鉢	口縁～胴部	18.9		<12.8>	443	平口縁(折返し状)、隆帯(2条横位区画・口縁波状→上下2段8単位連弧文・縦位連結)貼付→隆帯上・口縁L側圧→角棒斜向刺突列、胴部0多RL(結束1種?)横回	円上c	
2498	81-3	捨て場	VIIW-67	3	深鉢	口縁～胴部	(18)		<14.0>	490	隆帯(口縁併走・2条横位区画→6単位弧状文・楕円形文→連結横位・X字形→連結への字、口縁波状)貼付→隆帯上L側圧→半竹?斜向刺突列、同部RL(結束1種?;別条r結縛付)横回	円上c	内面下半スコグ状炭化物付着
2327	81-4	捨て場	VIS-63	3	深鉢	口縁～胴部	19.9		<16.6>	750	平口縁、隆帯(口縁併走・2条横位区画→4単位X字形対弧文→2単位山形文→起点が1/4単位ずれる2単位山形文→口縁波状)貼付→隆帯上L側圧→半竹刺突列・胴部結束1種(0多LR+0多RL;別条0結縛付)横回	円上c	外面胴部上半スス状炭化物付着
2671	81-5	捨て場	VIX-69	1・2	深鉢	口縁～底部	17.4	(7.3)	18.1	884	平口縁(折返し状)、4単位下顎状突起→隆帯(2条横位区画→4単位弧文→連結弧文・突起側縁隆帯→連結斜位・口縁鎖状)貼付→角棒斜向刺突列→隆帯上L側圧、胴部結束1種(LR+RL)横回→底部側面横ケズリ	円上c	SI65内出土
2540	81-6	捨て場	VIV-66	3	深鉢	口縁～胴部	17.6		<12.3>	317	平口縁→4単位ボタン状突起貼付→隆帯(口縁併走・2条横位区画→4単位X字形対弧文→連結縦位→充填弧文、波状)貼付→ヘラ刺突列充填、胴部結束1種(LR+RL)横回、突起上L渦巻側圧	円上c	
2535	81-7	捨て場	VIIU-65	3	深鉢	口縁～底部	19.7	(8)	22.1	1217	平口縁、隆帯(口縁併走・2条横位区画→6単位ボタン状貼付→12単位X字形対弧文・連結縦位→波状)→隆帯区画内L・R平行側圧→半竹刺突列→隆帯上・口縁L・R側圧、胴部結束1種(0多RL+0多LR;結縛付)横回	円上c	補修孔有り
2331	81-8	捨て場	VIT-65	3	深鉢	口縁～底部	35.8	13.1	40.9	5500	平口縁(断面三角形)→隆帯(2条横位区画→4単位Ω形・2単位の上下交互弧文→4単位?交互への字文→充填弧文、口縁鎖状)貼付→ヘラ刺突列充填・隆帯上L側圧、胴部結束1種(0多LR+0多RL;別条r結縛×2種あり)横回→胴部波状隆帯貼付→L側圧	円上c	内面下半黒色化、文様割り付けの不整合部分有り。
2382	81-9	捨て場	VIIU-63	2	小型深鉢	胴部～底部		5.6	<7.9>	240	隆帯(2条横位区画→区画帯下波状・連結縦位、X字形?)貼付→ヘラ刺突列→隆帯上L側圧、胴部下位LR(別条r結縛付)横回→底部側面横ケズリ	円上c	内面暗色化
2312	81-10	捨て場	IXC-74	2	深鉢	口縁～胴部	(26.1)		<18.9>	1477	4単位波状口縁(台形突起)、貫通孔、隆帯(貫通孔縁辺・折返し状口縁併走・2条横位区画→8単位連弧文→楕円+波状→4単位口縁併走、区画帯下連弧文)貼付→隆帯上斜向刺突列→胴部0多RL横回	円上c	
2786	82-1	捨て場	IXB-81	2	小型深鉢	口縁～底部	12.1	5.8	11	280	平口縁(折返し状)、三脚橋状把手→隆帯(横位区画→上下2段6単位弧文→把手直下・区画隆帯上4単位弧文→4単位楕円形・連結弧文、口縁波状)貼付→角棒斜向刺突列、(横位区画隆帯→)胴部RL横回	円上c	内面スス状炭化物付着

土器観察表(1・2・3層一括12)

管理番号	図番号	出土位置	グリッド	層位	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	文様等の属性	型式	備考
2547	82-2	捨て場	VIIIW-66	3	深鉢	口縁～胴部	(23)		<23.5>	1350	平口縁(断面三角形)、胴部結束1種(LR+RL)横回→三脚橋状把手(欠損)→隆帯(2条横位区画→4単位X字形対弧文・2×4単位橢円形文→連結・充填弧文、口縁波状)貼付→半竹刺突列	円上c	
2555	82-3	捨て場	IXA-70	3	深鉢	口縁～胴部	39.9		<29>	3035	4単位波状口縁(台形突起)、突起内面非貫通孔3×4単位→隆帯(2条横位区画・突起外面对弧→4単位口縁併走→突起区画弧文・4単位山形文→縦位連結→4単位重複対弧文→縦位・斜位連結、口縁波状、区画帯下波状)貼付→ヘラ刺突列充填、胴部結束1種(LR+RL)横回→区画帯直下ナデ消し	円上c	波頂内面に非貫通孔×3による人面様表現あり
2586	82-4	捨て場	IXB-75	2	深鉢	口縁～胴部	(27.7)		<16.8>	895	口端突起(欠損)内面ノの字形隆起帯、胴部結束1種(LR+RL;別条結縛付)横回→隆帯(2条横位区画→4単位山形→重複連弧・波状文、口縁波状、区画帯下波状?)貼付→区画内ヘラ刺突列、貫通孔	円上c	
2325	83-1	捨て場	VIIIW-66	3	深鉢	口縁～胴部	(42.9)		<29.7>	2150	口縁併走隆帯2重貼付→4単位偏頂口端突起→4単位三脚橋状把手→胴部結束1種(LR+RL)横回→胴部隆帯(2条横位区画→4単位X字形対弧文→縦位連結→翼状対弧文→充填弧文、区画帯下垂下弧文)・口縁部隆帯(突起内外橢円文→波状・クリップ)貼付→半竹刺突列→隆帯上L側圧・ヘラ刺突列	円上c	
2538	83-2	捨て場	VIIIW-65	3	深鉢	口縁～底部	16.0	7.6	16.5	590	平口縁→隆帯(口縁併走→波状)貼付→隆帯上L側圧→胴部;R(自条結縛付)横回	円上c	
2887	83-3	捨て場	IXB-79	炭2層下	深鉢	口縁～底部	(21.4)	9.8	23.1	560	結束1種(LR+RL)横回、口縁部横ナデ、胴部下位縦ケズリ	円上c	
2536	83-4	捨て場	VIIIW-66	3	深鉢	口縁～胴部	29.4		<32.9>	2066	4単位波状口縁(台形突起)、2×4単位円形貫通孔、結束1種(RL+LR;別条結縛付)→隆帯(突起区画弧文→4単位翼状対弧文→4単位重複波状→充填弧文・連結縦位・斜位)→角棒斜向刺突列	円上c	
2445	83-5	捨て場	VIIIW-67	3	台付深鉢	口縁～胴部			<5.7>	41	隆帯(2条横位区画→鋸歯状、他)貼付→ヘラ刺突列	円上c	
3435	83-6	捨て場	VIIIW-65	3	(台付)浅鉢	口縁～胴部	(20)		<5>	128	4単位橋状把手→隆帯貼付→L側圧	円上c ~d	
3250	83-7	捨て場	VIIIW-66	3	深鉢	口端突起			<6.5>	87	台形突起、隆帯(Y字→山形・口縁併走→隆帯上・突起上)貼付→隆帯間・隆帯上斜向刺突列、内面2条平行太沈線	円上c	
3249	83-8	捨て場	VIIIW-67	3	深鉢	口縁～胴部			<11.4>	95	台形口端突起、円形貫通孔、隆帯(口縁併走→突起区画弧文→横位区画→縦位区画・充填弧文)貼付→ボタン状突起→斜向刺突列→隆帯上L側圧、胴部結束1種(LR+RL)横回	円上c	3トレ東、内外面スス状炭化物付着
3257	83-9	捨て場	IXB-77	2相当	深鉢	口端突起			<5.8>	111	台形口端突起、円形貫通孔×2、隆帯(端部渦巻付口縁併走→波状・縦位)貼付→半竹斜向刺突列→隆帯上ヘラ刻み	円上c	
2518	84-1	捨て場	VIIIW-66	3	深鉢	口端突起			<6.6>	97	波状口縁(台形突起)、円形貫通孔、ボタン状突起、隆帯(口縁併走→突起区画弧文・口縁波状→縦位、他)貼付→斜向刺突列→口縁・突起・隆帯上L側圧	円上c	
2389	84-2	捨て場	VIIIW-63	2	深鉢	口縁～胴部			<39.8>	950	波状口縁(先割れ突起)、口縁併走隆帯・胴部RL(結束1種)横回→隆帯(口縁併走・横位区画?→縦位→隆帯脇沈線→翼状対弧文、他弧状文)貼付→隆帯上・隆帯間ヘラ刺突列	円上c	外面下位スス状炭化物付着
2482	84-3	捨て場	IXB-74	2	深鉢	口縁部			<5.3>	33	折返し状口縁、段差状口端突起、横位橋状把手→沈線(横位波状→縦位・斜位短沈線充填)	円上b	
3237	84-4	捨て場	IXB-76	3	球胴深鉢?	胴部～底部		(1.9)	<5>	77	RL・R結節縦回	円下d2	底部内面炭化物付着
2398	84-5	捨て場	VIIIW-64	2	浅鉢	口縁～底部	20.0	10.0	9.8	380	平口縁(口端面取り)、口縁部4単位L形区画隆帯→L側圧(口縁併走→隆帯上・隆帯脇・縦位弧状)、胴部L横・縦回	円上a	
2452	84-6	捨て場	VIIIW-73	III相当	浅鉢	口縁～胴部			<5.6>	63	口縁部交互刺突文、L・R平行側圧、胴部結束1種(LR+RL)縦回	円上b	異系統土器(←大木7b)
2448	84-7	捨て場	VIIIW-J-65	3	深鉢	口縁～胴部			<6.8>	45	折返し状口縁→LR横回→隆帯(端部鉤状横位、蛇行垂下?)貼付→口縁部交互刺突文・胴部沈線(鉤上端部横位)	円上e	異系統土器(←大木8a)

土器観察表(1・2・3層一括13)

管理番号	図番号	出土位置	グリッド	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	文様等の属性	型式	備考
2867	84-8	捨て場	IXB-80	2	鉢型	口縁～底部	13.2	7.6	13	592	4単位縦位隆帯→く字隆帯→LR横・斜回・R結節(地文LRの結節?)横回→R側圧→半竹平行沈線→半竹刺突列→沈線(垂下2単位・逆V字2単位を交互に充填)→R横・縦位側圧、口縁部波状隆帯→隆帯脇交互刺突文	円上b	外面上半スス状炭化物付着
2299	85-1	捨て場	IXB-74	2	小型深鉢	口縁～底部	(12)	5.1	11	250	平口縁(折返し状)→隆帯(横位区画・口縁併走→4単位山形→上下交互充填弧文、口縁波状)貼付→胴部LR(結束1種の可能性あり)横回	円上d	
2363	85-2	捨て場	VIIIU-65	3	深鉢	口縁～胴部	15.6		<12.9>	289	結束1種(LR+RL)横回→隆帯(口縁併走・横位区画→充填弧文)貼付→口縁・隆帯上L側圧	円上d	
2361	85-3	捨て場	VIII V-65	3	深鉢	口縁～胴部	(36.3)		<34.2>	2460	4単位台形口端突起→口縁併走隆帯貼付(折返し状)→4単位橋状把手→口縁部隆帯(波状・口端クリップ等)貼付、胴部結束1種(LR+RL)横回→胴部隆帯(口縁併走・2条横位区画→変則的な対弧・連弧文)貼付	円上d	
2541	85-4	捨て場	VIII X-69	3	深鉢	口縁～底部	33.1	(9.5)	36.6	2513	4単位波状口縁(台形突起)、突起内面刺突→突起外面三脚橋状把手→結束1種(0多RL+0多RL;結縛付)横回→隆帯(2条横位区画・突起区画弧文→縦位連結→2条4単位弧文・充填・連結弧文、区画帯下連弧文)貼付	円上d	
2297	85-5	捨て場	VIII T-63	2	深鉢	口縁～胴部	(26.7)		<20.9>	960	4単位波状口縁(台形突起、内面に刺突)、口縁併走隆帯(折返し状)→突起外面ボタン状突起→結束1種(LR+RL)横回→隆帯(横位区画・突起区画弧文→2×4単位縦位連結→4単位対弧文→充填・連結弧文・区画帯下連弧文、口端クリップ)貼付→隆帯脇沈線(一部)	円上d	
2323	85-6	捨て場	VIII W-68	3	台付舟形浅鉢	口縁～底部	(25.5)		13.1	1327	2単位波状口縁、結束1種(LR+RL)横回→2単位橋状把手・6単位ボタン状突起→隆帯(口縁併走→口縁鎖状→胴部連弧状)貼付→隆帯上L側圧	円上d	
2251	86-1	捨て場	VIII Y-70	1・10	深鉢	口縁～胴部	22.5		<23.8>	619	2単位波状口縁(台形突起)→貫通孔→三脚橋状把手→結束1種(LR+RL;結縛付)横回→口縁併走隆帯(折返し状)貼付→素文隆帯波状貼付	円上d	7トレ、補修孔一対有り
2915	86-2	捨て場	IXA-83	2	深鉢	口縁部			<3.8>	26	口端併走隆帯→接合痕ナゲ消し→隆帯長楕円?文→刺突列、胴部RL横回→胴部隆帯	円上d	
2298	86-3	捨て場	VIII X-72	2・3	深鉢	口縁～底部	25.4	10.7	29.2	1820	折返し状口縁、4単位偏頂口端突起→横位橋状把手→LR横回→素文隆帯(2条4単位垂下→3条4単位口縁併走・3条4単位対弧文→充填弧文・連結縦位、突起内面楕円形、口縁波状)貼付→突起・把手上L側圧	円上d	補修孔有り
2807	86-4	捨て場	IXB-79	炭2層	深鉢	口縁～胴部	(32.6)		<25.3>	2100	4単位波状口縁(台形突起)、突起外面環状貼付→結束1種(0多RL+0多LR)横回→隆帯(口縁併走・2条横位区画→突起区画弧文・4単位環状・2条4単位縦位連結→4単位X字形対弧文・斜位連結・区画帯下連弧文、口端クリップ)貼付	円上d	外面上半・内面下半ススコグ状炭化物付着
2490	86-5	捨て場	VIII S-62	1	深鉢	口縁～胴部			<8.6>	155	折返し状口縁(偏頂口端突起)、RL横・斜回→隆帯(2条山形→連結横位・弧文・縦位→ボタン状、口縁鎖状)貼付	円上d	外面スス状炭化物付着
2809	86-6	捨て場	IXB-79	炭1層	深鉢	口縁～胴部	(43.8)		<34.7>	4548	平口縁、口縁併走隆帯(折返し状)、結束1種(LRL+RLR;別条0結縛付)横回→4単位橋状把手→素文隆帯(上下2段×2単位楕円形→楕円形間の連結弧文→その他連結弧文・X字文・把手装飾、口縁鎖状)→隆帯脇ナゲ	円上d	外面上半・内面下半ススコグ状炭化物付着
2544	86-7	捨て場	VIII U-65	3	深鉢	口縁～胴部	(13.9)		<11.8>	238	4単位波状口縁(山形突起)、突起外面ボタン状突起→隆帯(口縁併走・2条4単位縦位→2条4単位X字形対弧文・口縁波状)貼付→突起直下貫通孔→内面ミガキ、胴部RL横回	円上d	
2913	87-1	捨て場	IXC-77	2	深鉢	口縁部			<8>	110	台形口端突起、RL横・斜回→隆帯(胴部弧状、突起内外面及び底部に渦巻弧文・逆三角形文、突起上面重圍文)貼付→一部隆帯のヘラ刻み	円上d	
3238	87-2	捨て場	VIII V-66	3	深鉢	口縁～胴部			<9.5>	89	台形口端突起、口縁併走隆帯(折返し状)貼付→LR縦回(隆帯上横回)→下顎状突起・その他隆帯(突起区画弧文→縦位→横位、突起外面横位・弧文、他)貼付、突起内面円形刺突・2条逆ハの字沈線	円上d	
5111	87-3	捨て場	VIII X-70	1~10	深鉢	口縁～胴部			<27.6>	1240	波状口縁(推定4単位)、口縁併走隆帯→RL横回→隆帯(3段4単位対弧文→連結弧文)	円上d	トレンチ7、器面風化著しい、器面下半部に黒斑
2804	87-4	捨て場	IXC-83	3	深鉢	口縁～底部		11.4	<32.2>	2100	4単位波状口縁(突起欠損)、口縁併走隆帯(折返し状)→LR横回→隆帯(4単位垂下→2条横位連結→2条対弧文+2条山形文/3条弧文+2条横位/1条横位+X字形対弧文/2条弧文+2条横位充填、口縁波状)貼付→垂下隆帯上刺突列	円上d	個1206、外面上半・内面下半ススコグ状炭化物付着

土器観察表(1・2・3層一括14)

管理番号	図番号	出土位置	グリッド	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	文様等の属性	型式	備考
2822	87-5	捨て場	IXA-79	2	深鉢	口縁～胴部	31		<29>	2300	平口縁(折返し状)→結束1種(LR+RL)横回	円上d	外面上半・内面下半スコグ状炭化物付着
2801	87-6	捨て場	IXB-79	2	深鉢	口縁～底部	28.4	9.8	33.5	2700	平口縁(折返し状)→RL横回→口縁波状隆帯貼付	円上d	外面上半・内面下半スコグ状炭化物付着
2824	87-7	捨て場	IXB-80	2	鉢形	口縁～底部	14.2	6.8	7.5	200	橋状把手(推定2単位)→RL横回	円上d	内面下半スコグ状炭化物付着
3740	87-8	捨て場	VIIW-67	3	深鉢	口縁部			<3.3>	21	折返し状口縁、0多LR横回	円上d	口縁外面に種子様の圧痕→圧痕観察実施(6分冊4章2節参照:圧10)
2546	88-1	捨て場	VIIIU-65	3	深鉢	口縁～胴部	24.7		<20.6>	1160	4単位波状口縁(台形突起)、突起外面ボタン状突起貼付→RL横回・突起中央貫通孔・外面に刺突	円上d	
2800	88-2	捨て場	IXC-82	3上面	深鉢	口縁～胴部			<14>	540	4単位波状口縁(折返し状、突起欠損)、円形貫通孔、結束1種(LR+LR)横回→4単位ボタン状突起(剥落)→素文隆帯(4単位十字区画文→隆帯脇ナデ)→2条4単位弧文→隆帯脇ナデ、口縁波状→口縁併走)貼付	円上d	内面スコグ状炭化物付着
2799	88-3	捨て場	IXB-79	炭2層	深鉢	口縁～底部	(22.4)	8.5	27	1123	4単位山形口端突起(内面に円形刺突)、結束1種(RL+L)横回→隆帯(口端クリップ状・突起区画弧文(剥落)→U字形垂下文(剥落))	円上e	外面上半・内面下半スコグ状炭化物付着
2816	88-4	捨て場	IXB-83	2	深鉢	口縁～胴部	(18.8)		<20.2>	340	4単位台形口端突起、突起外面三角形隆帯貼付・口縁併走隆帯(折返し状)貼付→RL横回→沈線(4単位垂下→横位・口縁併走→4単位ハの字又は上下ハの字文充填→充填弧文)、口縁連続ハの字状刻み	円上e	外面上半・内面下半スコグ状炭化物付着 補修孔有り
2820	88-5	捨て場	IXD-84	2	深鉢	口縁～底部	29.2	11.2	36	2700	4単位波状口縁(山形突起)、突起隆帯(外面↑形、内面横位1条)貼付→口縁L側圧、胴部RL横回→沈線(対弧文を含む弧文)	円上e	外面上半・内面下半スコグ状炭化物付着
2306	88-6	捨て場	VIII T-63	2	深鉢	口縁～胴部	(37)		<30.1>	1163	4単位波状口縁(剣先状突起)、突起素文隆帯(外面対弧文、内面横走)貼付、胴部RL斜・横回→2条沈線(口縁併走、4単位対弧文)、口縁ヘラ刻み	円上e	
2815	89-1	捨て場	IXA-78	2	深鉢	口縁～胴部	19.5		<16.6>	280	1単位?山形口端突起、口縁併走隆帯(折返し状)→突起内外面に隆帯対弧文→3/4単位?口端クリップ隆帯貼付→胴部結束2種(LR+RL)横回→沈線(3条4単位垂下文→4単位横走沈線)、口縁・隆帯上LR側圧	円上e	外面上半スコグ状炭化物付着
2460	89-2	捨て場	VIIIW-67	3	深鉢	口縁～胴部	(18.4)		<7.4>	135	4単位山形口縁突起、口縁併走隆帯(折返し状)→突起隆帯(e字形)、胴部RLR横回→4条横走沈線	円上e	
2318	89-3	捨て場	VIIIW-66	3	深鉢	口縁～底部	(9.9)	5.9	13.6	272	4単位山形口端突起、隆帯(横位・環状・縦位)貼付→ボタン状突起貼付→LR胴部横回・口縁部一部縦回、口縁ヘラ刺突列	円上e	
2317	89-4	捨て場	VIIIY-71	2・3	深鉢	口縁～胴部	14.2	(6.3)	(16.7)	250	4単位剣先状口端突起→口縁併走隆帯(折返し状)貼付→LR横・斜回→突起隆帯(内外面对弧文、側縁口端クリップ)→U字沈線垂下文、口端円形刺突列	円上e	内面スコグ状炭化物付着、補修孔一対有り
2469	89-5	捨て場	VIII V-66	3	深鉢	口縁～胴部	(12)		<11>	150	口縁併走隆帯貼付→隆帯脇沈線(入れ子状の2重口縁を形成)→RL縦回→胴部隆帯(端部連結の蛇行垂下→中央垂下)貼付	円上e	
3514	89-6	捨て場	VIII V-66	3	小型深鉢	口縁～底部	6.9	2.7	8.2	117	端部鉤付の垂下隆帯貼付	円上e	
2819	89-7	捨て場	IXB-82	1・2	深鉢	口縁～胴部	(32.5)		<19.9>	780	4単位台形口端突起、口縁併走隆帯(折返し状)貼付→LR又はR附加条LR横・斜回→隆帯(波状、突起外面横位、突起内面横位・弧状)貼付・沈線(2条横位区画→4単位垂下→4~5条4単位横位)	円上e	個1002、外面スコグ状炭化物付着
2253	89-8	捨て場	IXB-73	1・2	深鉢	口縁～胴部	15.7		<12.7>	328	4単位波状口縁(台形突起)、突起内外面横走隆帯→胴部RL横回・口縁側圧→沈線(3条4単位縦位→鉤付き4単位横位・菱形→充填弧文)	円上e	
2823	89-9	捨て場	IXA-80	2	深鉢	口縁～胴部	32.2		<21.1>	940	口縁併走隆帯(折返し状)貼付→4単位剣先状突起→4単位下顎状突起→LR斜回→隆帯(4単位垂下文、突起内外面横走・三角形・対弧文・己字文)貼付→隆帯上刺突列・口縁LR側圧	円上e	外面スコグ状炭化物付着
2316	89-10	捨て場	VIII V-65	3	深鉢	口縁～底部	18.1	6.6	20.8	670	4単位波状口縁(台形突起)、突起隆帯(下顎状突起→▽形)貼付→口縁併走隆帯貼付→RL横回、底部側面横ナデ	円上e	

土器観察表(1・2・3層一括15)

管理番号	図番号	出土位置	グリッド	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	文様等の属性	型式	備考
2584	90-1	捨て場	VIII-72	2・3	深鉢	口縁～底部	18.5	7.5	19.5	840	口縁併走隆帯貼付(折返し状)→胴部RL横回、口縁RL側圧	円上e	
2821	90-2	捨て場	IXA-79	炭層上	深鉢	口縁～胴部	36.2		<41.7>	1460	4単位剣先+先割れ口端突起、突起隆帯(基部への字区画、内外面V字形、側面U字形)貼付→胴部RL横回→口縁ヘラ刻み	円上e	外面中位・内面下半ススコグ状炭化物付着
2818	90-3	捨て場	IXD-85	2	深鉢	口縁～底部	29.1	9.3	40	2420	4単位剣先状口端突起→4単位下顎状突起→胴部LR(直前段異条)横回→突起内外面隆帯弧文・対弧文・口縁RL横位側圧→側圧上円形刺突列	円上e	補修孔1対有り、外面上半・内面下半ススコグ状炭化物付着
2813	90-4	捨て場	IXB-82	2	深鉢	口縁～胴部	15.9		<16.6>	380	4単位山形口端突起(1単位のみ貫通孔有り)、突起内外面隆帯(対弧文又は縦位2条)貼付→RL横回→横走沈線	円上e	外面上半・内面下半ススコグ状炭化物付着
2812	90-5	捨て場	IXB-78	2	深鉢	口縁～胴部	17.3		<20.3>	500	4単位波状口縁(3/4単位山形、1/4単位剣先付アーチ状の複合突起)、3単位下顎状突起→口縁併走隆帯(先割れ突起上でアーチ形成→剣先状突起付加)→突起隆帯(外面对弧・e字形、内面三角形、口端クリップ)→胴部結束1種(RL+RL)横回・口縁RL側圧→沈線(9～10条横位)	円上e	補修孔1対有り、外面上半ススコグ状炭化物付着
2464	91-1	捨て場	VIIIW-67	3	深鉢	口端突起			<8.6>	152	台形口端突起、口縁併走隆帯貼付→横位・波状隆帯貼付、胴部RL横回→沈線	円上e	
2462	91-2	捨て場	VIIIW-69	2・3	深鉢	口縁～胴部			<12.6>	268	台形口端突起(端部欠損)、口縁併走隆帯貼付→接合痕ナデ消し→突起隆帯・胴部RL横回→沈線(弧状、ハの字+X字垂下文)	円上e	
3239	91-3	捨て場	VIIIY-71	II	深鉢	口縁～胴部			<13.4>	267	山形口端突起→口縁併走隆帯(端部突起化)貼付→接合痕ナデ消し→結束1種(LR+RL)横回→蛇行垂下隆帯貼付→沈線(突起外面弧状・菱形、横位、突起隆帯を区画する対弧文)→斜向刺突列	円上e	
2461	91-4	捨て場	IXA-73	2	深鉢	口縁～胴部			<10.8>	72	台形口端突起、突起隆帯(突起区画弧文、上面にT字文)→口縁ヘラ刻み、胴部RL横回→3条沈線(横位、弧状)	円上e	
2458	91-5	捨て場	VIIIW-67	3	深鉢	口縁～胴部			<11.2>	110	口端突起(貫通孔付、端部欠損)、口縁併走隆帯→接合痕ナデ消し→L斜位側圧、胴部RL横回→沈線(2条突起区画弧文→5条縦位→2～5条横位)	円上e	
3252	91-6	捨て場	IXD-74	2	深鉢	口縁部			<7.5>	59	先割れ口端突起→突起隆帯(内面2条横位・環状、上面環状、外面横位・U字)貼付、口縁併走隆帯貼付→下顎状突起→隆帯接合痕ナデ消し→RL横・斜回・側圧	円上e	外面スス状炭化物付着
3376	91-7	捨て場	IXB-82	2相当	深鉢	口縁～胴部			<7.5>	38	足形口端突起(刻み×3で4本指作出)、RL横回	円上e	
3375	91-8	捨て場	IXB-81	2	深鉢	口縁～胴部			<5.3>	42	足形口端突起(刻み×4で5本指作出)、突起下楕円形貫通孔、口縁併走隆帯貼付→接合痕ナデ消し→隆帯脇沈線、胴部RL縦回→3条横位沈線	円上e ～榎林	両面穿孔の補修孔有り
2923	91-9	捨て場	IXD-69	3	深鉢	口縁部			<5.1>	40	沈線(鋸歯状、他)、口縁ヘラ刻み、半竹斜向刺突列	円上e	外面スス状炭化物付着
2866	92-1	捨て場	IXA-80	炭3層下(2層)	深鉢	口縁～胴部	(18.9)		<13.6>	380	4単位波状口縁、LR横回→隆帯(4単位波状→連結弧文)→沈線(波状隆帯脇→横位隆帯脇・4単位口縁併走)	円上d	外面上半ススコグ状炭化物付着
2397	92-2	捨て場	VIII-69	2c	深鉢	口縁～胴部	20		<17.7>	640	横位区画隆帯貼付→LR口縁部横回・胴部縦回→口端併走隆帯(覆輪状)→4単位渦巻つなぎ隆帯弧文	円上d	器面風化顕著
2481	92-3	捨て場	VIII-66	3	浅鉢?	口縁部			<3.2>	17	2条組弧状隆帯→L弧状・渦巻状側圧	円上d	
2994	92-4	捨て場	IXB-76	I・II	深鉢	口縁部			<5.2>	48	口縁部隆帯(楕円形区画文・渦巻文・横位区画→波状文)貼付→接合痕ナデ消し→胴部RL縦回・側圧→隆帯脇沈線	円上d ～e	異系統土器(←大木8a)
2995	92-5	捨て場	IXB-79	2	深鉢	口縁～胴部			<6.4>	49	口縁併走隆帯貼付→隆帯端部で下顎状突起作出→胴部0多RL縦回→隆帯(横位、突起直下で蛇行垂下)貼付→口縁LR側圧	円上d	異系統土器(←大木8a)
3789	92-6	捨て場	VIII-66	3	深鉢	口縁～底部	<19.2>	(8.3)	25.3	1088	4単位波状口縁(皿状突起)→突起上面隆帯C字文、3/4単位橋状把手→胴部RL縦回→隆帯(口縁併走、垂下)→沈線(横位波状→垂下隆帯脇、翼状対弧文、剣先状垂下文)→隆帯脇・沈線脇・橋状把手上LR側圧・隆帯間ヘラ刻み	円上e	

土器観察表(1・2・3層一括16)

管理番号	図番号	出土位置	グリッド	層位	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	文様等の属性	型式	備考	
3022	92-7	捨て場	IXA-79	2	深鉢	胴部			<11.9>	100	LR縦回→隆帯(横位、渦巻、他)貼付→沈線(隆帯脇→波状)	円上e	異系統土器(←大木8a)、外面スス状炭化物付着	
2449	92-8	捨て場	VIIU-65	3	深鉢	胴部			<9.3>	80	隆帯(横位区画、蛇行垂下文)貼付→LR横回→半竹内面側を用いた半隆起線文(横位、渦巻端部)・刺突+円形沈線	円上e	個149、異系統土器(←大木8a)	
2494	93-1	捨て場	VIII V-67	3	深鉢	口縁~胴部			<35.7>	819	折返し状口縁→RL横回→沈線(十字文付加逆U字→連結弧状→十字文付加X字文)	円上e		
2406	93-2	捨て場	VIII W-67	3	浅鉢	口縁~胴部	<18.1>		<5>	90	4単位?口縁外面突起→4単位環状弧状隆帯→沈線(横位区画、隆帯脇、環付?弧文充填)→RL横回	円上e		
2991	93-3	捨て場	IXB-84	1	浅鉢	口縁~胴部			<3.3>	20	隆帯(口縁併走、横位区画)貼付→ボタン状貼付→胴部LR横回→LR側圧(口縁長楕円形、胴部Y字垂下付横位)	大木7b	異系統土器(←大木7b)	
2990	93-4	捨て場	IXB-77	2	浅鉢	口縁~胴部			<4.4>	40	内面口縁併走隆帯→隆帯脇沈線、口縁部外面隆帯(楕円形?)貼付→LR側圧(横位・弧状)	大木8a?	外面スス状炭化物付着	
2869	93-5	捨て場	IXC-83	3	浅鉢	口縁~胴部	(29.9)		<7.3>	420	平口縁、隆帯(口縁併走・横位区画→4単位縦位渦巻つなぎ文・4単位充填弧文)→RL横回→隆帯脇沈線	大木8a		
3379	93-6	捨て場	VIII R-61	2	台付	底部~脚部		10.2	<6.8>	218	4単位貫通孔、結束1種(LR+RL)横回	円上d		
3441	93-7	捨て場	IXB-79	3	台付	底部			<1.3>	34	基部4脚の台	円上d		
2373	93-8	捨て場	VIII W-68	3	舟形浅鉢	口縁~底部	<21.9>	11.9	9.3	480	1単位片口形成(欠損)、1単位橋状把手(欠損)、底面環状隆帯貼付(低い高台状)→ナデ	円上		
3443	93-9	捨て場	IXD-85	2	舟形浅鉢	胴部~底部			<7.3>	<3.4>	46	片口?	円上	
3541	93-10	捨て場	VIII Y-74	3	深鉢	底部		(9.2)	<3.4>	218	底面すだれ状圧痕	円上		
3543	93-11	捨て場	VIII V-65	3	深鉢	底部		10.6	<4.9>	220	底面網代痕	円上	圧痕観察実施(6分冊4章2節参照:底19)	
3759	93-12	捨て場	VIII T-64	2	深鉢	底部		<5.7>	<1>	33	不明	円上	内面種子様圧痕有り→圧痕観察実施(6分冊4章2節参照:圧29)	
3554・3558	93-13	捨て場	IXA-66・68	3	深鉢?	底部		12.4	<2.2>	187	胴部LRL?横回、底面すだれ状圧痕	円上	圧痕観察実施(6分冊4章2節参照:底28)	
2424	93-14	捨て場	VIII W-68	2	深鉢	胴部~底部		4.4	<3>	21	LR横回→垂下沈線	円上		
3787	93-15	捨て場	IXA-81	2	深鉢	胴部			<2.8>	10	LR?横回	円上d~e?	割れ口にヒメフナムシ圧痕→圧痕観察実施(6分冊4章2節参照:レ圧-01)	
2689	94-1	捨て場	VIII T-64	2	深鉢	口縁~胴部	25.2		<33.2>	1588	4単位波状口縁(3単位山形、1単位環状突起)→RL横回→沈線(環状突起直下でカニ手付垂下文)→3条4単位口縁併走・渦巻付鎖状→連結弧文・カニ手付垂下文)→口縁L側圧、山形突起装飾(内面への字形区画隆帯貼付)、環状突起装飾(内外面環状貼付→外面Ω形・内外面環状沈線)	榎林		
2814	94-2	捨て場	IXC-86	2	深鉢	口縁~胴部	(12.5)		<9.4>	110	3単位?波状口縁(山形突起)、突起外面隆帯(1単位垂下、突起間3単位?環状)貼付、口縁斜位沈線列、胴部RL横回→沈線(横位・鎖状文→4単位円形充填)	榎林		
2472	94-3	捨て場	VIII X-70	1・10	深鉢	口縁~胴部			<8.7>	70	波状口縁(環状突起?)、突起内隆帯貼付→隆帯脇沈線、胴部RL横回→沈線(口縁併走→充填弧文、波状)・口縁L側圧	榎林		
2471	94-4	捨て場	VIII Y-71	2	深鉢	口縁~胴部			<9.3>	110	LR横回・側圧→沈線(3条2段横位、2条波状)	榎林	外面スス状炭化物付着	
2383	94-5	捨て場	VIII S-63	3	深鉢	口縁~底部	(11.1)	5.0	12.3	340	波状口縁(山形口端突起)、口端併走沈線、突起外面環状貼付、胴部LR斜・縦回→沈線(3条横位→2条×4単位垂下→2条連結弧文)	榎林	底部剥落、内面下半スス状炭化物付着	
2829	94-6	捨て場	IXB-83	2	深鉢	口縁~胴部	<26.4>		<24.7>	1240	3単位?波状口縁、口縁斜位へラ刻み→口縁部隆帯(渦巻つなぎ区画文→X字形充填文)→胴部RL横回→胴部沈線(3条4単位口縁併走・対弧文→突起下U字文・垂下文)	榎林		
2810	95-1	捨て場	IXB-78	2	深鉢	口縁~胴部			<24.8>	600	4単位波状口縁(山形及び剣先状突起)、LR胴部横回・口縁側圧→沈線(3条口縁併走→3条連弧文他)、剣先状突起装飾(内上方・側面からの貫通孔・上面に刺突・短沈線)	榎林		

土器観察表(1・2・3層一括17)

管理番号	図番号	出土位置	グリッド	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	文様等の属性	型式	備考
2828	95-2	捨て場	IXC-82	2	深鉢	口縁～胴部	25		<22.4>	720	3又は4単位波状口縁(1/4単位大型異形、3/4単位山形口端突起)→口縁渦巻つなぎ弧文(端部鈎付口縁併走隆帯・大型突起環状成形→隆帯脇沈線)→胴部RL横回→胴部沈線(2条口縁併走、4単位対弧文→連結弧文)、大型突起内面環状・横位隆帯貼付	榎林	外面上半・内面下半スコグ状炭化物付着、補修孔有り
2292	95-3	捨て場	VIII-64	2	深鉢	口縁～胴部			<24.3>	404	波状口縁(単位不明)、環状口縁突起→口縁併走沈線、胴部LR横回→口縁部横ナデ、突起内外環状沈線	榎林	外面上半スコグ状炭化物斑状付着、底部穿孔?
2842	95-4	捨て場	IXB-79	2	深鉢	口縁～胴部	(40)		<33>	2460	4単位波状口縁、口縁渦巻つなぎ文(口縁併走隆帯→隆帯端部から橋状把手を成形→渦巻つなぎ沈線)、胴部LR横回、3条沈線(横位区画、鎖状対弧文→連結弧文)	榎林	外面中位スコグ状炭化物付着、補修孔有り
2438	95-5	捨て場	VIII-70	3	深鉢	口縁部			<3>	22	透かし構造を持つ立体装飾、渦巻付沈線文	榎林	
3023	95-6	捨て場	IXA-78	3	深鉢	口縁部			<4.4>	21	内面口縁併走隆帯貼付、C字形口縁突起貼付、LR横回→横位・渦巻付隆帯→隆帯脇沈線	榎林	
3024	95-7	捨て場	IXB-83	2相当	深鉢	口端突起			<5.3>	35	偏頂?口端突起、内面鈎付き隆帯貼付、突起貫通孔、外面隆帯貼付→RL充填→隆帯脇沈線→内外面化粧土塗布	大木8b?	胎土分析実施(6分冊4章7節:No.4)
2496	96-1	捨て場	VIII-67	3	深鉢	口縁～胴部			<14>	276	山形口端突起、口縁併走・突起直下横位隆帯貼付→接合痕ナデ消し→隆帯脇・渦巻つなぎ沈線→胴部RL縦回→3条沈線(弧文→突起直下縦位)、突起内面三角文貼付・剣先状垂下文(隆帯貼付→隆帯脇沈線)	榎林	
2520	96-2	捨て場		1～3	深鉢	口縁～胴部	(13.4)		<10.4>	54	波状口縁、胴部RL縦回→沈線(口縁渦巻つなぎ文、2条口縁併走→2条垂下→連結斜位・横位・充填弧文)	榎林	
2836	96-3	捨て場	IXC-82	2	深鉢	口縁～胴部	19.7		<17.3>	540	3単位波状口縁(山形突起)、口縁部隆帯(渦巻つなぎ区画文)→隆帯間沈線、胴部RL(L結縛付)横回→沈線(突起区画弧文・2条横位区画→7単位山形文)	榎林	外面スコグ状炭化物付着
2843	96-4	捨て場	IXB-84	2	深鉢	口縁～胴部			<14.2>	320	大小交互6単位波状口縁(2個1対の大型突起1単位含む)、隆帯(渦巻つなぎ区画文)貼付→接合痕ナデ消し→隆帯脇沈線、胴部RL横回→沈線(3条横位区画→2条連弧文)	榎林	外面上半スコグ状炭化物付着
2489	96-5	捨て場	VIII-71	1・10	深鉢	口縁部			<7.1>	48	波状口縁(山形突起)、隆帯(渦巻つなぎ区画文)貼付→接合痕ナデ消し→隆帯脇沈線・胴部RL横回→楕円形文貼付→口縁部竹管刺突	榎林	外面スコグ状炭化物付着
2508	96-6	捨て場	VIII-69	3	深鉢	口縁～胴部			<6.9>	100	波状口縁(山形突起)、口縁併走隆帯→接合痕ナデ消し→突起外面渦巻隆帯貼付→刺突・RL横回	榎林	
2825	96-7	捨て場	IXB-84	2	深鉢	口縁～底部	24.9	10.1	33.8	1960	3単位波状口縁、口縁併走隆帯→口端突起・鈎形隆帯貼付→隆帯脇沈線→LR胴部縦回・口縁横回、底面網代痕(もじり編み)	榎林	外面上半・内面下半スコグ状炭化物付着
2838	96-8	捨て場	IXB-84	2	深鉢	口縁～胴部	27.6		<32.8>	2200	3単位波状口縁、口縁隆帯(渦巻つなぎ区画文)貼付→接合痕ナデ消し→隆帯脇沈線、胴部RL縦回→胴部沈線(3条2段横位区画→2条横波状・2条6単位?波状垂下)	榎林	外面中位・内面下半スコグ状炭化物付着
2441	97-1	捨て場	VIII-67	3	深鉢?	口端突起			<5.2>	34	透かし入りの立体装飾、隆帯貼付→隆帯脇沈線	榎林	
2437	97-2	捨て場	VIII-69	2	深鉢?	口端突起			<3.4>	17	橋状把手装飾?、隆帯(渦巻つなぎ文)→接合痕ナデ消し→隆帯脇沈線	榎林	
2927	97-3	捨て場	IXB-80	2	深鉢	口端突起			<11.2>	245	透かし入りの大型装飾突起(土台成形→橋状構造の渦巻つなぎ隆帯文→隆帯脇沈線→ミガキ)、胴部RL縦回→口縁併走沈線	榎林	
2440	97-4	捨て場	VIII-69	2c	深鉢	口縁～底部	(9.7)	(4.1)	(14.3)	60	4単位波状口縁、口縁隆帯(渦巻つなぎ区画文)貼付→接合痕ナデ消し→隆帯脇沈線、胴部RL縦回→横位区画隆帯→隆帯脇沈線・沈線弧文	榎林	
2865	97-5	捨て場	IXC-81	2	深鉢	口縁～胴部			<10.8>	160	大小交互6単位波状口縁、口縁部隆帯(渦巻つなぎ区画文)貼付→接合痕ナデ消し→隆帯脇沈線、胴部RL縦回→胴部隆帯(渦巻つなぎ突起区画弧文→剣先形垂下文・元形等充填文)→沈線(隆帯脇、渦巻つなぎ垂下文)→隆帯上と沈線間の一部にミガキ	榎林	外面スコグ状炭化物付着
2826	97-6	捨て場	IXB-82	2	深鉢	口縁～底部	(17.1)		26.5	1220	3単位波状口縁、口縁部隆帯(渦巻つなぎ区画文)貼付→口端突起貼付→接合痕ナデ消し→隆帯脇沈線、胴部LR横回	榎林	外面上半スコグ状炭化物付着
2405	97-7	捨て場	VIII-66	3	浅鉢?	口縁部			<3.6>	60	LR縦回→隆帯(横位、渦巻つなぎ区画文)貼付→隆帯脇沈線	榎林	補修孔有り
2999	97-8	捨て場	VIII-69	3	深鉢	胴部			<7.6>	28	RL縦回→渦巻隆帯区画文→隆帯脇沈線	榎林	外面スコグ状炭化物付着
2834	97-9	捨て場	IXB-84	2	深鉢	口縁～底部	(14.8)	6.8	17	608	3単位?波状口縁、口縁部隆帯(渦巻つなぎ区画文)貼付→接合痕ナデ消し→隆帯脇沈線、横位区画隆帯貼付→胴部RL横回→胴部沈線(2条2段横位区画→波状・連弧文・Y字形垂下文)・頸部横ミガキ	榎林	外面上半内面スコグ状炭化物付着 補修孔有り
2844	97-10	捨て場	IXB-84	2	深鉢	口縁～胴部	(24.6)		<22.4>	1040	平口縁、LR横回→胴部3条沈線(横位区画→連弧文→垂下文)	榎林	内面上半・内面下半スコグ状炭化物付着

土器観察表(1・2・3層一括18)

管理番号	図番号	出土位置	グリッド	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	文様等の属性	型式	備考
2348	97-11	捨て場	VIII-72	3	深鉢	口縁～胴部	13.0		<11.6>	160	口端横ナデ→胴部RL横回→浅い沈線(2条横位区画・4単位楕円形文→区画帯下弧文)	榎林	
2350	98-1	捨て場	VIII-66	3	深鉢	口縁～底部	(18.2)	8.2	20.2	659	胴部RL横回→沈線(3条2段横位)	榎林	
2497	98-2	捨て場	VIII-65	2	深鉢	口縁～胴部	(18.3)		<16.9>	470	隆帯(口縁併走・横位区画→渦巻つなぎ区画文)貼付→4単位裝飾口縁突起(環状基部貼付→環状帯を三脚で接続)→口縁部RL・LR横回→隆帯上・隆帯脇沈線、胴部RL縦回→沈線(3条2段横位→3条縦位)→頸部ミガキ	榎林	外面スス状炭化物付着
2861	98-3	捨て場	IXA-80	2	深鉢	口縁～胴部	38.8		<44>	5600	R単軸1類胴部縦回・口縁部横回→3条横位区画沈線	榎林	外面中位ススコグ状炭化物付着
2850	98-4	捨て場	IXB・C-83	2相当(炭層上)	深鉢	口縁～底部	(31.7)	11.6	42	1420	4単位波状口縁(山形突起)、口縁部隆帯(渦巻つなぎ区画文)→接合痕ナデ消し→隆帯脇沈線、胴部LR縦・横回→胴部沈線(2条横位→連弧文・横位展開の渦巻つなぎ文→V字形垂下文)	榎林	煮沸痕不明瞭
2845	98-5	捨て場	IXD-85	2	深鉢	口縁～胴部	(25.1)		<27.6>	640	大小交互6単位波状口縁(山形突起)、口縁併走隆帯(折返し状)→口縁部沈線(6単位渦巻つなぎ文)・胴部LR斜回→胴部沈線(3条6単位横位→横位連結の渦巻つなぎ垂下文)	榎林	外面上半・内面下半スス状炭化物付着
2832	99-1	捨て場	IXB-81	2	深鉢	口縁～底部	(27.3)	7.8	34.2	1400	4単位波状口縁、口縁部隆帯(8単位渦巻つなぎ区画文)貼付→接合痕ナデ消し→隆帯脇沈線、胴部LR横・斜回→胴部沈線(3条横位区画→渦巻弧文・棘付渦巻つなぎ垂下文)、底面網代痕	榎林	胴部上半・内面下半スス状炭化物付着
2837	99-2	捨て場	IXC-82	2	深鉢	口縁～胴部	(25.6)		<27.4>	1220	大小交互6単位の波状口縁(山形突起)、口縁部隆帯(6単位渦巻つなぎ区画文)貼付→接合痕ナデ消し→隆帯脇沈線、胴部LR縦回→胴部沈線(3条横位→渦巻・十字形付クランク状垂下文)	榎林	
2874	99-3	捨て場	IXB-80	2X	深鉢	口縁～胴部	9.2		<9.6>	120	4単位?口縁小突起、沈線(2条横位区画→2条連弧文→3条垂下文→2条横位・環状文)	榎林	18ベルト
2827	99-4	捨て場	IXC-83	2	深鉢	口縁～胴部	31.1		<22.7>	1700	大小交互6単位波状口縁(山形突起)、口縁部隆帯(6単位渦巻つなぎ区画文)→接合痕ナデ消し→隆帯脇沈線、胴部LR横回→胴部沈線(3条横位区画→3条縦位・玉抱き十字形垂下・Y字形垂下・棘付クランク文?)→区画沈線中刺突列	榎林	
2839	99-5	捨て場	IXC-80	2	深鉢	口縁～胴部	30.8		<22.7>	1620	大小交互8単位波状口縁(山形突起)、口縁部隆帯(渦巻つなぎ区画文)貼付→接合痕ナデ消し→隆帯脇沈線→竹管刺突、胴部LR縦回→沈線(横位連結するY字・十字形垂下文)	榎林	外面上半・内面下半ススコグ状炭化物付着
2885	99-6	捨て場	IXB-82	2	深鉢	胴部			<24.6>	840	LR縦回(単位間に縦位の空白帯を形成)→沈線(3条横位→弧文・十字形剣先付垂下文)	榎林	
2848	100-1	捨て場	IXB-80 IXC-80	2	深鉢	口縁～胴部	34.7		<49.5>	2700	6単位緩波状口縁、2条口縁併走隆帯・6単位環状貼付→斜向刺突列、胴部LR縦回→斜位ナデ消し帯・胴部沈線(3条横位→蛇行垂下文・剣先付垂下文)	榎林	外面上半・内面下半ススコグ状炭化物付着
2840	100-2	捨て場	IXC-83	2	深鉢	口縁～底部	22.7	9.4	28.5	1860	4単位口縁小突起、口縁部隆帯(渦巻つなぎ区画文)貼付→接合痕ナデ消し(部分的)→隆帯脇沈線、胴部LR縦回→沈線(5単位?同心円文→3条連結横位)	榎林	外面中位・内面下半スス状炭化物付着
2495	100-3	捨て場	VIII-64	3	深鉢	口縁部			<9.3>	344	山形口端突起、隆帯(口縁併走・横位区画→渦巻)貼付→接合痕ナデ消し(部分的)→隆帯上渦巻つなぎ沈線、胴部RL縦回→横ナデ	榎林	
3482	100-4	捨て場	VIII-70	3	深鉢	口縁～底部	10.1	5	12.4	170	口縁部隆帯(渦巻つなぎ区画文)貼付→接合痕ナデ消し→隆帯脇沈線、胴部LR横回	榎林	
2892	100-5	捨て場	IXC-82	2	深鉢	口縁～胴部	(8.7)		<8.8>	80	胴部R附加条LR縦回	榎林	個1053、外面スス状炭化物付着
2831	100-6	捨て場	IXE-86	2	深鉢	口縁～底部	<29.7>	(10.9)	39	3920	4単位波状口縁(山形突起)、口縁部隆帯(8単位渦巻つなぎ区画文)貼付→接合痕ナデ消し→隆帯脇沈線・円形刺突、胴部LR縦回→胴部沈線(2条横位→逆U字・十字形・クランク状渦巻つなぎ等各種垂下文)	榎林	外面上半・内面下半ススコグ状炭化物付着
2847	100-7	捨て場	IXB-83	2	深鉢	口縁～胴部	23		<14>	460	3単位波状口縁(山形突起)、胴部LR横回→口縁部沈線(渦巻つなぎ文)	榎林	外面ススコグ状炭化物付着
2863	101-1	捨て場	IXB-81	2	深鉢	口縁～底部	33.4	(11)	47	4680	大小各交互3単位波状口縁(山形突起:1/8単位大型)、口縁併走隆帯(折返し状)、1単位突起貫通孔、口縁部隆帯(渦巻つなぎ・双頭渦区画文)貼付→接合痕ナデ消し→隆帯脇沈線→隆帯上竹管刺突列、胴部LR縦回(単位間に縦位の無文帯形成)→胴部沈線(3条横位区画→3条4単位垂下・2条4単位蛇行垂下文)	榎林	外面上半・内面下半スス状炭化物付着、補修孔有り
2854	101-2	捨て場	IXC-82	2	広口壺	口縁～底部	(14)	7.2	17.5	700	平口縁、胴部LR横・縦回→胴部沈線(2条横位区画→渦巻つなぎ文)→区画沈線間刺突列	榎林	内面スス状炭化物付着

土器観察表(1・2・3層一括19)

管理番号	図番号	出土位置	グリッド	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	文様等の属性	型式	備考
2841	101-3	捨て場	IXD-84	2	深鉢	口縁～胴部	36.2		<44.2>	3900	3単位波状口縁、口縁部隆帯(渦巻つなぎ区画文)貼付→接合痕ナデ消し→隆帯脇沈線・胴部LR斜・横回→胴部沈線(上下2段交互配置の縦位渦巻付弧文)・隆帯脇刺突列	榎林	外面上半・内面下半スス状炭化物付着
3025	101-4	捨て場	IXC-83	2(炭層)	深鉢	口縁～胴部	(20)		<20.2>	260	波状口縁、LR縦回→隆帯(口縁併走→大小の渦巻つなぎ垂下文)貼付→隆帯脇沈線	榎林	
2857	102-1	捨て場	IXB-81	2	深鉢	口縁～胴部	(35.7)		<35.3>	1260	平口縁?、胴部LR横・縦回→胴部沈線(3条横位区画→渦巻付・棘付垂下文)	榎林	
2855	102-2	捨て場	IXC-84	2	深鉢	口縁～胴部	12.9		<14.3>	240	3単位波状口縁、胴部LR縦回→沈線(2条横位区画→大柄の渦巻文→渦巻つなぎクランク文)→区画沈線間円形刺突列・口縁部ミガキ	榎林	外面上半スス状炭化物付着
2509	102-3	捨て場	VIII-69	3	深鉢	口縁～胴部			<11.9>	242	山形口端突起、口縁併走隆帯・突起外面環状隆帯貼付→接合痕ナデ消し→口縁部隆帯(口縁併走→環状)貼付→隆帯間沈線、胴部LR縦・横回→胴部沈線	榎林	
2930	102-4	捨て場	IXB-81	2	深鉢	口縁～胴部			<13.8>	160	口縁併走隆帯貼付→接合痕ナデ消し→隆帯脇沈線、胴部50多LR縦回→胴部隆帯(2条横位区画、棘・渦巻付区画文)貼付→隆帯脇沈線、隆帯間竹管刺突列→口頸部横ミガキ	榎林	個1076
2433	102-5	捨て場	VIII-65	2	深鉢	口縁部			<4.4>	19	胴部RL斜回→隆帯(渦巻、他)貼付→隆帯脇沈線→口縁部横ミガキ	榎林	外面タール状炭化物付着
2429	102-6	捨て場	VIII-70	3	深鉢	胴部			<3.6>	9	胴部LR縦回→隆帯(横位、渦巻)貼付→隆帯脇沈線	榎林	
2430	102-7	捨て場	VIII-68	2	深鉢	口縁～胴部			<7.5>	45	胴部LR縦回→隆帯(渦巻つなぎ文)貼付→隆帯脇沈線→口縁部横ミガキ	榎林	
2431	102-8	捨て場	VIII-69	2c	深鉢	口縁～胴部			<8.1>	48	胴部LR縦回→隆帯(横位区画、円形又は渦巻つなぎ文)貼付→隆帯脇沈線	榎林	
3009	102-9	捨て場	IXC-81	2	深鉢	胴部			<6>	32	RL縦回→渦巻つなぎ他隆帯文→隆帯脇沈線→隆帯上ミガキ	榎林	外面スス状炭化物付着
2485	102-10	捨て場	VIII-66	2	深鉢	口縁部			<4.1>	29	口縁部隆帯(渦巻つなぎ区画文)貼付→接合痕ナデ消し→隆帯脇沈線(渦巻部のみ)→竹管斜向刺突列・LR縦列側圧、胴部LR縦回→横位沈線	榎林	
3003	102-11	捨て場	VIII-69	3	深鉢	口縁～胴部			<8.8>	51	胴部RL縦回→2条区画隆帯貼付→口縁・隆帯上ミガキ	榎林	
2420	102-12	捨て場	VIII-67	2	深鉢	胴部			<8.4>	50	LR縦回→沈線(耳状付加渦巻垂下文)	榎林	外面スス状炭化物付着
2914	102-13	捨て場	IXC-84	2	深鉢	口縁部			<6.5>	52	波状口縁、口縁併走隆帯貼付→隆帯脇沈線→渦巻垂下隆帯貼付→隆帯脇沈線・貫通孔、胴部2条横位沈線→沈線間に竹管斜向刺突列	榎林	
2881	103-1	捨て場	IXB-84	2	深鉢	口縁～底部	11	5.2	12.9	298	4単位波状口縁、胴部LR縦・横回	榎林	
2864	103-2	捨て場	IXB-83	2	深鉢	口縁～胴部	22.7		<13.4>	850	平口縁、口縁併走隆帯(折返し状)貼付→隆帯上円形刺突列、胴部LR縦・斜回	榎林	
3018	103-3	捨て場	IXB-80	炭3層	深鉢	口縁～底部	16.7	8.8	22	850	LR胴部縦回・口縁部横回→口縁部隆帯(口縁併走・横位区画→環状・渦巻)貼付→隆帯脇沈線・胴部沈線(横位区画、大柄の渦巻つなぎ文)	榎林	異系統土器(←大木8b)、外面スス状炭化物付着
2997	103-4	捨て場	IXD-85	2	深鉢	口縁～胴部			<10.3>	130	胴部RL縦回→隆帯(口縁3条横位、胴部Y字形垂下、渦巻つなぎ垂下文)貼付→隆帯脇沈線	大木8b?	胎土分析実施(6分冊4章7節:No22)
2998	103-5	捨て場	IXC-83	2	深鉢	口縁～胴部			<4.8>	69	胴部RL縦回→隆帯(2条横位区画→渦巻付Y字形垂下文)貼付→隆帯脇沈線	榎林	
3518	103-6	捨て場	IXA-79	2	深鉢	口縁～胴部			<2.9>	7	RL斜回→細沈線(2条横位、円形文、ハの字形付加文)	榎林	
2983	103-7	捨て場	IXC-84	2	深鉢	胴部			<3.8>	8	横位区画隆帯貼付→R単軸1類縦・斜回→沈線(隆帯脇、方形区画?文)→円形刺突充填	榎林	異系統土器(←大木在B?)
2917	103-8	捨て場	IXB-83	2	深鉢	口縁～胴部			<5.3>	18	波状口縁(突起欠損)、口縁併走隆帯貼付→接合痕ナデ消し(隆帯下部縁辺)→胴部LR横回→胴部沈線(クランク・十字形区画文?)	榎林	
3521	103-9	捨て場	IXD-84	2	小型深鉢	口縁部			<3.2>	4	横位隆帯→円形刺突列、波状沈線	榎林	
3010	103-10	捨て場	IXC-83	2	深鉢	胴部			<10.1>	75	2条横位隆帯貼付→隆帯上沈線・隆帯間刺突列、胴部RL縦回→隆帯(渦巻つなぎ垂下文?)貼付→隆帯脇沈線	大木8b?	胎土分析実施(6分冊4章7節:No20)

土器観察表(1・2・3層一括20)

管理番号	図番号	出土位置	グリッド	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	文様等の属性	型式	備考
2925	103-11	捨て場	IXC-83	1	深鉢	口縁部			<6.8>	67	胴部RL斜・横回→乱雑な渦巻つなぎ?沈線文	榎林	
2919	103-12	捨て場	IXD-84	2	深鉢	口縁~胴部			<4.8>	29	胴部LR斜回→沈線(横位→連弧文・口縁部竹管刺突列)	榎林	
2996	103-13	捨て場	IXB-84	2	鉢形?	口縁~胴部			<4>	79	胴部LR横回→沈線(横位区画、長方形区画文→L字文→渦巻文)→斜向刺突列充填	榎林	
3015	103-14	捨て場	IXA-83	2	壺形	頸部~胴部			<4.4>	27	2条横位隆帯貼付→橋状把手	榎林	内外面タール状物質付着
2891	103-15	捨て場	IXD-84	2	壺形	頸部~胴部			<5.4>	150	頸部2条区画隆帯貼付→4単位橋状把手	榎林	
2415	103-16	捨て場	IXA-71	2・3	壺形	頸部			<4>	29	2条横位隆帯貼付→橋状把手→把手上部に穿孔	榎林	
3011	103-17	捨て場	IXC-85	2	壺形	頸部			<5.6>	101	頸部2条横位区画隆帯貼付→4単位橋状把手→把手上隆帯(環状→U字)貼付→隆帯上沈線(円形、U字)、把手上面からの貫通孔	大木8b?	胎土分析実施(6分冊4章7節:No.19)
3016	104-1	捨て場	IXB-80	2	壺形	口頸部			<3.9>	13	橋状把手→2条横位隆帯貼付→隆帯上沈線	榎林	
3013	104-2	捨て場	IXC-82	2	壺形	頸部			<5.2>	59	2条横位隆帯貼付→橋状把手(上部・下部で分割成形)	榎林	外面赤色顔料付着
2416	104-3	捨て場	VIIIW-67	3	壺形	頸部			<4>	24	2条横位隆帯貼付	榎林	
3012	104-4	捨て場	IXC-81	2	壺形	頸部			<4.9>	53	頸部2条区画隆帯→橋状把手	榎林	内面赤色顔料付着
3008	104-5	捨て場	IXC-82	2	壺形	口縁~底部	(5.8)	(7.2)	<5.4>	77	RL横回→隆帯(大柄の渦巻つなぎ文等)貼付→隆帯脇沈線	榎林	外面スス状炭化物付着
2883	104-6	捨て場	IXC-79	2	小型深鉢	口縁~底部	(9.4)	4.5	9.6	110	底部くびれ有り、L横・斜回、平行細沈線(部分的)	榎林	
3523	104-7	捨て場	IXD-83	2	深鉢?	口端突起?	<5.7>		<6.3>	80	口縁部沈線(渦巻つなぎ文)、横位隆帯貼付	榎林	子持ち土器の装飾突起部?
2407	104-8	捨て場	VIII X-70	3	鉢又は深鉢	口縁部			<3.3>	17	胴部LR横回→隆帯(渦巻つなぎ文、他)貼付→隆帯脇沈線	榎林	
2992	104-9	捨て場	IXA-81	I・2	浅鉢	口縁~胴部			<4.3>	90	平口縁、輪積み最上段で内面側に接合(有段・屈曲する口縁部を作出)→隆帯(口縁併走→連結弧文)貼付→接合痕ナゲ消し(断面凹状口端・楕円形凹み作出)→胴部LR縦回→胴部隆帯(4単位弧文?→連結弧文、蛇行垂下文)貼付→沈線(隆帯脇→横位・渦巻)→口縁部斜向刺突列	大木8a~8b	異系統土器(←大木8b)
3020	104-10	捨て場	IXB-79	2	注口	口縁~胴部	(13)		<5.7>	315	注口成形→2条横位隆帯貼付→3/4単位?橋状把手→胴部LR横回	榎林	
2993	104-11	捨て場	IXB-78	2	浅鉢	口縁~胴部			<7.2>	60	口縁外面突起→口縁部隆帯(4単位口縁併走・J字文)貼付→胴部LR縦回→胴部隆帯(波状?→連結弧文、m字)貼付→沈線(隆帯脇、同心円)、口縁部L横位側圧	大木8a~8b	異系統土器(←大木8b)
3000	104-12	捨て場	IXB-80	2	浅鉢	口縁~胴部			<4.2>	20	輪積み最上段で内面側に接合(有段化・屈曲する口縁部を作出)→外面突起形成→胴部LR縦回	榎林	異系統土器(←大木8b)
2989	104-13	捨て場	IXB-80	2	浅鉢	口縁~胴部			<5.9>	85	平口縁、輪積み最上段で内面側に接合(有段化・屈曲する口縁部を作出)→隆帯(口縁併走→波状)貼付→胴部LR縦回→胴部LR側圧(楕円形?→渦巻・横位・Y字形垂下文)、口縁部LR側圧(弧状?→横位)	大木8a~8b	
2830	104-14	捨て場	IXB-83	2	深鉢	口縁~胴部	28.2		<25.6>	1660	4単位緩波状口縁、胴部単軸1類縦回→沈線(垂下・蛇行垂下)	榎林	外面上半・内面下半スス状炭化物付着
3021	105-1	捨て場	IXD-84	2	深鉢	口縁~胴部	(26)		<25>	597	胴部LR縦回→隆帯(口縁併走→渦巻つなぎ構造を持つY字等の垂下文)→隆帯脇沈線	最花	
2291	105-2	捨て場	VIIIU-63	2	深鉢	口縁~胴部	28.1		<33.6>	2012	胴部LR縦回→口縁併走隆帯(折返し状)→口縁部横ミガキ	最花	内面上半スス状炭化物付着
2396	105-3	捨て場	VIII S-61	2相当	深鉢	口縁~胴部			<7.4>	63	口縁併走隆帯→接合痕ナゲ消し→0多LR縦回→沈線区画文(楕円形)	最花	
2359	105-4	捨て場	VIII S-T-65	3	深鉢	口縁~胴部	14.1		<18.8>	748	胴部RL斜・横回→沈線波状文→折返し状口縁作出	最花	外面上半スス状炭化物付着

土器観察表(1・2・3層一括21)

管理番号	図番号	出土位置	グリッド	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	文様等の属性	型式	備考
2859	105-5	捨て場	IXC-83	2(炭上)	深鉢	口縁～胴部	38.9		<48>	3360	折返し状口縁→胴部LR横・斜回→半竹斜向刺突列	最花	外面下半ススコグ状炭化物付着
3791	106-1	捨て場	IXB-77	2	深鉢	口縁～胴部	40.6		<26.0>	2040	隆帯(4単位渦巻付垂下文・逆U字又は楕円形区画文)→LR縦回→沈線(円形・楕円形区画文)→区画外磨り消し	最花	補修孔1対有り、圧痕(不明)付
2860	106-2	捨て場	IXC-82・83	2	深鉢	口縁～胴部	(32.8)		<32>	2354	平口縁(折返し状)→胴部RL斜・横回→胴部沈線(垂下・逆U字)→円形刺突→口縁部横ミガキ	最花	
2856	106-3	捨て場	IXC-82	2	広口壺	口縁～胴部	(15.5)		<12>	200	3単位波状口縁→胴部RL斜回、 ∞ 形沈線垂下文→沈線間ミガキ→頸部斜方向刺突列	最花	補修孔(2か所)有り、漆又はベンガラ付着
2853	106-4	捨て場	IXC-82	2	広口壺	口縁～底部	(12.4)	5.4	14.7	540	2単位波状口縁、胴部LR横・縦回→ ∞ 形沈線垂下文・頸部半竹刺突列→口頸部ミガキ	最花	外面上半・内面中位ススコグ状炭化物付着
2357	106-5	捨て場	IXA-75	3	広口壺?	頸部～底部		(3.8)	<9.8>	83	胴部LR横回→ ∞ 形沈線垂下文・頸部竹管刺突列	最花	
2921	106-6	捨て場	IXE-84	2	広口壺?	胴部			<7.2>	96	胴部RL斜・横回→竹管刺突・沈線(逆U字・環状)・斜向刺突列	最花	
2394	106-7	捨て場	IXA-75	3	広口壺	口縁～胴部	(13.8)		<16.1>	460	胴部RL横回→胴部沈線(横位区画、波状、逆U字・X字等垂下文)→波状沈線脇に円形刺突列→口頸部縦ミガキ	最花	
3519	106-8	捨て場	IXD-83	2	深鉢	口縁～胴部			<4.6>	16	縦位条線文→口縁部斜向刺突→沈線(U字、他)	最花	
2411	106-9	捨て場	VII-X-66	3	深鉢	口縁部			<5>	26	RL横回→斜向刺突→沈線(逆U字?、垂下)	最花	
2423	106-10	捨て場	VIII-R-62	2	広口壺?	頸部～胴部			<12.6>	95	ボタン状貼付→沈線(環状→横位)→沈線間・貼付上円形刺突	最花	刺突内炭化物残存
2434	106-11	捨て場	IXD-74	2	深鉢又は壺	胴部			<4.3>	27	RL横回→3条沈線(逆U字又は波状、環状又は渦状)	最花	異系統土器(←大木9)
2358	107-1	捨て場	VIII-S-T-65	3	広口壺	口縁～胴部	13.9		<11.6>	310	2単位波状口縁、2単位ボタン状突起貼付→RL横回→沈線(端部渦巻のU字形との組み合わせ垂下文)	最花	
2962	107-2	捨て場	IXD-83	2	広口壺	口縁～胴部	(35)		<9.7>	240	頸部横位押し引き刺突、胴部沈線(逆U字・渦巻付垂下文?)	最花	外面赤色顔料(漆?)付着
2351	107-3	捨て場	VIII-Y-75	III	深鉢	口縁～胴部	(19.5)		<16.9>	618	胴部LR斜回→口縁部丁寧な縦ミガキ	最花	内面下半ススコグ状炭化物付着
2920	107-4	捨て場	IXB-78	2相当	深鉢	口縁～胴部			<10.6>	70	RL斜回→H字形?区画沈線文→区画内磨り消し→円形刺突	最花	内外面ススコグ状炭化物付着
2966	107-5	捨て場	IXE-85	2	深鉢	胴部			<6.2>	31	RL斜回→3条縦位沈線	最花	沈線内及び内面に赤色顔料付着
3745	107-6	捨て場	VIII-Y-65	2	深鉢	胴部			<3.7>	30	RL横回→縦位沈線	最花～大木10	圧痕観察実施(6分冊4章2節参照:圧15)
3004	107-7	捨て場	IXC-82	2	深鉢	口縁～胴部			<8.8>	159	胴部RL縦回→沈線(逆U字又は楕円形文)→区画外磨り消し・口縁横ミガキ	最花	内面タール炭化物付着
2862	107-8	捨て場	IXB-85	2	深鉢	口縁～胴部	(34.2)		<39.3>	3600	平口縁(折返し状)→胴部RL斜回→斜方向刺突列	最花	外面中位・内面下半ススコグ状炭化物付着
2879	107-9	捨て場	IXD-84	2	深鉢	口縁～胴部	(24.8)		<27.5>	600	R単軸1類縦・斜回	最花	
2417	107-10	捨て場	VIII-W-67	2	壺形	頸部～胴部			<4.6>	47	横位平行隆帯→橋状把手(欠損)→横ミガキ	最花	胴部外面赤色顔料付着
3491	107-11	捨て場	VIII-V-65	2	小型深鉢	口縁～底部	7.1	4.3	8.4	154	RL横回(部分的)→ナデ消し	最花?	
3494	107-12	捨て場	VIII-V-65	3	小型深鉢	口縁～底部	9.3	4.8	9.1	223	折返し口縁、(縄文施文?)縦・斜・横位条痕	最花	

土器観察表(1・2・3層一括22)

管理番号	図番号	出土位置	グリッド	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	文様等の属性	型式	備考
2889	107-13	捨て場	IXB-77	2	深鉢	口縁~ 底部	(11.9)	7.3	15.1	545	外面指頭圧痕と横ナデ	最花	
2912	107-14	捨て場	IXA-74	3	深鉢	胴部			<6.6>	27	隆帯(2条横位→連結弧文)貼付→鋸歯状沈線文	牛ヶ沢	外面スス状炭化物付着
2924	107-15	捨て場	VIIIQ-61	2	深鉢	胴部			<5.7>	19	隆帯(縦位→斜位→環状)貼付→隆帯上へラ刺突列	牛ヶ沢	
3438	108-1	捨て場			台付	底部~ 脚部		12.1	<7.3>	818	4単位楕円形貫通孔、脚部外縁・底部側面刺突列	牛ヶ沢	
3442	108-2	捨て場	IXC-83	2	台付	底部~ 脚部		(5.8)	<3.4>	51	4単位?円形貫通孔	牛ヶ沢	
3440	108-3	捨て場	IXE-86	2	台付 深鉢	胴部~ 脚部		<4.2>	<7.1>	53	脚部1脚のみ残存(推定4脚)、外面全体粗いナデ	牛ヶ沢	
1645	108-4	捨て場	IXB-69	2b	深鉢	胴部			<4.3>	234	LR横回	牛ヶ沢	
2894	108-5	捨て場	IXC-82	2	深鉢	胴部~ 底部		5.6	<9.5>	140	LR縦回	牛ヶ沢	
3625	108-6	捨て場	IXB-78	2	深鉢	胴部~ 底部		15.4	<3.2>	377	LR横回、底面に浅く細い波線	牛ヶ沢	※底面は調査時の泥掻き取りキズの可能性有り
3564	108-7	捨て場	VIIIU-66	3	小型	底部		5	<1.5>	15	底面圧痕(不明)	牛ヶ沢	圧痕観察実施(6分冊4章2節参照:底39)
3526	108-8	捨て場	IXD-71	2	深鉢	底部		5.6	<2.2>	63	底部側面縦ミガキ、底面笹葉様圧痕	牛ヶ沢 ~ 蛭沢	
3584	108-9	捨て場	VIII P-61	2	深鉢	胴部~ 底部		6.7	<2.7>	98	底面網代痕	牛ヶ沢	
3707	108-10	捨て場	IXB-78	2	深鉢	胴部~ 底部		8.2	<1.8>	44	胴部下位RL縦回、底面木の葉圧痕	牛ヶ沢	
3708	108-11	捨て場	IXB-79	2	深鉢	底部		(9.5)	<2.2>	157	胴部下位RL縦回、底面木の葉圧痕	牛ヶ沢	
3005	108-12	捨て場	IXC-86	2	深鉢?	底部		<6.8>	<2.2>	74	底部側面に隆帯文	牛ヶ沢	
3730	108-13	捨て場	IXC-82	2	深鉢	底部		(11)	<1.7>	99	底面すだれ状圧痕(重複あり)	牛ヶ沢	
3545	108-14	捨て場	VIII R-60	2	深鉢	胴部~ 底部		9.3	<3.5>	172	底面網代痕	牛ヶ沢	
2968	108-15	捨て場	IXB-85	2	深鉢	底部		(3.1)	<1.8>	22	底面圧痕(網代?)有り	大木10~ 牛ヶ沢	内部に黒色物質(アスファルト?)塊付着

剥片石器観察表(1)

図番号	出土位置	グリッド	層位	器種	器種細分	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
110-1	3^外	VMV-67	第3a層	画面調整石器	用途不明	流紋岩	141.5	74.6	45.0	474.8	敲打痕
110-2	3^外	VMV-66	第3a層相当	スクレイパー		珩質頁岩	36.7	65.0	12.6	30.4	図示していないがわずかに光沢あり
110-3	3^外	VMV-67	第3a層	微細剥離剥片		珩質頁岩	67.0	30.3	16.5	29.8	
110-4	3^外	VMV-66	第3a・b層	石匙	縦	珩質頁岩	92.1	28.2	12.3	24.5	両刃
110-5	3^外	VMU-67	第3c層	石筥	撥	珩質頁岩	82.4	29.7	16.4	41.5	
110-6	3^外	VMV-67	第3c層	石筥	撥	珩質頁岩	106.8	49.2	22.6	89.0	
110-7	3^外	VMV-67	第3c・d層	石鏃	有凹	珩質頁岩	34.8	16.9	5.1	2.0	
110-8	3^外	VMU-66	第3c・d層	石鏃	有凸	珩質頁岩	54.7	14.0	6.3	4.2	
110-9	3^外	VMV-66	第3c・d層	石槍	木葉	珩質頁岩	82.2	27.4	10.5	22.3	
110-10	3^外	VMV-66	第3c・d層	石槍	有茎基部	珩質頁岩	74.0	24.9	7.7	12.7	
111-1	3^外	VMV-66	第3c・d層	石筥	撥	珩質頁岩	117.9	52.5	27.4	139.1	
111-2	3^外	VMV-66	第3c・d層	石匙	縦	珩質頁岩	63.6	23.0	10.2	8.1	非調整
111-3	3^外	VMV-66	第3c・d層	石匙	横	珩質頁岩	68.2	53.3	16.8	38.9	非調整
111-4	3^外	VMV-66	第3c・d層	石匙	斜	珩質頁岩	71.6	33.7	9.2	18.1	片刃
111-5	3^外	VMU-66	第3c・d層	石匙	斜	珩質頁岩	80.9	33.3	17.3	28.8	非調整
111-6	3^外	VMV-65	第3c・d層	石匙	斜	珩質頁岩	89.5	32.0	12.5	23.0	片刃 光沢
111-7	3^外	VMU-66	第3c・d層	微細剥離剥片		珩質頁岩	93.4	50.8	21.4	69.0	
111-8	3^外	VMU-66	第3c・d層	微細剥離剥片		珩質頁岩	96.2	44.8	19.7	64.2	
111-9	3^外	VMV-65	第3c・d層	スクレイパー		珩質頁岩	78.7	48.2	14.3	51.1	
111-10	3^外	VMU-66	第3c・d層	異形石器		珩質頁岩	39.3	45.4	10.0	5.7	
111-11	3^外	VMW-65	第3c・d層	異形石器		鉄石英	29.1	34.1	8.3	7.6	
112-1	3^外	VMT-65	第3e層	石筥	撥	珩質頁岩	116.4	38.1	26.9	85.2	
112-2	3^外	VMT-64	第3e層	石鏃	つまみ	珩質頁岩	73.8	57.7	16.3	32.3	
112-3	3^外	VMW-66	第3e層	微細剥離剥片		珩質頁岩	67.9	42.1	16.4	35.7	
112-4	3^外	VMV-68	第3e層	石核		珩質頁岩	274.2	63.2	50.4	701.8	接合
113-1	13^外	IXB-73	第2a・b層	異形石器		珩質頁岩	24.2	35.3	5.2	1.9	
113-2	13^外	IXC-73	第2a・b層	異形石器		珩質頁岩	55.1	43.6	23.4	21.0	
113-3	13^外	IXB-74	第3a層	異形石器		珩質頁岩	49.7	28.8	8.2	6.4	
113-4	13^外	IXA-73	第3a~c層	石鏃	有凸	珩質頁岩	32.5	12.0	4.9	1.5	
113-5	13^外	IXA-73	第3a~c層	石匙	斜	珩質頁岩	77.7	31.4	7.8	13.2	非調整
113-6	13^外	IXA-73	第3c層	石匙	縦	珩質頁岩	80.7	40.6	15.6	35.2	両刃
113-7	13^外	IXC-73	第3c層	石匙	縦	珩質頁岩	56.2	21.0	7.4	7.0	片刃
113-8	13^外	IXA-73	第3c層	スクレイパー		珩質頁岩	71.0	39.9	9.7	22.2	
113-9	13^外	IXB-73	第3d~f層	石鏃	無凹	珩質頁岩	28.4	17.6	4.0	1.1	
113-10	13^外	-	第3d~f層	画面調整石器	用途不明	珩質頁岩	166.2	51.1	34.3	231.0	
113-11	13^外	IXC-73	第3d~f層	異形石器		珩質頁岩	37.8	31.4	12.0	6.0	
113-12	13^外	IXC-74	第3d~f層	スクレイパー		珩質頁岩	73.7	54.4	17.9	53.8	
113-13	13^外	IXB-73	第3d~f層	微細剥離剥片		珩質頁岩	90.1	36.3	19.6	65.7	
114-1	13^外	IXB-73	第3f層	石鏃	剥片端	珩質頁岩	47.6	35.0	9.3	8.5	
114-2	13^外	IXB-73	第3f層	石匙	斜	珩質頁岩	31.4	53.8	8.9	9.6	片刃
114-3	13^外	IXB-73	第3f層	スクレイパー		珩質頁岩	49.4	41.3	9.4	17.1	
114-4	13^外	IXD-73	第3f層	石核		珩質頁岩	69.8	81.6	56.5	312.6	
114-5	13^外	IXA-74	第3g・h層	スクレイパー		珩質頁岩	73.4	82.4	17.6	61.7	
114-6	13^外	IXA-73	第3g・h層	スクレイパー		珩質頁岩	87.6	54.1	18.9	76.5	
114-7	13^外	IXA-73	第3g~i層	スクレイパー		珩質頁岩	76.9	50.4	18.1	47.0	
115-1		IXB-78	第2層	石鏃	有凸	鉄石英	28.4	13.7	6.0	2.0	
115-2		IXB-76	第2層	石鏃	有凸	珩質頁岩	32.0	13.6	6.4	2.2	黒色付着物
115-3		VMU-65	第3層	石鏃	有凸	珩質頁岩	40.7	15.7	3.6	1.8	黒色付着物
115-4		IXB-75	第3層	石鏃	有凸	珩質頁岩	39.8	13.9	5.2	2.2	黒色付着物
115-5		VMU-66	第3層	石鏃	有凸	珩質頁岩	27.9	11.8	4.5	1.1	黒色付着物
115-6		IXB-74	第3層	石鏃	有凸	珩質頁岩	36.7	16.0	6.5	2.6	
115-7		-	不明	石鏃	有凸	珩質頁岩	39.0	13.6	5.4	2.2	黒色付着物
115-8		IXB-83	第2層相当	石鏃	有凸	珩質頁岩	47.0	11.2	5.9	2.1	
115-9		IXB-80	第2層	石鏃	有凸	珩質頁岩	43.7	12.3	7.1	2.7	黒色付着物
115-10		VMY-71	第3層	石鏃	有凸	珩質頁岩	48.9	15.9	6.2	3.4	黒色付着物
115-11		IXD-84	第2層	石鏃	有凸	珩質頁岩	49.8	14.5	6.0	3.0	黒色付着物
115-12		IXE-83	第2層	石鏃	有凸	珩質頁岩	49.6	13.9	5.0	2.3	黒色付着物
115-13		-	第3層	石鏃	有凸	珩質頁岩	53.5	13.6	7.3	3.8	黒色付着物
115-14		VMV-65	第3層	石鏃	有凸	珩質頁岩	59.1	14.8	7.1	5.0	黒色付着物
115-15		IXC-83	第2層	石鏃	有凸	珩質頁岩	56.3	15.5	6.0	4.2	黒色付着物
115-16		VMY-72	第3層相当	石鏃	有凸	珩質頁岩	63.8	14.3	6.7	4.3	黒色付着物
115-17		IXD-76	第2層	石鏃	有凸	珩質頁岩	69.3	14.9	8.1	6.4	黒色付着物
115-18	東^外	IXB-83	第2層	石鏃	有平	珩質頁岩	19.2	13.3	2.7	0.5	黒色付着物
115-19		IXC-81	第2層	石鏃	有平	珩質頁岩	31.6	15.5	5.6	2.1	
115-20		VMs-60	第2層	石鏃	有平	珩質頁岩	41.4	12.3	6.0	2.1	
115-21		VMs-64	第2層	石鏃	有平	珩質頁岩	34.8	17.2	6.7	3.0	黒色付着物
115-22		VMY-70	第III層	石鏃	有平	珩質頁岩	34.5	17.6	6.0	2.9	黒色付着物
115-23		VMW-70	第II・III層	石鏃	有凹	珩質頁岩	36.9	14.3	5.8	2.2	
115-24		VMU-66	第3層	石鏃	有凹	珩質頁岩	42.2	14.9	4.8	2.2	
115-25		VMT-64	第2層	石鏃	有凹	珩質頁岩	39.8	17.0	6.0	3.4	
115-26		-	不明	石鏃	無尖	珩質頁岩	29.5	14.2	5.1	2.2	黒色付着物
115-27		IXA-68	第3層	石鏃	無尖	珩質頁岩	42.5	14.7	7.0	3.6	黒色付着物
115-28		IXC-86	第2層	石鏃	無尖	珩質頁岩	50.0	13.8	6.8	3.4	黒色付着物
115-29		IXB-78	第2層	石鏃	無尖	珩質頁岩	45.5	12.4	6.7	3.1	
115-30		VMs-64	第3層上面	石鏃	無尖	珩質頁岩	49.4	11.8	7.5	2.9	
115-31	トレンチ②	VMU-68	不明	石鏃	無尖	珩質頁岩	58.0	16.0	8.0	6.1	石鏃-102
115-32		VMX-72	不明	石鏃	無尖	珩質頁岩	37.9	15.0	8.5	4.3	
115-33		IXB-78	第2層	石鏃	無尖	珩質頁岩	34.8	11.2	4.6	1.6	
115-34		IXB-81	第2層	石鏃	無尖	珩質頁岩	37.2	10.3	5.6	1.7	
115-35		VMT-66	第3層	石鏃	無尖	黒曜石	39.8	11.7	5.7	1.9	男鹿・金ヶ崎
115-36		IXB-80	第2層	石鏃	無尖	珩質頁岩	42.1	13.9	5.6	2.6	
115-37		IXE-82	第2層	石鏃	無尖	珩質頁岩	52.8	14.7	4.3	2.8	
115-38		VMs-64	第3層	石鏃	無尖	珩質頁岩	38.1	15.1	4.0	1.9	
115-39		VMY-78	第2層	石鏃	無尖	珩質頁岩	40.1	14.1	5.2	2.6	黒色付着物
115-40		IXB-71	第3層	石鏃	無尖	珩質頁岩	43.0	11.8	3.9	1.5	
115-41		IXA-80	第2層	石鏃	無尖	珩質頁岩	36.3	11.2	3.2	1.1	
115-42		VMU-63	第3層	石鏃	無尖	珩質頁岩	40.3	12.0	3.6	1.2	
115-43		IXC-78	第2層	石鏃	無尖	珩質頁岩	46.4	16.3	4.7	2.5	
116-1		VMU-63	第2層	石鏃	無円	珩質頁岩	23.7	12.0	4.0	1.0	
116-2		VMY-80	第3層	石鏃	無円	珩質頁岩	24.1	11.3	3.5	0.8	
116-3		IXB-79	第2層	石鏃	無円	珩質頁岩	32.5	14.7	5.0	2.1	

剥片石器観察表(2)

図番号	出土位置	グリッド	層位	器種	器種細分	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
116-4		-	第2層	石鏃	無円	珩質頁岩	32.4	15.4	5.5	2.3	黒色付着物
116-5		IXB-74	第3層	石鏃	無円	珩質頁岩	35.8	14.8	4.9	2.1	
116-6		IXC-84	第2層	石鏃	無平	珩質頁岩	37.9	15.4	5.6	2.5	黒色付着物
116-7		VIIY-72	不明	石鏃	無平	珩質頁岩	35.3	13.3	5.3	2.1	
116-8		IXE-82	第2層	石鏃	無平	珩質頁岩	28.2	16.0	6.7	2.5	
116-9		IXB-84	第2層	石鏃	無平	珩質頁岩	44.1	14.6	6.3	3.5	黒色付着物
116-10		VMS-64	第2層	石鏃	無凹	珩質頁岩	20.3	11.3	3.4	0.5	黒色付着物
116-11		IXA-71	第2・3層	石鏃	無凹	黒曜石	13.9	15.9	5.5	1.2	赤井川・赤井川
116-12		IXD-84	第3層	石鏃	無凹	黒曜石	21.3	13.7	3.7	0.8	木造・出来島
116-13		IXC-82	第2層	石鏃	無凹	珩質頁岩	26.1	16.5	4.1	1.5	
116-14		VMS-63	第3層	石鏃	無凹	珩質頁岩	28.7	17.1	5.1	1.9	黒色付着物
116-15	トレンチ14	IXB-75	第3層	石鏃	無凹	珩質頁岩	26.6	17.5	2.8	1.1	黒色付着物
116-16		-	第3層	石鏃	無凹	珩質頁岩	20.9	20.6	4.1	1.4	
116-17		-	第2層相当	石鏃	無凹	珩質頁岩	29.5	15.1	4.8	1.5	黒色付着物
116-18		IXC-80	第2層	石鏃	無凹	珩質頁岩	32.5	15.6	4.9	1.7	
116-19		VIIY-65	第2層	石鏃	無凹	珩質頁岩	40.3	16.0	4.7	2.3	黒色付着物
116-20		VMS-63	第3層	石鏃	無凹	珩質頁岩	34.7	15.1	5.5	2.1	
116-21		VIR-61	第2層	石鏃	無凹	珩質頁岩	39.6	14.3	4.3	1.9	黒色付着物
116-22		IXA-77	第2層	石鏃	無凹	珩質頁岩	47.2	14.9	6.0	3.3	黒色付着物
116-23		IXC-79	第2層	石鏃	無凹	珩質頁岩	30.7	13.4	5.4	1.9	黒色付着物
116-24		IXC-84	第2層	石鏃	無凹	珩質頁岩	30.2	14.9	6.5	2.3	黒色付着物
116-25		IXA-80	成2層下	石槍	木葉	珩質頁岩	40.5	20.3	9.4	6.5	
116-26		IXC-81	第3層	石槍	木葉	珩質頁岩	48.6	25.1	9.5	9.9	
116-27		VMS-63	第3層	石槍	木葉	珩質頁岩	52.3	25.7	9.2	10.2	
116-28		IXA-81	第3層上面	石槍	木葉	珩質頁岩	88.8	45.6	24.2	73.8	
116-29		IXC-74	第2層	石槍	木葉	珩質頁岩	102.1	45.3	13.2	54.6	
116-30		IXB-72	第2層	石槍	木葉	珩質頁岩	121.6	51.6	20.8	100.8	
116-31		VIIY-74	第3層	石槍	木葉	珩質頁岩	129.5	49.9	19.3	95.8	
117-1		IXB-78	第2層	石槍	柳葉	珩質頁岩	56.0	16.3	9.6	7.3	
117-2		VIIY-72	不明	石槍	柳葉	珩質頁岩	56.8	17.6	9.4	6.3	
117-3	東へ外	IXB-83	第2層	石槍	柳葉	珩質頁岩	63.2	17.6	9.4	9.1	
117-4		IXD-75	第2層	石槍	柳葉	珩質頁岩	62.5	20.0	10.4	10.5	黒色付着物
117-5		VIIY-72	不明	石槍	柳葉	珩質頁岩	61.9	23.0	8.6	11.3	
117-6		VIT-64	第3層上面	石槍	柳葉	珩質頁岩	65.0	22.6	8.1	10.5	
117-7		VIR・S-62	不明	石槍	柳葉	珩質頁岩	65.0	22.6	8.7	9.7	
117-8		IXC-82	第2層	石槍	柳葉	珩質頁岩	72.1	19.0	8.7	9.8	黒色付着物
117-9		VIIU-68	第2層	石槍	柳葉	珩質頁岩	76.4	17.9	11.3	13.9	先端摩耗
117-10		VMS-63	第2層	石槍	柳葉	珩質頁岩	80.5	21.0	8.9	12.1	
117-11		IXA-81	第2層	石槍	柳葉	珩質頁岩	82.8	26.9	10.7	19.5	
117-12		IXB-76	第3層	石槍	柳葉	珩質頁岩	88.8	31.4	10.5	29.1	黒色付着物
117-13		VMS-64	第3層	石槍	柳葉	珩質頁岩	91.3	25.8	11.2	24.0	
117-14		IXC-72	第2層	石槍	柳葉	珩質頁岩	100.1	24.7	12.1	25.6	黒色付着物
117-15		IXB-76	第3層	石槍	柳葉	珩質頁岩	103.8	28.6	21.6	46.2	黒色付着物
117-16		IXB-78	第2層	石槍	柳葉	珩質頁岩	104.5	27.6	11.8	32.1	
118-1		VIIY-66	第3層	石槍	柳葉	珩質頁岩	109.2	30.6	15.6	33.7	
118-2		VIIU-65	第3層	石槍	柳葉	珩質頁岩	108.7	28.9	11.2	23.7	黒色付着物
118-3		-	第3層	石槍	有茎基部	珩質頁岩	53.0	23.9	7.6	8.1	
118-4		IXB-81	第2層	石槍	有茎基部	珩質頁岩	54.1	23.3	10.6	9.9	
118-5		IXA-82	第3層	石槍	有茎基部	珩質頁岩	57.1	22.5	7.5	8.8	黒色付着物
118-6		IXC-74	第2層	石槍	有茎基部	珩質頁岩	59.1	20.6	11.3	10.5	
118-7		IXD-84	第2層	石槍	有茎基部	珩質頁岩	65.2	27.3	8.3	11.7	
118-8		VIIU-66	第3層	石槍	有茎基部	珩質頁岩	67.1	26.1	10.4	15.1	
118-9		IXB-74	第2層	石槍	有茎基部	珩質頁岩	67.3	24.2	11.7	15.8	黒色付着物
118-10	トレンチ	VIIY-69	不明	石槍	有茎基部	珩質頁岩	72.0	23.0	13.0	16.9	図示していないがわずかに黒色付着物 石鏃-70
118-11		IXB-82	第2層相当	石槍	有茎基部	珩質頁岩	74.7	21.7	10.2	13.3	
118-12		IXB-75	第2層	石槍	有茎基部	珩質頁岩	67.9	25.0	10.2	14.2	
118-13		IXB-77	第2層	石槍	有茎基部	珩質頁岩	70.9	24.2	11.5	15.2	黒色付着物
118-14		-	第3層(東壁)	石槍	有茎基部	珩質頁岩	76.8	22.5	10.5	14.5	
118-15		VIR-60	第3層	石槍	有茎基部	珩質頁岩	87.8	22.8	8.1	12.2	黒色付着物
118-16		IXB-77	第2層	石槍	有茎基部	珩質頁岩	92.9	23.8	13.4	23.8	黒色付着物
118-17		IXC-83	第2層	石槍	有茎基部	珩質頁岩	57.8	18.2	9.1	7.2	
118-18		IXA-66	第2層	石槍	有茎基部	珩質頁岩	70.8	23.3	11.0	14.1	黒色付着物
119-1		IXB-78	第2層相当	石筥	短冊	珩質頁岩	53.0	24.5	9.5	13.5	黒色付着物
119-2		VIIY-72	第3層	石筥	短冊	珩質頁岩	64.6	27.5	17.0	32.5	光沢
119-3		IXB-81	第2層	石筥	短冊	珩質頁岩	76.9	28.2	15.6	34.0	光沢
119-4		IXB-81	第2層	石筥	短冊	珩質頁岩	76.9	41.1	17.2	48.0	
119-5		IXC-82	第2層	石筥	短冊	珩質頁岩	75.1	33.0	19.0	48.7	
119-6		-	不明	石筥	短冊	珩質頁岩	76.3	33.2	18.6	52.2	
119-7		VIIY-67	第3層	石筥	短冊	珩質頁岩	80.0	35.4	19.8	66.0	
119-8		IXB-76	第3層	石筥	短冊	珩質頁岩	84.6	30.6	16.5	39.5	
119-9		VIIY-65	第2層	石筥	短冊	珩質頁岩	87.2	35.1	22.4	70.6	
119-10		IXA-78	第2層	石筥	短冊	珩質頁岩	85.9	48.1	23.5	81.1	
119-11		IXC-74	第2層	石筥	短冊	流紋岩	84.4	33.7	19.2	58.0	
119-12		IXA-76	第2層	石筥	短冊	珩質頁岩	95.1	31.2	17.2	50.0	
120-1		IXB-78	第2層	石筥	短冊	珩質頁岩	109.9	47.0	33.5	161.2	
120-2		VIT-65	第2層	石筥	短冊	珩質頁岩	127.7	39.8	23.9	121.4	
120-3		VIIY-72	第3層	石筥	撥	珩質頁岩	53.6	29.7	15.7	24.4	
120-4		VIT-64	第2層	石筥	撥	珩質頁岩	62.6	24.5	12.7	19.5	黒色付着物
120-5		VIT-67	第II・III層	石筥	撥	珩質頁岩	60.8	19.3	9.7	12.1	
120-6		VIIY-72	第2層相当	石筥	撥	珩質頁岩	71.2	29.0	15.9	29.7	
120-7		IXB-84	第2層	石筥	撥	珩質頁岩	61.3	40.3	13.8	30.6	
120-8		IXB-78	第2層	石筥	撥	珩質頁岩	69.0	32.1	19.2	34.3	
120-9		VIIY-71	第2層	石筥	撥	珩質頁岩	68.3	27.4	17.4	31.5	
120-10		IXB-80	成3層	石筥	撥	珩質頁岩	77.1	24.7	15.7	27.9	黒色付着物
120-11		IXC-82	第2層	石筥	撥	珩質頁岩	77.3	30.7	19.7	43.4	
120-12		VIT-67	不明	石筥	撥	珩質頁岩	76.5	32.7	14.7	34.5	
121-1		IXB-79	第2層	石筥	撥	珩質頁岩	75.6	24.5	12.9	21.6	
121-2		IXA-81	第2層	石筥	撥	珩質頁岩	84.2	33.7	16.9	48.8	
121-3		IXB-81	第2層	石筥	撥	珩質頁岩	86.0	30.9	16.4	39.0	
121-4		IXB-83	第2層	石筥	撥	珩質頁岩	84.9	35.6	25.8	71.7	
121-5		VIIU-64	第2層	石筥	撥	珩質頁岩	83.5	34.8	22.8	62.2	光沢

剥片石器観察表(3)

図番号	出土位置	グリッド	層位	器種	器種細分	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
121-6		VIV-66	第3層	石筥	撥	珪質頁岩	85.1	38.3	22.8	67.1	
121-7		IXC-82	第2層	石筥	撥	珪質頁岩	92.0	35.9	17.0	52.3	黒色付着物
121-8		VIV-65	第3層	石筥	撥	珪質頁岩	94.3	38.0	18.1	71.3	
121-9		VIV-65	第3層	石筥	撥	珪質頁岩	93.0	24.3	18.0	35.8	
121-10		IXB-74	第3層	石筥	撥	珪質頁岩	96.1	38.2	20.8	62.9	黒色付着物
121-11	VIIIテイルハット	VIII-66	第3層	石筥	撥	珪質頁岩	102.8	43.2	20.5	94.1	
122-1		IXB-79	第2層	石筥	撥	カルセドニー	96.5	41.6	28.9	109.2	
122-2		IXB-78	第2層	石筥	撥	珪質頁岩	102.0	45.6	29.0	110.2	
122-3		IXB-81	第3層上面	石筥	撥	珪質頁岩	127.3	49.9	28.8	158.4	黒色付着物
122-4		IXA-82	第2層	石筥	撥	珪質頁岩	106.6	34.8	22.7	69.8	黒色付着物
122-5		VIII-64	第3層	石筥	撥	珪質頁岩	143.8	52.8	31.2	195.9	黒色付着物
122-6		IXB-79	第2層	石筥	撥	珪質頁岩	134.5	29.0	19.9	68.4	
123-1		IXB-78	第2層	石錐	棒	珪質頁岩	29.9	13.3	9.4	3.9	両端摩耗
123-2		IXA-78	第2層	石錐	棒	珪質頁岩	33.5	12.5	11.8	5.0	両端摩耗
123-3		IXA-80	第2層	石錐	棒	珪質頁岩	36.4	12.9	6.8	3.5	両端摩耗
123-4		VIV-65	第3層	石錐	棒	珪質頁岩	36.2	7.3	5.3	1.5	
123-5	16トレンチ	IXB-80	第2層	石錐	棒	珪質頁岩	66.6	13.0	7.7	7.1	両端摩耗
123-6	8トレンチ	IXE-84	第2層	石錐	棒	珪質頁岩	42.9	12.0	7.0	3.3	黒色付着物
123-7		VIV-65	第3層	石錐	棒	珪質頁岩	47.5	11.8	8.9	5.1	両端摩耗
123-8		VIV-70	不明	石錐	棒	珪質頁岩	35.6	16.3	6.9	4.3	先端摩耗
123-9		-	不明	石錐	つまみ	珪質頁岩	48.4	14.2	9.7	5.5	
123-10		IXC-82	第2層	石錐	つまみ	珪質頁岩	27.7	11.5	3.5	0.7	
123-11		IXB-78	第2層	石錐	つまみ	珪質頁岩	23.1	9.9	3.4	0.7	
123-12		IXB-79	第3層	石錐	つまみ	珪質頁岩	40.7	18.7	5.7	3.6	
123-13		IXB-77	第2層	石錐	つまみ	珪質頁岩	52.1	16.0	10.7	7.1	
123-14		VIII-66	第2層	石錐	つまみ	珪質頁岩	26.1	11.2	6.0	1.5	両端摩耗 黒色付着物
123-15		IXB-80	第2層	石錐	つまみ	珪質頁岩	36.2	14.5	8.3	3.3	両端摩耗
123-16		IXD-84	第2層	石錐	つまみ	珪質頁岩	31.3	14.2	6.0	2.0	先端摩耗 黒色付着物
123-17		IXC-80	第2層	石錐	つまみ	珪質頁岩	43.5	17.1	9.8	5.1	
123-18		VIV-66	第3層	石錐	つまみ	珪質頁岩	66.3	20.2	13.9	13.5	
123-19		IXC-76	第2層	石錐	つまみ	珪質頁岩	64.6	21.1	12.3	11.8	
123-20		IXA-74	第3層	石錐	つまみ	珪質頁岩	152.0	36.8	26.6	99.1	
123-21		IXB-79	第2層	石錐	つまみ	珪質頁岩	37.1	13.3	7.4	3.3	
123-22		VIII-62	第2層	石錐	つまみ	珪質頁岩	34.8	16.0	6.5	2.5	
123-23	西トレンチ	IXB-81	第2層	石錐	つまみ	珪質頁岩	35.1	17.9	6.0	4.3	
123-24		IXB-83	第2層相当	石錐	つまみ	珪質頁岩	40.8	17.9	8.2	5.3	
123-25		-	第3層	石錐	つまみ	珪質頁岩	39.2	13.5	4.2	2.2	
123-26		IXB-81	第2層	石錐	つまみ	珪質頁岩	29.8	21.7	7.6	3.3	
123-27		IXE-81	第2層	石錐	つまみ	珪質頁岩	37.7	26.3	7.2	5.2	
123-28		IXC-77	第2層	石錐	つまみ	珪質頁岩	62.0	55.2	17.0	36.6	
123-29		VIII-64	第2層	石錐	つまみ	珪質頁岩	99.1	45.6	16.0	63.0	先端摩耗 黒色付着物
124-1		VIII-64	第2層	石錐	つまみ	珪質頁岩	19.0	10.0	6.0	0.7	
124-2		IXB-80	第2層	石錐	つまみ	珪質頁岩	25.4	18.2	5.7	2.1	
124-3		IXC-83	第2層相当	石錐	つまみ	珪質頁岩	52.2	21.5	13.1	7.4	
124-4		IXC-82	第2層	石錐	つまみ	珪質頁岩	62.5	19.2	9.4	8.0	
124-5		VIV-68	第2層	石錐	つまみ	珪質頁岩	49.9	16.8	7.9	6.2	
124-6		VIII-64	第2層	石錐	つまみ	珪質頁岩	82.6	33.4	14.0	29.8	
124-7		IXA-75	攪乱	石錐	つまみ	珪質頁岩	82.9	41.4	16.9	32.7	黒色付着物
124-8		VIII-66	第2層	石錐	つまみ	珪質頁岩	37.7	52.3	18.8	13.0	
124-9		VIII-61	第2層	石錐	つまみ	珪質頁岩	40.8	60.5	13.8	19.6	
124-10		IXB-82	第2層	石錐	つまみ	珪質頁岩	62.5	47.7	11.1	13.7	
124-11		VIV-66	第3層	石錐	つまみ	珪質頁岩	49.3	32.4	22.2	19.8	
124-12		VIII-68	第3層	石錐	つまみ	珪質頁岩	43.1	29.0	11.4	9.0	
124-13		IXA-74	不明	石錐	つまみ	珪質頁岩	62.3	49.3	11.4	23.4	
124-14		IXB-78	第2層相当	石錐	つまみ	珪質頁岩	47.5	35.1	8.2	7.7	
124-15		IXD-82	第2層	石錐	つまみ	珪質頁岩	70.5	41.0	15.4	16.4	
124-16		IXB-78	第2層	石錐	つまみ	珪質頁岩	48.3	43.8	12.6	9.4	
124-17	トレンチ13	IXC-74	第2層	石錐	つまみ	珪質頁岩	50.4	51.8	13.2	27.7	
125-1		VIII-65	第3層	石錐	つまみ	珪質頁岩	78.0	88.3	21.3	82.0	黒色付着物
125-2		IXB-81	第2層	石錐	つまみ	珪質頁岩	78.3	74.4	21.0	45.6	
125-3		IXC-84	第2層	石錐	つまみ	珪質頁岩	35.3	19.4	7.5	1.7	
125-4		VIV-66	第2層	石錐	つまみ	珪質頁岩	59.3	35.6	12.8	16.3	先端摩耗
125-5		VIV-81	攪乱	石錐	つまみ	珪質頁岩	99.6	44.1	18.3	42.8	
125-6	トレンチ14	-	第2層	石錐	剥片端	珪質頁岩	91.4	76.0	19.4	43.9	黒色付着物
125-7		IXC-74	第2層	石錐	剥片端	珪質頁岩	78.0	37.3	16.3	32.6	
125-8		VIV-65	第II層	石錐	剥片端	珪質頁岩	75.6	54.6	18.4	50.4	
125-9		IXB-75	第2層	石錐	剥片端	珪質頁岩	47.8	29.0	16.5	10.2	
125-10		IXA-77	第2層	石錐	石鏃転用	珪質頁岩	34.5	13.2	6.1	2.8	黒色付着物
125-11		IXD-82	第1層	石錐	石鏃転用	珪質頁岩	41.0	14.2	7.5	4.5	先端摩耗
125-12		IXB-84	第2層相当	石錐	石鏃転用	珪質頁岩	28.7	16.9	6.0	2.4	先端摩耗
126-1		IXB-83	第2層相当	石匙	縦	珪質頁岩	46.3	19.5	6.5	4.1	非調整
126-2		IXB-74	第3層	石匙	縦	珪質頁岩	58.9	28.9	12.3	13.9	片刃
126-3		IXA-81	第3層	石匙	縦	珪質頁岩	55.0	35.9	13.5	15.3	片刃
126-4		VIII-70	第3層	石匙	縦	黒曜石	43.6	21.1	11.2	10.2	片刃 木造・出来島
126-5		VIII-72	第3層	石匙	縦	珪質頁岩	82.7	28.7	8.8	20.7	片刃 光沢
126-6		IXB-75	第3層	石匙	縦	珪質頁岩	81.5	35.3	11.5	29.3	片刃
126-7		IXB-77	第2層	石匙	縦	珪質頁岩	91.5	22.9	8.4	18.2	両刃
126-8		IXC-82	第2層	石匙	縦	珪質頁岩	111.5	28.8	10.6	31.7	両刃 石さじ1001
126-9		IXB-78	第3層	石匙	縦	珪質頁岩	99.1	35.3	9.7	21.8	片刃 光沢
126-10		VIII-67	第3層	石匙	縦	珪質頁岩	73.2	59.8	8.9	27.6	非調整
126-11		IXA-74	第3層	石匙	縦	黒曜石	55.3	29.0	11.3	16.3	両刃 上土燧・上土燧
126-12		IXC-79	第2層	石匙	縦	珪質頁岩	46.7	30.5	7.5	5.4	片刃
126-13	東トレンチ	IXB-83	第2層	石匙	縦	珪質頁岩	72.6	39.6	8.3	18.2	両刃
126-14		VIII-79	第2層	石匙	縦	珪質頁岩	53.6	40.4	9.9	19.2	非調整
126-15		IXB-76	第2層	石匙	縦	珪質頁岩	61.6	35.3	12.5	20.0	両刃
126-16	トレンチ13	IXB-73	第3層	石匙	縦	珪質頁岩	74.4	37.8	16.3	20.5	片刃
126-17		IXA-74	第3層	石匙	縦	珪質頁岩	83.4	48.7	14.4	32.5	片刃
127-1		IXD-86	第2層	石匙	縦	珪質頁岩	74.2	37.1	18.1	26.3	片刃 黒色付着物
127-2		VIII-62	第3層	石匙	縦	珪質頁岩	97.9	31.5	13.1	26.4	片刃
127-3		IXD-83	第I・II層	石匙	縦	珪質頁岩	81.6	25.4	9.6	18.4	両刃
127-4		IXB-78	第2層	石匙	縦	珪質頁岩	78.5	32.3	9.6	18.3	両刃

剥片石器観察表(4)

図番号	出土位置	グリッド	層位	器種	器種細分	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
127-5		IXE-85	第2層	石匙	縦	珪質頁岩	85.1	29.6	8.4	17.8	両刃
127-6	トレンチ13	IXB-73	第3層	石匙	縦	珪質頁岩	85.6	37.8	15.5	36.1	片刃
127-7		IXB-79	第3層	石匙	縦	珪質頁岩	49.5	28.3	8.8	6.5	片刃
127-8		IXB-78	第2層	石匙	縦	珪質頁岩	60.5	28.2	8.7	12.0	片刃 光沢
127-9		VII-X-70	第3層	石匙	縦	珪質頁岩	56.6	23.2	9.4	9.8	両刃
127-10		IXA-72	第3層	石匙	縦	珪質頁岩	71.5	31.4	17.0	14.4	片刃
127-11		IXB-79	第3層	石匙	縦	珪質頁岩	76.6	31.1	14.9	27.2	片刃
127-12		IXC-75	第2層	石匙	縦	珪質頁岩	86.6	25.9	9.1	20.0	片刃
127-13		IXA-80	第2層	石匙	縦	珪質頁岩	81.2	29.0	15.5	22.5	両刃
127-14		IXB-76	第2層	石匙	縦	珪質頁岩	72.4	21.7	12.3	14.4	両刃
127-15		IXA-84	第I・II層	石匙	縦	珪質頁岩	83.5	40.3	12.8	35.4	両刃 黒色付着物により一部図化していない
128-1		IXB-74	第3層	石匙	横	珪質頁岩	34.0	56.3	9.8	13.2	両刃
128-2		IXB-76	第2層	石匙	横	珪質頁岩	24.9	72.6	10.2	14.2	片刃
128-3		-	第2層	石匙	横	珪質頁岩	41.2	78.5	11.7	28.0	片刃
128-4		IXC-D-75	第2層	石匙	横	珪質頁岩	40.7	64.6	7.8	13.6	非調整
128-5		IXB-79	第3層	石匙	横	珪質頁岩	56.3	84.5	16.8	52.3	片刃
128-6		IXA-74	不明	石匙	横	珪質頁岩	42.7	39.0	6.7	7.9	非調整
128-7		VII-Y-78	第2層	石匙	横	珪質頁岩	51.2	62.8	6.9	13.6	片刃
128-8		IXB-77	第3層	石匙	横	珪質頁岩	49.5	67.4	11.9	21.8	両刃 黒色付着物
128-9		VII-Y-70	不明	石匙	横	珪質頁岩	52.0	76.1	11.4	28.3	両刃
128-10		IXB-72	第2層	石匙	横	珪質頁岩	54.1	61.4	13.1	24.5	片刃 光沢
128-11		VII-Y-71	第2層	石匙	横	珪質頁岩	72.3	65.0	18.4	52.3	両刃 黒色付着物
128-12		IXB-79	第2層	石匙	横	珪質頁岩	60.7	73.0	11.4	30.9	両刃 光沢
129-1		IXB-78	第3層	石匙	横	珪質頁岩	63.4	80.2	12.7	41.9	片刃
129-2		VII-Y-69	不明	石匙	横	珪質頁岩	36.2	50.3	9.1	11.3	片刃
129-3	16トレンチ	IXB-80	第2層	石匙	横	珪質頁岩	60.7	68.0	14.7	38.0	片刃
129-4		IXC-82	第3層	石匙	横	珪質頁岩	51.2	60.5	10.4	27.2	片刃
129-5	17トレンチ	IXB-77	第2層	石匙	横	珪質頁岩	53.0	62.0	11.2	27.9	両刃
129-6		IXC-79	第2層	石匙	横	珪質頁岩	55.2	73.8	12.8	35.1	両刃 光沢
129-7		VII-Y-70	不明	石匙	斜横	珪質頁岩	50.8	53.7	8.5	15.7	非調整
129-8		VII-T-63	第3層	石匙	斜横	珪質頁岩	47.0	50.1	11.1	24.2	片刃
129-9		IXC-74	第2層	石匙	横	珪質頁岩	71.6	98.5	17.0	80.6	非調整
129-10		IXB-77	第3層	石匙	横	珪質頁岩	36.4	42.2	7.0	8.6	片刃
129-11		VII-Y-74	第3層相当	石匙	横	珪質頁岩	41.3	34.4	6.4	5.2	両刃
129-12		IXC-77	第2層	石匙	横	珪質頁岩	60.7	79.2	14.8	31.7	片刃
129-13	トレンチ13	IXC-73	第2層	石匙	横	黒曜石	33.5	52.2	10.2	16.2	両刃 木造・出来島
130-1		VII-S-64	第3層	石匙	斜	珪質頁岩	43.1	20.8	4.6	2.1	非調整
130-2		IXA-79	第2層	石匙	斜	珪質頁岩	60.7	23.4	10.9	14.4	非調整
130-3		VII-Y-75	第III層	石匙	斜	珪質頁岩	65.9	25.1	10.1	11.5	両刃 黒色付着物 光沢
130-4		VII-Y-79	第3層	石匙	斜	珪質頁岩	81.6	27.2	10.2	13.9	片刃
130-5		IXB-75	第3層	石匙	斜	珪質頁岩	94.9	37.2	9.8	28.1	片刃
130-6		IXB-80	第2層	石匙	斜	珪質頁岩	56.0	31.0	6.7	8.2	片刃
130-7		VII-Y-79	第2層	石匙	斜	珪質頁岩	73.8	42.4	13.6	29.1	両刃 光沢
130-8		IXB-76	第2層	石匙	斜	珪質頁岩	71.3	46.6	7.5	21.4	片刃
130-9		VII-U-64	第3層	石匙	斜	珪質頁岩	77.4	38.0	14.7	35.6	非調整
130-10		VII-U-64	第3層	石匙	斜	珪質頁岩	85.0	41.4	11.2	15.5	片刃
130-11		IXB-74	第3層	石匙	斜	珪質頁岩	86.8	40.3	13.4	26.9	両刃
130-12		IXB-78	第2層相当	石匙	斜	珪質頁岩	86.1	45.1	11.5	43.1	両刃 光沢
130-13		VII-Y-70	不明	石匙	斜	珪質頁岩	67.3	53.3	19.0	42.8	片刃
130-14		VII-U-63	第2層	石匙	斜	珪質頁岩	77.9	50.5	11.5	40.7	非調整 光沢
131-1		IXB-81	第2層	石匙	斜	珪質頁岩	57.6	36.6	7.9	13.3	片刃
131-2		VII-Y-70	第3層	石匙	斜	珪質頁岩	66.5	36.7	7.7	13.6	片刃
131-3		VII-U-63	第3層	石匙	斜	珪質頁岩	67.9	27.4	7.2	11.9	片刃
131-4		VII-T-60	第2層相当	石匙	斜	珪質頁岩	72.1	29.8	9.8	15.7	片刃 光沢
131-5		IXB-80	成2層下	石匙	斜	珪質頁岩	68.9	21.8	11.3	10.2	片刃
131-6		IXB-80	成2層下	石匙	斜	珪質頁岩	52.9	43.0	9.3	10.0	片刃 黒色付着物
131-7		VII-W-70	不明	スクレイパー		珪質頁岩	51.9	28.8	9.3	14.3	
131-8		VII-U-66	第3層	スクレイパー		珪質頁岩	49.7	35.1	14.3	25.9	
131-9		IXC-83	第3層	スクレイパー		珪質頁岩	57.9	33.7	8.9	15.4	
131-10		IXA-79	第2層	スクレイパー		珪質頁岩	62.7	26.2	10.8	17.3	
131-11	東へ外	IXC-83	第2層	スクレイパー		珪質頁岩	54.5	33.7	8.1	9.8	
131-12		VII-U-62	第2層	スクレイパー		珪質頁岩	56.9	48.6	12.0	32.9	
131-13		VII-W-66	第2層	スクレイパー		珪質頁岩	67.1	38.6	13.2	30.5	
131-14		IXB-75	第3層	スクレイパー		珪質頁岩	59.4	40.7	10.4	24.1	
131-15		-	不明	スクレイパー		珪質頁岩	63.7	49.9	11.2	26.9	
131-16		IXB-74	第2層	スクレイパー		珪質頁岩	26.6	56.0	8.0	10.1	
131-17		IXB-75	第3層	スクレイパー		珪質頁岩	58.8	56.2	12.9	36.3	
132-1		VII-Y-72	不明	スクレイパー		珪質頁岩	75.5	30.1	15.0	18.3	
132-2		IXB-84	第3層上面	スクレイパー		珪質頁岩	78.9	30.7	13.6	29.7	
132-3		VII-Y-66	第3層	スクレイパー		珪質頁岩	75.3	39.5	11.1	29.4	
132-4		IXB-78	第2層	スクレイパー		珪質頁岩	70.5	45.4	17.0	53.5	
132-5		IXB-75	第3層	スクレイパー		珪質頁岩	73.9	37.0	16.1	36.9	
132-6		VII-T-65	第3層	スクレイパー		珪質頁岩	76.8	27.4	12.6	23.0	
132-7		VII-S-64	第3層	スクレイパー		珪質頁岩	73.7	44.7	10.4	32.8	光沢
132-8		IXB-80	成層下	スクレイパー		珪質頁岩	75.3	48.8	15.2	37.6	
132-9		IXA-75	第3層	スクレイパー		珪質頁岩	81.8	49.7	17.1	48.4	
132-10		VII-T-64	第3層	スクレイパー		珪質頁岩	71.3	49.6	25.0	59.6	
132-11		VII-T-63	第3層	スクレイパー		珪質頁岩	49.6	98.8	15.5	54.5	
133-1		VII-T-64	第2層	スクレイパー		珪質頁岩	77.3	40.6	20.0	50.8	
133-2		IXB-82	第3層上面	スクレイパー		珪質頁岩	87.4	41.9	20.0	61.3	
133-3		IXB-78	第2層	スクレイパー		珪質頁岩	85.6	49.3	20.3	68.5	
133-4	18へ外	IXC-80	第2a~d層	スクレイパー		珪質頁岩	89.0	44.4	14.5	61.1	
133-5		-	第1層	スクレイパー		珪質頁岩	87.7	33.8	17.8	50.4	
133-6		IXB-76	第2層	スクレイパー		珪質頁岩	96.8	40.6	16.8	60.5	
133-7		IXC-82	第2層	スクレイパー		珪質頁岩	93.5	47.5	17.6	64.6	
133-8		IXC-74	第3層	スクレイパー		珪質頁岩	98.4	42.5	15.2	38.5	
134-1		IXC-77	第3層	スクレイパー		珪質頁岩	103.4	43.8	21.3	82.0	
134-2		IXC-84	第2層	スクレイパー		珪質頁岩	114.2	44.2	14.7	64.0	
134-3		VII-R-62	第3層	スクレイパー		珪質頁岩	105.8	52.2	18.7	77.1	
134-4		IXA-79	第3層	スクレイパー		珪質頁岩	71.9	72.9	19.3	77.4	
134-5		VII-W-68	第2層	スクレイパー		珪質頁岩	94.3	58.9	18.1	67.0	

剥片石器観察表(5)

図番号	出土位置	グリッド	層位	器種	器種細分	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
134-6	トレンチ	VIII-65	第3層	スクレイパー		珩質頁岩	92.7	64.2	18.2	83.7	
134-7		VIII-66	第3層	スクレイパー		珩質頁岩	86.7	83.6	22.0	137.8	
135-1		IXC-78	第2層	スクレイパー		珩質頁岩	153.8	63.9	35.1	245.2	
135-2		IXD-85	第2層	スクレイパー		珩質頁岩	106.1	75.7	27.6	164.3	
135-3		IXD-74	第2層	スクレイパー		珩質頁岩	99.0	94.8	23.5	112.0	黒色付着物
135-4		IXC-86	第2層	スクレイパー		珩質頁岩	142.7	56.6	21.8	111.2	
136-1		IXA-76	第3層	スクレイパー		珩質頁岩	59.2	98.6	24.7	117.0	
136-2		IXB-76	第2層	スクレイパー		珩質頁岩	119.7	80.3	24.0	196.8	
136-3	東へ外	IXC-83	第2層	スクレイパー		珩質頁岩	36.0	38.4	14.1	16.6	
136-4	トレンチ7	VIII-71	第22・23層	スクレイパー		珩質頁岩	40.2	45.2	11.0	14.5	
136-5		VIII-64	第3層	スクレイパー		珩質頁岩	50.4	44.2	15.0	19.1	
136-6		IXC-73	第2層	スクレイパー		珩質頁岩	40.6	51.8	10.2	15.5	
136-7		IXC-81	第2層相当	スクレイパー		珩質頁岩	49.6	78.4	13.2	38.6	
136-8		VIII-71	不明	スクレイパー		珩質頁岩	38.1	65.5	12.7	29.3	
136-9		IXB-75	第3層	スクレイパー		珩質頁岩	52.0	57.1	20.3	59.4	
136-10		VIII-74	第3層相当	スクレイパー		珩質頁岩	56.3	69.8	17.8	54.4	
137-1		IXB-71	第3層	スクレイパー		珩質頁岩	80.5	62.1	23.4	70.9	
137-2		VIII-65	第3層	スクレイパー		珩質頁岩	57.8	85.8	21.9	65.8	
137-3		IXE-85	第3層	スクレイパー		珩質頁岩	45.4	25.0	11.2	10.4	
137-4		IXE-84	第2層	スクレイパー		珩質頁岩	55.2	36.0	12.1	20.8	
137-5	東へ外	IXD-83	第2層	スクレイパー		珩質頁岩	39.4	31.6	12.3	15.2	
137-6		VIII-70・71	不明	スクレイパー		珩質頁岩	64.8	37.2	19.3	34.7	
137-7		VIII-62	第2層相当	スクレイパー		珩質頁岩	86.5	36.3	20.5	45.5	
137-8		VIII-70	第III層	スクレイパー		緑色凝灰岩	60.0	40.9	15.6	28.9	
137-9		VIII-60	第3層	スクレイパー		珩質頁岩	60.9	72.4	18.3	93.3	
137-10		IXC-74	第2層	スクレイパー		珩質頁岩	84.5	60.1	18.1	78.6	
138-1		VIII-63	第2層	両面調整石器	用途不明	珩質頁岩	54.6	36.1	13.4	16.1	
138-2		VIII-Q-62	第2層	両面調整石器	用途不明	珩質頁岩	150.5	86.3	35.2	453.5	石核か
138-3	東へ外	IXA-84	第2層	両面調整石器	用途不明	珩質頁岩	85.0	57.0	34.5	136.7	
138-4		-	第1層	両面調整石器	用途不明	珩質頁岩	115.4	64.4	28.4	146.4	
138-5		-	不明	両面調整石器	用途不明	珩質頁岩	95.5	77.4	26.6	140.9	スクレイパーか
139-1	中央トレンチ	VIII-67	第3層	両面調整石器	用途不明	珩質頁岩	131.5	70.2	32.1	278.6	石核か
139-2		IXB-81	第3層上面	両面調整石器	用途不明	珩質頁岩	121.1	68.1	22.2	189.8	
139-3		IXB-82	第2層	両面調整石器	用途不明	珩質頁岩	132.8	70.8	38.2	311.1	
140-1		IXB-73	第2・3層	両面調整石器	用途不明	珩質頁岩	136.9	81.9	33.8	316.9	
140-2		VIII-T-64	第3層	両面調整石器	用途不明	凝灰岩	141.8	67.6	29.8	240.0	
140-3		IXB-75	第3層	両面調整石器	用途不明	珩質頁岩	102.0	86.3	28.2	201.9	スクレイパーか
141-1		VIII-63	第3層	両面調整石器	用途不明	緑色凝灰岩	186.5	66.0	31.9	426.8	
141-2		-	第3層	両面調整石器	用途不明	珩質頁岩	186.4	68.8	50.7	560.0	
141-3		IXB-74	第2層	二次加工剥片		珩質頁岩	37.6	22.6	8.1	5.6	石鏃未製品か
141-4		IXB-74	第2層	二次加工剥片		珩質頁岩	39.3	33.2	12.8	13.7	
141-5		IXB-75	第2層	二次加工剥片		珩質頁岩	70.7	47.8	14.2	45.9	
141-6		IXC-82	第2層	二次加工剥片		珩質頁岩	44.2	34.6	12.3	15.9	
141-7		IXC-72	第2層	楔形石器		珩質頁岩	35.8	35.5	17.8	23.0	
141-8		VIII-U-66	第3層	楔形石器		珩質頁岩	31.4	47.9	14.7	17.2	
142-1		IXC-85	第2層	微細剥離剥片		珩質頁岩	68.5	41.9	15.7	37.2	
142-2		IXC-82	第2層	微細剥離剥片		珩質頁岩	86.6	60.7	19.3	88.4	
142-3		IXC-82	第2層	微細剥離剥片		珩質頁岩	105.4	34.8	16.1	50.5	
142-4		VIII-V-69	第3層	微細剥離剥片		珩質頁岩	98.0	47.9	20.8	73.0	光沢
142-5		IXC-75	第3層	異形石器		珩質頁岩	31.5	33.9	8.1	3.7	黒色付着物
142-6		IXA-74	第3層	異形石器		珩質頁岩	38.8	49.6	7.5	8.9	
142-7		VIII-R-63	第2層相当	異形石器		鉄石英	28.1	43.0	8.1	6.4	
142-8		VIII-V-67	第3層	異形石器		珩質頁岩	42.0	68.1	10.7	9.9	
142-9		VIII-V-65	第3層	異形石器		珩質頁岩	41.1	49.8	8.3	9.8	
142-10		VIII-T-64	第2層	異形石器		珩質頁岩	51.1	49.8	11.7	13.9	
142-11		IXB-75	第2層	異形石器		珩質頁岩	47.7	31.2	9.8	7.0	黒色付着物
142-12		IXB-79	第3層	異形石器		珩質頁岩	53.1	33.9	9.8	6.7	
143-1		VIII-W-67	第3層	異形石器		鉄石英	17.6	22.2	5.0	1.2	
143-2		VIII-W-67	第2層	異形石器		鉄石英	14.9	40.4	8.0	4.3	
143-3		IXC-80	第2層	異形石器		珩質頁岩	20.3	46.7	5.2	3.7	
143-4		IXB-75	第2層	異形石器		珩質頁岩	20.7	39.0	7.7	3.5	
143-5		IXB-72	第2層	異形石器		黒曜石	36.9	9.5	7.2	2.4	木造・出来島
143-6		VIII-V-67	第3層	異形石器		珩質頁岩	32.3	77.8	14.1	25.1	
143-7		VIII-S-62	第2層相当	異形石器		珩質頁岩	28.8	63.5	11.8	17.0	
143-8	17トレンチ	IXB-76	第3層	異形石器		珩質頁岩	58.3	47.2	22.5	59.0	
143-9		IXB-81	第2層	異形石器		珩質頁岩	64.1	33.9	13.2	18.9	
143-10		IXC-84	第2層	異形石器		珩質頁岩	53.4	54.7	13.3	23.3	S1001
143-11	16トレンチ	IXB-80	第2層	異形石器		珩質頁岩	82.0	90.6	55.2	412.8	
144-1		IXB-79	第2層	石核		珩質頁岩	155.1	51.3	47.0	350.2	
144-2		IXB-84	第3層上面	石核		珩質頁岩	45.3	127.7	66.8	339.4	

礫石器観察表(1)

図番号	出土位置	グリッド	層位	器種	器種細分	石材	形状	長さmm	幅mm	厚さmm	重量g	備考
図145-1	3ペルト	VIIIU-68	第3a層	磨礫石	-	緑色凝灰岩	C1	93	83	43	392	磨2(B・B)、敲(A1・B2)
図145-2	3ペルト	VIIIW-67	第3a層	打製石器	B5類	粗粒玄武岩	D	173	65	37	650	凹1(B1)
図145-3	3ペルト	VIIIW-67	第3a層	打製石器	B1類	相馬安山岩	C2	159	95	31	740	挟入の意図有か ※残存デンプン粒分析
図145-4	3ペルト	VIIIW-67	第3a層	打製石器	B4類	相馬安山岩	C2	171	128	25	800	
図145-5	3ペルト	VIIIU-68	第3a層	台石	-	デイサイト	丸石	210	191	122	7,000	磨2(A・A)
図145-6	3ペルト	VIIIW-67	第3a層	磨製石斧	-	緑色凝灰岩	-	116	25	20	75	小型
図146-1	3ペルト	VIIIU-67	第3b層	石皿	-	凝灰岩	-	396	315	165	14,500	片側に突起、底面平坦、磨2(A・A)
図146-2	3ペルト	VIIIW-67	第3c層	凹石	-	緑色凝灰岩	C2	122	33	60	269	凹2(B2・B2)
図146-3	3ペルト	VIIIW-67	第3c層	打製石器	B5類	緑色凝灰岩	C2	167	83	43	602	凹2(B1・B1)
図146-4	3ペルト	VIIIU-66	第3c・d層	磨石	I類	緑色凝灰岩	D	129	39	31	176	磨4(側面3面と端部1面に磨痕B)
図146-5	3ペルト	VIIIW-66	第3c・d層	凹石	-	凝灰岩	B2	104	68	56	422	凹2(A2・A2)、容器状石製品と関連か
図146-6	3ペルト	VIIIU-66	第3c・d層	凹石	-	安山岩	B1	83	49	27	139	凹1(C2)
図147-1	3ペルト	VIIIU-66	第3c・d層	凹礫石	-	緑色凝灰岩	C2	158	66	33	517	凹2(C2・C2)、敲(A2)
図147-2	3ペルト	VIIIU-66	第3c・d層	凹礫石	-	緑色凝灰岩	B2	126	80	45	593	凹2(C2・C2)、敲(B1)
図147-3	3ペルト	VIIIW-66	第3c・d層	磨凹礫石	-	緑色凝灰岩	D	113	47	36	232	磨2(A・A)、凹2(C2・C2)、敲(A2)
図147-4	3ペルト	VIIIW-66	第3c・d層	磨凹礫石	-	緑色凝灰岩	C2	123	75	41	461	磨3(BC・BC、端部にも磨痕C) 凹2(C2・C2)、敲(A1) 磨痕は長軸+短軸、凹痕後に形成か
図147-5	3ペルト	VIIIU-67	第3c・d層	石錘	I類	緑色凝灰岩	D	169	57	47	750	
図147-6	3ペルト	VIIIW-66	第3c・d層	打製石器	その他	流紋岩	C2	260	70	31	718	長辺一辺に微細な剥離
図147-7	3ペルト	VIIIW-66	第3c・d層	打製石器	その他	緑色凝灰岩	C2	95	59	21	180	長辺一辺に両面から剥離
図147-8	3ペルト	VIIIU-66	第3c・d層	台石	-	凝灰岩	不明	195	235	83	2,600	磨1(AB)
図148-1	3ペルト	VIIIU-67	第3d層	敲石	I類	緑色凝灰岩	D	136	60	41	370	敲(A1・B1)
図148-2	3ペルト	VIIIU-68	第3d層	凹礫石	-	緑色凝灰岩	C2	158	87	30	499	凹2(B2・B2)、敲(B2・A1)
図148-3	3ペルト	VIIIU-68	第3e層	磨凹石	-	緑色凝灰岩	C2	69	56	26	100	磨1(A)、凹1(A1)、共存E
図148-4	13ペルト	IXB-73	第2a・b層	砥石	-	凝灰岩	B2	97	74	44	389	磨2(溝状砥面)
図148-5	13ペルト	IXA-73	第2a・b層	敲石	IIA類	珪質頁岩	石核	68	63	49	247	珪質頁岩の転石利用
図148-6	13ペルト	IXB-73	第3a層	石錘	I類	緑色凝灰岩	C2	90	75	24	230	磨2(A・A)、凹(C2・C2)
図148-7	13ペルト	IXA-73	第3a・c層	敲石	IIB類	珪質頁岩	石核	66	91	59	480	石核転用
図148-8	13ペルト	IXA-73	第3d・e・f層	打製石器	B2類	緑色凝灰岩	C2	159	80	26	440	※残存デンプン粒分析
図148-9	13ペルト	IXA-73	第3d・e・f層	台石	-	凝灰岩	丸石	255	188	135	9,000	磨1(A)
図149-1	13ペルト	VIIIY-73	第3g・h層	石皿	-	凝灰岩	-	(97)	158	49	900	小型、内面に横方向の顕著な擦痕 容器状石製品とも関連か
図149-2	13ペルト	IXA-74	第3h層	台石	-	凝灰岩	棒状	412	71	44	2,000	1面利用、長軸両端に寄った位置を使用 磨面と凹痕が同一場所に共存、擦痕
図149-3	13ペルト	VIIIY-73	第3i層	磨凹礫石	-	凝灰岩	B1	74	58	41	212	磨2(B・A)、凹(A2)、敲(A1)
図149-4	18ペルト	IXB-80	第2i層	磨礫石	-	緑色凝灰岩	C2	95	47	21	140	磨2(B・B)、敲(A2)、磨B(短)
図149-5	18ペルト	IXB-80	第3a・b層	磨凹礫石	-	凝灰岩	B2	90	70	57	400	磨2(B・B)、凹1(C2)、敲(A1・B1)
図149-6	18ペルト	IXA-80	第2k・m層	磨凹礫石	-	凝灰岩	B2	148	59	55	583	磨1(A)、凹2(B2・C2)、敲(A1)
図149-7	19ペルト	IXD-85	第2c層	磨凹石	-	凝灰岩	B1	71	67	38	160	破損、磨2(放射状に線状痕)、凹1(A2)
図150-1	捨て場	IXA-80	第2層	磨石	I類	泥岩	C1	36	36	12	19	磨1(B縁辺)
図150-2	捨て場	IXC-82	第3層	磨石	I類	緑色凝灰岩	C1	62	49	11	50	磨2(B・B)
図150-3	捨て場	IXA-74	第3層	磨石	I類	砂質凝灰岩	B1	52	44	39	100	磨2(A・A)
図150-4	捨て場	VIIIU-66	第3層	磨石	I類	凝灰岩	B2	43	37	24	50	磨全(B消しゴム状に多面を形成)
図150-5	捨て場	IXD-81	第2層	磨石	I類	凝灰岩	C2	35	101	17	70	磨2(B・B)
図150-6	捨て場	VIIIU-63	第2層	磨石	I類	シルト岩	C1	59	69	20	70	磨2(B・B)
図150-7	捨て場	VIIIU-67	第1層	磨石	I類	デイサイト	C2	44	63	24	104	磨全(特に縁辺に磨痕B顕著)
図150-8	捨て場	IXD-83	第2層	磨石	I類	凝灰岩	B2	48	78	45	200	断面三角形、磨3(A・A・B) ※残存デンプン粒分析
図150-9	捨て場	IXA-77	第2層	磨石	I類	緑色凝灰岩	B2	100	55	41	300	磨3(BC・B・B)
図150-10	捨て場	IXC-83	第2層	磨石	I類	緑色凝灰岩	B2	92	56	47	249	磨2(B・B)
図150-11	捨て場	IXC-70	第2層	磨石	I類	凝灰岩	A	112	132	105	2,190	磨多面(いずれもAかAB)
図151-1	捨て場	VIIIY-69	第3層	磨石	I類	デイサイト	A	156	142	111	3,200	磨1(B)
図151-2	捨て場	-	第2層	磨石	I類	緑色凝灰岩	C1	98	101	48	635	磨1(B)
図151-3	捨て場	IXC-80	第1a層	磨石	I類	安山岩	B2	70	147	59	720	磨1(B)、磨B(短)
図151-4	捨て場	IXC-82	3層	磨石	I類	流紋岩	B2	74	99	59	580	断面三角形、磨3(B・A・A)
図151-5	捨て場	VIIIW-69	堆積土	磨石	I類	安山岩	B2	64	109	78	675	断面三角形、磨3(A・A・A) ※残存デンプン粒分析
図151-6	捨て場	IXC-82	2層	磨石	I類	緑色凝灰岩	C2	80	172	52	1,080	磨2(B・B)
図151-7	捨て場	IXC-81	2層	磨石	I類	凝灰岩	板状	137	90	12	220	磨1(A)
図152-1	捨て場	VIIIW-68	-	磨石	I類	緑色凝灰岩	C2	195	83	52	1,007	磨1(B)、磨B(長)
図152-2	捨て場	IXE-86	I層	磨石	I類	緑色凝灰岩	D	179	54	50	610	磨4(各面に磨痕B)、うち1面に深い切り込み 内部に小孔
図152-3	捨て場	IXE-82	2層	磨石	I類	緑色凝灰岩	B1	50	45	32	80	磨2(C・A)
図152-4	捨て場	VIIIY-74	不明	磨石	I類	緑色凝灰岩	B1	85	65	48	319	磨2(C・B)
図152-5	捨て場	IXB-78	2層	磨凹石	-	凝灰岩	C2	135	86	33	372	磨2(BC・BC)、凹2(C2・C2)
図152-6	捨て場	IXA-78	2層	磨石	I類	凝灰質砂岩	C2	94	41	18	80	磨3(C・BC・C)、側面にも磨痕
図152-7	捨て場	IXB-81	3層	磨石	I類	泥岩	B2	107	53	39	340	磨2(B・B)
図152-8	捨て場	VIIIU-65	3層	磨凹石	-	安山岩	B2	143	78	50	640	磨1(B)、凹(B1)、共存E
図152-9	捨て場	IXA-74	3層	磨石	I類	緑色凝灰岩	C2	221	86	35	750	磨1(BC)
図152-10	捨て場	IXC-79	2層	磨石	I類	緑色凝灰岩	C2	146	118	45	720	磨1(C)
図153-1	捨て場	IXB-81	2層	敲石	I類	緑色凝灰岩	C2	67	44	24	100	敲(A1・B1)
図153-2	捨て場	VIIIU-66	3層	磨石	II類	緑色凝灰岩	C2	77	44	17	80	機能面2面、磨1(A)、凹2(A2・A2)
図153-3	捨て場	-	-	磨石	II類	赤色砂質凝灰岩	C2	101	49	21	140	凹(B1)

礫石器観察表(2)

図番号	出土位置	グリッド	層位	器種	器種細分	石材	形状	長さmm	幅mm	厚さmm	重量g	備考
図153-4	捨て場	VIIIW-67	3層	磨石	Ⅱ類	凝灰岩	C2	101	63	23	200	機能面2面、凹(C2・C2)
図153-5	捨て場	IXB-81	2層	磨石	Ⅱ類	凝灰岩	C2	132	62	23	260	機能面2面 ※残存デンプン粒分析
図153-6	捨て場	VIIIY-72	不明	磨石	Ⅱ類	緑色凝灰岩	C2	162	83	37	554	磨2(B・B)、凹2(B1・C2)
図153-7	捨て場	VIIIU-65	3層	磨石	Ⅱ類	安山岩	B2	95	52	39	270	磨2(A・A)、凹2(C2・C2)
図153-8	捨て場	IXC-80	1層	磨石	Ⅱ類	凝灰岩	C2	148	73	45	710	機能面2面、磨2(A・A)、蔽(A2)
図154-1	捨て場	VIIIW-68	2層	磨石	Ⅱ類	安山岩	B2	131	80	64	960	磨2(B・B)、凹1(B1)、磨B(長・短)
図154-2	捨て場	IXB-85	2層	磨石	Ⅱ類	粗粒玄武岩	B2	142	91	57	1,230	凹2(C1・C1)、蔽(A1)
図154-3	捨て場	IXB-84	2層相当	磨石	Ⅱ類	緑色凝灰岩	D	160	62	47	720	機能面2面、磨全、凹2(B2・B2)
図154-4	捨て場	VIIIW-67	3層	磨石	Ⅱ類	安山岩	B2	169	69	51	940	磨2(B・B)、凹(C2・C2)、磨B(短) ※残存デンプン粒分析
図154-5	捨て場	VIIIY-64	-	磨石	Ⅱ類	粗粒玄武岩	D	156	49	54	620	断面三角形、機能面2面、剥離伴う磨痕D
図154-6	捨て場	IXC-77	2層	磨石	Ⅱ類	粗粒玄武岩	D	158	65	57	930	断面三角形、機能面2面、凹3(B1・C1・C1)
図155-1	捨て場	IXC-72	2層	磨石	Ⅱ類	緑色凝灰岩	D	156	52	60	650	断面三角形、磨2(A・A)、凹2(C1・C1)
図155-2	捨て場	IXB-80	2層	磨石	Ⅱ類	砂質凝灰岩	B2	130	67	86	900	断面三角形、剥離伴う磨痕D、磨3(A・A・A)
図155-3	捨て場	IXA-79	2層	磨石	Ⅱ類	砂岩	B2	160	62	65	680	断面三角形、機能面2面、剥離伴う磨痕D 凹2(B1・B1)
図155-4	捨て場	IXB-84	2層	打製石器	B5類	緑色凝灰岩	C2	77	55	26	120	磨1(A)
図155-5	捨て場	IXC-78	2層	打製石器	A5類	安山岩	C2	119	54	22	280	側面は剥離のみ(磨痕Dはない)、凹1(C2)
図156-1	捨て場	VIIIU-65	3層	打製石器	B5類	粗粒玄武岩	C2	177	89	29	610	機能面の幅狭い、凹2(C2・C2)
図156-2	捨て場	IXB-74	3層	凹石	-	緑色凝灰岩	A	48	46	35	110	凹1(A2)
図156-3	捨て場	IXD-86	2層	凹石	-	緑色凝灰岩	C1	103	80	26	330	凹2(B1)
図156-4	捨て場	IXF-86	1層	凹石	-	緑色凝灰岩	C1	94	91	30	260	凹2(C2・C2)
図156-5	捨て場	VIII-62	1層	凹石	-	緑色凝灰岩	B1	82	85	62	480	凹4(A2・C2・A2・A2)
図156-6	捨て場	IXD-78	2層	凹石	-	緑色凝灰岩	B2	135	79	70	700	凹全(C2が表面ほぼ全周)
図157-1	捨て場	IXF-86	2層	凹石	-	凝灰岩	B2	118	102	57	900	凹2(C2・A2) ※残存デンプン粒分析
図157-2	捨て場	IXF-86	1層	凹石	-	緑色凝灰岩	B2	184	93	64	1,440	凹1(A2)
図157-3	捨て場	IXD-86	1層	凹石	-	緑色凝灰岩	D	162	68	54	840	凹3(C2・C2・C2)
図157-4	捨て場	-	2層	凹石	-	緑色凝灰岩	-	196	109	74	1,647	凹1(C2)、破損礫利用
図157-5	捨て場	VIIIY-65	Ⅱ～Ⅲ層	凹石	-	緑色凝灰岩	C2	209	122	45	1,470	凹1(B2)
図157-6	捨て場	VIII-62	3層	凹石	-	砂岩	C2	198	64	29	580	凹2(C2・C2)
図158-1	捨て場	IXA-80	1層	蔽石	I類	安山岩	B1	85	92	68	790	蔽(A1)
図158-2	捨て場	IXB-80	2層	蔽石	I類	緑色凝灰岩	B2	130	79	55	722	蔽(A1)
図158-3	捨て場	VIIIY-68	3層	蔽石	I類	緑色凝灰岩	C2	179	99	48	1,360	蔽(A2)
図158-4	捨て場	IXD-84	2層	蔽石	I類	緑色凝灰岩	C2	196	95	54	1,600	蔽(A1)
図158-5	捨て場	IXB-70	2層	蔽石	I類	緑色凝灰岩	A	105	97	80	970	蔽(1面広範囲)
図158-6	捨て場	IXC-81	2層	蔽石	I類	緑色凝灰岩	B2	141	63	45	500	蔽(曲面部1面、広範囲)
図158-7	捨て場	IXC-82	2層	蔽石	I類	緑色凝灰岩	B2	202	89	78	1,880	蔽(側面全周)
図158-8	捨て場	VIIIU-69	3層	蔽石	I類	緑色凝灰岩	C2	165	109	52	1,260	蔽(側面全周)
図158-9	捨て場	VIIIY-70	3層	蔽石	ⅡA類	珪質頁岩	原石	43	47	39	119	原石利用
図158-10	捨て場	VIIIY-69	堆積土	蔽石	ⅡA類	珪質頁岩	原石	70	62	41	216	原石利用
図158-11	捨て場	VIII-62	3層	蔽石	ⅡA類	珪質頁岩	原石	79	75	60	430	原石利用
図158-12	捨て場	VIII-64	2層	蔽石	ⅡC類	珪質頁岩	剥片	49	51	30	75	
図158-13	捨て場	IXA-75	カクラン	蔽石	ⅡC類	珪質頁岩	剥片	71	58	28	144	稜部利用
図158-14	捨て場	IXB-78	2層	蔽石	ⅡD類	珪質頁岩	石器	110	41	32	106	剥片石器転用、端部利用
図159-1	捨て場	IXA-79	2層	磨凹石	-	緑色凝灰岩	B2	77	62	52	330	磨1(A)、凹1(A1)、共存A
図159-2	捨て場	IXA-79	2層	磨凹石	-	緑色凝灰岩	C2	106	59	31	250	磨2(B・B)、凹2(C2・C2)、片面は平坦面形成
図159-3	捨て場	IXC-82	2層	磨凹石	-	凝灰岩	B2	118	93	52	890	磨2(A・A)、凹2(C2・C2)、赤色顔料付着 ※残存デンプン粒分析
図159-4	捨て場	VIIIY-70	2・3層	磨凹石	-	凝灰岩	B2	125	84	65	839	磨1(AB)、凹1(B2)、共存E
図159-5	捨て場	IXD-82	3層	磨凹石	-	緑色凝灰岩	C2	131	78	44	610	磨1(A)、凹2(C2・C2)、共存B
図159-6	捨て場	IXC-70	3層	磨凹石	-	凝灰岩	C2	145	50	25	180	磨2(B・A)、凹1(B1)、共存C
図159-7	捨て場	IXD-85	1層	磨凹石	-	緑色凝灰岩	B2	142	70	40	650	磨2(B・B)、凹1(C2)、共存C
図159-8	捨て場	IXA-79	I・II層	磨石	Ⅱ類	粗粒玄武岩	B2	120	64	52	698	機能面2面、磨2(A・A)、凹1(C2)
図159-9	捨て場	IXD-84	2層	磨凹石	-	緑色凝灰岩	C2	135	90	37	580	磨2(A・B)、凹1(C2)、共存C ※残存デンプン粒分析
図160-1	捨て場	VIIIU-62	3層	磨凹石	-	安山岩	D	217	51	50	850	磨2(A・B)、凹3(B2・C1・A1)
図160-2	捨て場	IXD-85	2層	磨凹石	-	緑色凝灰岩	B2	109	79	50	610	磨2(B・A)、凹1(C1)、凹痕偏る
図160-3	捨て場	IXF-86	3層	磨蔽石	-	流紋岩	B1	57	60	38	170	磨2(B・B)、蔽(全周)、微細な磨痕B無致
図160-4	捨て場	IXB-75	2層	磨蔽石	-	珪質頁岩	C1	71	52	21	110	磨全(特に縁辺部に磨痕B)、蔽(A1・B2) 個体451(円筒下層d2式)と供伴
図160-5	捨て場	VIIIY-71	2・3層	磨蔽石	-	安山岩	C1	72	58	36	212	磨1(B)、蔽(A2・B1)
図160-6	捨て場	IXE-85	2層	磨蔽石	-	凝灰質砂岩	B2	105	65	55	530	磨2(A・A)、蔽(A1) 凹痕Bとの分類不明瞭な蔽痕
図160-7	捨て場	IXA-73	3層	磨石	Ⅱ類	ヒン岩	B1	98	74	52	530	磨痕Dは片側面、磨2(A・A)、蔽(A1・B1)
図160-8	捨て場	IXA-66	1層	凹蔽石	-	緑色凝灰岩	C2	181	106	44	1,087	凹2(C2・C2)、蔽(B1)
図160-9	捨て場	VIIIY-70	2・3層	凹蔽石	-	粗粒玄武岩	B1	111	96	75	1,015	凹1(C2)、蔽(端部～側面)
図161-1	捨て場	VIIIY-69	3c層	凹蔽石	-	凝灰岩	B1	108	106	45	584	凹2(C2・C2)、蔽(A1) 広範囲な凹痕の中央に深い凹痕
図161-2	捨て場	VIIIY-72	3層	凹蔽石	-	凝灰岩	C1	81	63	27	180	凹2(A1・A1)、蔽(B1)
図161-3	捨て場	-	2層	磨凹蔽石	-	凝灰岩	C1	89	63	28	196	磨2(B・A)、凹2(A2・A2)、蔽(B1)
図161-4	捨て場	IXB-81	2層	磨凹蔽石	-	凝灰岩	B1	89	95	56	590	磨2(A・A)、凹2(C1・A1)、蔽(A2・B2)、磨痕偏る
図161-5	捨て場	IXD-84	2層	磨凹蔽石	-	緑色凝灰岩	C1	87	78	40	330	磨2(B・A)、凹2(A2・A2)、蔽(A2・B2)
図161-6	捨て場	VIIIY-71	堆積土	磨凹蔽石	-	緑色凝灰岩	C2	108	55	43	282	磨2(B・B)、凹2(C2・B1)、蔽(A1・B1) 蔽痕は片側端部を広範囲に

礫石器観察表(3)

図番号	出土位置	グリッド	層位	器種	器種細分	石材	形状	長さmm	幅mm	厚さmm	重量g	備考
図161-7	捨て場	VIII-69	2c層	磨凹敲石	-	緑色凝灰岩	C2	135	64	40	495	磨2(B・B)、凹1(B2)、敲(A1)、磨B(短) 磨Bは片側では面を形成、凹痕内にも磨B
図161-8	捨て場	IXC-81	2層	磨凹敲石	-	凝灰岩	B2	170	96	61	1,250	磨2(A・A)、凹2(A2・C2)、敲(B2) 表裏面全面整形研磨、側面は全体敲打
図162-1	捨て場	VIII-71	2・3層	磨凹敲石	-	砂岩	C1	137	134	51	940	磨3(B・B・B)、凹2(C2+C2)、敲(A1・B2) 凹痕は広範囲、敲痕は凹状
図162-2	捨て場	VIII-69	3層	磨凹敲石	-	デイスait	B2	132	71	65	880	磨3(B・B・B)、凹(B1)、敲(A1)、磨B(短) 凹痕上も磨られる(凹痕→磨痕の新旧関係)
図162-3	捨て場	IXB-76	3層	磨凹敲石	-	緑色凝灰岩	D	209	57	41	730	磨2(B)、凹3(C2・C2・C1)、敲1(A1)
図163-1	捨て場	VIII-69	堆積土	打製石器	B1類	相馬安山岩	C2	97	68	15	141	半月状
図163-2	捨て場	IXB-74	3層	打製石器	A1類	相馬安山岩	C2	130	57	14	136	半月状
図163-3	捨て場	IXA-79	3層	打製石器	A1類	相馬安山岩	板状	153	70	16	223	半月状
図163-4	捨て場	IXC-77	2層	打製石器	A1類	相馬安山岩	C2	197	95	16	397	半月状(左右非対称)
図163-5	捨て場	IXC-79	2層	打製石器	A1類	緑色凝灰岩	C2	172	74	17	290	半月状
図163-6	捨て場	VIII-63	3層	打製石器	A1類	相馬安山岩	C2	222	90	21	650	磨痕Dは部分的
図163-7	捨て場	IXC-75	3層	打製石器	A1類	相馬安山岩	板状	218	74	21	430	撥形、端部に磨痕
図164-1	捨て場	VIII-65	3層	打製石器	A2類	相馬安山岩	C2	130	111	16	333	加工は背面側のみ
図164-2	捨て場	VIII-69	2層	打製石器	A2類	相馬安山岩	C2	189	115	24	670	加工は部分的
図164-3	捨て場	IXB-81	2層	打製石器	A2類	相馬安山岩	C2	212	102	29	900	端部はほとんど加工せず
図164-4	捨て場	VIII-72	3層	打製石器	B2類	相馬安山岩	C2	142	88	30	620	磨2(A・A)、磨Aは一方は縁辺、他方は前面
図164-5	捨て場	VIII-68	3層	打製石器	B2類	緑色凝灰岩	C2	146	73	32	480	台形状、機能面は極めて部分的
図164-6	捨て場	VII-71、IXA-72	3層	打製石器	A1類	相馬安山岩	C5	147	111	16	460	台形状、磨痕Dは幅狭 ※残存デンプン粒分析
図165-1	捨て場	IXD-81	2層	打製石器	B1類	凝灰岩	C2	185	70	24	390	磨痕Dは幅狭
図165-2	捨て場	VIII-62	2層	打製石器	B1類	相馬安山岩	C2	213	77	28	659	磨痕Dは幅狭
図165-3	捨て場	IXC-72	2層	打製石器	B1類	凝灰岩	B2	130	84	57	820	背面側敲打痕 ※残存デンプン粒分析
図165-4	捨て場	VIII-69	3層	打製石器	B1類	粗粒玄武岩	C2	153	80	44	920	凹2(C1・C1) ※残存デンプン粒分析
図165-5	捨て場	VIII-66	3層	打製石器	B1類	安山岩	C2	147	82	37	610	両端部に敲打痕、側面に凹痕有=凹3(C2・C2・C2)
図165-6	捨て場	VIII-68	3層	打製石器	B2類	閃緑岩	C2	146	92	39	870	加工は部分的
図166-1	捨て場	IXB-76	3層	打製石器	B3類	緑色凝灰岩	E	104	62	39	450	両端部加工(片側は敲打痕)
図166-2	捨て場	-	捨て場3層	打製石器	B2類	緑色凝灰岩	C2	128	66	28	343	加工は片側端部のみ、凹1(C1)
図166-3	捨て場	VII-67	3層	石錘	I類	凝灰岩	D	143	77	23	320	長辺両側も剥離(±敲打痕?)
図166-4	捨て場	VIII-64	2層	打製石器	B4類	緑色凝灰岩	C2	135	66	26	350	機能面2面、加工は両端部のみ、凹2(C2・B1)
図166-5	捨て場	IXC-76	2層	打製石器	A4類	緑色凝灰岩	C2	148	72	34	507	片側側面に連続剥離
図166-6	捨て場	IXB-78	2層	打製石器	B4類	緑色凝灰岩	C2	158	76	35	600	両端部加工、凹2(C2・C2)
図166-7	捨て場	IXB-80	2層	打製石器	B4類	凝灰岩	C2	162	96	42	900	凹2(C2・C2) ※残存デンプン粒分析
図167-1	捨て場	IXB-77	2層	打製石器	B4類	緑色凝灰岩	C2	179	79	34	700	磨Dが幅狭になる箇所 ※残存デンプン粒分析
図167-2	捨て場	VIII-66	3層	打製石器	D1類	粗粒玄武岩	C2	136	77	48	710	敲1(B1)
図167-3	捨て場	VIII-68	3層	打製石器	C4類	緑色凝灰岩	C2	148	82	50	920	凹2(C2・C2)
図167-4	捨て場	VIII-70	2層	打製石器	B4類	緑色凝灰岩	C2	144	65	28	400	機能面2面、片側側面にも凹(C2) 覆林式に共伴 ※残存デンプン粒分析
図167-5	捨て場	IXB-79	2層	打製石器	C3類	凝灰岩	C2	146	76	43	760	挟入意識有
図167-6	捨て場	IXD-76	1層	打製石器	B3類	緑色凝灰岩	C2	149	84	32	650	挟入意識有か、磨1(A)、磨痕Aは偏る
図168-1	捨て場	IXA-84	I・II層	打製石器	C4類	緑色凝灰岩	C2	129	69	31	450	凹1(C2)
図168-2	捨て場	IXC-81	3層	打製石器	C4類	粗粒玄武岩	C2	120	79	33	400	凹2(A1・B1) ※残存デンプン粒分析
図168-3	捨て場	VIII-70	3層	打製石器	C4類	緑色凝灰岩	C2	163	110	53	1,450	磨2(A・A) ※残存デンプン粒分析
図168-4	捨て場	IXC-77	2層	打製石器	C4類	緑色凝灰岩	C2	155	97	41	1,000	凹2(C2・C2)、敲1
図169-1	捨て場	IXA-79	2層	石錘	I類	緑色凝灰岩	C2	92	64	18	140	長辺両側も打ち欠き
図169-2	捨て場	-	B層	石錘	I類	緑色凝灰岩	C2	152	74	43	720	剥離後敲打
図169-3	捨て場	IXD-82	3層	石錘	I類	デイスait	B2	111	86	54	780	磨2(B・A)、顕著、被熱
図169-4	捨て場	IXB-84	2層	石錘	I類	流紋岩	C2	127	95	37	720	凹1(A1)、礫表面全体がツルツル
図170-1	捨て場	IXA-78	2層	石錘	II類	緑色凝灰岩	C1	55	58	14	53	
図170-2	捨て場	VIII-64	-	石錘	II類	緑色凝灰岩	C1	83	80	20	174	
図170-3	捨て場	IXB-79	I・II層	石錘	II類	緑色凝灰岩	C2	92	65	22	137	剥離後敲打
図170-4	捨て場	IXA-80	I・II層	石錘	II類	緑色凝灰岩	C2	90	61	33	265	礫長軸側にも打ち欠、剥離後敲打
図170-5	捨て場	VIII-60	3層	石錘	II類	凝灰岩	C1	101	90	34	379	
図170-6	捨て場	VIII-67	3層	石錘	II類	緑色凝灰岩	C1	122	95	33	446	凹2(C2・C2)
図171-1	捨て場	IXB-78	2層	打製石器	その他	凝灰岩	C1	91	76	20	173	端部片側剥離
図171-2	捨て場	IXD-83	2層	打製石器	その他	緑色凝灰岩	C2	132	101	31	563	隣合う二辺剥離
図171-3	捨て場	IXA-86	1層	打製石器	その他	緑色凝灰岩	C2	142	62	26	265	端部に剥離、擦痕伴う磨面
図171-4	捨て場	IXB-74	2層	打製石器	その他	緑色凝灰岩	D	167	69	40	652	端部片側に剥離、側面に部分敲打痕
図171-5	捨て場	IXB-76	2層	打製石器	その他	凝灰岩	D	190	48	38	516	端部片側に剥離、凹2(C2・B1)
図171-6	捨て場	VIII-72	3層	打製石器	その他	凝灰岩	C2	122	85	33	362	破損礫の一边に微細な剥離が連続
図171-7	捨て場	VIII-68	2層	打製石器	その他	緑色凝灰岩	C1	154	114	34	830	一辺連続剥離
図172-1	捨て場	IXD-85	2層	打製石器	その他	相馬安山岩	E	193	133	48	1,750	一辺に連続剥離、背面にも部分剥離 3-図268-1と同一
図172-2	捨て場	IXB-78	2層	打製石器	その他	安山岩	C2	269	90	52	1,460	長辺一辺に磨2(B・B)、磨B(長)
図172-3	捨て場	IXA-82	カクラン	打製石器	D1類	相馬安山岩	C2	150	102	26	630	弧状縁辺部加工、使用痕無し
図172-4	捨て場	IXA-81	2層	打製石器	その他	緑色凝灰岩	C1	153	137	21	470	縁辺部分剥離、磨1(B)
図173-1	捨て場	VIII-65	3層	打製石器	その他	相馬安山岩	板状	207	156	27	1,130	縁辺部分剥離
図173-2	捨て場	VIII-65	3層	打製石器	その他	凝灰岩	C2	106	45	18	118	剥片素材、一方の端部を両面から剥離
図173-3	捨て場	IXB-83	2層	打製石器	その他	凝灰岩	C2	126	50	18	148	打製石斧状、撥形に整形剥離
図173-4	捨て場	VIII-65	2層	打製石器	その他	凝灰岩	C2	163	46	29	371	両側縁剥離、敲打痕伴う
図173-5	捨て場	VIII-71	3層	打製石器	その他	安山岩	三角柱	70	117	65	630	三角柱状石材の各縁辺を部分的に剥離
図173-6	捨て場	VIII-66	2層	打製石器	その他	凝灰岩	C2	161	54	25	277	両側縁部分剥離

礫石器観察表(4)

図番号	出土位置	グリッド	層位	器種	器種細分	石材	形状	長さmm	幅mm	厚さmm	重量g	備考
図173-7	捨て場	IXB-79	3層	打製石器	その他	デイサイト	B2	178	84	63	1,190	弧状縁辺部連続剥離、表面に敲打痕
図174-1	捨て場	VMS-61	-	石皿	-	凝灰岩	偏平	612	436	136	46,160	磨1(A)
図174-2	捨て場	VIV-69	II~III層	石皿	-	凝灰岩	偏平	695	495	155	60,000	磨1(A)
図174-3	捨て場	VII-65, VII-66	3層	石皿	-	安山岩	厚石	552	312	136	34,000	磨2(A・A) ※残存デンプン粒分析
図175-1	捨て場	VIII-68, VIII-74	2層・II~III層	石皿	-	凝灰岩	-	(509)	(191)	93	5,900	磨1(A) ※残存デンプン粒分析
図175-2	捨て場	VIII-68	3層	石皿	-	安山岩	厚石	632	380	144	15,600	磨2(A・C)、中央極端に磨り減り、裏面局所的に線状痕
図175-3	捨て場	IXC-77	2層	石皿	-	凝灰岩	偏平	336	556	164	24,360	有縁、一部開口し注口状、磨1(A)
図176-1	捨て場	IXC-68	3層最下層	石皿	-	安山岩	板状	408	420	90	18,200	磨1(A)
図176-2	捨て場	IXD-84	不明	石皿	-	凝灰岩	偏平	(240)	275	64	3,960	磨1(A)
図176-3	捨て場	VIII-62	2層	石皿	-	凝灰岩	-	213	277	66	2,600	磨1(A)、有脚、弧状隆帯(ごく浅い)
図176-4	捨て場	VMS-61	2層	石皿	-	凝灰岩	-	(120)	(120)	61	600	磨1(A)、有脚、被熱、破片
図176-5	捨て場	VIII-63	2層	石皿	-	凝灰岩	-	(135)	203	57	1,160	磨1(A)、有脚、被熱、破片
図176-6	捨て場	VIII-63	カクラン	石皿	-	凝灰岩	-	(109)	(140)	50	660	磨1(A弱い) 有脚
図176-7	捨て場	VIII-69	3層	石皿	-	デイサイト	-	188	126	80	1,720	磨1(A顕著)、敲打による凹面
図176-8	捨て場	VIII-67	3層	石皿	-	凝灰岩	C1	134	116	54	778	磨1(A)、凹1(C2)、小型石皿
図176-9	捨て場	VIII-69	II~III層	石皿	-	凝灰岩	B2	(116)	(121)	62	900	磨2(A・A)
図177-1	捨て場	VIII-61	カクラン	台石	-	デイサイト	板状	481	245	72	14,200	磨1(A)、顕著磨り減り
図177-2	捨て場	VIII-69	3層	台石	-	緑色凝灰岩	偏平	283	287	82	8,000	磨1(B)、一方向に線状痕顕著、磨り減り ※残存デンプン粒分析
図177-3	捨て場	IXC-80	2層	台石	-	安山岩	偏平	378	402	90	19,140	磨1(A)、使用面平坦 ※残存デンプン粒分析
図177-4	捨て場	IXA-66	3層	台石	-	安山岩	厚石	285	197	125	11,000	磨2(A・A) 顕著、縁辺部に敲打痕
図177-5	捨て場	IXB-81	2層	台石	-	緑色凝灰岩	偏平	329	272	82	8,000	凹み広範囲、石皿未成品か
図177-6	捨て場	VIII-68	3層	台石	-	凝灰岩	柱状	369	141	77	4,500	凹1(C2)
図177-7	捨て場	VIII-X-72	II~III層	台石	-	緑色凝灰岩	厚石	187	180	76	1,000	磨1(A・B・C)
図177-8	捨て場	IXA-74	III層	台石	-	緑色凝灰岩	偏平	(179)	(169)	38	3,000	磨1(A・B・C)
図178-1	捨て場	VIII-61	2層	砥石	-	流紋岩	厚石	249	198	144	8,500	磨2(溝状砥面・溝状砥面)、砥面は深い
図178-2	捨て場	-	III層	砥石	-	緑色凝灰岩	偏平	228	210	70	3,500	磨2(溝状砥面・溝状砥面)、砥面はやや深い
図178-3	捨て場	VIII-61	2層	砥石	-	流紋岩	厚石	244	222	102	7,000	磨2(溝状砥面・溝状砥面)、砥面はやや深い
図179-1	捨て場	VIII-Q-62	2層	砥石	-	デイサイト	厚石	393	330	132	21,400	磨2(A・溝状砥面)、ただし片面は磨り減り
図179-2	捨て場	IXC-74	2層	砥石	-	流紋岩	偏平	180	160	65	3,000	磨1(溝状砥面)、顕著な使用、磨り減り
図179-3	捨て場	IXA-79	2層	砥石	-	凝灰質砂岩	D	(329)	86	64	3,500	磨4(擦痕・線状痕無いが筋状に窪む磨面)
図179-4	捨て場	VIII-Y-72	3層	砥石	-	凝灰岩	B2	(93)	68	43	312	磨2(溝状砥面・溝状砥面)、両端部敲打痕
図179-5	捨て場	VIII-V-67	II~III層	砥石	-	凝灰岩	B2	113	66	42	434	側面直線的な砥面
図180-1	捨て場	VIII-U-66	2層	砥石	-	緑色凝灰岩	B2	(183)	109	62	957	磨2(各所に窪んだ砥面、端部には擦り切り状の幅狭の砥面)
図180-2	捨て場	VIII-W-66	3層	砥石	-	凝灰岩	B2	(198)	100	53	1,400	磨3(表裏面+側面いずれにも擦痕伴う磨面) 側面部の砥面は機能面が直線的
図180-3	捨て場	VIII-R-61	I層	磨製石斧	-	緑色岩	-	271	56	32	879	遺跡内で最大の磨製石斧
図180-4	捨て場	IXB-81	2層相当	磨製石斧	-	凝灰岩	-	107	46	29	230	
図180-5	捨て場	◎・◎エリア	III層	磨製石斧	-	蛇紋岩	-	98	50	19	192	断面方形、遺跡内で唯一の蛇紋岩製磨製石斧
図180-6	捨て場	IXC-72	2層	磨製石斧	-	緑色岩	-	103	42	15	103	稜線明瞭
図180-7	捨て場	IXC-81	3層上面	磨製石斧	-	緑色岩	-	94	40	12	73	縁辺部微細な剥離
図181-1	捨て場	IXB-78	2層	磨製石斧	-	緑色岩	-	92	17	14	41	断面形は方形
図181-2	捨て場	-	III層	磨製石斧	-	砂岩	-	80	23	11	35	小型
図181-3	捨て場	IX E-85	2層	磨製石斧	-	緑色岩	-	74	22	8	21	小型
図181-4	捨て場	IXD-84	1層	磨製石斧	-	緑色岩	-	65	16	8	16	両側刃部 上12mm、下10mm
図181-5	捨て場	IXC-75	3層	磨製石斧	-	緑色岩	-	70	44	28	146	側面-擦り切り痕
図181-6	捨て場	IXB-78	3層	磨製石斧	-	片麻岩	-	84	20	13	32	側面-両側からの擦り切り痕
図181-7	捨て場	IXB-79	2層	磨製石斧	-	緑色岩	-	123	24	14	64	側面-擦り切り痕
図181-8	捨て場	IXB-74	3層	磨製石斧	-	緑色岩	-	70	43	8	39	器体中央-擦り切り痕
図181-9	捨て場	VIII-U-65	3層	磨製石斧	-	青色片岩	-	62	24	8	21	器体中央-擦り切り痕
図181-10	捨て場	IXB-80	炭2層下	磨製石斧	-	緑色岩	-	89	50	20	171	断面方形、端部は部分的に研磨
図181-11	捨て場	VIII-U-63	2層	磨製石斧	-	砂質凝灰岩	-	110	51	39	327	全体を整形敲打
図181-12	捨て場	VIII-V-65	3層	磨製石斧	-	デイサイト	-	102	45	28	214	基部-敲打痕、刃部無し
図181-13	捨て場	VIII-X-67	3層	磨製石斧	-	緑色岩	-	94	44	19	130	側面-敲打痕、側面-擦り切り痕
図181-14	捨て場	VIII-X-72	3層	磨製石斧	-	緑色岩	-	112	46	28	246	全面敲打+剥離
図181-15	捨て場	IXB-75	3層	磨製石斧	-	緑色凝灰岩	-	102	45	14	87	側縁部-剥離、刃部ほか部分的に研磨
図181-16	捨て場	IXA-71	2層	磨製石斧	-	粘板岩	-	86	33	13	41	側縁部-剥離、部分的に研磨
図181-17	捨て場	VIII-W-69	2層	磨製石斧	-	片麻岩	-	133	42	18	138	打製石斧状、わずかに研磨、全面-剥離、側面-敲打

土製品観察表(1)

図番号	出土位置	グリット	層位	種類	長口径 (cm)	幅器高 (cm)	厚底径 (cm)	重量 (g)	胎土/使用	部位	文様等	時期
182-1		VIII-V-66・67・68	3 3a	①Bb2	12.5	19.1	3.8	424.8		上半	頭頂部傾斜(後頭部へ貫通孔6箇所)、眉・鼻隆線、口凹み(底面から体貫通孔)、乳房貼付、乳房付近に貫通孔2箇所、L2本押捺、後頭部からお下げ?	
182-2	3ヶ所	VIII-V-67	3a	①Db	12.8	9.1	3.3	318.9		下半	乳房・臍貼付、臍下部に円形凹み、刺突列(角棒)、体貫通孔	
182-3	3ヶ所	VIII-U-67	3a	④Aa2	2.8	2.9	0.9	7.4	繊維	胸部	摩滅(多軸?)	円下d
182-4	3ヶ所	VIII-V-67	3a	④Af	5.0	4.5	0.8	17.4	繊維/表煤	胸部	結節(R)横回転	円下?
182-5	3ヶ所	VIII-W-67	3b	②Ab	-	-	-	28.5	繊維	口~胸部	無文	円下?
182-6	3ヶ所	VIII-U-67	3b	④Ca3	2.7	3.6	0.7	7.0	繊維	胸部	単絡1(L・R)縦回転	円下d
182-7	3ヶ所	VIII-U-67	3b	④Aa1	6.5	6.8	0.9	46.5	繊維	口縁	多軸(R)→結束1横回転(RL+LR)・LR押捺	円下d2
183-1	3ヶ所	VIII-V-66	3c	④Ab2	4.0	4.8	0.8	14.8	繊維		摩滅(RL横回転?)、盲孔	円下d
183-2	3ヶ所	VIII-U-67	3c	④Ac3	4.6	5.6	1.0	22.0	繊維	底部	無文	円下
183-3	3ヶ所	VIII-V-67	3c	④Ac2	5.7	(3.1)	0.8	(11.2)	繊維	胸部	摩滅(LR横回転)	円下
183-4	3ヶ所	VIII-V-67	3d	④Ca1	12.3	4.9	0.8	67.6	繊維	口~胸部	RL押捺、微隆帯、多軸縦回転→結節縦回転文(L)	円下d2
183-5	3ヶ所	VIII-W-66	3cd	④Aa2	3.6	3.5	0.9	11.7	繊維		多軸縦回転	円下d2
183-6	3ヶ所	VIII-U-66	3cd	④Aa2	3.4	3.3	1.0	13.8	繊維		単絡1(R)縦回転	円下d
183-7	3ヶ所	VIII-T-65	3cd	④Ab2	5.0	4.1	1.1	21.0	繊維	胸部	単絡1A(L+R)縦回転、盲孔	円下d
183-8	3ヶ所	VIII-V-66	3cd	④Ac1	3.1	3.2	0.9	6.7	繊維	口縁	LR押捺	円下
183-9	3ヶ所	VIII-W-66	3cd	④Ab2	5.7	5.9	0.8	35.0	繊維/表煤	胸部	結束1横回転(RL+LR)、盲孔	円下d
183-10	3ヶ所	VIII-T-65	3cd	④Ac2	5.6	5.9	1.1	35.1	繊維	胸部	単絡1A(R)、貫通孔	円下d
183-11	3ヶ所	VIII-U-65	3cd	④Ac2	6.4	6.6	1.0	44.9	繊維	胸部	結束1(LR+RL)横回転、貫通孔	円下
183-12	3ヶ所	VIII-V-66	3cd	④Ac2	4.7	4.9	0.9	21.1	繊維	胸部	LR横回転、結節(LR)縦回転、貫通孔	円下
183-13	3ヶ所	VIII-U-66	3cd	④Ac3	(5.7)	(5.0)	1.0	(22.2)	繊維	底部	ミガキ、貫通孔	
183-14	3ヶ所	VIII-U-66	3cd	④Ca1	6.3	4.2	1.0	31.4	繊維	口~胸部	L・R束押捺、微隆帯、結節(L)横回転、単絡1(R)縦回転	円下d
183-15	3ヶ所	VIII-U-66	3cd	④Ca1	3.9	4.7	1.0	23.7	繊維	胸部	単絡1A(R・L)縦回転	円下d
183-16	3ヶ所	VIII-U-66	3cd	④Ca1	5.8	5.1	1.1	23.9	繊維	胸部	単絡1(L)	円下d
183-17	3ヶ所	VIII-V-66	3cd	④Ca1	9.2	6.7	0.9	70.7	繊維	胸部	多軸(R)縦回転	円下d
183-18	3ヶ所	VIII-U-66	3cd	④Ca1	8.0	4.6	1.2	46.4	繊維	胸部	単絡1(L)縦回転	円下d
183-19	3ヶ所	VIII-V-66	3cd	④Cb	14.6	8.8	1.0	125.7	繊維	口~胸部	RL押捺、微隆帯、RL横回転	円下d
184-1	3ヶ所	VIII-U-66 VIII-T-65 IXC-62	3cd 3 3上面	①Da	19.8	16.2	3.6	451.0		上半	頭頂部傾斜(後頭部へ貫通孔)、額付近に透明赤色のガラス質付着物(琥珀か?)、頭側部に螺髪状貼付、耳飾貼付、眉・鼻隆線、目刺突列、口凹み、体部刺突列(多裁竹)背面太正中線	
184-2	3ヶ所	VIII-V-66	3cd	①Bb2	(6.1)	(6.8)	(1.6)	(43.6)		左腕	L2本押捺、渦巻き状、口凹みと連結する体貫通孔	
184-3	3ヶ所	VIII-W-66	3cd	③D	2.3	2.3	0.9	3.5			欠損部有り、刻み、沈線、刺突。中央に貫通孔	
184-4	3ヶ所	VIII-W-66	3cd	②Bc	-	(3.8)	-	(11.0)		口~胸部	舟形、無文	
184-5	3ヶ所	VIII-T-66	3cd	④Cc	9.3	10.6	1.1	90.0	繊維	胸部	単絡1(L)縦回転	円下d
185-1	3ヶ所	VIII-W-67	3d	④Ac2	4.8	5.4	1.0	30.0	繊維		多軸(R)縦回、貫通孔	円下d2
185-2	3ヶ所	VIII-U-67	3d	④Ac2	6.0	6.2	1.0	33.6	繊維	胸部	LR横回転、貫通孔	円下
185-3	3ヶ所	VIII-V-67	3d②	④Ca1	4.5	4.9	0.8	23.2	繊維	胸部	単絡1(R)縦回転	円下d

土製品観察表(2)

図 番号	出土 位置	グリット	層位	種類	長 口径 (cm)	幅 器高 (cm)	厚 底径 (cm)	重量 (g)	胎土 /使用	部位	文様等	時期
185-4	3 ^へ 土	VIIIY-65	3e	④Bd	3.4	3.7	0.9	12.4		胴部	RL縦回転	円上
185-5	3 ^へ 土	VIIIY-68	3e	④Ac2	3.4	3.6	0.9	8.3	繊維	胴部	摩滅、貫通孔	円下
185-6	3 ^へ 土	VIIIY-67	3e	④Ca1	4.0	4.0	0.9	17.6	繊維	胴部	結束1(LR+RL)縦回転	円下d
185-7	3 ^へ 土	VIIIY-67	3e	④Ca1	4.3	3.3	1.0	16.2	繊維	胴部	結束1(LR+RL)縦回転	円下
185-8	3 ^へ 土	VIIIY-66	3e	④Ca1	5.1	4.8	0.9	20.3	繊維	胴部	単絡1(R)縦回転	円下d
185-9	3 ^へ 土	VIIIW-65	3e	④Ca1	11.0	4.6	1.0	60.5	繊維	胴部	単絡1A(L)縦回転	円下d
185-10	13 ^へ 土	IXC-74	2ab	④Ab2	5.7	5.8	1.0	35.4	繊維	胴部	多軸(R)縦回、盲孔	前期
185-11	13 ^へ 土	IXA-73	2ab	④Ca2	27.6	11.8	1.2	601.2		口～ 胴部	隆帯・橋状把手・粘土組紐付 →R押捺 結束1(LR+LR)横回転	円上a
185-12	13 ^へ 土	IXC-73	2ab	④Cc	12.0	6.9	1.0	90.0	繊維	胴部	多軸(R)縦回転	円下d
185-13	3 ^へ 土	VIIIU- 67・68	3e	④Cc	17.3	13.8	1.2	223.8	繊維	口～ 胴部	口唇刻み、LR押捺、 結節(R)横回転、RL斜回転	円下d
186-1	13 ^へ 土	IXA-73	3ab	②Ab	4.5	4.0	1.7	30.1	繊維	口～ 底部	LR横回転、内外面に黒色物質付着	円下
186-2	13 ^へ 土	IXB-75	3b	①A	(4.8)	(4.4)	(2.0)	(29.6)	繊維	体部	乳房・臍貼付、細沈線、細刺突	円下d2
186-3	13 ^へ 土	IXB-74	3b	④Cc	23.9	20.0	1.1	359.3	繊維	口～ 胴部	L押捺、LR横回転	円下d
186-4	13 ^へ 土	IXB-73	3bc	④Ca	23.3	5.4	1.1	187.6	繊維	口～ 胴部	LR押捺、多軸(R)縦回転	円下d2
186-5	13 ^へ 土	IXA-73	3c	①A	(5.8)	9.0	1.9	45.0	繊維	上半	頭部・腕部突出、 乳房・臍貼付、細沈線、細刺突	円下d2?
186-6	13 ^へ 土	IXA-73	3c	④Ac2	(4.9)	(2.7)	0.8	(11.8)	繊維	胴部	多軸(R)縦回転、貫通孔	
186-7	13 ^へ 土	IXA-73	3c	④Ca1	8.3	4.8	1.1	58.0	繊維	胴部	単1(R)縦回転	円下d
186-8	13 ^へ 土	IXA-73	3c	④Cb	6.2	8.5	1.2	57.0	繊維	胴部	RL斜回転	円下d
186-9	13 ^へ 土	IXC-73	3cd	④Ac2	7.0	6.7	0.9	48.1	繊維	胴部	結束1横回転(LR+RL)、盲孔、貫通孔	円下d2
186-10	13 ^へ 土	IXB-73	3de	④Ca1	5.5	4.4	1.1	36.6	繊維	胴部	多軸縦回転	円下d2
186-11	13 ^へ 土	IXC-74	3f	④Ac1	4.9	(2.9)	1.1	(15.8)	繊維	胴部	単1(L)縦回転、貫通孔	円下d
187-1		VIII S-64	3上面	①A	(7.6)	(5.8)	1.6	36.0	繊維	頭部 欠損	乳房・臍貼付、細沈線、細刺突	
187-2		IXB-76	2	①A	(3.4)	(4.5)	(1.9)	(16.0)	繊維	頭部	頭部突出、耳飾貼付、細沈線、細刺突	
187-3		IXB-81	2	①A	(4.3)	(5.4)	(2.7)	(34.1)	繊維	右腕	乳房・臍貼付、細沈線	
187-4		IXB-81	2	①A	(2.5)	(4.5)	(2.1)	(16.2)	繊維	体部	細沈線、細い体貫通孔?	
187-5		IXB-81	2	①A	(4.0)	(4.0)	(2.0)	(22.3)	繊維	体部	細沈線、図187-4と同一?	
187-6		IXB-84	2	①A	(4.2)	(4.2)	(1.4)	25.9	繊維	下半	臍貼付、細刺突	
187-7		VIII W-69 IXA-81 IXB-81 IXC-81	2c 2 3	①Ba	(12.6)	(12.0)	(2.8)	(341.0)		下半	L3本束(端部結節)押捺、 剥落した臍上位に 細沈線と馬蹄形押捺、 背面太正中線、臀部隆起	
187-8		VIII Y-71	3	①B1	(10.2)	(9.2)	(2.5)	162.0		上半	頭頂部傾斜、口凹み、乳房貼付、 3本縛束(R2本とL)押捺、 背面太正中線(内部にL押捺)	
187-9		VIII V-65	3	①Bb2	(4.4)	(2.9)	(1.8)	15.6		体部	R2本束押捺	
188-1	捨て場 遺構外	VIII Y-73 VIII T-63	3相当 2 II	①Bb1	(22.2)	(15.4)	2.1	302.5		左 半身	LR・R押捺(渦巻き含む)、背面太正中線	
188-2		IXC-76	2相当	①Bb2	(4.4)	(5.2)	(1.5)	(29.4)		右腕	乳房剥落、L2本束押捺、細い体貫通孔?	
188-3		VIII U-65	3	①Bb2	5.7	5.7	1.8	38.8		右腕	LR2本束押捺	
188-4		IXA-75	III	①Bb2	5.2	4.1	1.7	27.0		体部	L2本束・3本束押捺、体貫通孔	

土製品観察表(3)

図番号	出土位置	グランド	層位	種類	長口径(cm)	幅器高(cm)	厚底径(cm)	重量(g)	胎土/使用	部位	文様等	時期
189-1	捨て場西斜面	VIII-R-63 VIII-T-65 VIII-U-63 西斜面	2 2相当 堆積土	①C	(18.2)	(18.0)	(3.2)	473.0		上半	乳房貼付、頭頂部傾斜、 頭側部剥落、L3本束押捺、 刺突列(半月状)、背面太正中線	
189-2		VIII-Y-70	III	①Db	4.7	4.9	1.2	25.4		左腕	刺突列(多裁竹)	
189-3		VIII-X-66	3	①Dc	(6.5)	(3.4)	(1.9)	(36.4)		左 下部	刺突列(多裁竹・細丸)、 体貫通孔	
189-4		VIII-V-68	II~III	①Dc	(6.5)	(4.4)	(2.5)	(52.0)		右 胸部	乳房貼付、刺突列(多裁竹・細丸)、 乳房上方に貫通孔、体貫通孔、 図189-3と同一	
190-1		IXC-82	2	①Ea	(3.1)	(2.9)	(2.4)	(10.8)		頭部	頭頂部横位溝状凹み、鼻貼付、 背面沈線	
190-2		VIII-W-67	3	①Ea	(3.8)	(4.2)	(1.4)	(23.7)		左腕	沈線(カニの手状)	
190-3		IXD-85	2	①Ea	(4.2)	(5.0)	(1.9)	(39.1)		左腕	沈線(枝分かれ状?)	
190-4		IXD-86	2	①Ea	(4.0)	(5.1)	(2.0)	(41.1)		右腕	沈線(カニの手状)	
190-5		VIII-Y-71	1~10	①E	(3.3)	(2.8)	(1.4)	(10.0)		下部	脚部前面に張出、沈線	
190-6		IXD-85	2	①Ea	(5.3)	(6.5)	(3.1)	(90.0)		頭部	頭頂部弱く傾斜、 頂部から側頭部と後頭部へ貫通孔、 眉・鼻隆線、目・口刺突(丸棒)、 顔面三角形(貼付)、 図190-3・4と同一個体	
190-7		IXC-85	2	①Eb	6.0	5.9	5.2	117.6		頭部	頭頂部血状凹み、 頂部から側頭部・後頭部へ貫通孔5箇所、 顔面貼付(三角形)、眉・鼻隆線、 目・口刺突(丸棒)黒色物質充填、 アスファルト?、首元と背面に沈線(剣菱)	
190-8		IXC-77	2	①Eb	(7.6)	(3.8)	(2.1)	(55.0)		体部	乳房・臍貼付、脚部裾広、 沈線(剣菱付渦巻き)、脇貫通孔	
190-9		VIII-X-70	23	①Ec	(5.0)	(4.9)	(1.5)	(22.0)		胸部	乳房貼付、沈線(枝分かれ状?)	
190-10		IXB-75	2	①Ef	(4.1)	(4.0)	(2.0)	(25.3)		下部	沈線	
190-11		VIII-Y-72	23	①Ed	4.0	4.9	1.6	17.6		下部	臍剥落、沈線、 背面LR押捺正中線、体貫通孔	
190-12		IXA-71	2	①E	5.9	7.5	2.7	53.2		左腕	乳房貼付、沈線、胸部に赤色顔料塗布	
191-1		IXB-79	2	①Fa	(9.5)	11.2	2.9	(116.0)		上半	頭頂部血状凹み、 頂部から側頭部へ貫通孔、 顔面貼付、眉・鼻隆線、 目・口刺突(丸棒)、 乳房貼付、LR回転→沈線	
191-2		IXB-80	2	①Fa	(6.8)	(5.8)	(4.7)	(90.0)		頭部	頭頂部血状凹み、 頂部から側頭部と後頭部へ貫通孔、 顔面貼付、眉・鼻隆線、 目・口刺突(丸棒)、LR回転→沈線	
191-3		IXB-82	2	①Fa	(6.1)	(6.9)	(3.3)	(114.7)		体部	LR回転→沈線(剣菱付渦巻き)	
191-4		IXC-81	2	①Fa	(8.4)	(7.4)	(2.8)	(133.3)		左腕	LR回転→沈線(剣菱付渦巻き)	
191-5		IXA-72	3	①Fc	7.6	4.8	2.3	35.0		胸部	乳房貼付、LR回転→沈線(枝分かれ状)	
191-6		IXA-76 IXB-76	2	①Fc	(7.7)	(6.2)	(2.5)	(88.0)		下部	臍貼付、RL回転→沈線、 体貫通孔	
192-1		VIII-V-68	2	①Fc	(3.4)	(4.5)	(1.4)	(24.6)		右腕	RL回転→沈線(枝分かれ状)	
192-2		IXA-72	3	①Ff	(4.1)	(4.8)	(2.1)	(33.7)		下部	LR回転→沈線、 脚部裾広(底面弱く凹む)、 体貫通孔	
192-3		VIII-V-65	3	①Fd	(8.3)	(4.8)	(2.1)	(62.2)		右 下部	RL回転→RL押捺	
192-4		IXC-82	2	①Gc	4.5	4.1	1.4	15.2		頭部	顔面剥落、頭頂部横位溝状凹み、 頂部から後頭部へ貫通孔2箇所	
192-5		IXB-80	II	①If	3.4	2.6	1.8	12.0		脚部	無文、指三本	
192-6		VIII-X-70	15 ・19	①Gc	(4.3)	(5.5)	(1.4)	(25.0)		右腕	無文	

土製品観察表(4)

図番号	出土位置	グリッド	層位	種類	長口径(cm)	幅器高(cm)	厚底径(cm)	重量(g)	胎土/使用	部位	文様等	時期
192-7		VIII-64	2	①J	7.7	6.1	3.8	66.0			顔面貼付、眉・鼻隆線、目・口刺突(丸棒)、肩バット状突起、腹部膨らむ、腕部欠損(断面丸)、腰部上面観舟状の張出、側縁に沈線巡る、張出下部に脚4本	
192-8		VIII-67	2	②Ac	-	-	-	3.7		口縁	波状口縁、波頂下に貫通孔、沈線	
192-9		IXB-80	II	②Cb	(3.2)	(2.7)	1.1	6.2				
192-10		VIII-74	3	②Ad	3.2	2.8	-	6.8		胴部	RL縦回転、貫通孔、刺突列(細丸)	
192-11		VIII-65	3	②Aa	-	-	-	2.5		口縁	波頂部突起?刺突列(細丸)	
192-12		VIII-65	3	②Aa	(3.9)	4.2	(1.7)	(11.0)	繊維	口～底部	無文	
192-13		IXA-71	2	②Aa	-	-	-	9.3		口縁	無文	
192-14		VIII-66	3	②Aa	-	-	3.3	39.2	繊維	胴～底部	LR斜・縦回転	
192-15		VIII-67	2	②Ba	-	(3.5)	3.0	14.0		底部	LR斜回転、底面方形・丸底?	
192-16		VIII-72	3	②Aa	6.2	6.4	3.1	64.0		壳形	口縁肥厚、LR横回転	中期後葉～
192-17		VIII-X-68	2	②Aa						体～底部	L縦回転→沈線	牛ヶ沢?
192-18		VIII-67	2	②Aa	(4.4)	(2.6)	(2.4)	(10.0)		底部	無文、上げ底	
192-19		IXB-82	2	②Ab	(6.0)	(6.0)	-	24.3		口～胴部	口唇部刻み、無文	
192-20		VIII-66	3	②Ba	-	(3.9)	-	(15.0)		口縁	無文	
192-21		VIII-69	2c	②Bb	-	(2.1)	-	9.0		口～底部	皿状、無文	
192-22		IXC-76	2	②Bc	-	2.3	-	9.0		口～底部	槽円形、口縁緩やかに波打つ、無文	
192-23		IXB-79	3	②Bc	(5.6)	(2.7)	-	(24.0)		口～底部	槽円形、口縁波状、無文	
193-1		VIII-67	3	②Bc	8.7	9.6	-	70.5		壳形	舟状、長軸端部に横位橋状突起、丸底	
193-2		IXD-78	2	②Bc	9.2	1.6	2.8	8.0		底部	底面方形	
193-3		IXB-81	2	②Bc	(7.6)	(3.8)	(1.5)	(25.7)		底部	長方形?	
193-4		IXC-81	2	②Cb	4.2	9.5	2.0	19.9		口～底部	口縁部突起(高低2個)、底部3脚	
193-5		IXB-74	2	②Ca	6.0	4.0	3.2	42.2		口～底部	高台付皿、皿部端状突起、刺突列、貫通孔2箇所	
193-6		VIII-66	3	③D	3.5	2.6	2.7	16.3			耳飾、貫通孔、刺突列	
193-7		VIII-72	II III	③Ab	(2.4)	(2.3)	1.3	6.2			側面笠状、LR押捺、刺突列(多裁竹)	
193-8		IXC-80	II	③C	2.7	2.7	1.3	6.3			側面笠状、無文	
193-9		IXB-78	2	③C	3.0	3.0	0.7	4.5			側面笠状	
193-10		VIII-66	3	④Aa1	5.0	4.7	0.8	19.6		胴部	結束1(0多RL+LR)横回転→粘土紐	円上d
193-11		IXC-74	3	④Aa2	5.3	6.1	0.9	33.4	繊維	胴部	多軸(R)縦回転	円下d2
193-12		IXB-80	3	④Aa2	6.0	4.8	0.9	24.9	繊維/表煤		多軸(R)縦回転	円下d2
193-13		IXA-76	3	④Aa2	6.6	6.1	0.9	43.1	繊維	胴部	多軸(R)縦回転	円下d2
193-14		VIII-65	3	④Aa2	4.5	4.5	0.8	17.2		胴部	結束1(0多RL)横回転	円上
193-15		IXE-86	2	④Aa2	3.0	3.1	0.5	4.8		胴部	結束1(RL+LR)横回転	円下～円上
193-16		IXC-84	2	④Ad	3.9	4.1	0.7	11.6		胴部	L斜回転	後期
193-17		IXB-79	2	④Ad	4.8	4.9	1.0	26.7	裏煤	胴部	RL横回転	中期後葉～
193-18		IXC-86	2	④Af	4.5	4.4	1.0	23.2	表煤	胴部	RL斜回転→沈線?	中期後葉?

土製品観察表(5)

図番号	出土位置	グリップ	層位	種類	長口径 (cm)	幅器高 (cm)	厚底径 (cm)	重量 (g)	胎土/使用	部位	文様等	時期
193-19		VIIIW-67	2	④Af	4.7	4.4	1.1	21.6		胴部	RL横回転	中期後葉～
193-20		IXC-71	2	④Ad	3.6	3.6	0.8	11.3	表煤	胴部	LR横回転(端部結縛)	中期中葉
193-21		IXB-84	2	④Af	5.3	4.6	1.1	30.2	表煤	胴部	LR横回転	中期後葉
193-22		VIIIW-66	2	④Ad	4.7	4.7	1.1	28.7	表煤	胴部	RL斜回転	中期後葉～
193-23		IXC-78	2	④Af	4.1	4.1	1.0	18.4		胴部	単1(L)縦回転	中期後葉
194-1		IXB-79	2	④Ad	4.3	4.4	1.0	19.5	表煤	胴部	RL縦回転→沈線	榎林～最花?
194-2		IXC-81	2	④Af	3.5	3.9	0.9	11.8	表煤	胴部	LR縦回転→沈線	榎林～最花?
194-3		IXE-81	2	④Af	5.2	4.6	0.9	24.9	表煤	胴部	LR縦回転→沈線	大木10?
194-4		IXA-78	2	④Af	3.0	2.7	0.8	6.8	表煤	胴部	単1(R)縦回転	中期後葉～
194-5		IXA-74	II III	④Af	3.0	3.5	0.8	10.3		胴部	RL横回転→沈線	大木10?
194-6		IXA-78	2	④B	(2.8)	2.8	0.7	(5.0)		胴部	条痕	中期?
194-7		VIII S-63	3	④Ab1	(6.0)	(6.2)	1.1	(38.1)	繊維	口縁	R押捺、刺突(丸棒)、微隆帯(上面刺突列)、LR横回転、盲孔	円下d2
194-8		IXC-75	3	④Ab2	6.1	6.0	1.1	39.0	繊維/表煤	胴部	多軸(R)縦回転→沈線、盲孔	前期
194-9		IXB-74	3	④Ab2	4.8	4.2	1.0	21.9	繊維	胴部	多軸(R)縦回転、盲孔	円下d2
194-10		IXB-74	3	④Ab2	6.2	6.1	0.9	47.1	繊維	胴部	多軸(R)縦回転、盲孔	前期
194-11		IXA-76	3	④Ab2	2.9	2.7	1.0	6.0	繊維	底部	摩滅、盲孔	円下
194-12		IXC-74	2	④Ab2	4.4	4.7	1.0	25.2	繊維/表煤	胴部	多軸(R)縦回転、盲孔	円下d2
194-13		VIII X-67	3	④Ac1	5.2	5.8	1.0	35.7	繊維/表煤	口縁	R押捺、貫通孔	円下d2
194-14		VIII Y-70・71		④Ac2	(4.0)	5.1	0.9	(17.0)	繊維	胴部	多軸(R)縦回転、貫通孔	円下d2
194-15		VIII U-67	3	④Ac2	(5.8)	6.8	1.1	(45.6)	繊維	胴部	単1A(R)縦回転、貫通孔	円下d
194-16		VIII V-65	3	④Ac2	4.3	4.7	1.2	28.4	繊維	胴部	結束1(LR+LR)横回転、貫通孔	円下～円上
194-17		VIII U-65	3	④Ac2	5.6	5.3	0.9	28.6	繊維	胴部	結束1(RL+RL)横回転、貫通孔	円下～円上
194-18		VIII Y-69	堆積土	④Ac2	(3.7)	6.3	1.0	(23.0)	繊維	胴部	RL横回転、貫通孔	円下～円上
195-1		VIII T-61	2	④Ac2	6.2	5.9	1.0	42.2	繊維	胴部	多軸(R)縦回転、裏面に十字の擦切痕、貫通孔	円下d2
195-2		IXC-82	2上面	④Ac2	6.1	5.9	0.9	41.5	繊維	胴部	多軸(R)縦回転、貫通孔	円下d2
195-3		VIII U-65	3	④Ac2	5.3	4.8	0.8	25.6	繊維	胴部	多軸(R)縦回転(貫通孔)	円下d2
195-4		IXB-78	3	④Ac2	5.1	5.0	1.0	21.1	繊維	胴部	多軸(R)縦回転、貫通孔	円下d2
195-5		IXB-76	3	④Ac2	3.5	3.3	0.8	10.5	繊維/表煤	胴部	多軸(R)縦回転、貫通孔	円下d2
195-6		IXB-76	2	④Ac2	3.3	3.2	1.0	8.0	繊維	胴部	摩滅	円下d
195-7		IXA-77	2	④Ac2	3.6	3.7	0.9	7.9	繊維/表煤		摩滅(不明)	
195-8		VIII V-67	2	③Ad	4.7	4.9	1.9	21.9		口縁	有孔突起利用、上部に沈線(S字)、LR横回転	榎林
195-9		IXA-77	2	④Af	(3.4)	4.6	1.0	(13.4)	繊維/表煤	胴部	多軸(L)縦回転	円下d2
195-10		IXC-81	2	④Af	5.9	(4.1)	0.9	(23.2)	表裏煤	胴部	RL縦回転→沈線、端部抉り	榎林～
195-11		IXC-77	I II	④Aa2	6.1	4.5	1.1	23.9	繊維	胴部	摩滅	円下d
195-12		19ベルト	1～3	④Bc	3.3	3.5	0.8	10.3	表煤	胴部	条痕→沈線	十腰内I?
195-13		IXD-74	2	④Ca1	9.2	6.7	0.9	76.8	繊維	口～胴部	RL押捺、多軸(R)縦回転→結節横回転、沈線	円下d2

土製品観察表(6)

図 番号	出土 位置	グリッド	層位	種類	長 口径 (cm)	幅 器高 (cm)	厚 底径 (cm)	重量 (g)	胎土 /使用	部位	文様等	時期
195 -14		VIIIU-68	3	④Cb	9.3	4.7	0.9	51.8	繊維	口～ 胴部	LR押捺、多軸(R)縦回転	円下d2
195 -15		VIIIU-60	3e	④Ca1	12.2	4.8	1.0	53.5	繊維	口～ 胴部	摩滅、胴部単1縦回転	円下d
195 -16		VIIIU-67	3	④Ca1	7.8	4.5	1.1	48.8	繊維	口～ 胴部	LR押捺、結節横回転(L)、 単1(R)縦回転	円下d
195 -17		VIIIU-67	3	④Ca1	19.4	10.0	0.9	192.9	繊維	口～ 胴部	口唇RL回転、RL押捺、 RL斜回転→結束1(LR+RL)横回転、 分割されたものが接合。 先端部を直線的に研磨・整形。	円下d
196 -1		IXB-74	3	④Ca2	15.0	5.9	1.0	110.3	繊維	胴部	LR横回転	円下d～
196 -2		IXD-76	2	④Ca1	5.4	4.8	0.9	32.1	繊維	胴部	単1(R)縦回転	円下d
196 -3		IXC-78	2	④Ca1	5.3	5.0	1.3	37.7	繊維	胴部	単1(R)縦回転	円下d
196 -4		VIIIU-67	3	④Ca1	5.7	4.8	1.0	24.8	繊維	胴部	RL斜回転	円下d
196 -5		IXB-76	3	④Ca1	6.5	3.9	0.7	22.8	繊維	胴部	単1(R)縦回転	円下d
196 -6		VIIIW-68	3	④Ca1	4.0	5.3	0.9	26.6	繊維	胴部	単1A(L)縦回転	円下d
196 -7		VIIIU-64	2	④Ca1	5.8	4.7	1.0	32.9	繊維	胴部	単1(R)縦回転	円下d
196 -8		IXA-79	3	④Ca1	10.1	4.1	0.8	29.7	繊維	口～ 胴部	RL横回転、単1(R)縦回転	円下d
196 -9		VIIIU-63	3上面	④Ca2	9.4	5.6	1.1	61.5	繊維	胴部	LR横回転	円下～
196 -10		IXB-71	2	④Ca1	8.9	5.5	1.0	62.8	繊維	胴部	LR横回転、単1(R)縦回転	円下d
196 -11		IXC-73	23	④Ca1	6.0	4.3	0.8	26.2	繊維	胴部	RL横回転	円下d～
196 -12		IXC-77	2	④Ca1	8.8	4.1	1.0	48.0	繊維	胴部	多軸縦回転	円下d
196 -13		IXB-78	3	④Ca2	13.1	6.0	1.0	91.9	繊維	胴部	多軸(R)縦回転	円下d2
196 -14		VIIIY-69	3	④Ca1	4.7	3.9	1.0	23.0	繊維	胴部	多軸(R)縦回転	円下d
196 -15		IXA-79	2	④Ca2	8.6	4.1	1.0	41.2	繊維	胴部	結束1(RL+RL)横回転	円下d2?
196 -16		IXA-81	2	④Ca2	7.8	4.9	1.1	47.3	繊維	胴部	単1(R)縦回転	円下d
196 -17		VIIIY-69	3	④Ca2	6.4	4.9	0.9	34.4	繊維	胴部	単1A(L・R)縦回転	円下d2
196 -18		IXB-77	2	④Ca2	5.9	7.1	0.7	28.4	繊維	胴部	結束1(LR+LR)横回転	円上?
197 -1		VIIIW-68	3	④Ca1	6.5	6.4	0.9	53.0	繊維	胴部	多軸(R)縦回転	円下d2
197 -2		IXC-76	3	④Ca1	6.7	5.6	0.9	35.8	繊維	胴部	多軸(R)縦回転	円下d2
197 -3		IXA-79	炭2下	④Ca1	11.3	5.4	0.9	62.3	繊維	胴部	マメツ(多軸縦回転)	円下d
197 -4		IXD-74	2	④Ca1	13.4	5.6	0.8	99.8	繊維	胴部	多軸縦回転	円下d2
197 -5		IXC-78	II	④Ca3	3.6	5.1	1.1	25.4	繊維	胴部	多軸(R)縦回転	円下d2
197 -6		VIIIW-66	3	④Ca2	5.7	3.8	0.9	24.4	繊維	胴部	多軸縦回転	円下d2
197 -7		IXB・C -76	3	④Cb	16.7	9.5	1.0	143.6	繊維	口～ 胴部	LR押捺、単1(R)縦回転	円下d2
197 -8		IXB-75	2	④Cb	11.0	8.6	1.0	112.1	繊維	胴部	多軸(R)縦回転	円下d2
197 -9		IXC-79	2	④Cb	8.9	6.6	1.1	78.7	繊維	頸～ 胴部	単1(R)縦回転	円下d
197 -10		VIIIY-72	3	④Cb	8.3	5.9	0.9	36.2	繊維	胴部	単1(L・R)縦回転	円下d
198 -1		IXB-74	3	④Cb	19.7	11.0	1.0	276.0	繊維	胴部	多軸縦回転	円下d2
198 -2		IXB-71	2	②Cb	18.7	9.3	1.0	166.2	繊維	口～ 胴部	LR押捺、多軸(R)縦回転	円下d2
198 -3		VIIIU-66	3	④Ca2	21.9	9.3	1.0	223.1	繊維	胴部	結束1(LR+LR)端部結縛横回転	円上
199 -1		VIIIU-66	3	④Ca2	31.8	9.0	1.2	284.9	繊維	胴部	結束1(LR+LR)端部結縛横回転	円上a?

土製品観察表(7)

図番号	出土位置	グリッド	層位	種類	長口径 (cm)	幅器高 (cm)	厚底径 (cm)	重量 (g)	胎土/使用	部位	文様等	時期
199-2		VIIIU-66	3	④Ca2	32.8	9.5	1.0	342.3	繊維	口～胴部	結束1(LR+LR)端部結構横回転 図198-3・図199-1と 同じ土器から切り取り	円上a
199-3		VIIIU-66	3	④Ca2	34.8	8.4	1.2	420.7	繊維	口～胴部	隆帯(上面L押捺)、LR押捺、 結束1(LR+LR)端部結構横回転	円上a
199-4		IXC-75	2	⑤Ca	(3.7)	(3.9)	3.3	(29.5)		柄部	無文、貫通孔、柄短部傾斜	
199-5		IXC-83	2	⑤Cc	(6.3)	(5.5)	(2.6)	(65.4)			石皿模倣、周囲縁状、左端部凹む	
200-1		VIIIU-65	2	⑤D	(3.2)	(3.4)	1.1	(10.7)			刺突列(多裁竹)、裏面LR回転、 貫通孔を持つ土偶の頭部?	中期
200-2		VIIIY-71	II	⑤Aa	(2.9)	(2.6)	(1.2)	5.7			正面LR回転、湾曲	
200-3		VIIIU-65	II～III	⑤Cc	(4.2)	(5.7)	(2.7)	28.6		口～底部	無文、槽円形皿状に脚4つ付く	
200-4		VIIIW-69	2	⑤D	(3.5)	(4.1)	(2.3)	(18.7)			左右端部に突起、底面凹む、 下端に貫通孔痕	
200-5		IXC-83	3	⑤D	(2.3)	(3.1)	(1.3)	(4.6)			土器の突起の可能性有り	
200-6		IXB-74	2・3	⑤D	(6.2)	(2.8)	(1.7)	12.0			刻み、刺突(丸棒)	

石製品観察表(1)

図番号	出土位置	層位	種類	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	諸特徴	
201-1		VIII-69	2a層	④Cb	凝灰岩	(12.2)	6.4	6.4	663.1	敲打、有頭、頭頂部半球状
201-2	3トレンチ	VIII-67	3a層	⑤Ca4	凝灰岩	7.6	10.7	6.0	610.7	研磨、底面浅く凹む
201-3	3トレンチ	VIII-67	3a層	⑤Fa1	凝灰岩	15.7	8.6	5.1	1096.3	敲打・研磨、正面皿状凹み、背面湾曲
201-4		VIII-67	3a層	⑦Bb4	青色片岩	4.9	2.1	0.4	7.2	片穿孔、研磨、
201-5		VIII-66	3c・d層	⑦Bb2	凝灰岩	2.5	2.4	0.8	3.6	両穿孔、キムラホタテ(化石)利用
201-6	トレンチ13	IXC-73	3d~5層	②Ab	軽石	5.7	6.0	1.5	13.0	研磨、三角形、正面上部がやや凹む
201-7		VIII-66	3e層	⑤Ga	凝灰岩	6.5	8.0	5.2	301.6	帯状敲打、底面敲打・スリ
201-8		IXC-73	2a層	⑦Bb4	凝灰岩	7.5	6.6	3.1	152.3	両穿孔、研磨
201-9		IXC-73	2a・b層	⑦Bb5	緑色凝灰岩	4.1	2.1	0.4	4.1	両穿孔/研磨、正面に刻線
201-10		IXD-73	2a・b層	⑤Cc	緑色凝灰岩	8.1	10.2	5.7	533.1	研磨、側面に隆線・凹み
201-11	13ヘルト	IXB-73	3b層	⑩	玉髓	2.9	2.0	1.8	18.4	石冠状の原石
201-12		IXC-73	3b・c層	⑤Fa3	凝灰岩	14.3	8.7	4.2	849.5	敲打・研磨、正面皿状に凹む、背面弱く湾曲
202-1		IXB-82	2層	①D	デイサイト	9.1	7.4	1.9	77.1	剥離/研磨、岩偶未製品?
202-2		IXC-82	3層	①D	凝灰岩	8.4	4.6	1.0	44.7	研磨、上端部尖る、横位刻線
202-3		IXC-79	2層	②B	凝灰岩	(6.6)	7.0	1.2	35.7	研磨・剥離・刻線、
202-4		IXC-81	2層	②Aa	緑色凝灰岩	6.0	7.4	1.5	63.5	研磨、
202-5		IXB-73	2層	②Ab	凝灰岩	4.8	5.1	1.5	30.1	研磨、
202-6		IXC-81	I・II層	②Ba	凝灰岩	5.4	5.7	1.2	34.8	研磨、左右側縁に刻線
202-7		VIII-62	2層	②Ba	緑色凝灰岩	4.5	5.0	0.9	12.8	研磨、刻線
202-8		VIII-62	2層	②Bc	凝灰岩	5.2	5.5	1.2	24.7	研磨、湾曲、盲孔列
202-9		IXA-74	III層	②Bc	凝灰岩	2.4	2.0	0.7	2.2	研磨、中央部に盲孔、刻線
202-10		VIII-62	2層	②B	緑色凝灰岩	4.0	3.1	1.1	15.3	研磨・刻線、
202-11		VIII-71	2・3層	②Bd	凝灰岩	3.0	1.8	1.0	3.3	研磨・刻線、側面に刻線
202-12		IXA-72	3層	③Ba	緑色凝灰岩	4.6	4.6	1.8	53.8	研磨、
202-13		VIII-71	1~10層	③Ba	凝灰岩	5.5	5.1	1.3	44.4	研磨、
202-14		IXD-82	3層	③Bb	鉄石英	4.2	4.4	1.4	24.9	研磨、被熱バツケ
202-15	トレンチ1	VIII-69	2c層	③A	安山岩	6.5	7.2	1.0	76.2	剥離、
202-16		IXB-75	3層	③Bc	緑色凝灰岩	3.9	2.3	0.5	7.0	研磨、
203-1		VIII-64	3層	④Ab1	凝灰岩	50.2	13.4	12.3	9900.0	自然礫利用
203-2		VIII-68	3層	④Ab2	緑色凝灰岩	44.2	14.3	12.0	13000.0	自然礫利用
203-3		VIII-71	3層	④Ab1	緑色凝灰岩	36.8	14.2	9.0	7260.0	自然礫利用
203-4		IXB-78	2層	④Aa2	凝灰岩	43.5	12.1	10.6	10260.0	敲打、被熱、側面敲打
203-5		IXC-77	3層	④Aa1	緑色凝灰岩	6.2	1.7	1.5	24.6	研磨、小型
203-6		IXB-69	2層	④Ba1	流紋岩	(13.4)	5.8	5.5	720.0	敲打、細柱状、被熱、端部平坦面、背面に平坦面
203-7		IXC-70	3層	④Ba2	凝灰岩	35.8	14.5	13.8	11720.0	敲打・研磨、エンタシス柱状、両端部平坦、背面に平坦面
203-8		VIII-67	2層	④Aa2	流紋岩	32.4	7.7	8.3	3000.0	敲打、角柱状礫利用
204-1		VIII-67	2層	④Bb1	凝灰岩	(20.5)	12.8	12.2	4324.3	敲打・研磨、被熱、エンタシス柱状、端面皿状凹み、背面に平坦面
204-2		VIII-68	3層	④Bb2	閃緑岩	(16.9)	12.1	12.0	3000.0	敲打・研磨、被熱、端面中央に凹み、背面に平坦面
204-3		VIII-65	2層3層	④Bc	凝灰岩	34.2	10.4	8.7	3088.6	敲打・研磨、被熱、エンタシス柱状、端面二重円文、背面に平坦面
204-4		VIII-67	2層	④Bc	凝灰岩	(22.4)	11.0	10.0	3109.6	敲打・研磨、エンタシス柱状、端面に二重円文、背面に平坦面
205-1a		IXC-79	I層	④Ba2	凝灰岩	(21.1)	(14.1)	13.0	4660.0	敲打・研磨、被熱、端面と背面平坦、側面に再加工?の敲打痕
205-1b		IXC-82	2層	④Ba2	凝灰岩	(23.4)	16.5	15.3	6560.0	研磨、被熱、背面に平坦面
205-2		VIII-66 VIII-68	2層	④Ba2	流紋岩	41.2	13.5	12.8	10420.5	敲打・研磨、被熱、下端平坦、背面に平坦面
205-3		IXC-82	2層	④Ba2	凝灰岩	40.1	12.0	10.6	4120.0	敲打・研磨、両端面平坦、背面に平坦面
205-4	トレンチ16	IXB-80	2層	④Bb2	緑色凝灰岩	15.3	7.3	6.5	1240.0	敲打・研磨、エンタシス柱状、小型、下端に凹み、上端は平坦?面
205-5		IXD-85	2層	④Bb2	凝灰岩	14.0	5.8	5.3	560.0	敲打、両端部に凹み、背面弱く平坦
206-1		VIII-65	3層	④Bd	緑色凝灰岩	(23.6)	11.8	8.6	3720.0	敲打・研磨、被熱、端部敲打、断面隅丸方形
206-2		IXD-83	2層	④Bd	凝灰岩	20.8	6.9	6.6	1000.0	敲打、上端敲打、下端敲打で平坦面
206-3	18ヘルト	IXC-80	I b層	④Bd	凝灰岩	10.3	3.0	3.1	140.0	敲打、小型品、上端から下端にかけて敲打痕
206-4		IXD-85	2層	⑩Aa	凝灰岩	23.0	5.6	4.0	460.0	研磨、刻線
206-5		IXB-77	2層	④Cb	流紋岩	(13.2)	6.1	4.4	600.0	敲打、柄頭作出、端面弱く傾斜
206-6		IXC-78	2層	④Ca	流紋岩	(29.2)	10.0	7.8	2880.0	敲打・研磨、被熱、頭部作出、端面傾斜
206-7	18ヘルト	IXB-80 IXC-80	2層攪乱	④Ca	凝灰岩	73.4	11.4	8.9	6115.3	敲打、頭部作出、端面弱く傾斜
207-1		IXA-81	2層	④	凝灰岩	45.3	13.2	6.6	3740.0	敲打、敲打弱い、柄部欠損
207-2		VIII-70	-	④C	凝灰岩	(15.5)	6.5	6.2	755.3	敲打、被熱、柄部欠損
207-3	トレンチ②	VIII-66	III層	④Db1	デイサイト	(17.5)	8.5	4.9	1220.0	敲打・研磨、鋒部、刃部突出
207-4		VIII-66	3層	④Db1	緑色凝灰岩	(12.1)	(8.8)	5.8	620.0	敲打・研磨、鋒部、刃部突出
207-5	東ヘルト	IXB-83	1層	④Da2	デイサイト	(18.1)	7.5	4.6	1180.0	研磨、鋒部、断面不整形
207-6		IXA-71	2層	④Da1	凝灰岩	(19.7)	7.5	4.8	816.5	敲打・研磨、被熱、鋒部
207-7	18ヘルト	IXB-80	2層	④Da1	緑色凝灰岩	(29.6)	9.0	6.2	2180.0	研磨、鋒部、やや内反り

石製品観察表(2)

図番号	出土位置	層位	種類	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	諸特徴
207-8		IXC-81	II層	④Da1 凝灰岩	(19.0)	6.4	3.8	613.5	敲打・研磨、刃部弱く作出
208-1	トレンチ	VIII-69	2d層	④Db2 デイサイト	(29.5)	11.9	7.0	4600.0	敲打・研磨、刃部弱く突出
208-2		VII-68	2層	④Da1 緑色凝灰岩	(14.4)	9.0	6.4	1008.6	敲打・研磨、
208-3		VIII-69	3層	④D 頁岩	(6.1)	(3.4)	(3.0)	67.4	研磨、被熱、刃部破片
208-4		VII-66	3層	④Da1 凝灰岩	(16.2)	7.0	4.9	800.0	敲打・研磨、被熱
208-5		IXC-79	I層	④Db2 凝灰岩	(17.4)	7.5	7.5	1020.0	敲打・研磨、被熱、刃部弱く突出
208-6	18ヘルト	IXC-80	攪乱	④E 凝灰岩	25.8	7.2	3.5	780.0	研磨、内反り、刃部の研磨顕著
208-7		VIII-65	3層	④E 凝灰岩	4.3	(6.3)	1.3	28.4	研磨、左側縁刃部
208-8		VIII-65	3層	④E 凝灰岩	(5.8)	(3.8)	1.7	40.0	敲打・研磨、左側縁刃部?、柄部分、青竜刀形?
208-9		IXB-74	2層	④Dd デイサイト	(14.6)	7.4	2.1	328.9	敲打・剥離、柄部
208-10		IXB-84	2層	④Dd デイサイト	(11.7)	6.3	2.5	286.3	研磨、柄部
208-11		VIII-67	3層	④Dd 凝灰岩	(21.5)	6.4	1.3	245.2	剥離・研磨、自然面大きく残る 右側縁下部に刃部
209-1	13トレンチ	IXB-73	2層	④Dd 凝灰岩	5.6	(6.7)	1.5	72.4	研磨、刻線、盲孔、棟に溝線
209-2	トレンチ17	IXB-78	2層	④Dd 凝灰岩	6.3	(8.5)	1.5	84.2	研磨、刻線、棟に溝線
209-3		VIII-70	3層	④Dd 凝灰岩	(6.2)	(5.9)	1.3	50.4	研磨、左側縁刃部
209-4		VIII-70	3層	④Dd 凝灰岩	6.4	(8.1)	1.1	61.1	研磨、刻線・盲孔
209-5		VIII-73	3層	④Dd 泥岩	5.1	(6.1)	1.4	74.6	研磨、刻線
209-6		IXB-C-76	3層	⑦Dd 頁岩	5.7	4.5	0.8	33.2	研磨、刻線、貫通孔、石刀再加工?
209-7		VIII-63	2層	④Dd 凝灰岩	(9.9)	4.5	2.3	141.3	研磨、刻線、盲孔
209-8		VIII-64	2層	④Dd 凝灰岩	(6.0)	(3.7)	2.0	47.4	研磨、石刀柄部?
209-9		IXC-81	攪乱	④Dd 砂岩	10.3	4.6	3.0	101.5	穿孔、石刀柄部、貫通孔
209-10		VIII-66	II~III	⑤A 緑色凝灰岩	8.9	13.1	3.5	573.6	敲打・研磨、底面幅狭い、 頂部研磨顕著
209-11		VIII-64	2層	⑤B 緑色凝灰岩	7.7	10.8	3.2	341.5	研磨、被熱?黒色物付着。 研磨による擦痕に顕著
209-12		VIII-64	2層	⑤Cb1 緑色凝灰岩	9.5	13.9	4.3	747.8	研磨、前面傾斜
209-13		VIII-70	3層	⑤Cb2 緑色凝灰岩	7.8	11.3	3.4	356.5	研磨・敲打、側面に刻線、 両側面に敲打凹み
210-1		VIII-65	2層	⑤Ca3 緑色凝灰岩	8.1	12.1	4.4	608.1	研磨、側面に敲打・凹み
210-2		VIII-64	2層	⑤Cb1 緑色凝灰岩	7.2	11.1	4.5	354.3	研磨、
210-3		VIII-66	3層	⑤Ca1 凝灰岩	9.0	10.7	5.5	742.0	研磨、側面浅い溝状に凹む、 底面弱く凹む
210-4		VIII-61	2層	⑤B 緑色凝灰岩	7.1	10.3	4.6	317.6	敲打・研磨、側面に敲打・凹み
210-5		VIII-69	1・2層	⑤B 凝灰岩	8.9	12.8	5.8	802.5	研磨、後ろ面溝状に凹む
211-1		VIII-64	2層	⑤Ca1 凝灰岩	9.7	13.0	6.4	933.6	研磨、底面浅く窪む。
211-2		VIII-64	2層	⑤Ca1 緑色凝灰岩	10.2	6.3	4.0	271.3	研磨、側面底付近に陰線、 陰線の上面に刻線
211-3		VIII-65	3層	⑤Cb1 緑色凝灰岩	7.3	9.9	5.0	397.9	研磨、後面弱く凹む
211-4		VIII-65	3層	⑤Ca1 緑色凝灰岩	7.7	10.9	6.3	676.9	研磨、被熱、前後面弱く凹む
211-5		VIII-66	3層	⑤Ca3 凝灰岩	7.0	11.1	5.5	480.7	研磨、被熱、ひび割れ
212-1		VIII-68	2層	⑤Ca3 緑色凝灰岩	7.1	12.0	3.0	303.1	研磨、側面に敲打・凹み
212-2		VIII-64	2層	⑤Cb1 緑色凝灰岩	7.1	11.6	5.0	525.4	研磨、
212-3		VIII-66	3層	⑤Cb1 緑色凝灰岩	8.9	12.2	4.9	667.6	研磨、
212-4		IXA-69	2層	⑤Cb1 凝灰岩	8.0	11.1	4.9	307.3	研磨、被熱、ひび割れ
212-5		VIII-65	3層	⑤Cb1 凝灰岩	8.0	10.9	4.6	520.5	研磨、
212-6		VIII-63	2層	⑤Cb1 緑色凝灰岩	7.9	10.8	4.2	400.3	研磨、側面に刻線
213-1		IXD-85	II層	⑤Cb1 凝灰岩	6.0	9.6	4.9	301.7	研磨、底面、側面に敲打・凹み
213-2		IXC-77	3層	⑤Cb1 緑色凝灰岩	10.8	8.3	4.8	529.3	研磨、刻線・盲孔
213-3		IXB-76	2層	⑤Cb2 緑色凝灰岩	7.5	9.5	4.5	403.8	研磨、側面に刻線・盲孔
213-4		IXB-80	炭層上	⑤Cc 凝灰岩	10.1	9.0	5.7	500.5	研磨、被熱、側面に敲打・凹み
213-5	13トレンチ	IXB-73	2層	⑤Cc 緑色凝灰岩	8.7	9.8	7.3	730.3	研磨、前面敲打痕
214-1		VIII-65	3層	⑤D 緑色凝灰岩	8.1	10.3	7.1	590.5	研磨、後面凹む
214-2	トレンチ17	IXA-79	2層	⑤D 緑色凝灰岩	6.5	8.9	5.9	279.2	研磨、基底部張出し (側面に刻線・盲孔)
214-3		IXB-84	2層	⑤D 凝灰岩	14.4	6.6	6.8	344.5	研磨、基底部やや張出す
214-4		IXB-78	2層	⑤Fa2 凝灰岩	16.6	9.4	5.3	997.7	研磨、正面弱く凹む
214-5		IXC-75	2層	⑤Fa1 凝灰岩	17.9	8.2	5.5	972.6	研磨、正面皿状に凹む、 側面に刻線、上下端部凹む
214-6		VIII-65	3層	⑤Fa2 緑色凝灰岩	12.9	6.7	4.4	588.4	研磨、正面弱く凹む、下端凹む
215-1		IXA-71	3層	⑤Fa3 凝灰岩	16.2	8.0	4.5	814.2	研磨、正面平坦
215-2		VIII-66	3層	⑤Fa3 凝灰岩	16.0	9.6	4.0	749.1	研磨、正面にやや広く敲打・凹み
215-3		IXE-85	2層	⑤Fa4 緑色凝灰岩	19.8	10.6	5.7	1489.5	敲打、広範囲に敲打・凹み
215-4		VIII-63	2層	⑤Fa4 凝灰岩	14.9	8.9	4.6	771.7	敲打・研磨、 表裏面に敲打・凹み、刻線
215-5		IXE-84	I層	④Fb2 凝灰岩	17.7	6.6	5.2	920.0	敲打・研磨、被熱
216-1		IXD-83	2層	⑤Fb2 凝灰岩	18.1	6.9	4.6	760.0	敲打、表裏面・端部等に敲打痕
216-2		IXD-82	2層	Fb3	16.8	8.9	6.5		研磨、研磨顕著、両側面研磨
216-3		VIII-66	3層	⑤Ga 凝灰岩	8.3	13.7	5.3	729.0	剥離・敲打、带状敲打痕全周、 底面敲打・スリ
216-4		IXB-74	攪乱	⑤Ga 凝灰岩	5.8	11.0	6.5	565.2	敲打、带状敲打痕全周、 底面敲打・スリ
216-5		VIII-64	3層	⑤Ga 緑色凝灰岩	7.9	11.5	6.7	874.9	敲打、带状敲打痕全周、 底面敲打・スリ

石製品観察表(3)

図番号	出土位置	層位	種類	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	諸特徴	
216-6		IXB-74	2層	⑤Ga	砂岩	13.9	5.9	6.7	733.6	敲打、帯状敲打痕全周、 底面敲打・スリ
217-1		VIIIU-62	3層	⑤Ga	凝灰岩	17.6	10.8	9.7	1974.3	敲打、帯状敲打痕全周、 底面は礫面か?
217-2		VIIIU-65	3層	⑤Gb	緑色凝灰岩	7.7	13.4	7.4	1027.3	敲打、被熱、各所に敲打痕
217-3		IXB-74	2層	⑤Gb	凝灰岩	6.4	13.9	6.8	901.7	敲打、帯状敲打痕全周、 底面・上面敲打・スリ
217-4		VIIIU-65	3層	⑤Gb	凝灰岩	6.3	12.6	6.0	556.2	敲打・剥離、帯状敲打痕全周、 底面敲打・スリ
217-5		IXD-81	II層	⑥F	凝灰岩	8.3	7.2	5.5	370.0	敲打、正面大きく凹む 背面敲打凹み
217-6		VIIIW-67	3層	⑤Gc	安山岩	11.2	9.3	5.9	800.4	敲打、帯状敲打痕全周、 底面敲打(発達せず)
218-1		IXC-71	-	⑥E	凝灰岩	8.8	6.1	3.5	193.6	研磨、楕円形、研磨で削りぬき
218-2		IXE-85	2層	⑥E	緑色凝灰岩	11.1	4.2	2.5	113.1	研磨、舟形、剥抜き
218-3		IXD-81 IXE-86	2・3層	⑥D	凝灰岩	(8.1)	8.7	4.5	359.3	研磨、回転穿孔状の凹み
218-4		VIIIY-67	3層	⑥C	凝灰岩	3.7	3.2	1.4	10.8	研磨、梳状剥抜き、見込みに刻線?
218-5		VIIIW-70	2・3層	⑥B	凝灰岩	4.4	4.6	2.4	58.3	敲打・研磨、凹み
218-6	13トレンチ	IXC-73	2・3層	⑥E	凝灰岩	(6.3)	4.5	(3.5)	52.8	研磨、舟形、剥抜き
218-7		VIIIY-74	3層	⑥B	凝灰岩	7.6	6.9	2.1	78.4	研磨、皿状
218-8		IXA-71	2層	⑦A	蛇紋岩	(3.8)	(3.4)	0.4	7.9	研磨、欠損後2箇所両穿孔
218-9		IXC-70	3層	⑦A	ネフライト	(3.7)	(3.3)	0.3	5.0	研磨、欠損後2箇所両穿孔
218-10		IXC-83	2層	⑦A	ヒスイ	(4.0)	2.5	0.4	5.7	研磨、欠損後貫通孔(両穿孔)
218-11		VIIIW-70	3層	⑦A	蛇紋岩	(5.5)	4.0	0.7	16.7	研磨、破損後貫通孔(両穿孔)
218-12		IXA-79	3層	⑦A	ヒスイ	4.9	(3.6)	0.5	9.7	研磨、破損後貫通孔(両穿孔)
218-13		IXC-74	3層	⑦A	蛇紋岩	(4.8)	(3.2)	0.4	7.2	研磨、破損後貫通孔(両穿孔)
218-14		IXD-72	2層	⑦A	ネフライト	4.6	(3.4)	0.4	8.4	研磨、
218-15	18ベーム	IXD-78	I層	⑦A	ヒスイ	(3.5)	2.8	0.5	7.5	研磨、破損後貫通孔(両穿孔)
218-16		IXC-77	2層	⑦A	凝灰岩	7.5	4.5	1.4	40.5	研磨、破損後貫通孔(両穿孔)
218-17		IXC-75	2層	⑦Bb2	粘板岩	3.4	2.1	0.2	2.3	研磨(弱)、端部に貫通孔(両穿孔)
218-18		IXD-83	2層	⑦Bb4	緑色凝灰岩	3.4	2.9	0.9	4.7	研磨、短部に貫通孔
218-19		IXB-81	2層	⑦Bb2	凝灰岩	5.1	3.2	1.5	26.1	研磨、上部に貫通孔(両穿孔)
218-20		VIIIY-69	3層	⑦Bb2	凝灰岩	2.5	1.9	0.7	3.4	研磨、上部に貫通孔(両穿孔)
219-1		IXD-84	2層	⑦Bb2	凝灰岩	7.0	5.6	2.2	50.8	研磨、上部に貫通孔(両穿孔)
219-2		IXB-72	2層	⑦Bb6	凝灰岩	6.0	3.4	1.1	15.2	研磨、表裏面に剣菱文と円文、 側面溝線、正面上部左側に貫通孔?
219-3		IXA-78	2層	⑦Bb3	頁岩	3.7	3.1	0.4	4.4	研磨、上部に貫通孔(両穿孔)、 刻線左右側縁擦切で直線的
219-4		VIIIU-65	3層	⑦Bb1	角閃岩	5.1	2.9	0.4	12.6	研磨、貫通孔(両穿孔)
219-5		VIIIY-65	3層	⑦Ba	粘板岩	5.5	4.8	0.6	23.5	貫通孔(両穿孔)、盲孔
219-6		VIIIY-71	3層	⑦Ba	粘板岩	3.7	4.7	0.6	17.0	研磨、貫通孔(両穿孔)
219-7		IXB-80	2層	⑦Ba	緑色凝灰岩	3.9	4.1	0.4	9.2	貫通孔(両穿孔)
219-8		IXC-84	2層	①Ca	頁岩	5.0	4.0	0.7	10.1	貫通孔(両穿孔)2箇所
219-9		-	-	⑦Db	凝灰岩	7.3	1.7	1.1	12.6	研磨、長軸側から穿孔、 中央部で開口し連結、左側縁に溝線
219-10		VIIIW-68	2層	⑦Db	凝灰岩	9.0	1.5	1.9	30.5	両穿孔、 長軸端部と側縁から穿孔し連結
219-11		IXC-78	I・II層	⑦Ca	凝灰岩	2.0	3.4	0.5	3.7	貫通孔(両穿孔)2箇所、 自然石利用
219-12		VIIIY-67	2層	⑦Ca	凝灰岩	7.6	2.5	1.1	24.3	貫通孔(両穿孔)2箇所
219-13		IXC-83	3層	⑧B	緑色凝灰岩	3.6	3.6	2.0	32.1	研磨、中央に貫通孔(両穿孔)
219-14	トレンチ16		I・II層	⑧B	頁岩	3.2	2.8	0.9	11.2	研磨、中央に貫通孔(両穿孔)
219-15		VIIIY-74	III層	⑧B	凝灰岩	3.3	3.1	0.8	10.6	研磨、中央に貫通孔(両穿孔)
219-16	トレンチ7	VIIIY-70	3層	⑧B	緑色凝灰岩	3.3	3.0	1.2	12.7	研磨、中央に貫通孔(両穿孔)
219-17		VIIIY-67	3層	⑧A	ヒスイ	4.8	4.2	1.2	45.9	研磨、中央に貫通孔(片穿孔)
219-18		IXC-77	2層	⑧B	砂岩	7.1	6.6	2.1	129.2	研磨、中央に貫通孔(両穿孔)
220-1	トレンチ1	VIIIW-69	2e層	⑧B	凝灰岩	3.8	4.2	0.8	16.6	研磨、正面に刻線?
220-2		VIIIW-62	2層	⑧C	凝灰岩	3.5	(3.6)	1.1	16.0	研磨、断面台形、円状・放射状線刻 中央に貫通孔(片穿孔)、 弥生時代以降?
220-3		VIIIU-65	3層	⑧B	凝灰岩	5.2	4.7	1.0	23.4	剥離・研磨、中央に貫通孔(両穿孔)
220-4		VIIIY-77	I層	⑧B	デイサイト	5.0	3.4	0.9	6.1	研磨、中央に貫通孔(両穿孔)
220-5		IXC-70	3層	⑧B	緑色凝灰岩	4.7	4.1	0.6	16.5	研磨、中央に貫通孔(両穿孔)
220-6		VIIIU-63	2層	⑧B	安山岩	6.9	4.8	1.5	27.6	研磨、中央に貫通孔(両穿孔)
220-7		IXC-76	-	⑧D	凝灰岩	3.5	3.0	1.3	13.6	研磨、断面笠形? 貫通孔(両穿孔)黒色物質付着
220-8		IXC-82	2層	⑧D	凝灰岩	2.2	2.2	0.5	2.7	研磨、中央に貫通孔(両穿孔)
220-9		IXD-83	2層	⑧IV	緑色凝灰岩	(4.0)	3.9	1.2	9.6	研磨、不整形 貫通孔(両穿孔)
220-10		VIIIU-66	3層	⑧IV	凝灰岩	3.6	4.0	0.7	11.5	自然石に片穿孔
220-11	8x7リ			⑧II	凝灰岩	3.3	2.7	1.0	10.5	研磨、両穿孔だが非貫通、刻線
220-12		VIIIU-61	I層	⑧E	凝灰岩	3.9	3.7	1.1	15.8	剥離、両穿孔だが貫通はごく一部 全体に弱い研磨
220-13		VIIIU-65	3層	⑦E	凝灰岩	3.9	3.3	1.1	18.8	研磨、両穿孔だが非貫通
220-14		IXA-78	2層	⑧D	緑色凝灰岩	3.5	4.2	2.0	21.2	研磨、三角形 貫通孔(両穿孔) 側面に溝線

石製品観察表(4)

図番号	出土位置	層位	種類	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	諸特徴
220-15	VIIIU-63	2層	㊸Ba	スコリア	6.5	4.0	1.6	24.0	研磨、六角形 側面に溝線
220-16	VIII V-65	3層	㊸Bb	凝灰岩	4.4	4.6	1.2	30.2	研磨、正面と側面に刻線、貫通孔(両穿孔)
220-17	VIII W-66	2層	㊸A	凝灰岩	4.2	3.7	1.4	8.3	研磨、両穿孔? 孔槽円 側面一部に溝線
220-18	IXC-84	I・II層	㊸D	流紋岩	9.7	6.3	2.3	55.8	研磨、孔方形 側面観凸レズ'形
221-1	VIII V-65	2層	㊸Bb	凝灰岩	5.5	3.9	1.5	37.4	両穿孔、隅丸方形、正面・側面に刻線
221-2	IXB-82	2層	㊸B	凝灰岩	5.2	4.1	1.0	23.2	研磨、笠状、貫通孔(両穿孔)
221-3	IXB-78	2層	㊸A	軽石	3.2	2.9	0.9	5.2	研磨、貫通孔(両穿孔)
221-4	IXB-82	2層	㊸D	デイサイト	8.0	6.2	1.1	77.5	研磨、孔槽円形
221-5	IXB-78	2層	㊸Ab	泥岩	11.0	4.1	1.2	53.2	剥離、周縁剥離、槍状
221-6	VIII V-65	3層	㊸Ac	泥岩	(8.0)	7.6	1.2	117.9	研磨、左側縁擦切
221-7	IXC-74	2層	㊸Ab	流紋岩	8.0	4.1	1.9	46.0	研磨、石槍状に研磨整形
221-8	IXC-72	2層	㊸Ab	珪質頁岩	(2.9)	3.7	0.5	10.2	研磨、石刀の刃部
221-9	IXC-83	3層上面	㊸Bc	凝灰岩	3.7	3.0	0.8	6.5	研磨、刻線(格子状)
221-10	IXB-79	2層	㊸Bc	凝灰岩	4.3	3.6	0.6	7.3	研磨、刻線(格子状)
221-11	IXB-74	3層	㊸Bc	凝灰岩	5.7	4.6	1.0	22.8	研磨、刻線(格子状)
221-12	IXA-66	2層	㊸C	凝灰岩	8.2	3.7	1.1	47.3	研磨、線刻線
221-13	IXA-71	2層	㊸Ac	凝灰岩	(3.5)	3.9	0.7	9.4	研磨、擦切痕
221-14	IXC-75	3層	㊸Ba	凝灰岩	(5.1)	(6.7)	1.0	31.9	研磨、刻線
221-15	VIII Y-76		㊸Bc	凝灰岩	5.0	4.0	0.8	14.3	研磨、刻線(格子状)
222-1	IXA-74	3層	㊸Ba	頁岩	(8.7)	6.5	0.8	71.7	擦切、刻線(目印?)
222-2	VIII R-63	2層	㊸Ba	ホルンフェルス	5.2	5.3	4.7	204.5	研磨、刻線
222-3	IXB-79	2層	㊸Af	凝灰岩	3.1	6.1	2.8	44.7	敲打・研磨、被熟、 溝線と盲孔で女性器と肛門表現
222-4	VIII P-61	3層上面	㊸Ac	凝灰岩	7.4	2.2	1.0	19.2	剥離、石匙形?
222-5	IXA-71	2・3層	㊸Ba	凝灰岩	8.6	8.1	3.6	272.0	自然孔
222-6	IXB-74	3層	㊸D	凝灰岩	10.0	6.8	1.5	93.5	両穿孔/擦切、穿孔と擦切の練習用?
222-7	VIII Q-58	2層	㊸D	凝灰岩	11.9	8.0	2.9	321.1	刻線・穿孔、穿孔や溝掘りの練習用?
222-8	IXB-82	2層	㊸C	緑色凝灰岩	9.4	9.1	1.1	105.2	菱形の自然石
222-9	IXC-79	2層	㊸C	頁岩	5.3	7.4	2.2	75.9	三日月形の自然石

青森県埋蔵文化財調査報告書 第 575 集

水上(2)遺跡Ⅲ

—津軽ダム建設事業に伴う遺跡発掘調査報告—

【第 5 分冊 捨て場編】

発行年月日 2017 年 3 月 24 日
発行 青森県教育委員会
編集 青森県埋蔵文化財調査センター
〒038-0042 青森県青森市新城字天田内 152-15
TEL 017-788-5701 FAX 017-788-5702
印刷 ワタナベサービス株式会社
〒030-0803 青森県青森市安方 2 丁目 17-3
TEL 017-777-1388 FAX 017-735-5982
